

令和6年度
男女共同参画に関するアンケート調査結果
報告書

令和7年3月
廿日市市 生活環境部 人権・市民生活課

目 次

1章 男女共同参画に関する市民アンケート調査結果	1
I 調査の概要.....	1
II 調査結果.....	3
1 あなたご自身(宛名のご本人)のことについて.....	3
2 子育て・教育について.....	12
3 男女の役割分担について.....	37
4 仕事・職場について.....	64
5 地域活動について	83
6 ドメスティック・バイオレンスについて.....	88
7 性の多様性について	99
8 行政への要望について	102
2章 男女共同参画に関する事業所アンケート調査結果.....	116
I 調査の概要.....	116
II 調査結果.....	118
1 事業所について.....	118
2 雇用管理について	124
3 女性の活躍の推進について.....	131
4 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	144
5 デジタル化について.....	158
6 ハラスメントの防止について	163
7 市として重点的に取り組むべきことについて	168
3章 男女共同参画に関する中・高校生アンケート調査結果.....	172
I 調査の概要.....	172
II 調査結果.....	174
1 あなたご自身のことについて.....	174
2 男女平等について	176
3 家庭での家事などの分担について	192
4 あなたの将来のことなどについて.....	196
5 デートDVについて	201
6 性の悩みについて	202
7 あなたの将来のことなどについて.....	204

4章 男女共同参画に関する若者世代のアンケート調査結果	212
I 調査の概要.....	212
II 調査結果	214
1 あなたご自身(宛名のご本人)のことについて.....	214
2 結婚について.....	223
3 子育てについて	231
4 廿日市市の子育て環境について	249
資料 調査票.....	263
I 男女共同参画に関する市民アンケート調査票	263
II 男女共同参画に関する事業所アンケート調査票.....	279
III 男女共同参画に関する中・高校生アンケート調査票	291
IV 男女共同参画に関する若者世代のアンケート調査票	303

1章 男女共同参画に関する市民アンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の計画期間満了(令和7年度末)に伴い、現計画の施策や事業の評価等を行うとともに、市民の意識やニーズを調査し、その後の社会経済情勢の急速な変化や新たな課題に対応した、今後10か年の目標や施策、具体的な取組等をまとめた「第3次廿日市市男女共同参画プラン」(以下「プラン」という。)を策定するための基礎資料とするために実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 廿日市市全域
- (2) 調査対象 市内に在住する満18歳以上の男女2,000人(男女各1,000人)
- (3) 標 本 数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送又はWEB方式
(アンケートは郵送方式を基本とするが、回答については、回答者がWEBでの回答を選択できる形とする)
- (6) 調査期間 令和6(2024)年10月23日(水)~11月15日(金)

3. 調査項目

- (1) あなたご自身(宛名のご本人)のことについて
- (2) 子育て・教育について
- (3) 男女の役割分担について
- (4) 仕事・職場について
- (5) 地域活動について
- (6) ドメスティック・バイオレンスについて
- (7) 性の多様性について
- (8) 行政への要望について

4. 回収結果

- (1) 有効回収数 731人
- (2) 有効回収率 36.6% ※参考 平成30(2018)年調査の有効回収率:38.6%

5. 報告書の見方

(1) 標本誤差について

本調査は、調査対象となる母集団(廿日市市に住民登録がある満18歳以上の市民)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」である。したがって、調査結果には統計上の誤差(標本誤差)が生じることがある。

信頼度95%とした場合における調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

■ 算出式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad (\text{注}) \quad \frac{N-n}{N-1} \div 1$$

N = 母集団
n = 有効回答数
p = 回答比率

■ 標本誤差早見表(信頼度:95%)

回答比率(p) 標本数(n)	5%または 95%程度	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
30	±8.0	±11.0	±14.6	±16.7	±17.9	±18.3
50	±6.2	±8.5	±11.3	±13.0	±13.9	±14.1
100	±4.4	±6.0	±8.0	±9.2	±9.8	±10.0
200	±3.1	±4.2	±5.7	±6.5	±6.9	±7.1
500	±1.9	±2.7	±3.6	±4.1	±4.4	±4.5
731	±1.6	±2.2	±2.9	±3.4	±3.6	±3.7
1,000	±1.4	±1.9	±2.5	±2.9	±3.1	±3.1
2,000	±1.0	±1.3	±1.8	±2.0	±2.2	±2.2

基数(回答サンプル数)n=731の場合、例えば回答比率が50%の時の標本誤差は±3.7%となり、調査結果で得た50%という集計結果を実際の母集団の傾向として評価する際には、50±3.7%(=46.3%~53.7%)という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。

(2) 集計・分析点においての留意点

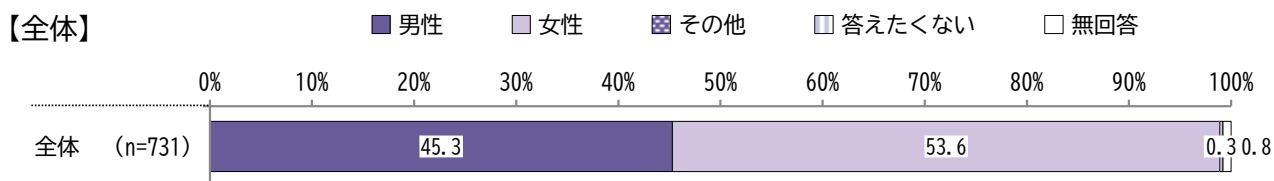
- ① 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- ② 回答比率(%)は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- ③ 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- ④ 属性別(クロス集計)については、回答者数(n)が30以上、かつ全体及び属性間の結果を比較して特徴または傾向がみられる項目について記述(コメント)対象とした。
- ⑤ 表・グラフの属性別データは、無回答や著しく回答者の少ない属性を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。
- ⑥ 図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑦ 性別、経年比較については、5ポイント以上の差がない場合は「大きな差はみられない。」との表記としている。

Ⅱ 調査結果

1 あなたご自身(宛名のご本人)のことについて

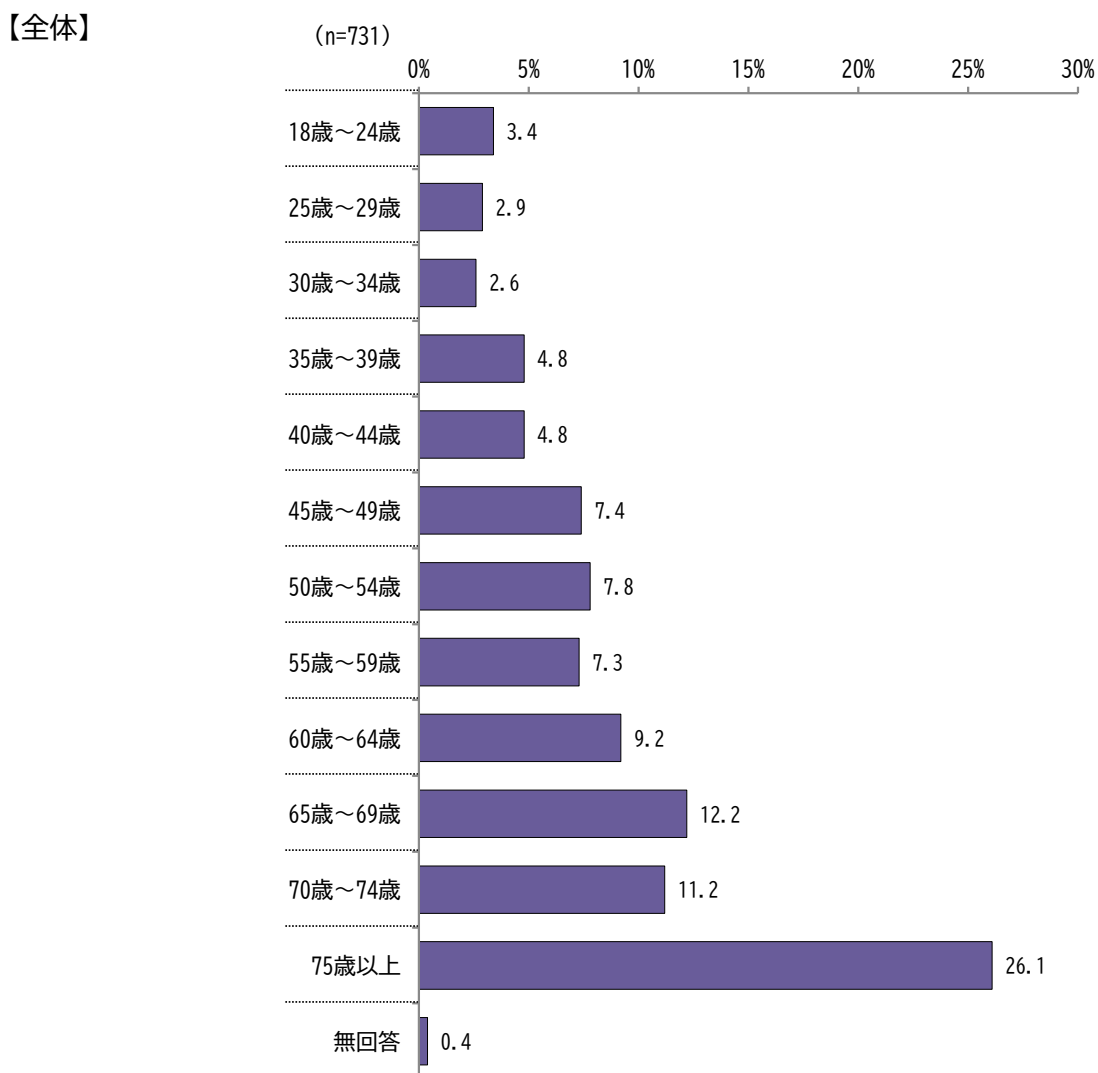
すべての方におたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。(自認する性別をお答えください。)(○は1つ)



性別について、「女性」(53.6%)、「男性」(45.3%)となっている。

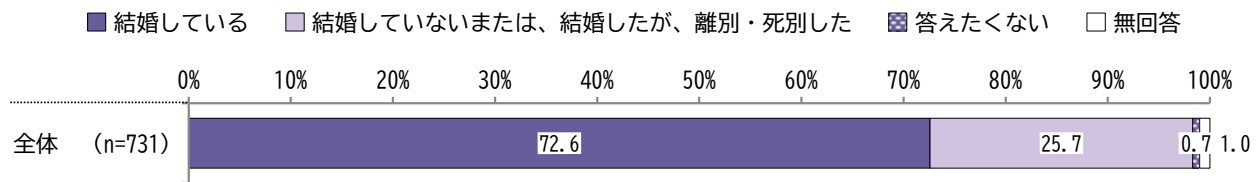
問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)



年齢について、「75歳以上」との回答が26.1%と最も高く、次いで「65~69歳」(12.2%)、「70~74歳」(11.2%)などの順となっている。

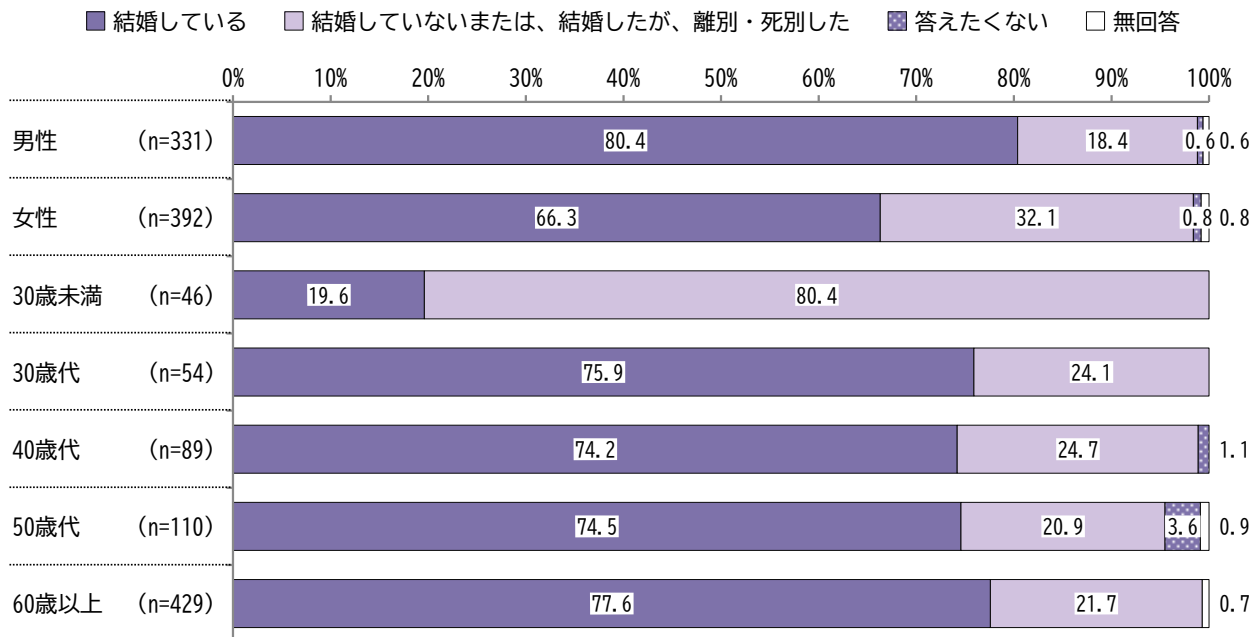
問3 あなたは結婚をしていますか。(事実婚を含む。)(○は1つ)

【全体】



未婚別について、「結婚している」(72.6%)、「結婚していないまたは、結婚したが、離別・死別した」(25.7%)となっている。

【性別・年代別】



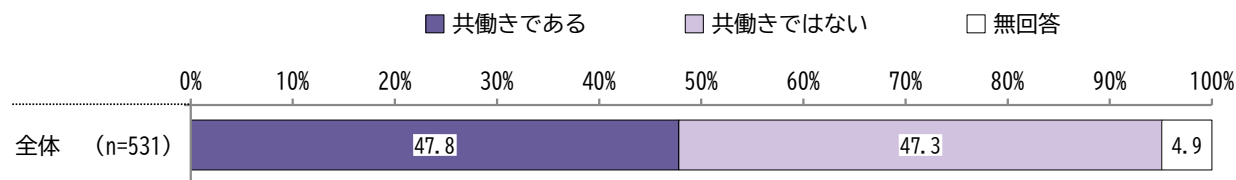
性別にみると、「結婚している」との回答は男性(80.4%)が女性(66.3%)を14.1ポイント上回っており、「結婚していないまたは、結婚したが、離別・死別した」との回答は男性(18.4%)が女性(32.1%)を13.7ポイント下回っている。

年代別にみると、「結婚している」との回答は30歳代～60歳以上で7割台と高くなっている。また、「結婚していないまたは、結婚したが、離別・死別した」との回答は30歳未満で約8割と高くなっている。

問3で「1. 結婚している」を選んだ方におたずねします。

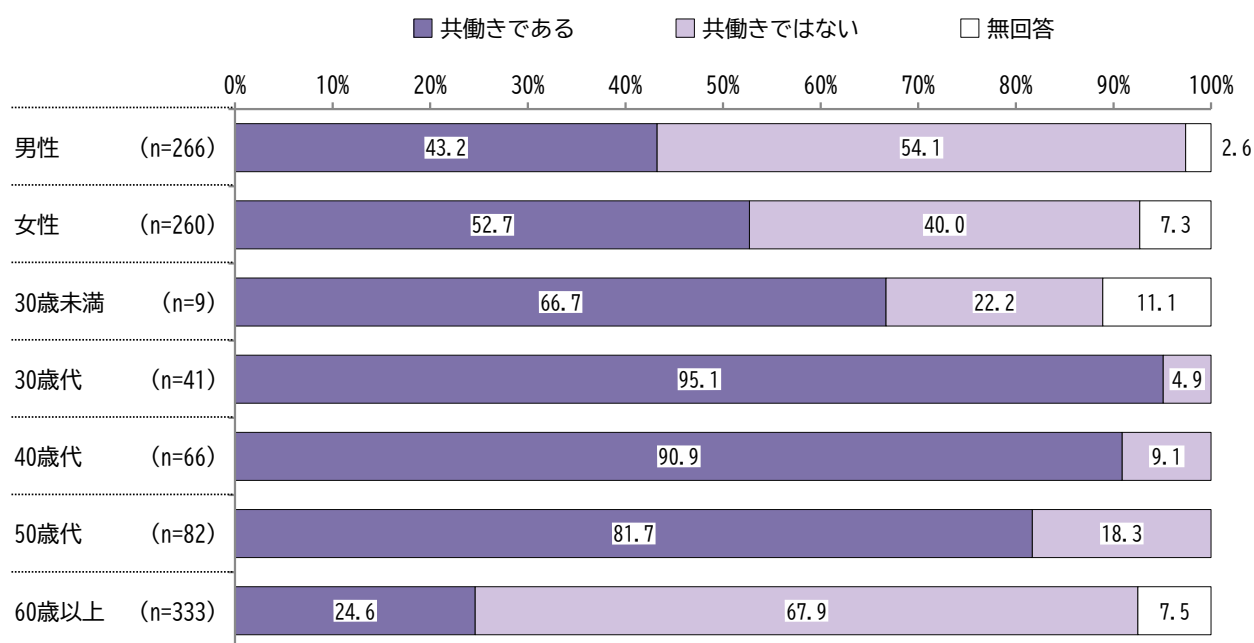
問4 あなたと配偶者(パートナー)は、共働き(パート・アルバイト等を含む)ですか。(〇は1つ)

【全体】



就労状況別について、「共働きである」(47.8%)、「共働きではない」(47.3%)となっている。

【性別・年代別】

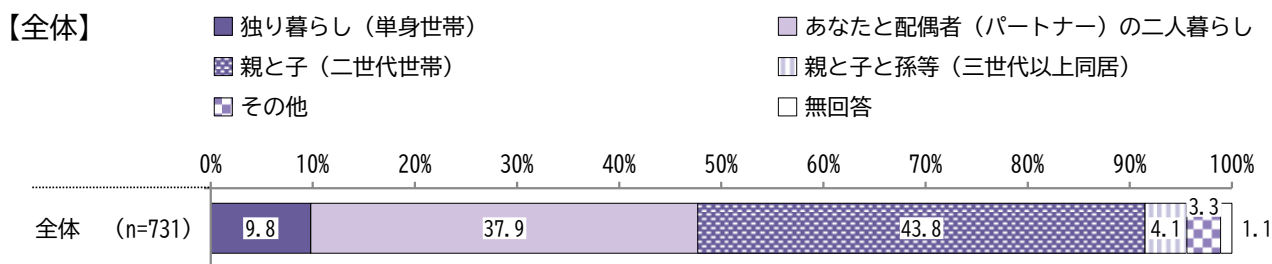


性別にみると、「共働きではない」との回答は男性(54.1%)が女性(40.0%)を14.1ポイント上回っている。

年代別にみると、「共働きである」との回答は30歳代、40歳代で9割台と高くなっている。

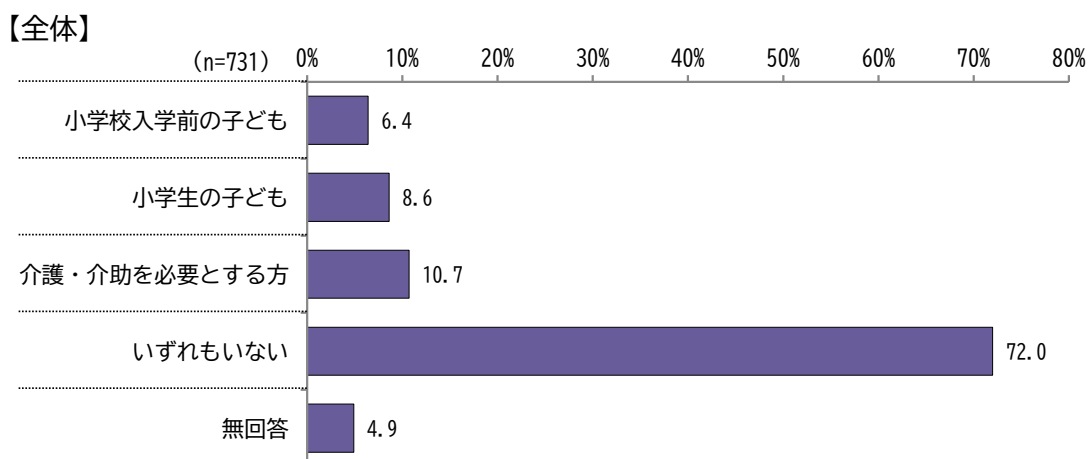
すべての方におたずねします。

問5 あなたの同居家族の構成をお答えください。(○は1つ)



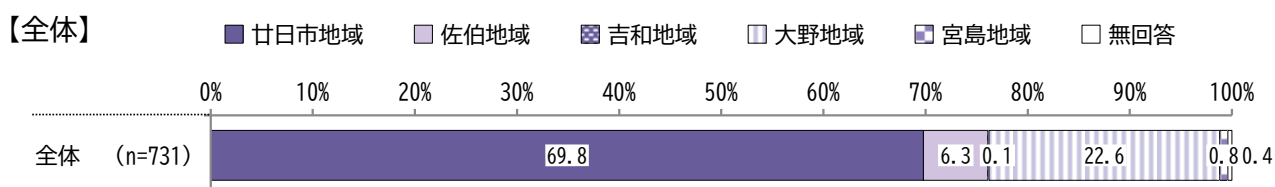
同居家族について、「親と子（二世帯世帯）」との回答が43.8%と最も高く、次いで「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」（37.9%）、「独り暮らし（単身世帯）」（9.8%）などの順となっている。

問6 あなたの同居家族の中に、次の方(あなた自身を含む)はいますか。(○はいくつでも)



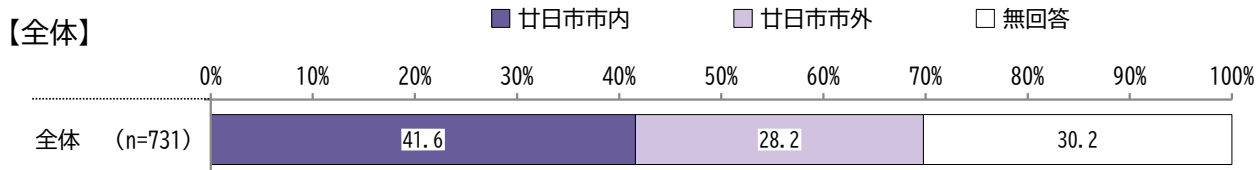
同居家族について、「いずれもない」との回答が72.0%と最も高く、次いで「介護・介助を必要とする方」（10.7%）、「小学生の子ども」（8.6%）などの順となっている。

問7 あなたのお住まいの地域をお答えください。(○は1つ)



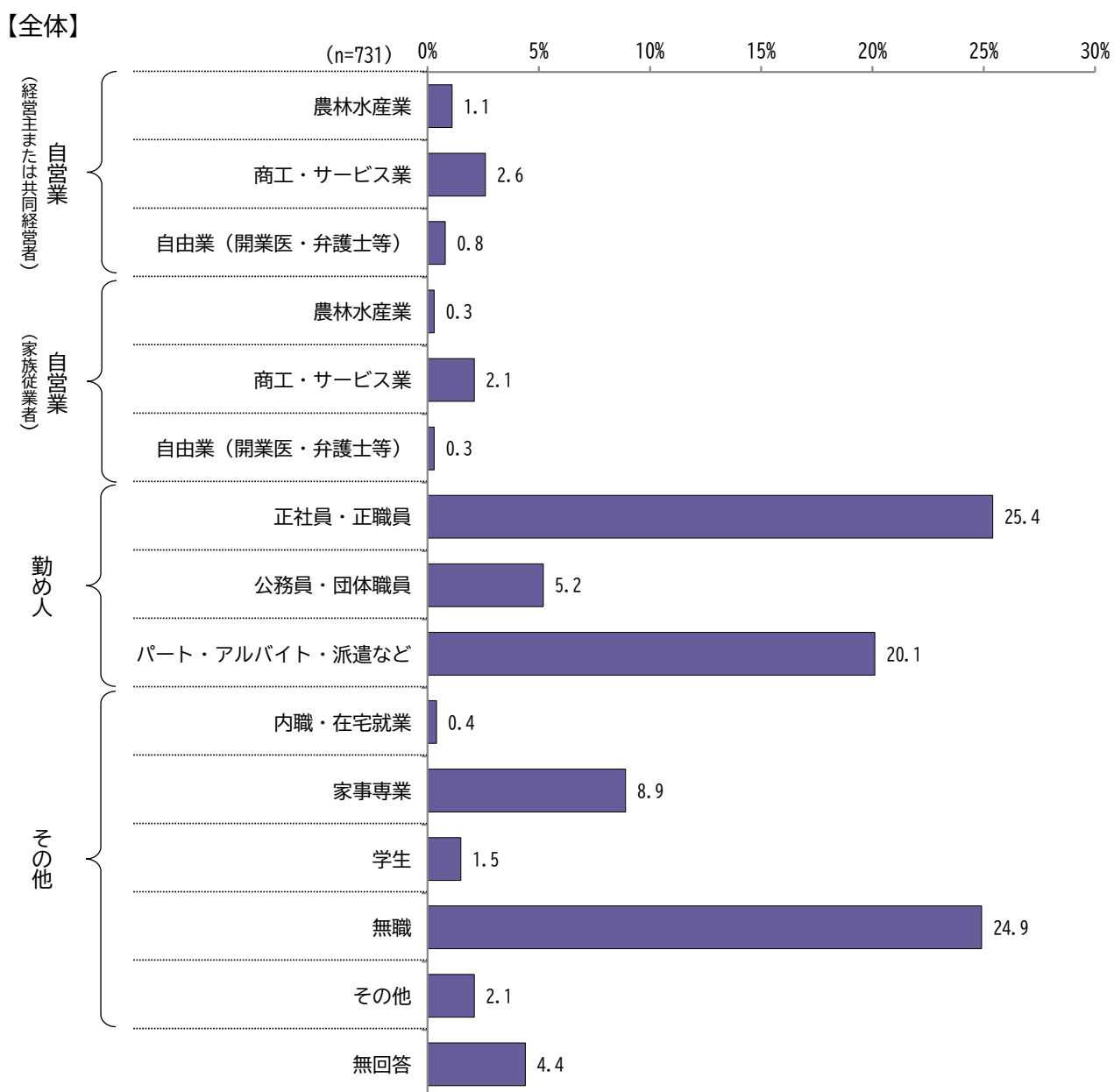
居住地域について、「廿日市地域」との回答が69.8%と最も高く、次いで「大野地域」（22.6%）、「佐伯地域」（6.3%）などの順となっている。

問8 あなたの職場は廿日市市内ですか。(〇は1つ)



勤務地について、「廿日市市内」(41.6%)、「廿日市市外」(28.2%)となっている。

問9 あなたの職業をお答えください。(〇は1つ)



職業について、「正社員・正職員」との回答が25.4%と最も高く、次いで「無職」(24.9%)、「パート・アルバイト・派遣など」(20.1%)などの順となっている。

【性別・性年代別】

(%)

	n 数	自営業 (経営主又は共同経営者)			自営業 (家族従業者)			勤め人			その他					無 回 答
		農 林 水 産 業	商 工 ・ サ ー ビ ス 業	自 由 業 (開 業 医 ・ 弁 護 士 等)	農 林 水 産 業	商 工 ・ サ ー ビ ス 業	自 由 業 (開 業 医 ・ 弁 護 士 等)	正 社 員 ・ 正 職 員	公 務 員 ・ 団 体 職 員	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト ・ 派 遣 な ど	内 職 ・ 在 宅 就 業	家 事 専 業	学 生	無 職	そ の 他	
全 体	731	1.1	2.6	0.8	0.3	2.1	0.3	25.4	5.2	20.1	0.4	8.9	1.5	24.9	2.1	4.4
性別 男性	331	1.5	4.8	1.8	0.3	2.7	-	32.6	4.8	11.8	-	0.9	0.6	31.7	3.6	2.7
性別 女性	392	0.8	0.8	-	0.3	1.5	0.5	19.9	5.6	27.3	0.8	15.3	2.3	19.4	0.8	4.8
性 年 代 別	男性30歳未満	12	-	-	-	8.3	-	50.0	16.7	8.3	-	-	16.7	-	-	-
	男性30歳代	25	-	8.0	4.0	-	-	60.0	8.0	12.0	-	-	-	4.0	4.0	-
	男性40歳代	35	-	5.7	-	-	-	74.3	11.4	5.7	-	-	-	-	2.9	-
	男性50歳代	50	-	6.0	2.0	-	8.0	60.0	8.0	6.0	-	-	-	6.0	2.0	2.0
	男性60歳以上	208	2.4	4.3	1.9	0.5	1.9	14.9	1.9	14.4	-	1.4	-	48.6	4.3	3.4
	女性30歳未満	34	-	-	-	-	-	26.5	5.9	32.4	-	5.9	26.5	2.9	-	-
	女性30歳代	29	-	-	-	-	-	34.5	17.2	44.8	-	3.4	-	-	-	-
	女性40歳代	52	-	1.9	-	1.9	1.9	48.1	11.5	28.8	-	3.8	-	1.9	-	-
	女性50歳代	60	-	1.7	-	-	1.7	33.3	10.0	40.0	-	6.7	-	1.7	3.3	-
	女性60歳以上	217	1.4	0.5	-	-	1.8	6.5	1.4	20.3	1.4	23.5	-	33.6	0.5	8.8

1位 2位 3位

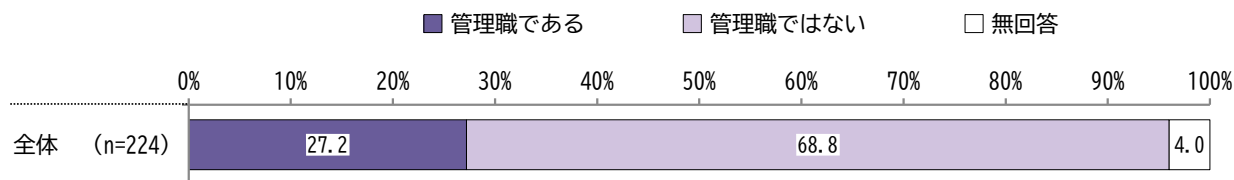
性別にみると、「正社員・正職員」との回答は男性（32.6%）が女性（19.9%）を12.7ポイント上回っており、「パート・アルバイト・派遣など」との回答は男性（11.8%）が女性（27.3%）を15.5ポイント下回っている。

性年代別にみると、「パート・アルバイト・派遣など」との回答は女性30歳代と女性50歳代で4割以上と高くなっている。

問9で、付問「7」「8」と答えた方におたずねします。

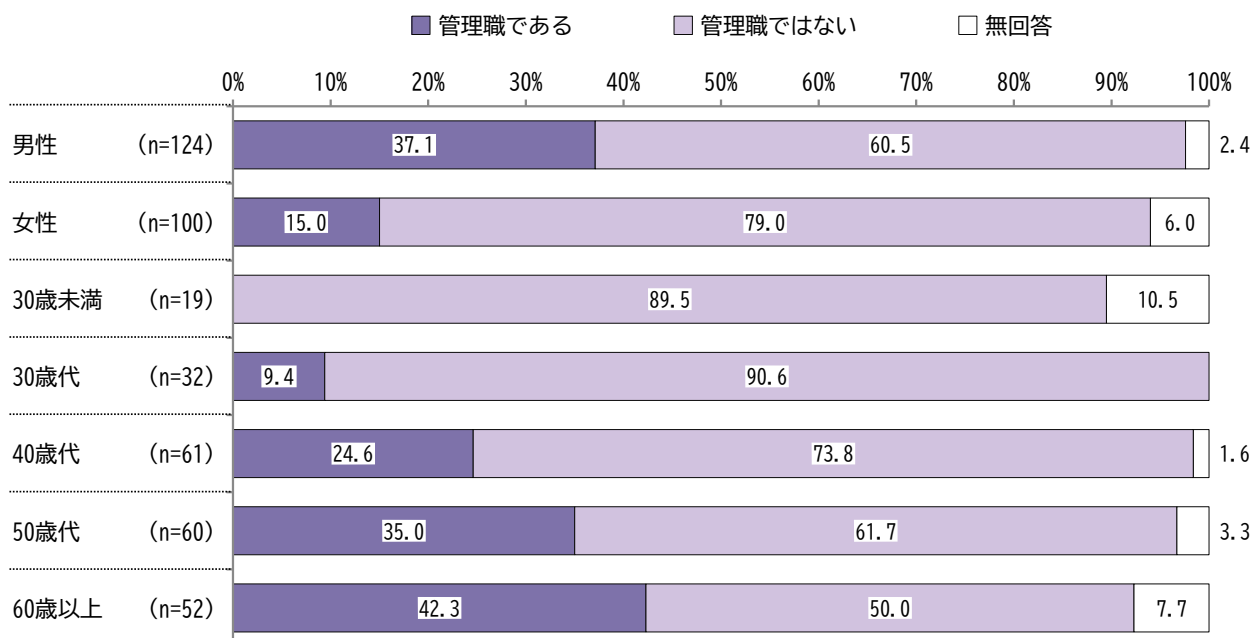
問9.1 あなたは管理職ですか。(○は1つ)

【全体】



管理職について、「管理職である」(27.2%)、「管理職ではない」(68.8%)となっている。

【性別・年代別】



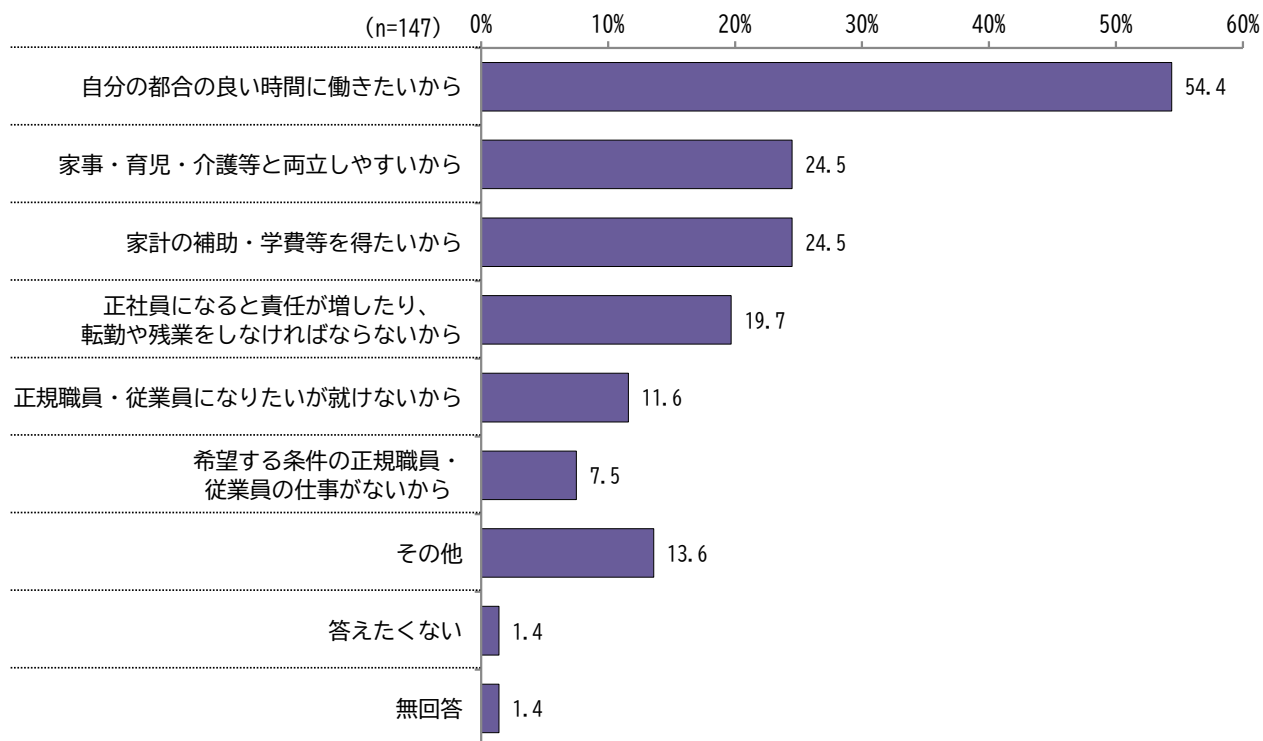
性別にみると、「管理職である」との回答は男性(37.1%)が女性(15.0%)を22.1ポイント上回っている。

年代別にみると、「管理職である」との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

問9で「9. パート・アルバイト・派遣など」と答えた方のみにおたずねします。

問10 あなたが非正規の職員・従業員として働いている理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【全体】



非正規の職員・従業員として働いている理由について、「自分の都合の良い時間に働きたいから」との回答が54.4%と最も高く、次いで「家事・育児・介護等と両立しやすいから」、「家計の補助・学費等を得たいから」（ともに24.5%）、「正社員になると責任が増したり、転勤や残業をしなければならないから」（19.7%）などの順となっている。

【性別・年代別】

(%)

		n 数	自分の都合の 良い時間に働 きたいから	家事・育児・ 介護等と両 立しやすい から	家計の補助・ 学費等を 得たいから	増したり、 減ったり するから	正社員にな ると責任が 重くなる	正規職員・ 従業員にな らないから	希望する条 件の仕事が ないから	その他	答えたくない	無 回 答
	全 体	147	54.4	24.5	24.5	19.7	11.6	7.5	13.6	1.4	1.4	
性 別	男性	39	51.3	-	20.5	17.9	5.1	5.1	23.1	2.6	2.6	
	女性	107	56.1	32.7	26.2	20.6	14.0	8.4	10.3	0.9	0.9	
年 代 別	30歳未満	12	50.0	16.7	-	25.0	16.7	-	16.7	8.3	-	
	30歳代	16	43.8	50.0	43.8	25.0	6.3	18.8	6.3	6.3	-	
	40歳代	18	38.9	50.0	16.7	33.3	33.3	11.1	16.7	-	-	
	50歳代	27	59.3	40.7	29.6	29.6	22.2	14.8	-	-	-	
	60歳以上	74	59.5	8.1	24.3	10.8	2.7	2.7	18.9	-	-	2.7

1位 2位 3位

性別にみると、「家事・育児・介護等と両立しやすいから」との回答は女性（32.7%）が男性（0.0%）を32.7ポイント上回っている。

年代別にみると、「自分の都合の良い時間に働きたいから」との回答は50歳代以上で約6割と高くなっている。

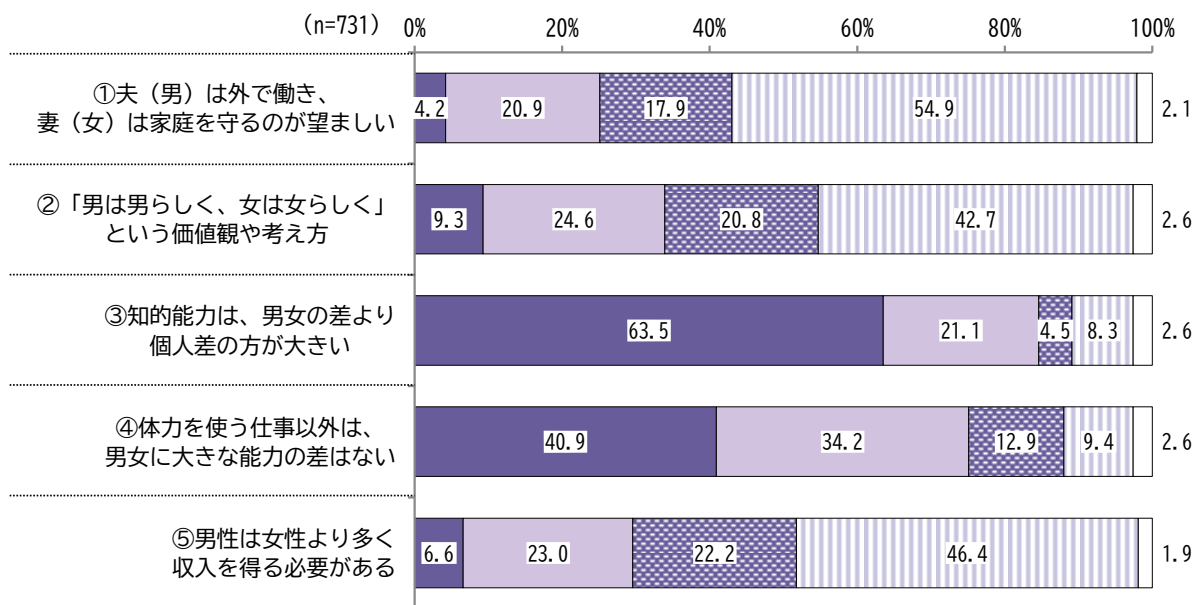
2 子育て・教育について

すべての方におたずねします。

問 11 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。(〇は1つずつ)

【全体】

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

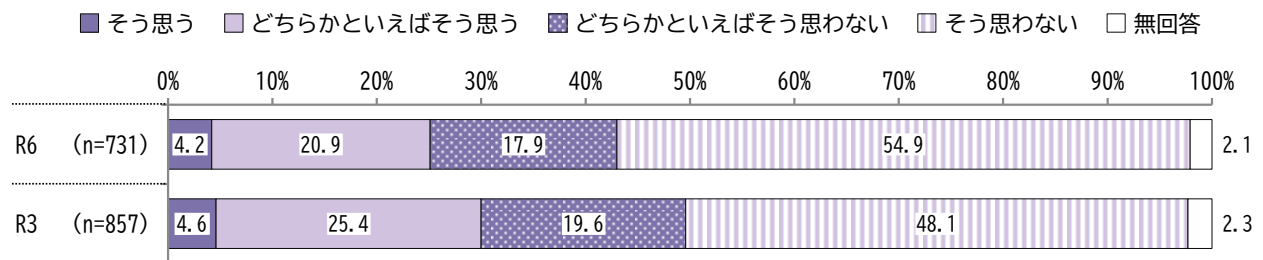


男女での考えについて、『そう思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）』は「③知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい」との回答が84.6%と最も高く、次いで「④体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない」（75.1%）、「②「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方」（33.9%）などの順となっている。

一方で、『そう思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）』は「①夫（男）は外で働き、妻（女）は家庭を守るのが望ましい」との回答が72.8%と最も高く、次いで「⑤男性は女性より多く収入を得る必要がある」（68.6%）、「②「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方」（63.5%）などの順となっている。

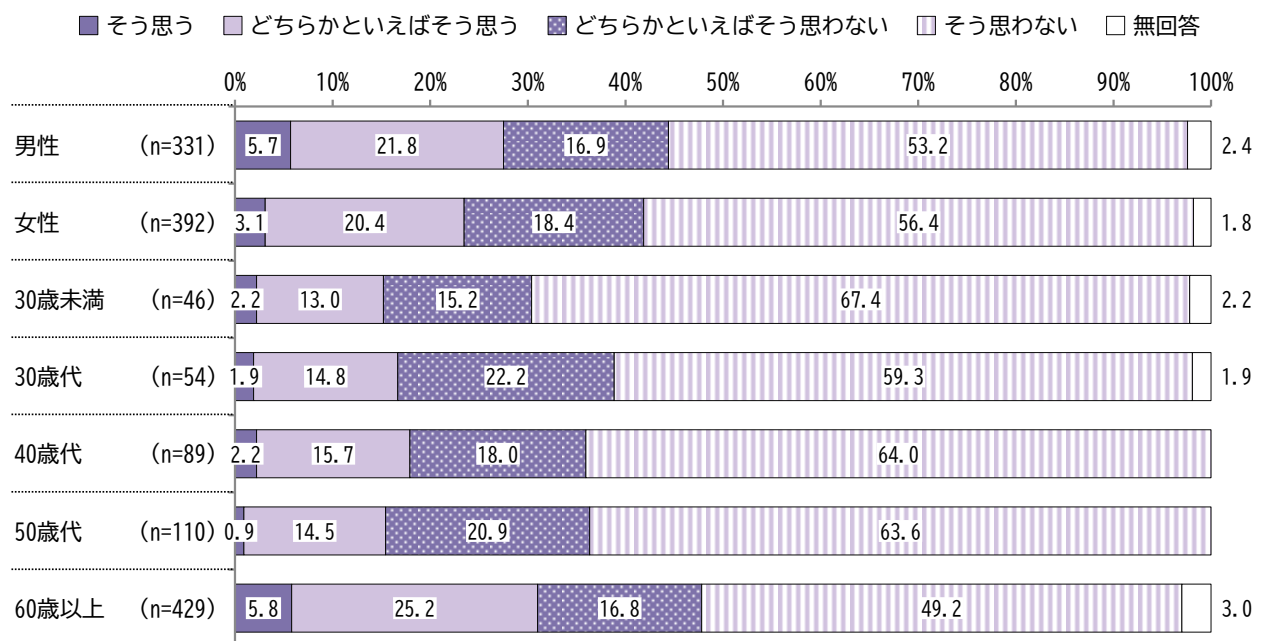
① 夫(男)は外で働き、妻(女)は家庭を守るのが望ましい

【経年比較】



経年比較でみると、『そう思う』との回答はR6 (25.1%) がR3 (30.0%) を4.9ポイント下回っている。

【性別・年代別】

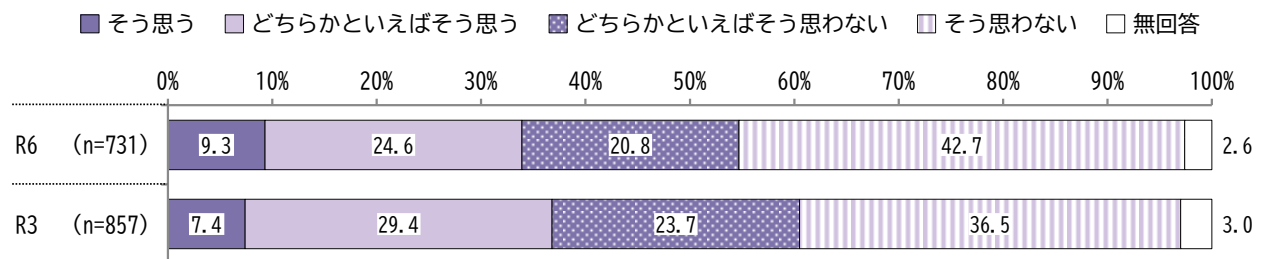


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『そう思う』との回答は60歳以上で3割超と高くなっている。

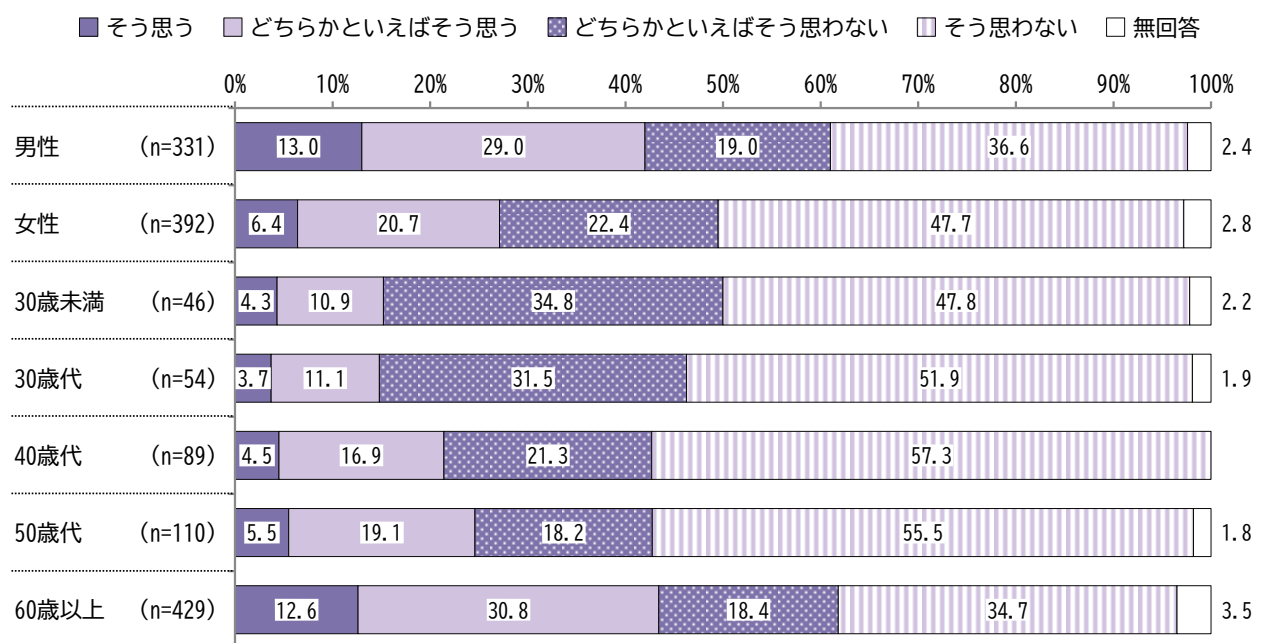
②「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方

【経年比較】



経年比較でみると、大きな差はみられない。

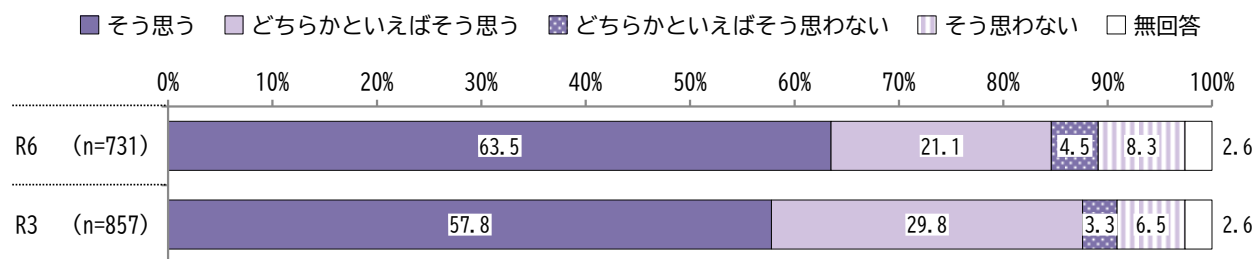
【性別・年代別】



性別にみると、『そう思う』との回答は男性（42.0%）が女性（27.1%）を14.9ポイント上回っている。
年代別にみると、『そう思う』との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

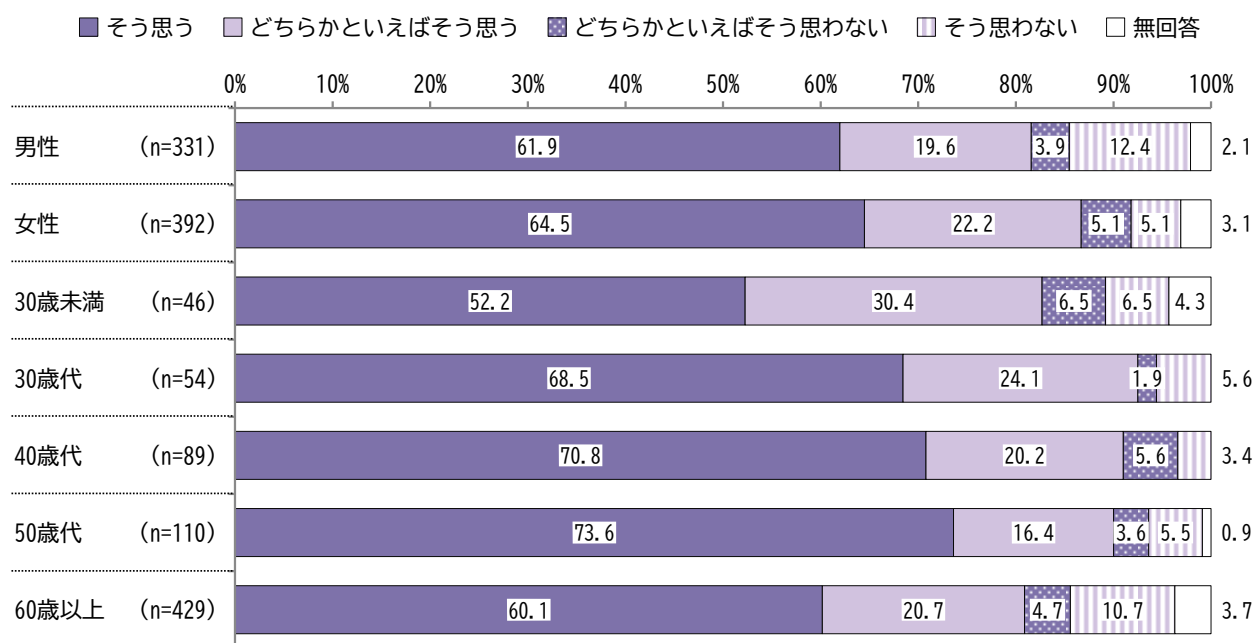
③ 知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい

【経年比較】



経年比較でみると、大きな差はみられない。

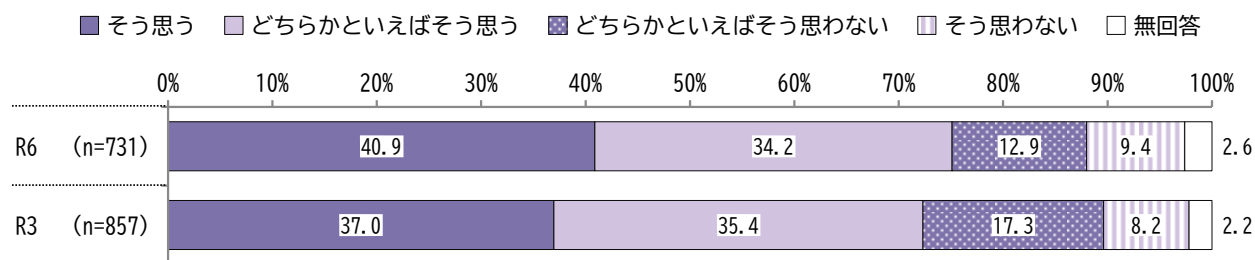
【性別・年代別】



性別にみると、『そう思う』との回答は男性（81.5%）が女性（86.7%）を5.2ポイント下回っている。
年代別にみると、『そう思う』との回答は30歳代～50歳代で9割台と高くなっている。

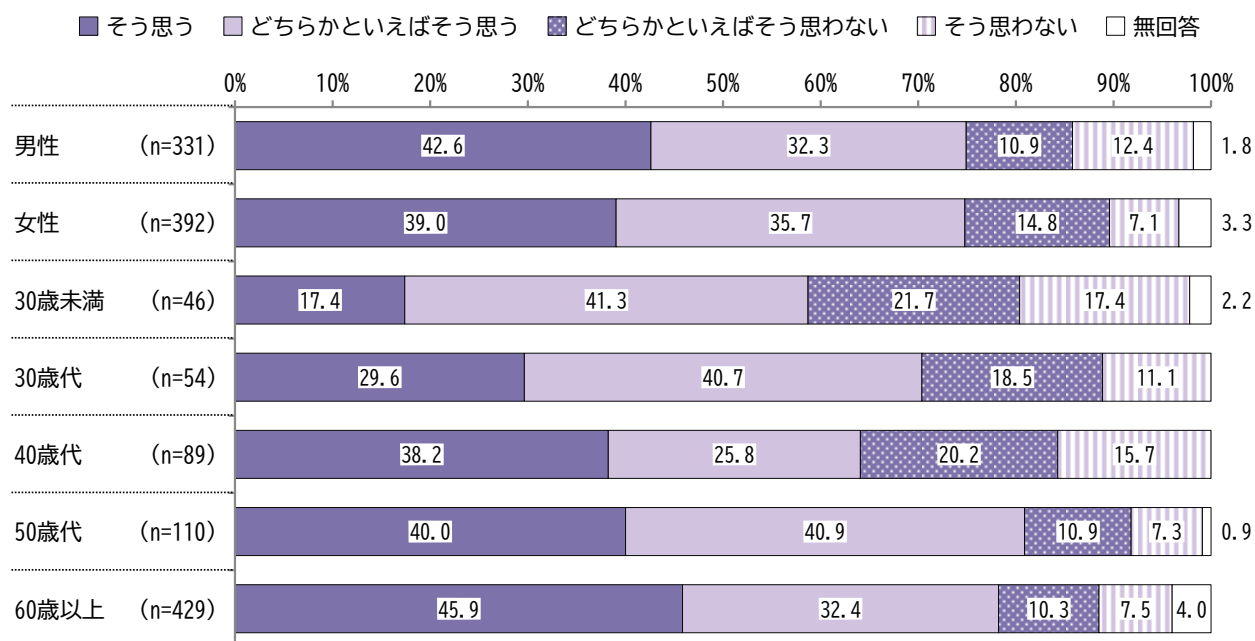
④ 体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない

【経年比較】



経年比較でみると、大きな差はみられない。

【性別・年代別】

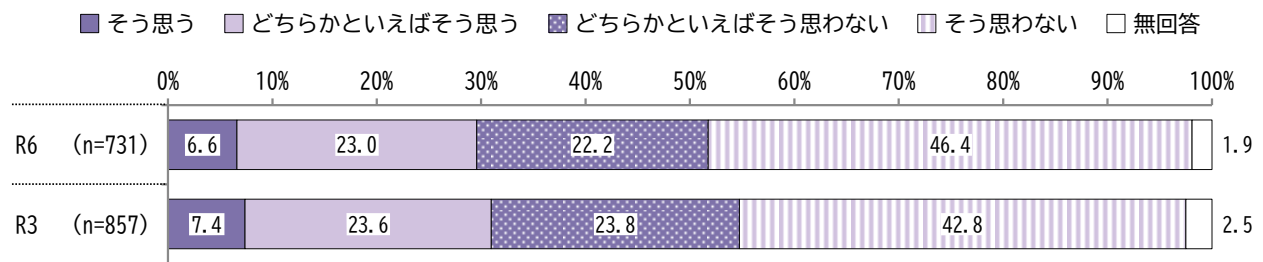


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『そう思う』との回答は50歳代で約8割と高くなっている。

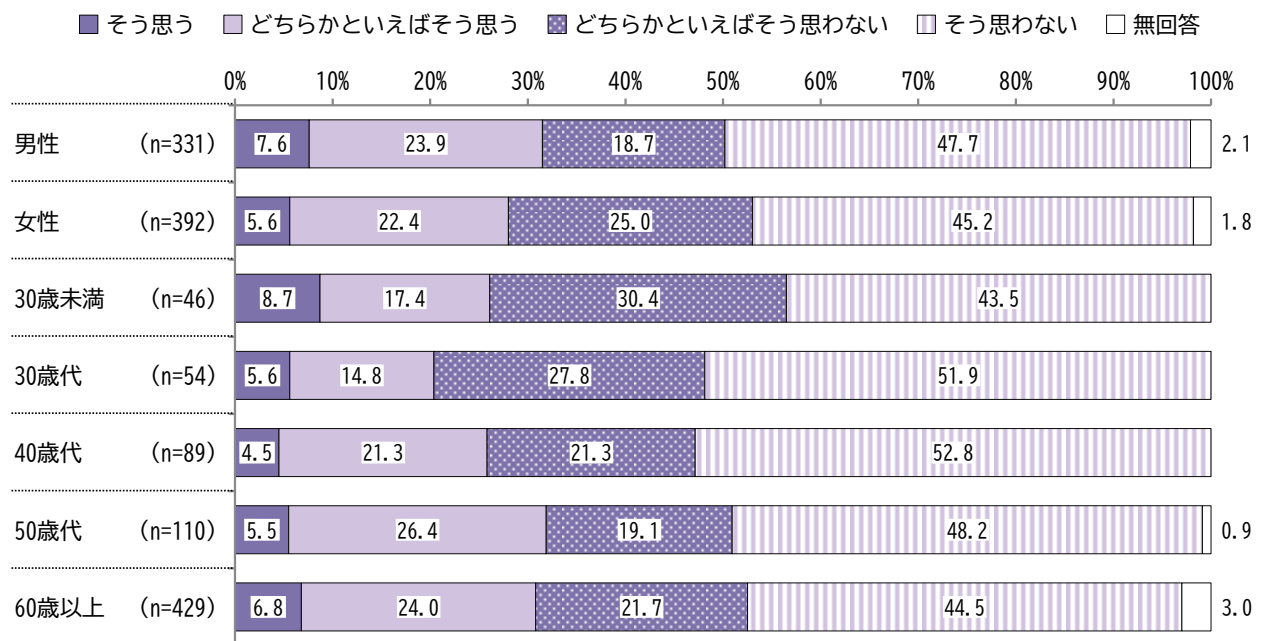
⑤ 男性は女性より多く収入を得る必要がある

【経年比較】



経年比較でみると、大きな差はみられない。

【性別・年代別】

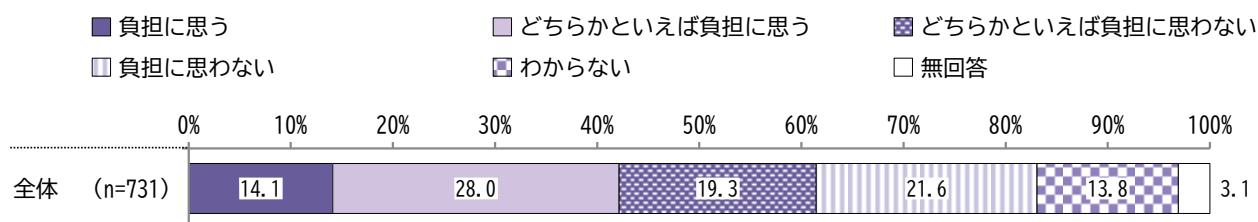


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『そう思わない』との回答は30歳代で約8割と高くなっている。

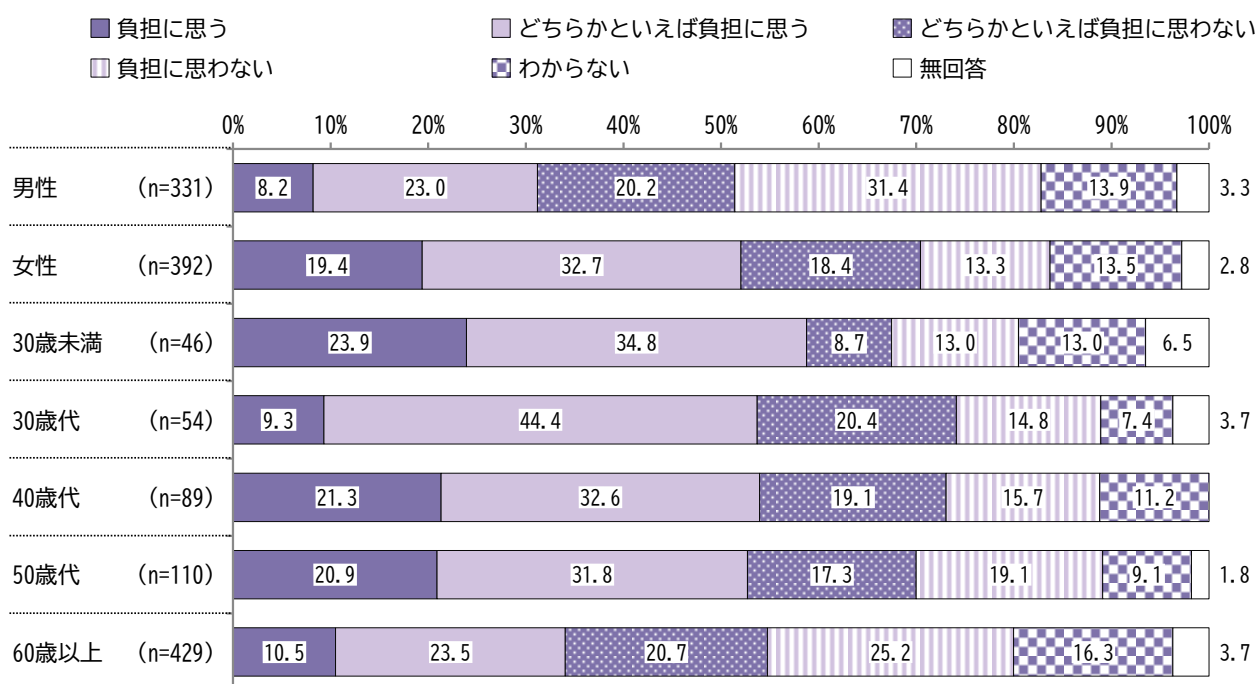
問 12 あなたは、問 11 のような「男女の固定的な考え方」についてどう思いますか。(○は 1 つ)

【全体】



男女の固定的な考え方について、『負担に思う（「負担に思う」＋「どちらかといえば負担に思う」）』（42.1%）、『負担に思わない（「負担に思わない」＋「どちらかといえば負担に思わない」）』（40.9%）となっている。また、「わからない」との回答は13.8%となっている。

【性別・年代別】



性別にみると、『負担に思う』との回答は男性（31.2%）が女性（52.1%）を20.9ポイント下回っている。

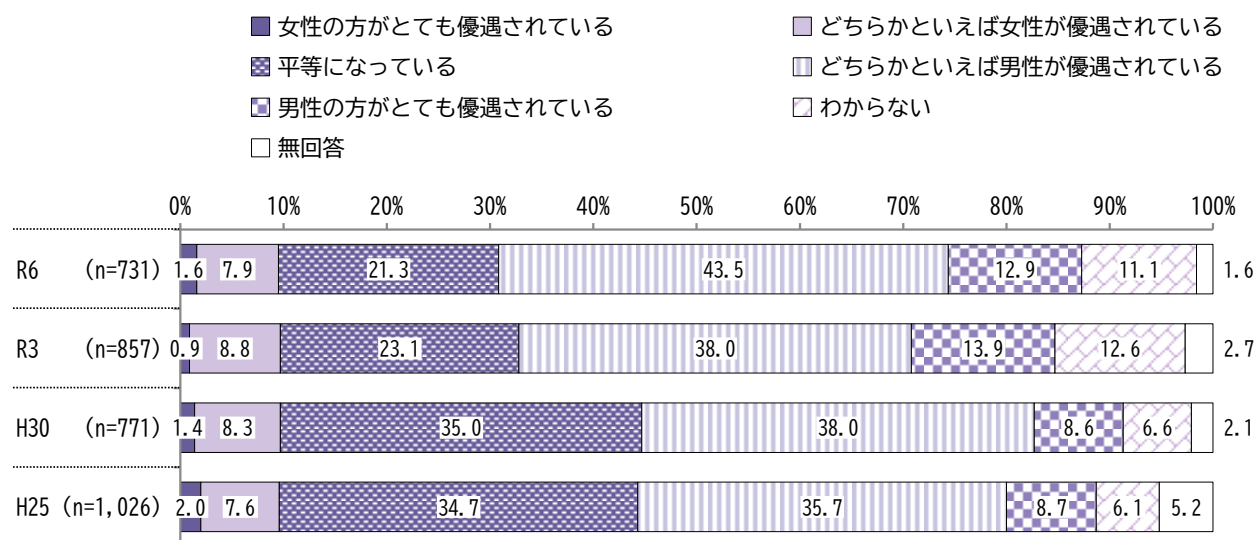
年代別にみると、『負担に思う』との回答は30歳未満～50歳代で5割超と高くなっている。

問 13 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○は1つずつ)

※ 男女平等とは、性別に関わらず、平等に責任や権利や機会をわかちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味しています。

① 家庭生活では

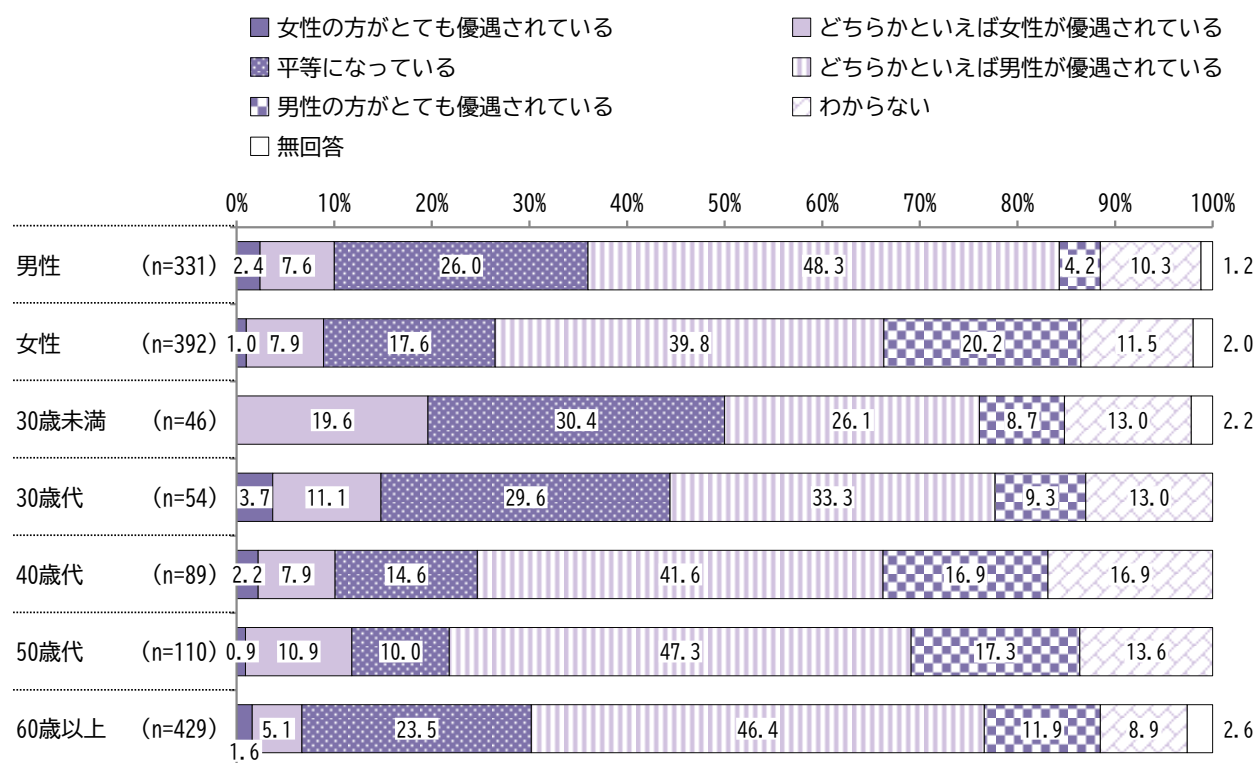
【全体・経年】



家庭生活での男女の平等意識について、『男性優遇（「男性の方がとても優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）』との回答が56.4%と最も高く、次いで「平等になっている」（21.3%）、『女性優遇（「女性の方がとても優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」）』（9.5%）などの順となっている。

経年比較でみると、『男性優遇』との回答は年々増加している。

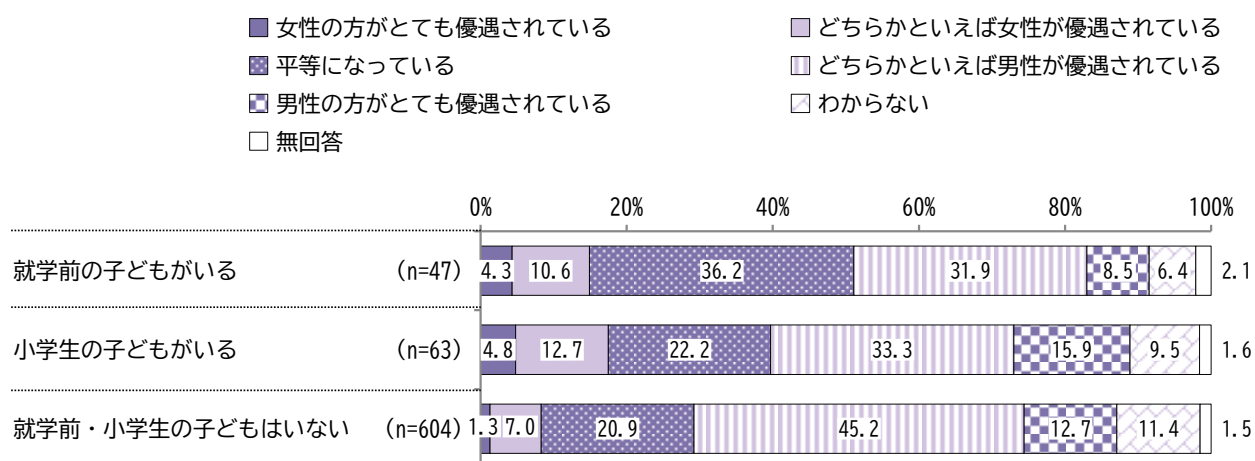
【性別・年代別】



性別にみると、「平等になっている」との回答は男性（26.0%）が女性（17.6%）を8.4ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性（52.5%）が女性（60.0%）を7.5ポイント下回っている。

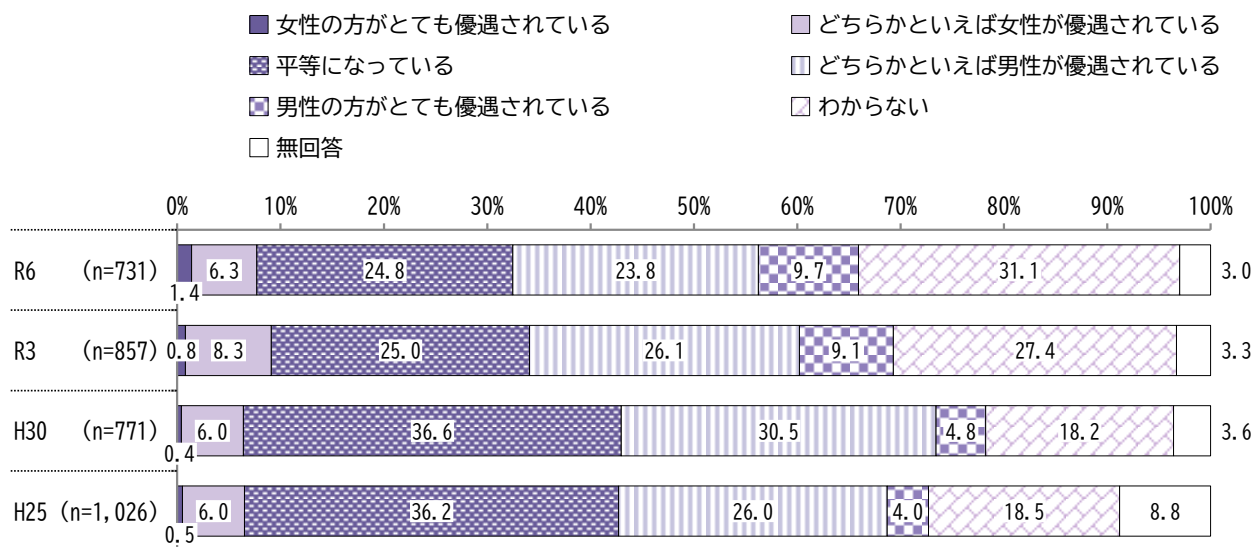
年代別にみると、『男性優遇』との回答は50歳代で6割台半ばと高くなっている。

【子ども有無別】



子ども有無別にみると、『男性優遇』との回答は就学前・小学生の子どもはいないで約6割と高くなっている。

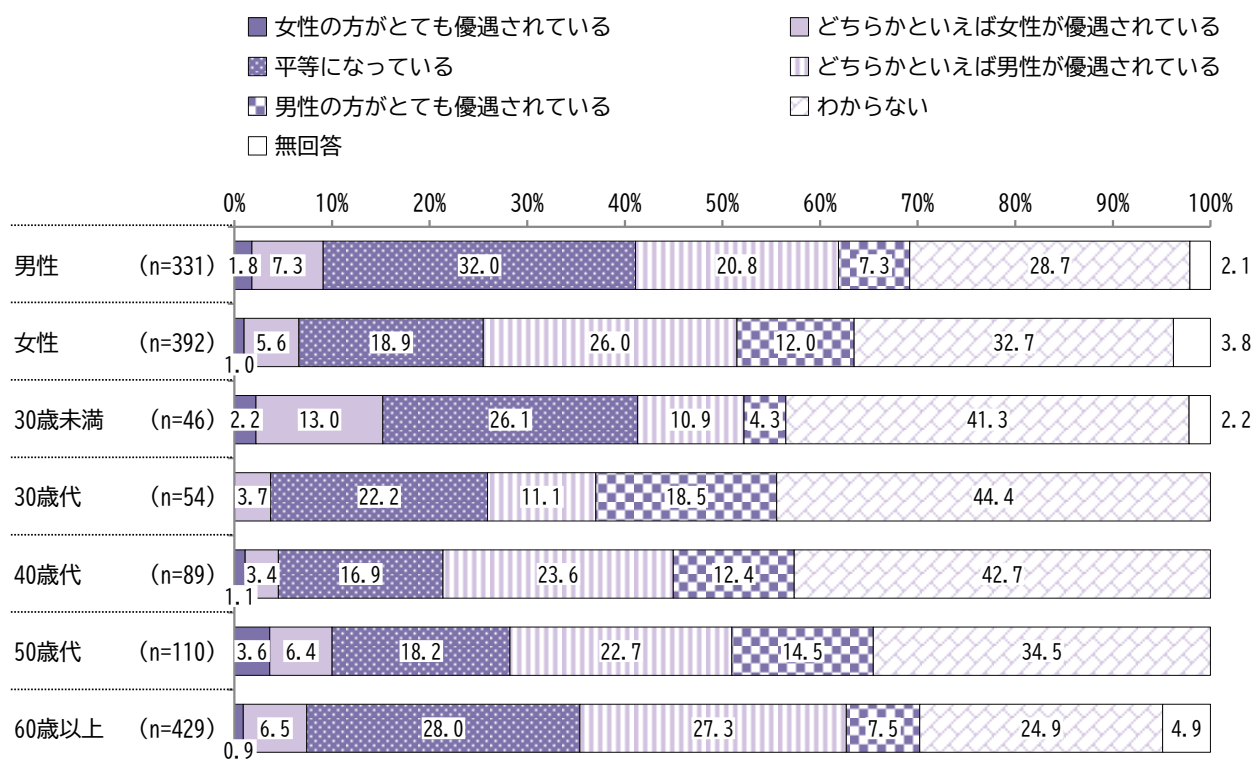
② 自治会やPTAなどの地域活動の間では
【全体・経年】



自治会やPTAなどの地域活動の間での男女の平等意識について、『男性優遇』との回答が33.5%と最も高く、次いで「平等になっている」(24.8%)、『女性優遇』(7.7%)などの順となっている。

経年比較でみると、「平等になっている」が6年前と比べると11.8ポイント下回り、減少している傾向がある。

【性別・年代別】

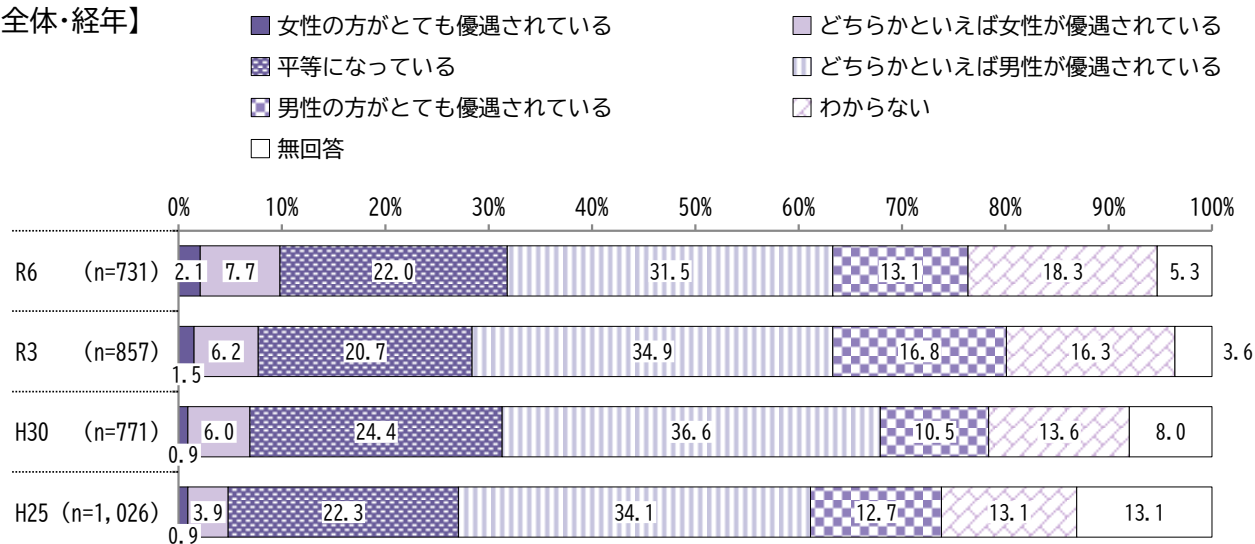


性別にみると、「平等になっている」との回答は男性(32.0%)が女性(18.9%)を13.1ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性(28.1%)が女性(38.0%)を9.9ポイント下回っている。

年代別にみると、『男性優遇』との回答は40歳代～60歳以上で3割台半ばと高くなっている。

③ 職場(仕事の場)では

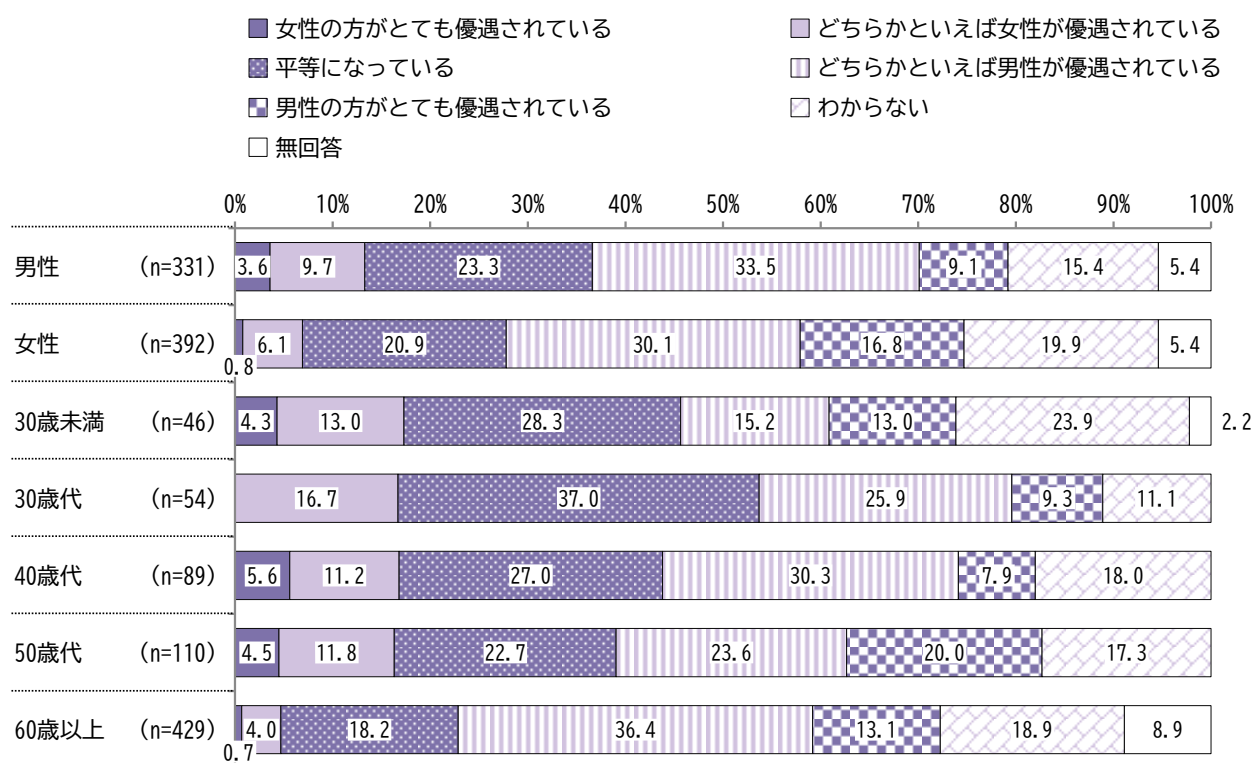
【全体・経年】



職場(仕事の場)での男女の平等意識について、『男性優遇』との回答が44.6%と最も高く、次いで「平等になっている」(22.0%)、『女性優遇』(9.8%)などの順となっている。

経年比較でみると、『男性優遇』との回答はR6(44.6%)がR3(51.7%)を7.1ポイント下回っている。

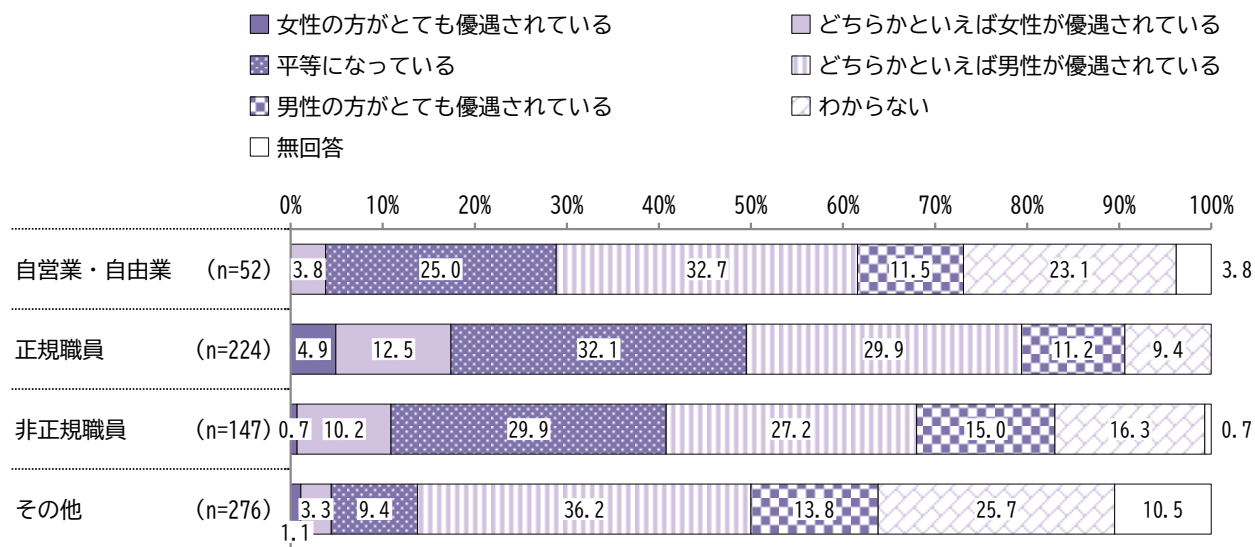
【性別・年代別】



性別にみると『女性優遇』との回答は男性(13.3%)が女性(6.9%)を6.4ポイント上回っている。

年代別にみると、『男性優遇』との回答は60歳以上で約5割と高くなっている。また、『男性優遇』との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

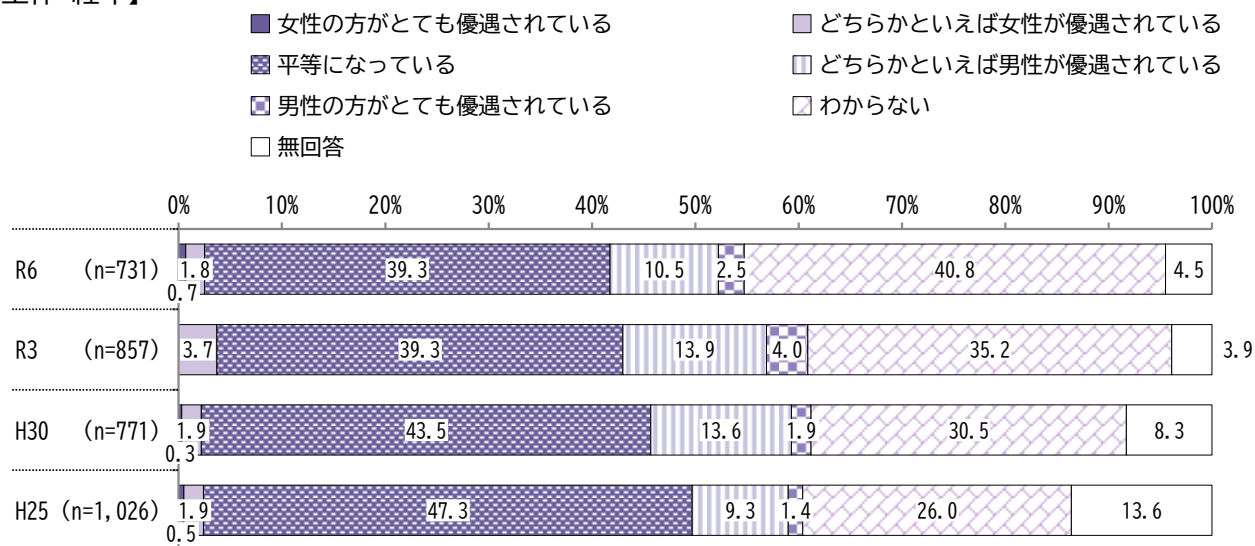
【職業別】



職業別にみると、『女性優遇』との回答は正規職員で約2割と高くなっている。

④ 学校教育の場では

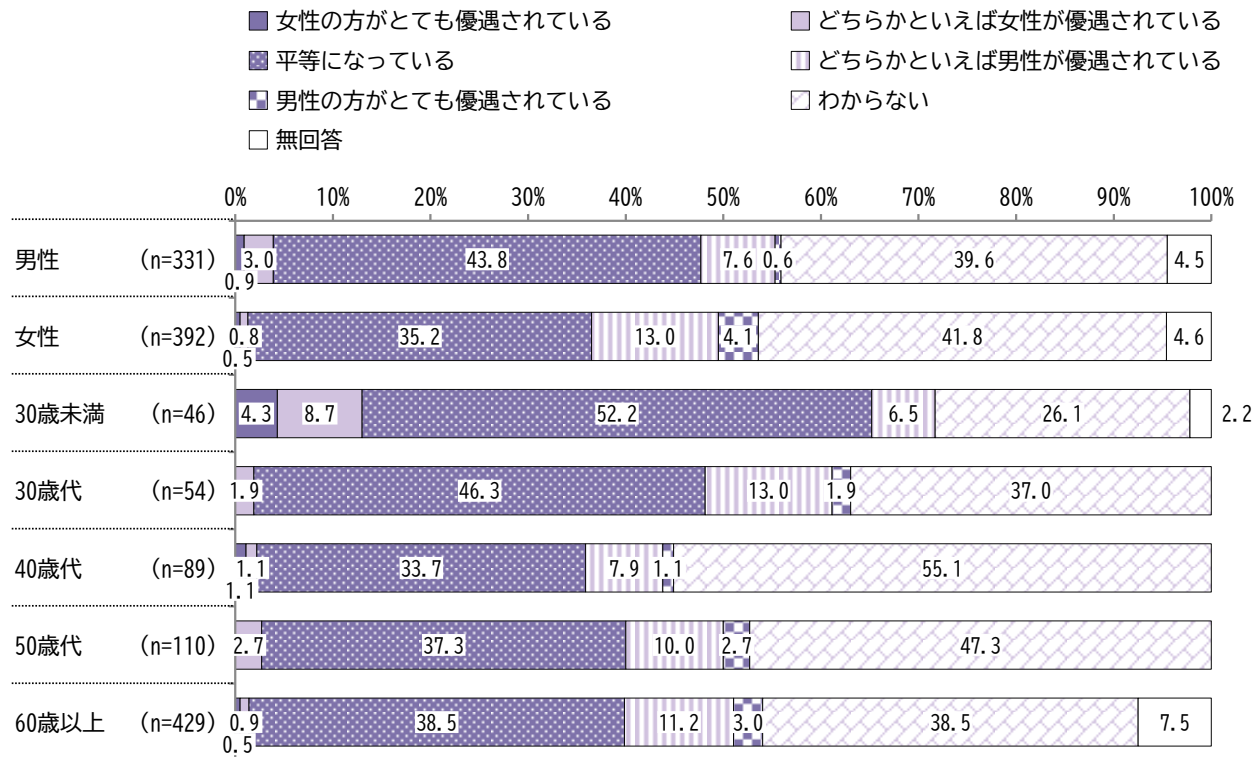
【全体・経年】



学校教育の場での男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が39.3%と最も高く、次いで『男性優遇』（13.0%）、『女性優遇』（2.5%）などの順となっている。

経年比較でみると、「平等になっている」が減少している傾向がある。

【性別・年代別】

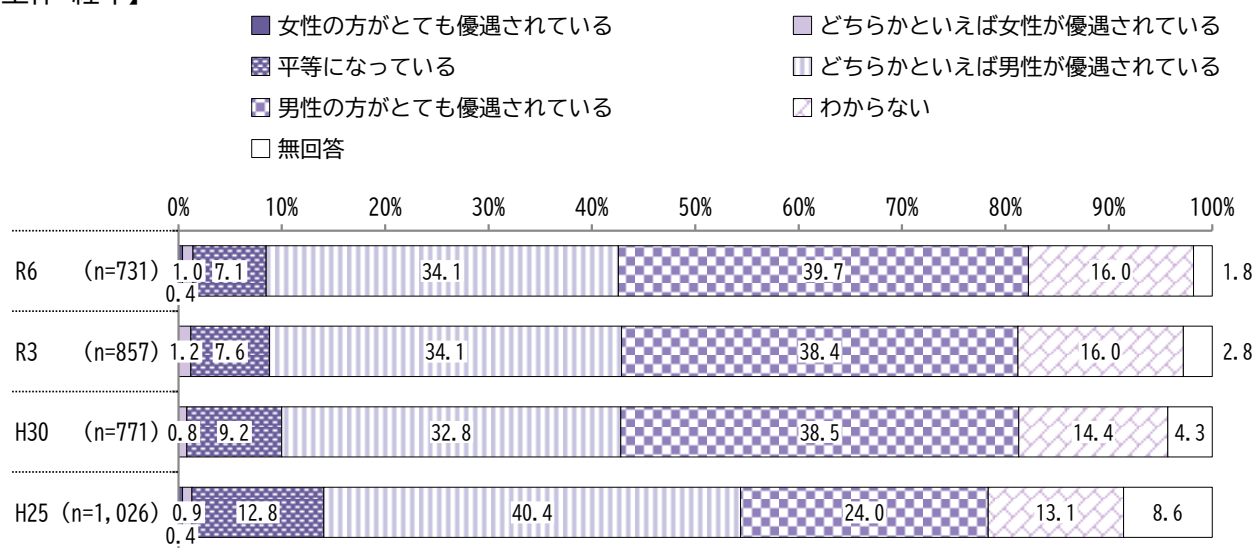


性別にみると、「平等になっている」との回答は男性（43.8%）が女性（35.2%）を8.6ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性（8.2%）が女性（17.1%）を8.9ポイント下回っている。

年代別にみると、「平等になっている」との回答は30歳未満で5割超と高くなっている。

⑤ 政治の場では

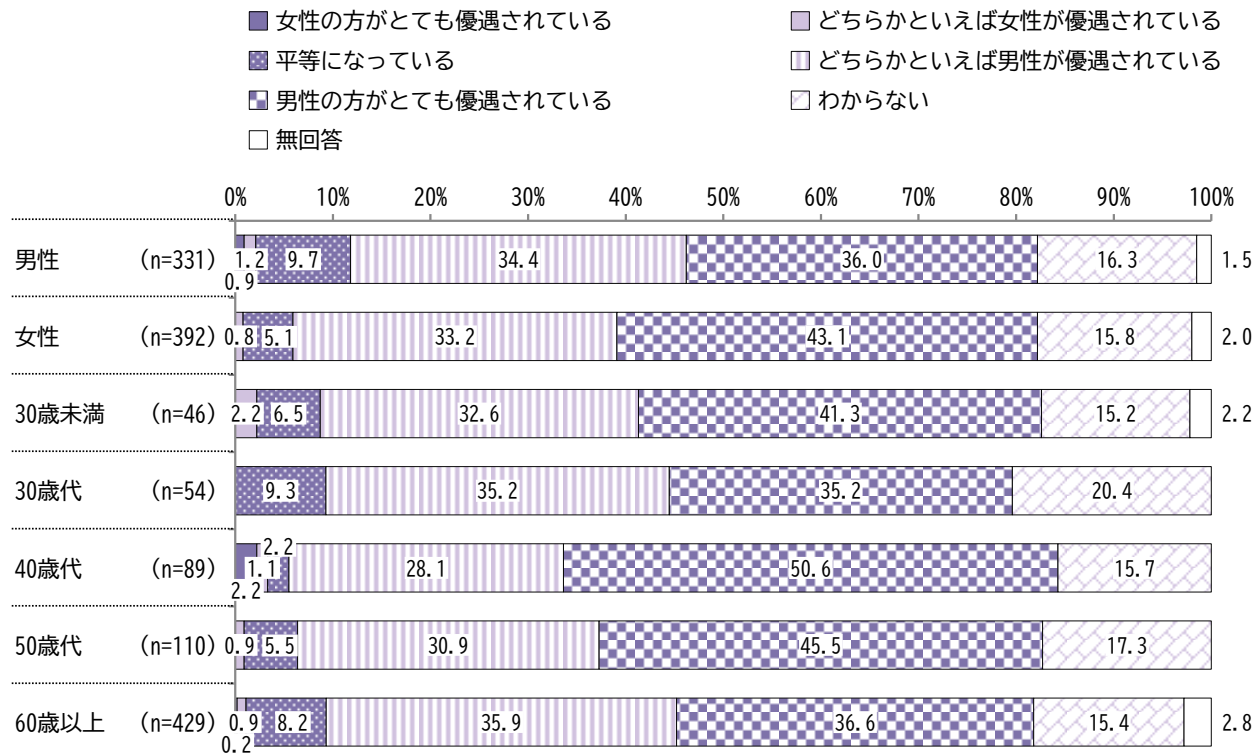
【全体・経年】



政治の場での男女の平等意識について、『男性優遇』との回答が73.8%と最も高く、次いで「平等になっている」(7.1%)、『女性優遇』(1.4%)などの順となっている。

経年比較でみると、『男性優遇』との回答は年々増加している。

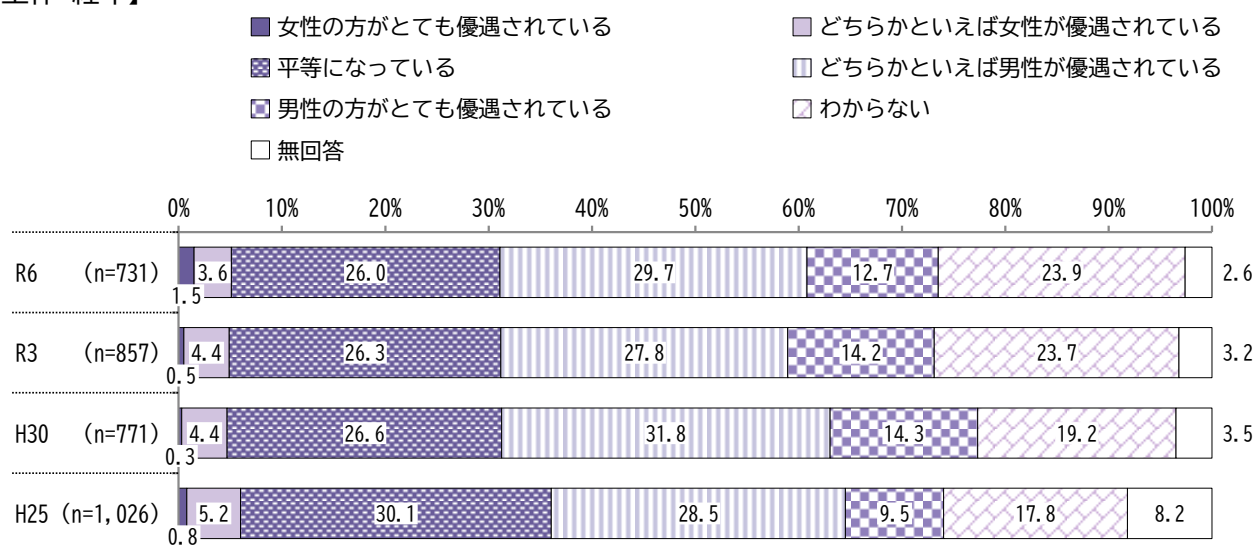
【性別・年代別】



性別にみると、『男性優遇』との回答は男性(70.4%)が女性(76.3%)を5.9ポイント下回っている。年代別にみると、『男性優遇』との回答は40歳代で約8割と高くなっている。

⑥ 法律や制度の上では

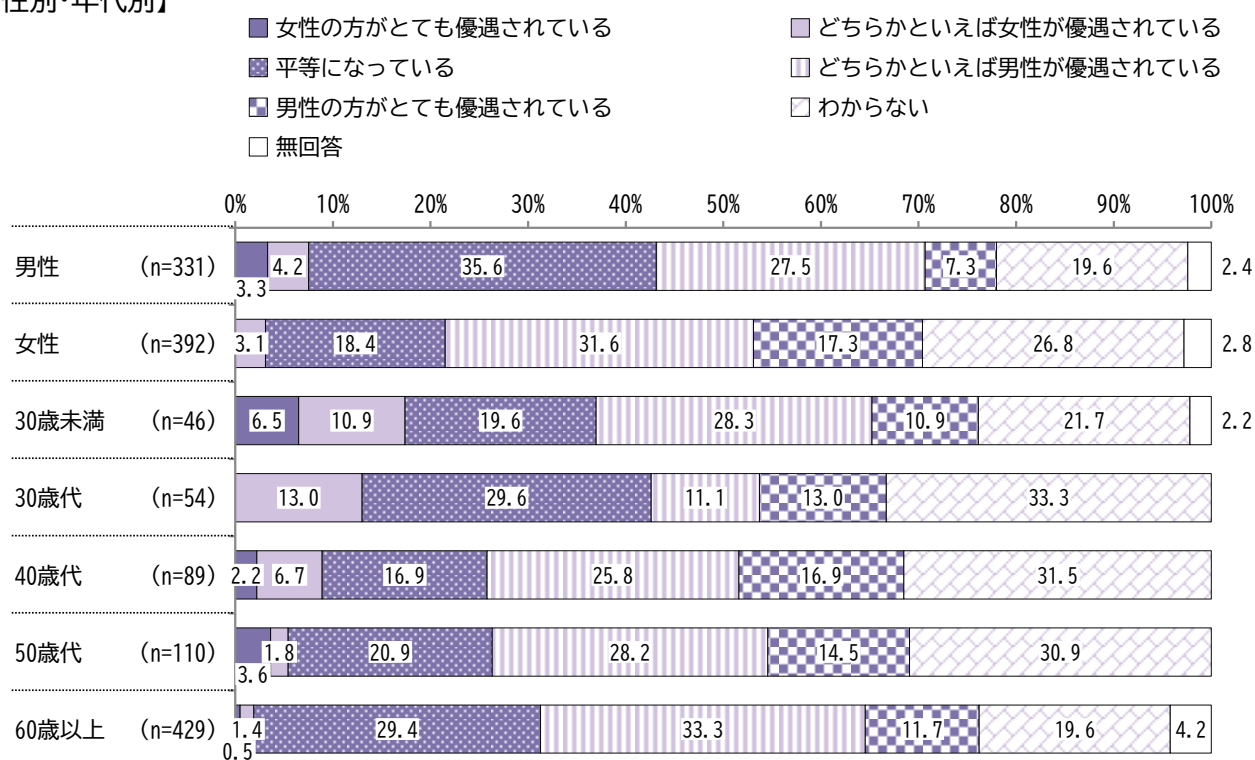
【全体・経年】



法律や制度の上での男女の平等意識について、『男性優遇』との回答が42.4%と最も高く、次いで「平等になっている」(26.0%)、『女性優遇』(5.1%)などの順となっている。

経年比較でみると、「平等になっている」との回答は年々減少している。

【性別・年代別】

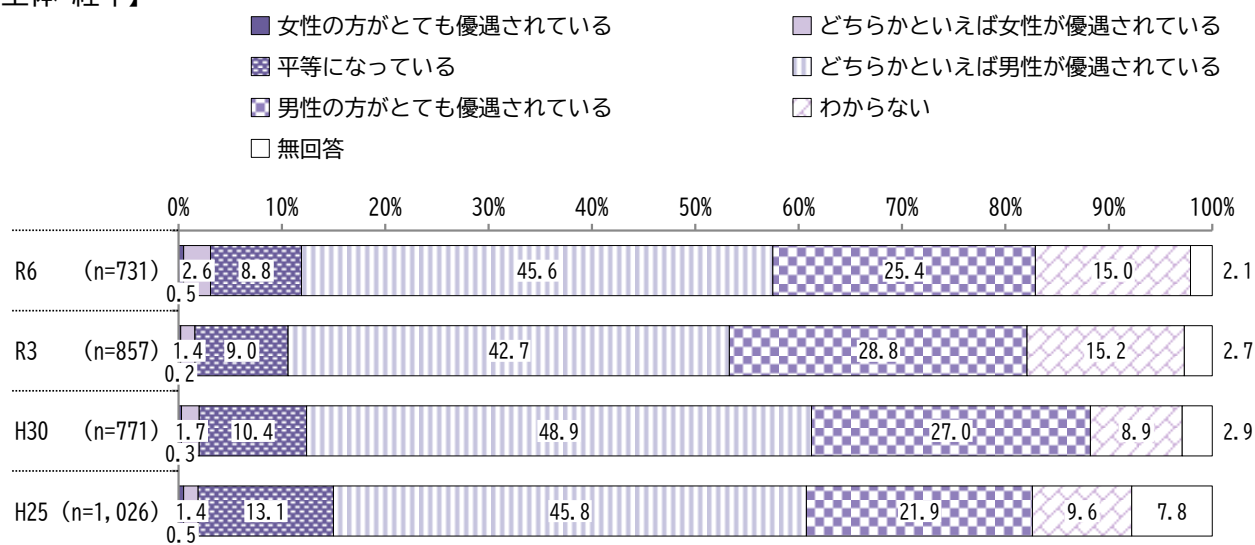


性別にみると、「平等になっている」との回答は男性(35.6%)が女性(18.4%)を17.2ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性(34.8%)が女性(48.9%)を14.1ポイント下回っている。

年代別にみると、『男性優遇』との回答は60歳以上で4割台半ばと高くなっている。また、『女性優遇』との回答は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは

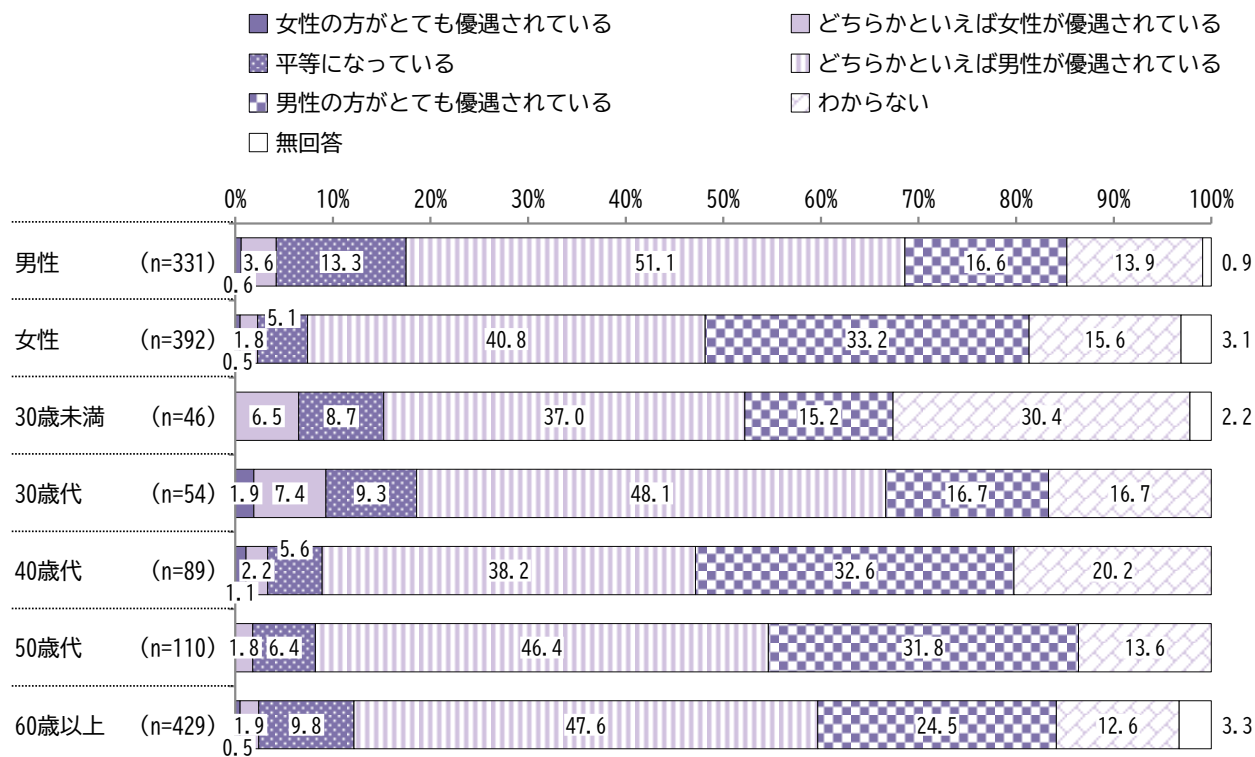
【全体・経年】



社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の平等意識について、『男性優遇』との回答が71.0%と最も高く、次いで「平等になっている」(8.8%)、『女性優遇』(3.1%)などの順となっている。

経年比較でみると、「平等になっている」との回答は年々減少している。

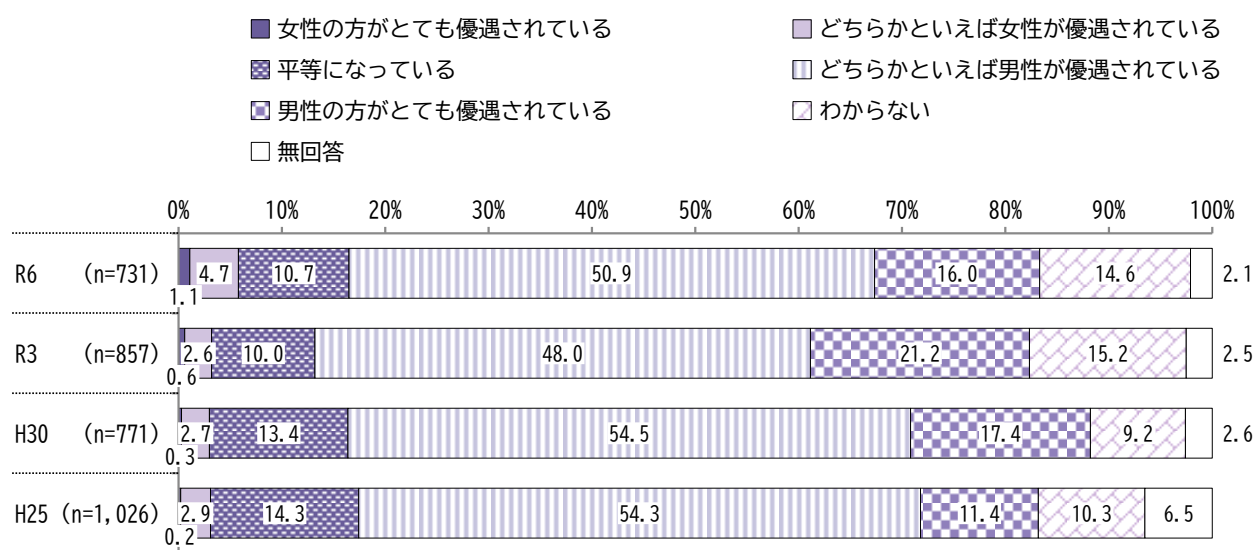
【性別・年代別】



性別にみると、「平等になっている」との回答は男性(13.3%)が女性(5.1%)を8.2ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性(67.7%)が女性(74.0%)を6.3ポイント下回っている。

年代別にみると、『男性優遇』との回答は50歳代以上で約8割と高くなっている。

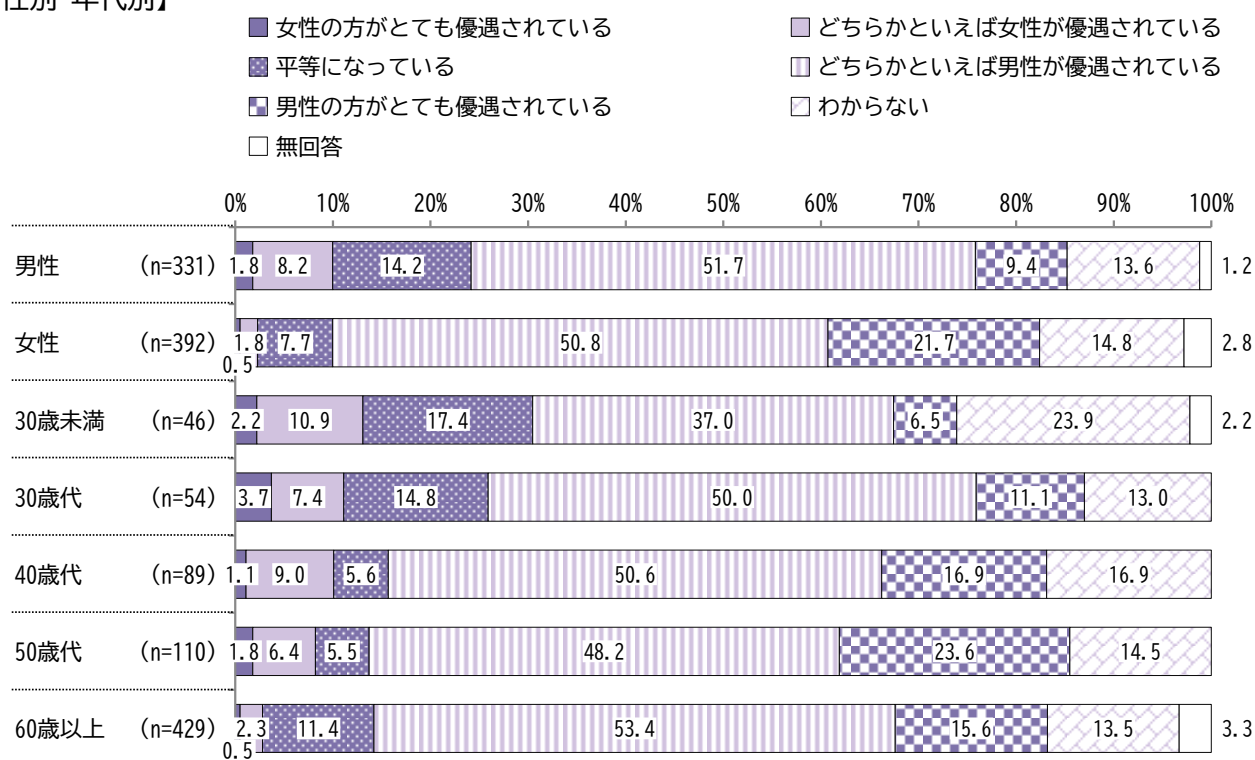
⑧ 社会全体では 【全体・経年】



社会全体での男女の平等意識について、『男性優遇』との回答が66.9%と最も高く、次いで「平等になっている」(10.7%)、『女性優遇』(5.8%)などの順となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

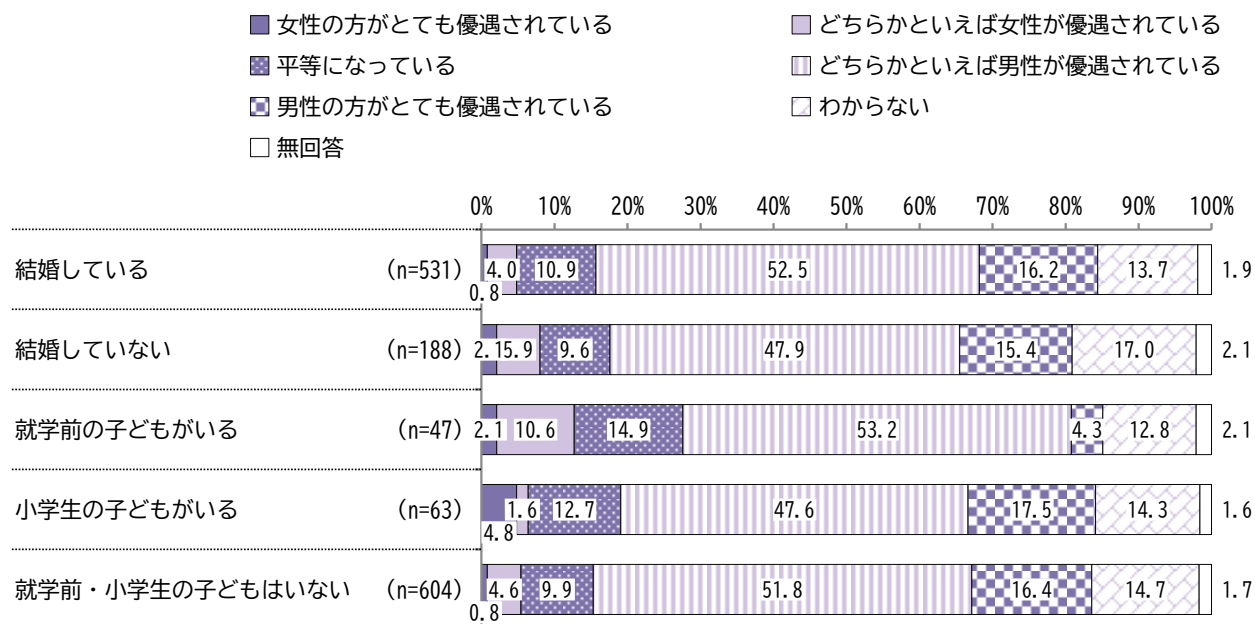
【性別・年代別】



性別にみると、『女性優遇』との回答は男性(10.0%)が女性(2.3%)を7.7ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性(61.1%)が女性(72.5%)を11.4ポイント下回っている。

年代別にみると、『男性優遇』との回答は50歳代で7割超と高くなっている。また、『女性優遇』との回答は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

【結婚有無別・子ども有無別】



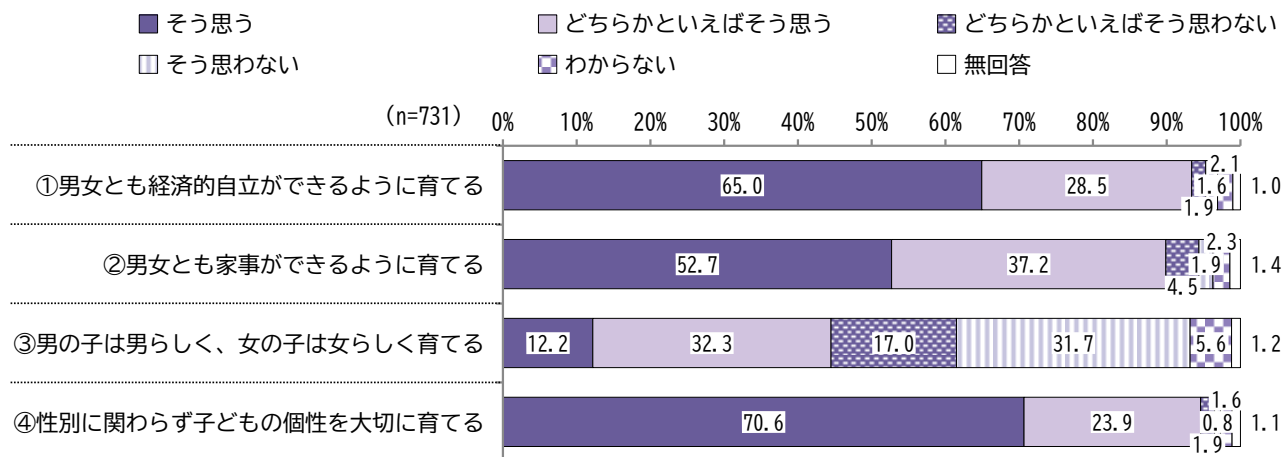
結婚有無別にみると、『男性優遇』との回答は結婚している（68.7%）が結婚していない（63.3%）を5.4ポイント上回っている。

子ども有無別にみると、『男性優遇』との回答は就学前・小学生の子どもはいないで約7割と高くなっている。

すべての方におたずねします。

問 14 あなたは、子どもの育て方についてどのように思いますか。(○は1つずつ)

【全体】

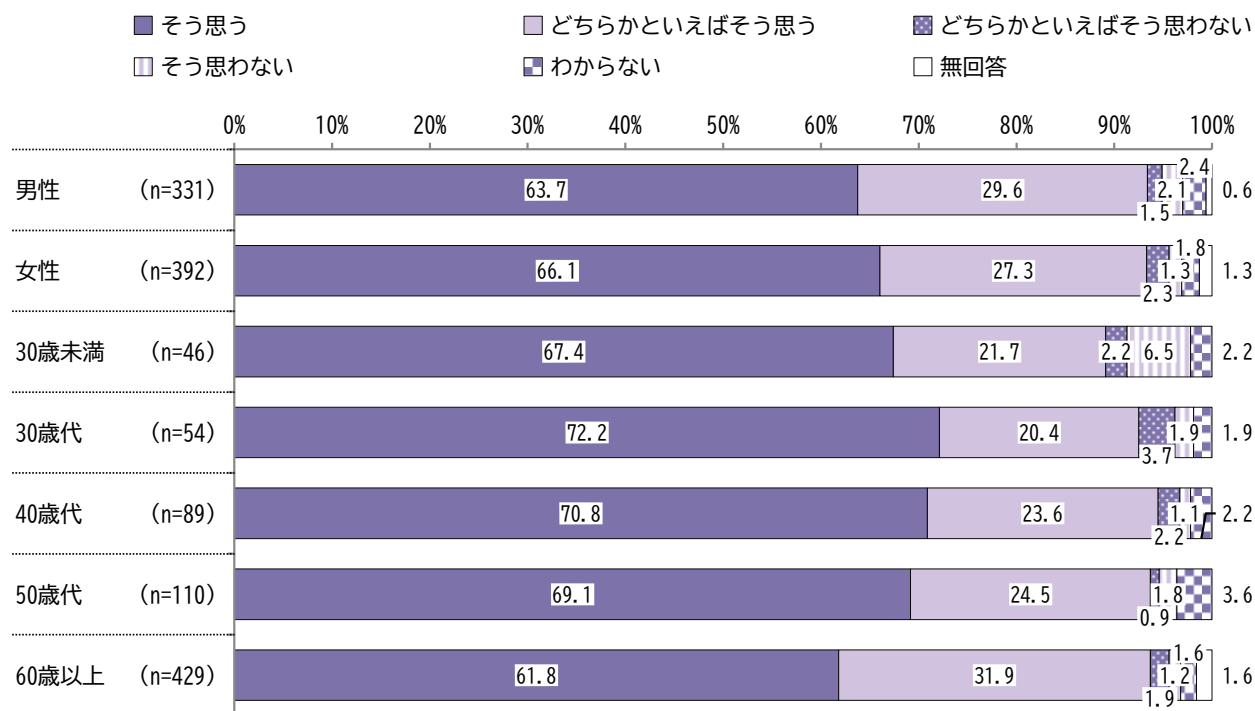


男女での考えについて、『そう思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）』は「④性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」との回答が94.5%と最も高く、次いで「①男女とも経済的自立ができるように育てる」（93.5%）、「②男女とも家事ができるように育てる」（89.9%）などの順となっている。

一方で、『そう思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）』は「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」との回答が48.7%と最も高くなっている。

① 男女とも経済的自立ができるように育てる

【性別・年代別】

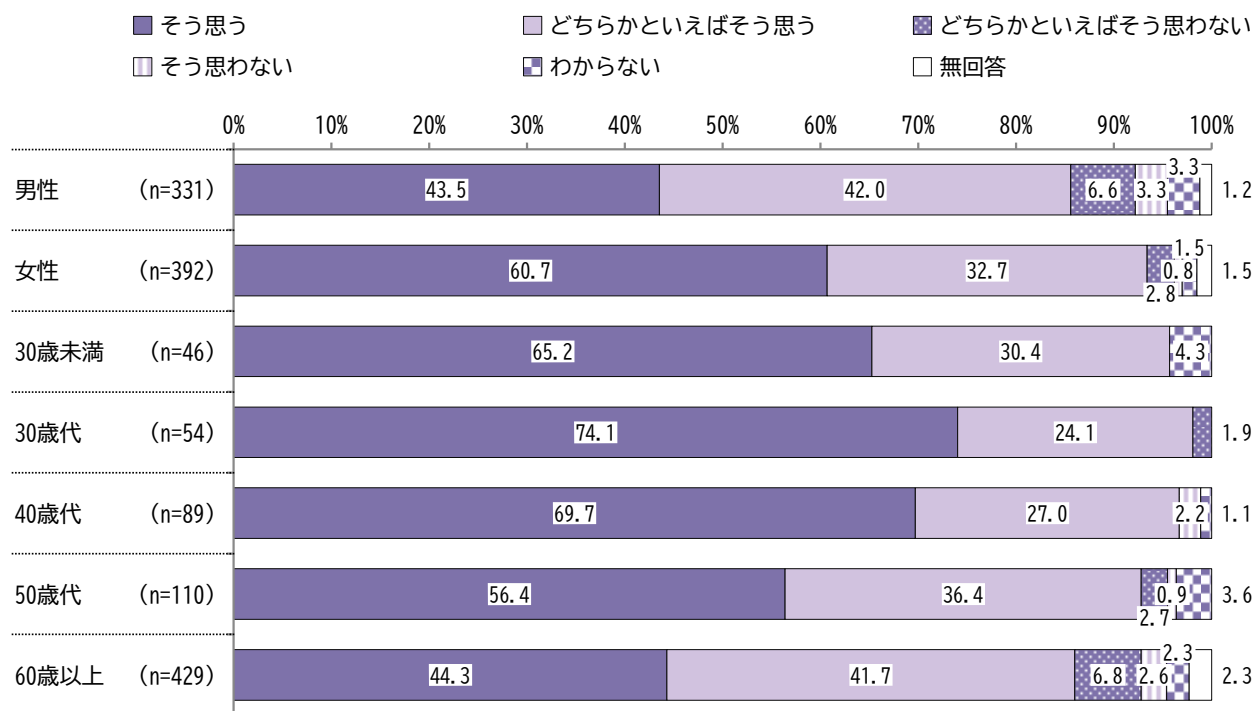


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『そう思う』との回答は40歳代～60歳以上で9割台半ばと高くなっている。

② 男女とも家事ができるように育てる

【性別・年代別】

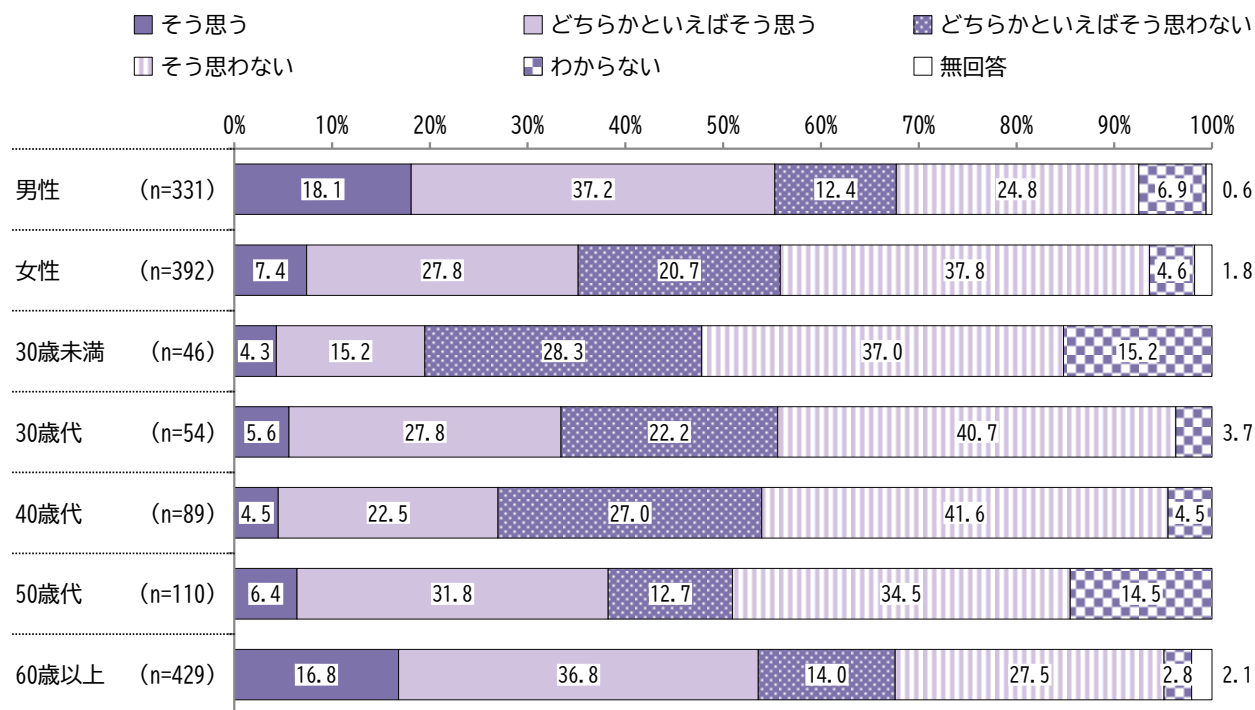


性別にみると、『そう思う』との回答は男性（85.5%）が女性（93.4%）を7.9ポイント下回っている。

年代別にみると、『そう思う』との回答は30歳代で9割台半ばと高くなっている。また、『そう思わない』との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

③ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

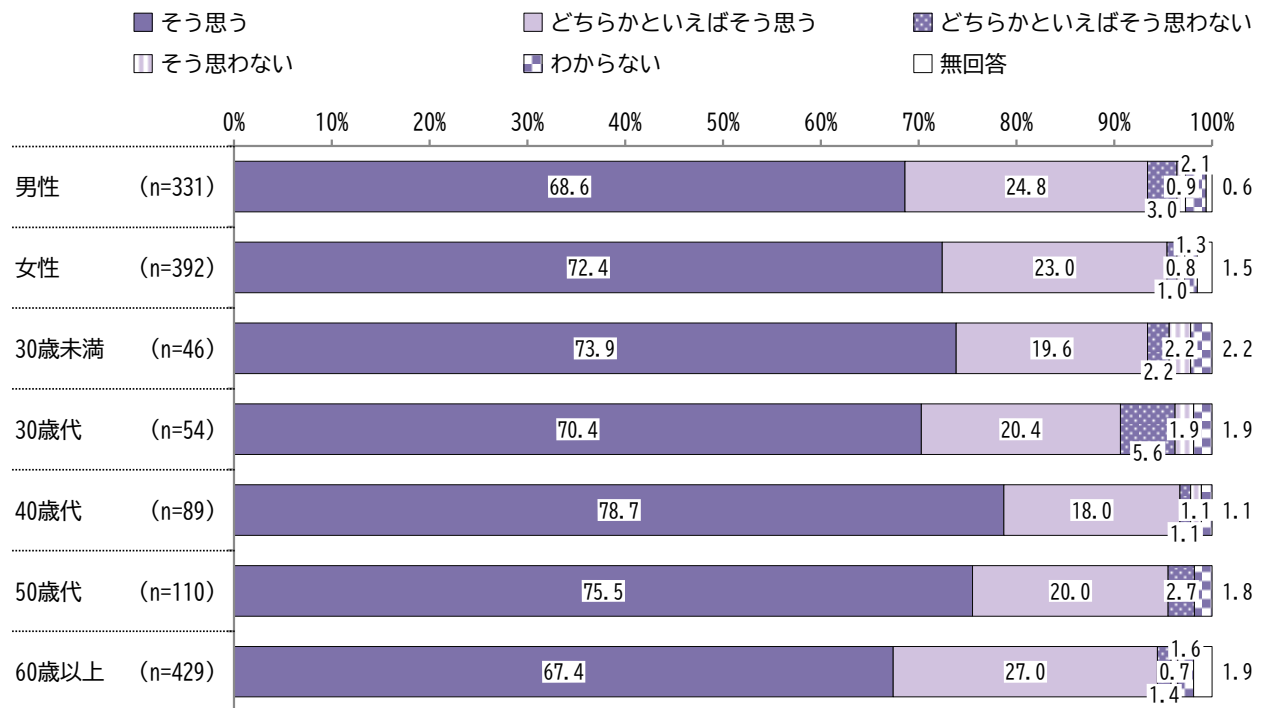
【性別・年代別】



性別にみると、『そう思う』との回答は男性（55.3%）が女性（35.2%）を20.1ポイント上回っている。
年代別にみると、『そう思わない』との回答は40歳代で約7割と高くなっている。

④ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる

【性別・年代別】



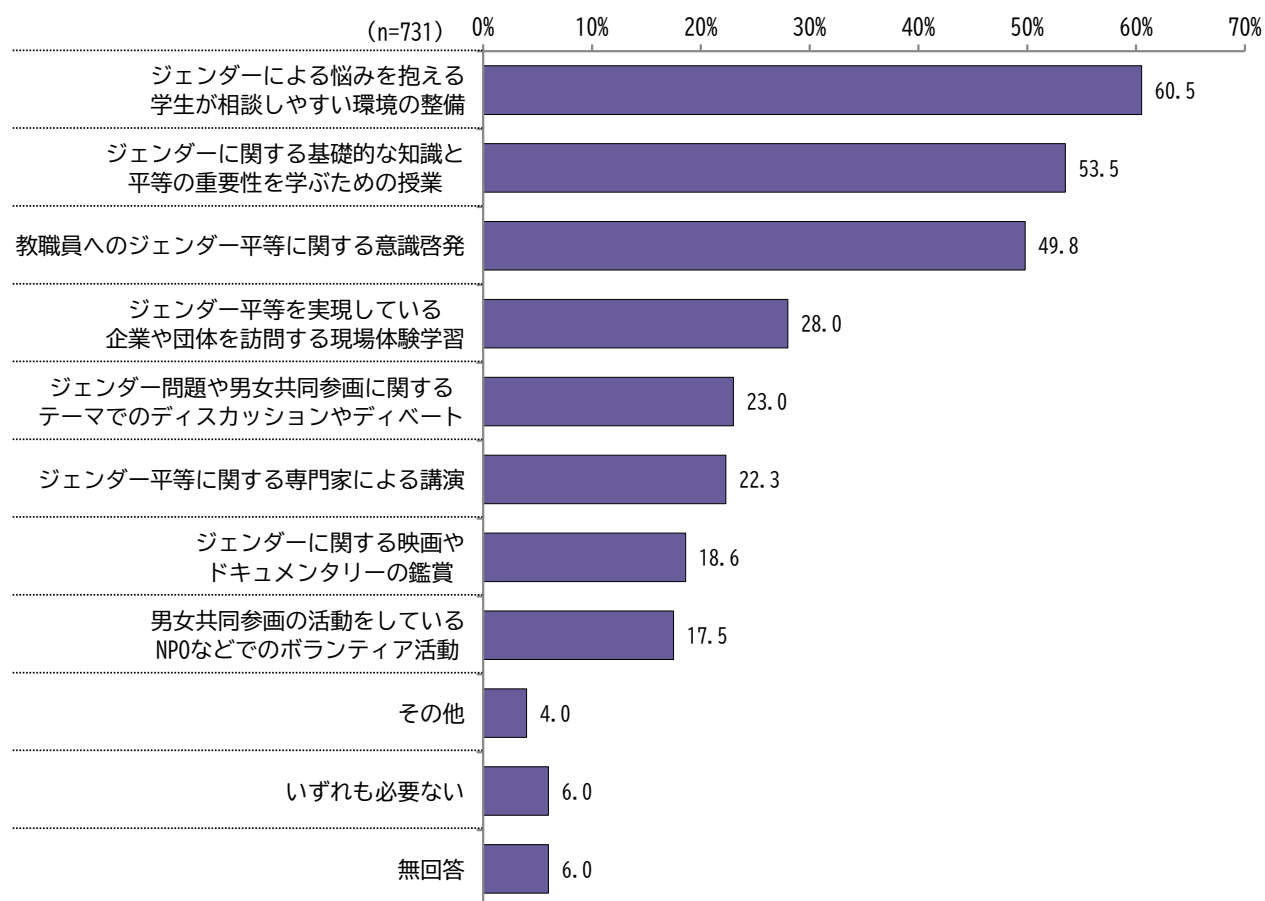
性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『そう思う』との回答はすべての年代で9割台と高くなっている。

問 15 男女共同参画社会を進めていくために、学校教育においてどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

※ ジェンダーとは、生物的な性差ではなく、社会的・文化的な性差を指します。

【全体】



学校教育において必要な取組について、「ジェンダーによる悩みを抱える学生が相談しやすい環境の整備」との回答が60.5%と最も高く、次いで「ジェンダーに関する基礎的な知識と平等の重要性を学ぶための授業」(53.5%)、「教職員へのジェンダー平等に関する意識啓発」(49.8%)などの順となっている。

【学校教育において必要な取組 性別・年代別】

(%)

		n 数	整備 る学生 が相談し やすい環 境の	ジェン ダーに よる悩 みを抱 える学 生の整 備	知識と 平等の 重要性 を学ぶ ための 授業	ジェン ダーに 関する 意識啓 発	教職員 へのジ ェンダ ー平等 に関す る意識 啓発	体験学 習	ジェン ダーに よる悩 みを抱 える学 生の整 備	画に 関する テーマ でのデ ィス カッ ション やデ ィバ ート	ジェン ダーに 関する 意識啓 発	家による 講演	ジェン ダーに 関する 意識啓 発	キエメン ターに 関する 意識啓 発	ア活 動	男女共 同参画 の活動 をして いる NPO などの ボラン タリー 活動	その他	い ずれも 必要 ない	無 回 答	(%)
全体		731	60.5	53.5	49.8	28.0	23.0	22.3	18.6	17.5	4.0	6.0	6.0							
性別	男性	331	55.6	52.3	47.7	28.7	24.5	22.7	19.0	16.6	6.0	8.5	4.5							
	女性	392	64.3	54.6	51.8	27.0	22.2	22.4	18.6	18.4	2.0	3.8	7.4							
年代別	30歳未満	46	69.6	47.8	50.0	21.7	19.6	17.4	26.1	13.0	4.3	10.9	2.2							
	30歳代	54	57.4	57.4	53.7	35.2	25.9	27.8	24.1	14.8	5.6	14.8	1.9							
	40歳代	89	66.3	66.3	47.2	40.4	23.6	20.2	16.9	9.0	3.4	6.7	-							
	50歳代	110	72.7	57.3	56.4	30.9	28.2	19.1	17.3	11.8	4.5	4.5	-							
	60歳以上	429	55.5	49.9	48.3	24.5	21.7	23.5	17.9	21.7	3.7	4.4	9.8							

1位 2位 3位

性別にみると、「ジェンダーによる悩みを抱える学生が相談しやすい環境の整備」との回答は男性（55.6%）が女性（64.3%）を8.7ポイント下回っている。

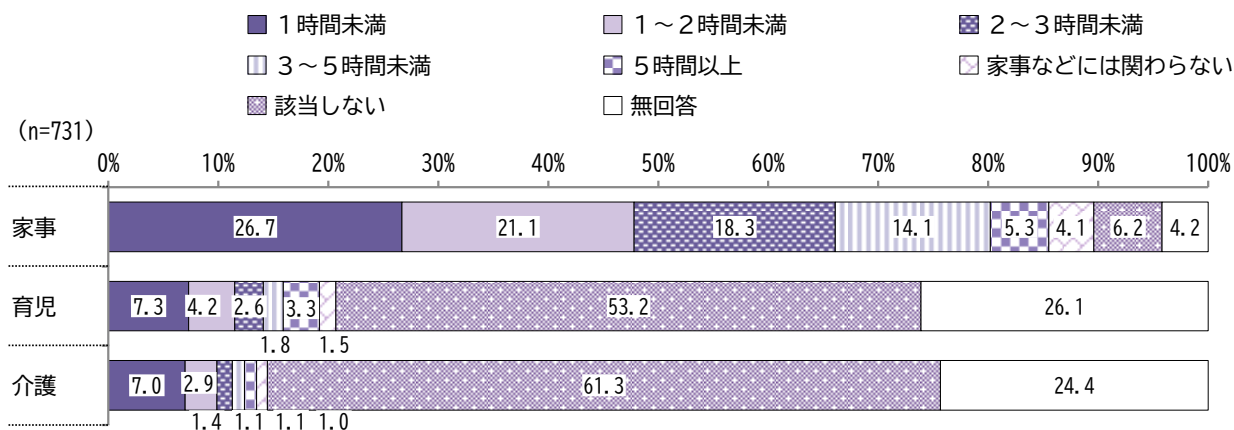
年代別にみると、「ジェンダーによる悩みを抱える学生が相談しやすい環境の整備」との回答はすべての年代で高くなっている。

3 男女の役割分担について

すべての方におたずねします。

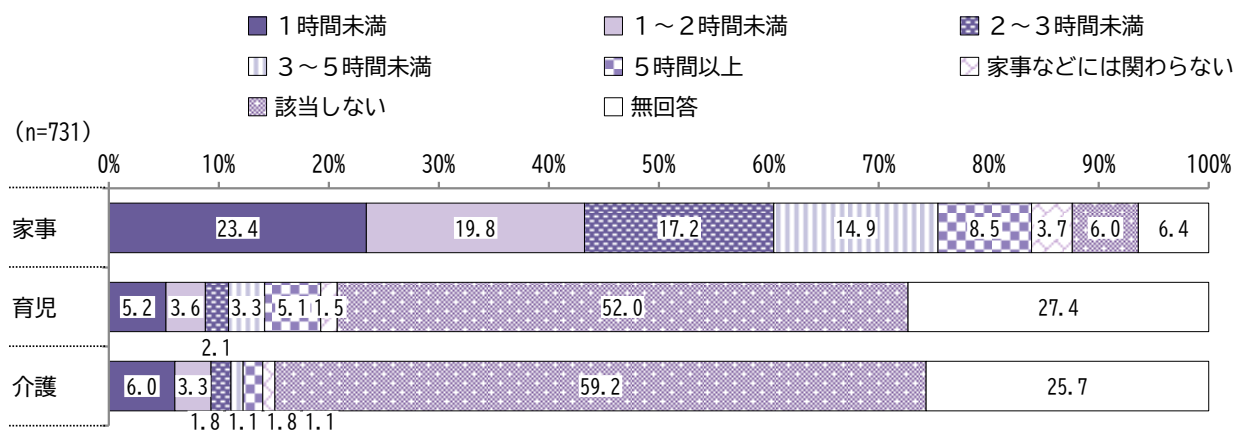
問 16 あなたが家事(食事のしたくや掃除、洗濯など)、育児(子どもの食事・入浴の世話や送迎など)、介護(夫婦の親族の日常生活の世話など)に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。
(○は1つつづ)

【平日の家事・育児・介護 全体】



平日の家事・育児・介護に費やす時間について、家事では「1時間未満」との回答が26.7%と最も高く、次いで「1～2時間未満」(21.1%)、「2～3時間未満」(18.3%)などの順となっている。育児では「該当しない」との回答が53.2%、介護では「該当しない」との回答が61.3%と最も高くなっている。

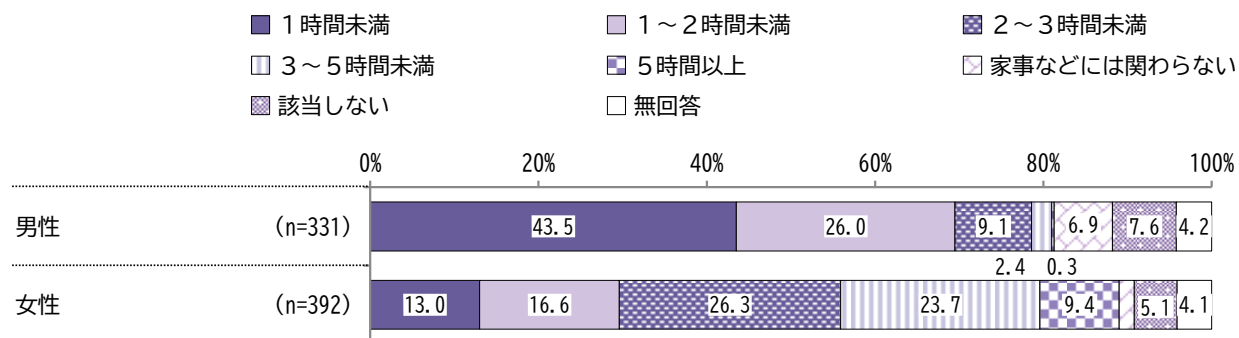
【休日の家事・育児・介護 全体】



休日の家事・育児・介護に費やす時間について、家事では「1時間未満」との回答が23.4%と最も高く、次いで「1～2時間未満」(19.8%)、「2～3時間未満」(17.2%)などの順となっている。育児では「該当しない」との回答が52.0%、介護では「該当しない」との回答が59.2%と最も高くなっている。

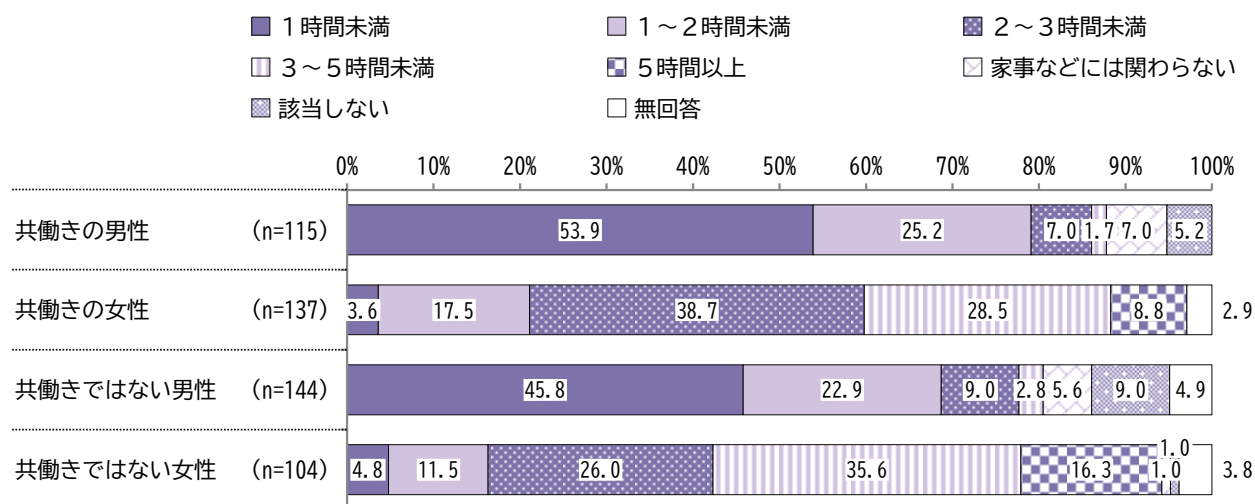
① 平日(家事に費やす時間)

【平日(家事に費やす時間) 性別】



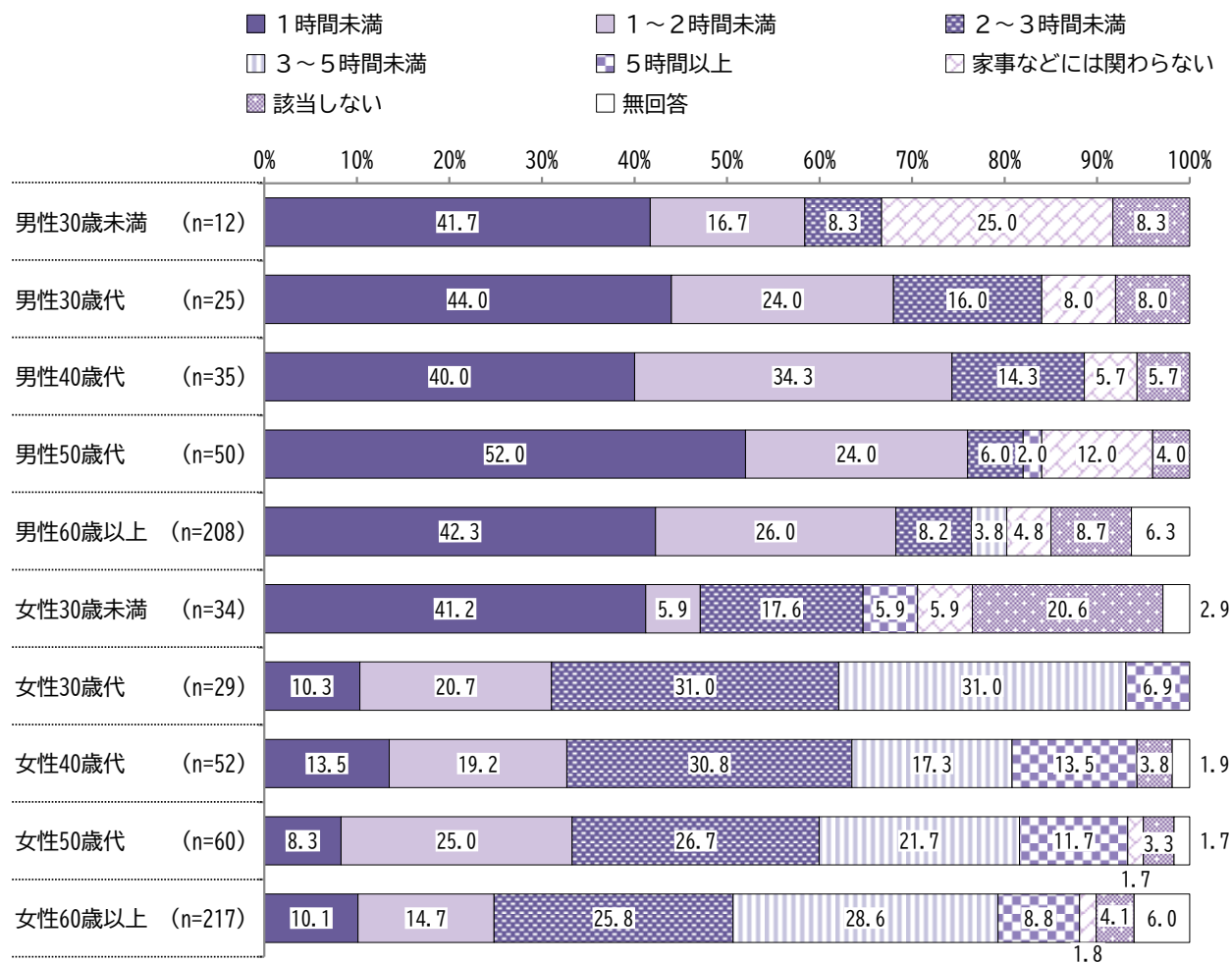
性別にみると、『3時間以上』との回答は男性（2.7%）が女性（33.1%）を30.4ポイント下回っている。

【平日(家事に費やす時間) 共働き有無×性別】



共働きに限定して、性別にみると、『3時間以上』との回答は男性（1.7%）が女性（37.3%）を35.6ポイント下回っている。

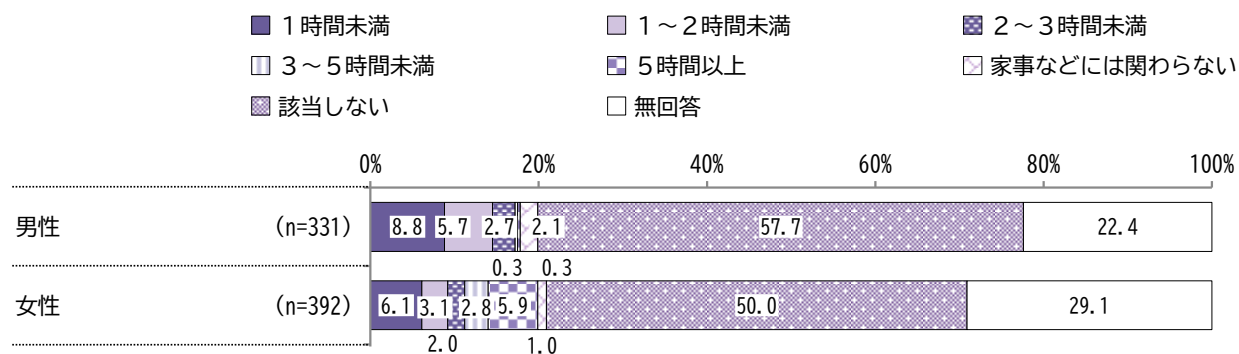
【平日(家事に費やす時間) 性年代別】



性年代別にみると、「1時間未満」との回答は男性のすべての年代で4割以上となっており、『3時間以上』との回答は女性30歳代以上で3割超と高くなっている。

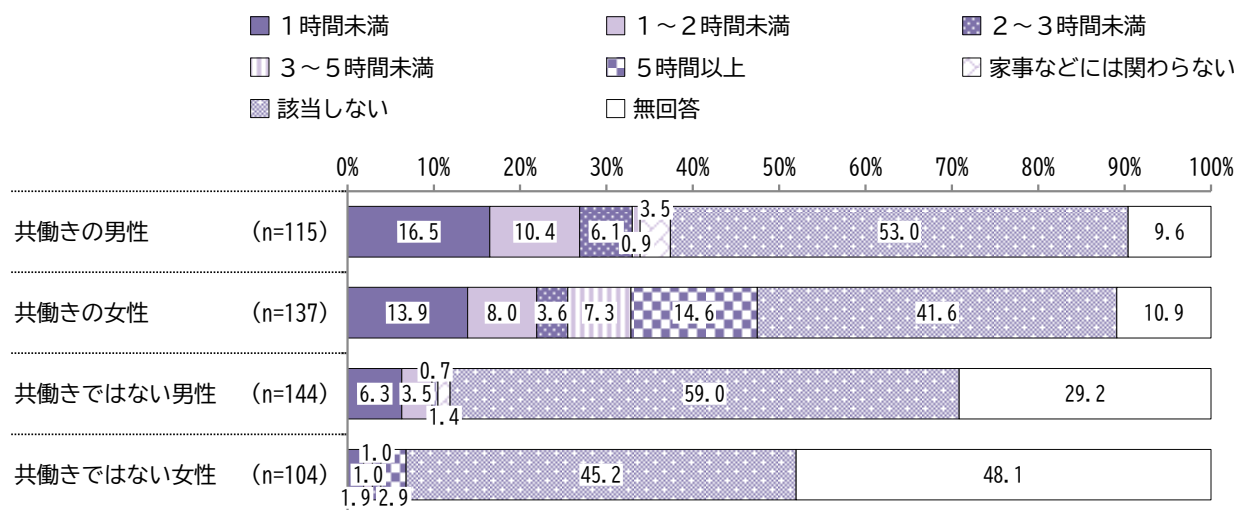
② 平日(育児に費やす時間)

【平日(育児に費やす時間) 性別】



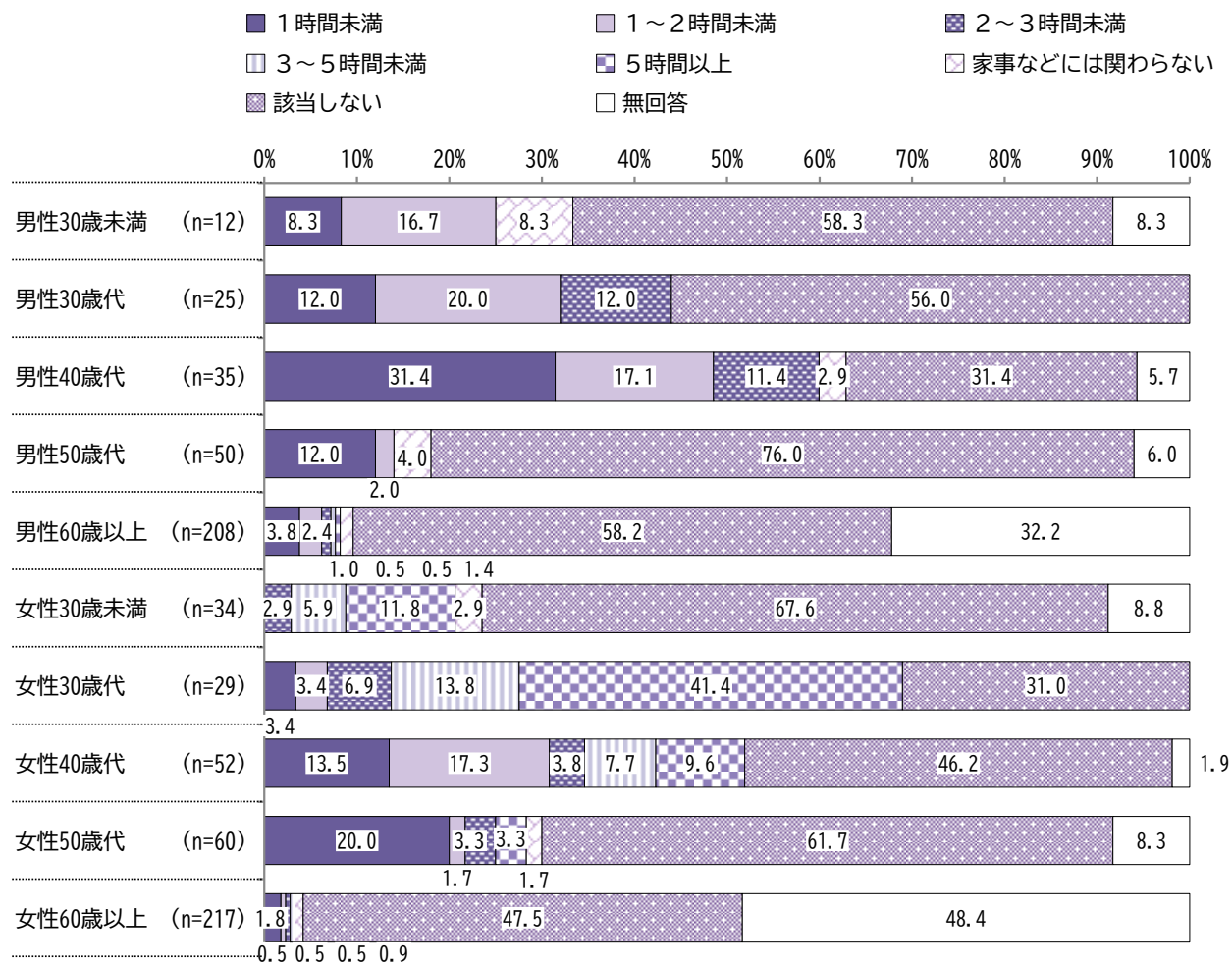
性別にみると、『3時間以上』との回答は男性（0.6％）が女性（8.7％）を8.1ポイント下回っている。

【平日(育児に費やす時間) 共働き有無×性別】



共働きに限定して、性別にみると、『3時間以上』との回答は男性（0.9％）が女性（21.9％）を21.0ポイント下回っている。

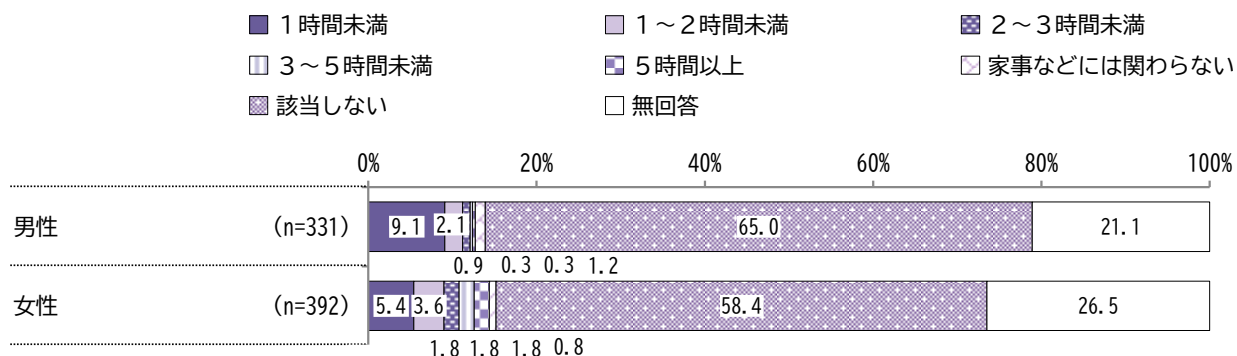
【平日(育児に費やす時間) 性年代別】



性年代別にみると、「1時間未満」との回答は男性40歳代で3割超、「5時間以上」との回答は女性30歳代で4割超と高くなっている。

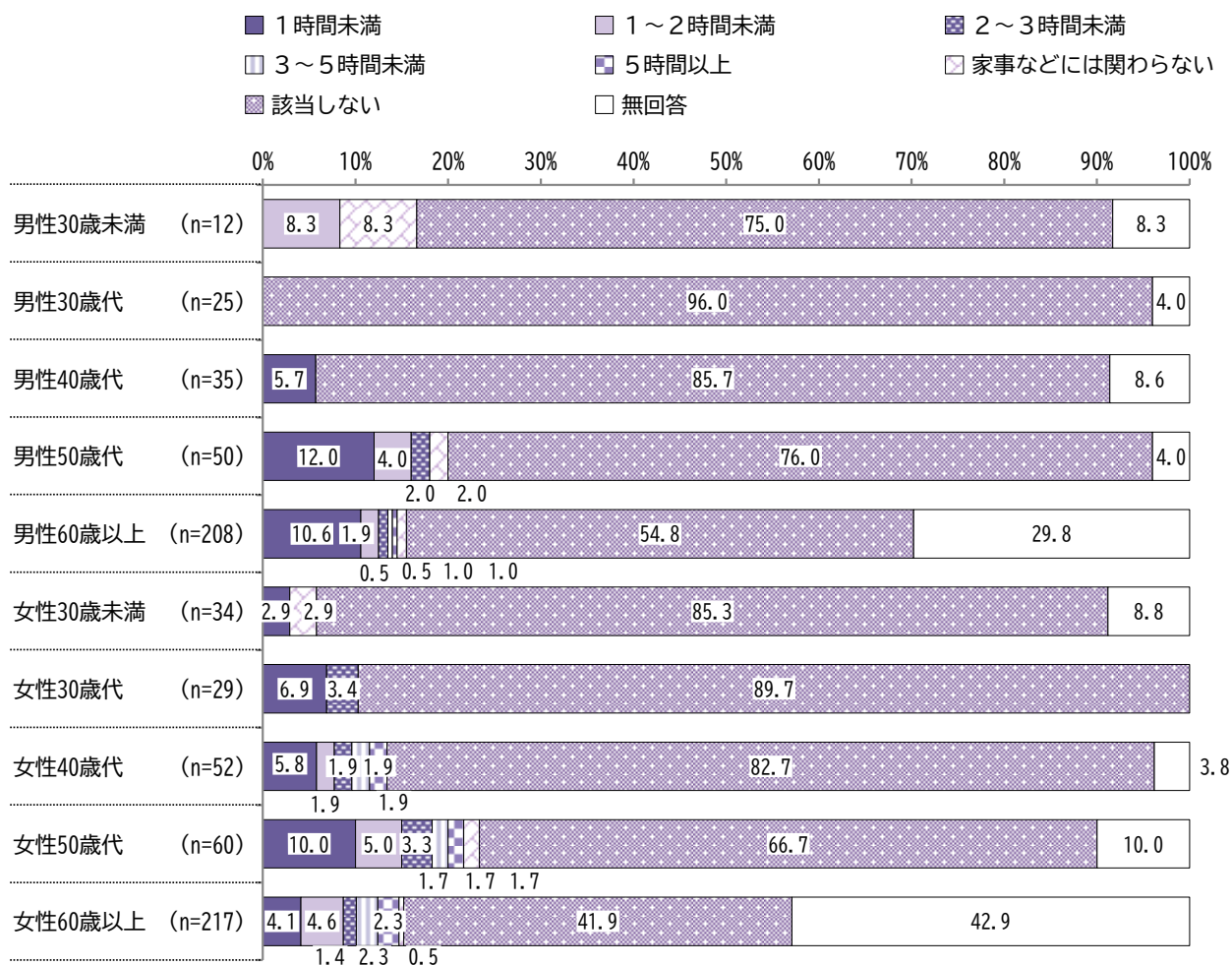
③ 平日(介護に費やす時間)

【平日(介護に費やす時間) 性別】



性別にみると、「該当しない」との回答は男性（65.0%）が女性（58.4%）を6.6ポイント上回っている。

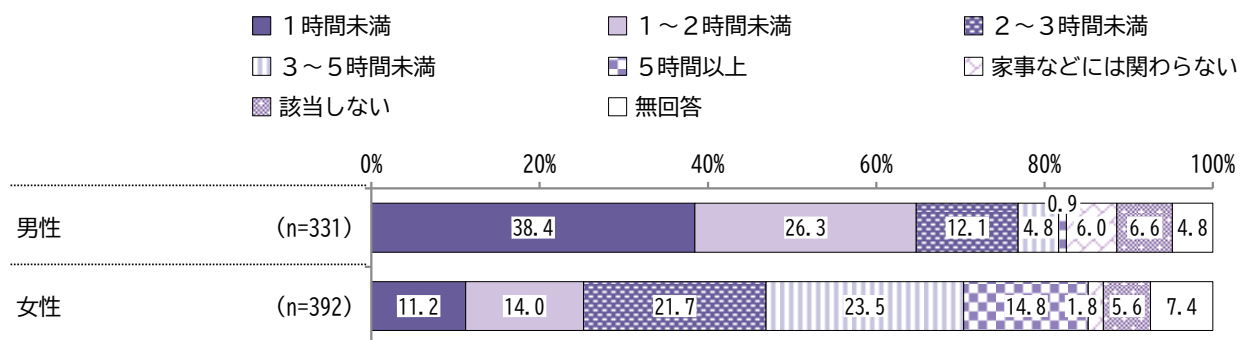
【平日(介護に費やす時間) 性年代別】



性年代別にみると、「1時間未満」との回答は男性50歳代～60歳以上、女性50歳代で1割超と高くなっている。

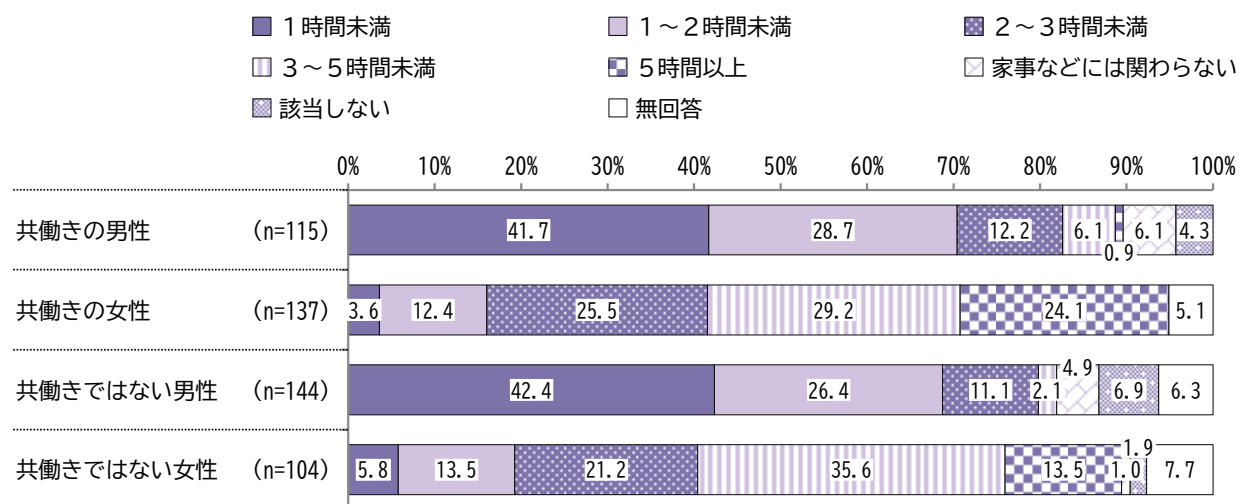
④ 休日(家事に費やす時間)

【休日(家事に費やす時間) 性別】



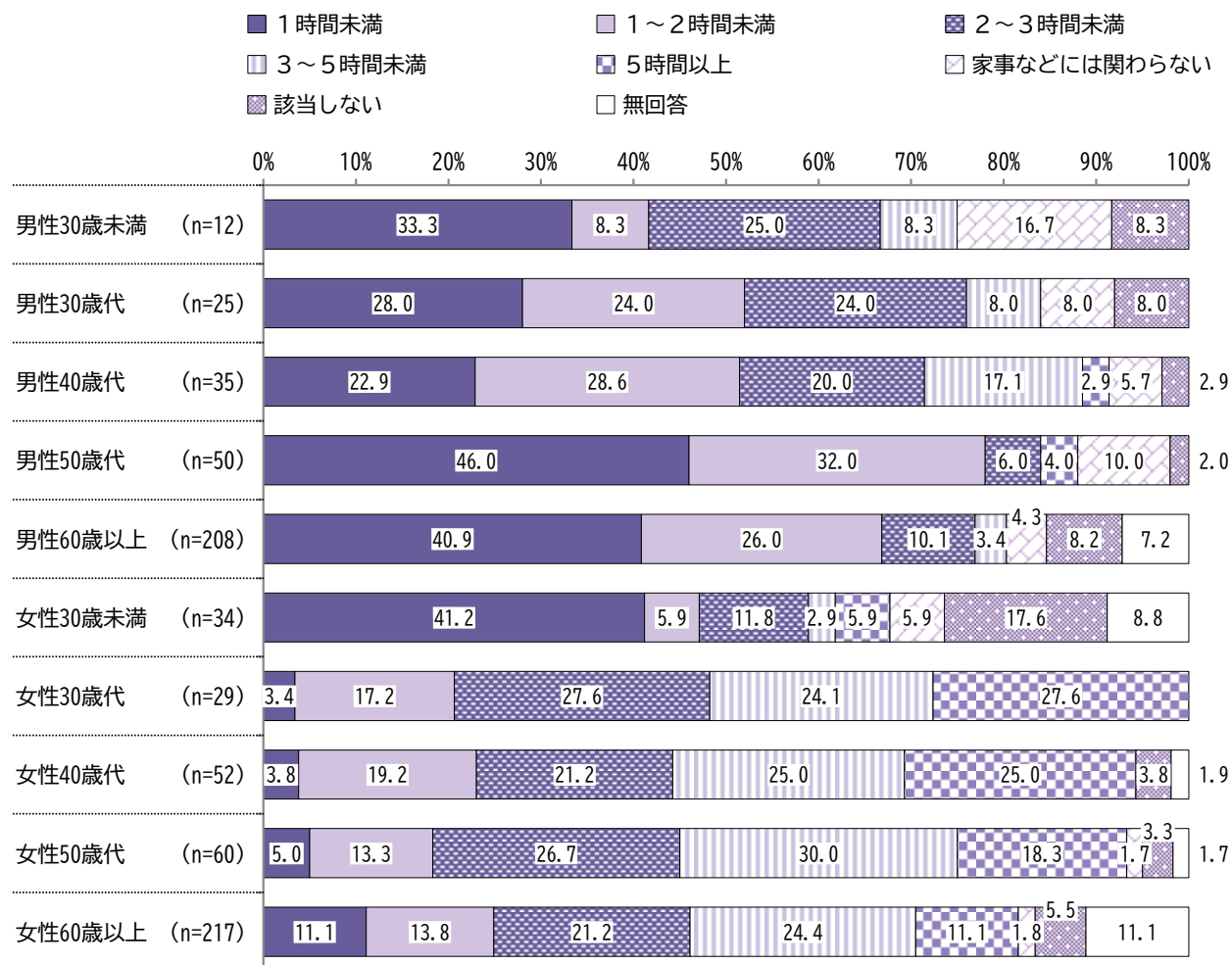
性別にみると、『3時間以上』との回答は男性（5.7%）が女性（38.3%）を32.6ポイント下回っている。

【休日(家事に費やす時間) 共働き有無×性別】



共働きに限定して、性別にみると、『3時間以上』との回答は男性（7.0%）が女性（53.3%）を46.3ポイント下回っている。

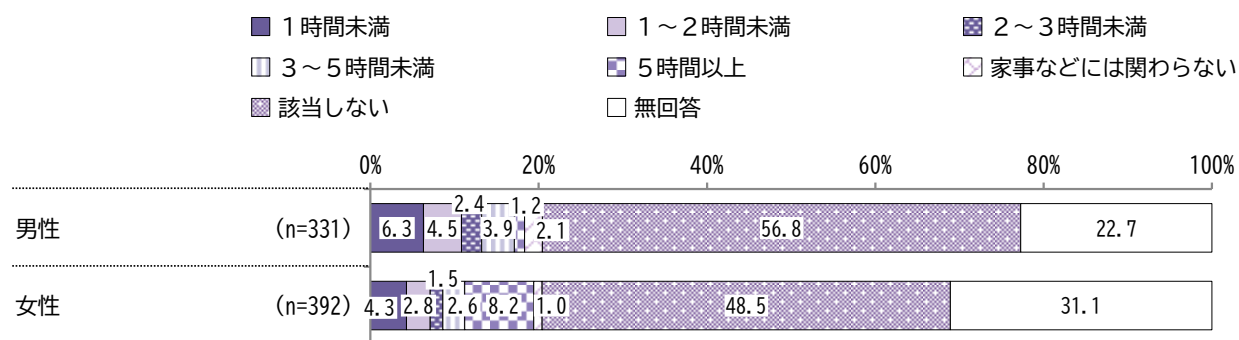
【休日(家事に費やす時間) 性年代別】



性年代別にみると、「1時間未満」との回答は男性50歳代で4割台半ばと高くなっており、「5時間以上」との回答は女性30歳代、40歳代で2割台半ばと高くなっている。

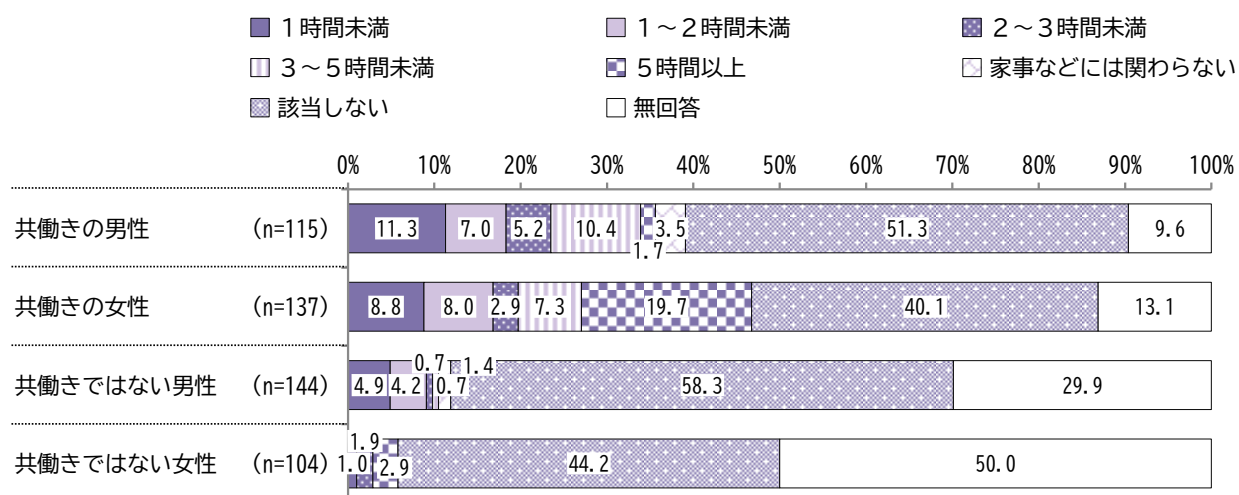
⑤ 休日(育児に費やす時間)

【休日(育児に費やす時間) 性別】



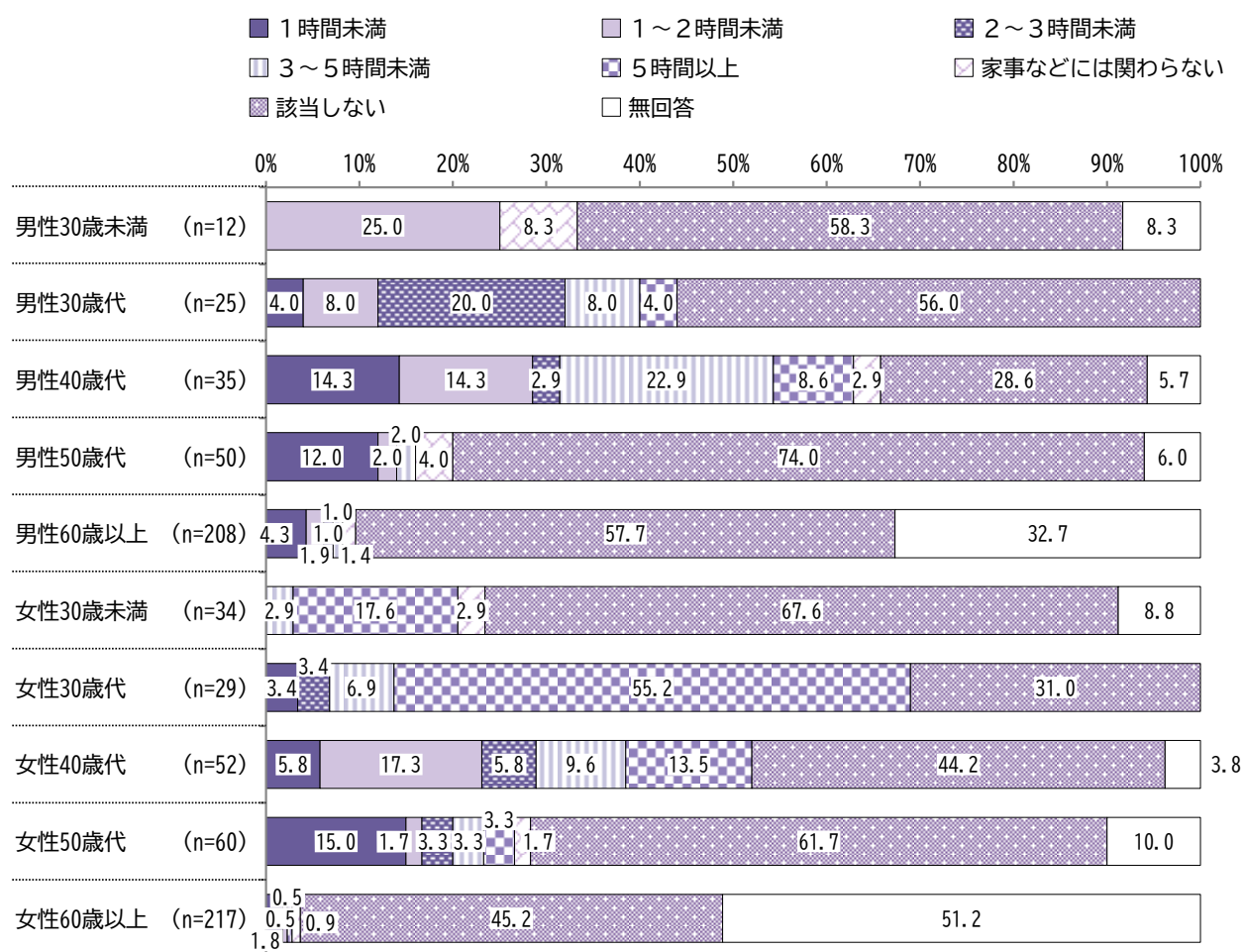
性別にみると、『3時間以上』との回答は男性(5.1%)が女性(10.8%)を5.7ポイント下回っている。

【休日(育児に費やす時間) 共働き有無×性別】



共働きに限定して、性別にみると、『3時間以上』との回答は男性(12.1%)が女性(27.0%)を14.9ポイント下回っている。

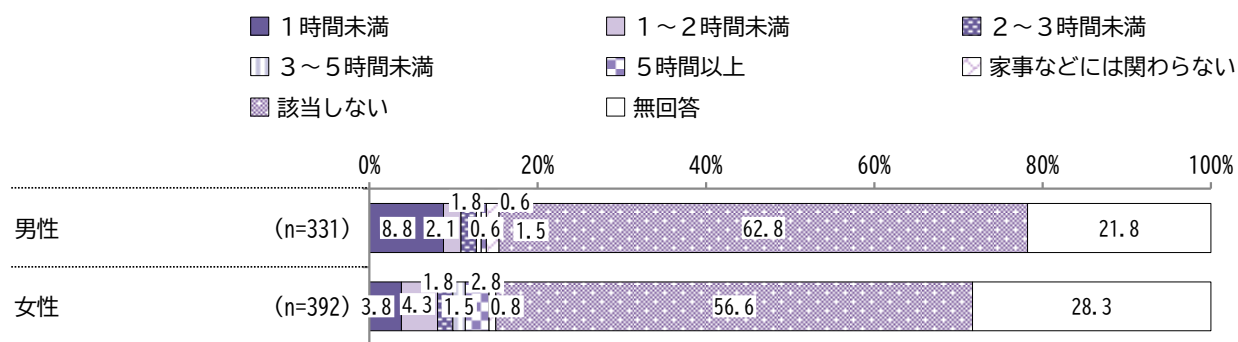
【休日(育児に費やす時間) 性年代別】



性年代別にみると、「3～5時間未満」との回答は男性40歳代で2割超と高くなっており、「5時間以上」との回答は女性30歳代で5割台半ばと高くなっている。

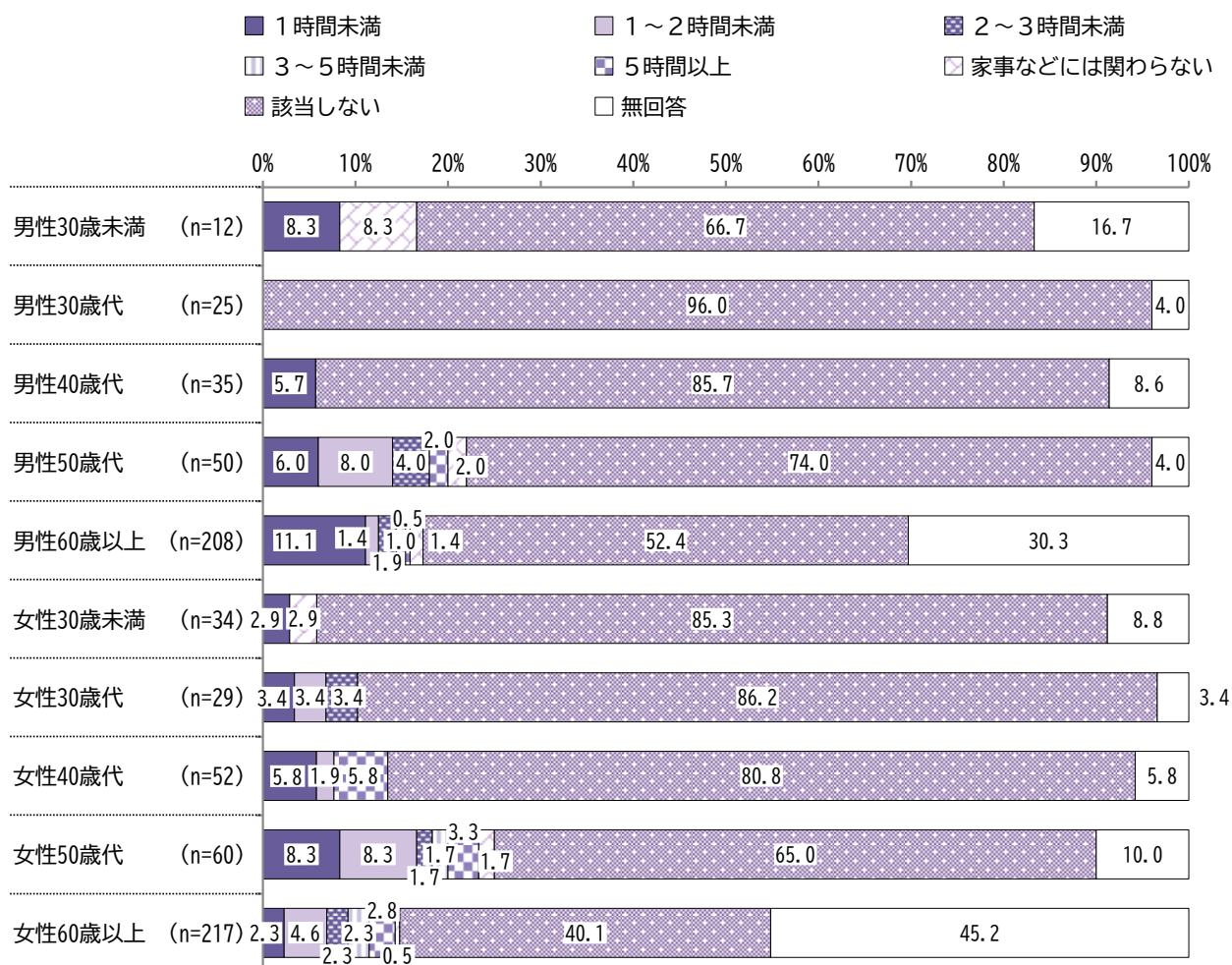
⑥ 休日(介護に費やす時間)

【休日(介護に費やす時間) 性別】



性別にみると、「1時間未満」との回答は男性(8.8%)が女性(3.8%)を5.0ポイント上回っている。

【休日(介護に費やす時間) 性年代別】



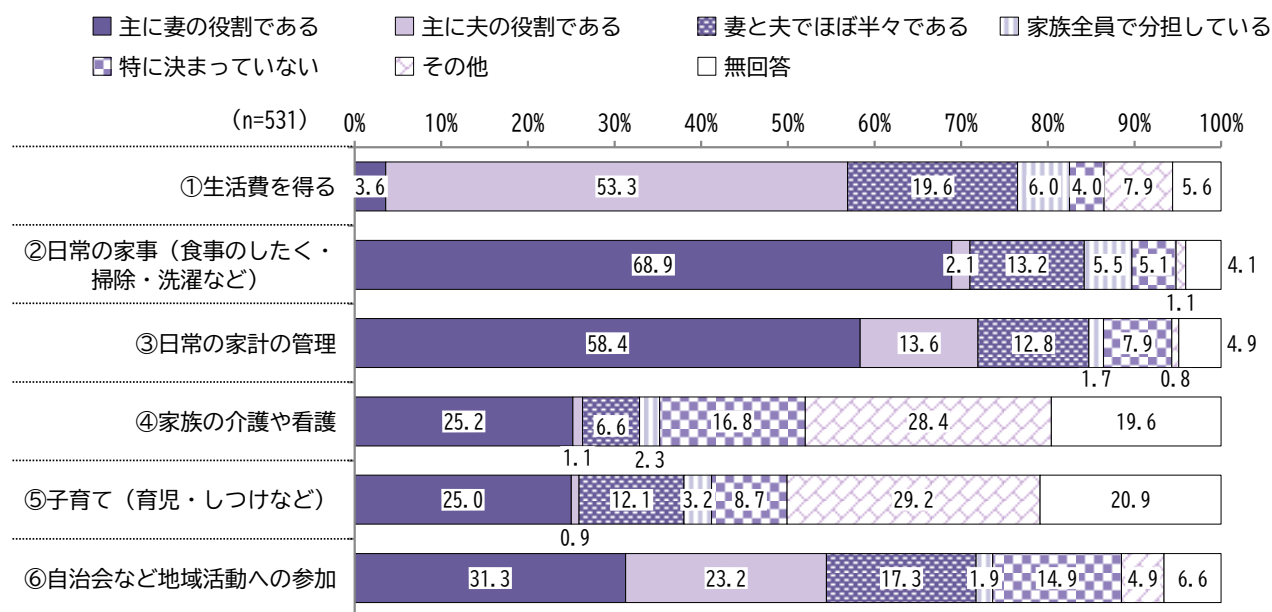
性年代別にみると、「1～2時間未満」との回答は男性50歳代、女性50歳代で約1割と高くなっている。

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問 17 あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を主にどなたがおこなっていますか。

(〇は1つずつ)

【全体】



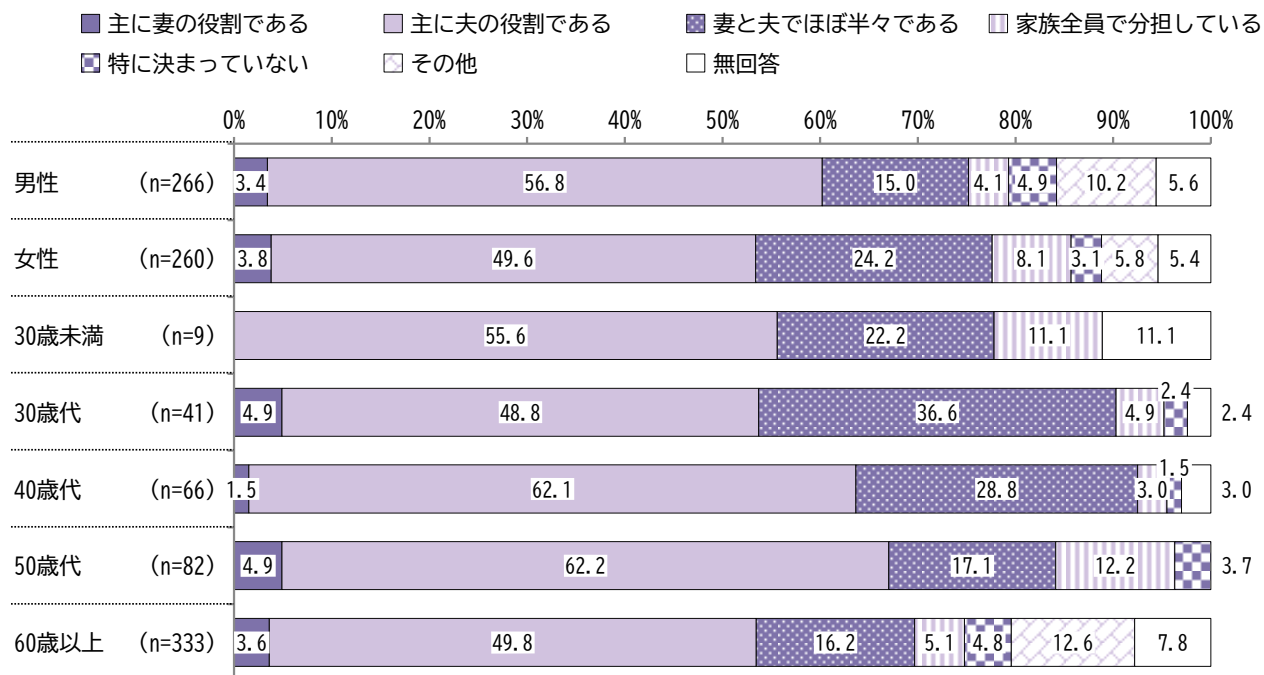
家庭での家事の役割分担について、『主に妻の役割である』は「②日常の家事（食事のしたく・掃除・洗濯など）」との回答が68.9%と最も高く、次いで「③日常の家計の管理」（58.4%）、「⑥自治会など地域活動への参加」（31.3%）などの順となっている。

一方で、『主に夫の役割である』は「①生活費を得る」との回答が53.3%と最も高く、次いで「⑥自治会など地域活動への参加」（23.2%）、「③日常の家計の管理」（13.6%）などの順となっている。

また、『妻と夫でほぼ半々である』は「①生活費を得る」との回答が19.6%と最も高くなっている。

① 生活費を得る

【生活費を得る 性別・年代別】

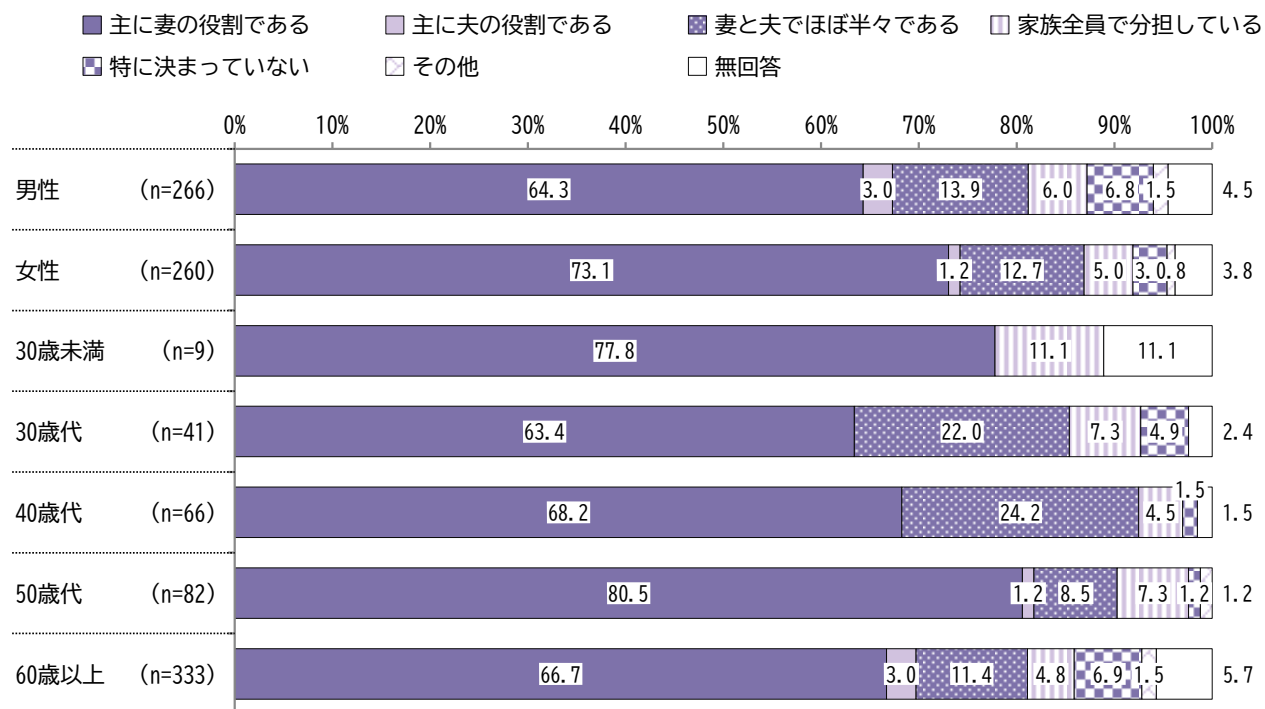


性別にみると、「主に夫の役割である」との回答は男性（56.8%）が女性（49.6%）を7.2ポイント上回っており、「妻と夫でほぼ半々である」との回答は男性（15.0%）が女性（24.2%）を9.2ポイント下回っている。

年代別にみると、「主に夫の役割である」との回答は40歳代～50歳代で6割超と高くなっている。また、「妻と夫でほぼ半々である」との回答は30歳未満を除き年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

② 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)

【日常の家事 性別・年代別】

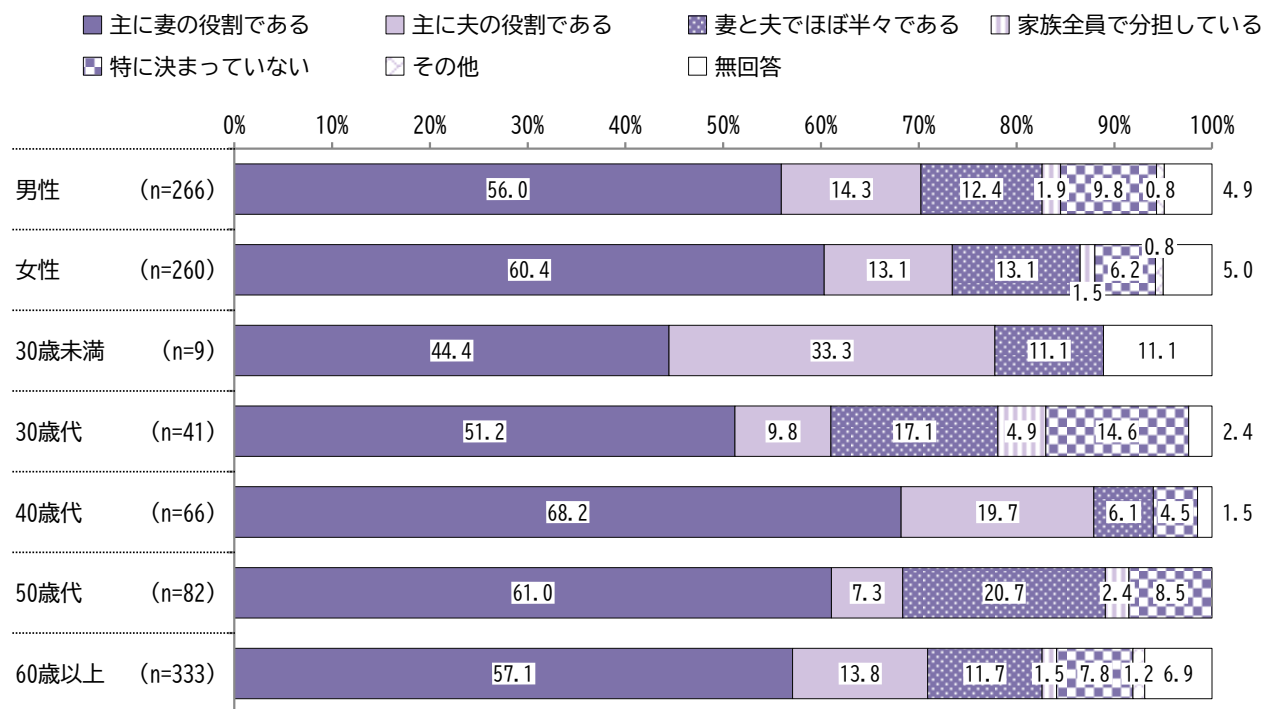


性別にみると、「主に妻の役割である」との回答は男性（64.3%）が女性（73.1%）を8.8ポイント下回っている。

年代別にみると、「主に妻の役割である」との回答は50歳代で約8割と高くなっている。

③ 日常の家計の管理

【日常の家計の管理 性別・年代別】

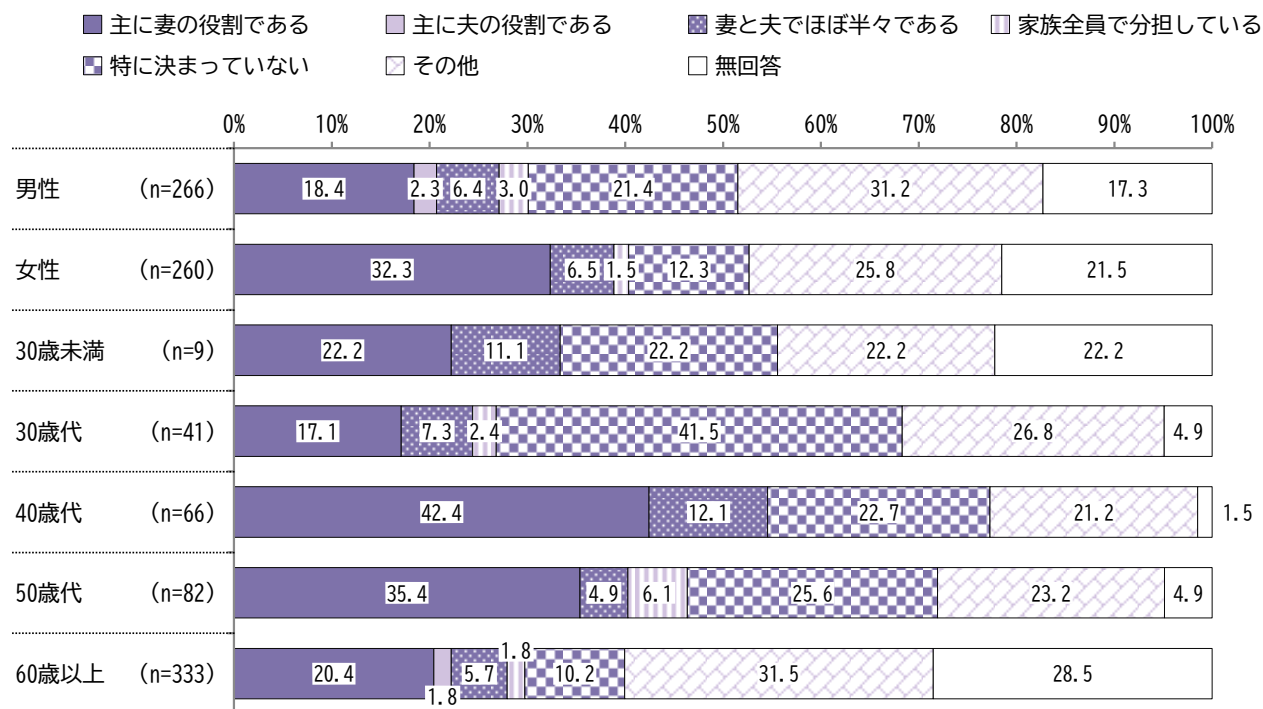


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、「主に妻の役割である」との回答はすべての年代で4割台半ばを超えて高くなっている。

④ 家族の介護や看護

【家族の介護や看護 性別・年代別】

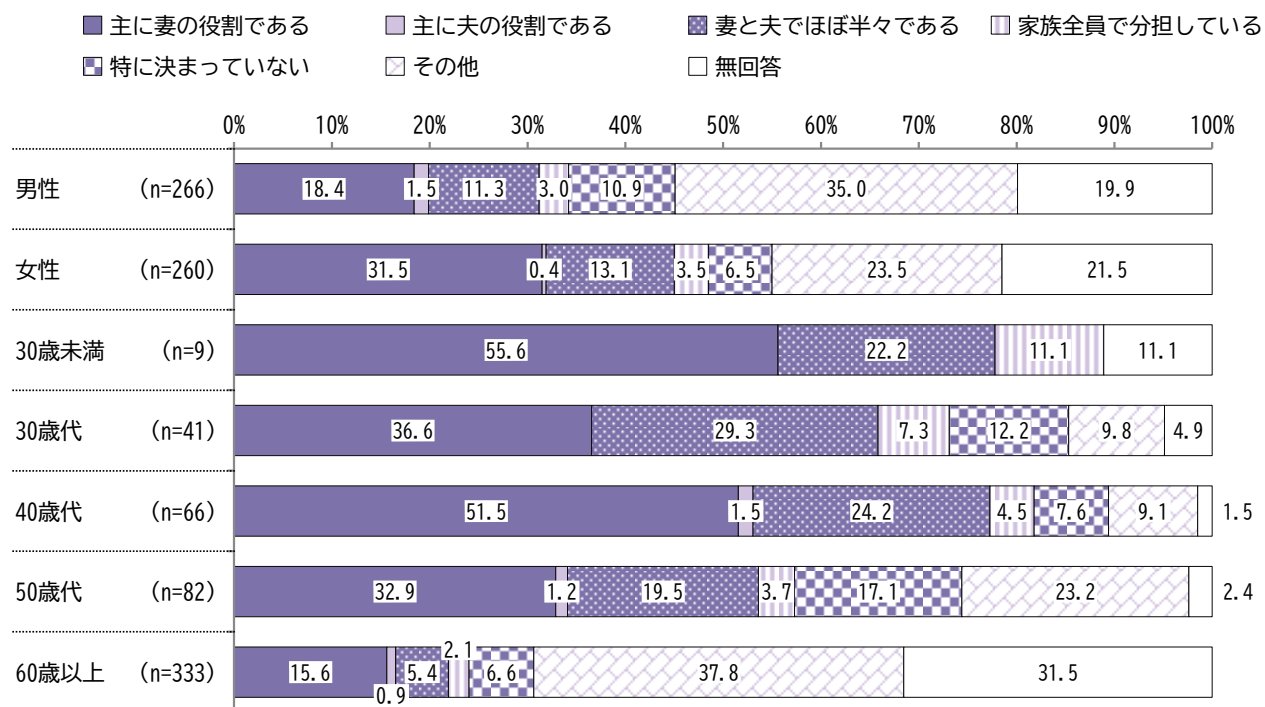


性別にみると、「特に決まっていない」との回答は男性（21.4%）が女性（12.3%）を9.1ポイント上回っており、「主に妻の役割である」との回答は男性（18.4%）が女性（32.3%）を13.9ポイント下回っている。

年代別にみると、「主に妻の役割である」との回答は40歳代で4割超と高くなっている。また、「特に決まっていない」との回答は30歳代で4割超と高くなっている。

⑤ 子育て(育児・しつけなど)

【子育て(育児・しつけなど) 性別・年代別】

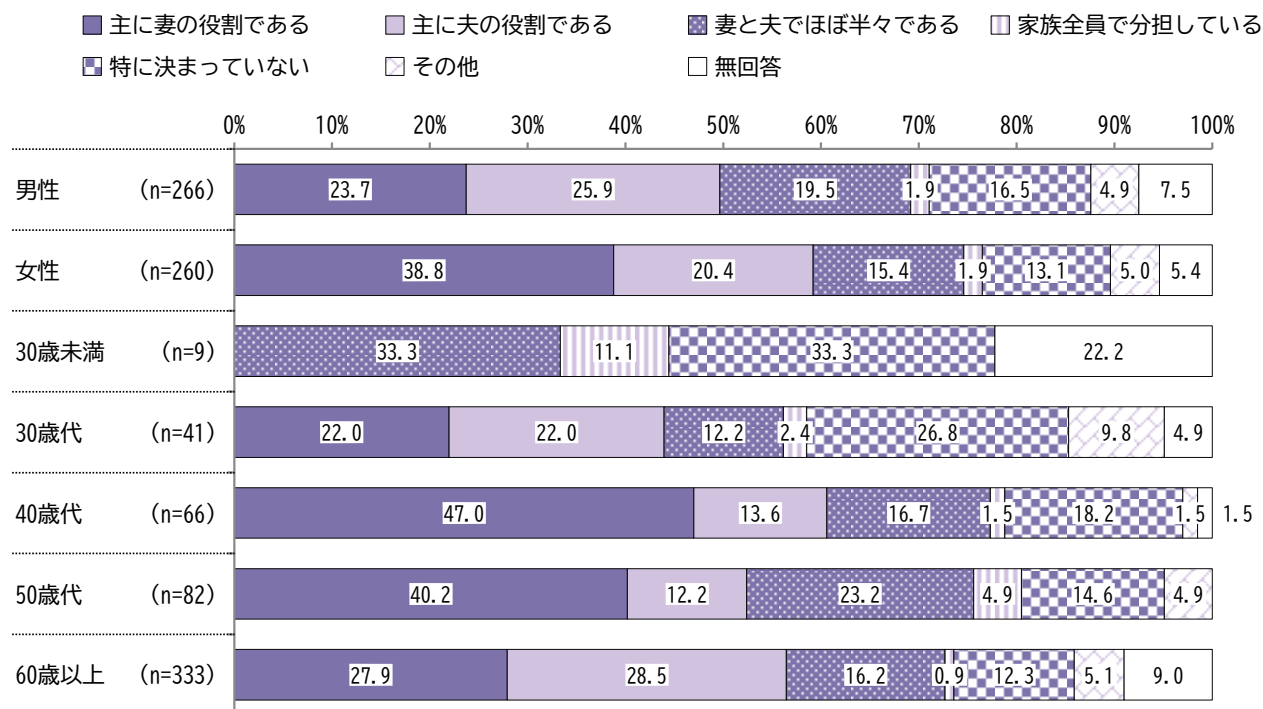


性別にみると、「主に妻の役割である」との回答は男性（18.4%）が女性（31.5%）を13.1ポイント下回っている。

年代別にみると、「主に妻の役割である」との回答は40歳代で5割超と高くなっている。

⑥ 自治会など地域活動への参加

【自治会など地域活動への参加 性別・年代別】



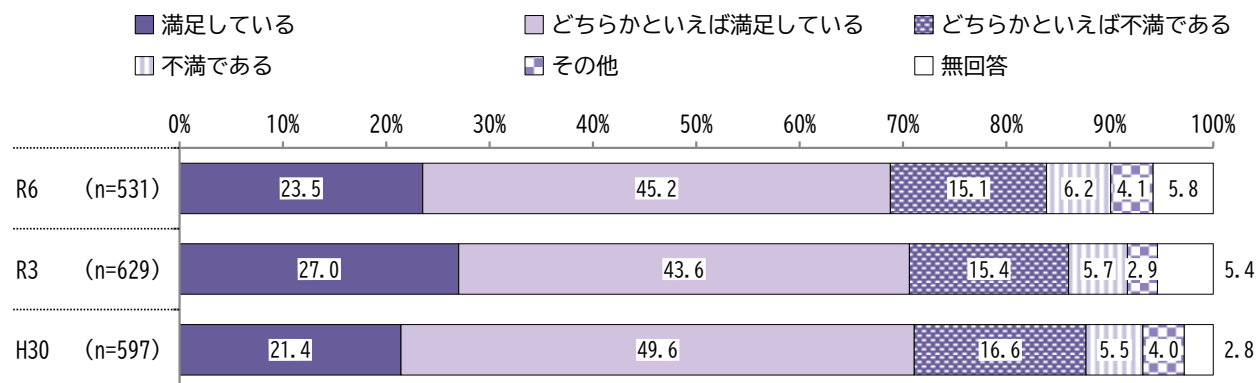
性別にみると、「主に夫の役割である」との回答は男性（25.9%）が女性（20.4%）を5.5ポイント上回っており、「主に妻の役割である」との回答は男性（23.7%）が女性（38.8%）を15.1ポイント下回っている。

年代別にみると、「主に妻の役割である」との回答は40歳代で約5割と高くなっている。

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問 18 あなたは、家庭での家事・育児・介護の分担の満足度をどのように感じていますか。(○は1つ)

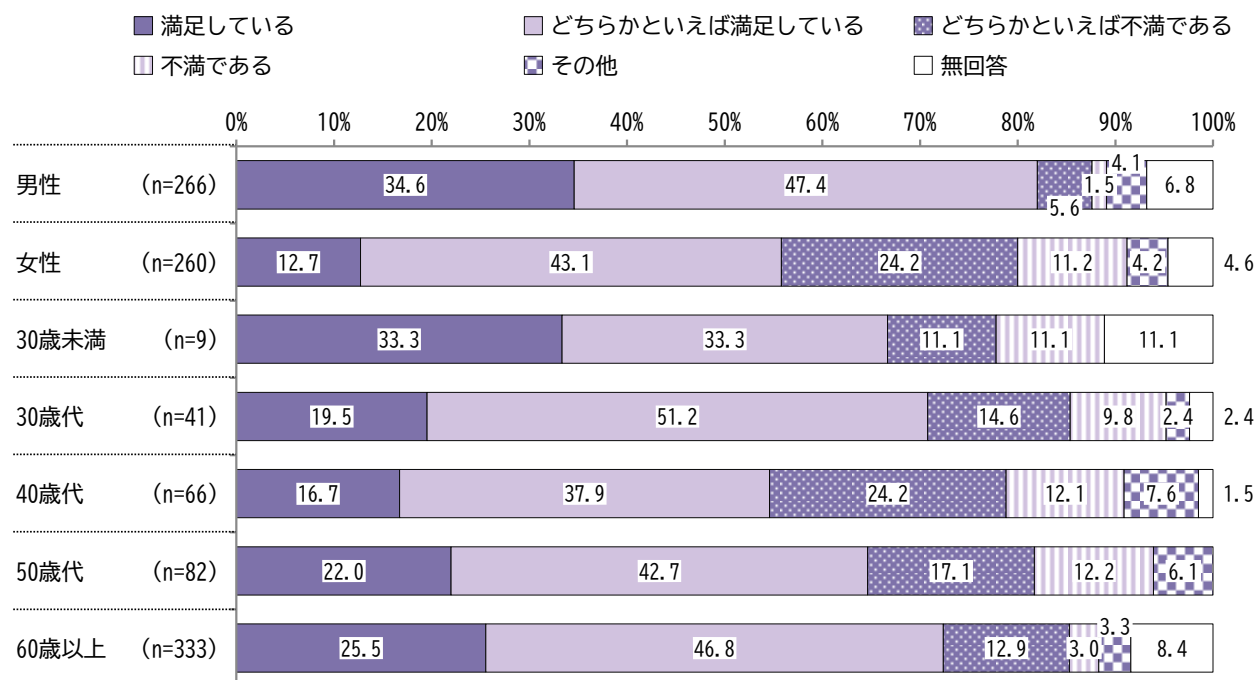
【全体】



家庭での家事・育児・介護の分担の満足度について、『満足している（「満足している」＋「どちらかといえば満足している」）』（68.7%）、『不満である（「不満である」＋「どちらかといえば不満である」）』（21.3%）となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

【家事・育児・介護の分担の満足度 性別・年代別】



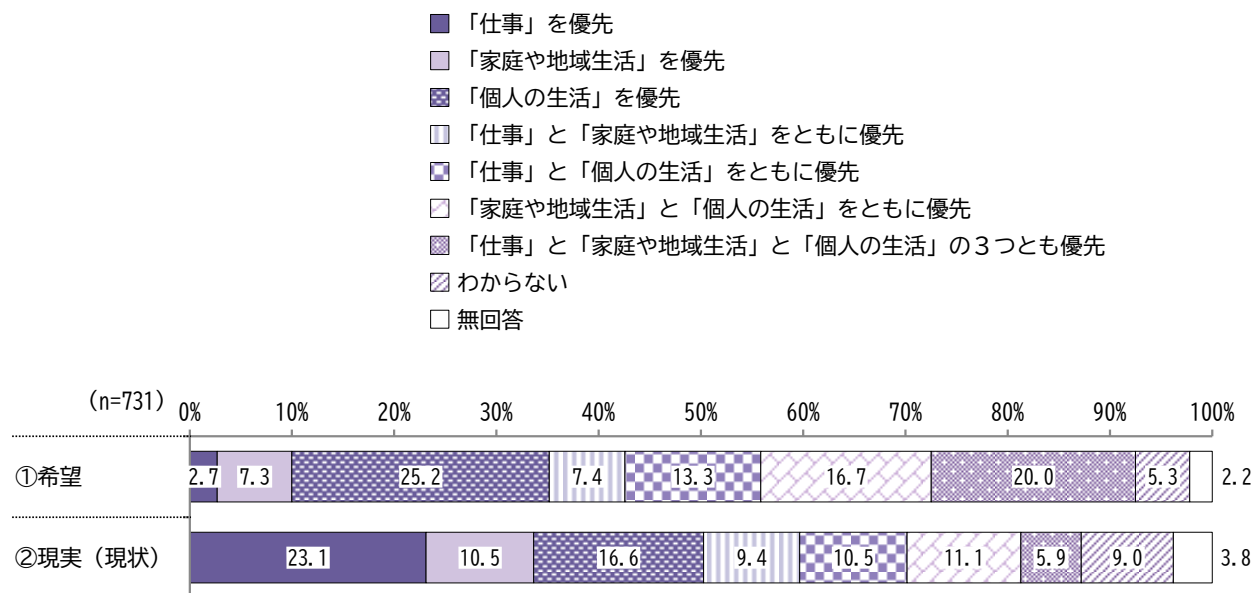
性別にみると、『満足している』との回答は男性（82.0％）が女性（55.8％）を26.2ポイント上回っており、『不満である』との回答は男性（7.1％）が女性（35.4％）を28.3ポイント下回っている。

年代別にみると、『満足している』との回答は30歳代、60歳以上で約7割と高くなっている。

すべての方におたずねします。

問 19 「仕事」、「家庭や地域生活」、「個人の生活」のバランスについて、あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【全体】



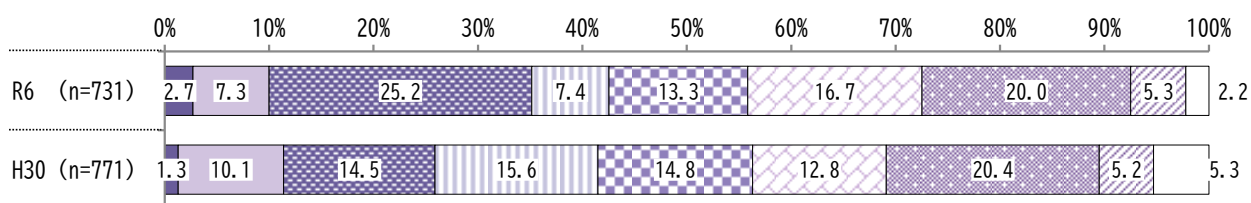
「仕事」、「家庭や地域生活」、「個人の生活」のバランスについて、希望では「「個人の生活」を優先」との回答が25.2%と最も高く、次いで「「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先」(20.0%)、「「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先」(16.7%)などの順となっている。

一方、現実(現状)では「「仕事」を優先」との回答が23.1%と最も高く、次いで「「個人の生活」を優先」(16.6%)、「「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先」(11.1%)などの順となっている。

① 希望

【希望 経年比較】

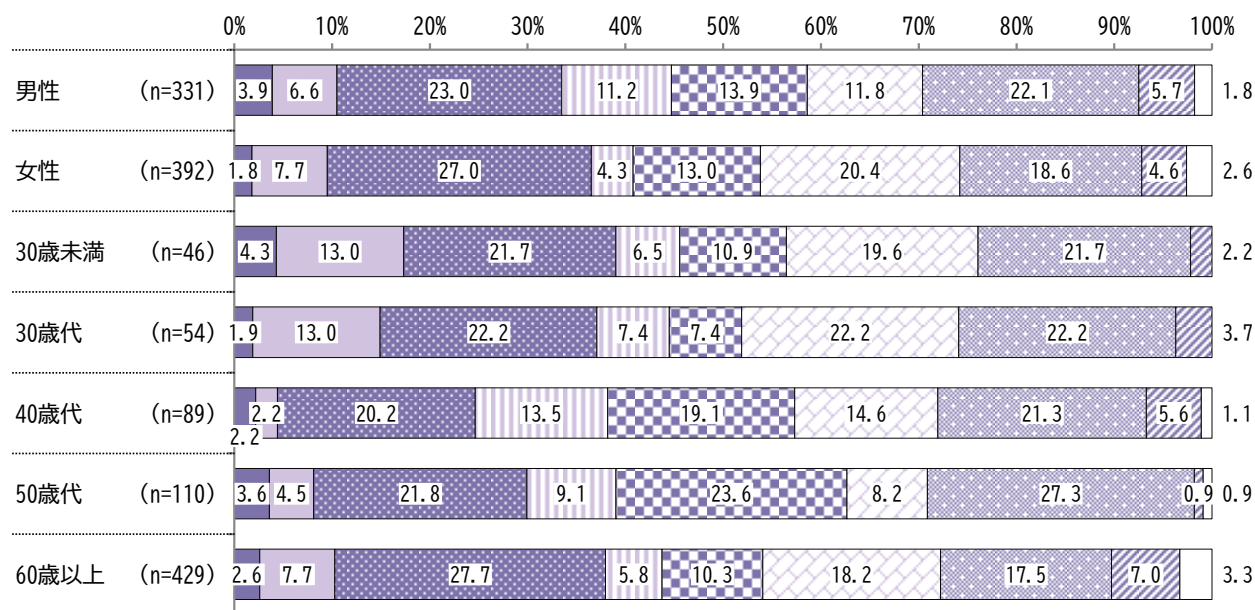
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭や地域生活」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい
- わからない
- 無回答



経年比較でみると、「個人の生活」を優先したいとの回答はR6（25.2%）がH30（14.5%）を10.7ポイント上回っており、「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先したいとの回答はR6（7.4%）がH30（15.6%）を8.2ポイント下回っている。

【希望 性別・年代別】

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭や地域生活」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい
- わからない
- 無回答



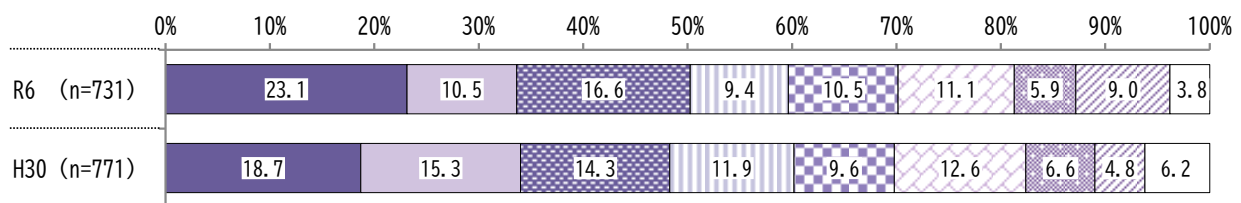
性別にみると、「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先したいとの回答は男性（11.2%）が女性（4.3%）を6.9ポイント上回っており、「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先したいとの回答は男性（11.8%）が女性（20.4%）を8.6ポイント下回っている。

年代別にみると、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいとの回答は50歳代で2割台半ばと高くなっている。

② 現実(現状)

【現実(現状) 経年比較】

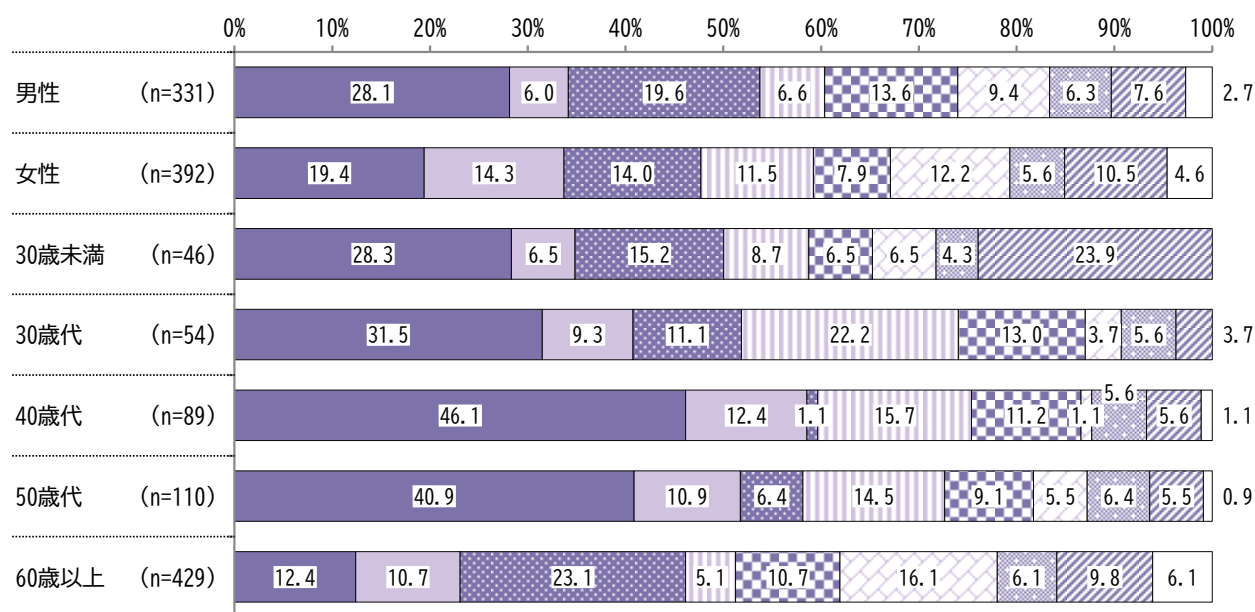
- 「仕事」を優先している
- 「家庭や地域生活」を優先している
- 「個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先している
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
- 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先している
- わからない
- 無回答



経年比較でみると、「仕事」を優先している」がやや増加し、「家庭や地域生活」を優先している」がやや減少している。

【現実(現状) 性別・年代別】

- 「仕事」を優先している
- 「家庭や地域生活」を優先している
- 「個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先している
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
- 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先している
- わからない
- 無回答

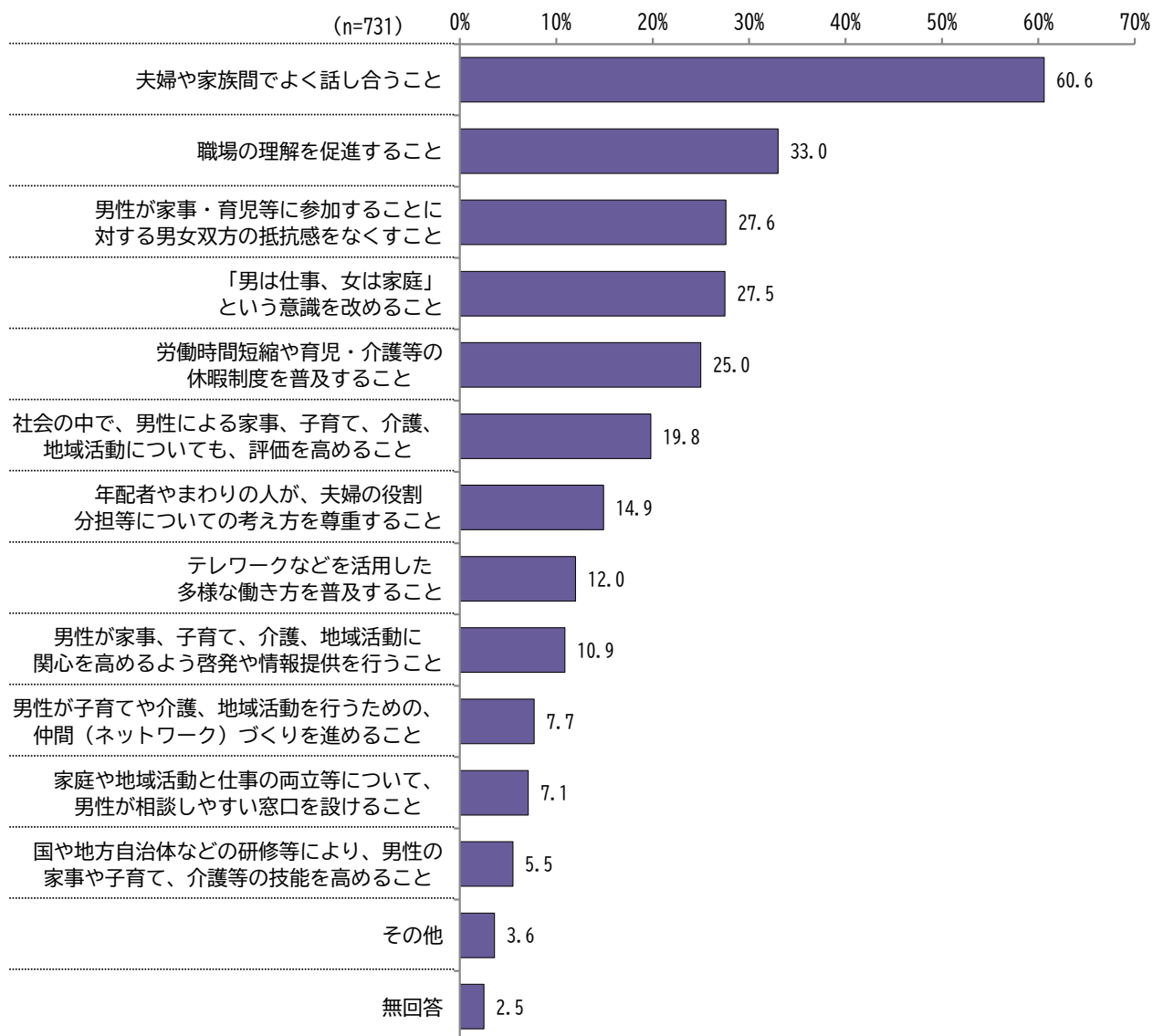


性別にみると、「「仕事」を優先している」との回答は男性（28.1%）が女性（19.4%）を8.7ポイント上回っており、「「家庭や地域生活」を優先している」との回答は男性（6.0%）が女性（14.3%）を8.3ポイント下回っている。

年代別にみると、「「仕事」を優先している」との回答は40歳代～50歳代で約4割と高くなっている。

問 20 今後、男性と女性が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



男性と女性が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でよく話し合うこと」との回答が60.6%と最も高く、次いで「職場の理解を促進すること」(33.0%)、「男性が家事・育児等に参加することに対する男女双方の抵抗感をなくすこと」(27.6%)などの順となっている。

【男女共に家事、子育てなどに参加するために必要なこと 性別・年代別(上位9位)】

(%)

	n 数	と夫婦や家族間でよく話し合うこと	職場の理解を促進すること	男性が家事・育児等に参加することに対する男女双方の抵抗感をなくすこと	「男は仕事、女は家庭」という意識を改めること	労働時間を短縮や育児・介護等の休暇制度を普及すること	子育て、介護、地域活動に高い関心を持つこと	役割分担やまわりの人が、夫婦を尊重すること	年配者やまわりの人が、夫婦を尊重すること	テレワークなどを活用した多様な働き方を普及すること	地域活動に関心を高めること
全体	731	60.6	33.0	27.6	27.5	25.0	19.8	14.9	12.0	10.9	
性別											
男性	331	64.0	28.7	22.7	27.2	23.3	16.6	13.9	13.9	9.4	
女性	392	57.9	36.2	31.6	27.3	26.8	22.7	16.1	10.5	12.2	
年代別											
30歳未満	46	69.6	43.5	30.4	23.9	39.1	23.9	10.9	8.7	4.3	
30歳代	54	55.6	48.1	20.4	20.4	37.0	14.8	16.7	25.9	5.6	
40歳代	89	46.1	53.9	24.7	28.1	31.5	19.1	13.5	16.9	9.0	
50歳代	110	56.4	45.5	27.3	24.5	24.5	20.0	20.0	11.8	4.5	
60歳以上	429	64.3	21.9	28.9	29.4	21.0	20.0	14.2	9.8	14.5	

1位 2位 3位

性別にみると、「夫婦や家族間でよく話し合うこと」との回答は男性（64.0%）が女性（57.9%）を6.1ポイント上回っており、「男性が家事・育児等に参加することに対する男女双方の抵抗感をなくすこと」との回答は男性（22.7%）が女性（31.6%）を8.9ポイント下回っている。

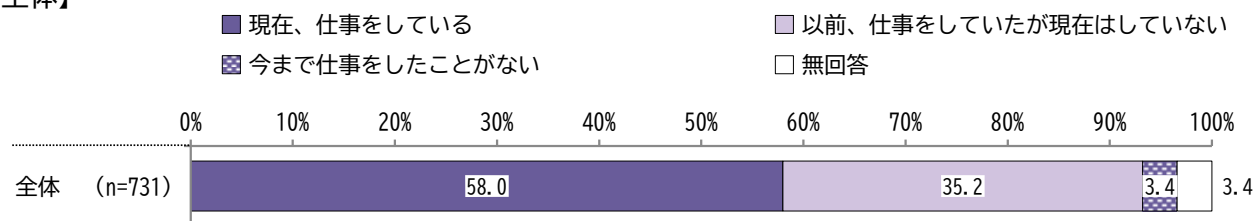
年代別にみると、「夫婦や家族間でよく話し合うこと」との回答は40歳代を除くすべての年代で5割台半ばと高くなっている。また、「男性が家事・育児等に参加することに対する男女双方の抵抗感をなくすこと」は30歳未満を除き年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

4 仕事・職場について

すべての方におたずねします。

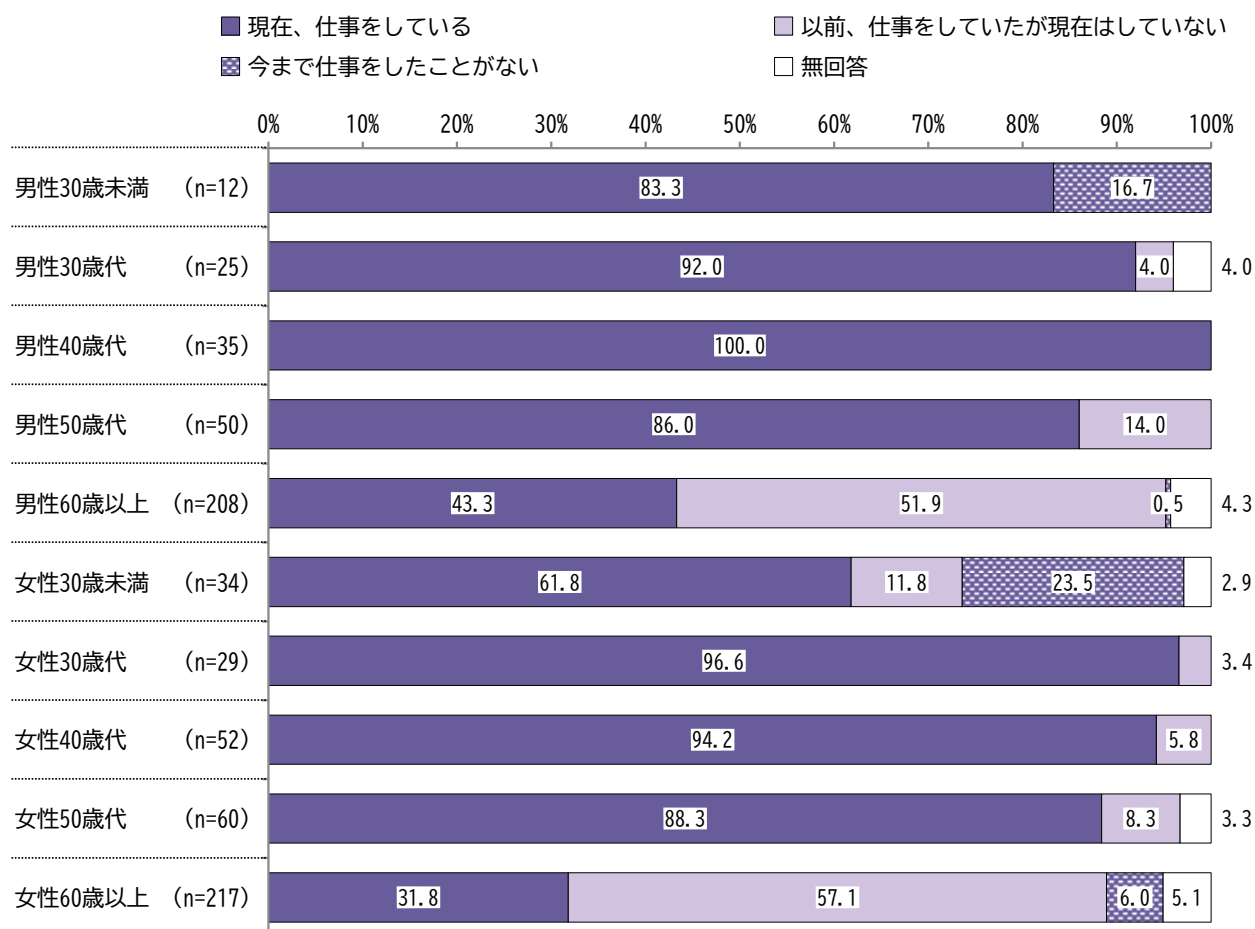
問 21 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか(学生のアルバイトは除く)。(○は1つ)
※病気や出産・育児、家族の介護などで一時休業している場合も、仕事をしていることに含みます。

【全体】



現在の就労状況について、「現在、仕事をしている」との回答が58.0%と最も高く、次いで「以前、仕事をしていましたが現在はしていない」(35.2%)、「今まで仕事をすることがない」(3.4%)などの順となっている。

【収入を得る仕事をしているか 性年代別】

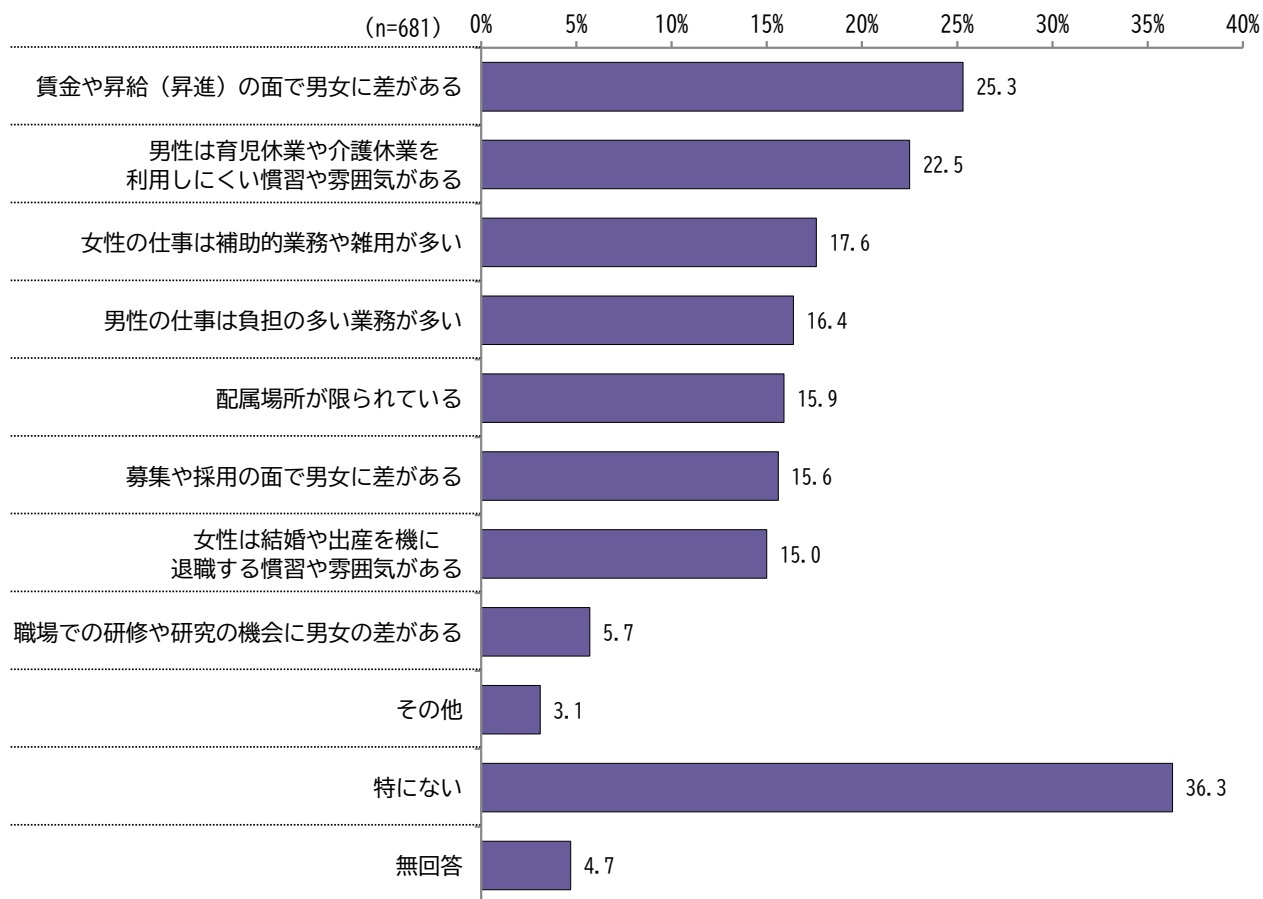


性年代別にみると、「今まで仕事をすることがない」との回答は女性30歳未満で2割台半ばと高くなっている。

問21で「1～2(仕事をしていたことがある)」と答えた方のみにおたずねします。

問 22 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のような男女間の格差がありますか(又は、ありましたか)。(○はい/いつでも)

【全体】



男女間の格差について、「賃金や昇給（昇進）の面で男女に差がある」との回答が25.3%と最も高く、次いで「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」(22.5%)、「女性の仕事は補助的業務や雑用が多い」(17.6%)などの順となっている。

【職場での男女間の格差 性別・年代別】

(%)

		n 数	賃金や昇給（昇進）の 面で男女に差がある	男性は育児休業や介護 習や雰囲気がある	女性の仕事は補助的業 務や雑用が多い	男性の仕事は負担の多 い業務が多い	配属場所が限られてい る	募集や採用の面で男女 に差がある	女性には結婚や出産を機 に退職する慣習や雰囲気 がある	職場での研修や研究の 機会に男女の差がある	その他	特 に ない	無 回 答	(%)
全体		681	25.3	22.5	17.6	16.4	15.9	15.6	15.0	5.7	3.1	36.3		4.7
性別	男性	317	23.3	25.6	16.1	29.0	21.1	18.6	12.6	6.9	4.1	34.1		4.1
	女性	357	27.2	19.9	19.0	5.6	10.9	12.9	16.8	4.8	2.0	37.8		5.3
年代別	30歳未満	35	11.4	14.3	14.3	8.6	11.4	11.4	14.3	8.6	-	48.6	-	
	30歳代	53	13.2	20.8	17.0	22.6	18.9	15.1	13.2	1.9	3.8	43.4		3.8
	40歳代	89	20.2	23.6	12.4	20.2	15.7	11.2	5.6	4.5	4.5	39.3		3.4
	50歳代	108	25.9	27.8	13.0	19.4	13.9	16.7	16.7	5.6	3.7	32.4		1.9
	60歳以上	394	28.9	21.8	20.3	14.7	16.2	16.8	16.8	6.3	2.8	34.5		6.3

1位 2位 3位

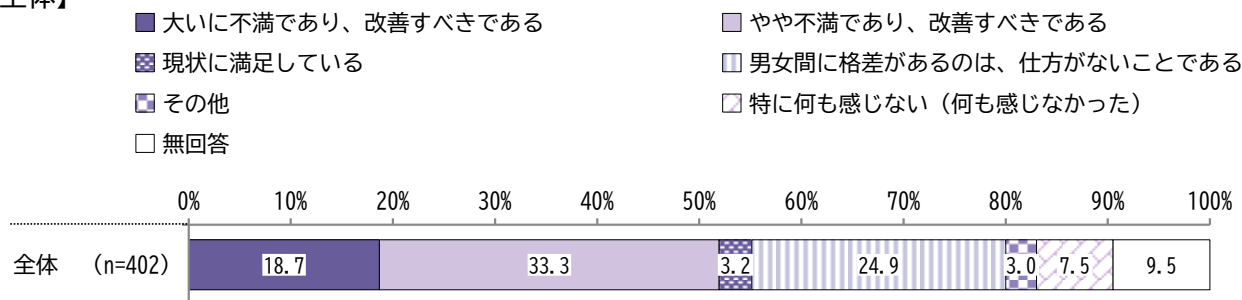
性別にみると、「男性の仕事は負担の多い業務が多い」との回答は男性（29.0%）が女性（5.6%）を23.4ポイント上回っている。

年代別にみると、「賃金や昇給（昇進）の面で男女に差がある」との回答は60歳以上で約3割と高くなっている。また、「特になし」はすべての年代で高くなっている。

問22で「1～9(職場で男女間の格差がある)」と答えた方のみにおたずねします。

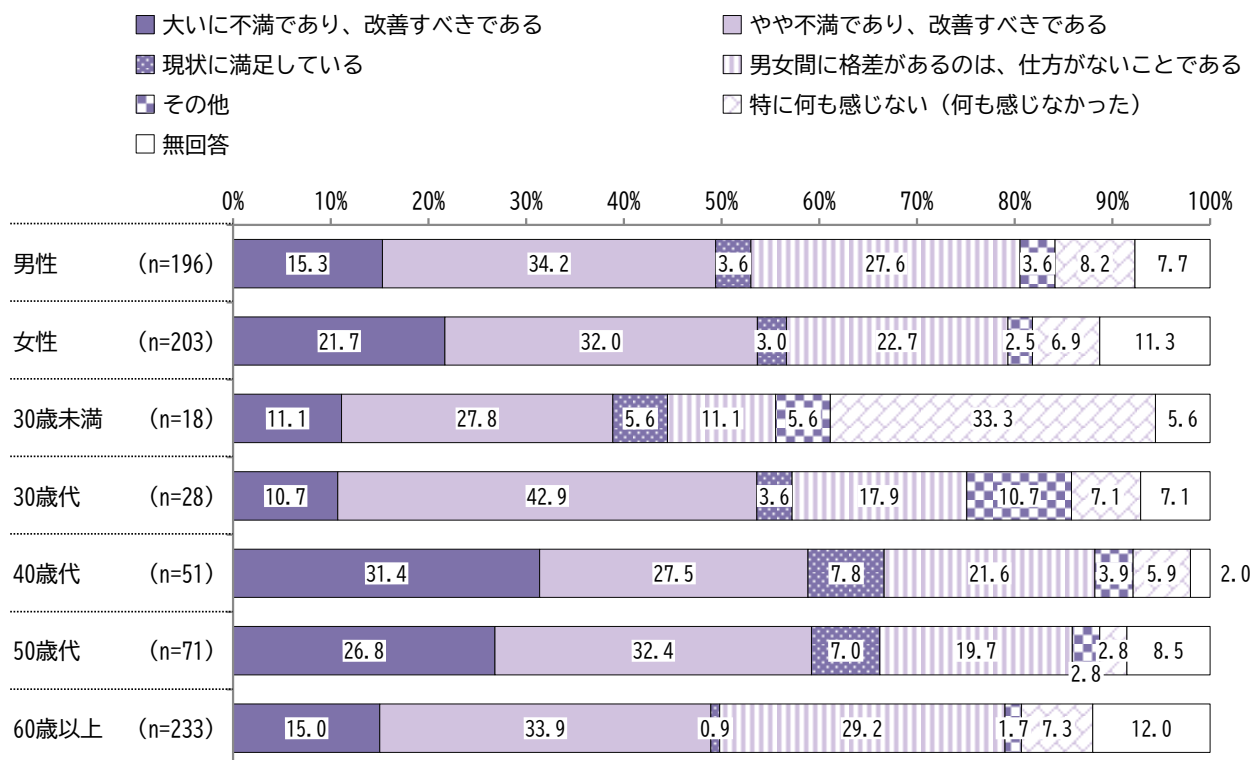
問 23 あなたは、そのような男女間の格差があることに対して、どのように思いますか。(〇は1つ)

【全体】



男女間の格差への考えについて、『改善すべき(「大いに不満であり、改善すべきである」+「やや不満であり、改善すべきである」)』との回答が52.0%と最も高く、次いで「男女間に格差があるのは、仕方がないことである」(24.9%)、「特に何も感じない(何も感じなかった)」(7.5%)などの順となっている。

【男女間の格差についてどう思うか 性別・年代別】



性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『改善すべき』との回答は30歳代～50歳代で5割台半ばと高くなっている。

問21で「1～2(仕事をしていたことがある)」と答えた方のみにおたずねします。

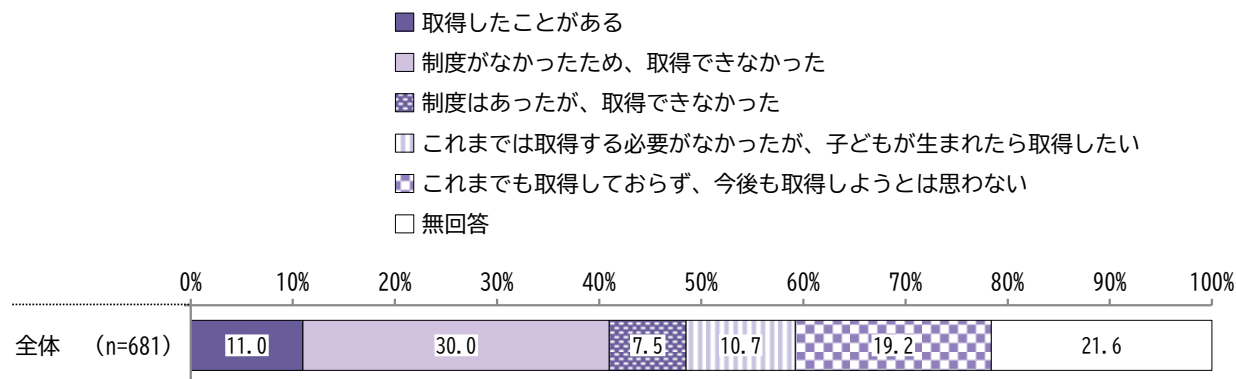
問 24 あなたは、育児休業※1 や介護休業※2 を取得したことがありますか。(○は1つずつ)

※1 原則として1歳に満たない子を養育するための休業制度

※2 2週間以上の期間、常時介護を必要とする状態にある家族を介護するための休業制度
(通算 93 日まで)

①育児休業

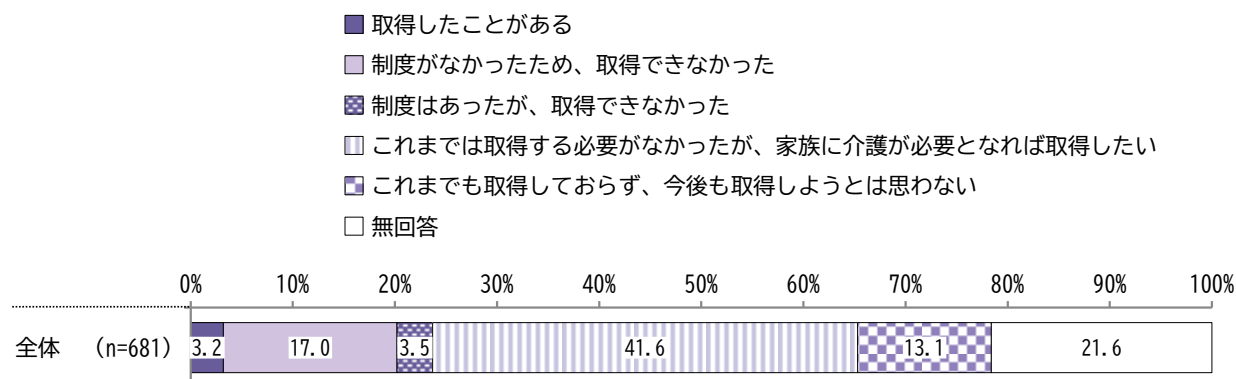
【全体】



育児休業の取得状況について、「制度がなかったため、取得できなかった」との回答が30.0%と最も高く、次いで「これまでも取得しておらず、今後も取得しようとは思わない」(19.2%)、「取得したことがある」(11.0%)などの順となっている。

②介護休業

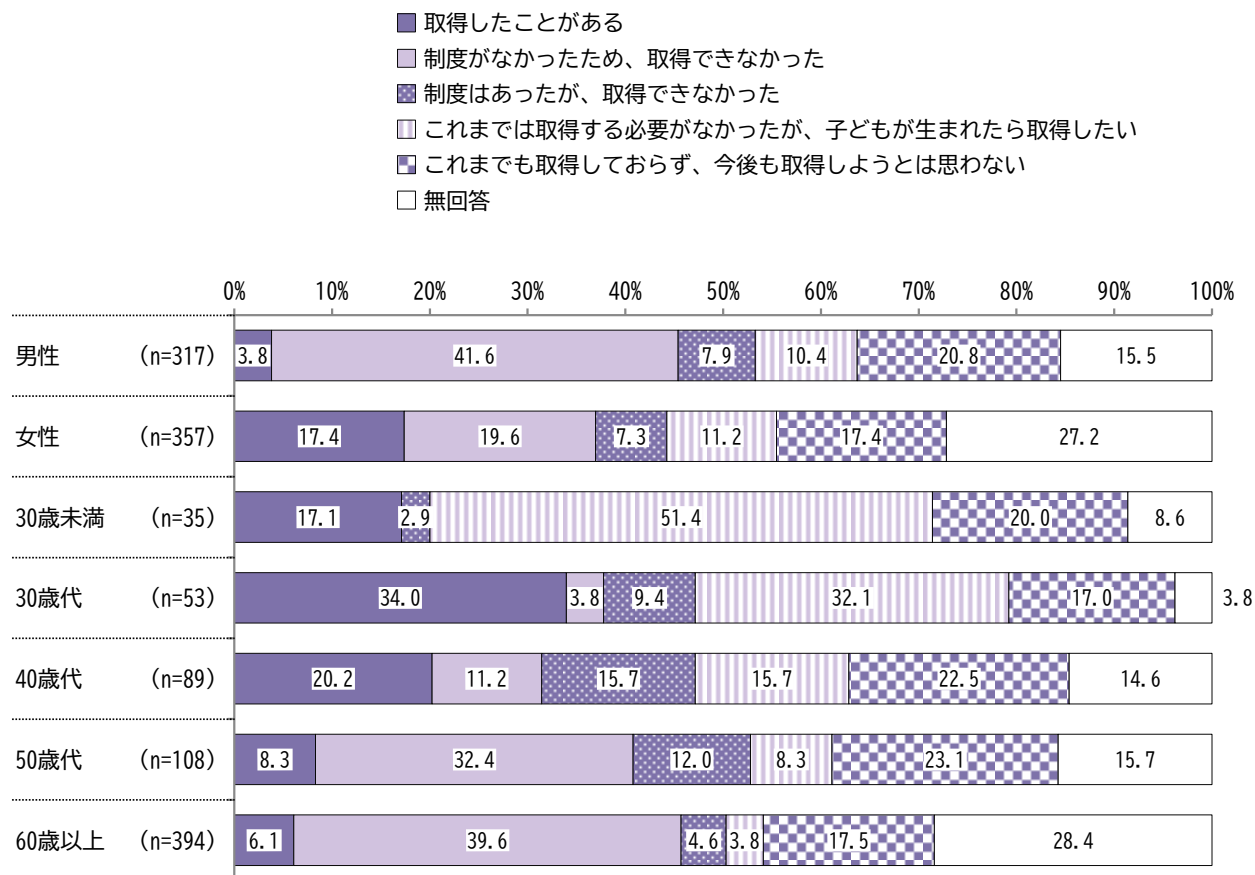
【全体】



介護休業の取得状況について、「これまでは取得する必要がなかったが、家族に介護が必要となれば取得したい」との回答が41.6%と最も高く、次いで「制度がなかったため、取得できなかった」(17.0%)、「これまでも取得しておらず、今後も取得しようとは思わない」(13.1%)などの順となっている。

① 育児休業

【育児休業 性別・年代別】

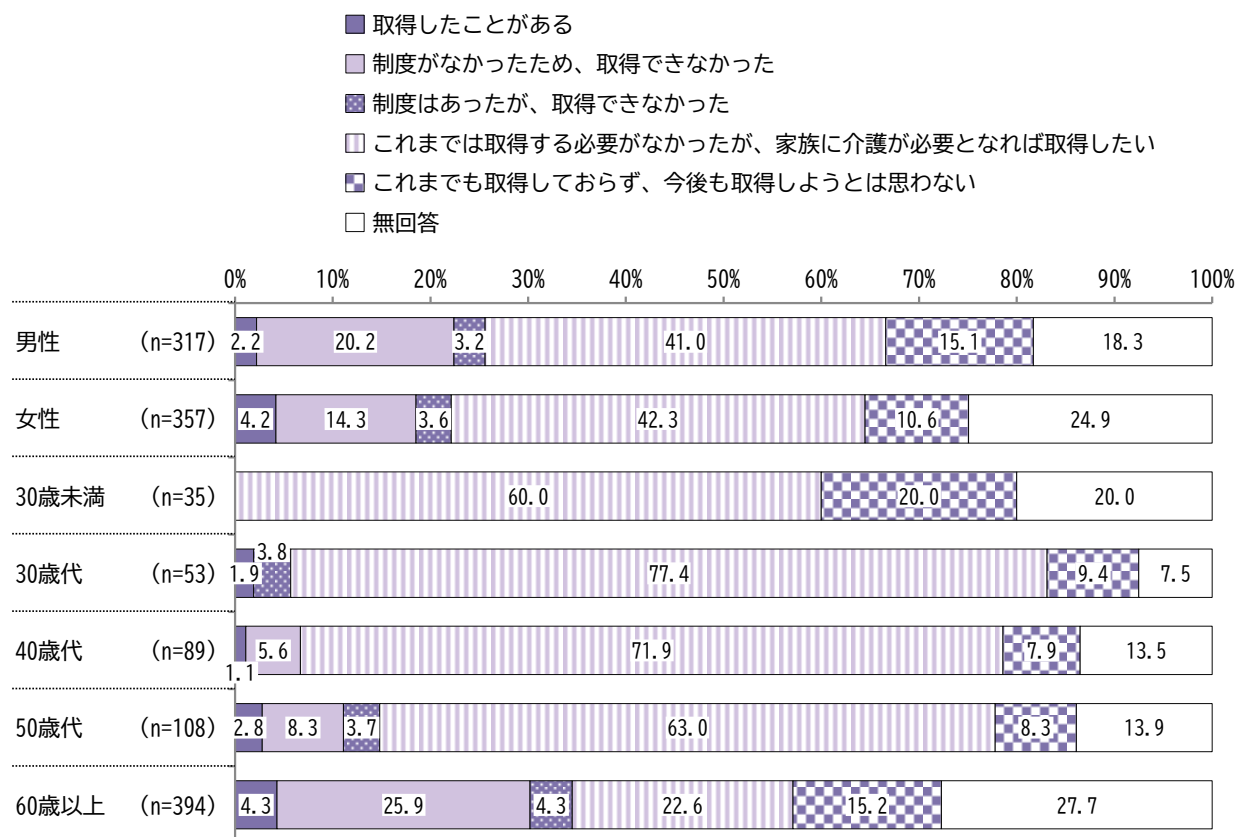


性別にみると、「制度がなかったため、取得できなかった」との回答は男性（41.6％）が女性（19.6％）を22.0ポイント上回っており、「取得したことがある」との回答は男性（3.8％）が女性（17.4％）を13.6ポイント下回っている。

年代別にみると、「これまでは取得する必要がなかったが、子どもが生まれたら取得したい」との回答は30歳未満で5割超と高くなっている。また、「制度がなかったため、取得できなかった」との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

② 介護休業

【介護休業 性別・年代別】



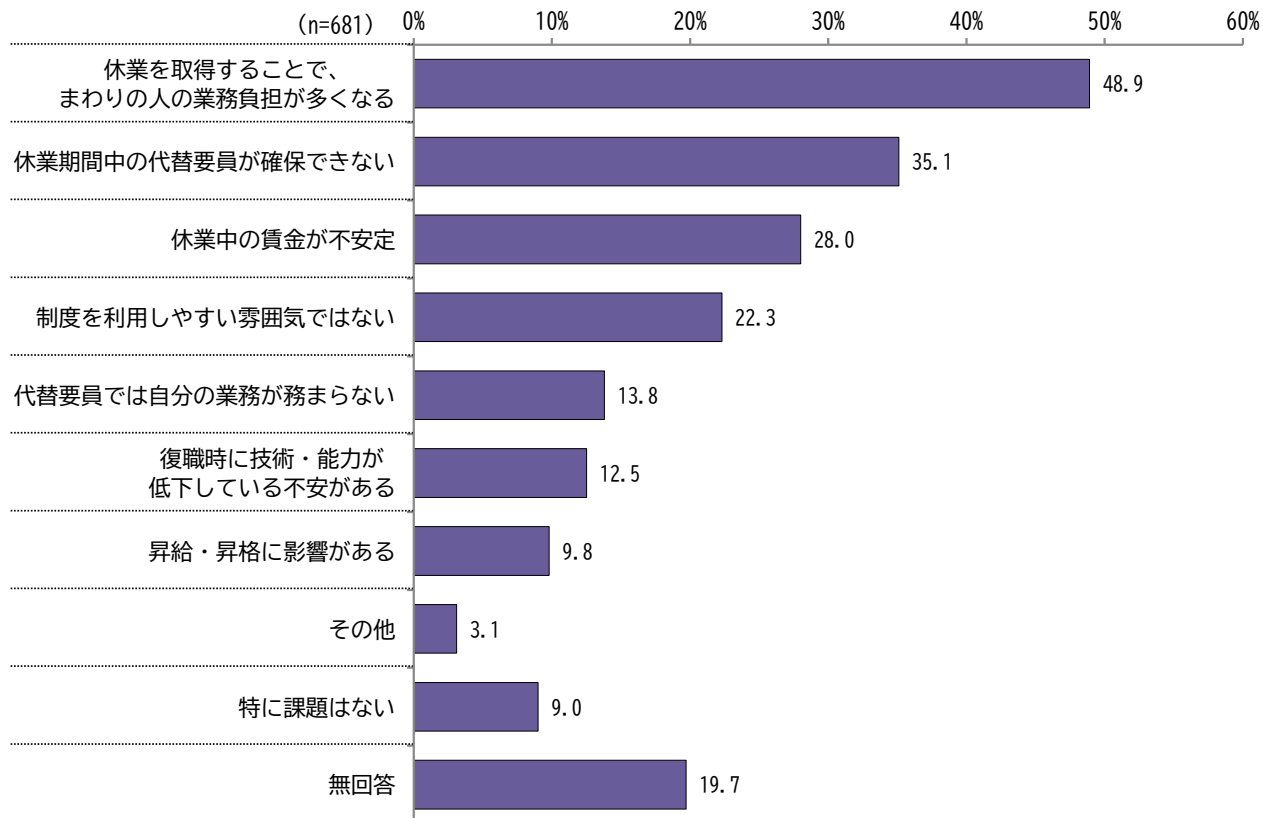
性別にみると、「制度がなかったため、取得できなかった」との回答は男性（20.2％）が女性（14.3％）を5.9ポイント上回っている。

年代別にみると、「これまでは取得する必要がなかったが、家族に介護が必要となれば取得したい」との回答は60歳以上を除くすべての年代で6割と高くなっている。また、「制度がなかったため、取得できなかった」との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

問21で「1～2(仕事をしていたことがある)」と答えた方のみにおたずねします。

問25 育児休業や介護休業を取得するうえで課題となることは何ですか。(〇はいくつでも)

【全体】



育児休業や介護休業を取得するうえで課題となることについて、「休業を取得することで、まわりの人の業務負担が多くなる」との回答が48.9%と最も高く、次いで「休業期間中の代替要員が確保できない」(35.1%)、「休業中の賃金が不安定」(28.0%)などの順となっている。

【育児休業や介護休業を取得する上での課題 性別・年代別】

(%)

	n 数	休業取得すること で、まわりの人の業務 負担が多くなる	休業期間中の代替要員 が確保できない	休業中の賃金が不安定	制度を利用しやすい雰 囲気ではない	代替要員では自分の業 務が務まらない	復職時に技術・能力があ る低下している不安があ る	昇給・昇格に影響があ る	その他	特に課題はない	無回 答
全体	681	48.9	35.1	28.0	22.3	13.8	12.5	9.8	3.1	9.0	19.7
性別											
男性	317	50.8	43.2	23.3	24.9	22.1	7.9	12.0	4.1	7.6	19.9
女性	357	47.1	27.7	32.2	19.3	6.4	16.8	7.8	2.0	10.4	19.6
年代別											
30歳未満	35	48.6	28.6	37.1	17.1	5.7	17.1	11.4	-	11.4	17.1
30歳代	53	50.9	45.3	50.9	32.1	11.3	34.0	17.0	9.4	11.3	5.7
40歳代	89	65.2	48.3	37.1	24.7	14.6	13.5	11.2	2.2	5.6	12.4
50歳代	108	58.3	45.4	38.9	28.7	16.7	21.3	12.0	4.6	3.7	13.9
60歳以上	394	42.4	28.4	19.0	18.8	14.0	6.6	7.9	2.3	10.7	25.1

1位 2位 3位

性別にみると、「休業期間中の代替要員が確保できない」との回答は男性（43.2%）が女性（27.7%）を15.5ポイント上回っており、「休業中の賃金が不安定」との回答は男性（23.3%）が女性（32.2%）を、
「復職時に技術・能力が低下している不安がある」との回答は男性（7.9%）が女性（16.8%）をともに
8.9ポイント下回っている。

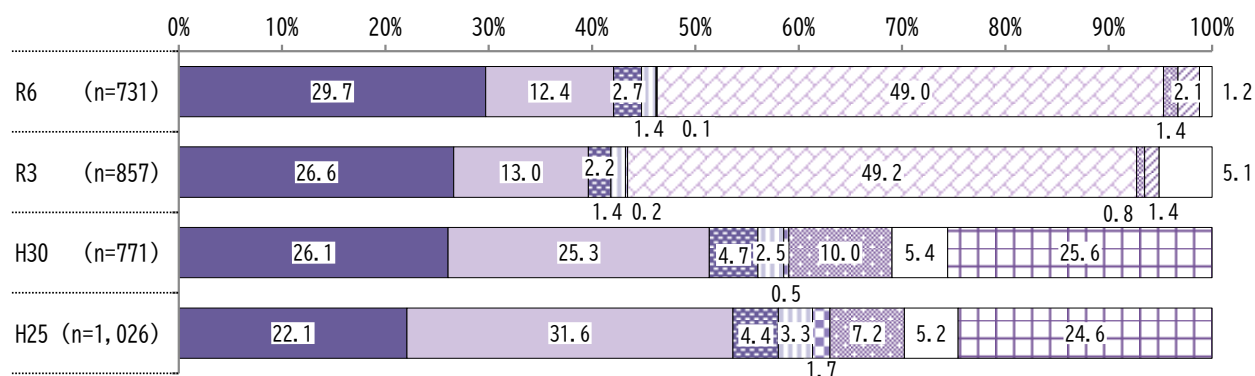
年代別にみると、「休業を取得することで、まわりの人の業務負担が多くなる」との回答は40歳代で6割台半ば、「休業中の賃金が不安定」との回答は30歳代で約5割と高くなっている。

すべての方におたずねします。

問 26 あなたは、女性が仕事をする事について、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

【全体】

- 結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
- 子どもができたら仕事をやめ、成長したら再び仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは仕事をする方がよい
- 結婚するまでは仕事をする方がよい
- 女性は仕事をしない方がよい
- 個人の考え方次第で判断すればよい
- その他
- わからない
- 無回答
- 家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい



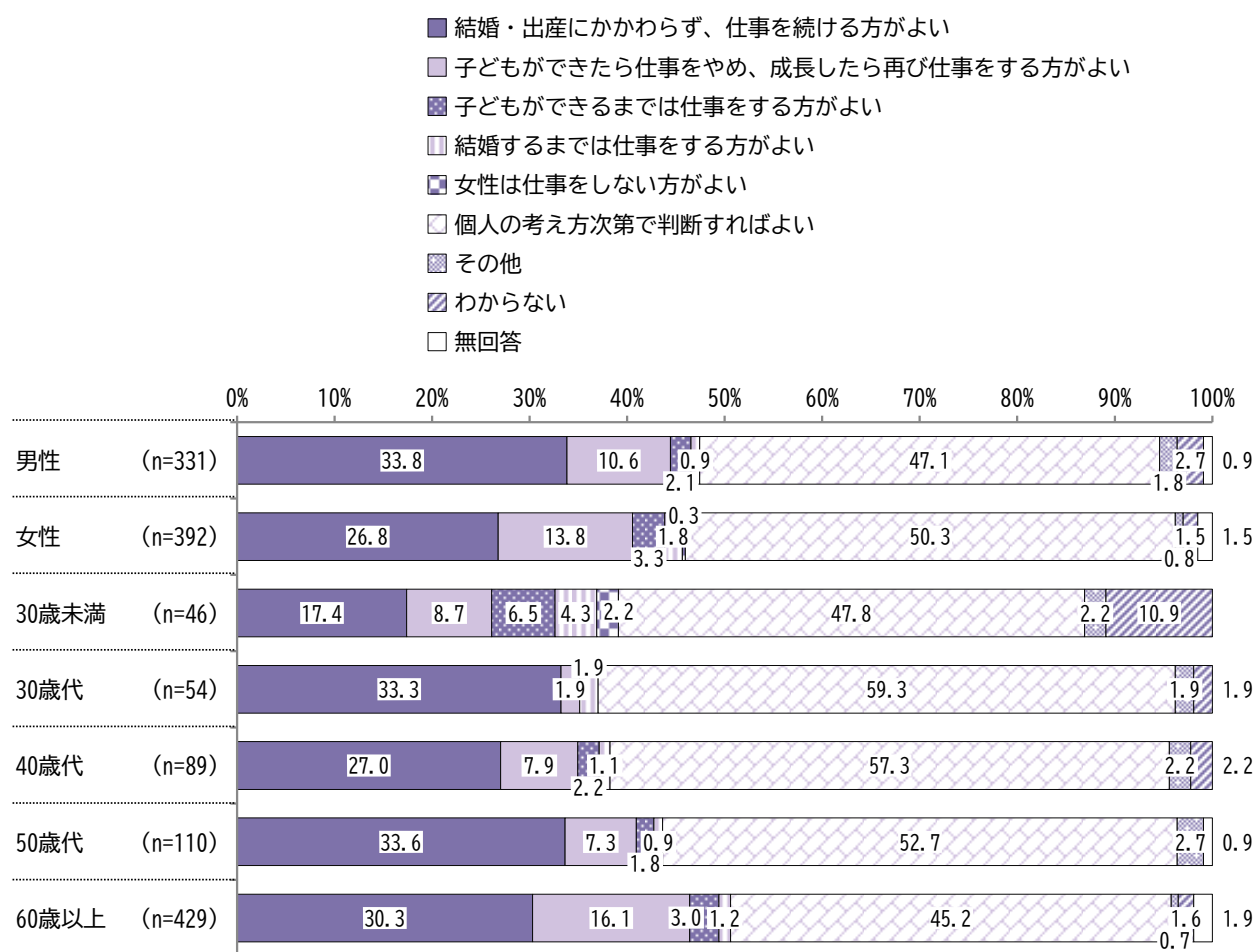
女性が仕事をする事への考えについて、「個人の考え方次第で判断すればよい」との回答が49.0%と最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」(29.7%)、「子どもができたら仕事をやめ、成長したら再び仕事をする方がよい」(12.4%)などの順となっている。

経年比較でみると、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」との回答は年々増加している。

※「個人の考え方次第で判断すればよい」はR3から追加された選択肢。

※「家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい」はH25・H30にのみあった選択肢。

【女性が仕事をするについての考え 性別・年代別】

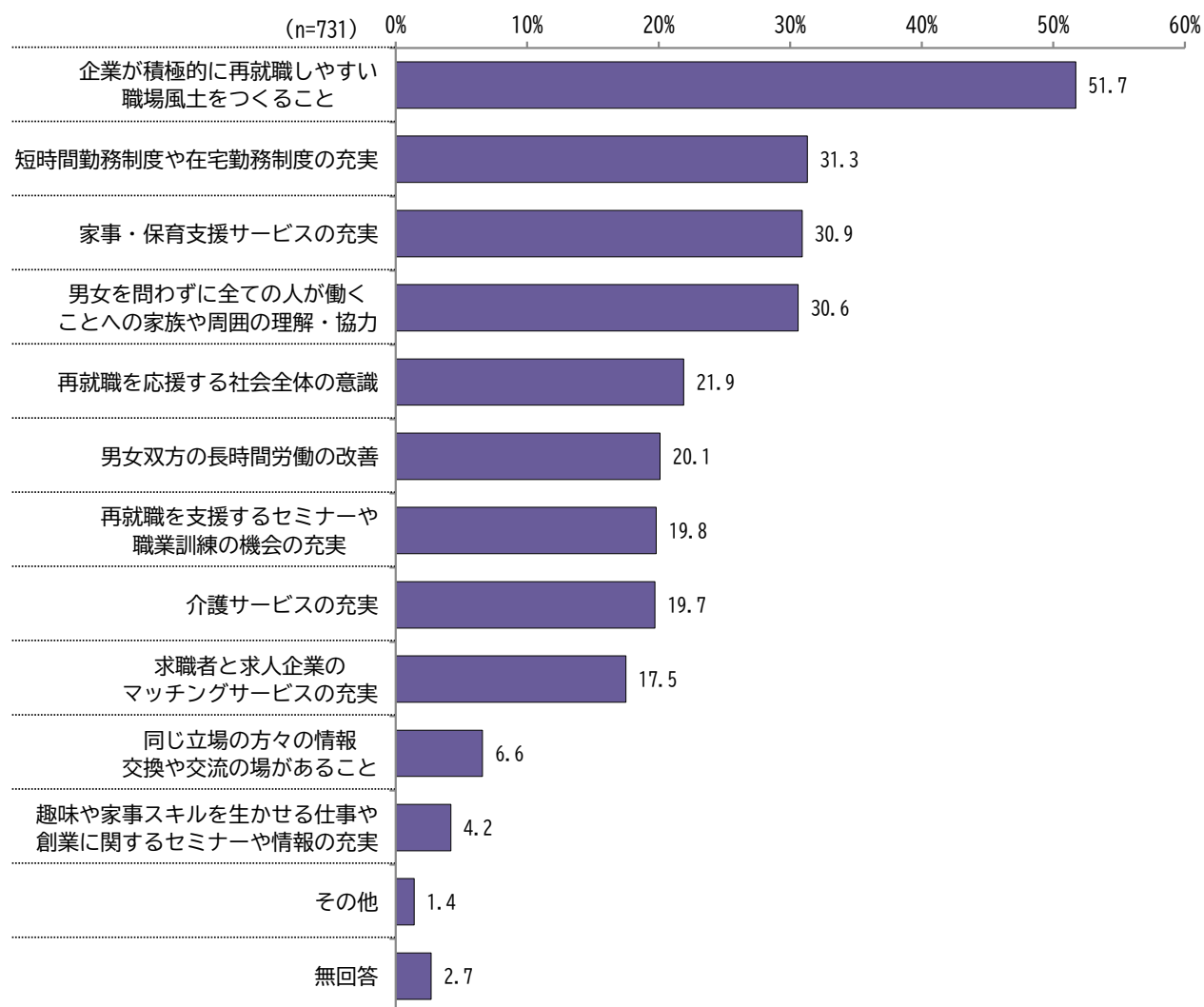


性別にみると、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」との回答は男性（33.8%）が女性（26.8%）を7.0ポイント上回っている。

年代別にみると、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」との回答は30歳未満を除くすべての年代で約3割と高くなっている。

問 27 男女を問わず、結婚、育児、介護などにより仕事をやめた場合、再び仕事をしやすくなるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



結婚、育児、介護などにより仕事をやめた場合、再び仕事をしやすくなるために必要なことについて、「企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること」との回答が51.7%と最も高く、次いで「短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実」(31.3%)、「家事・保育支援サービスの充実」(30.9%)などの順となっている。

【再び仕事をしやすくなるために必要なこと 性別・年代別(上位9位)】

		n数	(%)								
			企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること	短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実	家事・保育支援サービスの充実	男女を問わずに全ての家族や周囲の人が働くことへの協力	再就職を応援する社会全体意識	男女双方の長時間労働の改善	再就職を支援するセミナーや職業訓練の機会の充実	介護サービスの充実	求職者と求人企業のマッチングサービスの充実
全体		731	51.7	31.3	30.9	30.6	21.9	20.1	19.8	19.7	17.5
性別	男性	331	55.6	25.7	29.3	29.6	23.0	22.4	21.8	18.1	19.0
	女性	392	48.7	36.2	31.9	31.1	20.9	18.6	18.1	21.4	16.1
年代別	30歳未満	46	54.3	41.3	10.9	23.9	32.6	32.6	21.7	4.3	10.9
	30歳代	54	42.6	38.9	35.2	27.8	14.8	31.5	18.5	18.5	18.5
	40歳代	89	42.7	38.2	43.8	23.6	18.0	24.7	14.6	19.1	21.3
	50歳代	110	53.6	25.5	30.0	26.4	17.3	23.6	19.1	27.3	25.5
	60歳以上	429	53.8	29.6	29.8	34.0	23.5	15.6	21.2	19.8	14.9

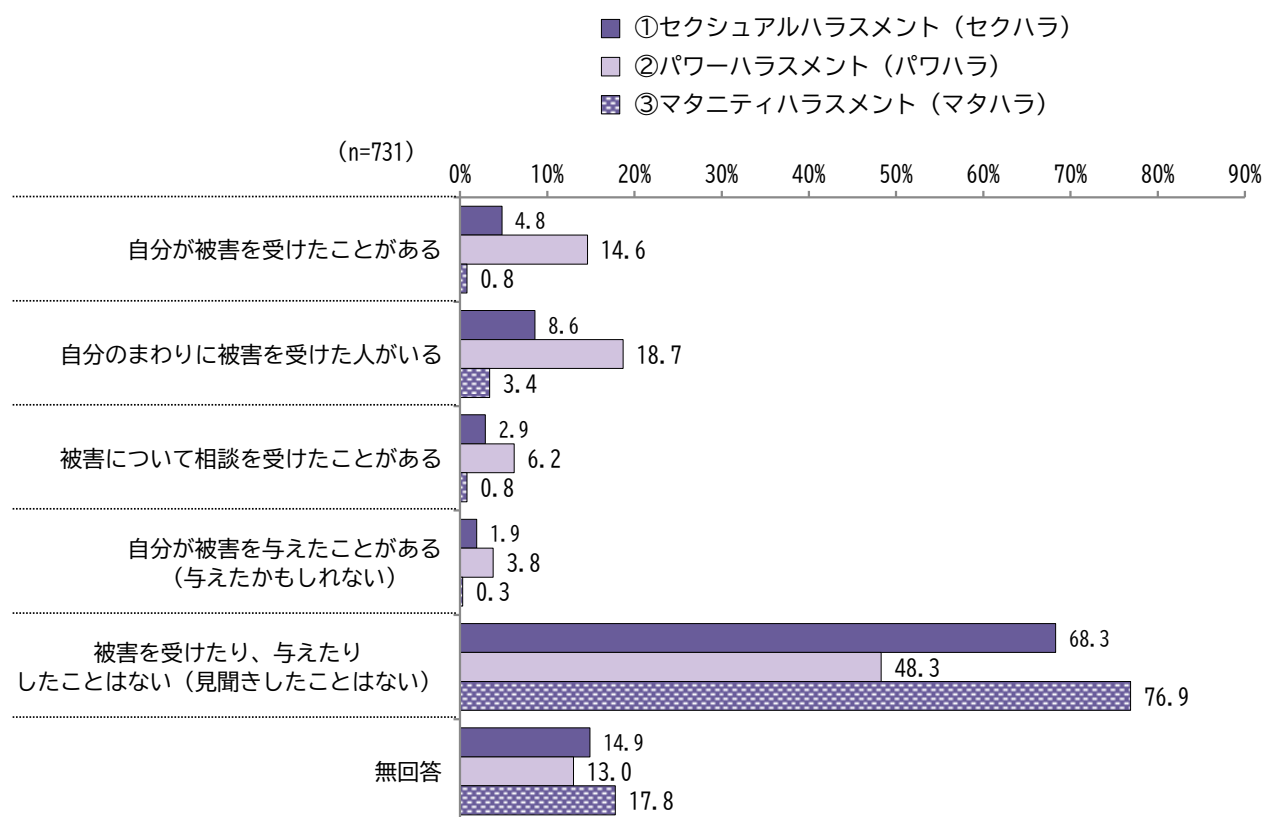
1位 2位 3位

性別にみると、「企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること」との回答は男性（55.6%）が女性（48.7%）を6.9ポイント上回っており、「短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実」との回答は男性（25.7%）が女性（36.2%）を10.5ポイント下回っている。

年代別にみると、「企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること」との回答は40歳代を除くすべての年代で高くなっており、「家事・保育支援サービスの充実」との回答は40歳代で4割台半ばと高くなっている。また、「男女双方の長時間労働の改善」は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

問 28 あなたは、最近3年ぐらいの間に、次の各種ハラスメント行為について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(〇はそれぞれいくつでも)

【全体】



各種ハラスメント行為の経験について、セクシュアルハラスメント（セクハラ）では「被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）」との回答が68.3%と最も高く、次いで「自分のまわりに被害を受けた人がある」（8.6%）、「自分が被害を受けたことがある」（4.8%）などの順となっている。

パワーハラスメント（パワハラ）では「被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）」との回答が48.3%と最も高く、次いで「自分のまわりに被害を受けた人がある」（18.7%）、「自分が被害を受けたことがある」（14.6%）などの順となっている。

マタニティハラスメント（マタハラ）では「被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）」との回答が76.9%と最も高く、次いで「自分のまわりに被害を受けた人がある」（3.4%）、「自分が被害を受けたことがある」、「被害について相談を受けたことがある」（ともに0.8%）などの順となっている。

■用語の解説

① セクシュアルハラスメント(セクハラ)とは

- ・相手の望まない性的な言動のこと(性的嫌がらせ)。相手は異性に限らず、同性同士でも起こる場合があります。
- ・セクシュアルハラスメントは「男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)」の規定により、企業等に対して、その防止措置が義務化されています。

② パワーハラスメント(パワハラ)とは

- ・職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力(パワー)を利用して、精神的、身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。ただし、業務上必要な指示や注意、指導などはパワハラにはあたりません。
- ・パワーハラスメントは「労働施策総合推進法(労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律)」の規定により、企業等に対して、その防止措置が義務化されています。

③ マタニティハラスメント(マタハラ)とは

- ・職場などにおいて、働く女性が妊娠や出産を理由に精神的、肉体的な苦痛を受ける嫌がらせ行為のこと。妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更などもマタハラにあたります。
- ・マタニティハラスメントは「男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)」の規定により、企業等に対して、その防止措置が義務化されています。

【①セクシュアルハラスメント(セクハラ) 性別・年代別】

		n 数	が自 分 が 被 害 を 受 け た こ と	け自 分 の ま わ り に 被 害 を 受 け た 人 が い る	た被 こ 害 と な り に あ い る 相 談 を 受 け た	なが自 分 が 被 害 を 受 け た こ と な い か ら せ を 受 け た こ と	きり被 し し た こ と を 受 け た こ と な い か ら せ を 受 け た こ と	無 回 答
全体		731	4.8	8.6	2.9	1.9	68.3	14.9
性別	男性	331	0.6	7.6	3.3	4.2	72.5	12.1
	女性	392	8.2	9.7	2.6	-	64.8	17.1
年代別	30歳未満	46	6.5	10.9	4.3	-	80.4	2.2
	30歳代	54	3.7	13.0	1.9	-	77.8	3.7
	40歳代	89	6.7	16.9	5.6	-	71.9	2.2
	50歳代	110	7.3	7.3	6.4	1.8	69.1	9.1
	60歳以上	429	3.7	6.5	1.4	2.8	64.6	21.9

1位 2位 3位

性別にみると、「被害を受けたり、与えたりしたことはない(見聞きしたことはない)」との回答は男性(72.5%)が女性(64.8%)を7.7ポイント上回っており、「自分が被害を受けたことがある」との回答は男性(0.6%)が女性(8.2%)を7.6ポイント下回っている。

年代別にみると、「自分のまわりに被害を受けた人がある」との回答は30歳代～40歳代で1割台半ばと高くなっている。

【② パワーハラスメント(パワハラ) 性別・年代別】

		n数						(%)
			が自分 がある が被害 を受けたこと	自分 のまわ りに被 害を受 けた人 がいる	被害 につい て相談 を受け たこと がある	自分 が被害 を与え たかも しれな い	自分 が被害 を受け たり、 与えら れたこ とはない	無回 答
全体		731	14.6	18.7	6.2	3.8	48.3	13.0
性別	男性	331	12.7	19.3	4.8	7.3	50.2	10.0
	女性	392	16.6	18.6	7.4	1.0	46.4	15.1
年代別	30歳未満	46	15.2	10.9	4.3	-	65.2	4.3
	30歳代	54	14.8	37.0	5.6	1.9	44.4	-
	40歳代	89	23.6	31.5	9.0	2.2	39.3	2.2
	50歳代	110	23.6	22.7	16.4	5.5	40.0	3.6
	60歳以上	429	10.5	13.8	3.3	4.4	50.6	20.3

1位 2位 3位

性別にみると、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」との回答は男性（7.3%）が女性（1.0%）を6.3ポイント上回っている。

年代別にみると、「自分のまわりに被害を受けた人がある」との回答は30歳代～40歳代で3割超と高くなっている。

【③ マタニティハラスメント(マタハラ) 性別・年代別】

		n数						(%)
			自分が被害を受けたこと	自分のまわりに被害を受けた人がいる	被害について相談を受けた	自分が被害を受けたこと(与えたり、見聞きしたり)	被害を受けたり、与えたりしたことはない	無回答
全体		731	0.8	3.4	0.8	0.3	76.9	17.8
性別	男性	331	-	3.6	0.6	0.3	81.6	13.9
	女性	392	1.5	3.3	1.0	0.3	73.2	20.7
年代別	30歳未満	46	4.3	2.2	2.2	-	84.8	6.5
	30歳代	54	-	5.6	3.7	-	87.0	3.7
	40歳代	89	1.1	9.0	-	-	87.6	2.2
	50歳代	110	1.8	4.5	1.8	-	82.7	9.1
	60歳以上	429	0.2	1.9	0.2	0.5	70.9	26.3

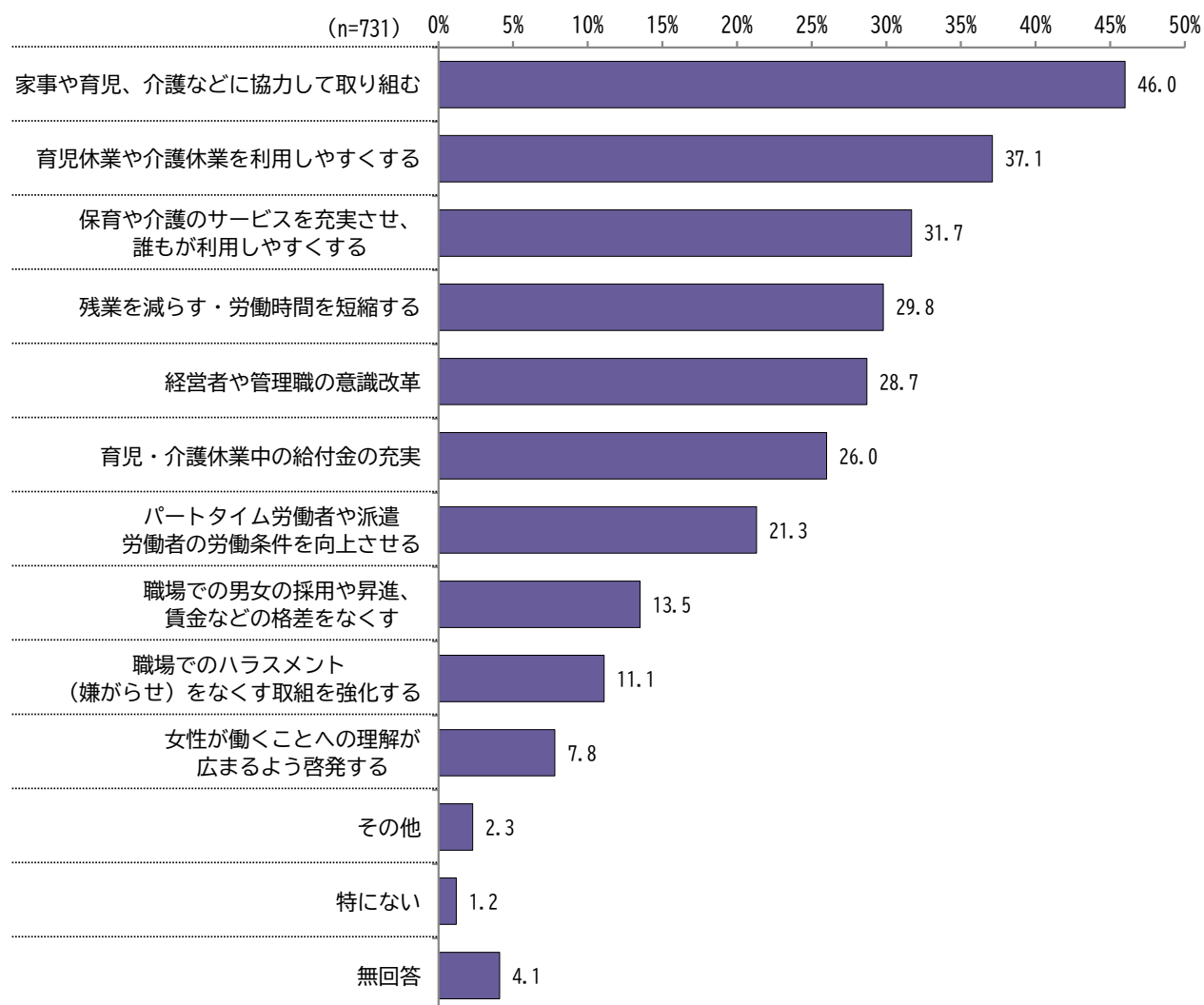
1位 2位 3位

性別にみると、「被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）」との回答は男性（81.6%）が女性（73.2%）を8.4ポイント上回っている。

年代別にみると、「自分のまわりに被害を受けた人がいる」との回答は40歳代で約1割と高くなっている。

問 29 あなたは、男女が共に働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



男女が共に働きやすい社会環境をつくるために必要なことについて、「家事や育児、介護などに協力して取り組む」との回答が46.0%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業を利用しやすくする」(37.1%)、「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」(31.7%)などの順となっている。

【男女共に働きやすい環境をつくるために必要なこと 性別・年代別(上位7位)】

		n数	(%)						
			家事や育児、介護などに協力する	育児休業や介護休業を利用しやすい	保育や介護のサービスが充実する	残業を減らす・労働時間を短縮する	経営者や管理職の意識改革	育児・介護休業中の給付金の充実	パートタイム労働者の労働条件や派遣労働者の労働条件を向上させる
全体		731	46.0	37.1	31.7	29.8	28.7	26.0	21.3
性別	男性	331	45.6	38.7	28.7	28.4	35.0	23.0	18.4
	女性	392	46.4	35.5	34.2	30.6	23.7	28.8	23.7
年代別	30歳未満	46	54.3	30.4	13.0	50.0	21.7	32.6	13.0
	30歳代	54	48.1	37.0	22.2	46.3	20.4	35.2	13.0
	40歳代	89	43.8	29.2	22.5	42.7	36.0	25.8	22.5
	50歳代	110	46.4	30.9	39.1	27.3	24.5	36.4	18.2
	60歳以上	429	45.2	40.8	35.0	23.3	30.3	21.7	24.0

1位 2位 3位

性別にみると、「経営者や管理職の意識改革」との回答は男性（35.0%）が女性（23.7%）を11.3ポイント上回っており、「育児・介護休業中の給付金の充実」との回答は男性（23.0%）が女性（28.8%）を5.8ポイント下回っている。

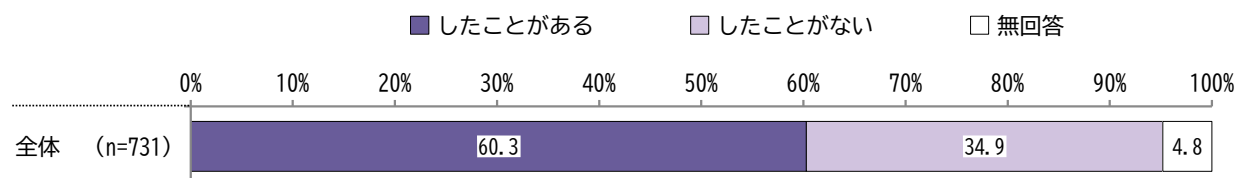
年代別にみると、「家事や育児、介護などに協力して取り組む」との回答はすべての年代で4割台半ばと高くなっている。また、「残業を減らす・労働時間を短縮する」は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

5 地域活動について

すべての方におたずねします。

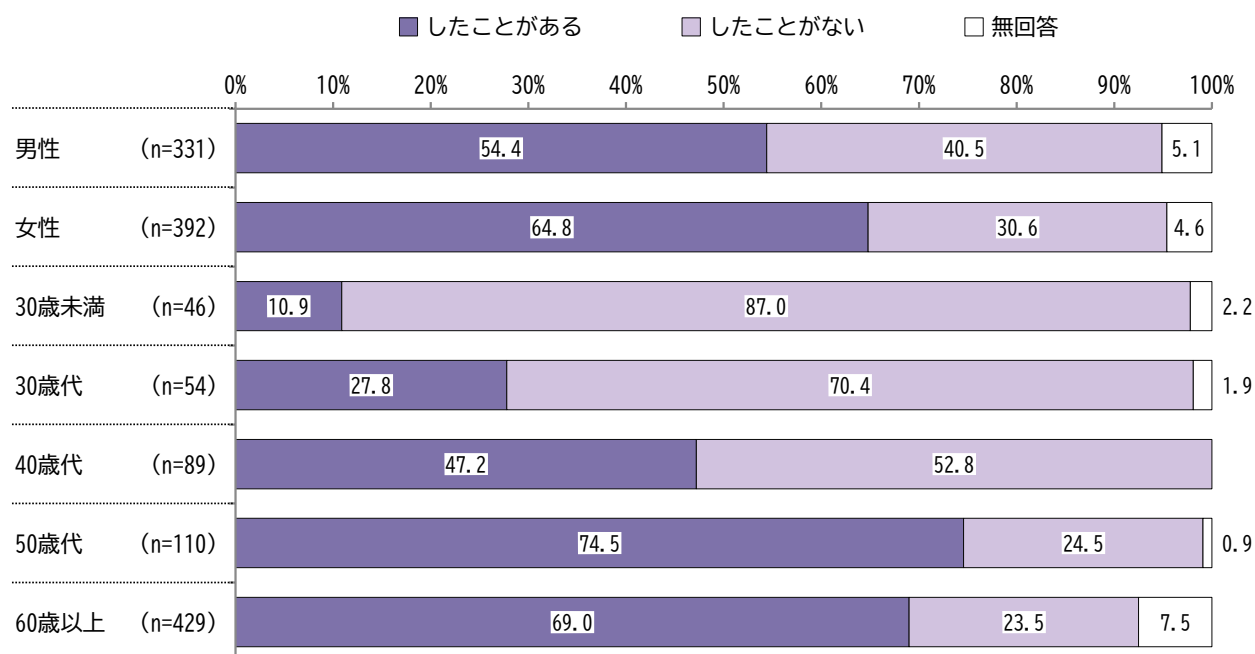
問 30 あなたは、町内会・自治会、コミュニティ、PTA活動などの地域活動の役員をしたことがありますか。
(○は1つ)

【全体】



町内会・自治会、コミュニティ、PTA活動などの地域活動の役員経験について、「したことがある」(60.3%)、「したことがない」(34.9%)となっている。

【地域活動の役員の経験 性別・年代別】

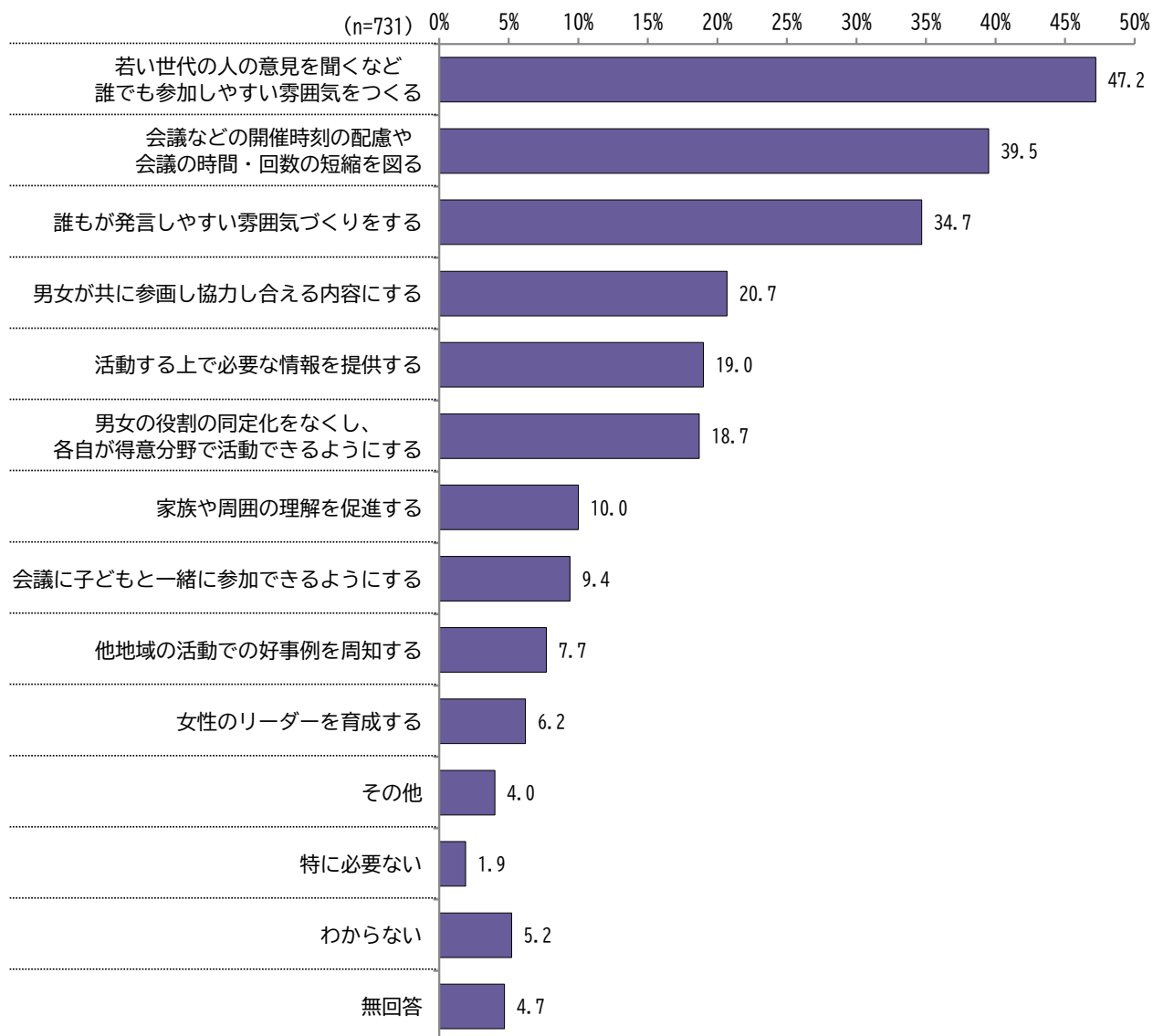


性別にみると、「したことがある」との回答は男性(54.4%)が女性(64.8%)を10.4ポイント下回っている。

年代別にみると、「したことがある」との回答は50歳代で7割台半ばと高くなっている。また、「したことがない」との回答は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

問 31 性別にかかわらず誰もが、地域活動に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、「若い世代の人の意見を聞くなど誰でも参加しやすい雰囲気をつくる」との回答が47.2%と最も高く、次いで「会議などの開催時刻の配慮や会議の時間・回数の短縮を図る」(39.5%)、「誰もが発言しやすい雰囲気づくりをする」(34.7%)などの順となっている。

【地域活動に参加するために必要なこと 性別・年代別(上位9位)】

(%)

		n 数	若い世代の人の意見を聞くなど誰でも参加しやすい雰囲気をつくる	会議などの開催時刻の配慮や会議の時間・回数の短縮を図る	誰もが発言しやすい雰囲気づくりをする	男女が共に参画し協力し合える内容にする	活動する上で必要な情報を提供する	男女の役割の同定化(男性は草刈り、女性はお炊き出しなど)をなくし、各自が得意分野で活動できるようにする	家族や周囲の理解を促進する	会議に子どもと一緒に参加できるようにする	他地域の活動での好事例を周知する
	全体	731	47.2	39.5	34.7	20.7	19.0	18.7	10.0	9.4	7.7
性別	男性	331	49.8	33.2	37.5	25.7	19.6	15.7	10.6	10.3	7.9
	女性	392	44.9	44.9	32.9	16.1	18.6	21.4	9.4	8.9	6.9
年代別	30歳未満	46	60.9	21.7	41.3	10.9	6.5	26.1	13.0	15.2	2.2
	30歳代	54	42.6	59.3	25.9	11.1	25.9	11.1	9.3	18.5	9.3
	40歳代	89	49.4	48.3	28.1	9.0	23.6	14.6	7.9	13.5	12.4
	50歳代	110	45.5	56.4	34.5	11.8	18.2	20.9	10.0	12.7	5.5
	60歳以上	429	46.4	32.9	36.8	27.5	18.9	19.1	10.0	6.1	7.5

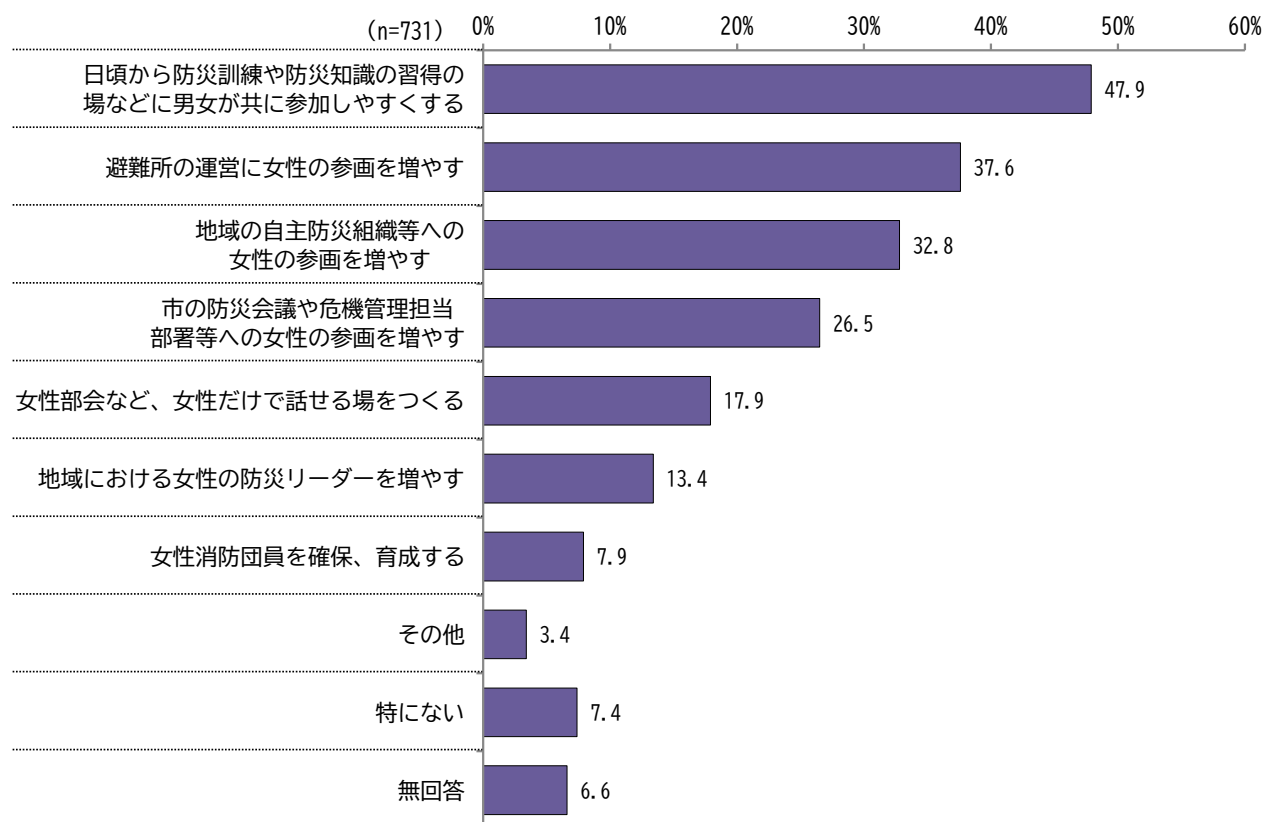
1位 2位 3位

性別にみると、「男女が共に参画し協力し合える内容にする」との回答は男性(25.7%)が女性(16.1%)を9.6ポイント上回っており、「会議などの開催時刻の配慮や会議の時間・回数の短縮を図る」との回答は男性(33.2%)が女性(44.9%)を11.7ポイント下回っている。

年代別にみると、「若い世代の人の意見を聞くなど誰でも参加しやすい雰囲気をつくる」との回答は30歳未満で約6割と高くなっている。

問 32 防災・災害復興対策においては、避難所での着替えや授乳の問題など、男女共同参画の視点が必要と言われています。今後、どのような取組を強化すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



避難所での男女共同参画の視点で強化すべき取組について、「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」との回答が47.9%と最も高く、次いで「避難所の運営に女性の参画を増やす」(37.6%)、「地域の自主防災組織等への女性の参画を増やす」(32.8%)などの順となっている。

【防災・災害復興対策において強化すべき取組 性別・年代別】

(%)

		n 数	識の 日頃 共の 参加 し得 やす くする	避難 所の 運 営に 女性 の参 画を 増やす	地域 の自 主防 災組 織等 への 女性 の参 画を 増やす	増 当部 署等 への 女性 の参 画を 増やす	市 の防 災会 議や 危機 管理 を担 当	話 せる 場を つくる	女性 部会 など、 女性 だけ で	地 域に おける 女性 の防 災リ ーダー を増 やす	女性 消 防団 員を 確保、 育成 する	その他	特 に ない	無 回 答
全体		731	47.9	37.6	32.8	26.5	17.9	13.4	7.9	3.4	7.4	6.6		
性別	男性	331	49.8	35.3	38.7	26.0	16.9	15.4	9.7	4.5	6.9	6.0		
	女性	392	45.9	39.5	28.1	27.0	18.9	12.0	6.6	2.3	7.9	6.9		
年代別	30歳未満	46	43.5	39.1	32.6	28.3	17.4	13.0	21.7	-	6.5	6.5		
	30歳代	54	33.3	50.0	18.5	31.5	14.8	13.0	14.8	5.6	11.1	1.9		
	40歳代	89	42.7	41.6	27.0	31.5	21.3	9.0	10.1	6.7	9.0	-		
	50歳代	110	40.9	41.8	36.4	35.5	17.3	11.8	9.1	5.5	4.5	0.9		
	60歳以上	429	53.1	33.8	35.0	22.4	17.7	14.9	4.9	2.3	7.5	9.8		

1位 2位 3位

性別にみると、「地域の自主防災組織等への女性の参画を増やす」との回答は男性（38.7%）が女性（28.1%）を10.6ポイント上回っている。

年代別にみると、「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」との回答は60歳以上で5割台半ば、「避難所の運営に女性の参画を増やす」との回答は30歳代で5割と高くなっている。また、「女性消防団員を確保、育成する」は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

6 ドメスティック・バイオレンス※3について

すべての方におたずねします。

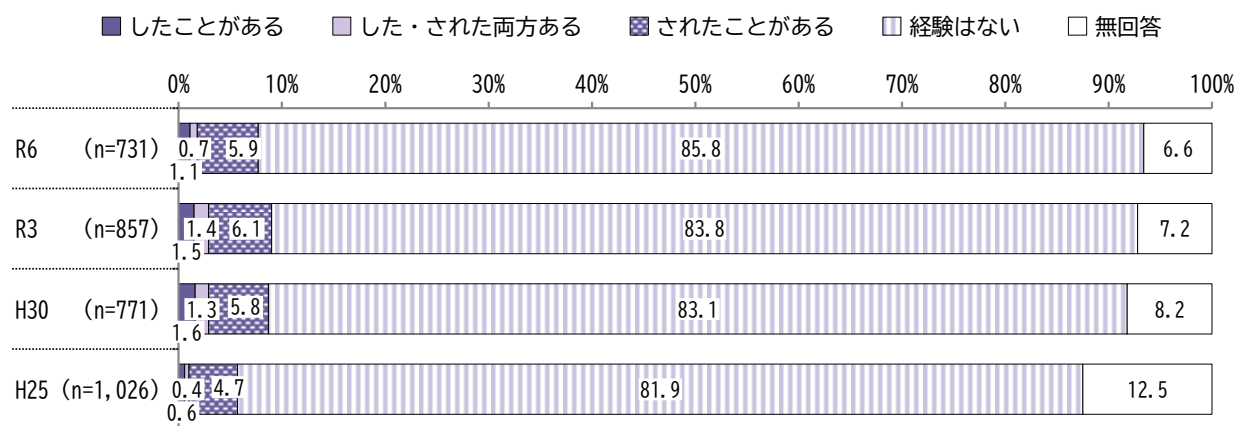
問 33 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる、次のような行為をしたこと、されたことがありますか。
(〇は1つつつ)

※3 ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、夫婦や恋人などの親密な関係にある(あった)パートナーからふるわれる暴力のこと。

- (1)身体的暴力(殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張るなど)
- (2)精神的暴力(大声でどなる、無視する、大切にしているものを壊すなど)
- (3)経済的暴力(生活費を渡さない、外で働くことを邪魔するなど)
- (4)性的暴力(性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要するなど)
- (5)社会的隔離(勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限するなど)
- (6)子どもを巻き込んだ暴力(子どもの前で暴力をふるう、ばかにするなど)

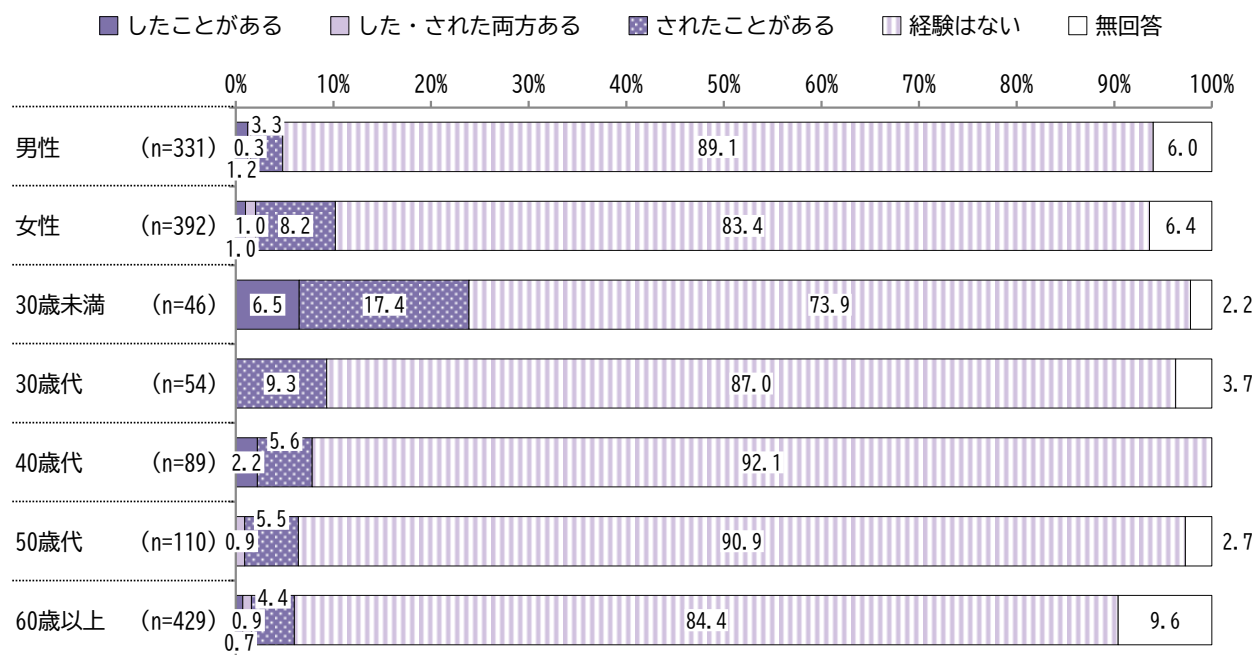
① 外出や人との付き合いを監視し又は、制限する

【全体】



外出や人との付き合いを監視し又は、制限する行為について、「経験はない」との回答が85.8%と最も高く、次いで「されたことがある」(5.9%)、「したことがある」(1.1%)などの順となっている。経年比較でみると、大きな差はみられない。

【外出や人との付き合いを監視し又は、制限する 性別・年代別】

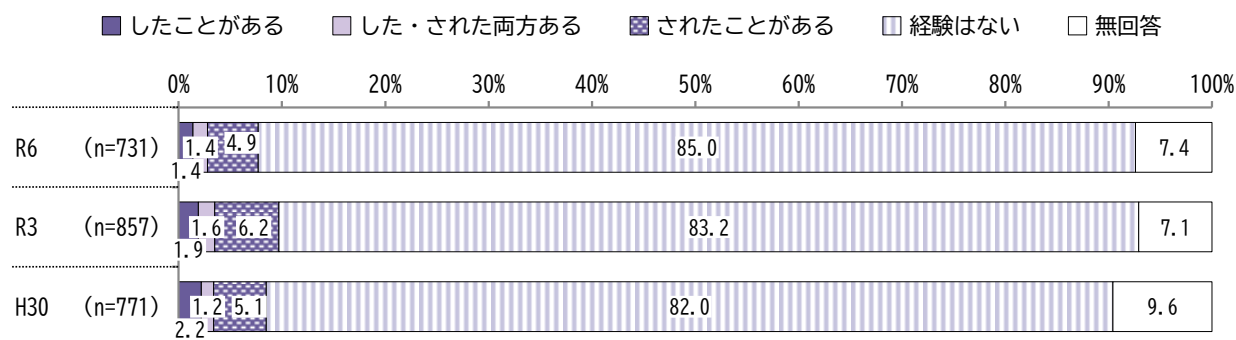


性別にみると、「経験はない」との回答は男性（89.1%）が女性（83.4%）を5.7ポイント上回っている。

年代別にみると、「されたことがある」との回答は30歳未満で約2割と高くなっている。

② なぐる振りなどをして、おどす

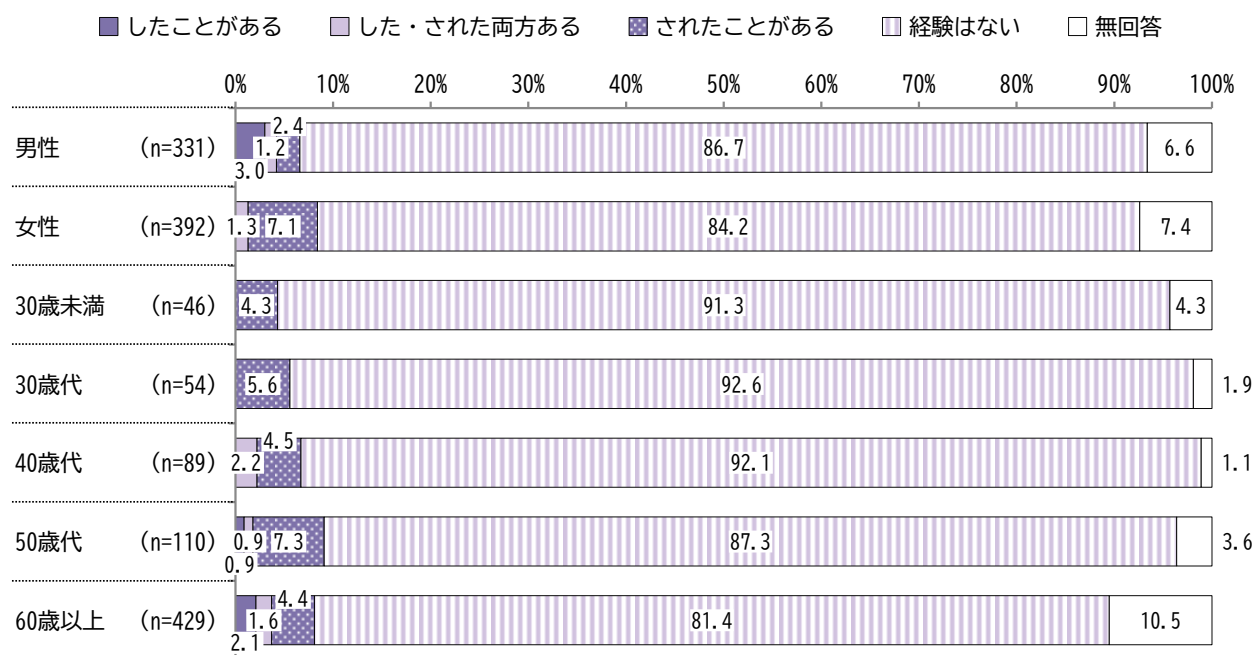
【全体】



なぐる振りなどをして、おどす行為について、「経験はない」との回答が85.0%と最も高く、次いで「されたことがある」(4.9%)、「したことがある」、「した・された両方ある」(ともに1.4%)などの順となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

【なぐる振りなどをして、おどす 性別・年代別】

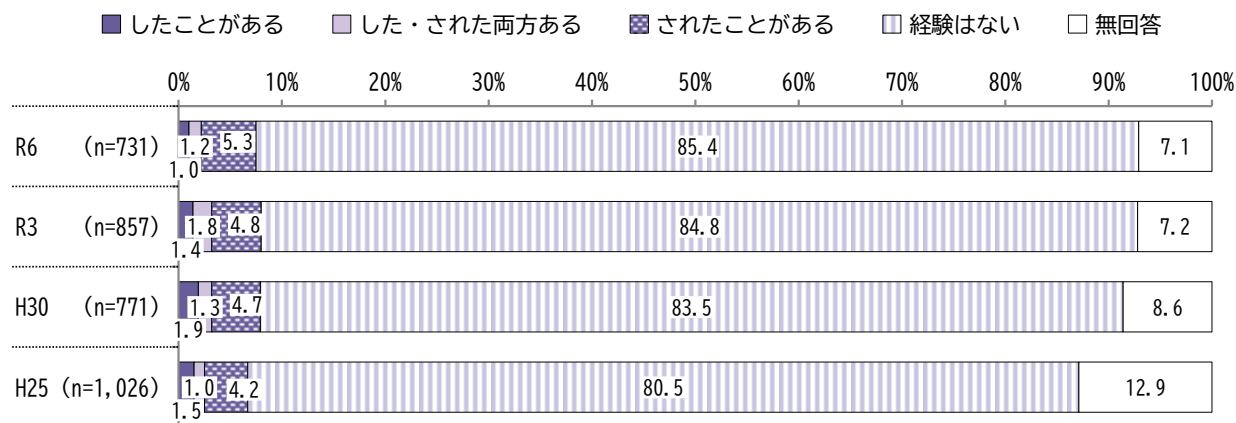


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、大きな差はみられない。

③ なぐる、蹴るなどの暴力を振るう

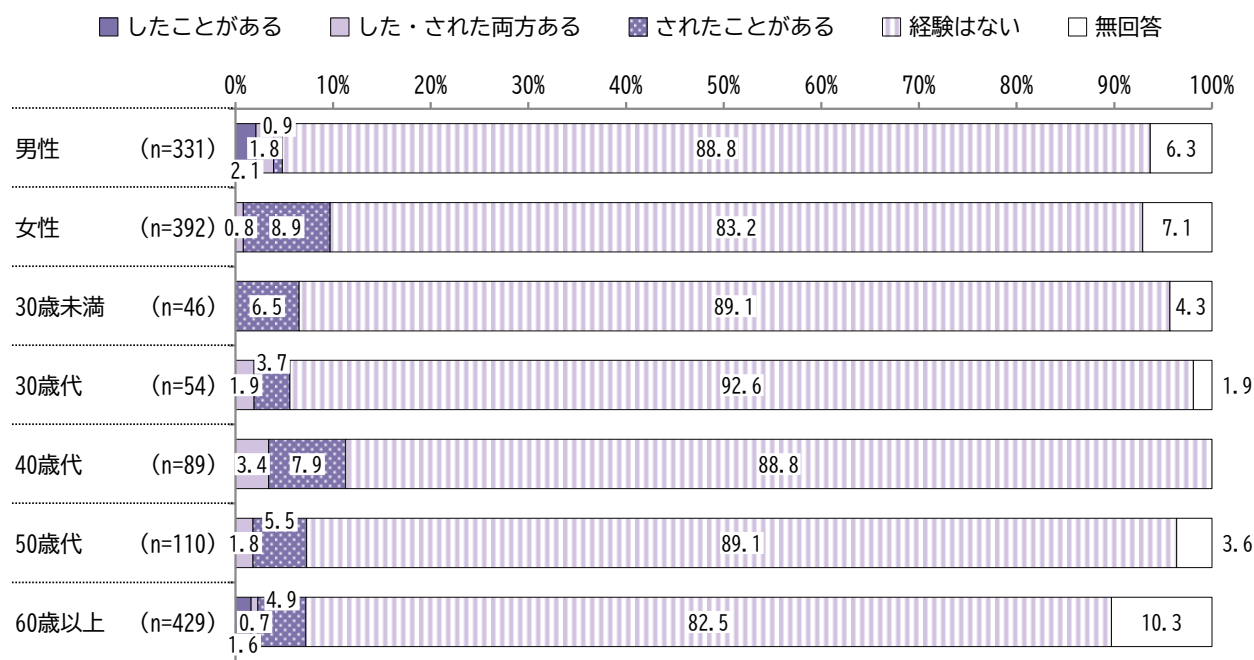
【全体】



なぐる、蹴るなどの暴力を振るう行為について、「経験はない」との回答が85.4%と最も高く、次いで「されたことがある」(5.3%)、「した・された両方ある」(1.2%)などの順となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

【なぐる、蹴るなどの暴力を振るう 性別・年代別】

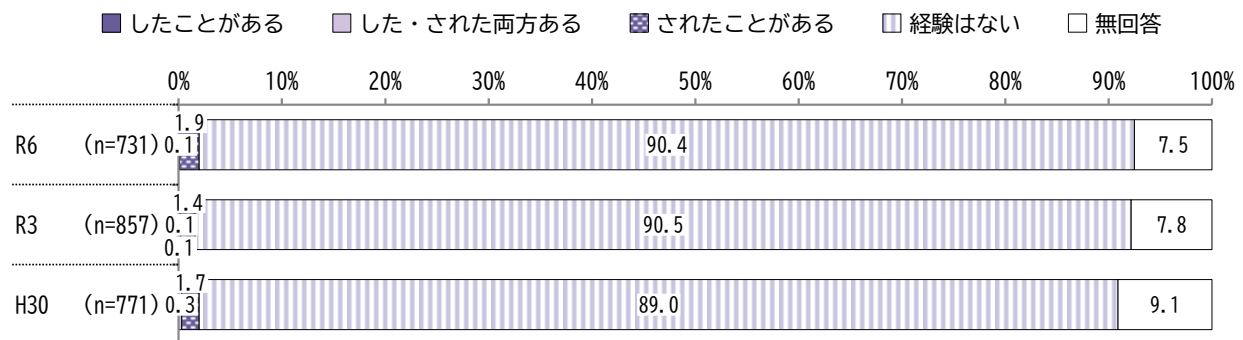


性別にみると、「されたことがある」との回答は男性(0.9%)が女性(8.9%)を8.0ポイント下回っている。

年代別にみると、大きな差はみられない。

④ 命の危険を感じるほどの暴力を振るう

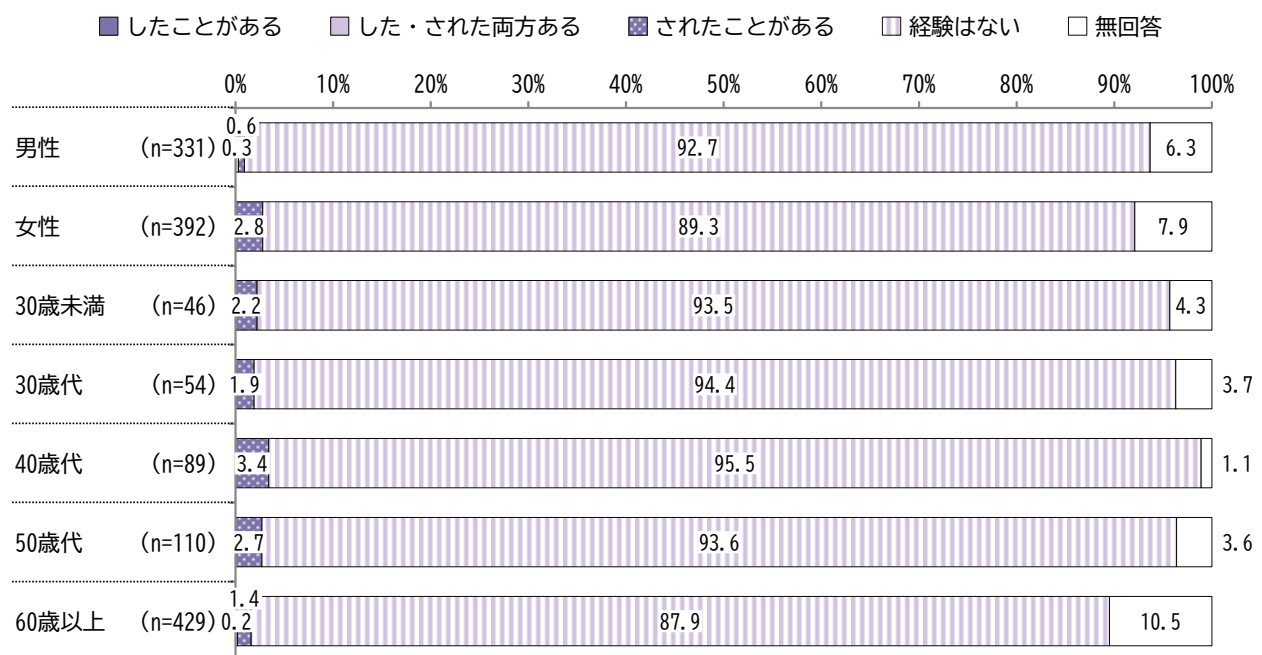
【全体】



命の危険を感じるほどの暴力を振るう行為について、「経験はない」との回答が90.4%と最も高く、次いで「されたことがある」(1.9%)、「した・された両方ある」(0.1%)などの順となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

【命の危険を感じるほどの暴力を振るう 性別・年代別】

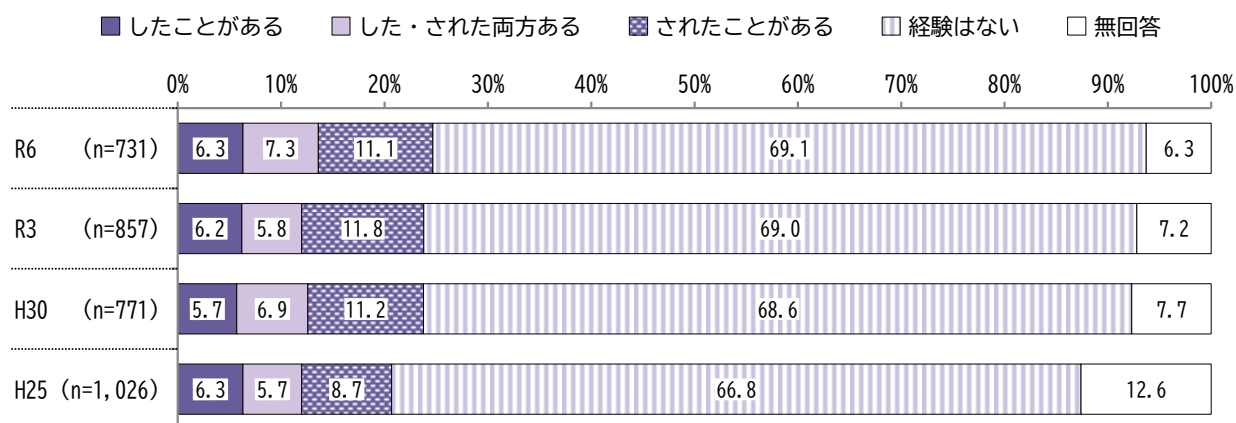


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、大きな差はみられない。

⑤ ののしる、大声でどなる

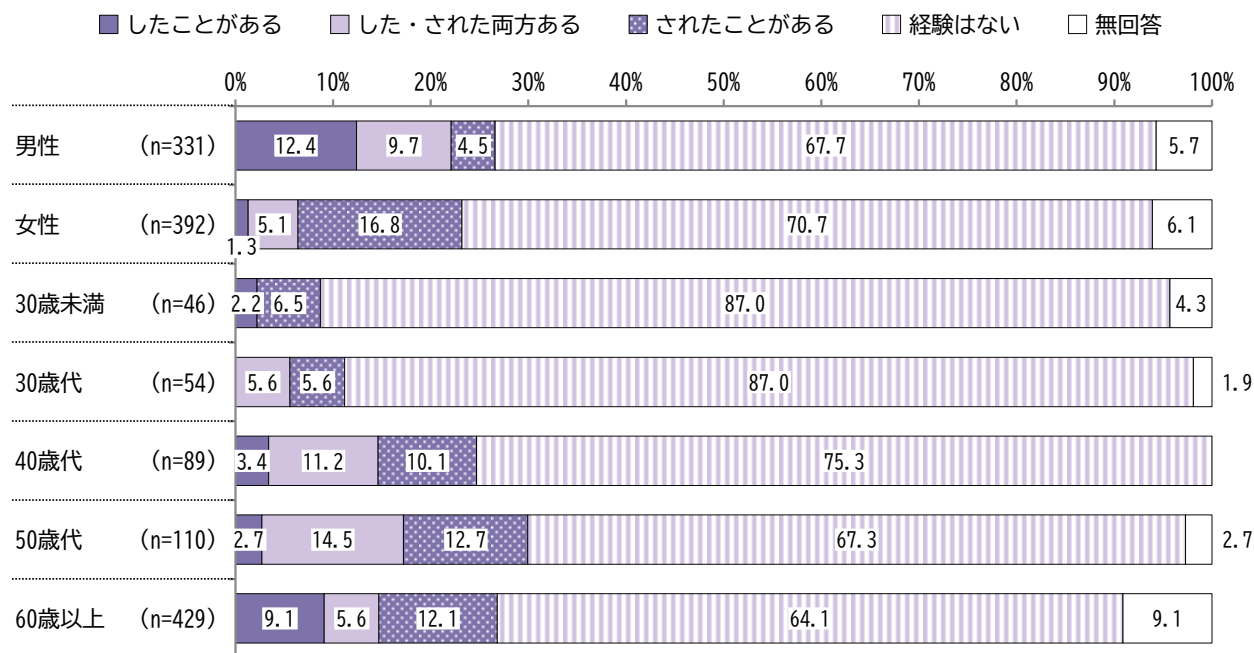
【全体】



ののしる、大声でどなる行為について、「経験はない」との回答が69.1%と最も高く、次いで「されたことがある」(11.1%)、「した・された両方ある」(7.3%)などの順となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

【ののしる、大声でどなる 性別・年代別】

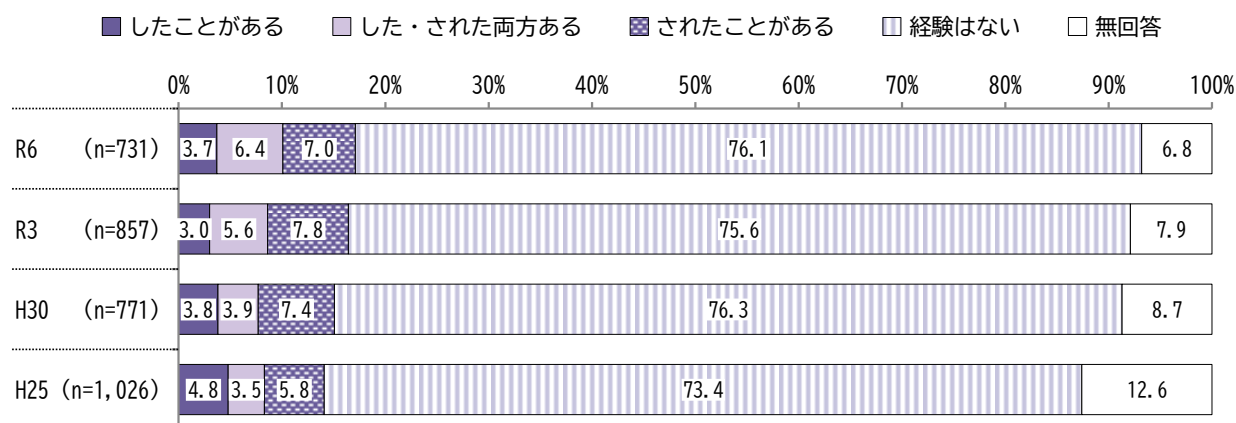


性別にみると、「したことがある」との回答は男性(12.4%)が女性(1.3%)を11.1ポイント上回っており、「されたことがある」との回答は男性(4.5%)が女性(16.8%)を12.3ポイント下回っている。

年代別にみると、「した・された両方ある」との回答は40歳代～50歳代で1割超と高くなっている。

⑥ 何を言っても長時間無視し続ける

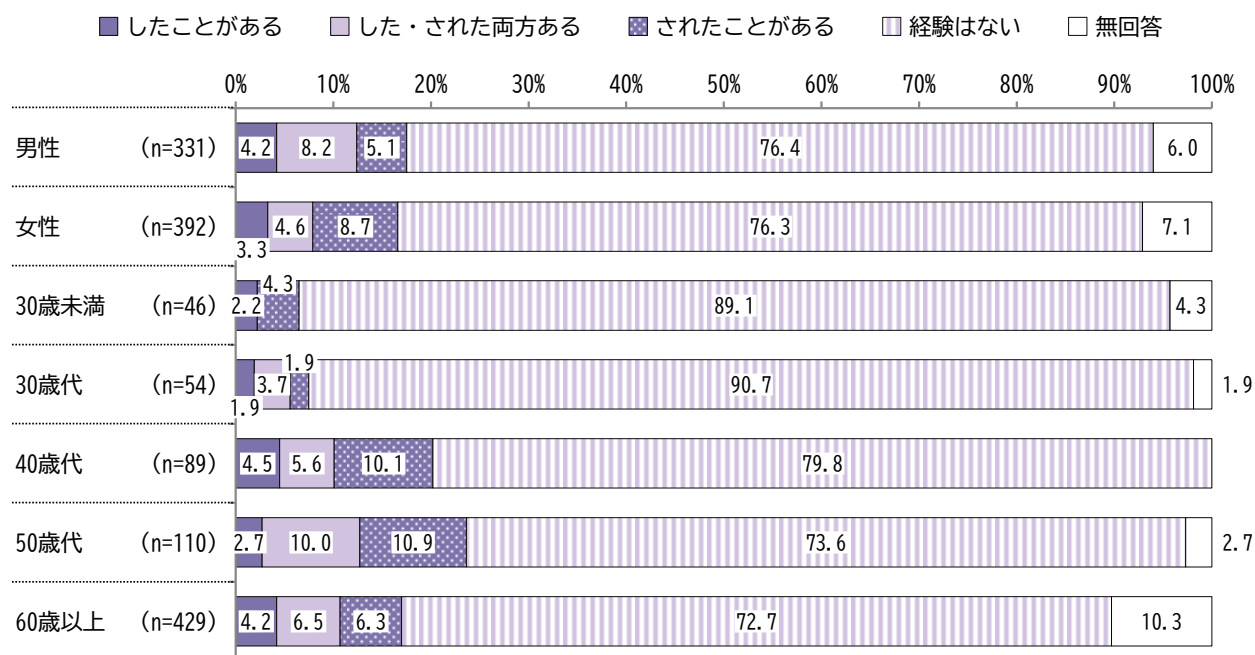
【全体】



何を言っても長時間無視し続ける行為について、「経験はない」との回答が76.1%と最も高く、次いで「されたことがある」(7.0%)、「した・された両方ある」(6.4%)などの順となっている。

経年比較でみると、大きな差はみられない。

【何を言っても長時間無視し続ける 性別・年代別】

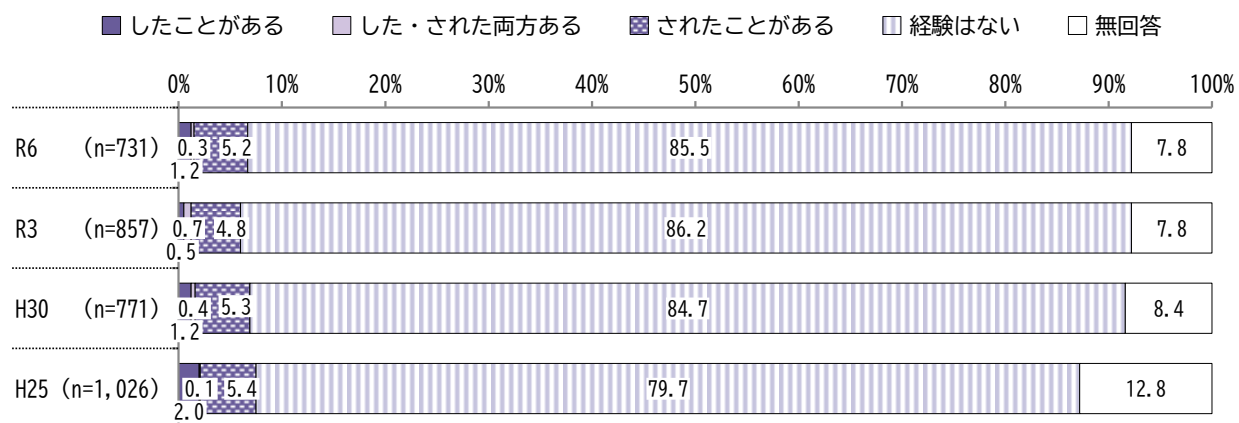


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、「されたことがある」との回答は40歳代～50歳代で1割超と高くなっている。

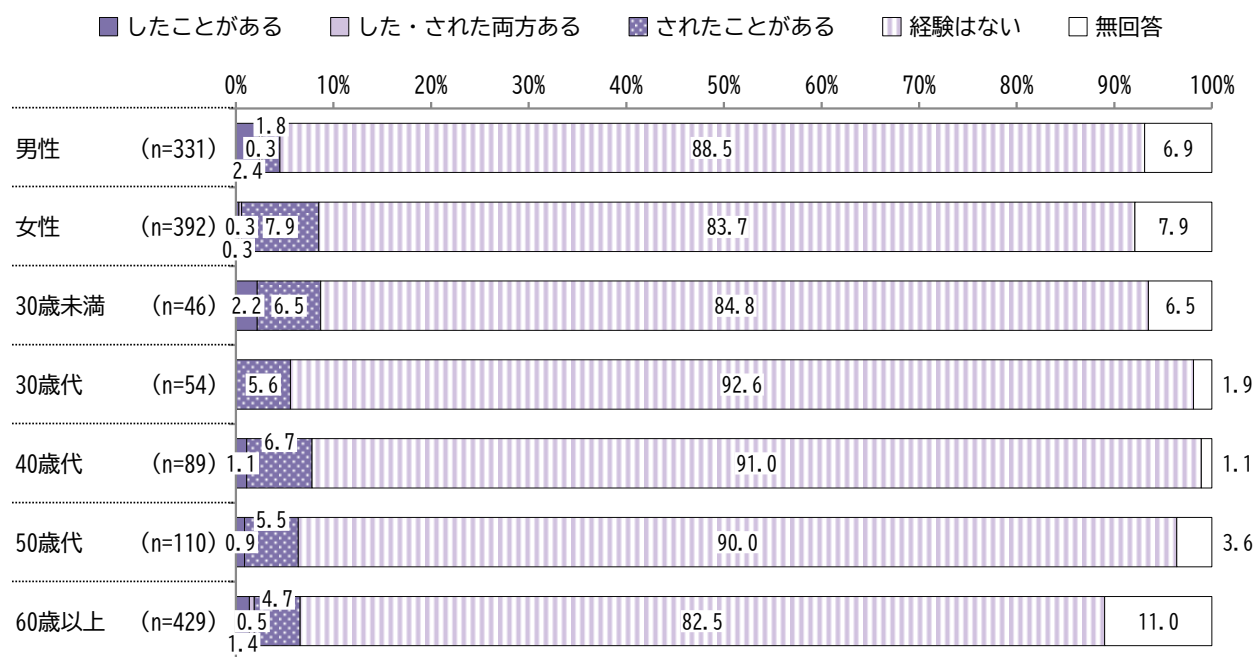
⑦ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する

【全体】



相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する行為について、「経験はない」との回答が85.5%と最も高く、次いで「されたことがある」(5.2%)、「したことがある」(1.2%)などの順となっている。経年比較でみると、大きな差はみられない。

【相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する 性別・年代別】

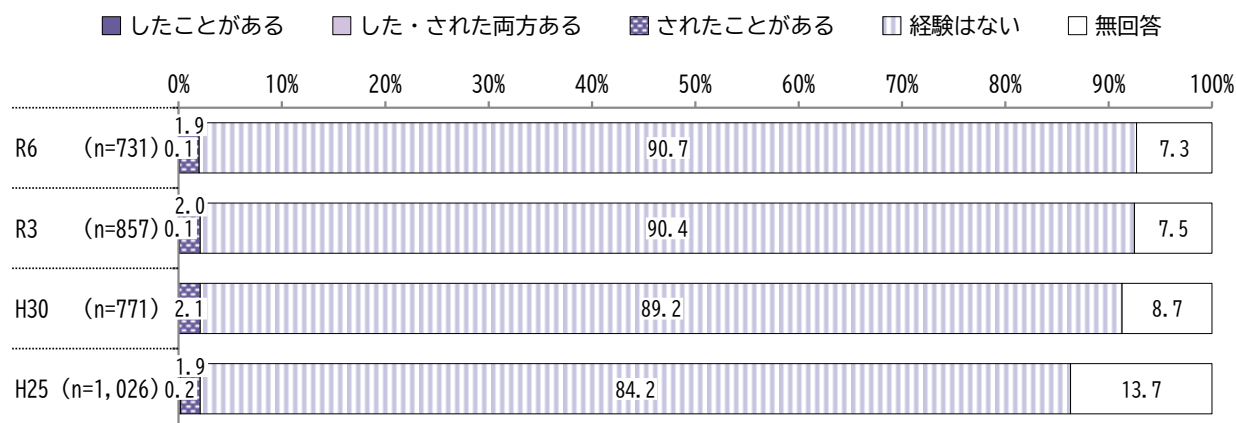


性別にみると、「されたことがある」との回答は男性(1.8%)が女性(7.9%)を6.1ポイント下回っている。

年代別にみると、「経験はない」との回答はすべての年代で8割超と高くなっている。

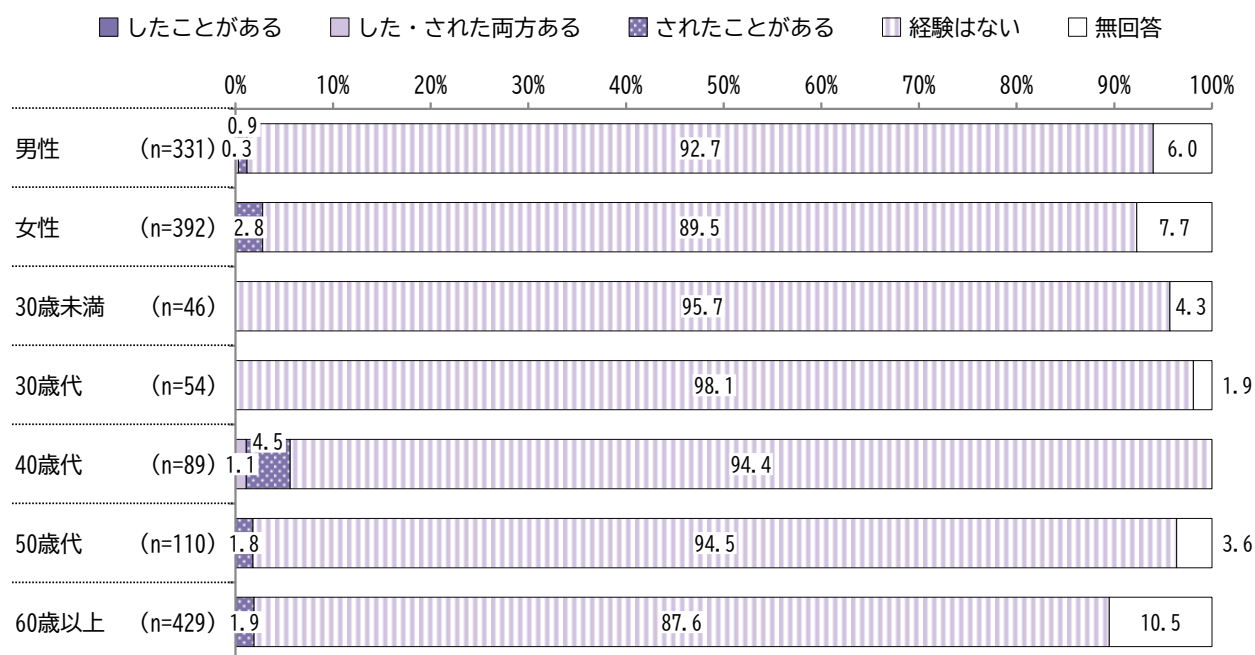
⑧ 生活費を渡さない、外で働くことを妨害する

【全体】



生活費を渡さない、外で働くことを妨害する行為について、「経験はない」との回答が90.7%と最も高く、次いで「されたことがある」(1.9%)、「した・された両方ある」(0.1%)などの順となっている。経年比較でみると、「経験はない」との回答は年々増加している。

【生活費を渡さない、外で働くことを妨害する 性別・年代別】

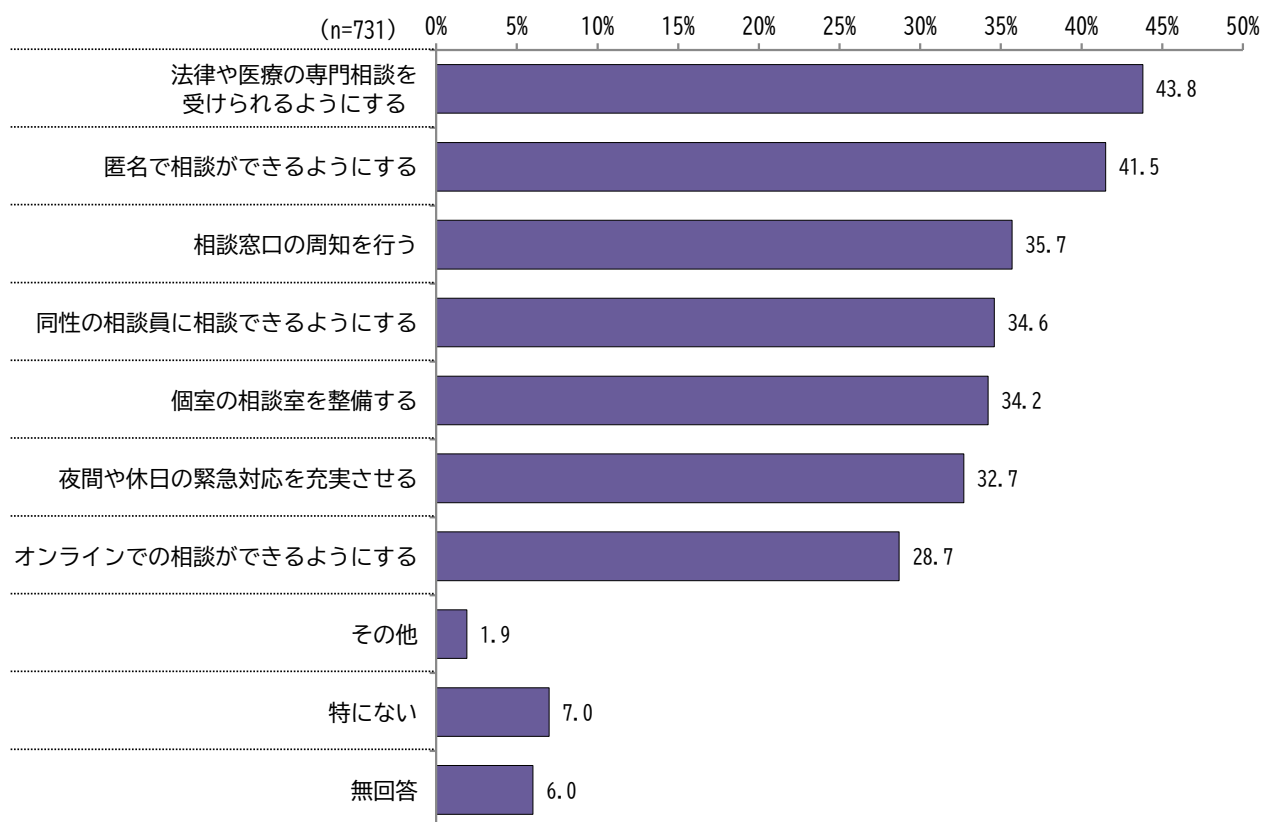


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、「経験はない」との回答はすべての年代で約9割と高くなっている。

問34 行政の相談窓口にどのような配慮があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】



行政の相談窓口であればよい配慮について、「法律や医療の専門相談を受けられるようにする」との回答が43.8%と最も高く、次いで「匿名で相談ができるようにする」(41.5%)、「相談窓口の周知を行う」(35.7%)などの順となっている。

【行政の相談窓口にほしい配慮 性別・年代別】

(%)

	n 数	法律や医療の専門相談を受けられるようにする	匿名で相談ができるようにする	相談窓口の周知を行う	同性の相談員に相談できるようにする	個室の相談室を整備する	夜間や休日の緊急対応を充実させる	オンラインでの相談ができるようにする	その他	特にない	無回答
全体	731	43.8	41.5	35.7	34.6	34.2	32.7	28.7	1.9	7.0	6.0
性別 男性	331	43.8	40.8	45.0	26.6	32.3	29.9	34.1	3.0	7.9	6.0
性別 女性	392	43.9	42.3	27.8	41.8	35.7	34.7	24.5	1.0	6.1	5.9
年代別 30歳未満	46	43.5	60.9	23.9	37.0	32.6	45.7	54.3	-	8.7	2.2
年代別 30歳代	54	37.0	46.3	44.4	40.7	31.5	44.4	44.4	3.7	1.9	-
年代別 40歳代	89	57.3	49.4	30.3	43.8	32.6	44.9	43.8	1.1	3.4	2.2
年代別 50歳代	110	46.4	53.6	35.5	46.4	39.1	49.1	34.5	4.5	5.5	0.9
年代別 60歳以上	429	41.0	33.8	37.1	28.7	33.3	23.1	19.6	1.4	8.6	9.3

1位 2位 3位

性別にみると、「相談窓口の周知を行う」との回答は男性（45.0％）が女性（27.8％）を17.2ポイント上回っており、「同性の相談員に相談できるようにする」との回答は男性（26.6％）が女性（41.8％）を15.2ポイント下回っている。

年代別にみると、「匿名で相談ができるようにする」との回答は30歳未満で、「法律や医療の専門相談を受けられるようにする」との回答は40歳代で約6割と高くなっている。また、「オンラインでの相談ができるようにする」は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

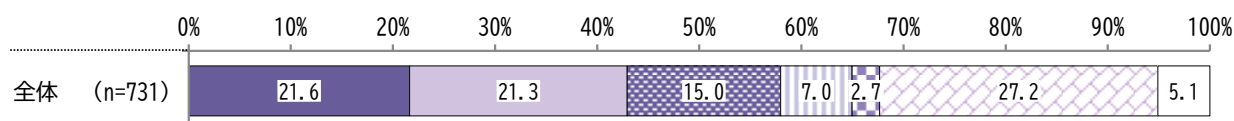
7 性の多様性について

すべての方におたずねします。

問 35 あなたの身近な人(家族や友人、知人)から性的マイノリティであると打ち明けられたとき、受け入れられますか。(〇は1つ)

【全体】

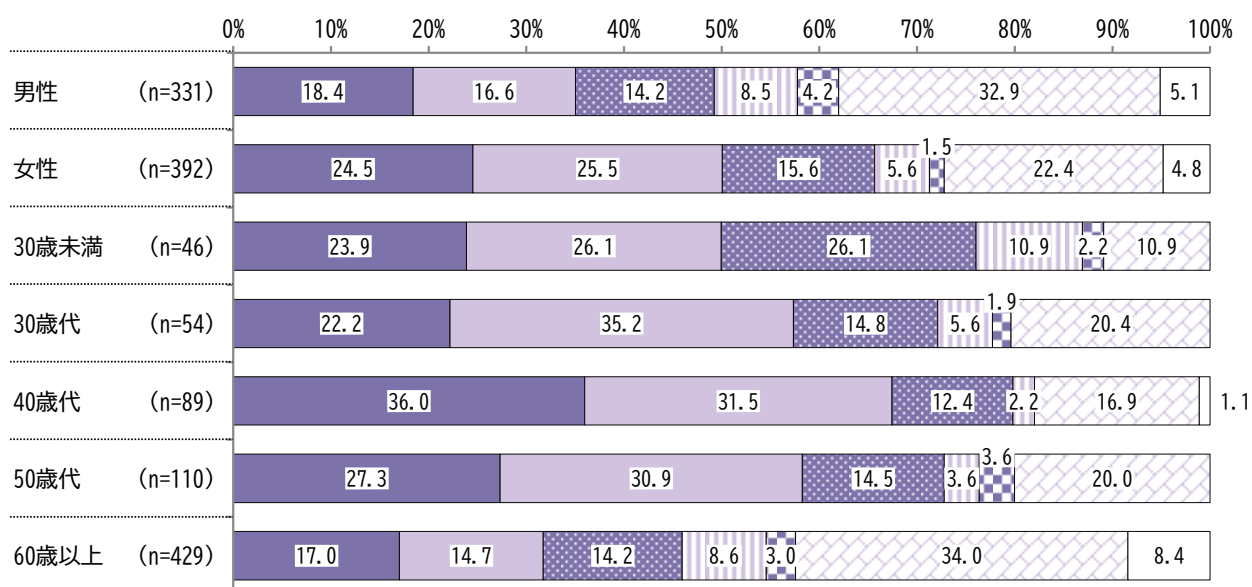
- 受け入れられる
- 驚くがすぐに受け入れられる
- 時間をかければ受け入れられる
- 仕方がないので受け入れる
- 受け入れられない
- わからない
- 無回答



身近な人から性的マイノリティであると打ち明けられた場合、受け入れられるかについて、「受け入れられる」との回答が21.6%と高く、次いで「驚くがすぐに受け入れられる」(21.3%)、「時間をかければ受け入れられる」(15.0%)などの順となっている。また、「わからない」との回答が27.2%となっている。

【性的マイノリティの告白の受け入れ可否 性別・年代別】

- 受け入れられる
- 驚くがすぐに受け入れられる
- 時間をかければ受け入れられる
- 仕方がないので受け入れる
- 受け入れられない
- わからない
- 無回答

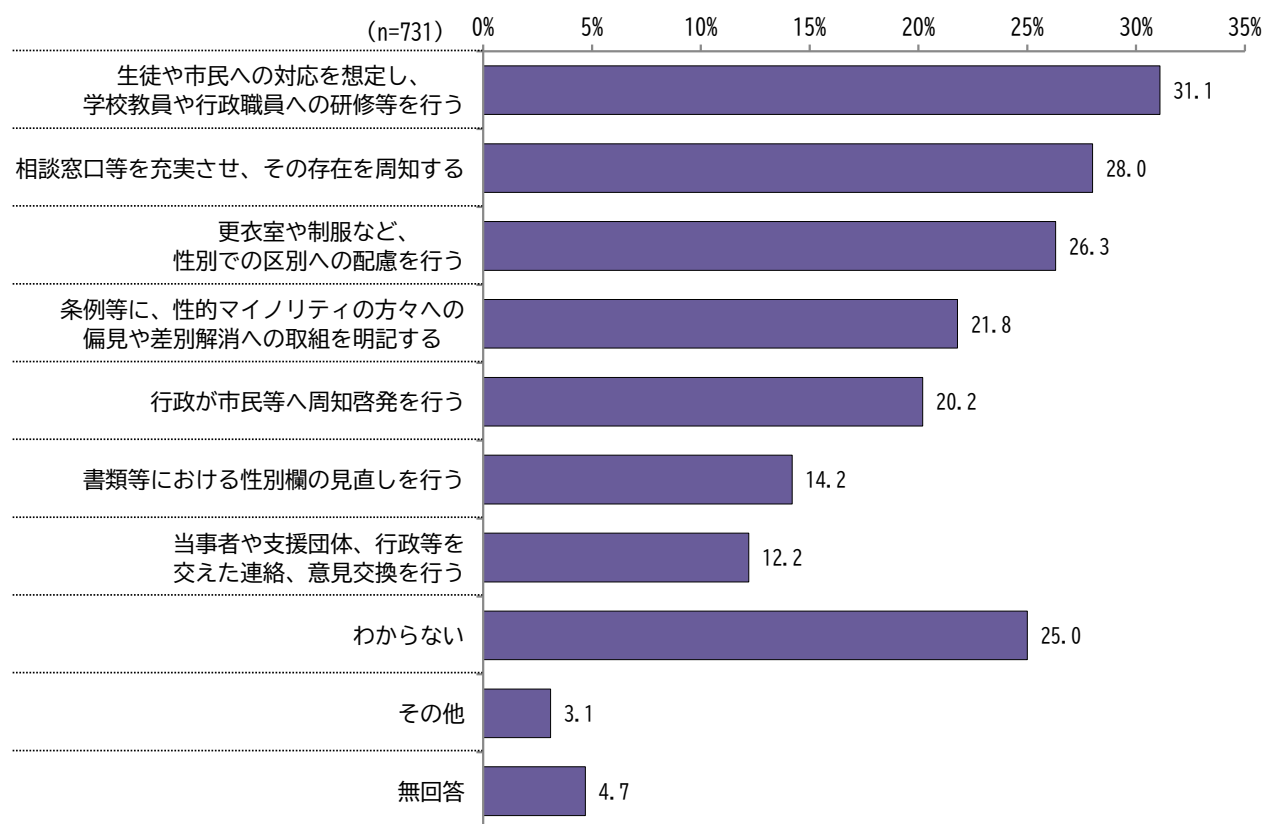


性別にみると、「わからない」との回答は男性(32.9%)が女性(22.4%)を10.5ポイント上回っており、「驚くがすぐに受け入れられる」との回答は男性(16.6%)が女性(25.5%)を8.9ポイント下回っている。

年代別にみると、60歳以上では、「受け入れられる」や「驚くがすぐに受け入れられる」との回答が他の年代に比べて低くなっている。

問 36 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々も生活しやすくなるためにどのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



性的マイノリティの方々も生活しやすくなるために必要な取組について、「生徒や市民への対応を想定し、学校教員や行政職員への研修等を行う」との回答が31.1%と最も高く、次いで「相談窓口等を充実させ、その存在を周知する」(28.0%)、「更衣室や制服など、性別での区別への配慮を行う」(26.3%)などの順となっている。

【性的マイノリティの人が生活しやすくなるために必要な取組 性別・年代別】

(%)

	n 数	のし生徒や市民への対応を想定し、学校教員や行政職員への研修等を行う	の相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	の更衣室や制服など、性別での差別への配慮を行う	解消への取組を明記する	条例等に、性的マイノリティの方々の偏見や差別をなくす取組を明記する	行政が市民等へ周知啓発を行う	直書類等における性別欄の見直しを行う	行う当業者や支援団体、交換を等	を交えた連絡、意見、交換を等	わからない	その他	無回答
全体	731	31.1	28.0	26.3	21.8	20.2	14.2	12.2	25.0	3.1	4.7		
性別													
男性	331	27.2	30.5	20.8	22.4	23.9	11.5	15.1	26.9	4.2	4.8		
女性	392	34.4	26.0	31.1	21.7	17.1	16.8	9.7	23.2	2.3	4.3		
年代別													
30歳未満	46	26.1	26.1	28.3	26.1	17.4	21.7	17.4	26.1	2.2	-		
30歳代	54	44.4	25.9	33.3	22.2	16.7	11.1	14.8	18.5	1.9	-		
40歳代	89	44.9	21.3	36.0	22.5	18.0	19.1	7.9	18.0	6.7	1.1		
50歳代	110	38.2	34.5	30.9	14.5	23.6	20.9	12.7	19.1	7.3	0.9		
60歳以上	429	25.2	28.2	22.1	23.1	20.5	11.2	12.1	28.7	1.6	7.2		

1位 2位 3位

性別にみると、「行政が市民等へ周知啓発を行う」との回答は男性（23.9%）が女性（17.1%）を6.8ポイント上回っており、「更衣室や制服など、性別での差別への配慮を行う」との回答は男性（20.8%）が女性（31.1%）を10.3ポイント下回っている。

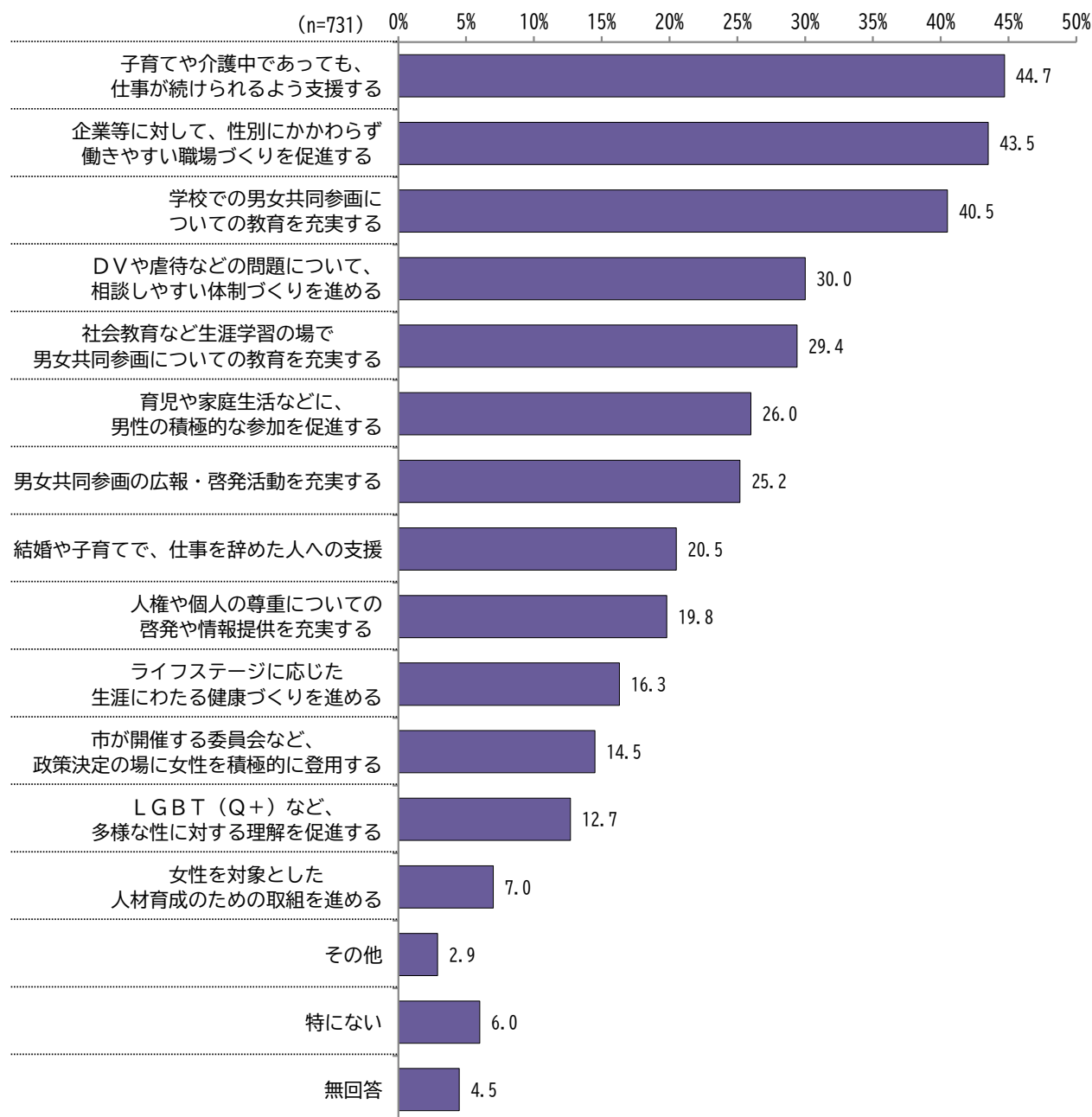
年代別にみると、「生徒や市民への対応を想定し、学校教員や行政職員への研修等を行う」との回答は30歳代～40歳代で4割台半ばと高くなっている。

8 行政への要望について

すべての方におたずねします。

問 37 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は5つまで)

【全体】



男女共同参画を勧めるために行政が力を入れるべきことについて、「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」との回答が44.7%と最も高く、次いで「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」(43.5%)、「学校での男女共同参画についての教育を充実する」(40.5%)などの順となっている。

【男女共同参画を進めるために、行政が力を入れるべきこと 性年代別(上位9位)】

(%)

	n 数	支援する仕事や介護中であつても、子育てや介護中であつても、仕事を辞めた人への支援	結婚や子育てで、仕事を辞めた人への支援	活動や共同参画の広報・啓発	性教育や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する	社会教育など生涯学習の場	教育や虐待などの問題について、DVや相談しやすい体制につ	学校での男女共同参画につ	企業等に対して、性別場につ	子育てや介護中であつても、仕事を辞めた人への支援	支援する仕事や介護中であつても、子育てや介護中であつても、仕事を辞めた人への支援
全体	731	44.7	43.5	40.5	30.0	29.4	26.0	25.2	20.5	19.8	
性年代別	男性30歳未満	12	33.3	16.7	33.3	16.7	25.0	25.0	33.3	33.3	
	男性30歳代	25	28.0	28.0	40.0	20.0	20.0	32.0	16.0	32.0	16.0
	男性40歳代	35	37.1	45.7	34.3	25.7	28.6	8.6	11.4	42.9	14.3
	男性50歳代	50	52.0	42.0	34.0	42.0	28.0	20.0	28.0	22.0	22.0
	男性60歳以上	208	37.0	43.8	42.8	27.4	34.1	18.8	41.3	14.4	25.5
	女性30歳未満	34	38.2	41.2	32.4	38.2	35.3	32.4	14.7	47.1	20.6
	女性30歳代	29	62.1	37.9	48.3	24.1	24.1	37.9	13.8	44.8	17.2
	女性40歳代	52	65.4	32.7	44.2	42.3	32.7	36.5	11.5	30.8	9.6
	女性50歳代	60	66.7	48.3	45.0	31.7	26.7	33.3	13.3	16.7	10.0
	女性60歳以上	217	42.9	49.8	40.1	28.1	26.7	29.0	22.1	12.4	20.3

1位 2位 3位

性年代別にみると、「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」との回答は男性50歳代で5割超、女性30歳代～50歳代で6割超と高くなっている。

【男女共同参画を進めるために、行政が力を入れるべきこと 子ども有無別(上位9位)】

(%)

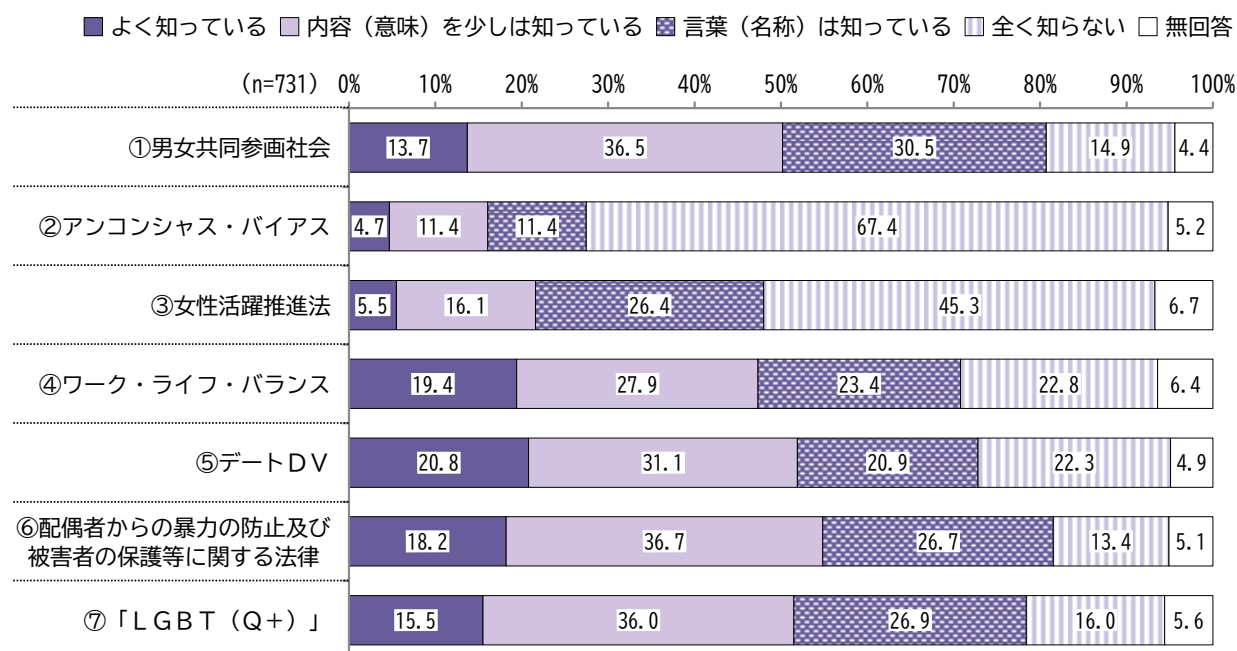
	n 数	支援する仕事や介護中であつても、子育てや介護中であつても、仕事を辞めた人への支援	結婚や子育てで、仕事を辞めた人への支援	活動や共同参画の広報・啓発	性教育や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する	社会教育など生涯学習の場	教育や虐待などの問題について、DVや相談しやすい体制につ	学校での男女共同参画につ	企業等に対して、性別場につ	子育てや介護中であつても、仕事を辞めた人への支援	支援する仕事や介護中であつても、子育てや介護中であつても、仕事を辞めた人への支援
全 体	731	44.7	43.5	40.5	30.0	29.4	26.0	25.2	20.5	19.8	
有子無ど別も	就学前の子どもがいる	47	53.2	29.8	44.7	27.7	14.9	34.0	14.9	55.3	14.9
	小学生の子どもがいる	63	54.0	33.3	44.4	23.8	23.8	30.2	15.9	33.3	17.5
	就学前・小学生の子どもはいない	604	43.7	44.9	39.9	31.1	30.5	26.0	27.0	17.4	20.7

1位 2位 3位

子ども有無別にみると、就学前の子どもがいる人では、「結婚や子育てで、仕事を辞めた人への支援」との回答が5割以上を占めており1位となっている。

問 38 あなたは、次にあげる用語の意味を知っていますか。(○は1つずつ)

【全体】

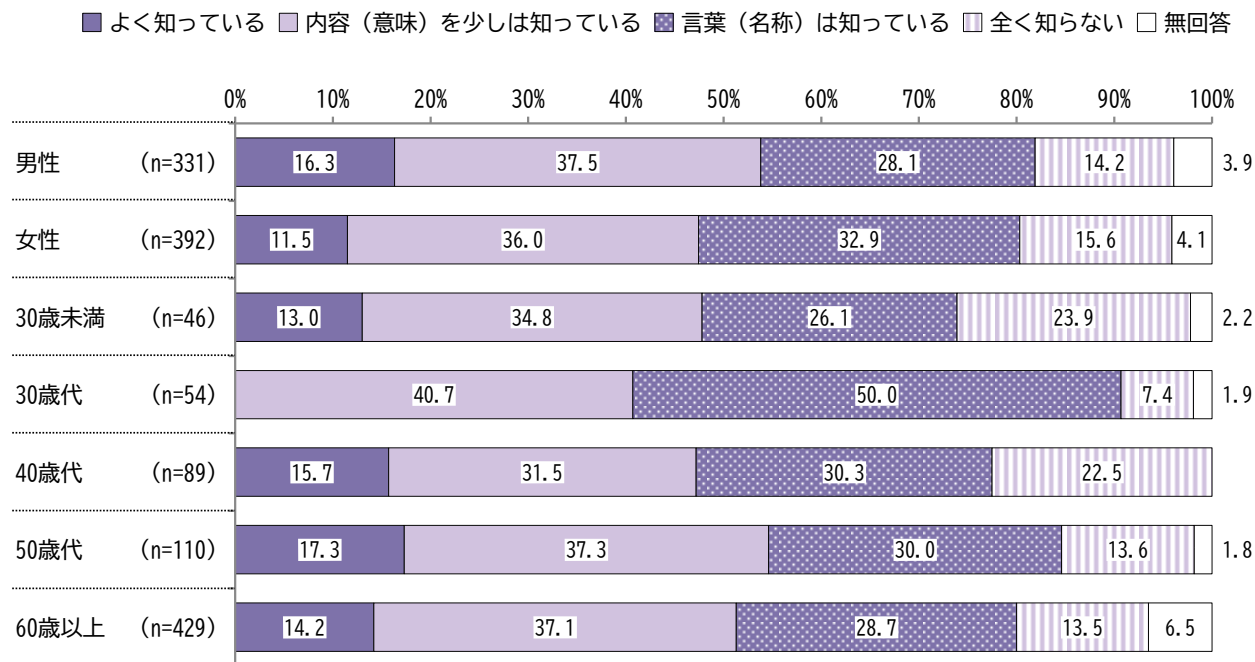


男女共同参画に関連する用語の意味の認知度について、『知っている（「よく知っている」＋「内容（意味）を少しは知っている」＋「言葉（名称）は知っている」）』は「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」との回答が81.6%と最も高く、次いで「①男女共同参画社会」（80.7%）、「⑦「LGBT (Q+)」」（78.4%）などの順となっている。

一方で、「全く知らない」は「②アンコンシャス・バイアス」との回答が67.4%と最も高く、次いで「③女性活躍推進法」（45.3%）、「④ワーク・ライフ・バランス」（22.8%）などの順となっている。

① 男女共同参画社会

【男女共同参画社会 性別・年代別】

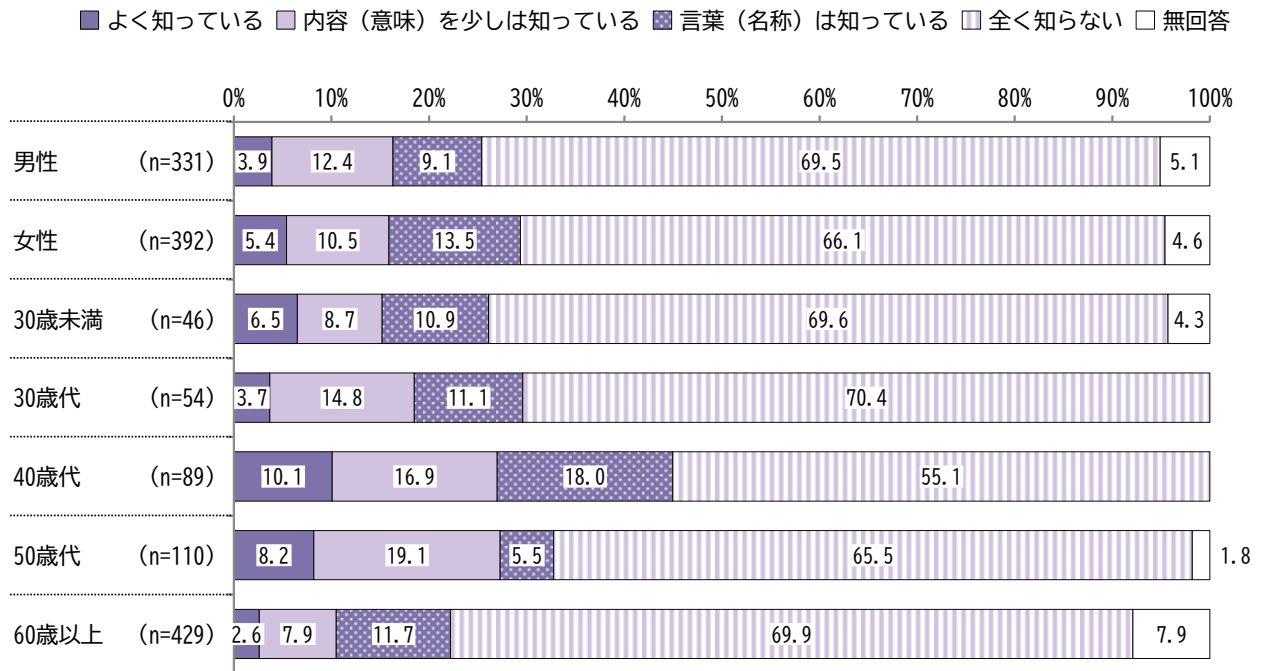


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『知っている』との回答は30歳代で約9割と高くなっている。

② アンコンシャス・バイアス(固定的な性別役割分担意識)

【アンコンシャス・バイアス 性別・年代別】

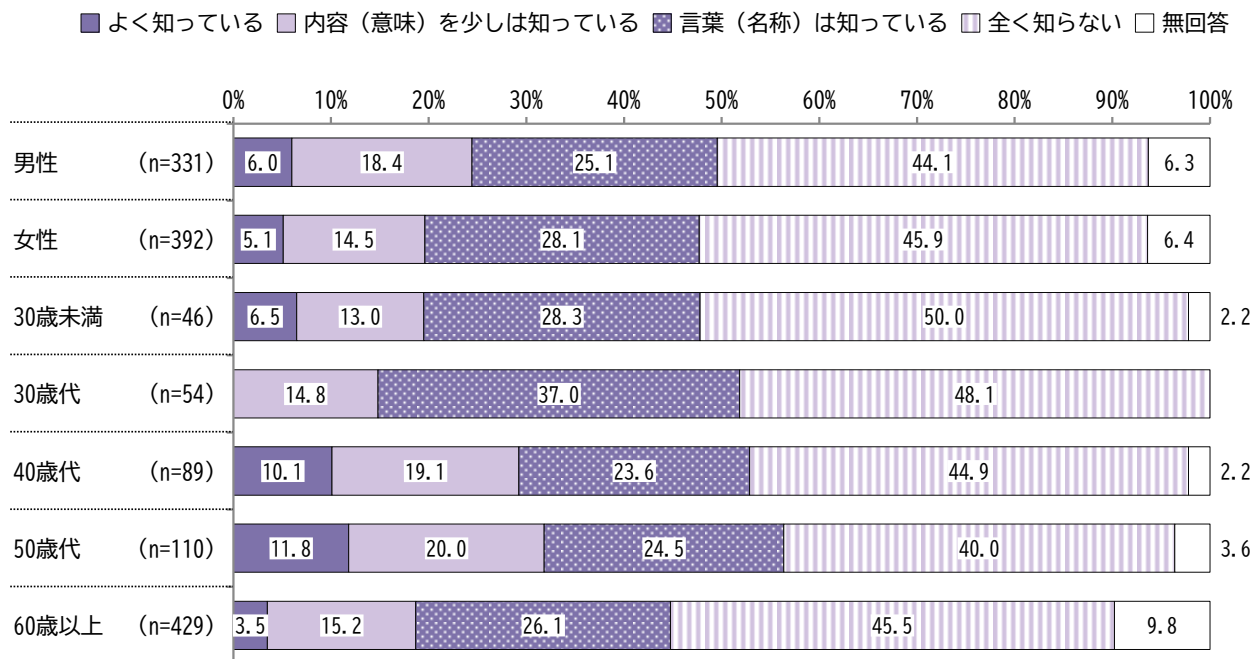


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『知っている』との回答は40歳代で4割台半ばと高くなっている。

③ 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

【女性活躍推進法 性別・年代別】

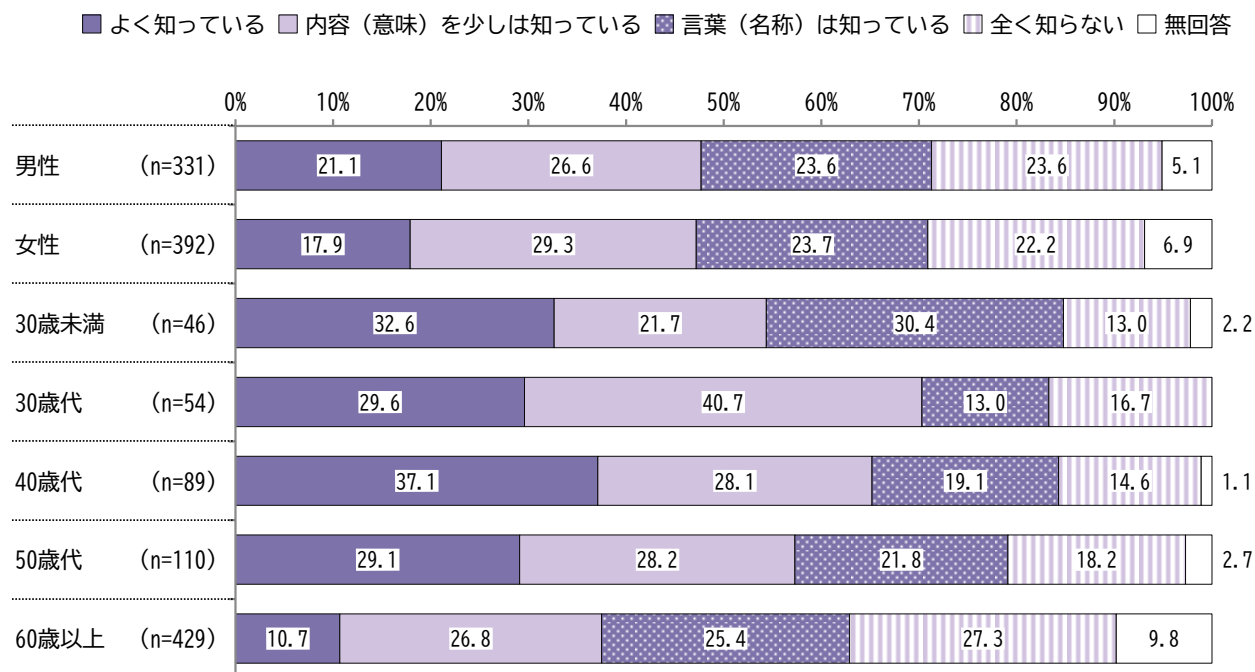


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『知っている』との回答は30歳代～50歳代で5割超と高くなっている。

④ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

【ワーク・ライフ・バランス 性別・年代別】

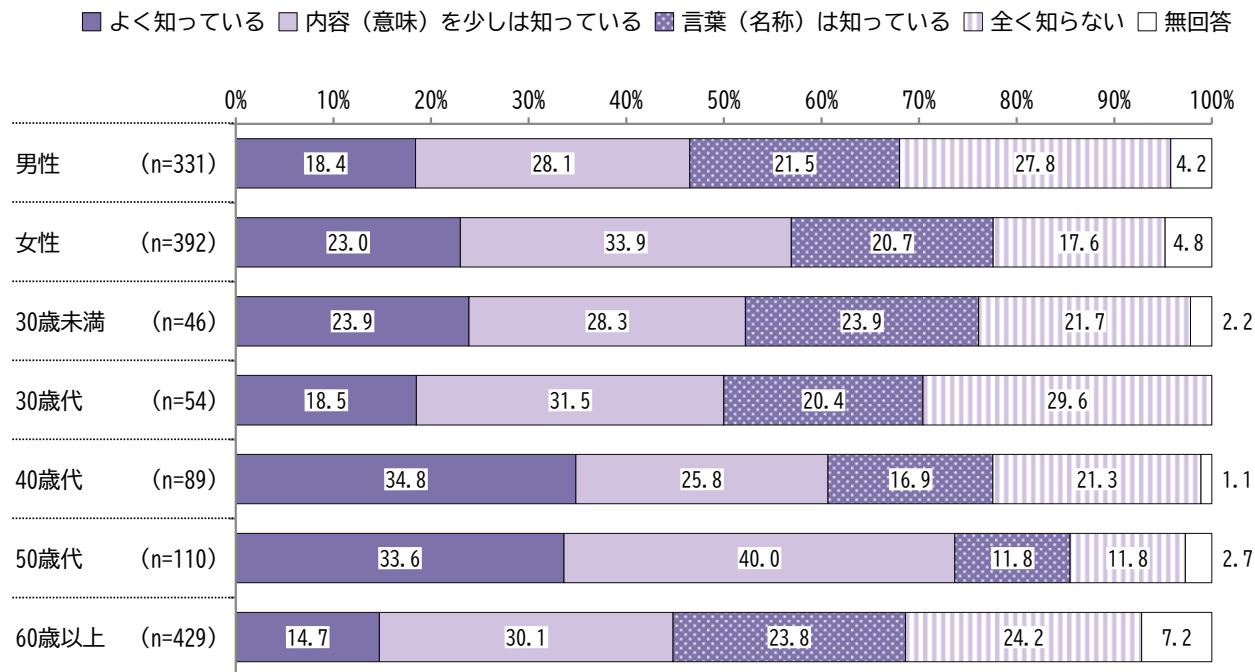


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『知っている』との回答は30歳未満～50歳代で約8割と高くなっている。

⑤ デートDV(恋人同士などの間で起こるドメスティック・バイオレンス)

【デートDV 性別・年代別】

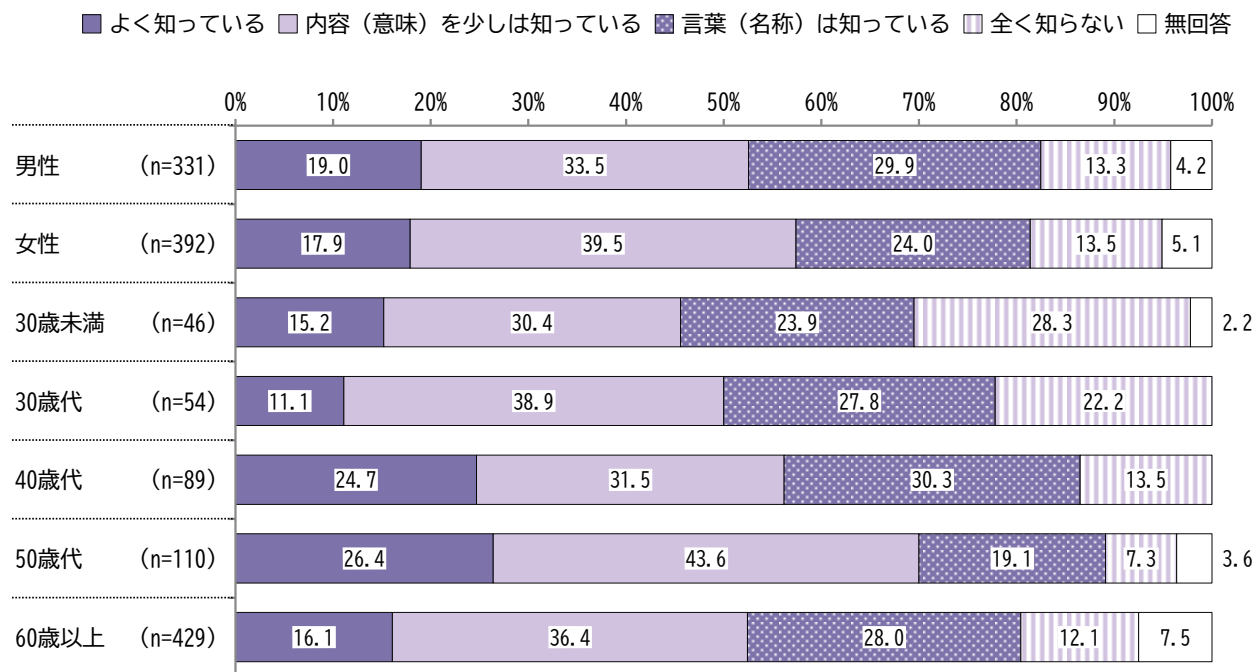


性別にみると、『知っている』との回答は男性（68.0%）が女性（77.6%）を9.6ポイント下回っている。

年代別にみると、『知っている』との回答は50歳代で8割台半ばと高くなっている。

⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

【配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 性別・年代別】

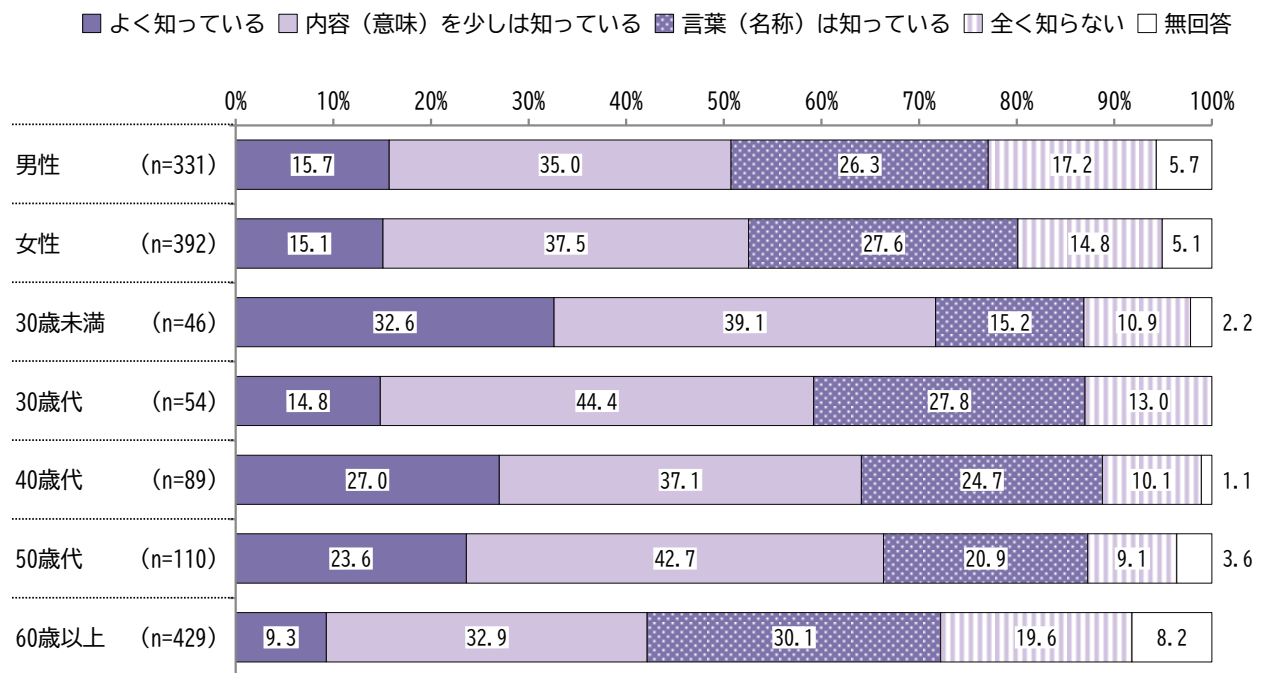


性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『知っている』との回答は50歳代で約9割と高くなっている。

⑦ 「LGBT(Q+)」(エルジービーティーキュープラス)

【「LGBT(Q+)」 性別・年代別】



性別にみると、大きな差はみられない。

年代別にみると、『知っている』との回答は30歳代～50歳代で約9割と高くなっている。

自由意見(抜粋)

あなたが、家庭や社会の中で感じている男女の役割や生活などについて男女共同参画の視点からご意見などご自由にお書きください。

① 男女共同参画意識の浸透

- あまり当てはまらなかったのでの的外れかもしれませんがアンケートの内容自体が女性向けに書かれているのではないかと思います。(男性、30歳未満)
- 性別による優遇のない、性別を気にしなくて良い社会になって欲しい。但し配慮は必要。シングルファザーはシングルマザーに比べて支援が少ないと聞く。せめて国や市町村が作る制度くらいは平等にすべきである。男女平等を叫ばれる世の中だが、逆に女性が優遇される傾向を感じる。性別でなく能力で考えて欲しい。(男性、40歳代)
- 40歳半ば以上と、30歳半ば以下との間で、男女の役割等についての考え方や価値観に大きな隔たりがある様に感じる。互いの考え方や価値観を尊重した上で、これからの社会を支える若い世代の考え方や価値観に合わせる事が大切だと考える。(男性、60歳以上)
- 男女の役割については、私の親世代(60代)以上の固定観念が強く、それを今の時代に合ったものに変えるのは難しいと感じます。私も男女の役割について親からの影響を強く受けてきましたが、夫が家事を平等にやってくれるので、価値観が自然に変わっていきました。男女共同参画を実現するためには、女性でも結婚、不妊治療、出産、育児を続けながらも仕事ができるように金銭面、昇進、休暇、時短勤務など、不利にならないような制度を充実させてもらいたいです。特に40代以下の市民の声に耳を傾け(60代以上ではなく)、若い世代の意識改革を中心に、市には取り組んでいただきたいです。また、こうした取り組みをするには必ず実情をよく知っている女性の意見を取り入れていただきたいです。(女性、30歳代)
- 制度を変えること、社会が理解を深めることも大事だが、自分自身が主体的に変えていこうという人が増えないと根本的には変わらないと思うし、投資するお金がもったいないと思う。そういう本質を考える機会をもっと作っていくべきだと思う。(女性、40歳代)
- 広島県は家制度(長男、嫁)家を守る介護等を女性に負担のかかる昔ながらの考え方の高齢者が多い。そういう考え方が男女の差別を生む(女性、50歳代)

② 男女共同参画の基本的な考え方を大切にした教育の推進・充実

- 理想は社会全体の意識改革だと思うが、現実では何十年も培ってきた「男→上、女→下」や「男→中心、女→補助」などのアンコンシャスバイアスをなくするのは難しいと思うので、学校教育の中でしっかり幼児のうちから意識させるのがよいと思う。タバコの害など、最近の若い方が嫌がる人が多いのは教育の成果かなと思うので。また全員が人ごとと思わず、自分も無意識に差別、区別していることを自覚し、改善すべきと思う。(女性、50歳代)
- 戦前までの男尊女卑の教育、風習、社会通念は終戦になった。教育制度が変わっても戦前の思想で子を育てるため、子もまた影響を受ける。それを変えていくのは、やはり教育ではないか、と思う。その教育をする教師の資質も大きく影響すると思う。昔は、校長は男だった。やっと女性の校長が出てきているけど、日本の女性の地位は世界で下の方、後進国と思う。(女性、60歳以上)

- 学校教育・家庭教育などでこれからの社会の担い手への教育によって、少しずつ（ジェンダーフリー）の社会にしていくことを取り組む。（女性、60歳以上）

③ 働く場における男女共同参画の推進

- 育児、介護中の配偶者で、本当は働きに出たい者へ、在宅勤務の推進を、行政で考えて頂きたい。そのような求人も出るよう。（男性、40歳代）
- 結婚していない女性は社会では役に立たないというような風潮があり、私は働くところが無い。（女性、40歳代）
- 生活しにくいと感じることが多い一番の理由は経済的な金銭問題。女性の収入だけでは、家庭生活がなり立たない（子供を私立大学に入れる余裕）現状を、変えていかなければならないと思う。（女性、50歳代）
- 女性が社会活動に参加する事は当然ですが、結婚、出産後の復職が難しい事が多いように思います。保育園や学童保育の充実が望まれると思います。企業も一旦退職すると、せっかく育てた人材を失うことなく、復帰のチャンスを多くすることができたらよいと思います。（女性、60歳以上）
- 働く場合の男女の賃金の格差を感じる。男性には家賃補助とかあるが女性にはない。（女性、60歳以上）
- 男女問わず、能力に対しての賃金が支給されることを望む。家族の介護で働けない人たちが、安心して暮らせる社会になって欲しい。（女性、60歳以上）

④ ワーク・ライフ・バランスの推進

- 多様な意見、多様な働き手は社会的に必須と考えますが、一方で古い固定観念から抜け出せない現状もあります。また男女平等ひとつをとっても、自由に労働できる時間格差は甚だしく、女性は育児に関わり始めるとどうしても長時間労働、突発的な対応ができなくなり、肩身の狭い思いをしています。そもそもの根源である長時間労働をする社員が頑張っているという単純な構図を見直すべき。拙速な革新よりも、意識醸成の啓蒙などゆっくりだけど確実な方法で数十年先を見据えた施策を期待します。（男性、40歳代）
- 建設業界で働いていますが、今の環境だと、家庭と仕事の両立は難しく、女性はやめる方向で考えてしまいます。男性・女性とともに長時間労働なので、各業界への対策も必要かなと思います。（女性、30歳未満）
- 男女共同参画を阻んでいるのは長時間労働だと思います。まずは小中学校の先生方の労働時間を減らすことで、先生方の男女共同参画は進むのではないのでしょうか？（女性、30歳代）
- 男性の働く時間が長いため、どうしても女性の家事負担が増える。収入を増やすために女性がフルで働いてもどうしても、帰りが早い女性がそこから家事育児を担当せざるを得ない。広島県下ではまだまだ男性が働き女性が家庭を守るといった形が多いと思う。その中で男女平等は難しい。（女性、40歳代）
- 私もずっと働いてきましたし、子育てで男女差を感じさせることはありませんでした。子供は配偶者ととてもよい生活を送っています。本人も夫も育休をとるし、子どものための休暇もとります。リモートワーク等、仕事の仕方も多様になり、充実しているようです。女性も働くべきですし、そ

のための制度が必要です。自立してこそ、よい生活がおくれます。保育園に待ちがある等、考えられません。行政のやるべき事はたくさんあるし、まだまだと感じています。(女性、60歳以上)

⑤ 家庭や地域における男女共同参画の推進

- PTAや子供会行事などは女性（母親）がやらざるをえない雰囲気がある。平日開催や今までの習慣からだと思う。女性ばかりに負担がある。男女共同参画というなら、地域、学校、企業全体で理解し合わないと言葉だけでは無理だと思う。社会を見ている、子どもが熱を出したり学校行事の際に休まざるをえないのは女性（母親）であり社会もそれを容認しているように思う。これだけ見ても男女共同参画はなかなか難しく、浸透していくには時間もかかると感じる。(女性、40歳代)
- 結婚して30年目になります。私は仕事もし、休日はいつもできない家事や掃除をしています。主人といえば仕事から帰ったらすぐにお酒をのみ、休みの日もパチンコやDVD、マッサージなど自分の事を中心に行い、家事の事には気にもかけていない様子です。何かを頼むと、大きなため息をついたり、腰が痛いなど態度に出てきて、頼んでやってもらっていても気分がよくないのです。かといって、自分で全部やるのはおかしいような気もしています。このような事は我が家だけの事ではなく、他のご家庭でもよくある事と思います。男女が仕事も家庭の事も育児も平等になるには、子どもの頃からの考え方を育てる事が必要だと思います。今は少しずつ少なくなっているのですが、まだまだ男はこうあるべき女はこうあるべきのべきが強く残っていると思います。そして、思いやり、自分に何かできる事があるのではないかと気にする、気づく気持ちを育てる事が大切だと思います。(女性、50歳代)
- PTAや地域活動に長年参加しました。今も少しだけ参加しています。今でも、会議には女性が少数です。男女平等とはいえ、それぞれの目線が違うこと（これが大変。でも今はこれが大切。双方が近づいていくことがいるのかなと思います。）も向き合うべき現実だと思います。時間のかかることだとは思いますがコツコツと男女共同参画進めてください。(女性、60歳以上)
- 自分は今仕事をしていないが、娘の所の様子を聞くと、（共働き）育児休暇を取得したり、時間を短かくしたりして、協力して子育てをしているようで、昔より男女共同参画がなされていると感じるが、公民館活動や、町内会でまだ古い考えが残っていて、男性だけのルールで回っていたり、女性の意見が尊重されない場合が多く見られ、残念に思う。(女性、60歳以上)

⑥ 方針決定過程への女性の参画の推進

- 男女には生物的にはっきりと能力差があるので互いに理解し役割を分担する事は大切。差別ではなく区別を理解する事。女性でも仕事で男性より良い成果を出す人が沢山いるので、性別を問わず優秀な人は地位や給料などで公平に評価されるべき。(男性、40歳代)
- 実際行政の管理職の女性割合を考えた時、職員の男女比と比較した時に同様の比率になっているのか、なっていないのだとしたらなぜなのだろうかと思います。(女性、50歳代)

⑦ 生涯を通じた男女の健康と自立の支援

- 男女共同参画、LGBTQ+には、不満が溜まっています。
 - ・理念は素晴らしいが、悪用されている状況が多々あるように見受けられる。

- ・男女共同参画、LGBTQ+の価値観の押し付け感が不快。
- ・男女共同参画とは関係ないものに税金が投入されていたことに対する不信感。
- ・男尊女卑の社会通念は良くないが、その考え方も個性であり、それが多様性だと思う。
- ・LGBTQ+の危険性を理解してるのか不明瞭。性的マイノリティの多様さに行政が対処できるのか不安。
- ・ストーカー被害、児童虐待、いじめ問題へもっと強権を持つようにし、対応して欲しい。なぜ加害者に優しい世を作るのか。被害者が出ないよう厳しくするべき。
- ・個人的な意見ですが、民間より行政側の方が男尊女卑であるように感じます。(男性、30歳代)

●能力がある人が男女の差で不利益を受けるようなことは改善し、家庭や社会において男女どちらでもできることは双方が話し合っ分担するなど、男女平等に扱われるべきであるが、性別に特性があることは間違いのないことなので、必要以上にそれぞれの「らしさ」を否定することには反対。また、性的マイノリティへの理解は必要であるが、最近はマイノリティに対して過剰な反応、対応により、本来の性別で生活することに支障をきたすのではないかと懸念している(すでに日頃の発言などに生きづらさを感じる)。社会的な生活をお互いに平穏に過ごすためには、マイノリティに関する制度改正などはマジョリティの意見もしっかりと聞いた上で慎重に進めることが必要。(女性、40歳代)

⑧ 男女間の暴力の防止と被害者への支援の推進

- 女性でも「わたしたちの時代はこうだった」と言ってくる人がいる。(管理職で)。管理職の育成をして欲しい。そのようなパワハラもあり辞職する女性はたくさんいる。(女性、30歳代)
- 昭和生まれの夫は、働いて得たお金は自分のものと思っている。専業主婦の役割の大きさについて、全くと言っていいほど、理解していない。自分の思い通りにならないと「金を渡さない」と脅し、大声で当たり散らす。普段は良き夫なので、表には出ないが、他の男性も同じように感じる人が多い。各々の役割の価値を男女ともに理解し合うことが必要と思う。(女性、60歳以上)

⑨ その他の意見

- 社会構造、制度・税制が、構造的に共同参画の視点でない旧制度のままになっている。103万の壁も女性は家事をして夫を支える認識で作られた税制度です。世帯主は所得の多いのは男と前提している。男女共同の視点で世帯主制度を考える必要がある。この社会は経済力のある男性優位の男性の視点でできている。女性の経済力を支える社会は、男性にとっても生き易い社会になることを啓発して行く必要がある。それを支えるのが、ジェンダー平等です。(女性、60歳以上)
- 人間の本能として子供を育てたり、家庭を守る能力は女性が優れているし、男性の持つ思考でうまくいく事もあります。人間本来のそうした特性もふまえた上で、男女が社会をうまく支えながら、個々の人生を豊かにできる社会になって行けたらと思います。「女性活躍」などという言葉を使っている時点で、女性を軽蔑しているようにも思えるので、「全員」とか「市民」など男女隔てのない表現にする事も大切ではないかと思えます。子育てしながら働く人には、子育ても立派な仕事であることを認め、賃金をあげるなど対策があっても良いと思います。(40歳代)

2章 男女共同参画に関する事業所アンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の計画期間満了（令和7年度末）に伴い、現計画の施策や事業の評価等を行うとともに、事業所の実態や意識等を調査し、その後の社会経済情勢の急速な変化や新たな課題に対応した、今後10か年の目標や施策、具体的な取組等をまとめた「第3次廿日市市男女共同参画プラン」（以下「プラン」という。）を策定するための基礎資料とするために実施した。

2. 調査の設計

（1）調査地域 廿日市市全域

（2）調査対象 市内の商工会議所及び商工会の会員である事業所のうち200法人を無作為抽出

（3）標 本 数 200事務所

（4）調査方法 郵送又はWEB方式

（アンケートは郵送方式を基本とするが、回答については、回答者がWEBでの回答を選択できる形とする）

（5）調査期間 令和6（2024）年10月23日（水）～11月15日（金）

3. 調査項目

（1）事業所の名称などについて

（2）雇用管理について

（3）女性の活躍の推進について

（4）ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（5）デジタル化について

（6）ハラスメントの防止について

（7）市として重点的に取り組むべきことについて

4. 回収結果

（1）有効回収数 59事務所

（2）有効回収率 29.5% ※参考 平成30（2018）年調査の有効回収率：29.5%

5. 報告書の見方

- (1) 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- (2) 回答比率(%)は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- (3) 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (4) 表・グラフの属性別データは、無回答や著しく回答者の少ない属性を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。
- (5) 図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 従業員数別については、5ポイント以上の差がない場合は「大きな差はみられない。」との表記としている。

Ⅱ 調査結果

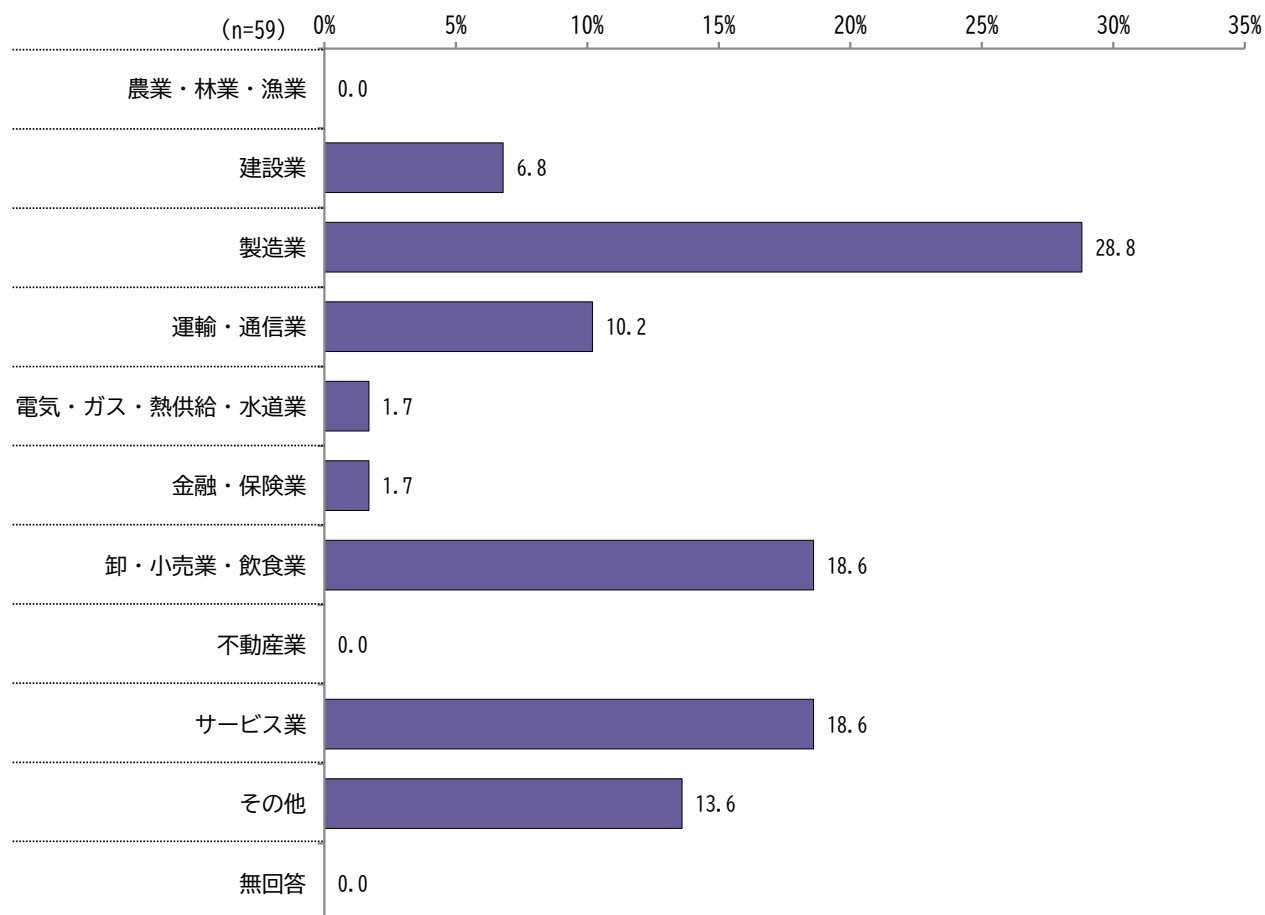
1 事業所について

すべての事業所におたずねします。

問1 次の項目について、それぞれお答えください。

① 業種

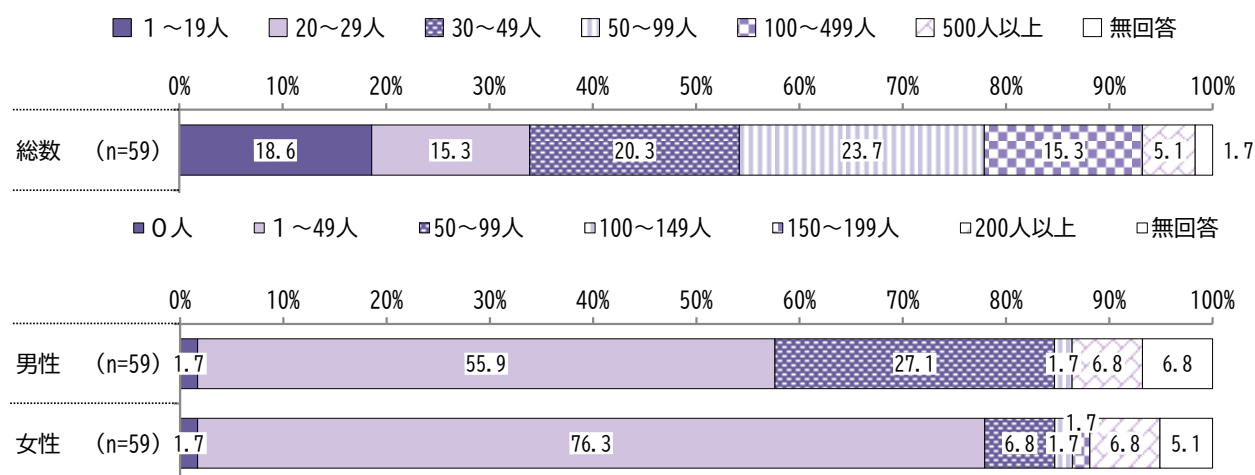
【全体】



業種について、「製造業」との回答が28.8%と最も高く、次いで「卸・小売業・飲食業」、「サービス業」（ともに18.6%）、「運輸・通信業」（10.2%）などの順となっている。

②-1 従業員数(全体)

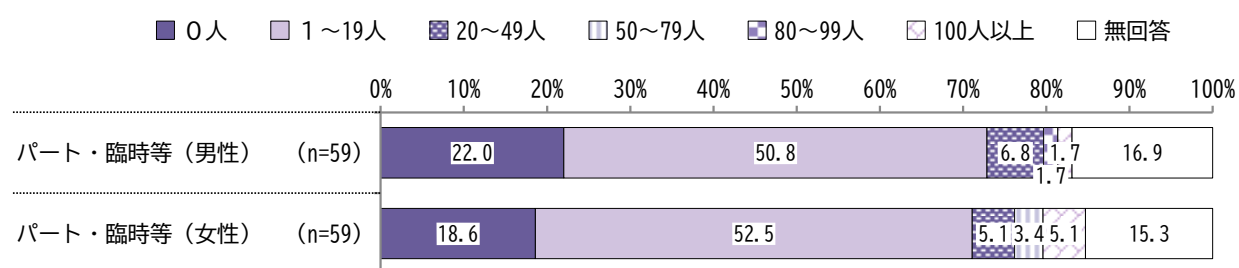
【全体】



従業員数(全体)について、「50～99人」との回答が23.7%と最も高く、次いで「30～49人」(20.3%)、「1～19人」(18.6%)などの順となっている。男性は「1～49人」との回答が55.9%と最も高く、次いで「50～99人」(27.1%)、「200人以上」(6.8%)などの順となっている。女性は「1～49人」との回答が76.3%と最も高く、次いで「50～99人」、「200人以上」(ともに6.8%)、「0人」、「100～149人」、「150～199人」(ともに1.7%)などの順となっている。

②-2 従業員数(うち パート・臨時等)

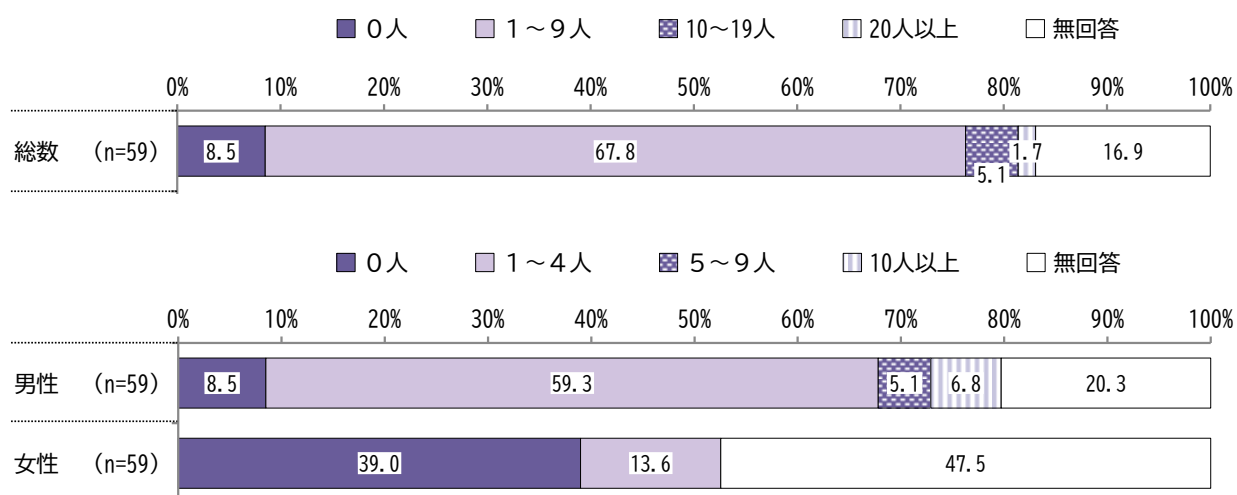
【性別】



従業員数(うち パート・臨時等)について、男性は「1～19人」との回答が50.8%と最も高く、次いで「0人」(22.0%)、「20～49人」(6.8%)などの順となっている。女性は「1～19人」との回答が52.5%と最も高く、次いで「0人」(18.6%)、「20～49人」、「100人以上」(ともに5.1%)などの順となっている。

③-1 管理職人数(部長相当職)

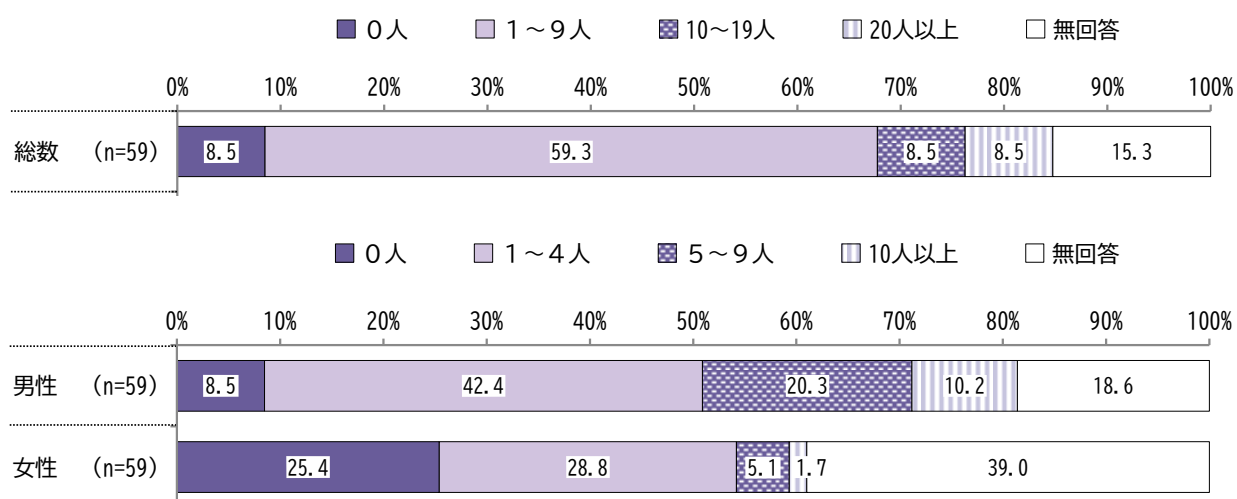
【全体】



管理職人数(部長相当職)について、「1～9人」との回答が67.8%と最も高く、次いで「0人」(8.5%)、「10～19人」(5.1%)などの順となっている。男性は「1～4人」との回答が59.3%と最も高く、次いで「0人」(8.5%)、「10人以上」(6.8%)などの順となっている。女性は「0人」との回答が39.0%と最も高く、次いで「1～4人」(13.6%)などの順となっている。

③-2 管理職人数(課長相当職)

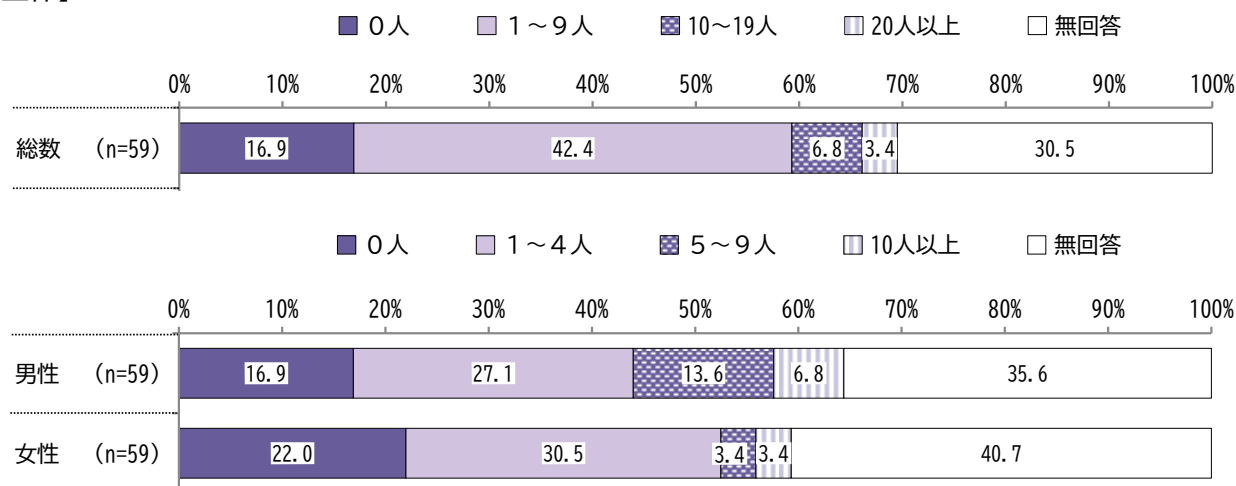
【全体】



管理職人数(課長相当職)について、「1～9人」との回答が59.3%と最も高く、次いで「0人」、「10～19人」、「20人以上」(ともに8.5%)などの順となっている。男性は「1～4人」との回答が42.4%と最も高く、次いで「5～9人」(20.3%)、「10人以上」(10.2%)などの順となっている。女性は「1～4人」との回答が28.8%と最も高く、次いで「0人」(25.4%)、「5～9人」(5.1%)などの順となっている。

③-3 管理職人数(係長相当職)

【全体】



管理職人数(係長相当職)について、「1～9人」との回答が42.4%と最も高く、次いで「0人」(16.9%)、「10～19人」(6.8%)などの順となっている。男性は「1～4人」との回答が27.1%と最も高く、次いで「0人」(16.9%)、「5～9人」(13.6%)などの順となっている。女性は「1～4人」との回答が30.5%と最も高く、次いで「0人」(22.0%)、「5～9人」、「10人以上」(ともに3.4%)などの順となっている。

【経年比較】

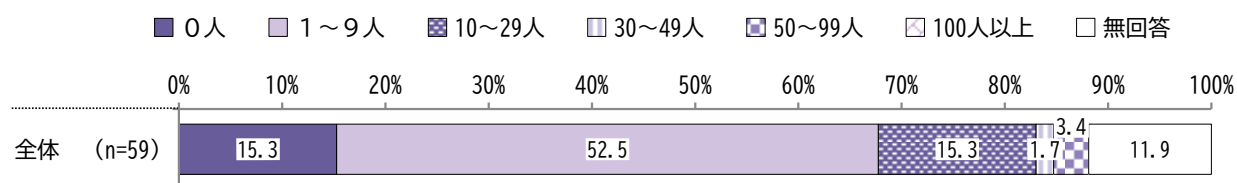
<割合>		H30 (n=38)		→	R6 (n=59)	
		男性	女性		男性	女性
管理職	部長相当職	92.1%	7.9%	→	94.6%	5.4%
	課長相当職	90.7%	9.3%	→	81.4%	18.6%
	係長相当職	84.1%	15.9%	→	58.6%	41.4%
	計	87.6%	12.4%	→	75.2%	24.8%

<人数>		H30 (n=38)			→	R6 (n=59)		
		合計	男性	女性		合計	男性	女性
管理職	部長相当職	140人	129人	11人	→	167人	158人	9人
	課長相当職	397人	360人	37人	→	361人	294人	67人
	係長相当職	522人	439人	83人	→	331人	194人	137人
	計	1,059人	928人	131人	→	859人	646人	213人

経年比較でみると、管理職全体に占める女性の割合はR6 (24.8%) がH30 (12.4%) を12.4ポイント上回っている。役職が上がるにつれ、男性の割合が高くなっており、部長相当職に占める女性の割合は依然として1割未満となっている。

④ 令和5年度採用実績

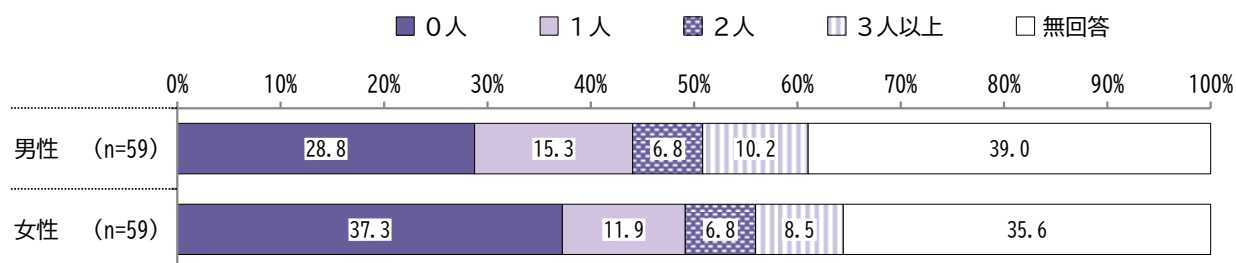
【全体】



令和5年度採用実績について、「1～9人」との回答が52.5%と最も高く、次いで「0人」、「10～29人」（ともに15.3%）、「50～99人」（3.4%）などの順となっている。

④-1 令和5年度採用実績(新規採用)

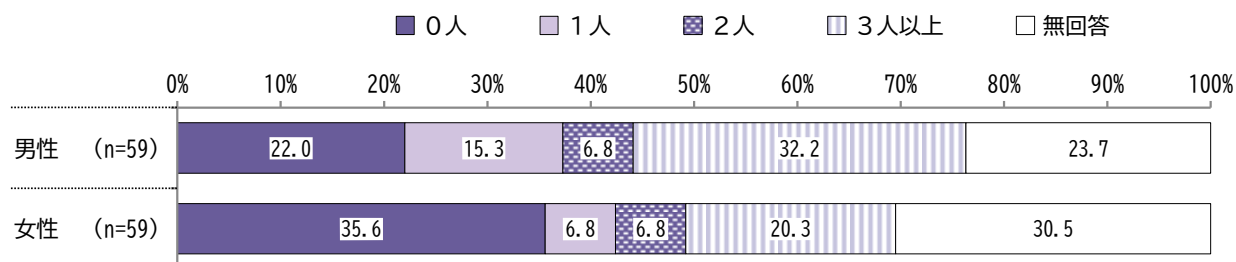
【性別】



令和5年度採用実績（新規採用）について、男性は「0人」との回答が28.8%と最も高く、次いで「1人」（15.3%）、「3人以上」（10.2%）などの順となっている。女性は「0人」との回答が37.3%と最も高く、次いで「1人」（11.9%）、「3人以上」（8.5%）などの順となっている。

④-2 令和5年度採用実績(中途採用)

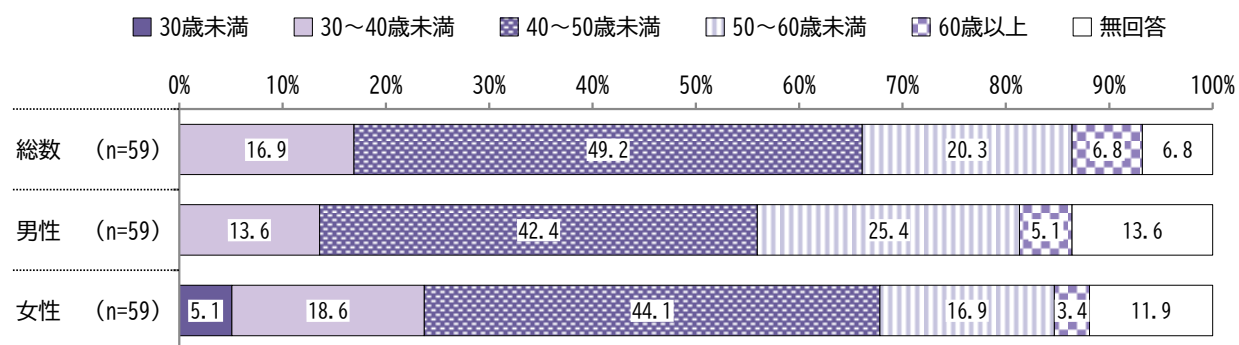
【性別】



令和5年度採用実績（中途採用）について、男性は「3人以上」との回答が32.2%と最も高く、次いで「0人」（22.0%）、「1人」（15.3%）などの順となっている。女性は「0人」との回答が35.6%と最も高く、次いで「3人以上」（20.3%）、「1人」、「2人」（ともに6.8%）などの順となっている。

⑤ 平均年齢

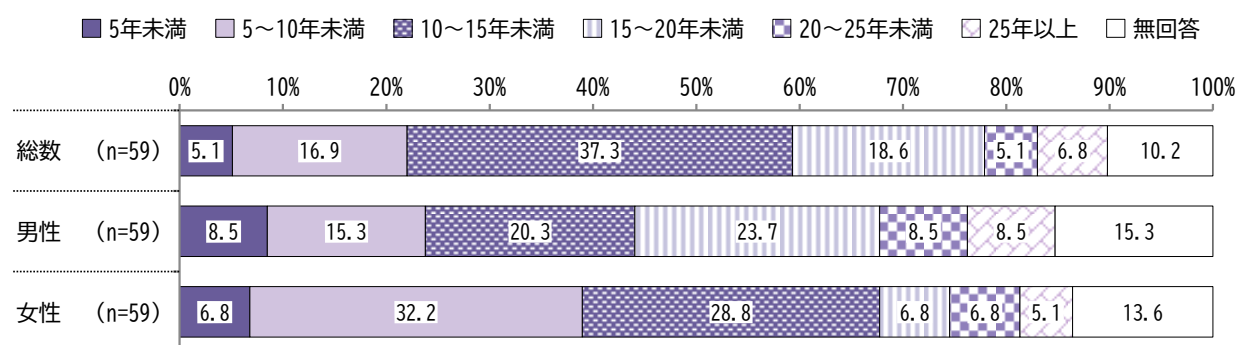
【全体】



平均年齢について、「40～50歳未満」との回答が49.2%と最も高く、次いで「50～60歳未満」(20.3%)、「30～40歳未満」(16.9%)などの順となっている。男性は「40～50歳未満」との回答が42.4%と最も高く、次いで「50～60歳未満」(25.4%)、「30～40歳未満」(13.6%)などの順となっている。女性は「40～50歳未満」との回答が44.1%と最も高く、次いで「30～40歳未満」(18.6%)、「50～60歳未満」(16.9%)などの順となっている。

⑥ 平均勤続年数

【全体】

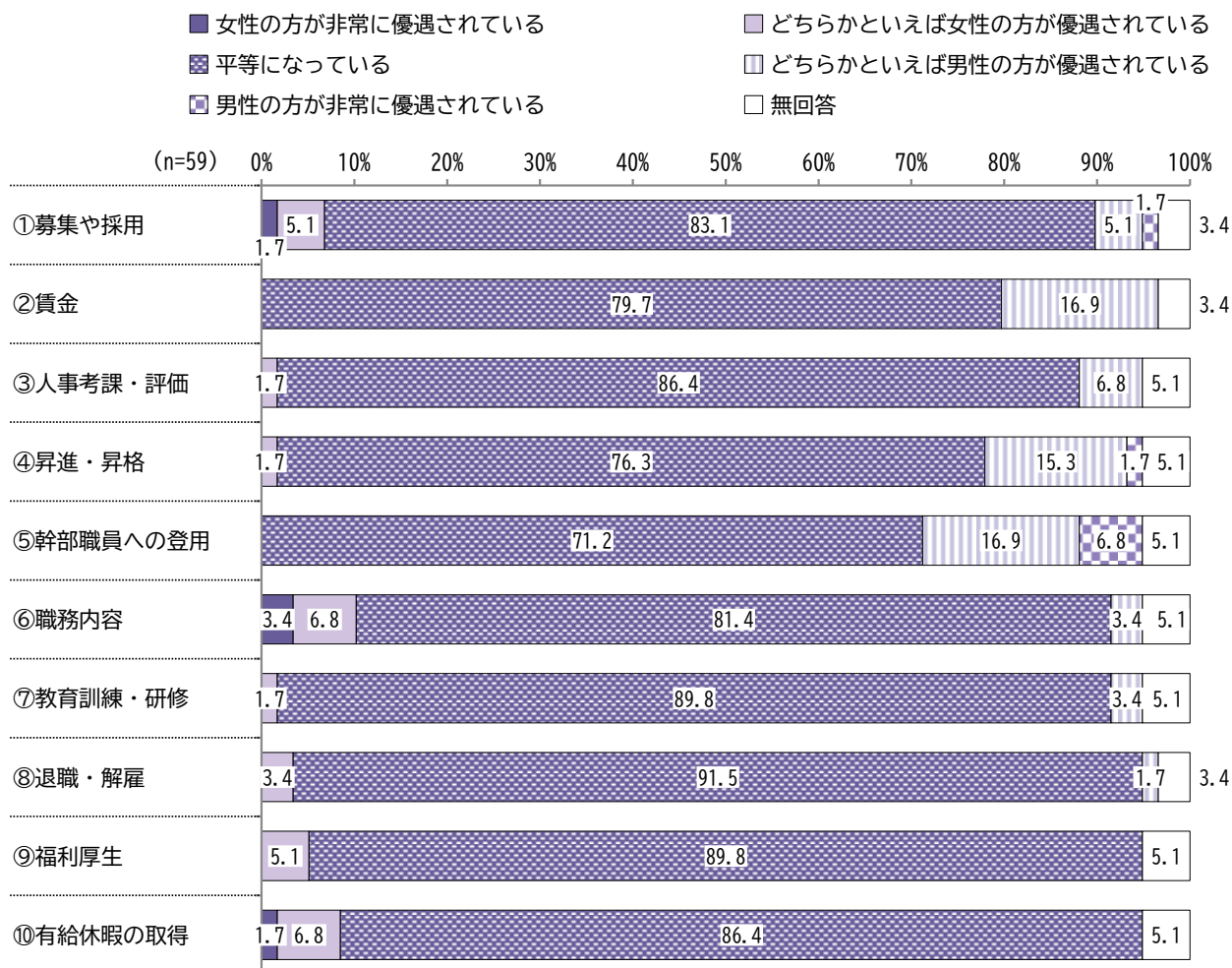


平均勤続年数について、「10～15年未満」との回答が37.3%と最も高く、次いで「15～20年未満」(18.6%)、「5～10年未満」(16.9%)などの順となっている。男性は「15～20年未満」との回答が23.7%と最も高く、次いで「10～15年未満」(20.3%)、「5～10年未満」(15.3%)などの順となっている。女性は「5～10年未満」との回答が32.2%と最も高く、次いで「10～15年未満」(28.8%)、「5年未満」、「15～20年未満」、「20～25年未満」(ともに6.8%)などの順となっている。

2 雇用管理について

問2 現在、あなたの事業所では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。①～⑩の項目について、それぞれお答えください。(〇は1つずつ)

【全体】

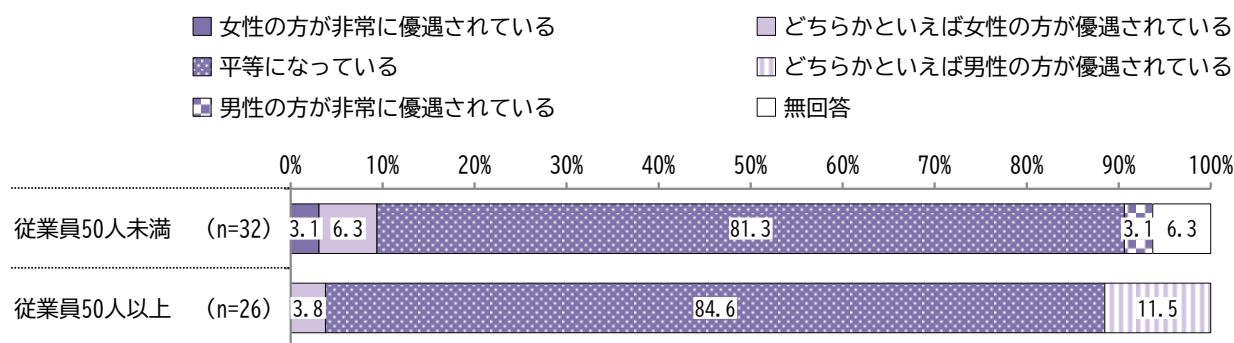


事業所での男女の扱いについて、『男性優遇（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）』は「⑤幹部職員への登用」との回答が23.7%と最も高く、次いで「④昇進・昇格」（17.0%）、「②賃金」（16.9%）などの順となっている。

一方で、「平等になっている」は「⑧退職・解雇」との回答が91.5%と最も高く、次いで「⑦教育訓練・研修」、「⑨福利厚生」（ともに89.8%）、「③人事考課・評価」、「⑩有給休暇の取得」（ともに86.4%）などの順となっている。

①募集や採用

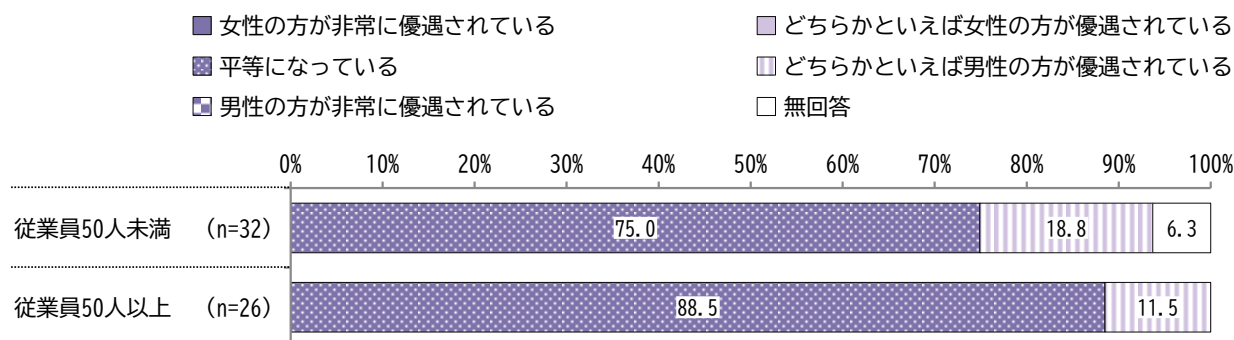
【募集や採用 従業員数別】



従業員数別にみると、『男性優遇』との回答は従業員50人以上（11.5%）が従業員50人未満（3.1%）を8.4ポイント上回っている。

②賃金

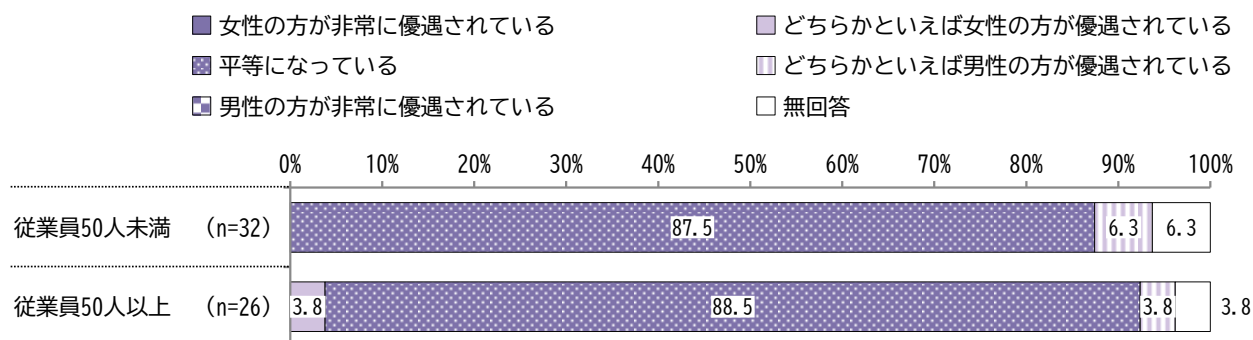
【賃金 従業員数別】



従業員数別にみると、『男性優遇』との回答は従業員50人未満（18.8%）が従業員50人以上（11.5%）を7.3ポイント上回っている。

③人事考課・評価

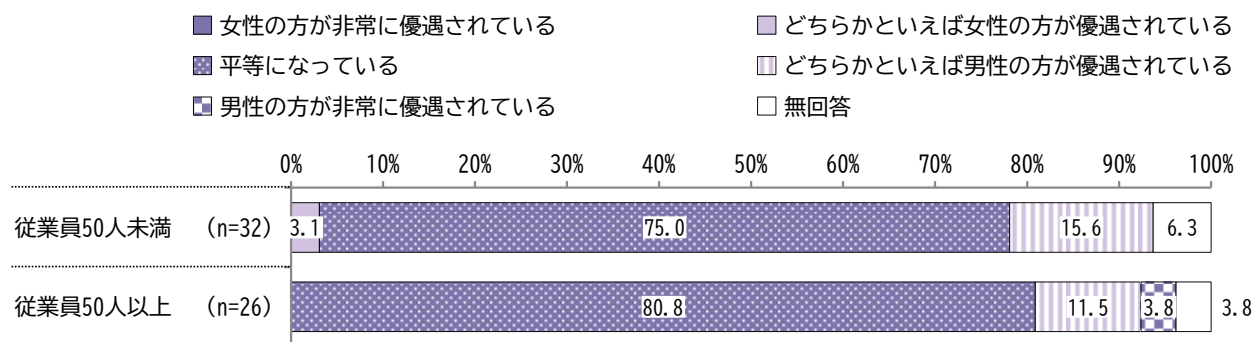
【人事考課・評価 従業員数別】



従業員数別にみると、大きな差はみられない。

④昇進・昇格

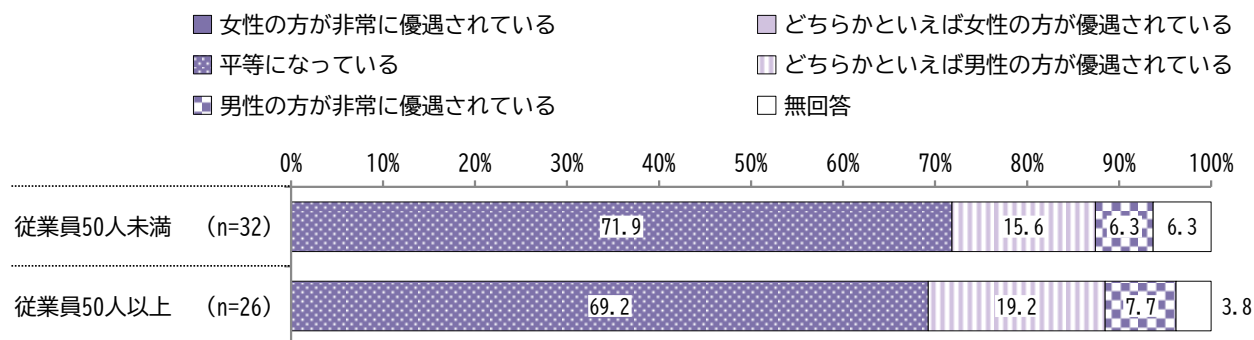
【昇進・昇格 従業員数別】



従業員数別にみると、「平等になっている」との回答は従業員50人以上（80.8%）が従業員50人未満（75.0%）を5.8ポイント上回っている。

⑤幹部職員への登用

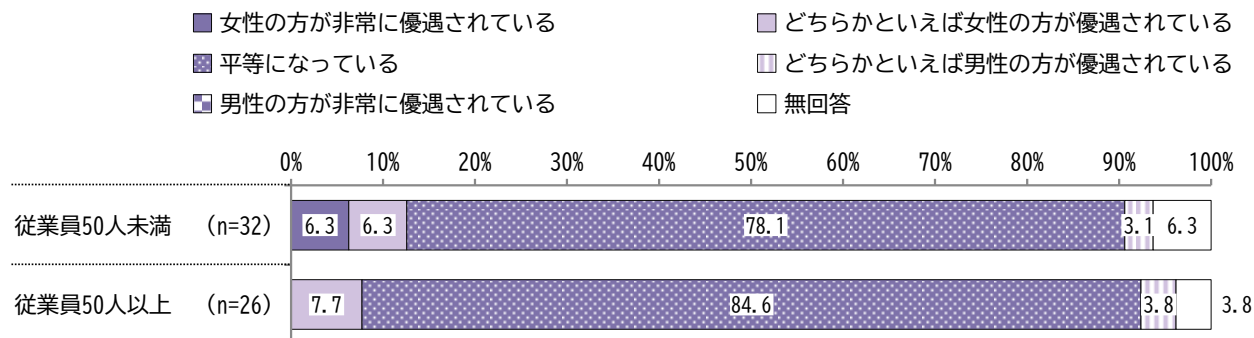
【幹部職員への登用 従業員数別】



従業員数別にみると、『男性優遇』との回答は従業員50人以上（26.9%）が従業員50人未満（21.9%）を5.0ポイント上回っている。

⑥職務内容

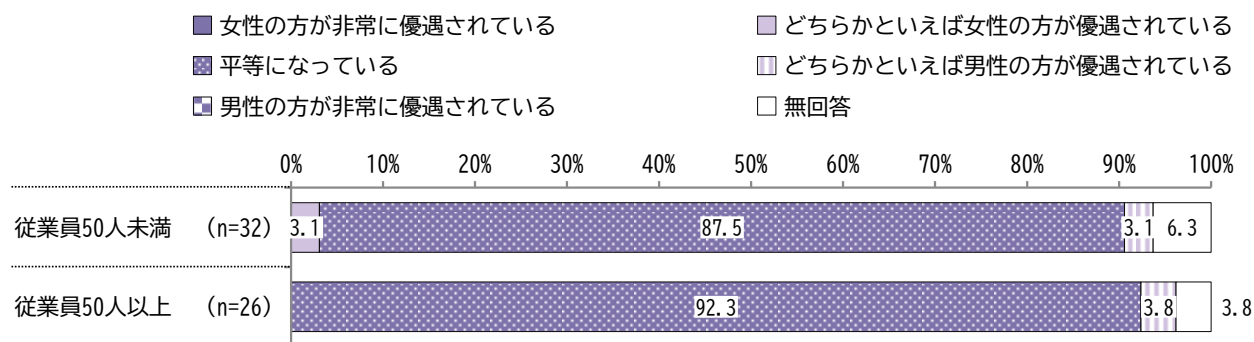
【職務内容 従業員数別】



従業員数別にみると、「平等になっている」との回答は従業員50人以上（84.6%）が従業員50人未満（78.1%）を6.5ポイント上回っている。

⑦教育訓練・研修

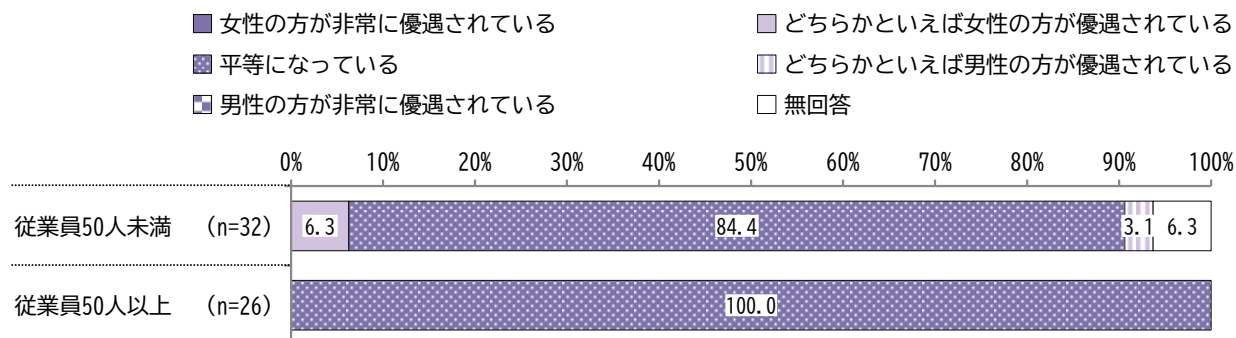
【教育訓練・研修 従業員数別】



従業員数別にみると、大きな差はみられない。

⑧退職・解雇

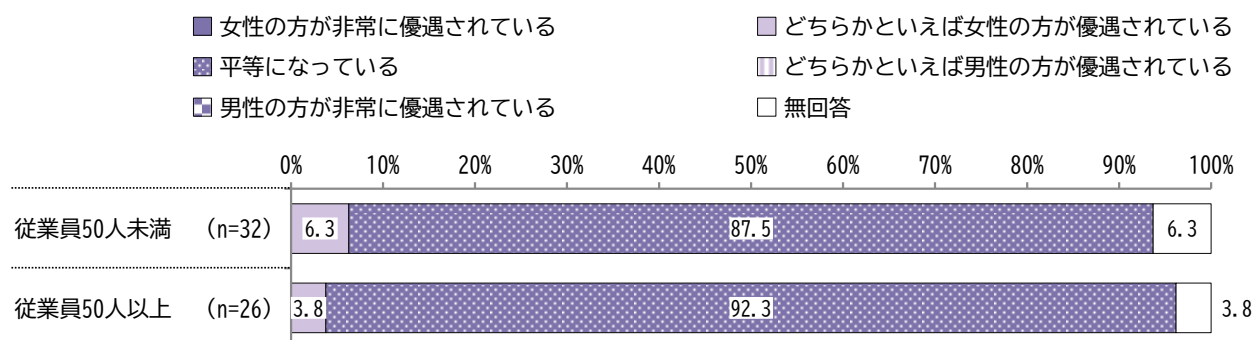
【退職・解雇 従業員数別】



従業員数別にみると、「平等になっている」との回答は従業員50人以上（100.0%）が従業員50人未満（84.4%）を15.6ポイント上回っている。

⑨福利厚生

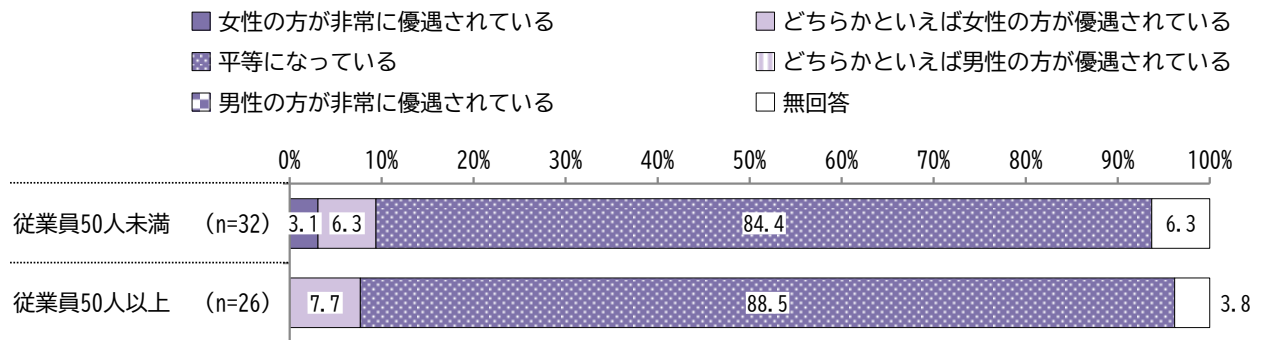
【福利厚生 従業員数別】



従業員数別にみると、大きな差はみられない。

⑩有給休暇の取得

【有給休暇の取得 従業員数別】

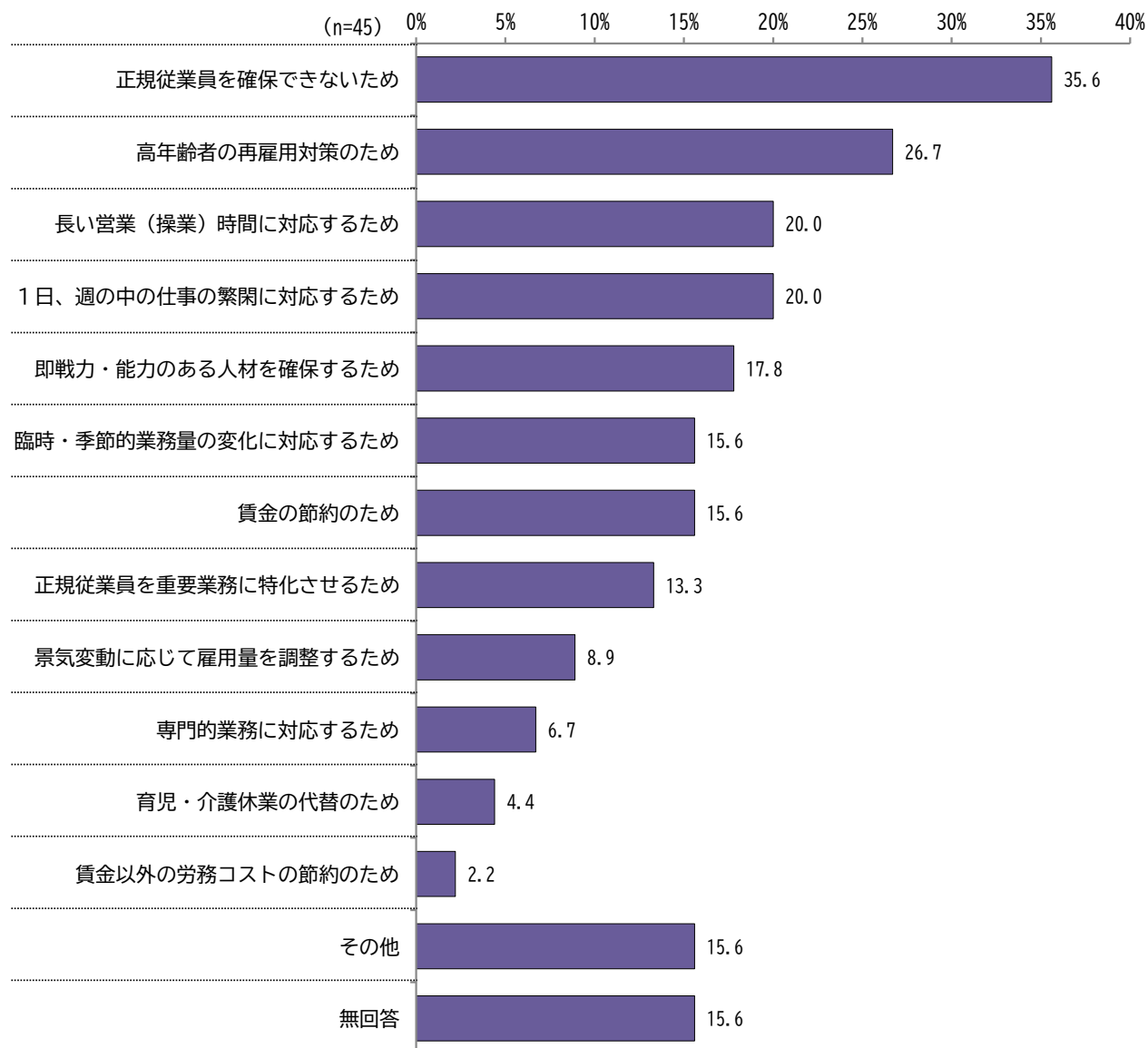


従業員数別にみると、大きな差はみられない。

非正規従業員を雇用している事業所におたずねします。

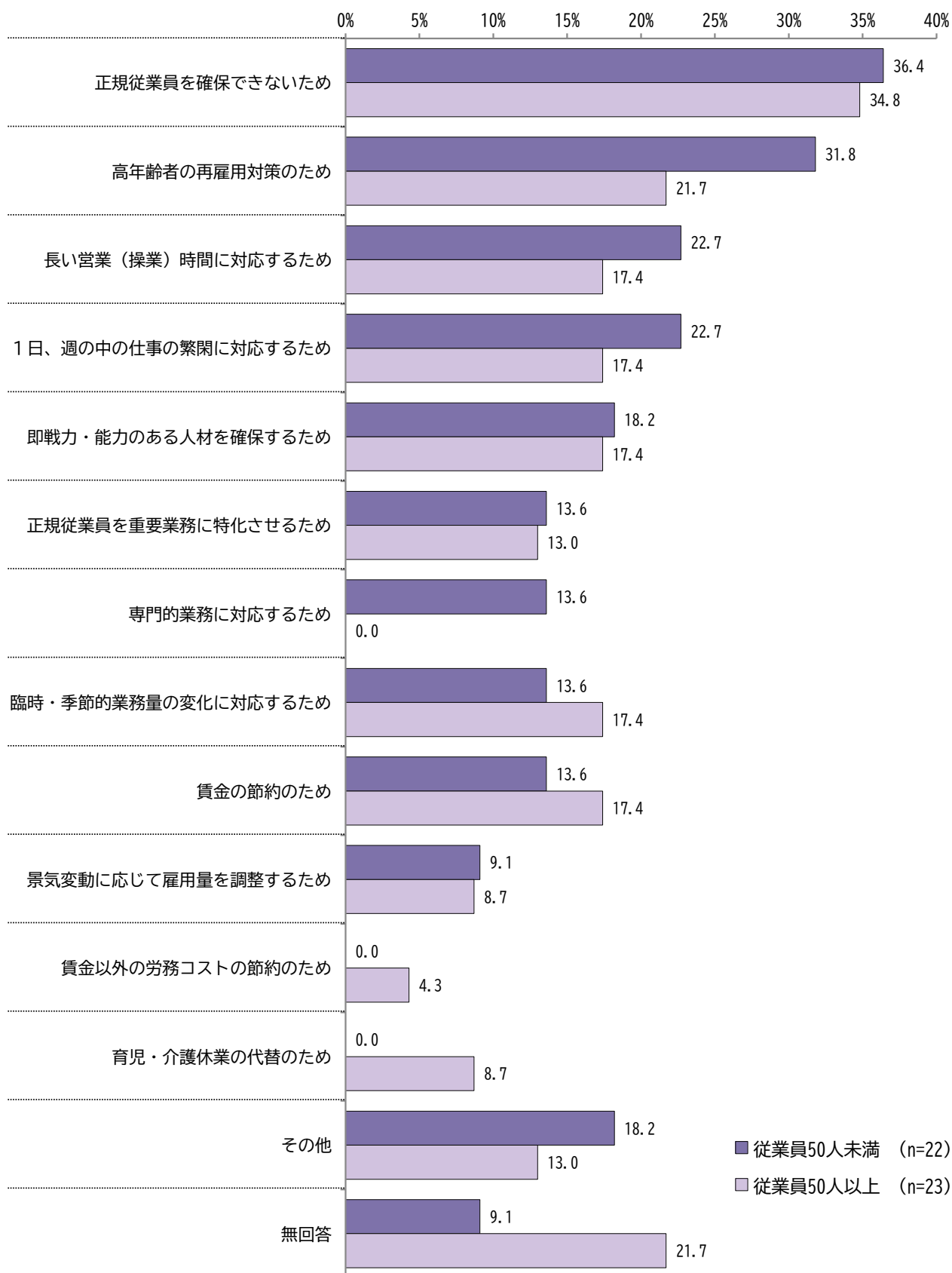
問3 非正規従業員を雇用しているのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

【全体】



非正規従業員を雇用している理由について、「正規従業員を確保できないため」との回答が35.6%と最も高く、次いで「高齢者の再雇用対策のため」(26.7%)、「長い営業（操業）時間に対応するため」、「1日、週の中の仕事の繁忙に対応するため」（ともに20.0%）などの順となっている。

【非正規従業員を雇用している理由 従業員数別】



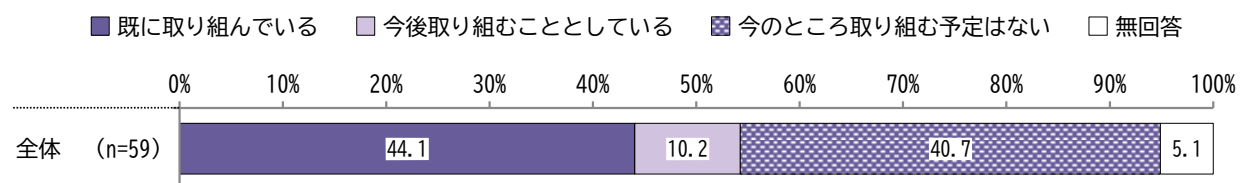
従業員数別にみると、「高年齢者の再雇用対策のため」との回答は従業員50人未満（31.8%）が従業員50人以上（21.7%）を10.1ポイント上回っている。

3 女性の活躍の推進について

すべての事業所におたずねします。

問4 あなたの事業所では、男女間の格差を解消するためにポジティブ・アクション(積極的改善措置)を何か行っていますか。(〇は1つ)

【全体】

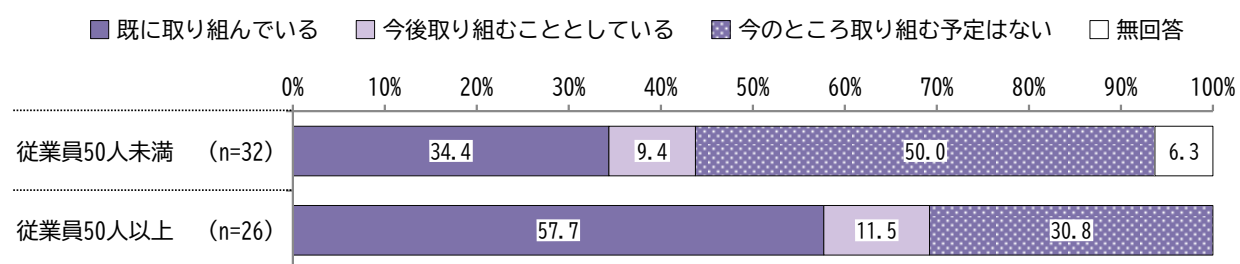


ポジティブ・アクションの実施状況について、「既に取り組んでいる」との回答が44.1%と最も高く、次いで「今のところ取り組む予定はない」(40.7%)、「今後取り組むこととしている」(10.2%)などの順となっている。

■用語の解説

ポジティブ・アクション(積極的改善措置)とは
性別による固定的な役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に事実上生じている差があるとき、それを解消しようと企業が行う自主的かつ積極的な取組。

【ポジティブ・アクションの実施状況 従業員数別】

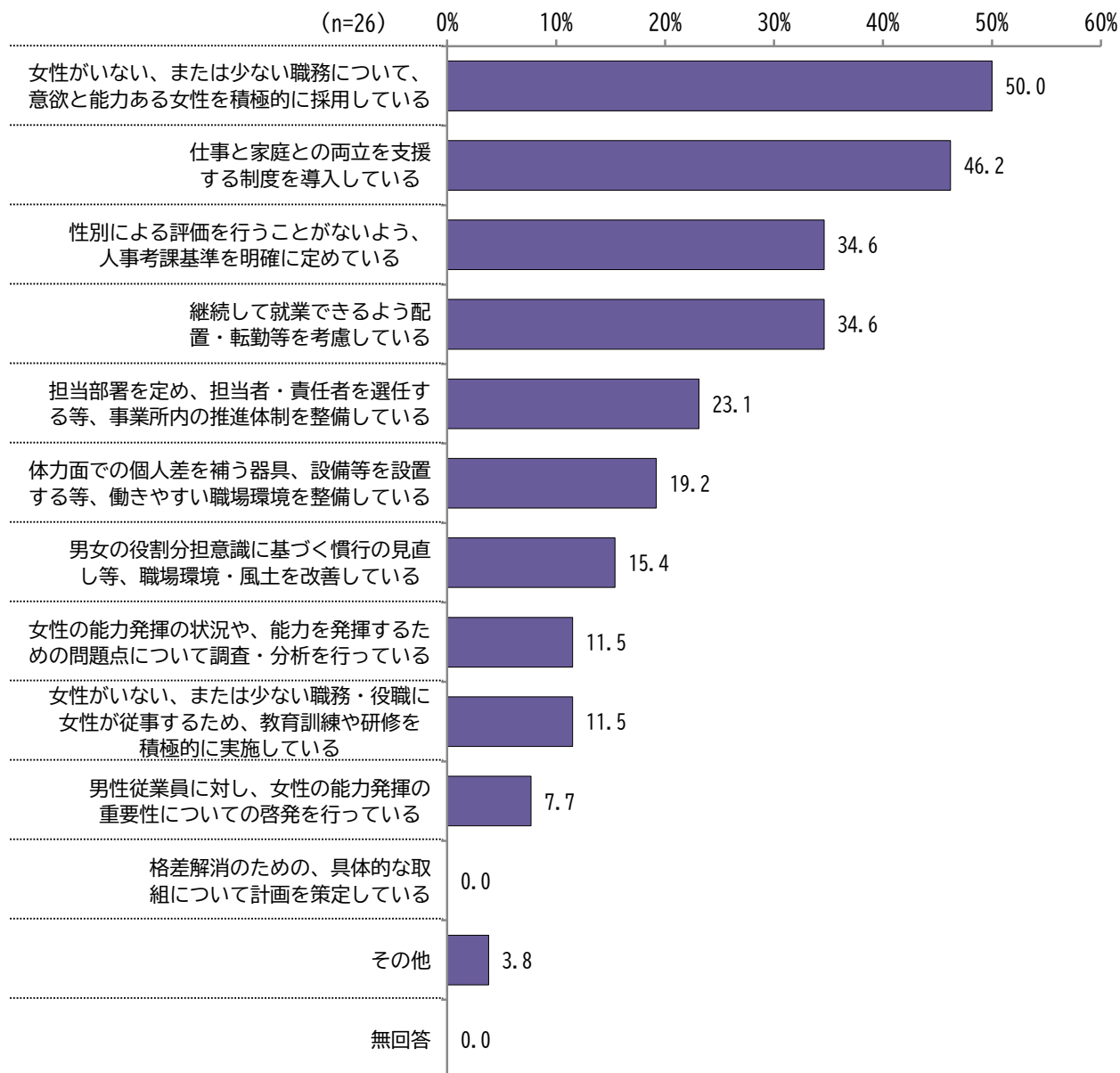


従業員数別にみると、「既に取り組んでいる」との回答は従業員50人以上(57.7%)が従業員50人未満(34.4%)を23.3ポイント上回っている。

問4で「1. 既に取り組んでいる」を選んだ方におたずねします。

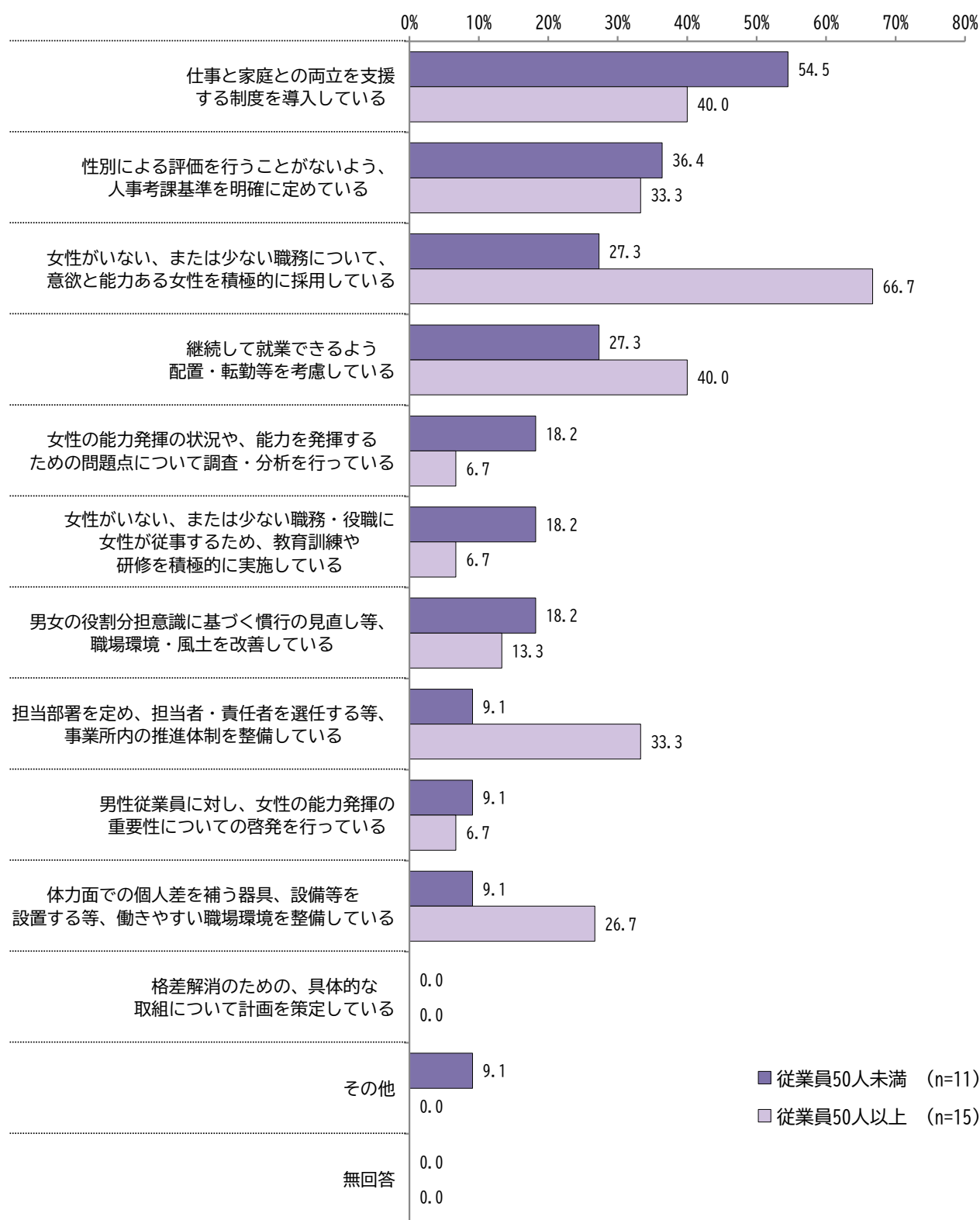
問5-1 その取組はどのような内容のものですか。(〇はいくつでも)

【全体】



ポジティブ・アクションの取組内容について、「女性がいらない、または少ない職務について、意欲と能力ある女性を積極的に採用している」との回答が50.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭との両立を支援する制度を導入している」(46.2%)、「性別による評価を行うことがないよう、人事考課基準を明確に定めている」、「継続して就業できるよう配置・転勤等を考慮している」(ともに34.6%)などの順となっている。

【ポジティブ・アクションの取組内容 従業員数別】



従業員数別にみると、「女性がいない、または少ない職務について、意欲と能力ある女性を積極的に採用している」との回答は従業員50人以上（66.7%）が従業員50人未満（27.3%）を39.4ポイント上回っている。

問4で「1. 既に取り組んでいる」を選んだ方におたずねします。

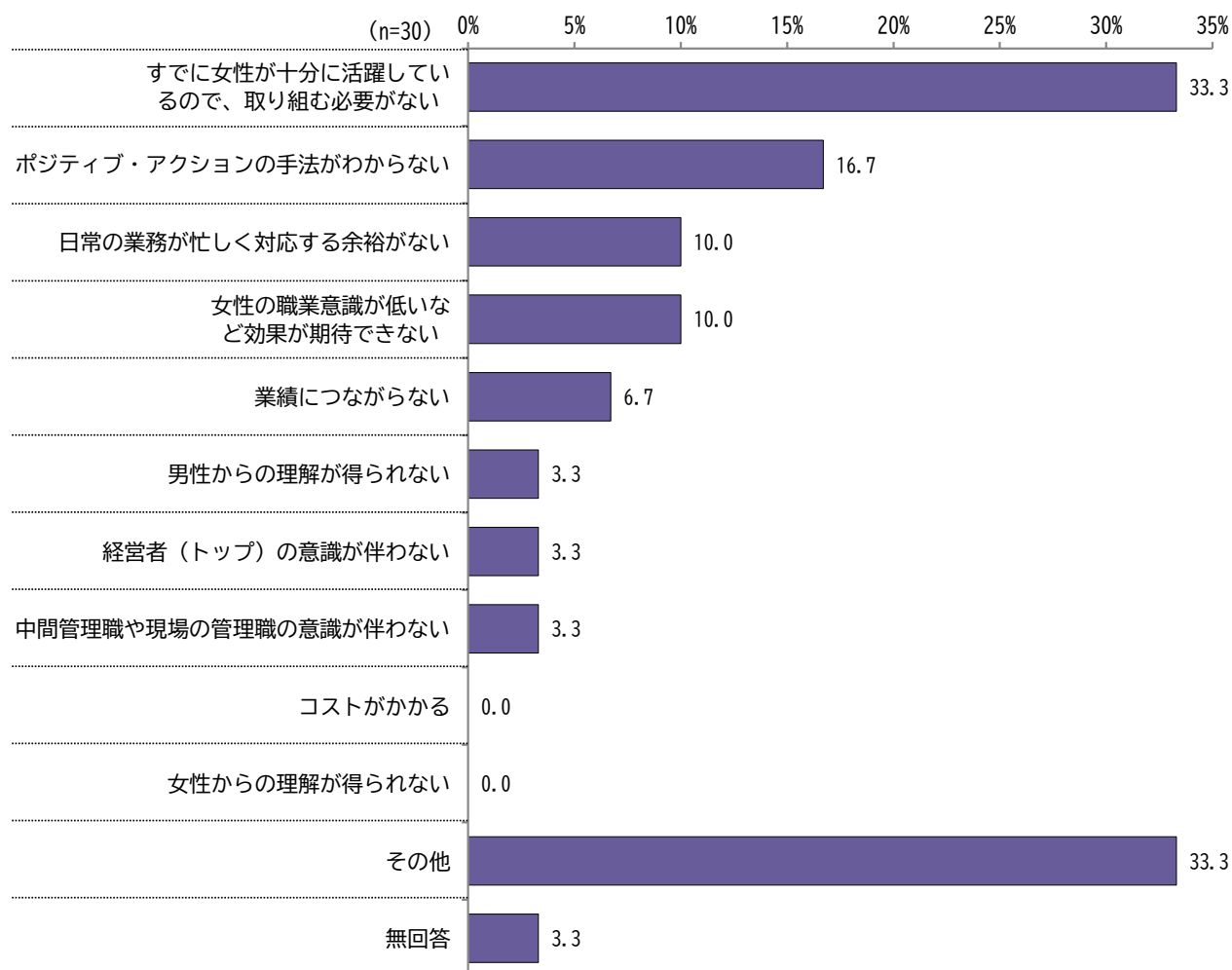
問5-2 ポジティブ・アクションについて、最も力を入れている取組とその成果を具体的に教えてください。

- 育児、介護休業実績あり。(従業員50人未満)
- マネージャー職への登用。(従業員50人未満)
- 全従業員に対してスキルマップを作成し、毎年、積極的に外部講習にてスキルUP教育を推進している。(従業員50人未満)
- 継続して就業できるよう、年齢・通勤手段・技量に応じた、職場の配置をしているため、高年齢でも働きやすい。(従業員50人未満)
- 女性社員活躍推進プロジェクトの立ち上げを行い、実施中です。女性社員の長期定着、キャリアパスの多様化を図り持続可能な女性社員雇用、ものづくりを志望する潜在的女子学生等の採用増加を目的としております。(従業員50人以上)
- 女性の管理職登用に向けて具体的に目標を決めて取り組んでいる。「ゆめcan」という冊子を通じて女性の活躍促進を促している。(従業員50人以上)
- 女性の管理職、施工管理業務従事者の登用。(従業員50人以上)
- 評価及び給与制度を男女平等なものに改訂した結果、女性管理職が増加した。(従業員50人以上)
- 5日間のインターン実習。研修期間を設けて実際の就労に近い形で5日間の職場体験をしてもらうことによって、実際に就労した際にこういった点が問題になるのかを理解してもらえる。(従業員50人以上)
- 女性特有のがん検診の費用負担を行うことで、自身の健康について顧みながら長く勤めていただける機会を提供している。※今年度から開始した取組みなので、経過観察中。(従業員50人以上)
- トラックドライバーの仕事がメインになるが、荷物の積卸をリフト作業で出来る仕事に変えてきた。今は殆ど手作業の仕事はなくなっており、女性の方も活躍できる環境になった。(従業員50人以上)
- ここ5年程度、役職（特に代理職や、次長職）への女性登用数を意識的に増やしている。(従業員50人以上)

問4で「2～3(現在取り組んでいない)」を選んだ方におたずねします。

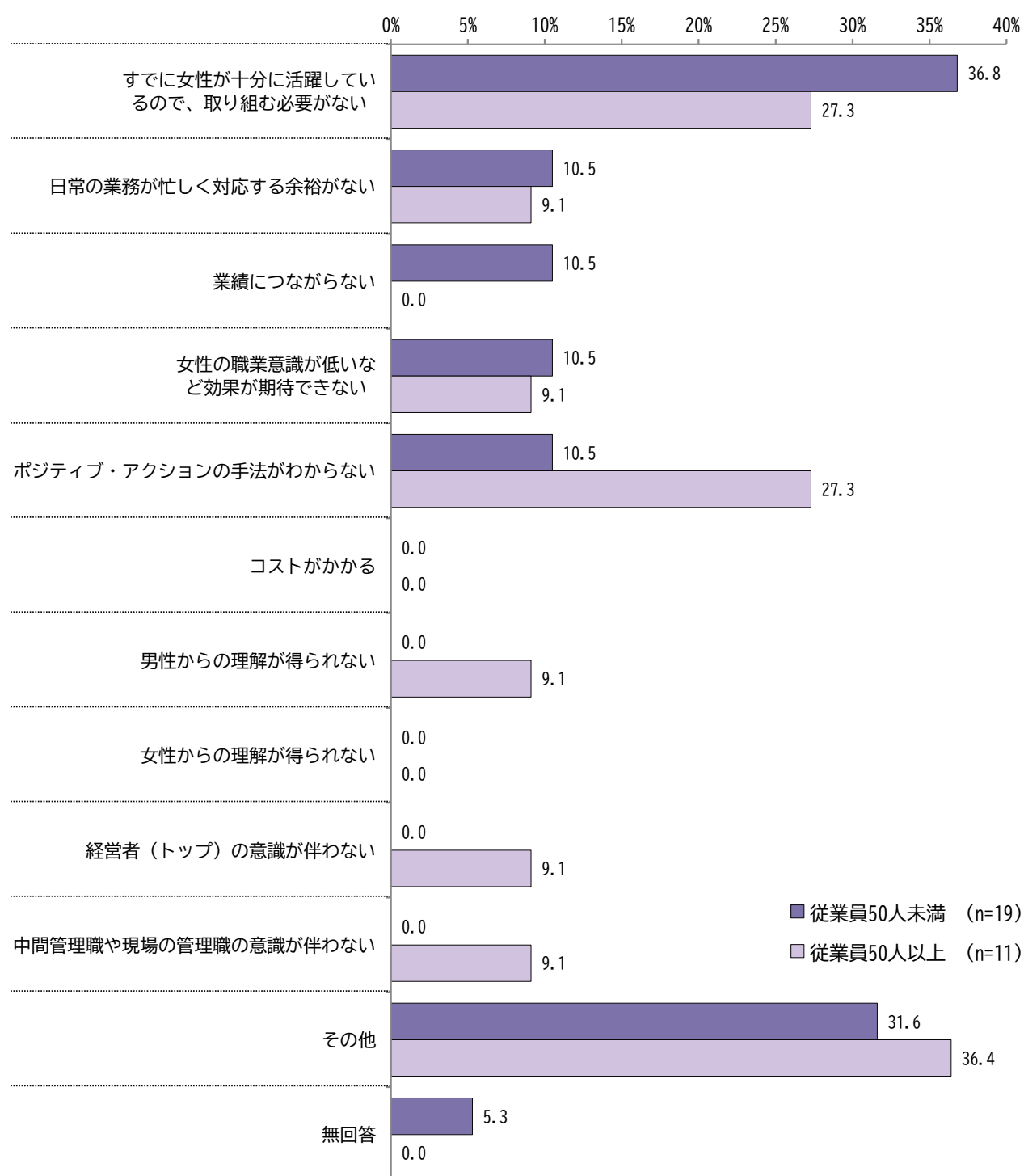
問6 現在取り組んでいないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

【全体】



ポジティブ・アクションに取り組んでいない理由について、「すでに女性が十分に活躍しているので、取り組む必要がない」との回答が33.3%と最も高く、次いで「ポジティブ・アクションの手法がわからない」(16.7%)、「日常の業務が忙しく対応する余裕がない」、「女性の職業意識が低いなど効果が期待できない」(ともに10.0%)などの順となっている。

【ポジティブ・アクションに取り組んでいない理由 従業員数別】

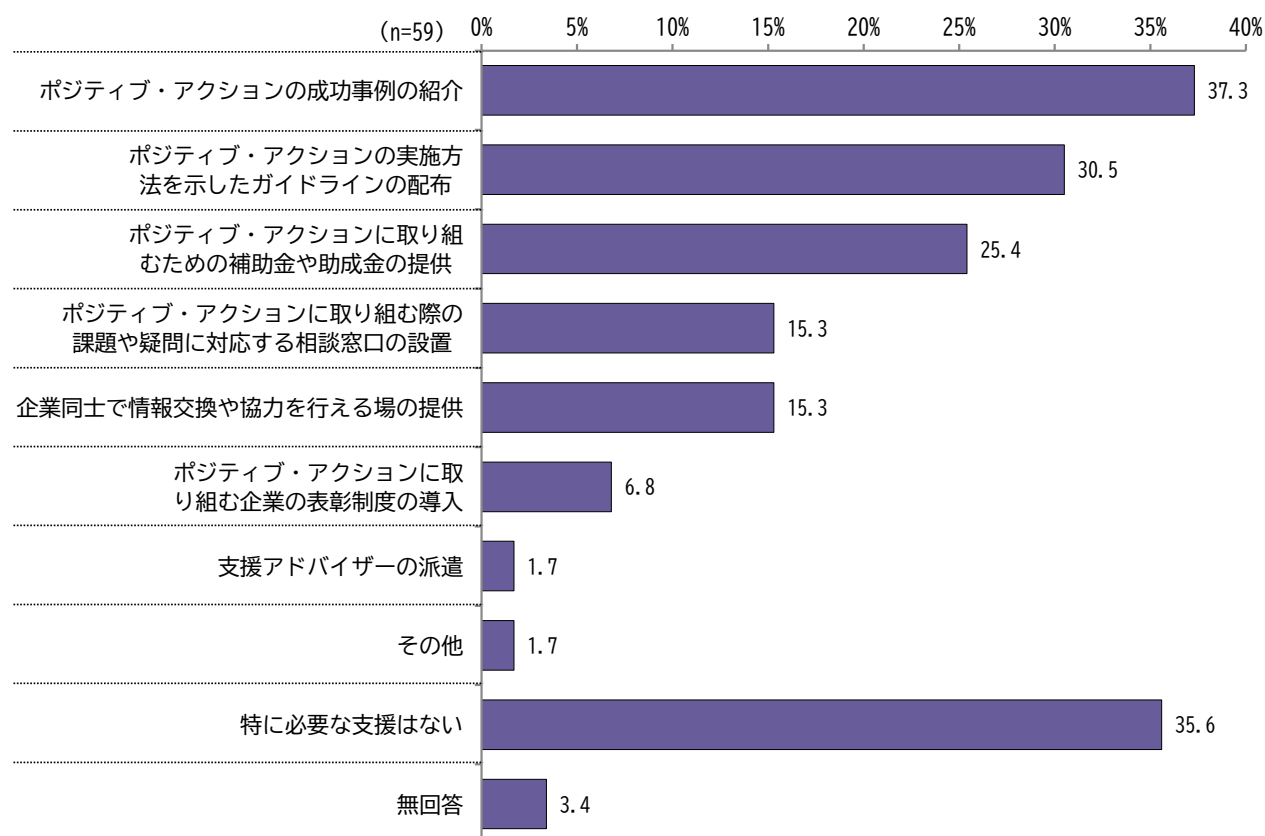


従業員数別にみると、「すでに女性が十分に活躍しているので、取り組む必要がない」との回答は従業員50人未満（36.8％）が従業員50人以上（27.3％）を9.5ポイント上回っており、「ポジティブ・アクションの手法がわからない」との回答は従業員50人未満（10.5％）が従業員50人以上（27.3％）を16.8ポイント下回っている。

すべての事業所におたずねします。

問7 どのような支援があればポジティブ・アクションに取り組みやすくなりますか。(〇はいくつでも)

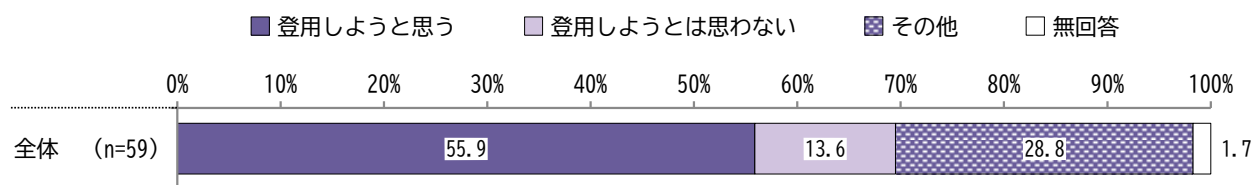
【全体】



ポジティブ・アクションに取り組みやすくなるための支援について、「ポジティブ・アクションの成功事例の紹介」との回答が37.3%と最も高く、次いで「ポジティブ・アクションの実施方法を示したガイドラインの配布」(30.5%)、「ポジティブ・アクションに取り組むための補助金や助成金の提供」(25.4%)などの順となっている。

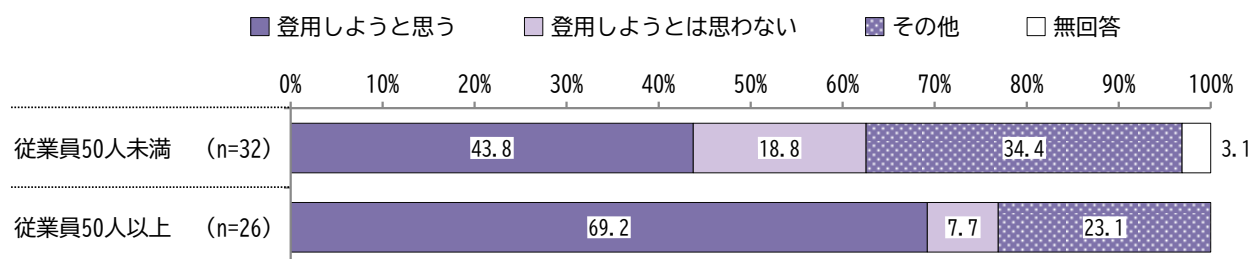
問8 あなたの事業所では、現在と比べて、これから管理職や役員に女性を登用しようと思いますか。
また、その理由もお答えください。(〇は1つ)

【全体】



これから管理職や役員に女性を登用しようと思うかについて、「登用しようと思う」(55.9%)、「登用しようとは思わない」(13.6%)となっている。

【これから管理職や役員に女性を登用しようと思うか 従業員数別】



従業員数別にみると、「登用しようと思う」との回答は従業員50人以上(69.2%)が従業員50人未満(43.8%)を25.4ポイント上回っている。

【登用しようと思う理由】

- 女性感性など、男性以上のものを持っているので、そうした分野を評価して行きたい。(従業員50人未満)
- 役職登用に性別は考慮していない。能力重視。(従業員50人未満)
- 男女間での登用の差別はない。有能であれば登用はありうる。(従業員50人未満)
- 女性が長く働ける職場になったので、これから登用が増えると思うから。(従業員50人未満)
- 業務に対して、積極的な女性は、企業にとって重要であるため。(従業員50人未満)
- 弊社のすべての事業において女性視点が大切だから。(従業員50人未満)
- 女性のお客様が80%占める業種なので、女性の視点・感性が欠かせない部署も多々あるため。(従業員50人以上)
- 人材不足で女性にも活躍してほしいから。(従業員50人以上)

- 今後の人口減少を踏まえ女性社員の活躍にも期待しているため。また成績優秀でマネジメントができると判断できれば男女問わず管理職への登用は検討する。(従業員50人以上)
- 全社的に女性の管理職昇格比率を向上させることを目標としている。(従業員50人以上)

【登用しようとは思わない理由】

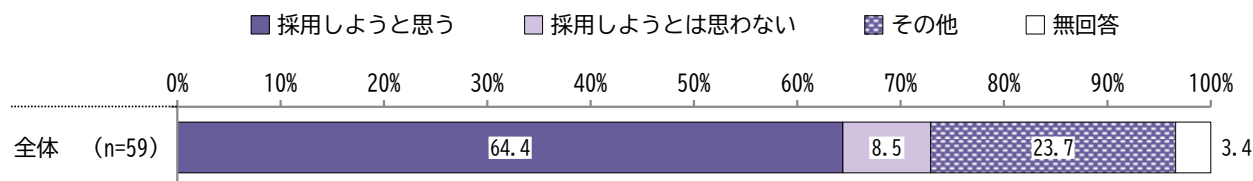
- 昔からの流れをそのままにしている。(従業員50人未満)
- 役員は親族、管理職はもともと少数のため。(従業員50人以上)
- 男女で区別して考えていない。(従業員50人以上)

【その他の理由】

- 必要となれば管理職や役員として活躍していただきたいが本人にその気がなければ形だけとなるので無理矢理する必要はないと考えます。(従業員50人未満)
- 男女間により評価が異なることはなく、特に女性に限って登用するとなると不平等になるため。(従業員50人未満)
- 能力や意欲を男女に関係なく判断している。(従業員50人以上)
- 製造業のため現在は女性社員の割合が低い。本人の能力やライフプランを踏まえて管理職や役員登用を決めたい。(従業員50人以上)
- 現状も女性管理職の割合が高いため、さらに増やすことは考えていません。男女関係なく、適した職員を登用します。(従業員50人以上)

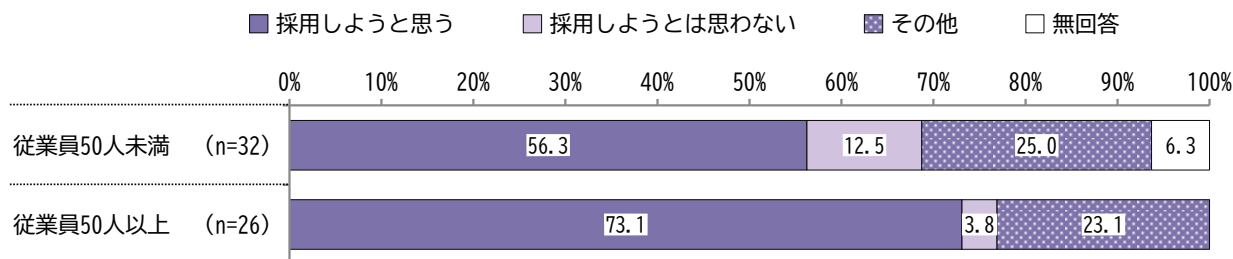
問9 あなたの事業所では、現在と比べて、これから女性を採用しようと思いますか。また、その理由もお答えください。(〇は1つ)

【全体】



これから女性を採用しようと思うかについて、「採用しようと思う」(64.4%)、「採用しようとは思わない」(8.5%)となっている。

【これから女性を採用しようと思うか 従業員数別】



従業員数別にみると、「採用しようと思う」との回答は従業員50人以上(73.1%)が従業員50人未満(56.3%)を16.8ポイント上回っている。

【採用しようと思う理由】

- 積極的に女性をと言う訳ではなく応募者があれば男女平等に採用を検討する。(従業員50人未満)
- 業務内容的に気配り、清潔さが求められるため。(従業員50人未満)
- 保育業界の市場的に女性の方が多いため。(従業員50人未満)
- 女性にとって向き不向きの作業があるが対応できる範囲で採用したい。(従業員50人未満)
- 弊社ではこれまで、男女性別・年齢等関係なく募集をしているため。(従業員50人未満)
- 弊社の事業にとって生活者の目線が必要不可欠だから、消費の鍵を握る女性たちの主婦としての視点、母としての視点を生かしたい。(従業員50人未満)
- 旅館の最前線は女性に頼ることが多い。(従業員50人以上)

- 正社員は女性比率が低いいため潜在的な志望者を発掘し、多様性のある職場づくりを行いたい。(従業員50人以上)
- 女性の視点・感性が必要なため。(従業員50人以上)
- 人材不足で女性にも活躍してほしいから。(従業員50人以上)
- 全社的に採用に占める女性比率を向上させることを目標としている。(従業員50人以上)

【採用しようとは思わない理由】

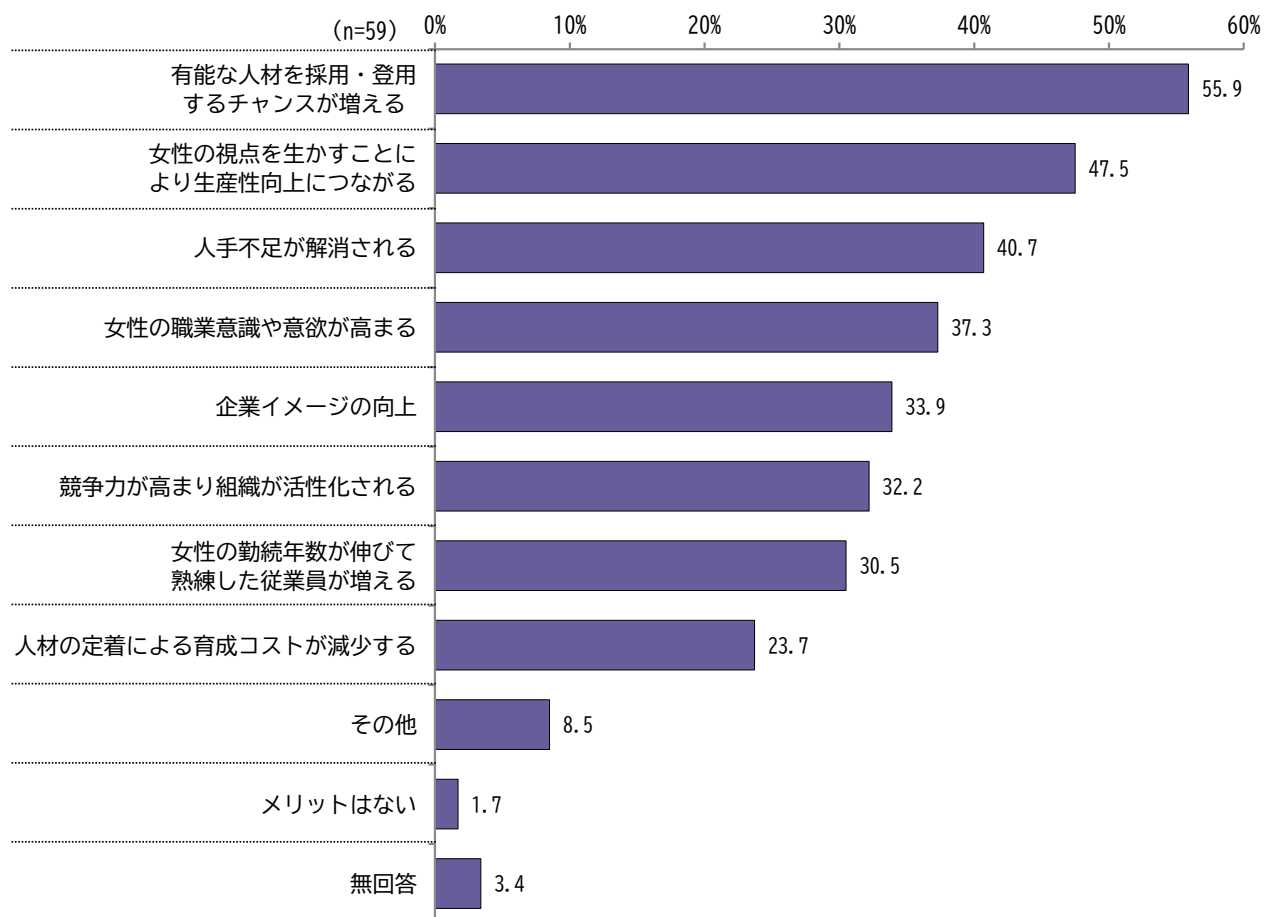
- すでに女性の採用の方が多いので。(従業員50人未満)
- 男女で区別して考えていない。(従業員50人以上)

【その他の理由】

- 男女の差なく良い人材がいらっしゃれば採用させていただきたいと考えています。(従業員50人未満)
- 今のままでは現場は難しい。(従業員50人未満)
- 募集をして当社で働きたいという方に対し男女関係なく採用したいから。(従業員50人未満)
- 現場職も選考ではどちらでもとしているが、業務内容を説明すると難色を示すケースが多い。(従業員50人以上)
- 現状も女性職員の割合が高いため、さらに増やすことは考えていません。男女関係なく法人に適した方を採用します。(従業員50人以上)

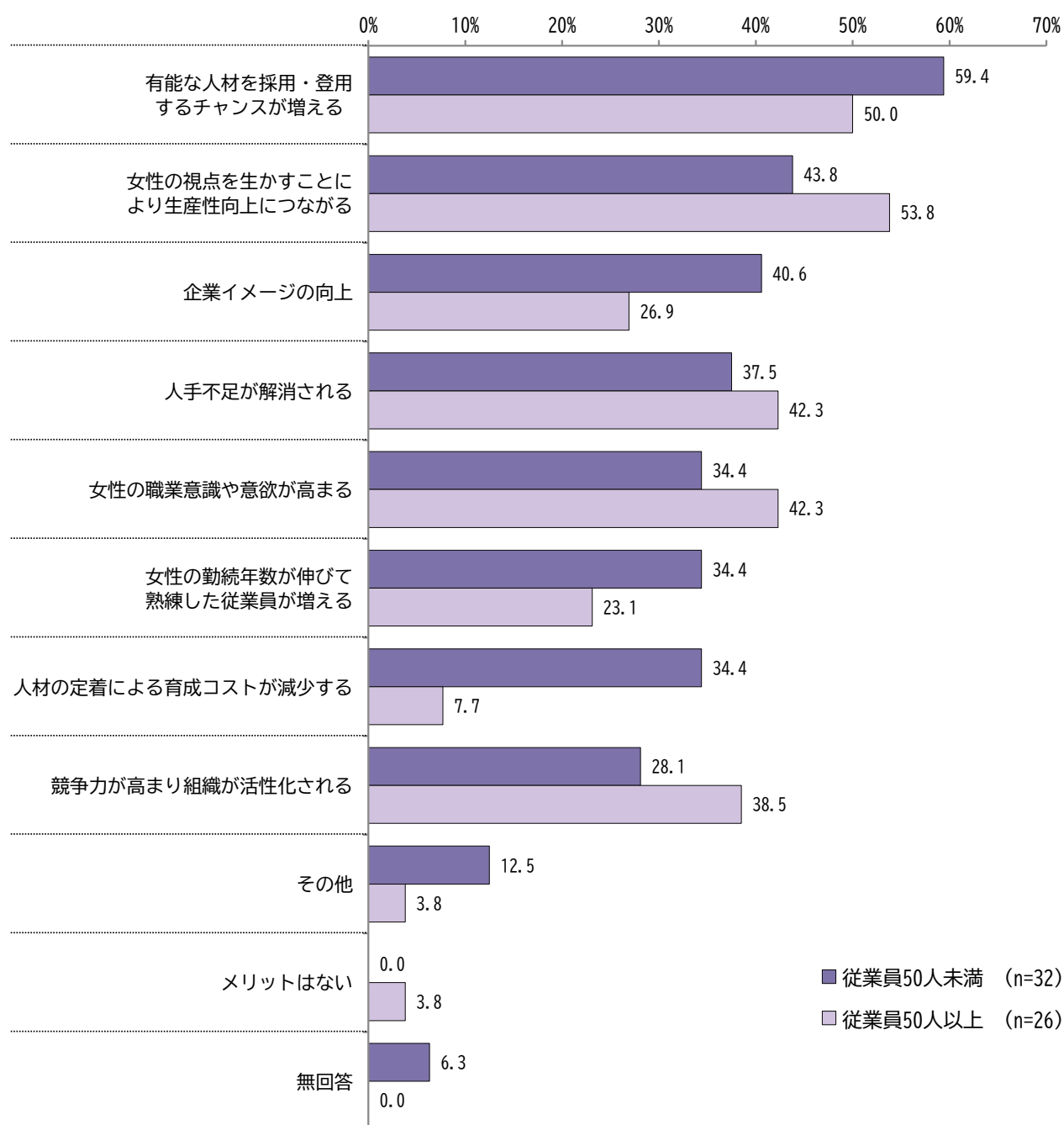
問 10 女性の活躍を推進するとどのようなメリットがあると思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】



女性の活躍を推進するメリットについて、「有能な人材を採用・登用するチャンスが増える」との回答が55.9%と最も高く、次いで「女性の視点を生かすことにより生産性向上につながる」(47.5%)、「人手不足が解消される」(40.7%)などの順となっている。

【女性の活躍を推進するメリット 従業員数別】



従業員数別にみると、「人材の定着による育成コストが減少する」との回答は従業員 50 人未満 (34.4%) が従業員 50 人以上 (7.7%) を 26.7 ポイント上回っており、「競争力が高まり組織が活性化される」回答は従業員 50 人未満 (28.1%) が従業員 50 人以上 (38.5%) を 10.4 ポイント下回っている。

4 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

問 11 過去5年間の育児休業の取得状況についてお答えください。

【育児休業取得率 全体】

※各事業所における育児休業取得者の合計を育児休業対象者の合計で割ることにより算出

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全体 (n=59)	男性	10.2%	13.1%	13.6%	31.8%	48.6%
	女性	96.4%	95.5%	87.1%	93.3%	97.1%

男性の育児休業取得率について、令和元年度から年々高くなる傾向がみられ、令和5年度では48.6%となっている。

女性の育児休業取得率について、令和3年度は87.1%と落ち込んだが、それ以外の年度では9割以上と高い水準を維持している。

【育児休業取得率 従業員数別】

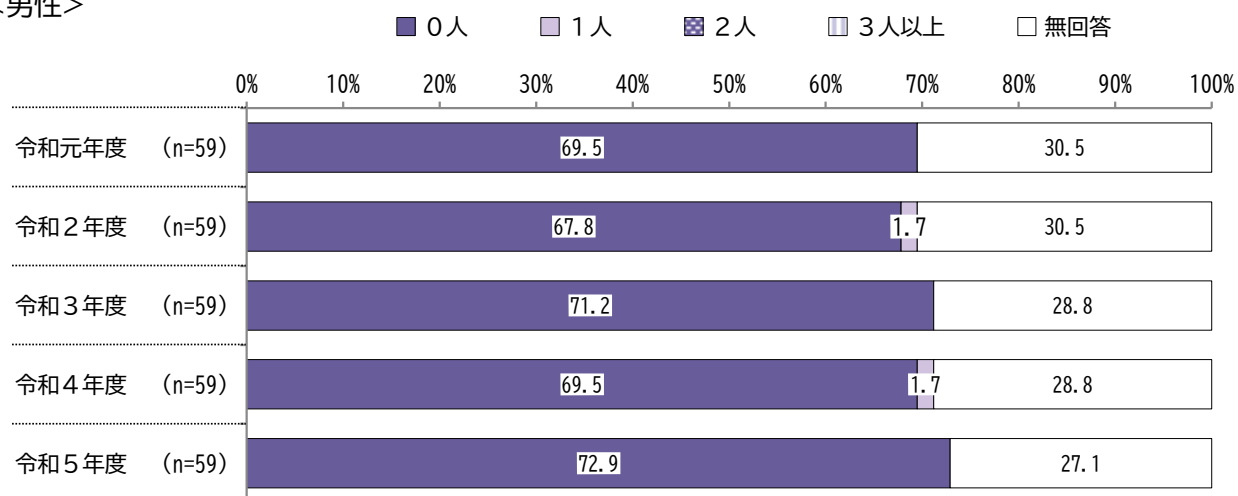
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
従業員 50人未満 (n=32)	男性	50.0%	50.0%	28.6%	33.3%	30.0%
	女性	100.0%	100.0%	100.0%	75.0%	85.7%
従業員 50人以上 (n=26)	男性	8.8%	10.5%	11.9%	31.7%	51.6%
	女性	96.4%	95.4%	86.2%	94.6%	98.3%

従業員数別でみると、どちらの事業所も育児休業取得率は、どの年度でも女性が男性を大きく上回っている。

問 12 過去5年間で、介護を理由に休業や退職した人の状況についてお答えください。

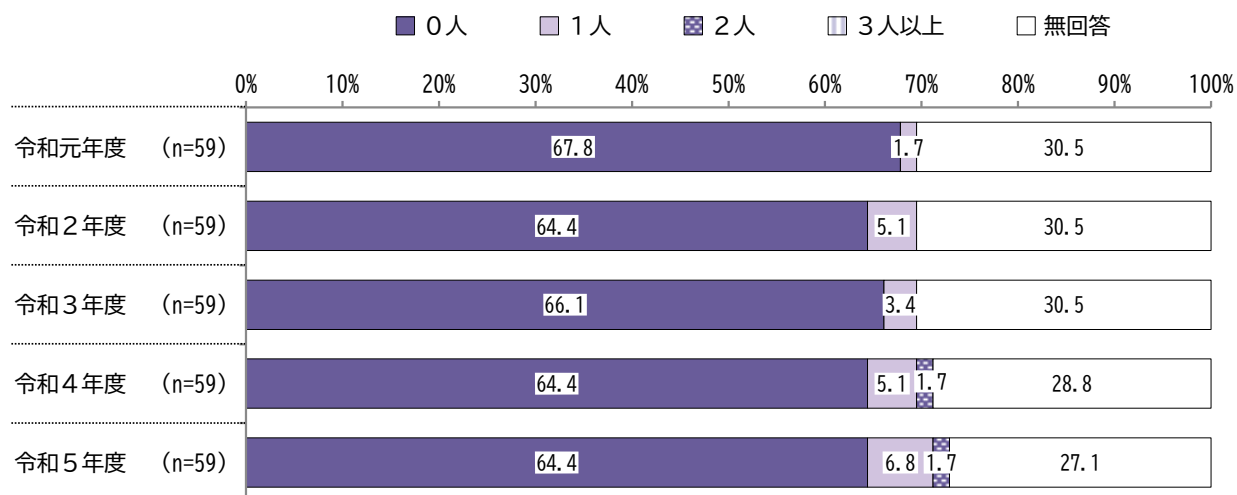
【介護休業者 全体】

<男性>



男性の介護休業者について、「0人」との回答がどの年でも約7割と高くなっている。

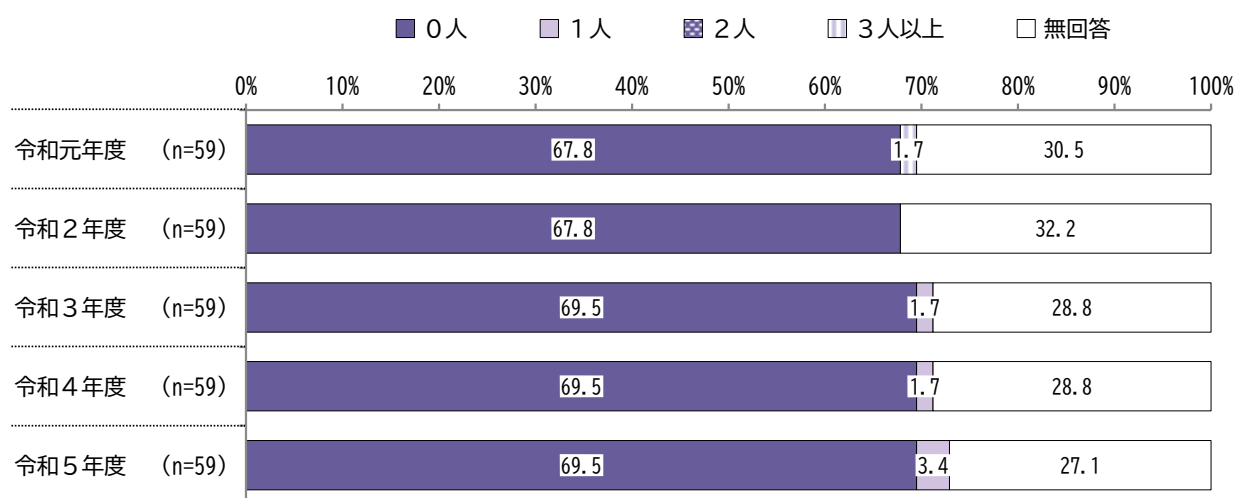
<女性>



女性の介護休業者について、「0人」との回答がどの年でも6割台半ばと高くなっている。

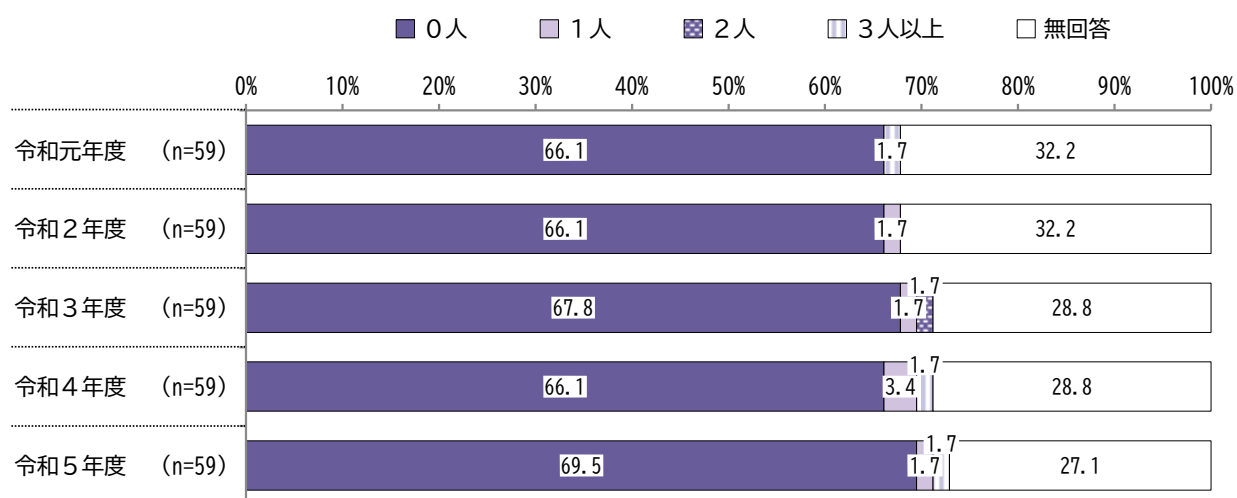
【介護退職者 全体】

<男性>



男性の介護退職者について、「0人」との回答がどの年でも約7割と高くなっている。

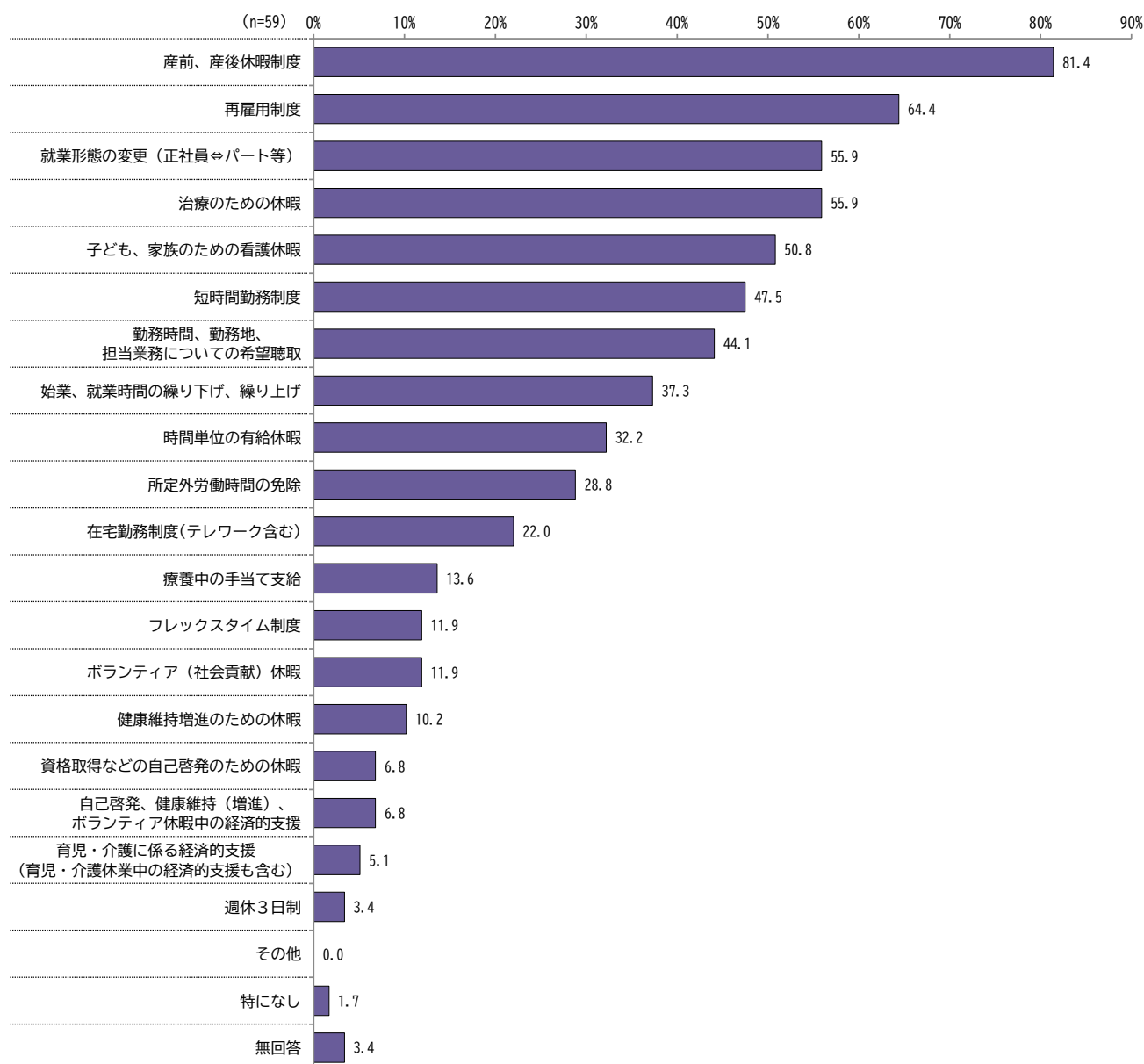
<女性>



女性の介護退職者について、「0人」との回答がどの年でも6割台半ばと高くなっている。

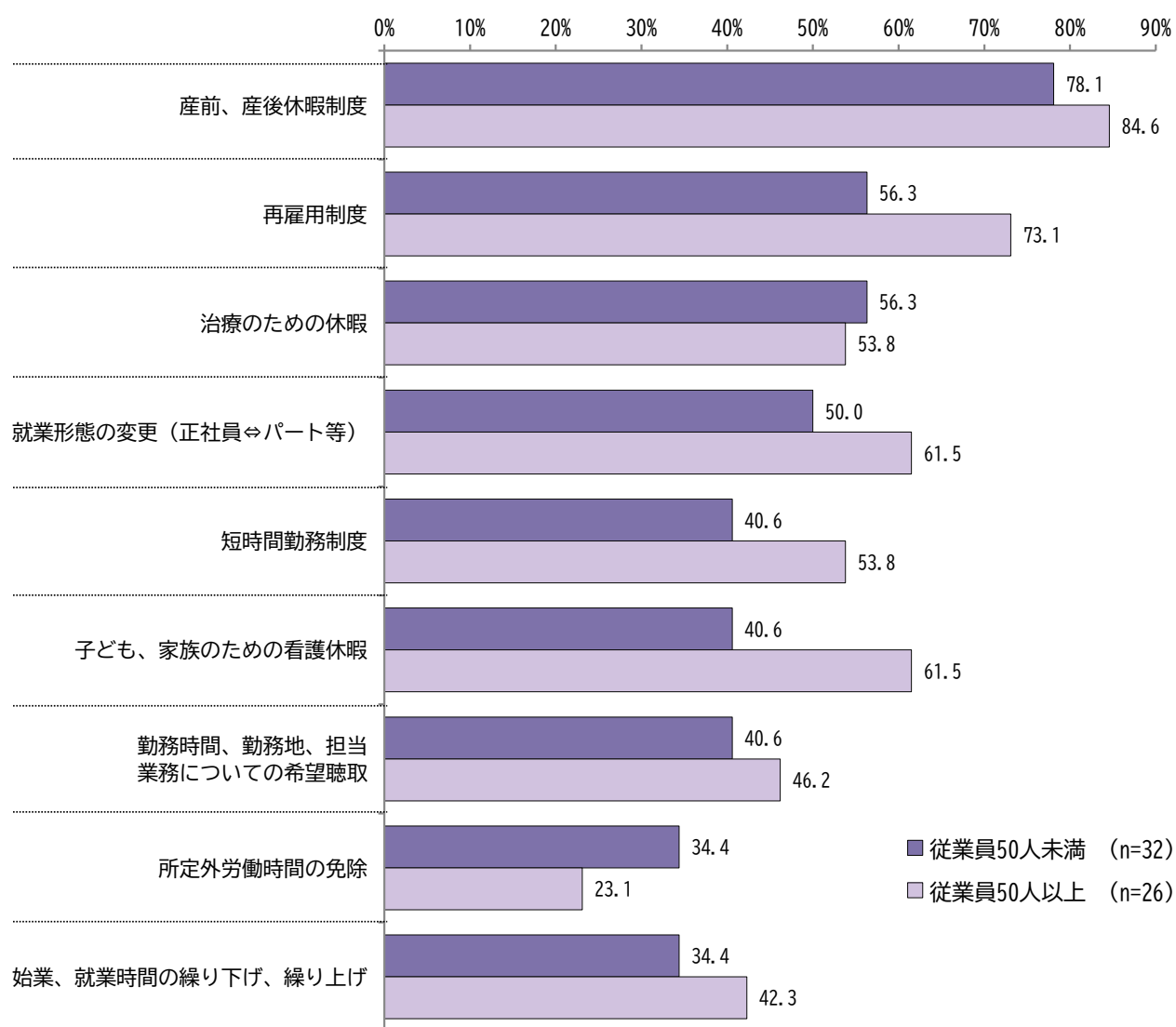
問 13 あなたの事業所では次の制度がありますか。(〇はいくつでも)

【全体】



事業所での制度について、「産前、産後休暇制度」との回答が81.4%と最も高く、次いで「再雇用制度」（64.4%）、「就業形態の変更（正社員⇄パート等）」、「治療のための休暇」（ともに55.9%）などの順となっている。

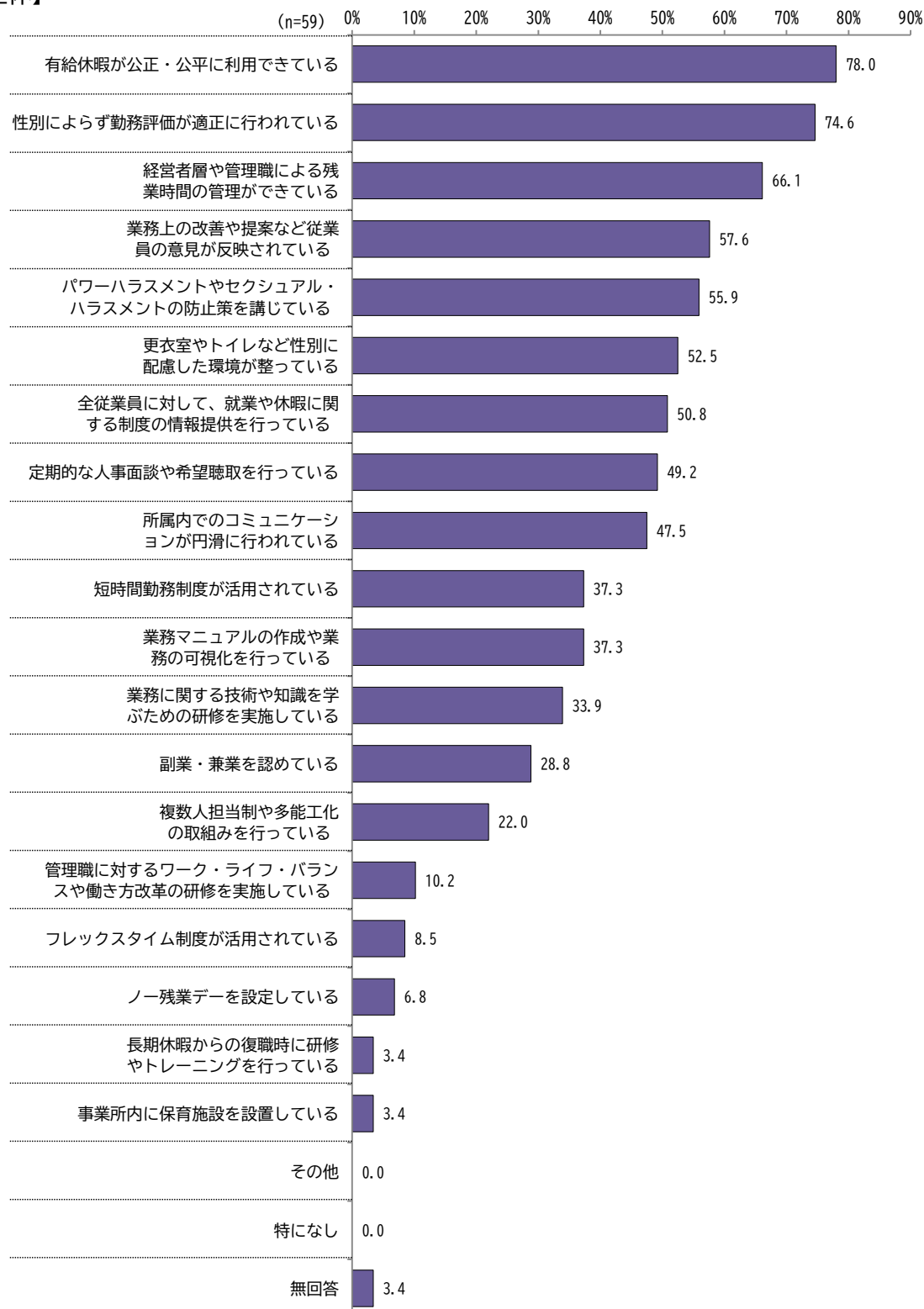
【事業所での制度 従業員数別(上位9位)】



従業員数別にみると、「所定外労働時間の免除」との回答は従業員50人未満（34.4％）が従業員50人以上（23.1％）を11.3ポイント上回っており、「子ども、家族のための看護休暇」との回答は従業員50人未満（40.6％）が従業員50人以上（61.5％）を20.9ポイント下回っている。

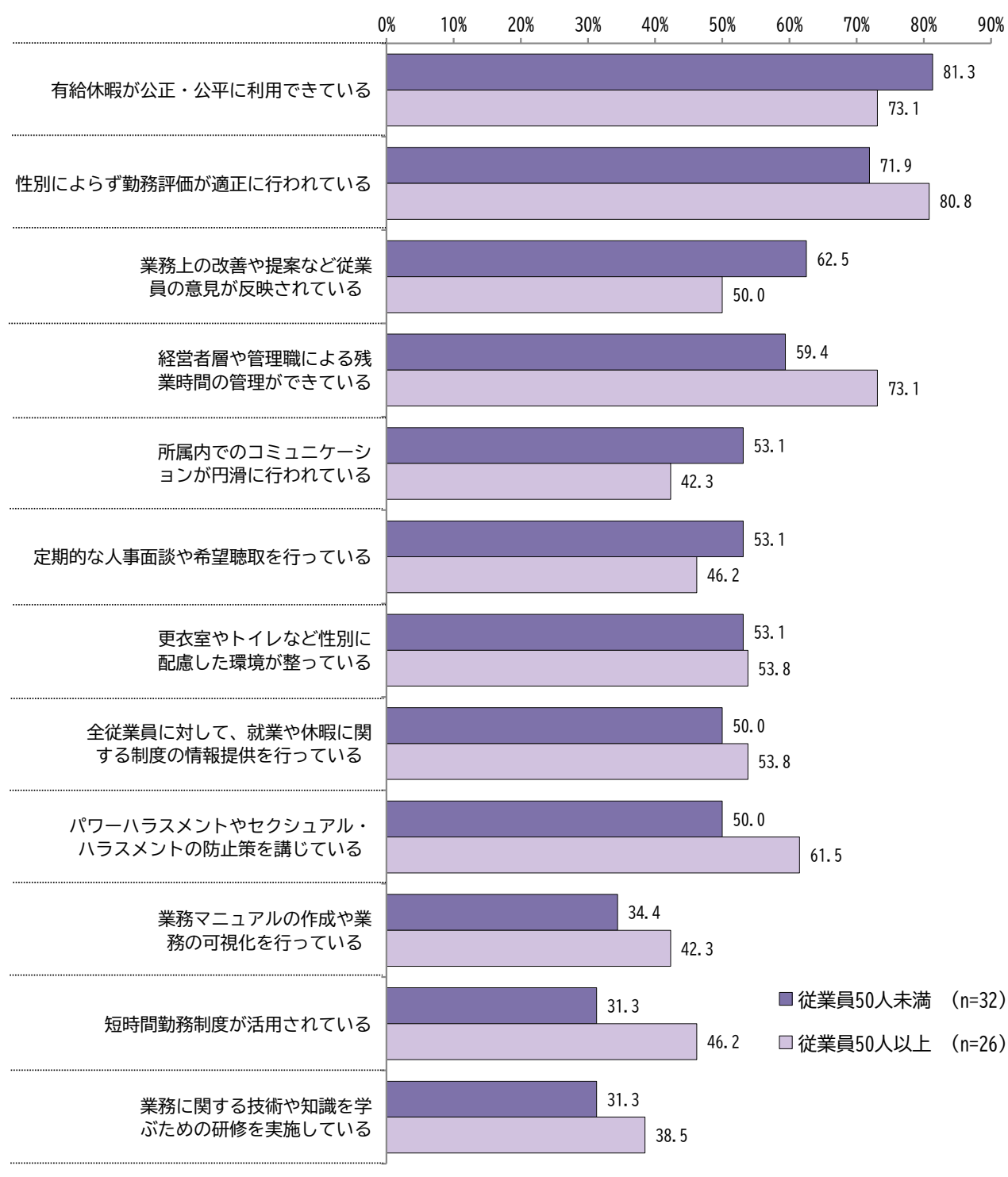
問 14 あなたの事業所では、次の項目の中で実施しているものがありますか。(○はいくつでも)

【全体】



事業所で実施している項目について、「有給休暇が公正・公平に利用できている」との回答が78.0%と最も高く、次いで「性別によらず勤務評価が適正に行われている」(74.6%)、「経営者層や管理職による残業時間の管理ができている」(66.1%)などの順となっている。

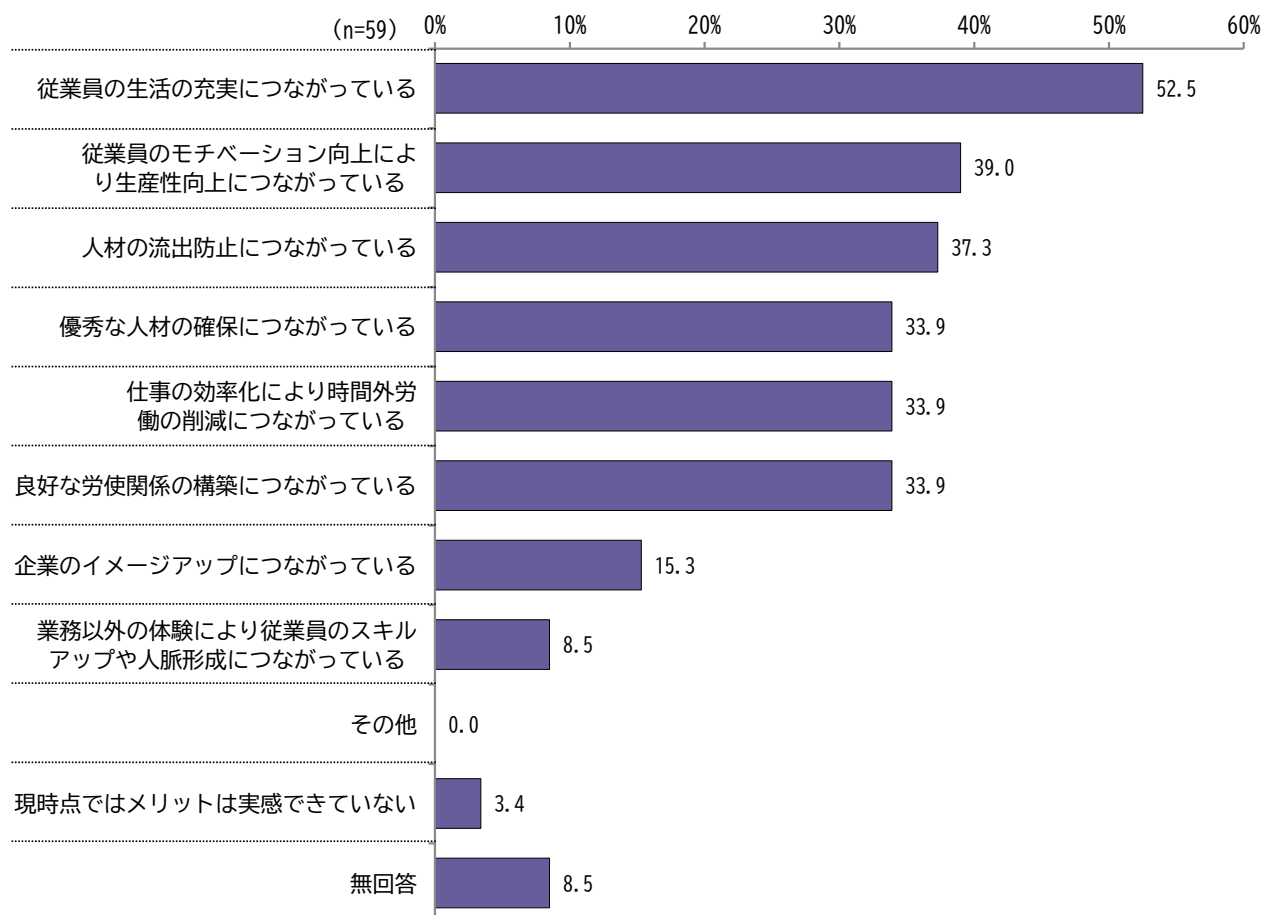
【事業所で実施している項目 従業員数別(上位12位)】



従業員数別にみると、「業務上の改善や提案など従業員の意見が反映されている」との回答は従業員50人未満（62.5%）が従業員50人以上（50.0%）を12.5ポイント上回っており、「短時間勤務制度が活用されている」との回答は従業員50人未満（31.3%）が従業員50人以上（46.2%）を14.9ポイント下回っている。

問 15 貴事業所では「ワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組むことで、どのようなメリットを実感できていますか。(〇はいくつでも)

【全体】



「ワーク・ライフ・バランス」取り組みでのメリットについて、「従業員の生活の充実につながっている」との回答が52.5%と最も高く、次いで「従業員のモチベーション向上により生産性向上につながっている」(39.0%)、「人材の流出防止につながっている」(37.3%)などの順となっている。

問15で「10.現時点ではメリットは実感できていない」を選んだ事業所におたずねします。

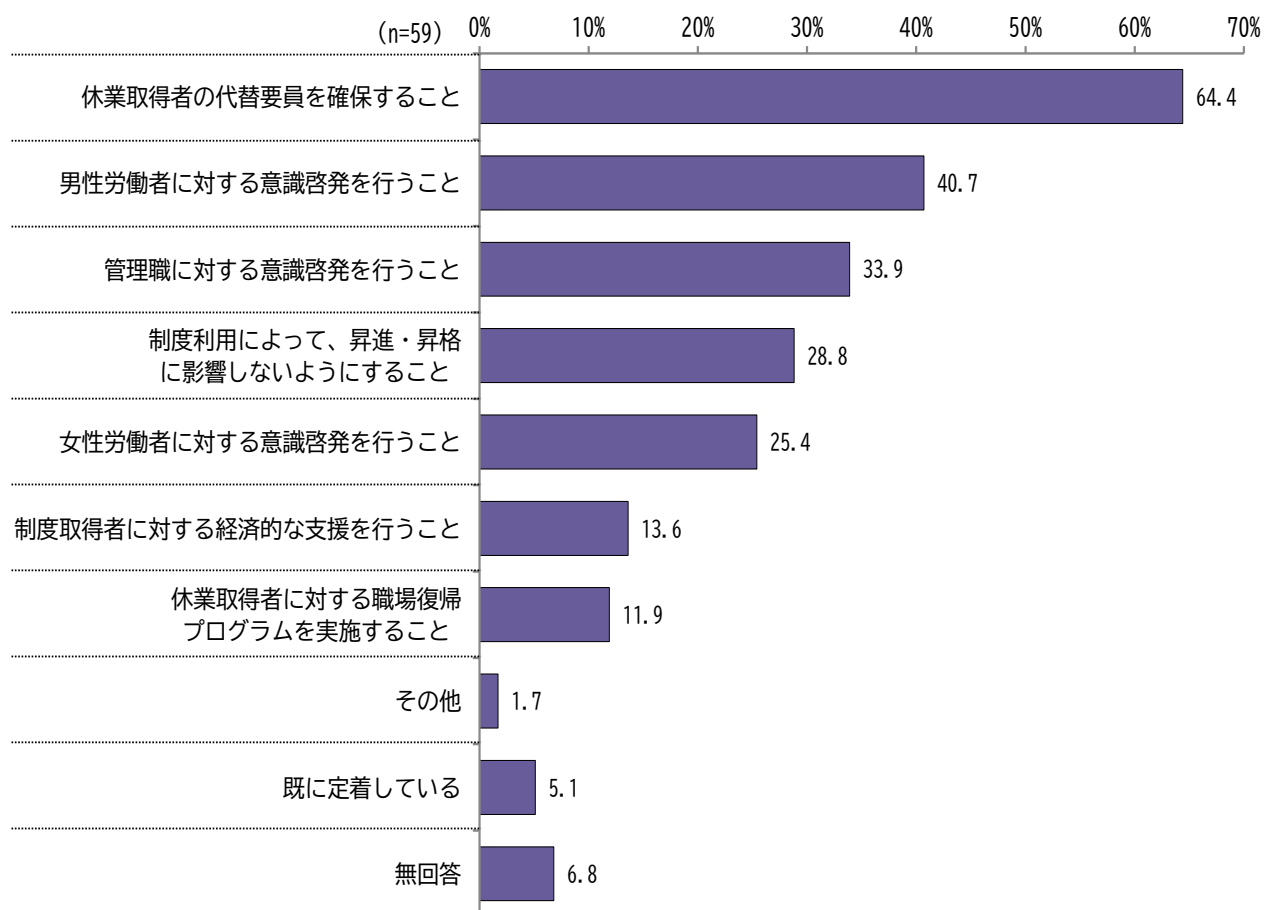
問 16 「ワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組むことで、現時点ではメリットは実感できていない理由を教えてください。

●既に取れているので、取れていない時期と比較できない。(従業員50人未満)

すべての事業所におたずねします。

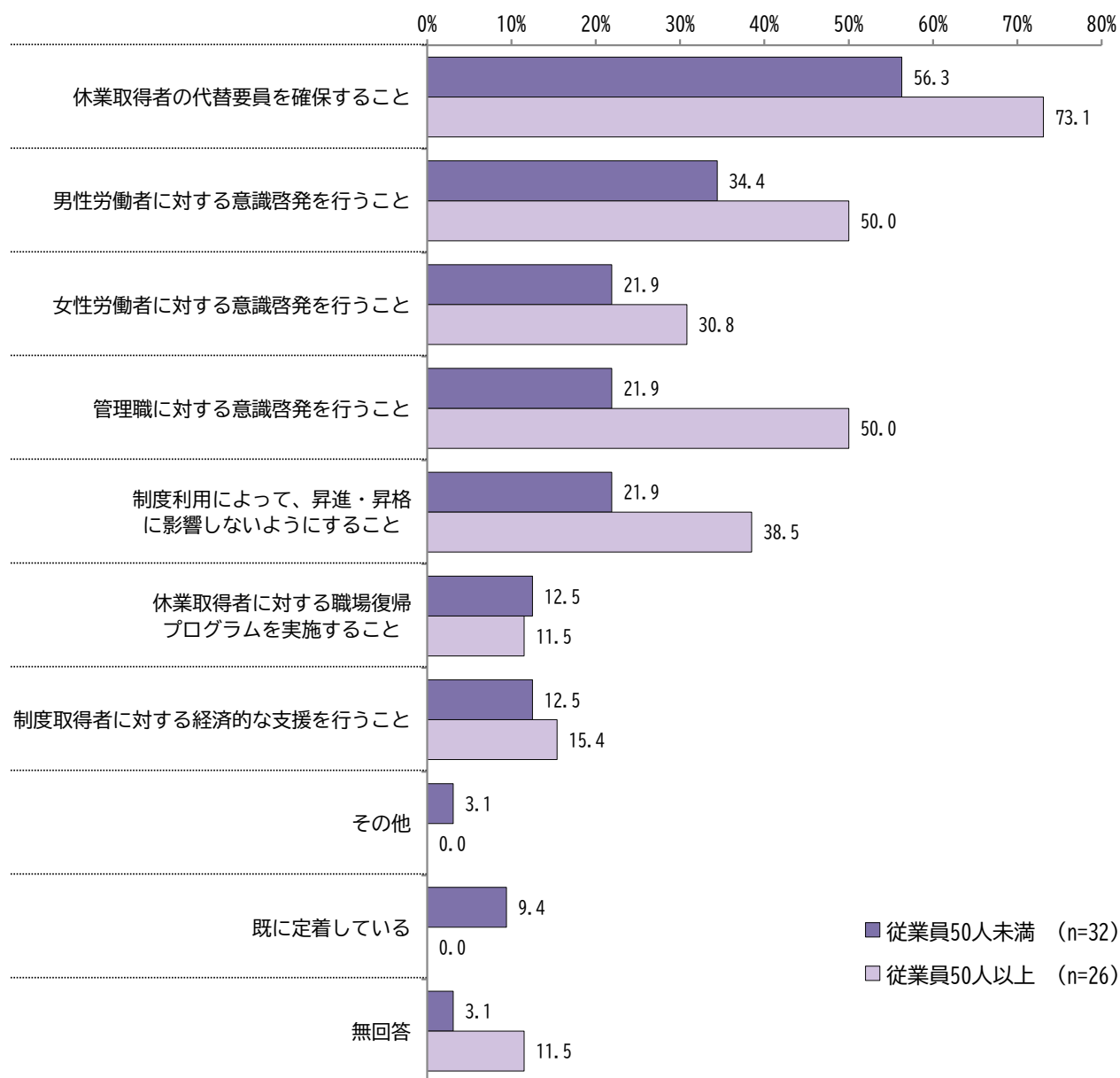
問 17 あなたの事業所で、育児休業制度、介護休業制度を定着させるためには、今後どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】



育児休業制度、介護休業制度を定着させるために必要な取組について、「休業取得者の代替要員を確保すること」との回答が64.4%と最も高く、次いで「男性労働者に対する意識啓発を行うこと」(40.7%)、「管理職に対する意識啓発を行うこと」(33.9%)などの順となっている。

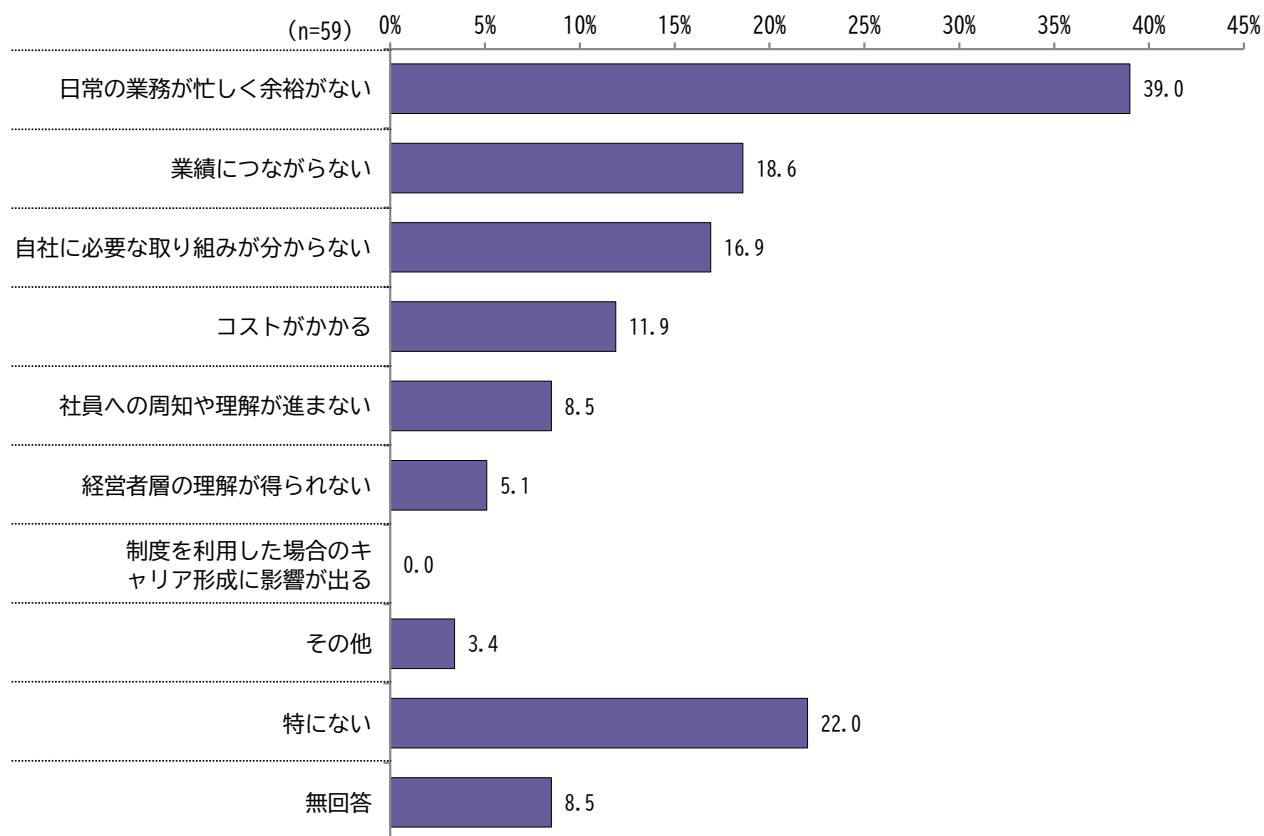
【育児休業制度、介護休業制度を定着させるために必要な取組 従業員数別】



従業員数別にみると、「管理職に対する意識啓発を行うこと」との回答は従業員50人未満（21.9%）が従業員50人以上（50.0%）を28.1ポイント下回っている。

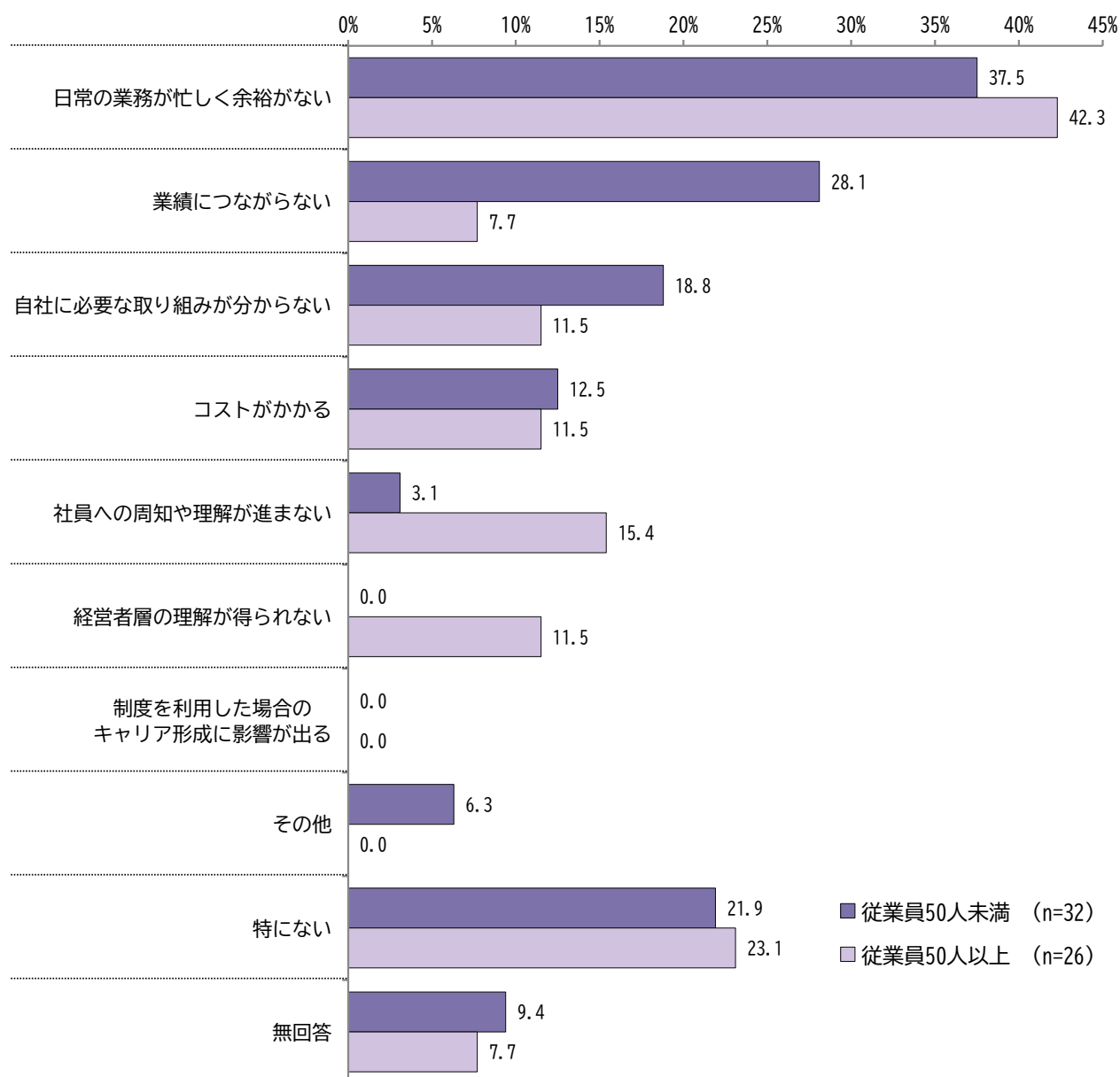
問 18 あなたの事業所でワーク・ライフ・バランスに取り組むにあたって、どのような課題がありますか。
(〇はいくつでも)

【全体】



ワーク・ライフ・バランスに取り組むにあたっての課題について、「日常の業務が忙しく余裕がない」との回答が39.0%と最も高く、次いで「業績につながらない」(18.6%)、「自社に必要な取り組みが分からない」(16.9%)などの順となっている。

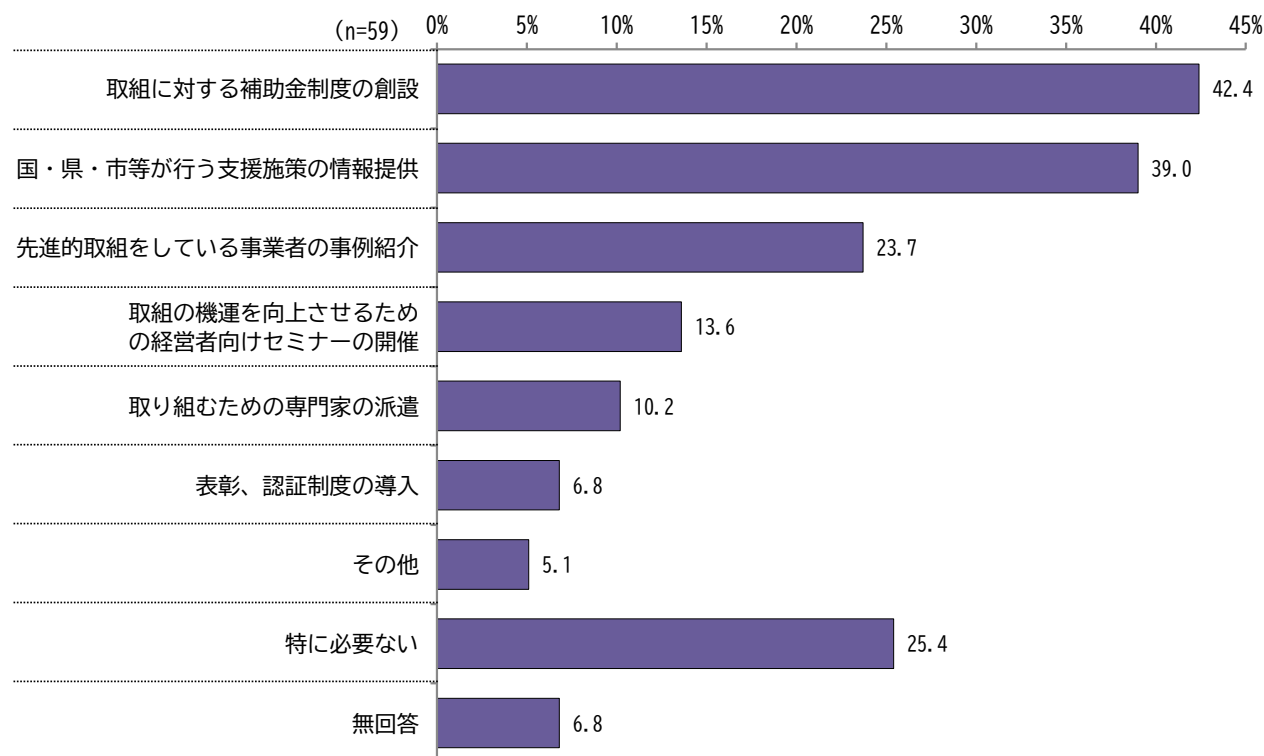
【ワーク・ライフ・バランスに取り組むにあたっての課題 従業員数別】



従業員数別にみると、「業績につながらない」との回答は従業員50人未満（28.1％）が従業員50人以上（7.7％）を20.4ポイント上回っており、「社員への周知や理解が進まない」との回答は従業員50人未満（3.1％）が従業員50人以上（15.4％）を12.3ポイント下回っている。

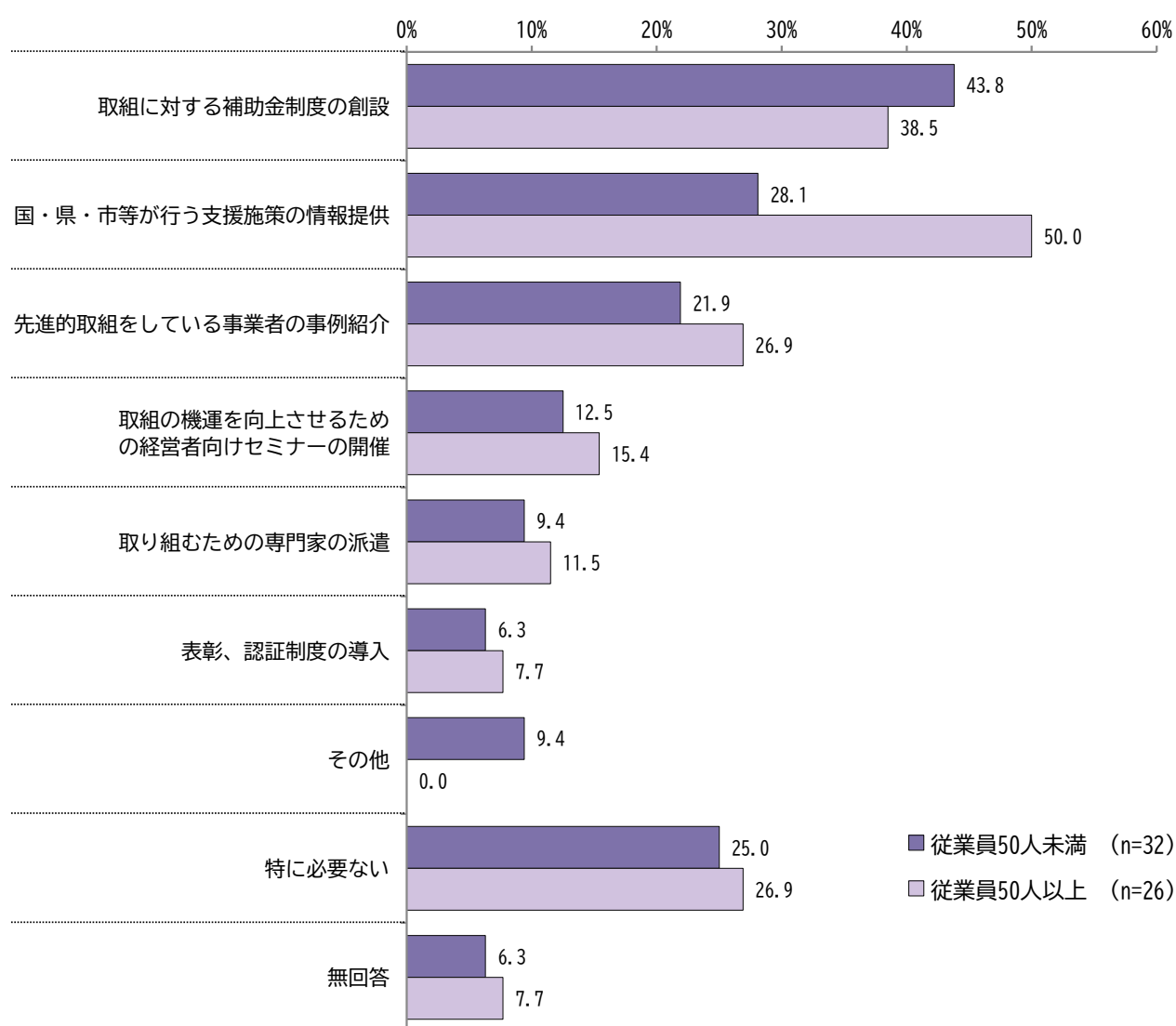
問 19 あなたの事業所でワーク・ライフ・バランスはどうすれば取り組みやすくなりますか。
(〇はいくつでも)

【全体】



ワーク・ライフ・バランスに取り組みやすくなるために必要なことについて、「取組に対する補助金制度の創設」との回答が42.4%と最も高く、次いで「国・県・市等が行う支援施策の情報提供」(39.0%)、「先進的取組をしている事業者の事例紹介」(23.7%)などの順となっている。

【ワーク・ライフ・バランスに取り組みやすくなるために必要なこと 従業員数別】

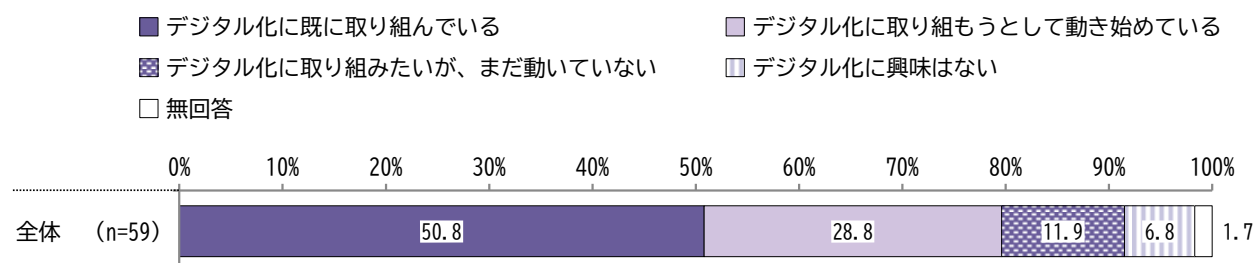


従業員数別にみると、「取組に対する補助金制度の創設」との回答は従業員50人未満（43.8%）が従業員50人以上（38.5%）を5.3ポイント上回っており、「国・県・市等が行う支援施策の情報提供」との回答は従業員50人未満（28.1%）が従業員50人以上（50.0%）を21.9ポイント下回っている。

5 デジタル化について

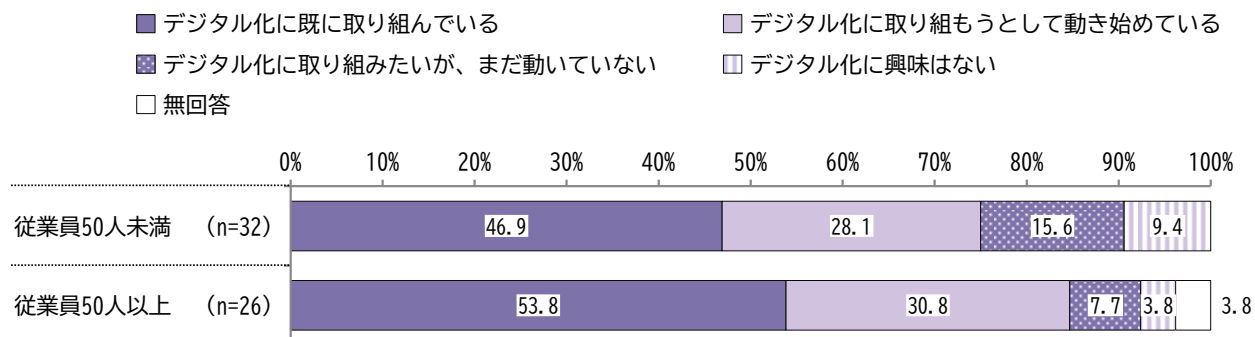
問 20 貴事業所におけるデジタル化に対する社内の意識について、どのように感じていますか。
(○は1つ)

【全体】



デジタル化に対する社内の意識について、「デジタル化に既に取り組んでいる」との回答が50.8%と最も高く、次いで「デジタル化に取り組もうとして動き始めている」(28.8%)、「デジタル化に取り組みたいが、まだ動いていない」(11.9%)などの順となっている。

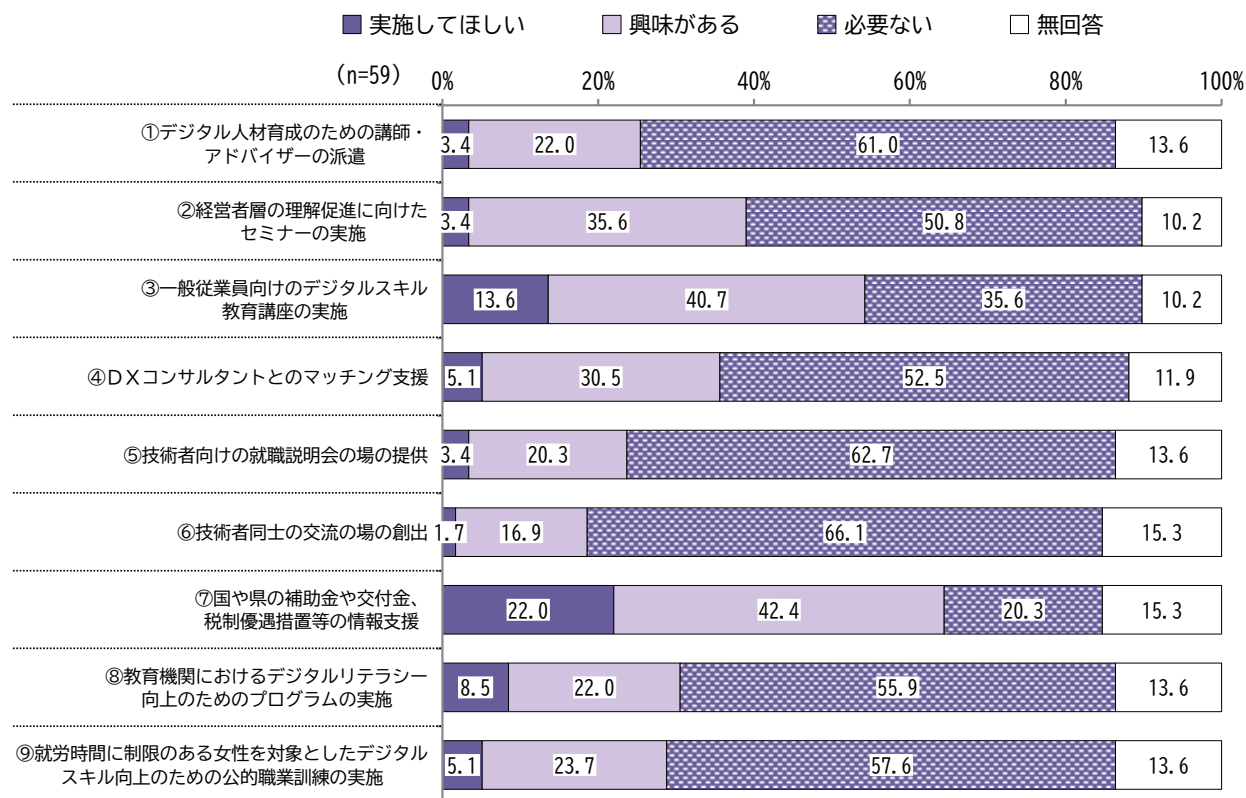
【デジタル化に対する社内の意識 従業員数別】



従業員数別にみると、「デジタル化に取り組みたいが、まだ動いていない」との回答は従業員50人未満(15.6%)が従業員50人以上(7.7%)を7.9ポイント上回っている。

問 21 貴事業所でデジタル化を推進するために市に実施してほしいと思う取組は何ですか。
(〇は1つつつ)

【全体】

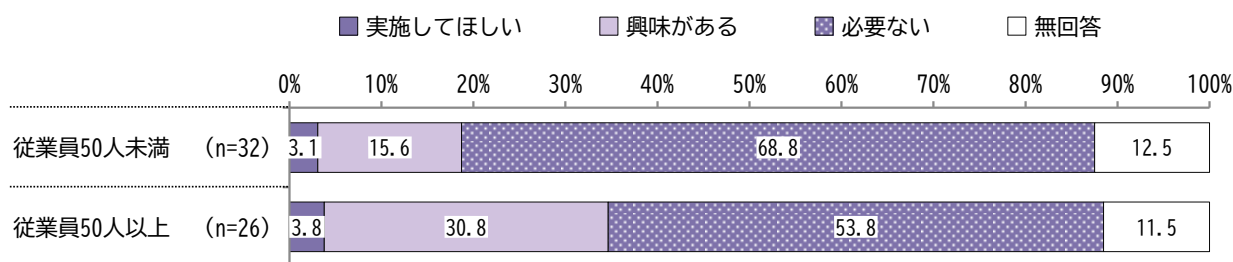


デジタル化推進のため市に実施してほしい取組について、「実施してほしい」は「⑦国や県の補助金や交付金、税制優遇措置等の情報支援」との回答が22.0%と最も高く、次いで「③一般従業員向けのデジタルスキル教育講座の実施」(13.6%)、「⑧教育機関におけるデジタルリテラシー向上のためのプログラムの実施」(8.5%)などの順となっている。

一方で、「必要ない」は「⑥技術者同士の交流の場の創出」との回答が66.1%と最も高く、次いで「⑤技術者向けの就職説明会の場の提供」(62.7%)、「①デジタル人材育成のための講師・アドバイザーの派遣」(61.0%)などの順となっている。

①デジタル人材育成のための講師・アドバイザーの派遣

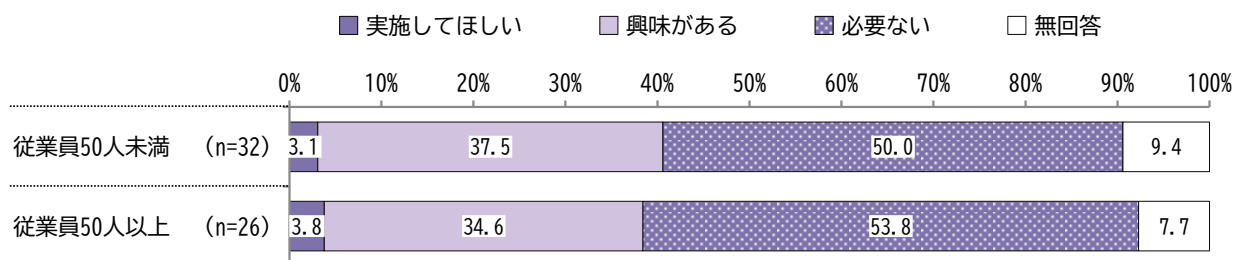
【デジタル人材育成のための講師・アドバイザーの派遣 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（68.8%）が従業員50人以上（53.8%）を15.0ポイント上回っている。

②経営者層の理解促進に向けたセミナーの実施

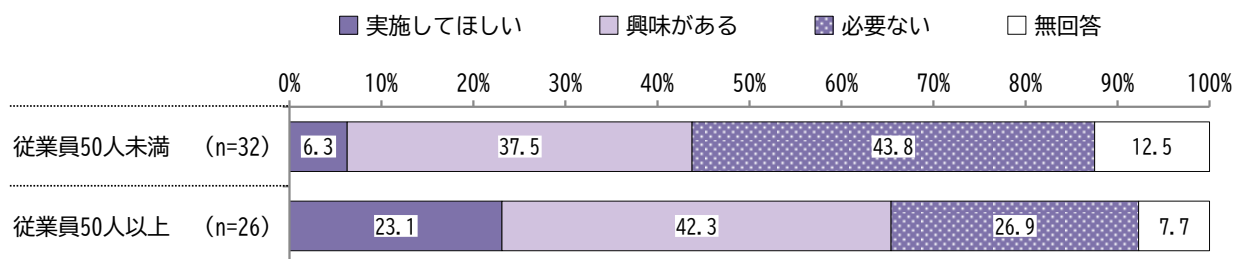
【経営者層の理解促進に向けたセミナーの実施 従業員数別】



従業員数別にみると、大きな差はみられない。

③一般従業員向けのデジタルスキル教育講座の実施

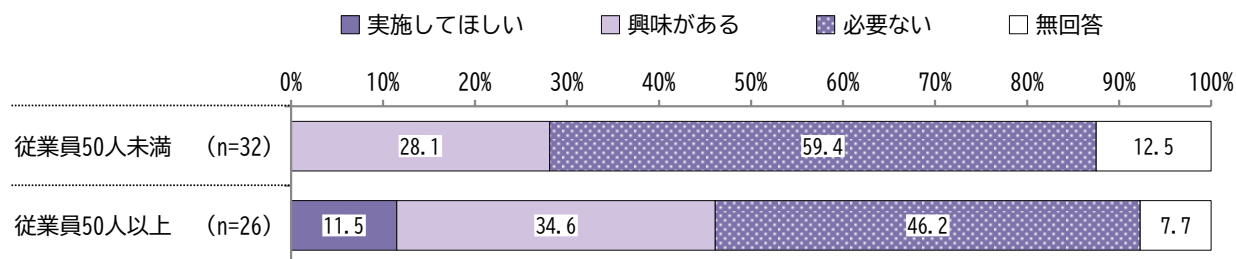
【一般従業員向けのデジタルスキル教育講座の実施 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（43.8%）が従業員50人以上（26.9%）を16.9ポイント上回っている。

④DXコンサルタントとのマッチング支援

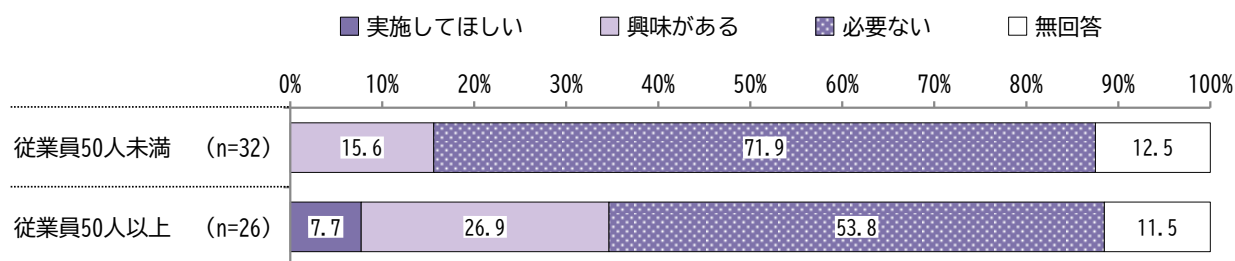
【DXコンサルタントとのマッチング支援 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（59.4%）が従業員50人以上（46.2%）を13.2ポイント上回っている。

⑤技術者向けの就職説明会の場の提供

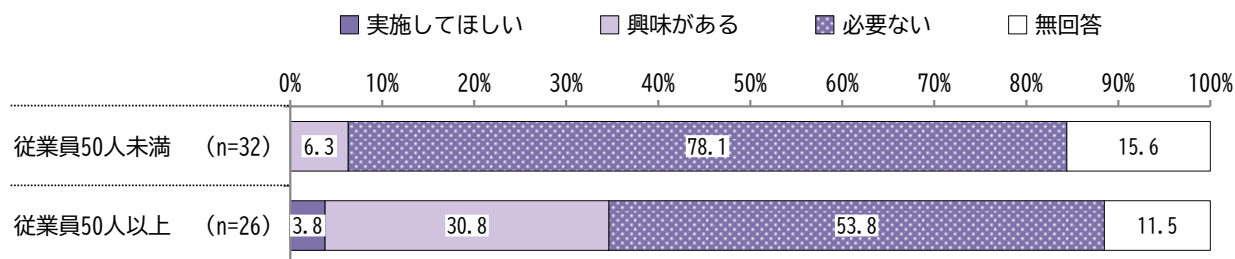
【技術者向けの就職説明会の場の提供 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（71.9%）が従業員50人以上（53.8%）を18.1ポイント上回っている。

⑥技術者同士の交流の場の創出

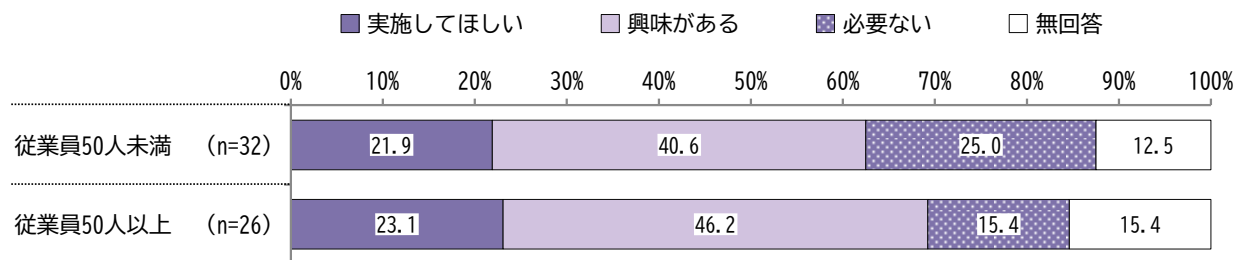
【技術者同士の交流の場の創出 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（78.1%）が従業員50人以上（53.8%）を24.3ポイント上回っている。

⑦国や県の補助金や交付金、税制優遇措置等の情報支援

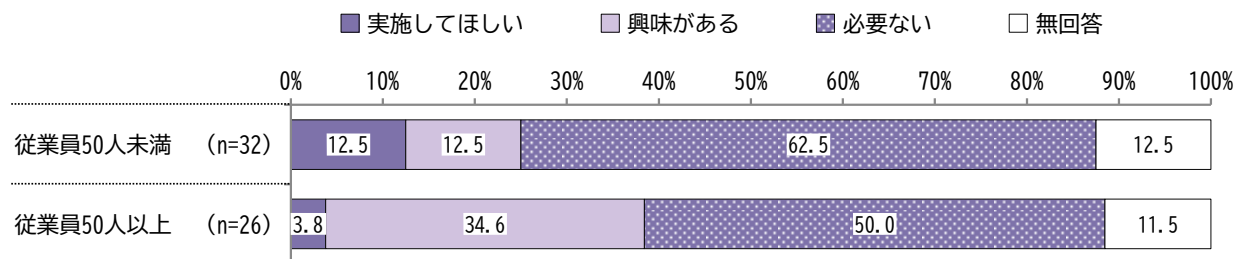
【国や県の補助金や交付金、税制優遇措置等の情報支援 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（25.0%）が従業員50人以上（15.4%）を9.6ポイント上回っている。

⑧教育機関におけるデジタルリテラシー向上のためのプログラムの実施

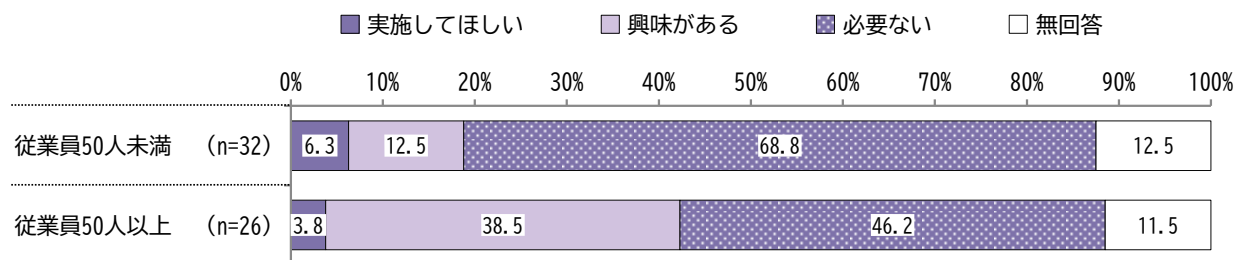
【教育機関におけるデジタルリテラシー向上のためのプログラムの実施 従業員数別】



従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（62.5%）が従業員50人以上（50.0%）を12.5ポイント上回っている。

⑨就労時間に制限のある女性を対象としたデジタルスキル向上のための公的職業訓練の実施

【デジタルスキル向上のための公的職業訓練の実施 従業員数別】

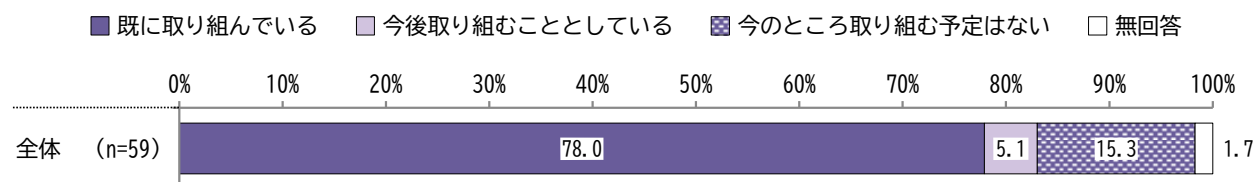


従業員数別にみると、「必要ない」との回答は従業員50人未満（68.8%）が従業員50人以上（46.2%）を22.6ポイント上回っている。

6 ハラスメントの防止について

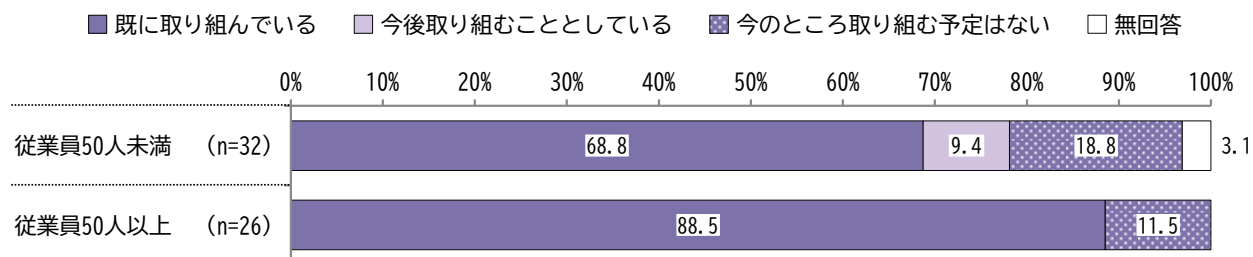
問 22 あなたの事業所では、ハラスメントの防止のための取組を行っていますか。(○は1つ)

【全体】



ハラスメントの防止のための取組の有無について、「既に取り組んでいる」との回答が78.0%と最も高く、次いで「今のところ取り組む予定はない」(15.3%)、「今後取り組むこととしている」(5.1%)などの順となっている。

【ハラスメントの防止のための取組の有無 従業員数別】

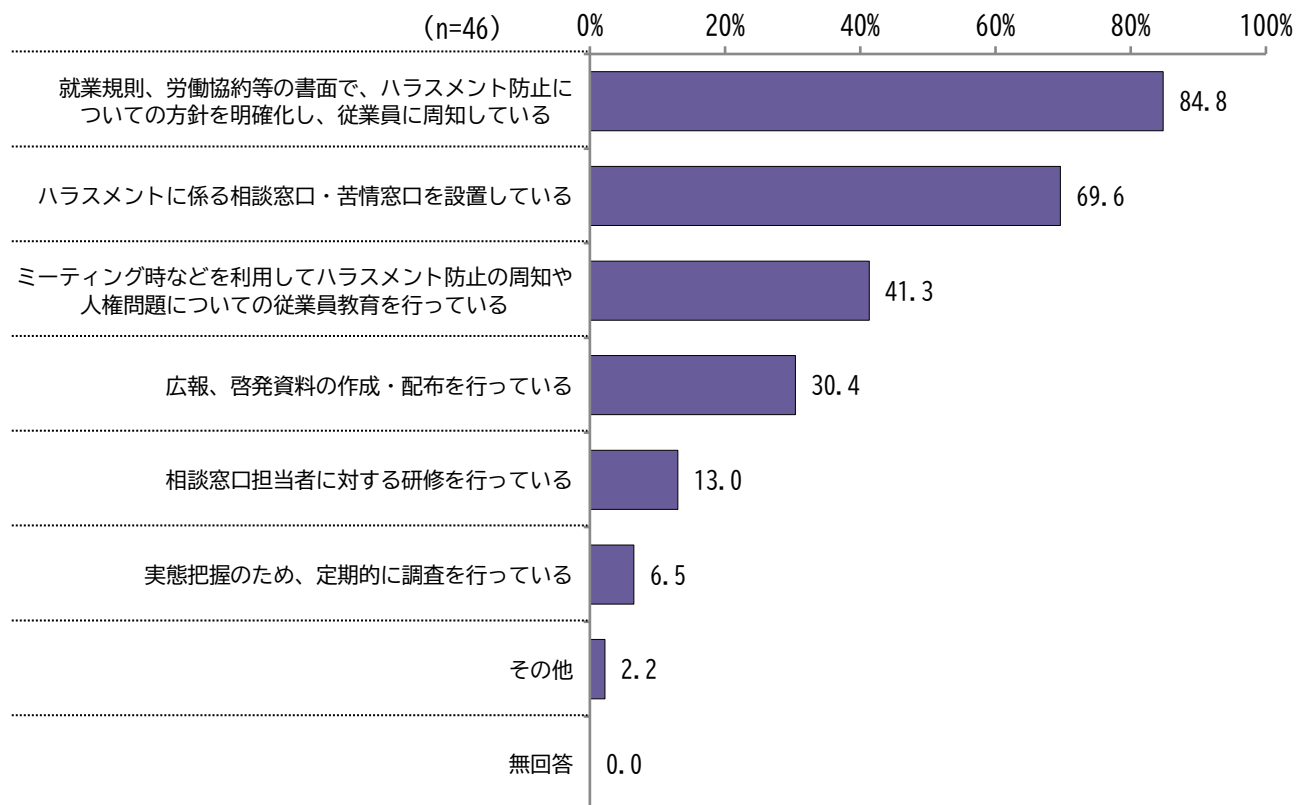


従業員数別にみると、「既に取り組んでいる」との回答は従業員50人以上(88.8%)が従業員50人未満(68.8%)を19.7ポイント上回っている。

問22で「1. 既に取り組んでいる」を選んだ方におたずねします。

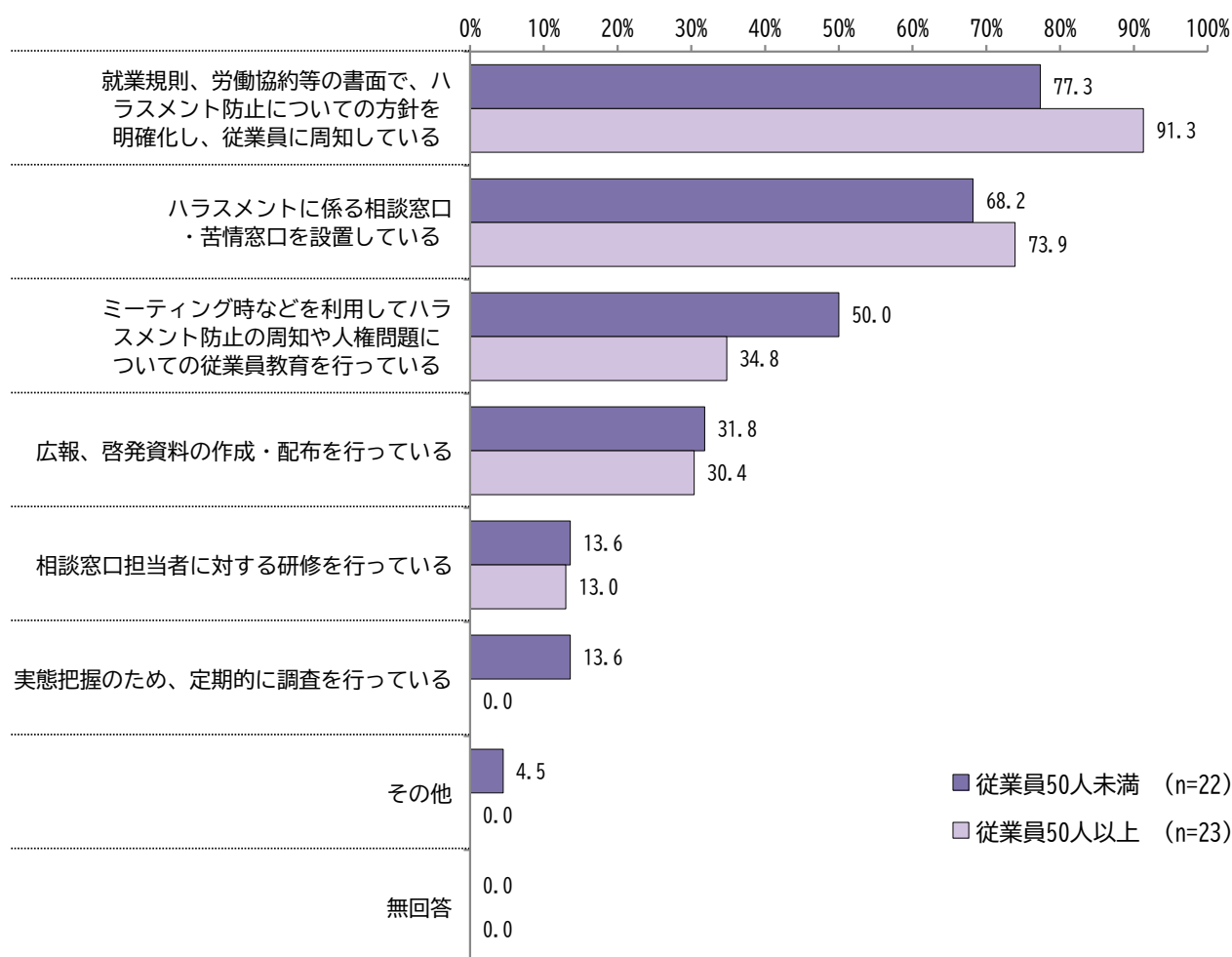
問 23 その取組はどのような内容のものですか。(〇はいくつでも)

【全体】



取組の内容について、「就業規則、労働協約等の書面で、ハラスメント防止についての方針を明確化し、従業員に周知している」との回答が84.8%と最も高く、次いで「ハラスメントに係る相談窓口・苦情窓口を設置している」(69.6%)、「ミーティング時などを利用してハラスメント防止の周知や人権問題についての従業員教育を行っている」(41.3%)などの順となっている。

【取組の内容 従業員数別】

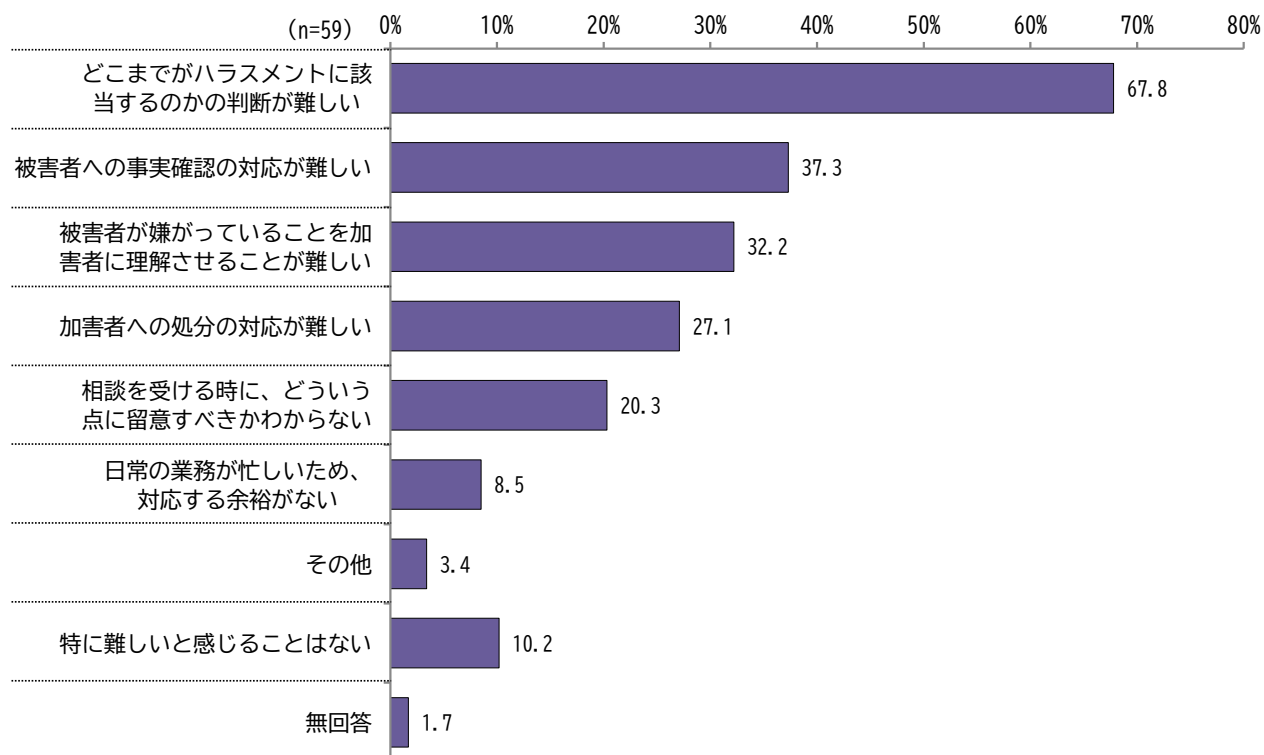


従業員数別にみると、「ミーティング時などを利用してハラスメント防止の周知や人権問題についての従業員教育を行っている」との回答は従業員50人未満（50.0％）が従業員50人以上（34.8％）を15.2ポイント上回っており、「就業規則、労働協約等の書面で、ハラスメント防止についての方針を明確化し、従業員に周知している」との回答は従業員50人未満（77.3％）が従業員50人以上（91.3％）を14.0ポイント下回っている。

すべての事業所におたずねします。

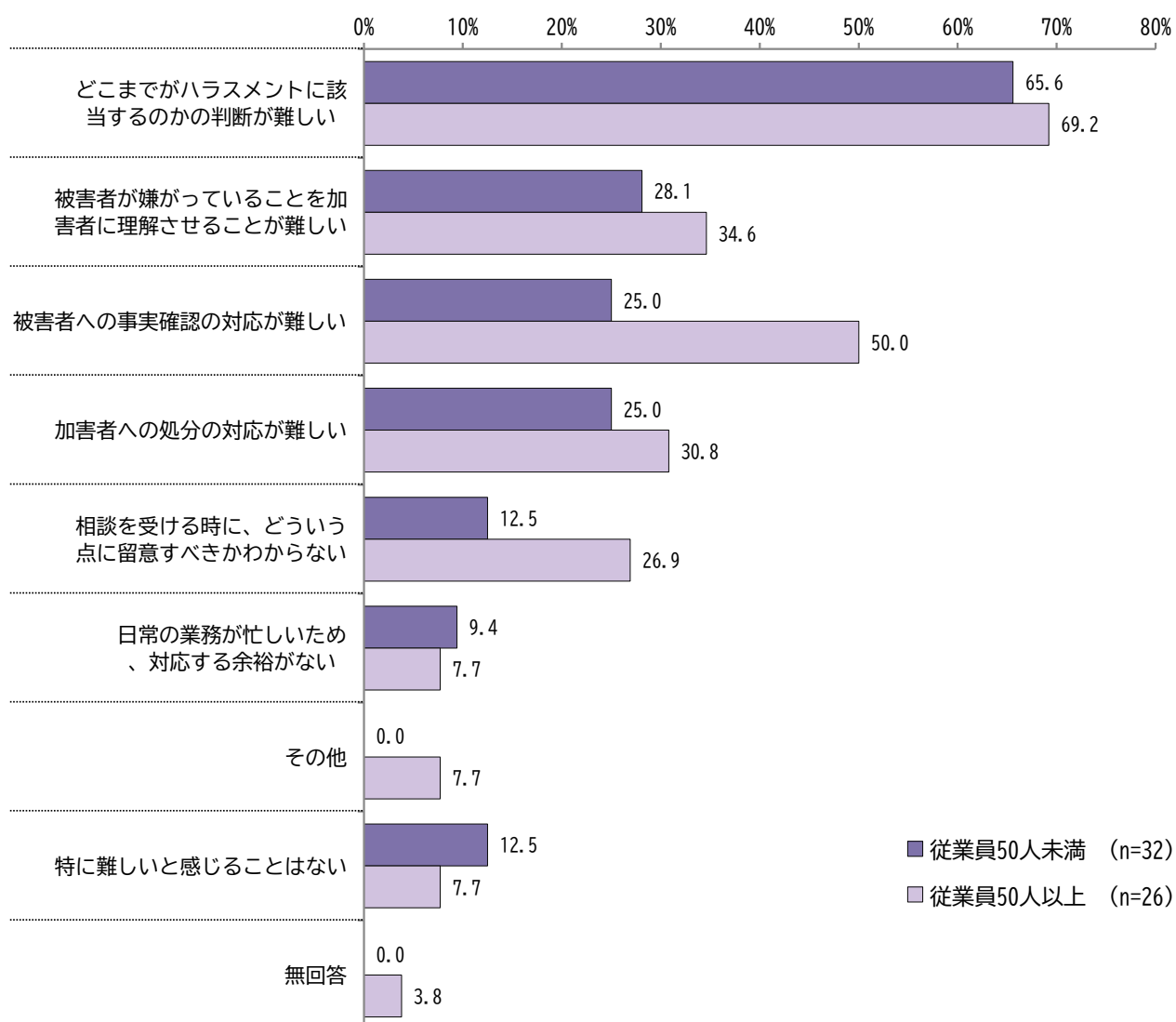
問 24 あなたの事業所で、ハラスメントが起きた場合、対応として特に難しいと感じているのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【全体】



ハラスメント対応として特に難しいと感じていることについて、「どこまでがハラスメントに該当するかの判断が難しい」との回答が67.8%と最も高く、次いで「被害者への事実確認の対応が難しい」(37.3%)、「被害者が嫌がっていることを加害者に理解させることが難しい」(32.2%)などの順となっている。

【ハラスメント対応として特に難しいと感じていること 従業員数別】

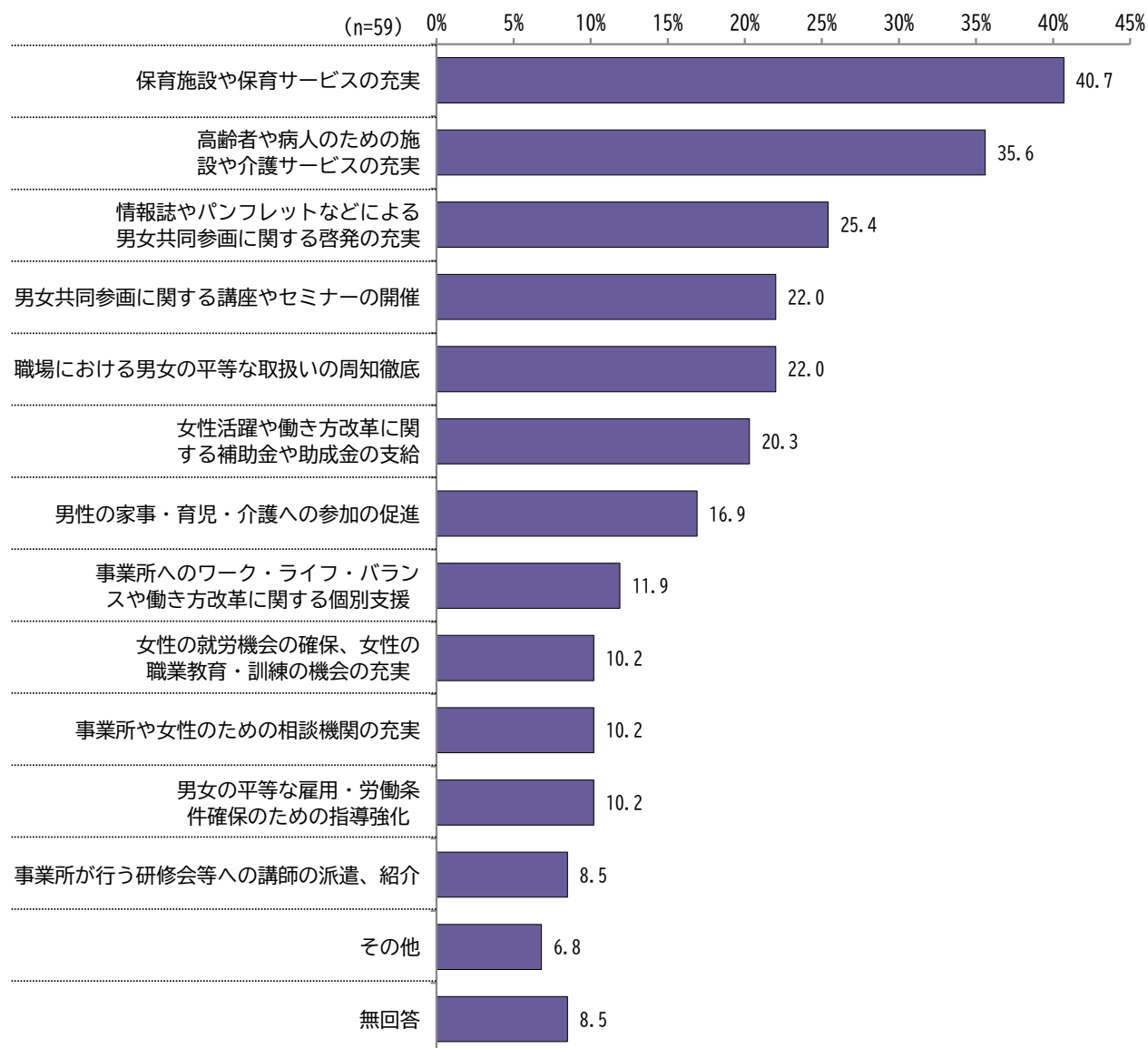


従業員数別にみると、「被害者への事実確認の対応が難しい」との回答は従業員50人未満（25.0％）が従業員50人以上（50.0％）を25.0ポイント下回っている。

7 市として重点的に取り組むべきことについて

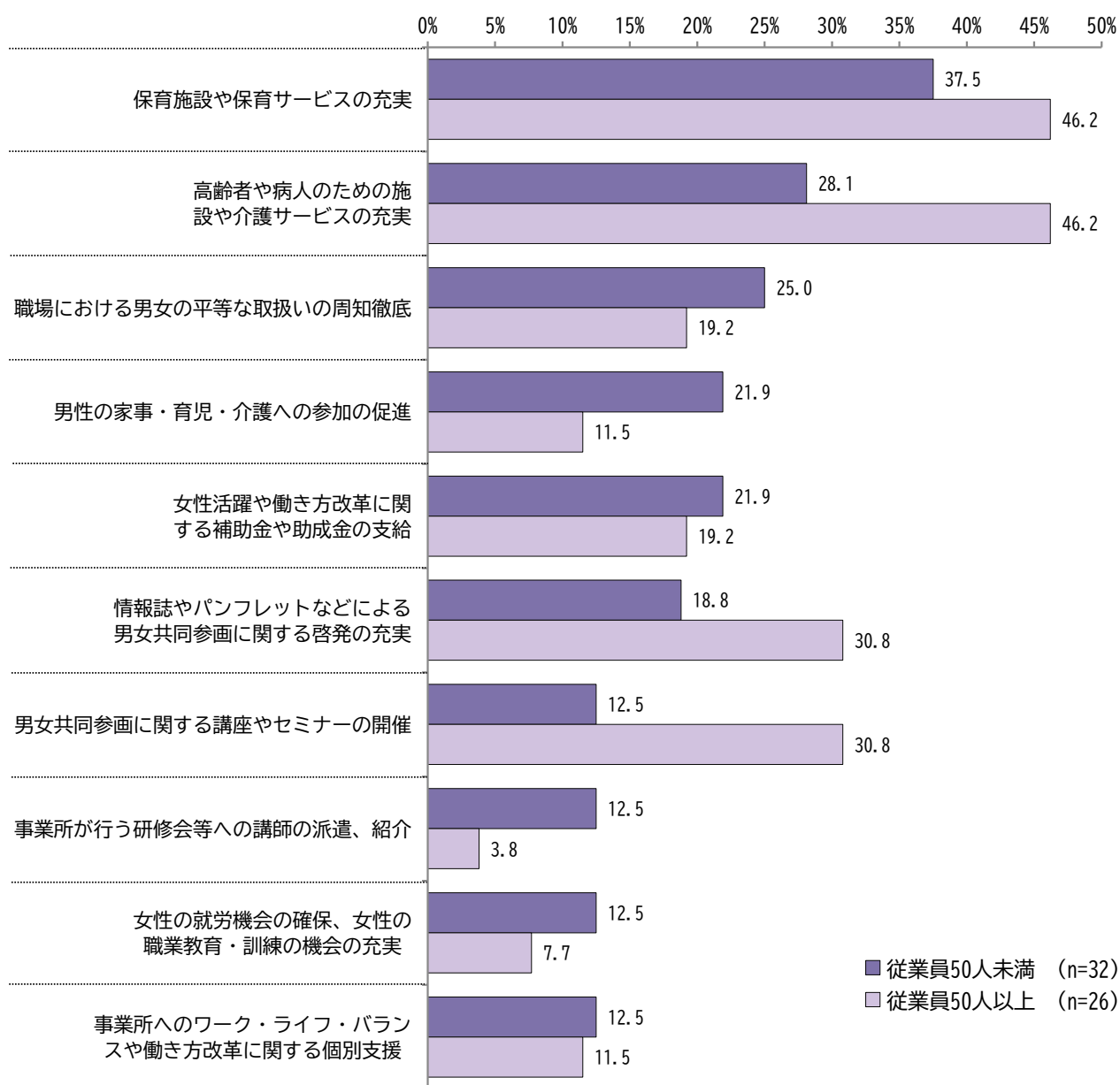
問 25 今後、働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】



働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市が重点的に取り組むべきことについて、「保育施設や保育サービスの充実」との回答が40.7%と最も高く、次いで「高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実」(35.6%)、「情報誌やパンフレットなどによる男女共同参画に関する啓発の充実」(25.4%)などの順となっている。

【働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市が重点的に取り組むべきこと 従業員数別】



従業員数別にみると、「男性の家事・育児・介護への参加の促進」との回答は従業員50人未満（21.9％）が従業員50人以上（11.5％）を10.4ポイント上回っており、「男女共同参画に関する講座やセミナーの開催」との回答は従業員50人未満（12.5％）が従業員50人以上（30.8％）を18.3ポイント下回っている。

【働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市が重点的に取り組むべきこと 経年比較(上位8位)】

		n 数	(%)							
経 年 比 較			の保育施設や保育サービスの充実	設高年齢者や病人のための充の施設	関による啓発の充実	情報誌やパンフレットなどによる男女共同参画に関する啓発の充実	座男女共同参画に関する講演やセミナーの開催	な職場における男女の平等な取扱いの周知徹底	支給する活躍や働き方改革の女性補助金や助成金の関係する家事・育児・介護への参加の促進	革・業所へのワーク・ライフ・バランスの個別支援
	R6	59	40.7	35.6	25.4	22.0	22.0	20.3	16.9	11.9
	H30	38	55.3	44.7	2.6	2.6	5.3	23.7	13.2	10.5
	H25	37	56.8	51.4	32.4	16.2	10.8			

1位 2位 3位

経年比較でみると、「情報誌やパンフレットなどによる男女共同参画に関する啓発の充実」との回答はR6（25.4%）がH30（2.6%）を22.8ポイント上回っている。

自由意見

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見・ご要望などがありましたら、自由に記入してください。

- 一気に進むとは考えられない。しかし人手不足の中、男女が共同参画する風土を持つ会社づくりは必要不可欠だと思います。逆にそういう取り組みをしていない会社は求人しても人が来ないし、将来会社の発展とか望めないと思います。（従業員50人未満）
- 会社の規模・形態により状況は様々なため、統一や、労使間の権利主張ばかりが前面に出るような取り組みは控えて欲しい。（従業員50人未満）
- 制度がなくても休暇などを取得したい時に取得できる環境があれば良いと思います。その環境は、取得させていただく側だけでなく、残って穴を埋める側に対しても配慮があるものであればより良いと考えます。この度は、ありがとうございます。これからも廿日市市がより住みやすく皆さんが自発的に協力しあえるようなところになるよう何卒よろしくお願いいたします。（従業員50人未満）
- 「男女共同参画」は企業主導の取組みが肝要かと思われます。そのために行政側が求められていることは、取組みを支援するための補助金や助成金の創設・支給または周知が必要とされているのではないのでしょうか。（従業員50人以上）
- 今までの社会の流れのなかで固定的な役割分担意識があるので、急激な変化は難しいと思います。少しずつ、地域の特性を活かした施策を展開して行って欲しいと思います。（従業員50人以上）

3章 男女共同参画に関する中・高校生アンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の計画期間満了(令和7年度末)に伴い、現計画の施策や事業の評価等を行うとともに、市民の意識やニーズを調査し、その後の社会経済情勢の急速な変化や新たな課題に対応した、今後10か年の目標や施策、具体的な取組等をまとめた「第3次廿日市市男女共同参画プラン」(以下「プラン」という。)を策定するための基礎資料とするために実施した。

2. 調査の設計

(1) 調査地域 廿日市市全域

(2) 調査対象 市内の学校に通学する中学2年生・高校2年生・特別支援学校3年生

(3) 標 本 数 1,808人(中学2年生:984人、高校2年生:798人、特別支援学校3年生:26人)

(4) 調査方法 各学校に調査票を配布し、学校ごとに実施

※高校及び一部の中学校については、WEBでの回答とした

(5) 調査期間 令和6(2024)年10月17日(金)～11月15日(金)

3. 調査項目

(1) あなたご自身のことについて

(2) 男女平等について

(3) 家庭での家事などの分担について

(4) あなたの将来のことなどについて

(5) デートDVについて

(6) 性の悩みについて

(7) あなたの将来のことなどについて

4. 回収結果

(1) 有効回収数 1,097人

(中学2年生:770人 高校2年生:286人 特別支援学校高等部3年生:25人 無回答:16人)

(2) 有効回収率 60.7% ※参考 平成30(2018)年調査の有効回収率:94.7%

5. 報告書の見方

- (1) 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- (2) 回答比率(%)は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- (3) 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (4) 表・グラフの属性別データは、無回答や著しく回答者の少ない属性を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。
- (5) 図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 学年別の集計に関しては、「中学2年生」を「中学生」、「高校2年生」及び「特別支援学校高等部3年生」を「高校生」として集計している。
- (7) 性別、学年別、経年比較については、5ポイント以上の差がない場合は「大きな差はみられない。」との表記としている。

Ⅱ 調査結果

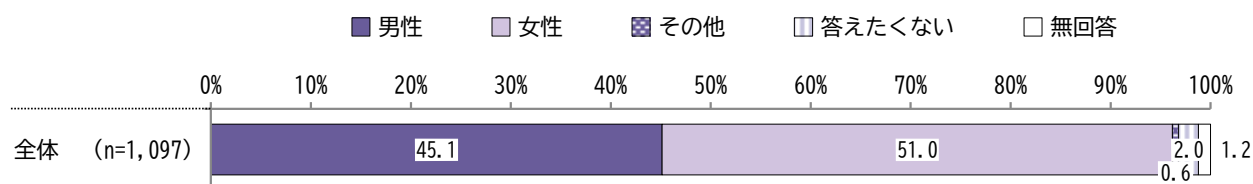
1 あなたご自身のことについて

すべての方におたずねします。

問1 あなた自身にあてはまるものをお答えください。(○は1つずつ)

① 性別

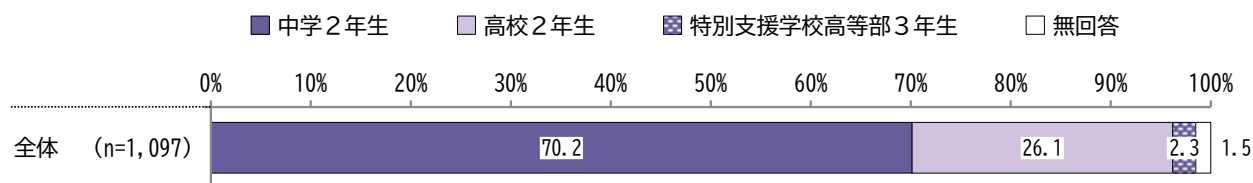
【全体】



性別について、「女性」(51.0%)、「男性」(45.1%)となっている。

② 学年

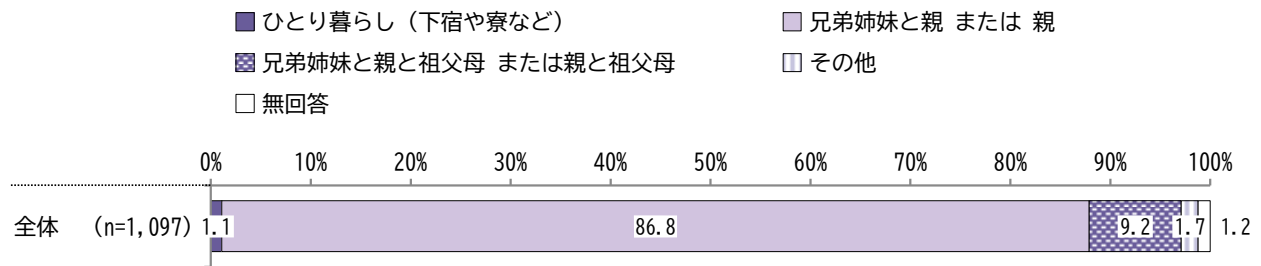
【全体】



学年について、「中学2年生」(70.2%)、「高校2年生」(26.1%)、「特別支援学校高等部3年生」(2.3%)となっている。

③ いっしょに住んでいる人

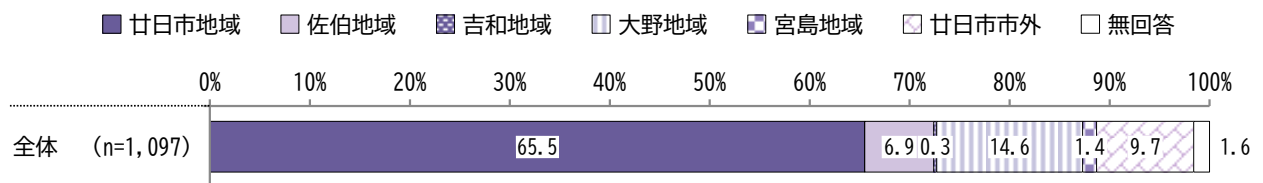
【全体】



いっしょに住んでいる人について、「兄弟姉妹と親 または 親」との回答が86.8%と最も高く、次いで「兄弟姉妹と親と祖父母 または親と祖父母」(9.2%)、「ひとり暮らし (下宿や寮など)」(1.1%)などの順となっている。

④ 住んでいる地域

【全体】



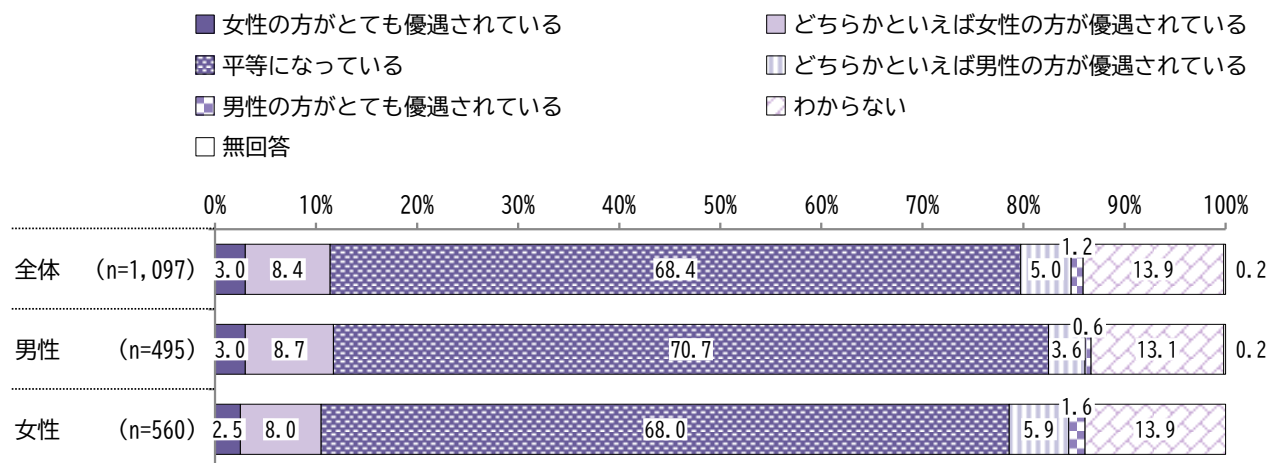
住んでいる地域について、「廿日市地域」との回答が65.5%と最も高く、次いで「大野地域」(14.6%)、「廿日市市外」(9.7%)などの順となっている。

2 男女平等について

問2 あなたは、次のような分野で、男女は平等になっていると思いますか。(〇は1つずつ)

① 家族の中で

【家族の中で 全体・性別】

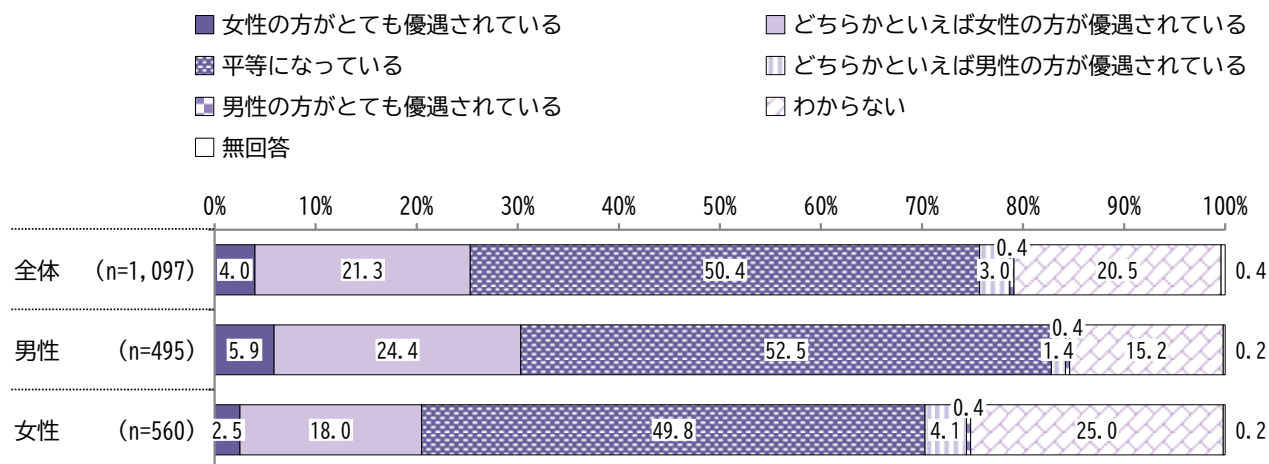


家族の中での男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が68.4%と最も高く、次いで「わからない」(13.9%)、『女性優遇（「女性の方がとても優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）』（11.4%）などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

② 学校の中で

【学校の中で 全体・性別】

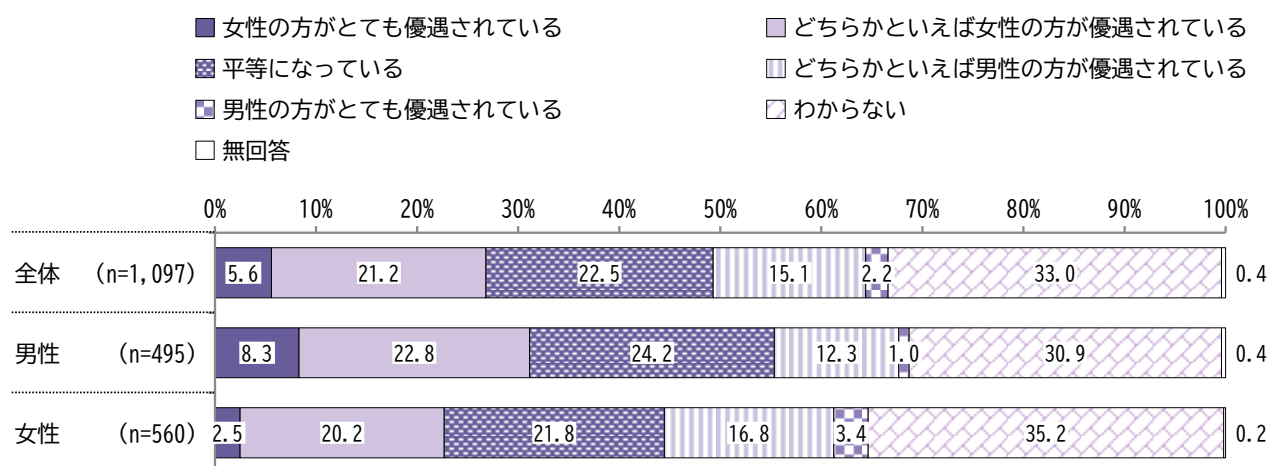


学校の中での男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が50.4%と最も高く、次いで『女性優遇』（25.3%）、「わからない」（20.5%）などの順となっている。

性別にみると、『女性優遇』との回答は男性（30.3%）が女性（20.5%）を9.8ポイント上回っており、「わからない」との回答は男性（15.2%）が女性（25.0%）を9.8ポイント下回っている。

③ 社会全体で

【社会全体で 全体・性別】

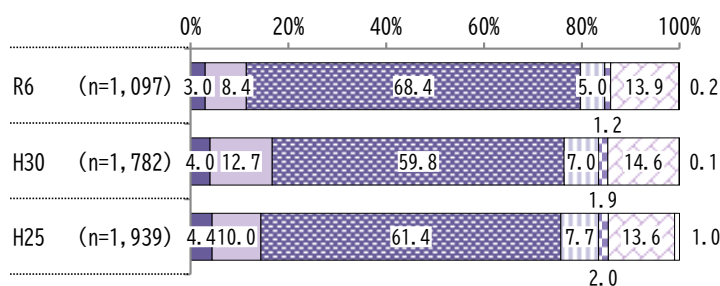


社会全体での男女の平等意識について、「わからない」との回答が33.0%と最も高く、次いで『女性優遇』（26.8%）、「平等になっている」（22.5%）などの順となっている。

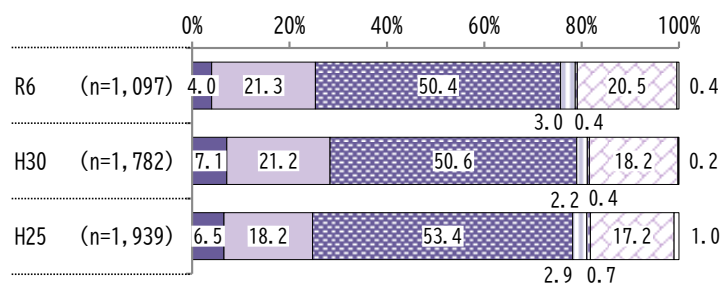
性別にみると、『女性優遇』との回答は男性（31.1%）が女性（22.7%）を8.4ポイント上回っており、『男性優遇』との回答は男性（13.3%）が女性（20.2%）を6.9ポイント下回っている。

【経年比較】

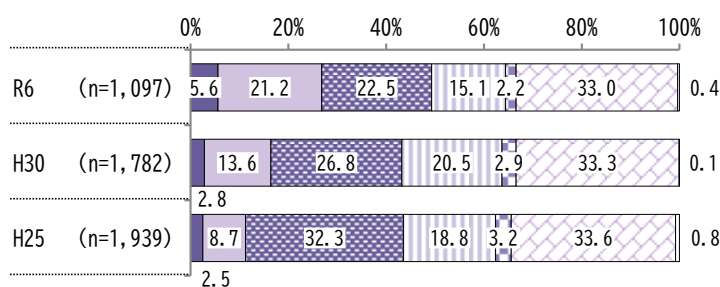
① 家族の中で



② 学校の中で



③ 社会全体で



■ 女性の方がとても優遇されている

■ 平等になっている

■ 男性の方がとても優遇されている

□ 無回答

■ どちらかといえば女性が優遇されている

■ どちらかといえば男性が優遇されている

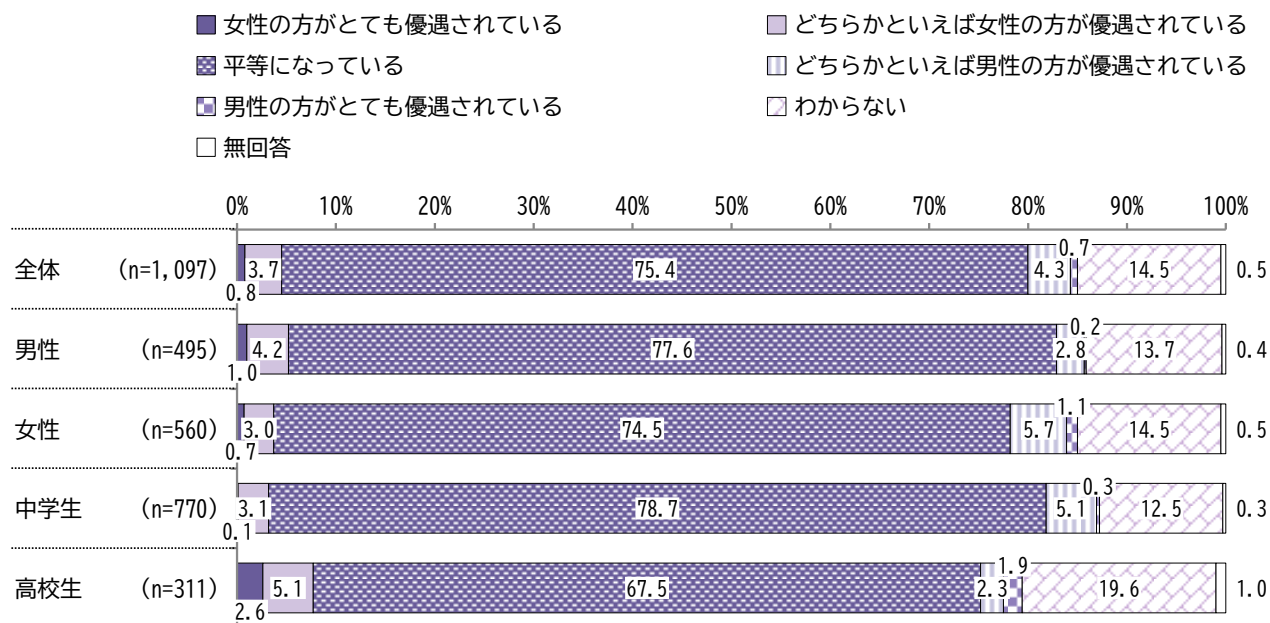
■ わからない

経年比較でみると、社会全体での男女の平等意識は、『女性優遇（「女性の方がとても優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」）』が年々高くなる傾向がみられる。

問3 あなたは、次のような学校生活の場面の中で、男女は平等になっていると思いますか。
(○は1つつ)

① 学級や生徒会の役員を決めるとき

【学級や生徒会の役員を決めるとき 全体・性別・学年別】



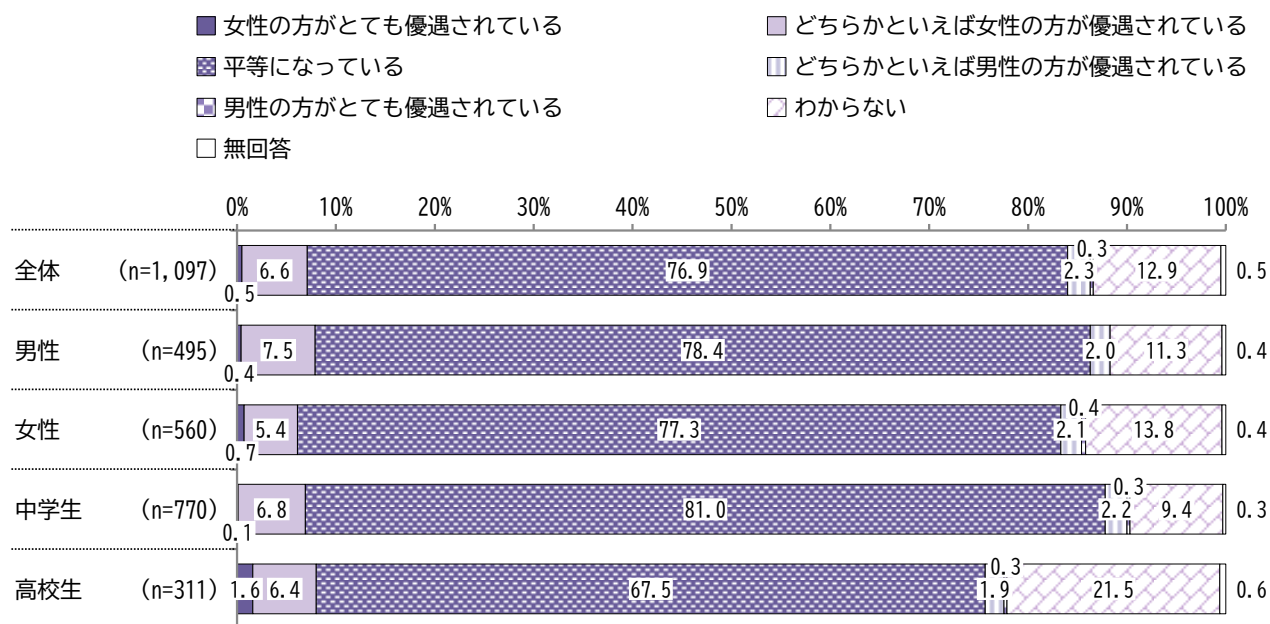
学級や生徒会の役員を決めるときの男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が75.4%と最も高く、次いで「わからない」(14.5%)、『男性優遇（「男性の方がとても優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）』(5.0%)などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

学年別にみると、「平等になっている」との回答は中学生(78.7%)が高校生(67.5%)を11.2ポイント上回っている。

② そうじや給食配膳などの仕事をするとき

【そうじや給食配膳などの仕事をするとき 全体・性別・学年別】



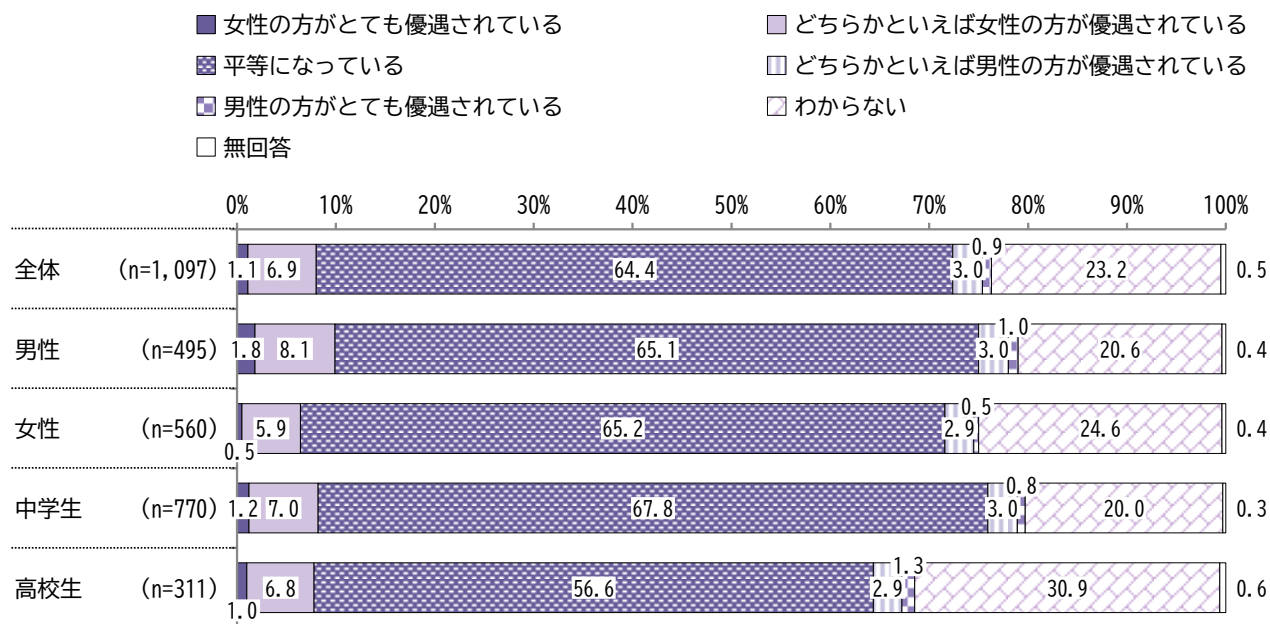
そうじや給食配膳などの仕事をするときの男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が76.9%と最も高く、次いで「わからない」(12.9%)、『女性優遇(「女性の方がとても優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)』(7.1%)などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

学年別にみると、「平等になっている」との回答は中学生(81.0%)が高校生(67.5%)を13.5ポイント上回っている。

③ 部活動のとき

【部活動のとき 全体・性別・学年別】



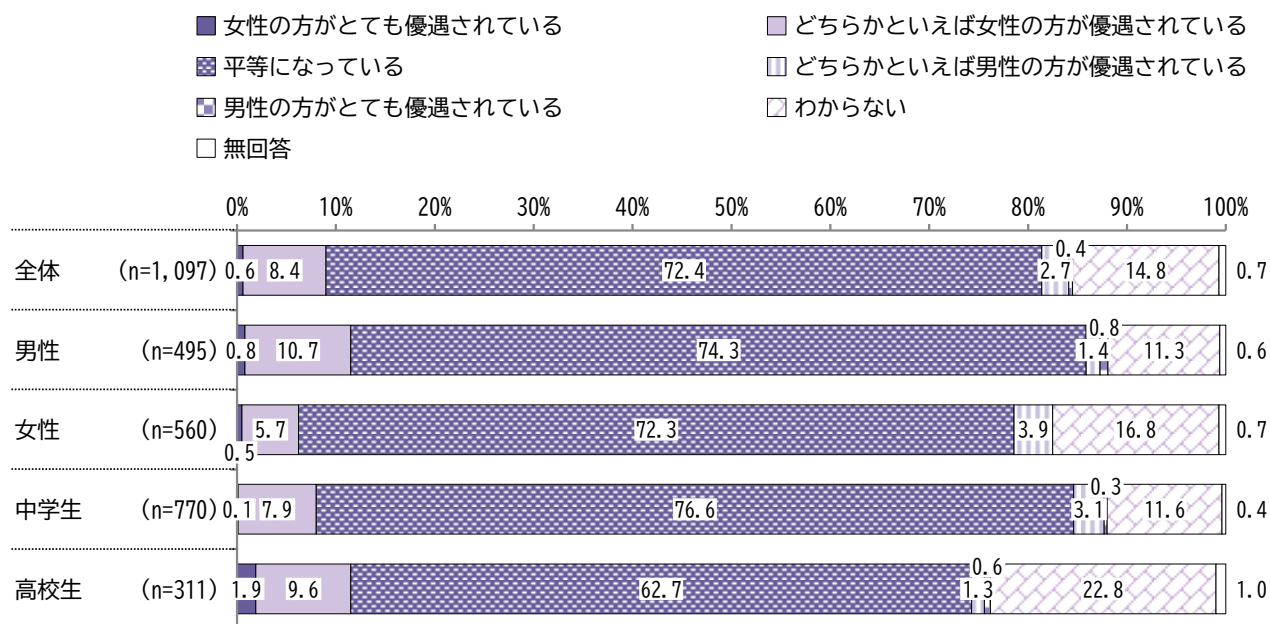
部活動のときの男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が64.4%と最も高く、次いで「わからない」（23.2%）、『女性優遇』（8.0%）などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

学年別にみると、「平等になっている」との回答は中学生（67.8%）が高校生（56.6%）を11.2ポイント上回っている。

④ 授業のとき

【授業のとき 全体・性別・学年別】



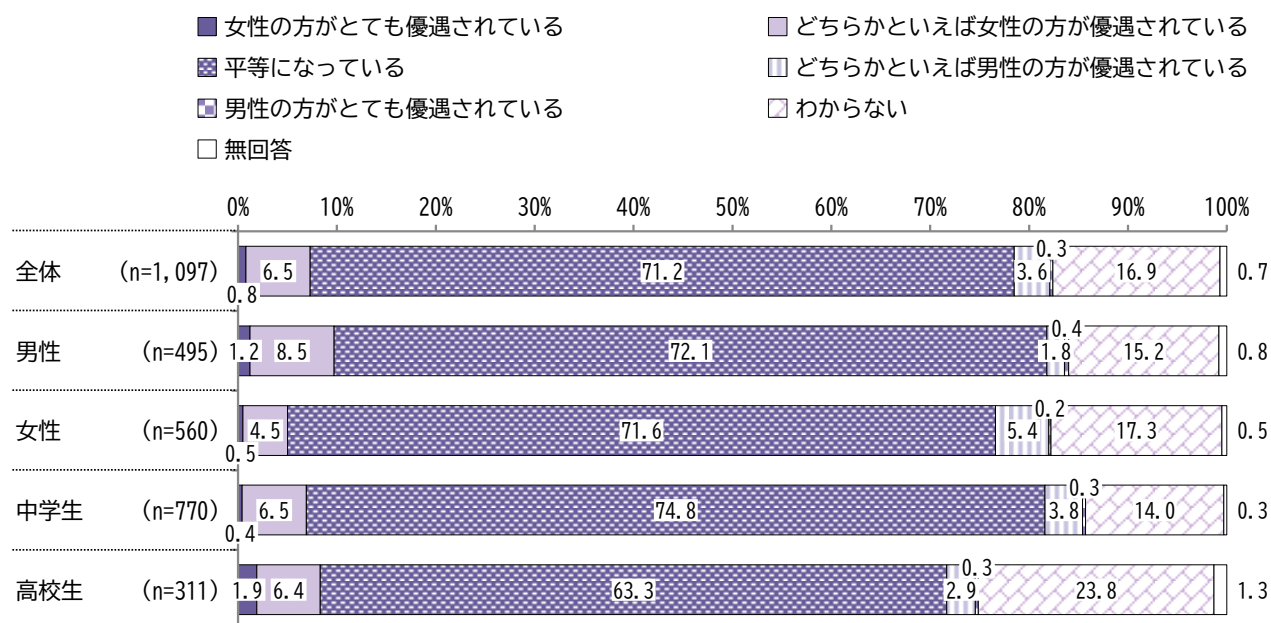
授業のときの男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が72.4%と最も高く、次いで「わからない」（14.8%）、『女性優遇』（9.0%）などの順となっている。

性別にみると、『女性優遇』との回答は男性（11.5%）が女性（6.2%）を5.3ポイント上回っており、「わからない」との回答は男性（11.3%）が女性（16.8%）を5.5ポイント下回っている。

学年別にみると、「平等になっている」との回答は中学生（76.6%）が高校生（62.7%）を13.9ポイント上回っている。

⑤ 学校行事のとき

【学校行事のとき 全体・性別・学年別】



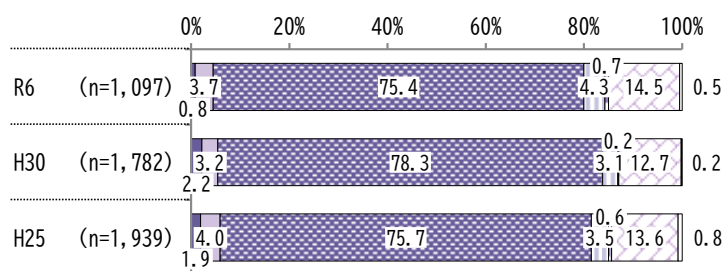
学校行事のときの男女の平等意識について、「平等になっている」との回答が71.2%と最も高く、次いで「わからない」(16.9%)、『女性優遇』(7.3%)などの順となっている。

性別にみると、「平等になっている」との回答に大きな差はみられない。男性は『女性優遇』の回答の割合が高く、女性は『男性優遇』の回答の割合が高くなっている。

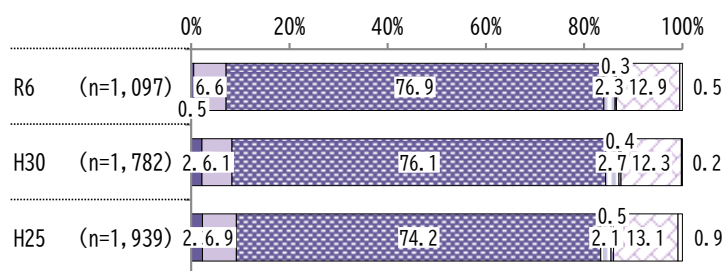
学年別にみると、「平等になっている」との回答は中学生(74.8%)が高校生(63.3%)を11.5ポイント上回っている。

【経年比較】

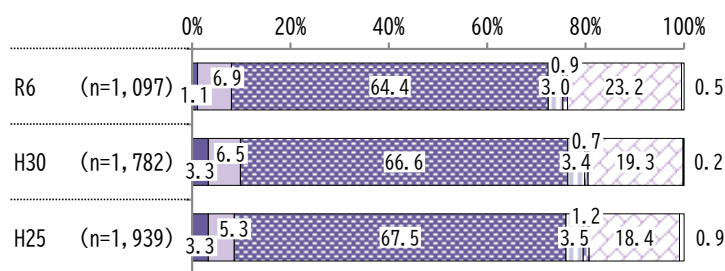
① 学級や生徒会の役員を決めるとき



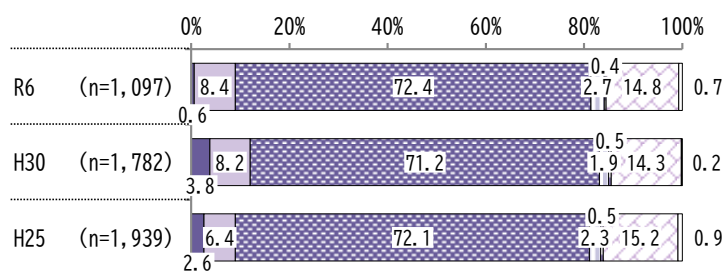
② そうじや給食配膳などの仕事をするとき



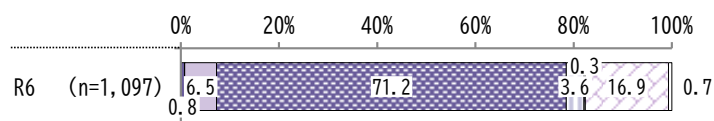
③ 部活動のとき



④ 授業のとき



⑤ 学校行事のとき



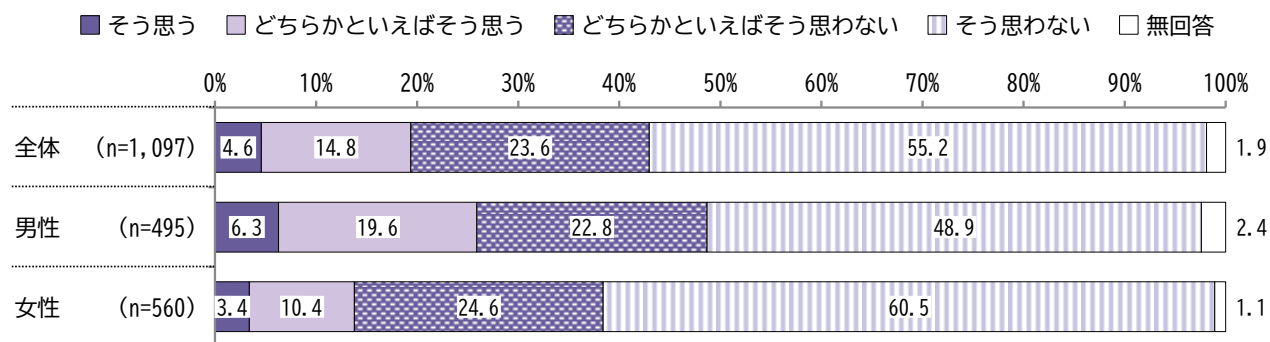
- 女性の方がとても優遇されている
- 平等になっている
- 男性の方がとても優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- わからない

男女の平等意識について、経年比較でみると大きな変化はみられない。

問4 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。(○は1つずつ)

① 夫(男)は外で働き、妻(女)は家庭を守るのが望ましい(男は仕事、女は家庭(家事・育児など)という考え方)

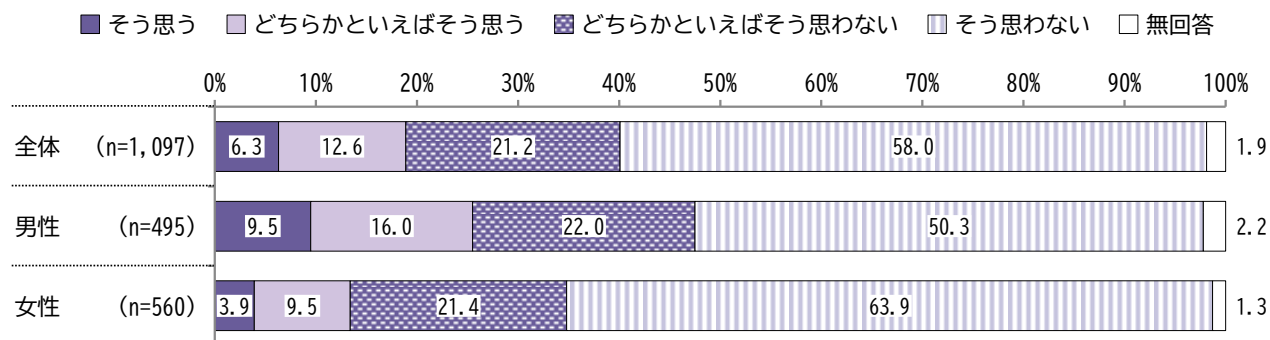
【男は仕事、女は家庭という考え方 全体・性別】



男は仕事、女は家庭という考え方について、『そう思う(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)』19.4%、『そう思わない(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)』78.8%となっている。
性別にみると、『そう思う』との回答は男性(25.9%)が女性(13.8%)を12.1ポイント上回っており、『そう思わない』との回答は男性(71.7%)が女性(85.1%)を13.4ポイント下回っている。

② 「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方

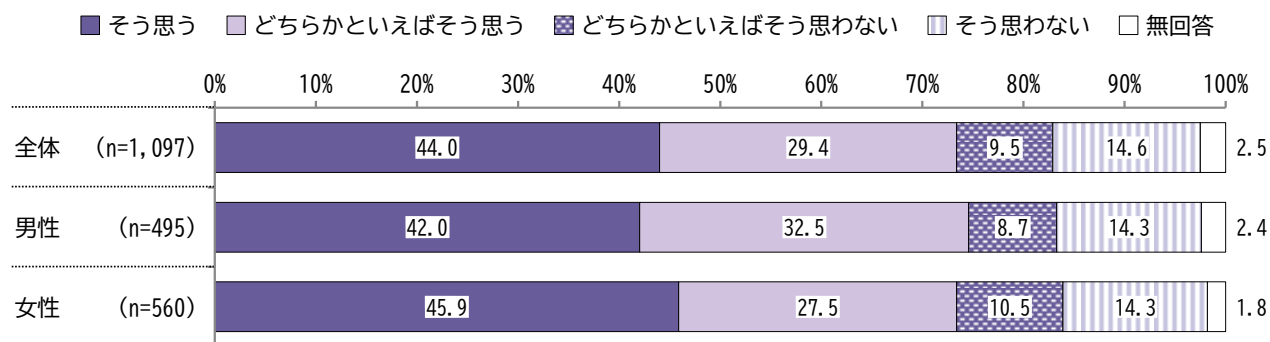
【「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方 全体・性別】



「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方について、『そう思う』18.9%、『そう思わない』79.2%となっている。
性別にみると、『そう思う』との回答は男性(25.5%)が女性(13.4%)を12.1ポイント上回っており、『そう思わない』との回答は男性(72.3%)が女性(85.3%)を13.0ポイント下回っている。

③ 知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい

【知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい 全体・性別】

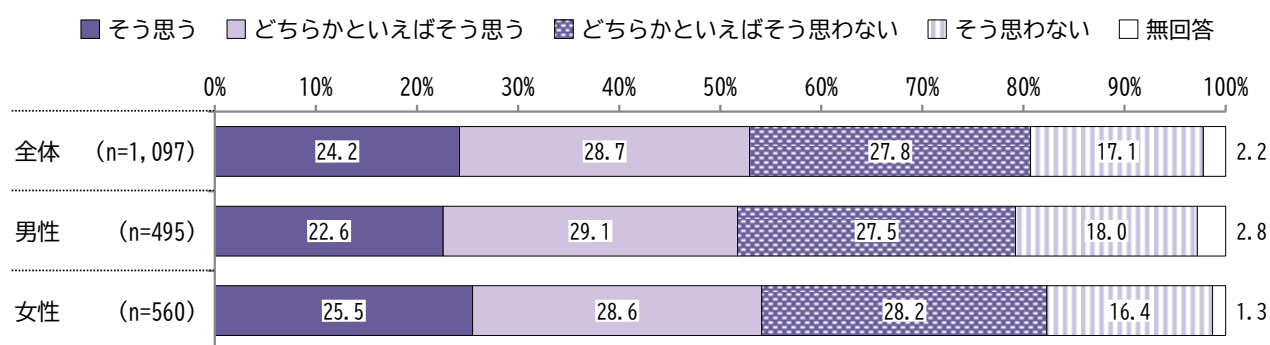


知的能力は、男女の差より個人差の方が大きいについて、『そう思う』73.4%、『そう思わない』24.1%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

④ 体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない

【体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない 全体・性別】

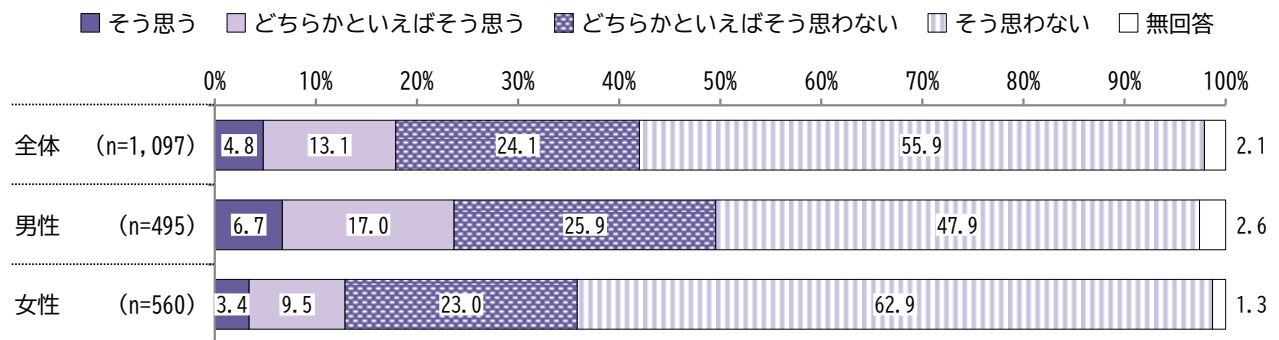


体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はないについて、『そう思う』52.9%、『そう思わない』44.9%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

⑤ 男性は女性より多く収入を得る必要がある

【男性は女性より多く収入を得る必要がある 全体・性別】



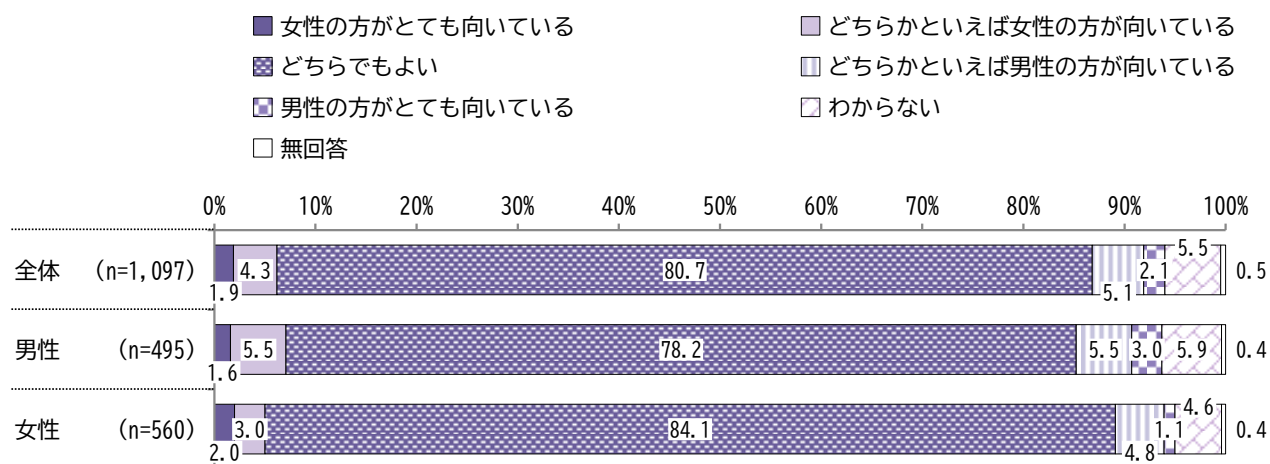
男性は女性より多く収入を得る必要があるについて、『そう思う』17.9%、『そう思わない』80.0%となっている。

性別にみると、『そう思う』との回答は男性（23.7%）が女性（12.9%）を10.8ポイント上回っており、『そう思わない』との回答は男性（73.8%）が女性（85.9%）を12.1ポイント下回っている。

問5 あなたは、次のことについて、女性と男性のどちらに向いていると思いますか。(○は1つずつ)

① 生徒会の会長や委員会の委員長

【生徒会の会長や委員会の委員長 全体・性別】

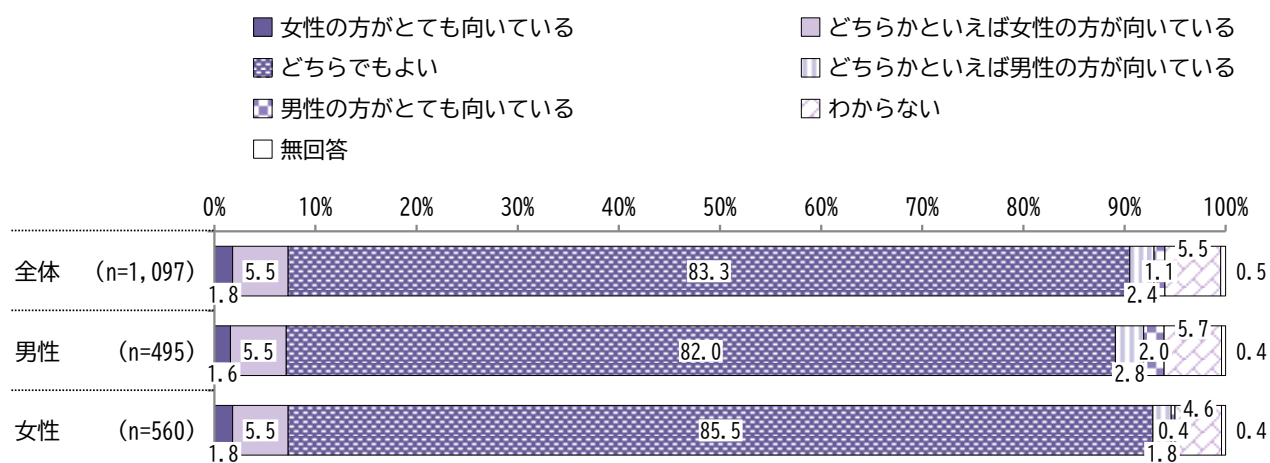


生徒会の会長や委員会の委員長について、「どちらでもよい」との回答が80.7%と最も高く、次いで『男性の方が向いている（「男性の方がとても向いている」＋「どちらかといえば男性の方が向いている」）』（7.2%）、『女性の方が向いている（「女性の方がとても向いている」＋「どちらかといえば女性の方が向いている」）』（6.2%）などの順となっている。

性別にみると、「どちらでもよい」との回答は男性（78.2%）が女性（84.1%）を5.9ポイント下回っている。

② 生徒会の副会長や委員会の副委員長

【生徒会の副会長や委員会の副委員長 全体・性別】

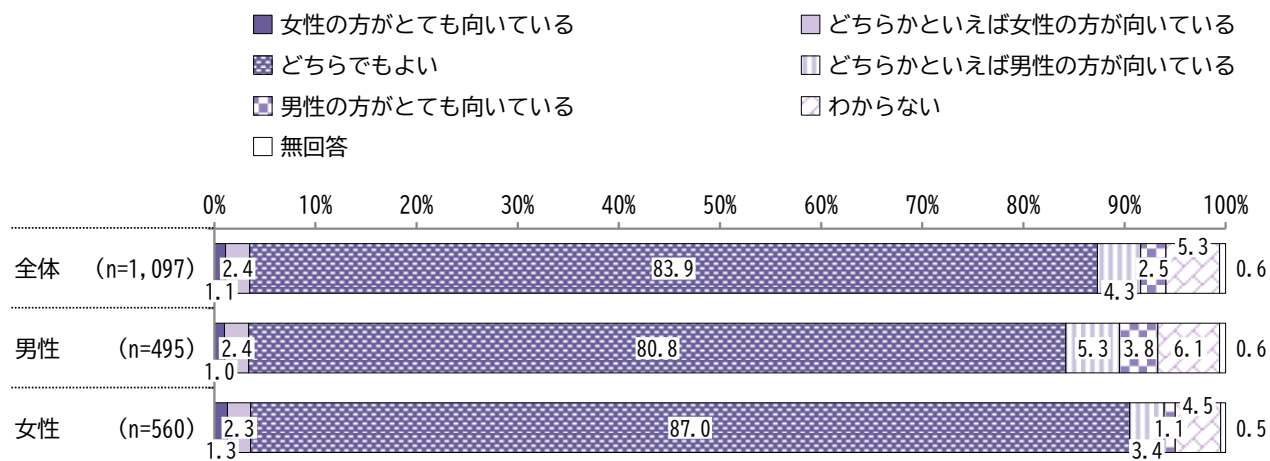


生徒会の副会長や委員会の副委員長について、「どちらでもよい」との回答が83.3%と最も高く、次いで『女性の方が向いている』（7.3%）、『男性の方が向いている』（3.5%）などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

③ クラスのグループのリーダーや班長

【クラスのグループのリーダーや班長 全体・性別】

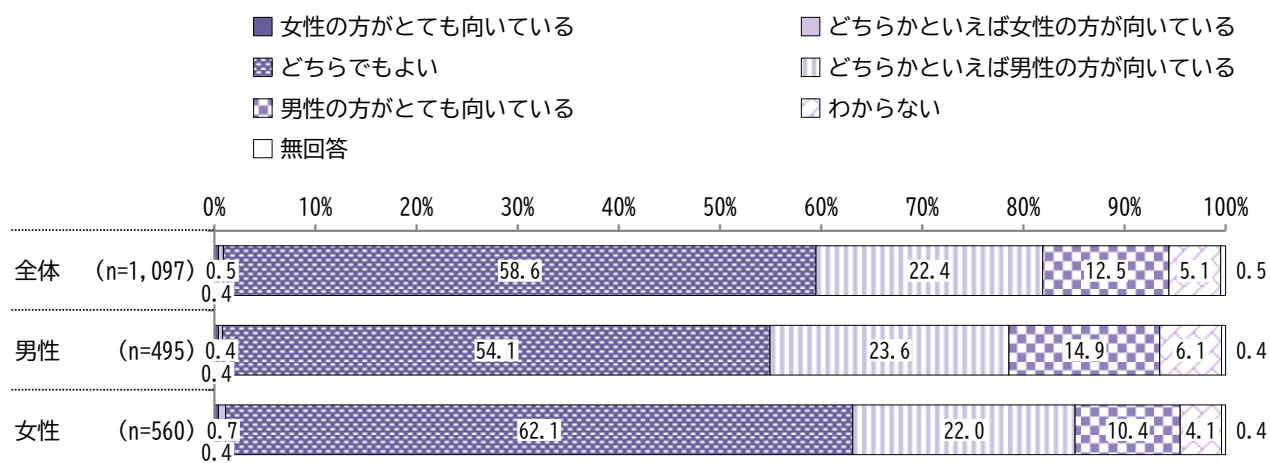


クラスグループのリーダーや班長について、「どちらでもよい」との回答が83.9%と最も高く、次いで『男性の方が向いている』（6.8%）、『女性の方が向いている』（3.5%）などの順となっている。

性別にみると、「どちらでもよい」との回答は男性（80.8%）が女性（87.0%）を6.2ポイント下回っている。

④ 体育祭の応援団長

【体育祭の応援団長 全体・性別】

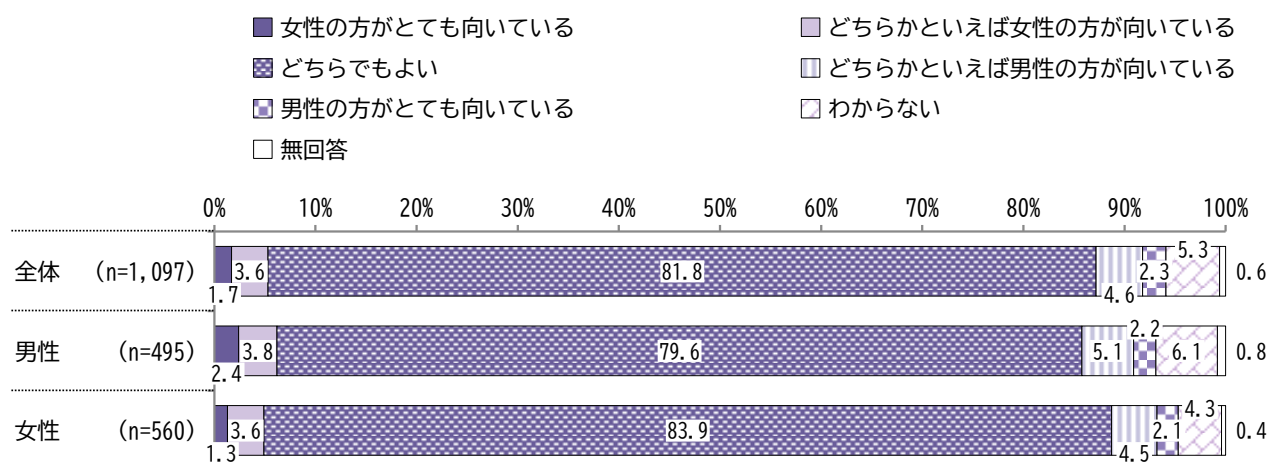


体育祭の応援団長について、「どちらでもよい」との回答が58.6%と最も高く、次いで『男性の方が向いている』（34.9%）、『女性の方が向いている』（0.9%）などの順となっている。

性別にみると、『男性の方が向いている』との回答は男性（38.5%）が女性（32.4%）を6.1ポイント上回っており、「どちらでもよい」との回答は男性（54.1%）が女性（62.1%）を8.0ポイント下回っている。

⑤ 合奏・合唱の指揮者

【合奏・合唱の指揮者 全体・性別】

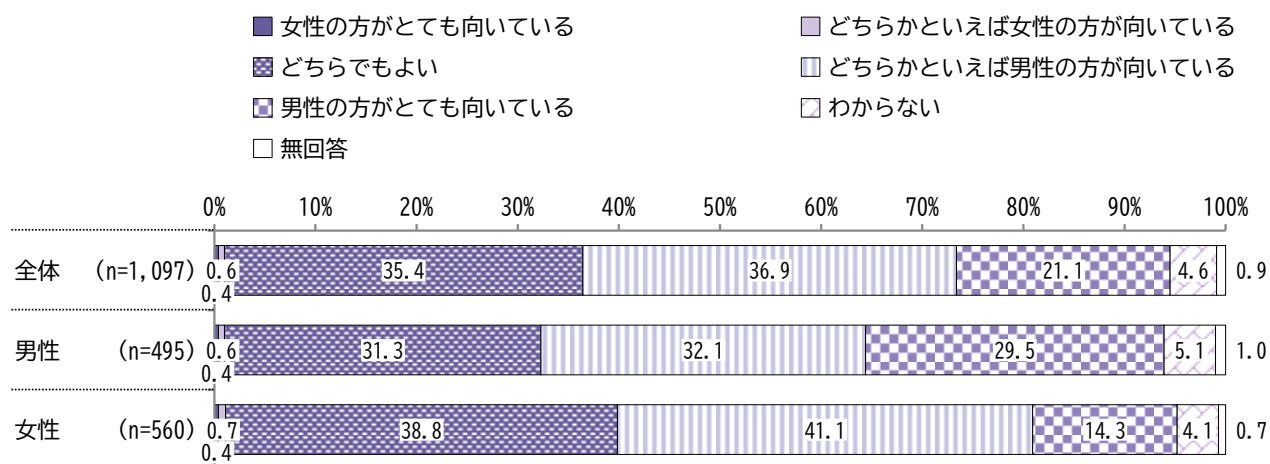


合奏・合唱の指揮者について、「どちらでもよい」との回答が81.8%と最も高く、次いで『男性の方が向いている』(6.9%)、『女性の方が向いている』(5.3%)などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

⑥ 重いものを運ぶこと

【重いものを運ぶこと 全体・性別】

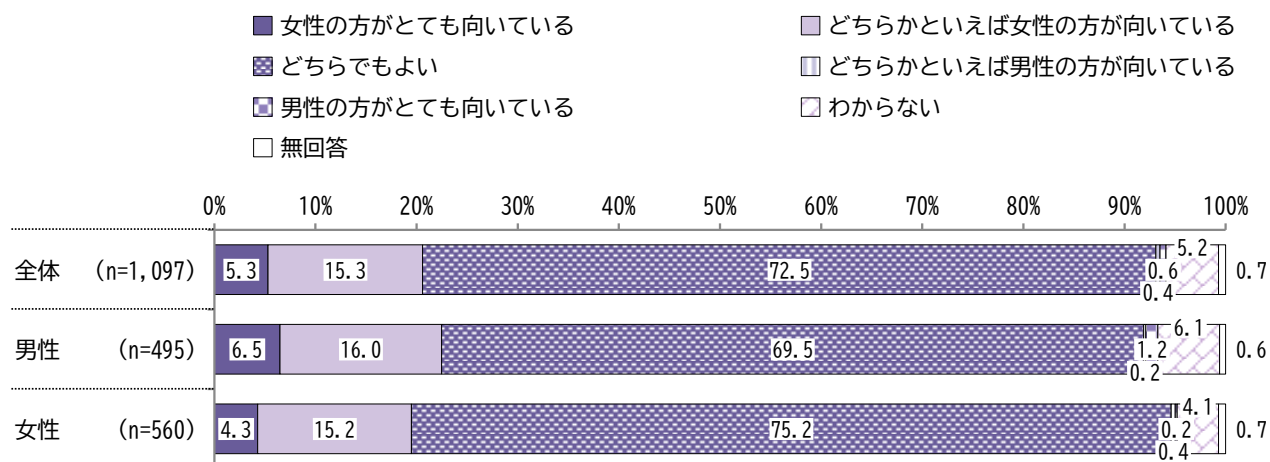


重いものを運ぶことについて、『男性の方が向いている』との回答が58.0%と最も高く、次いで「どちらでもよい」(35.4%)、「わからない」(4.6%)などの順となっている。

性別にみると、『男性の方が向いている』との回答は男性(61.6%)が女性(55.4%)を6.2ポイント上回っており、「どちらでもよい」との回答は男性(31.3%)が女性(38.8%)を7.5ポイント下回っている。

⑦ 整理整頓や植物の世話

【整理整頓や植物の世話 全体・性別】

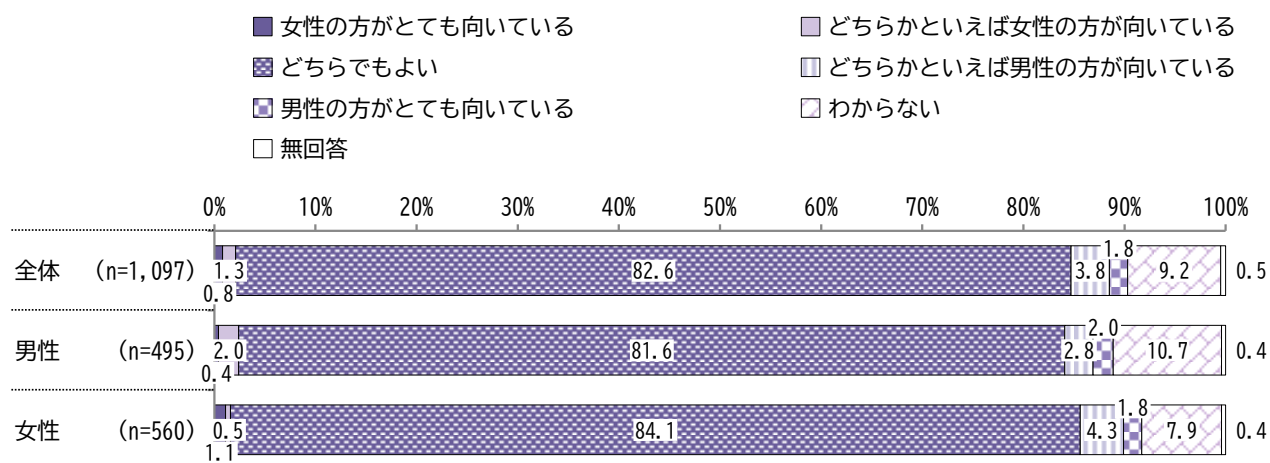


整理整頓や植物の世話について、「どちらでもよい」との回答が72.5%と最も高く、次いで『女性の方が向いている』（20.6%）、『男性の方が向いている』（1.0%）などの順となっている。

性別にみると、「どちらでもよい」との回答は男性（69.5%）が女性（75.2%）を5.7ポイント下回っている。

⑧ 理工系の進路の選択

【理工系の進路の選択 全体・性別】



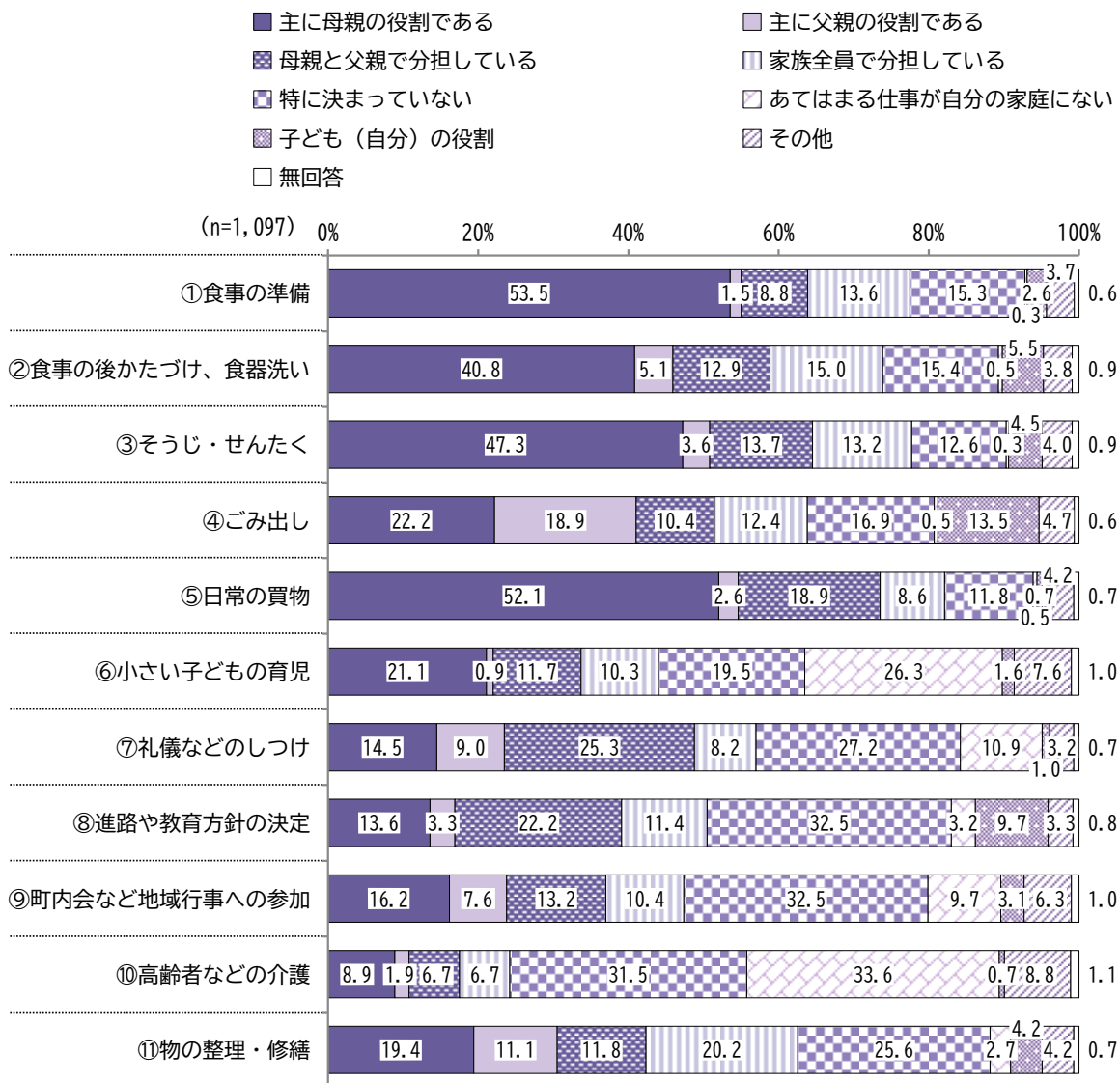
理工系の進路の選択について、「どちらでもよい」との回答が82.6%と最も高く、次いで『男性の方が向いている』（5.6%）、『女性の方が向いている』（2.1%）などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

3 家庭での家事などの分担について

問6 あなたの家庭では、次の家事などは主にだれの役割ですか。(○は1つずつ)

【全体】



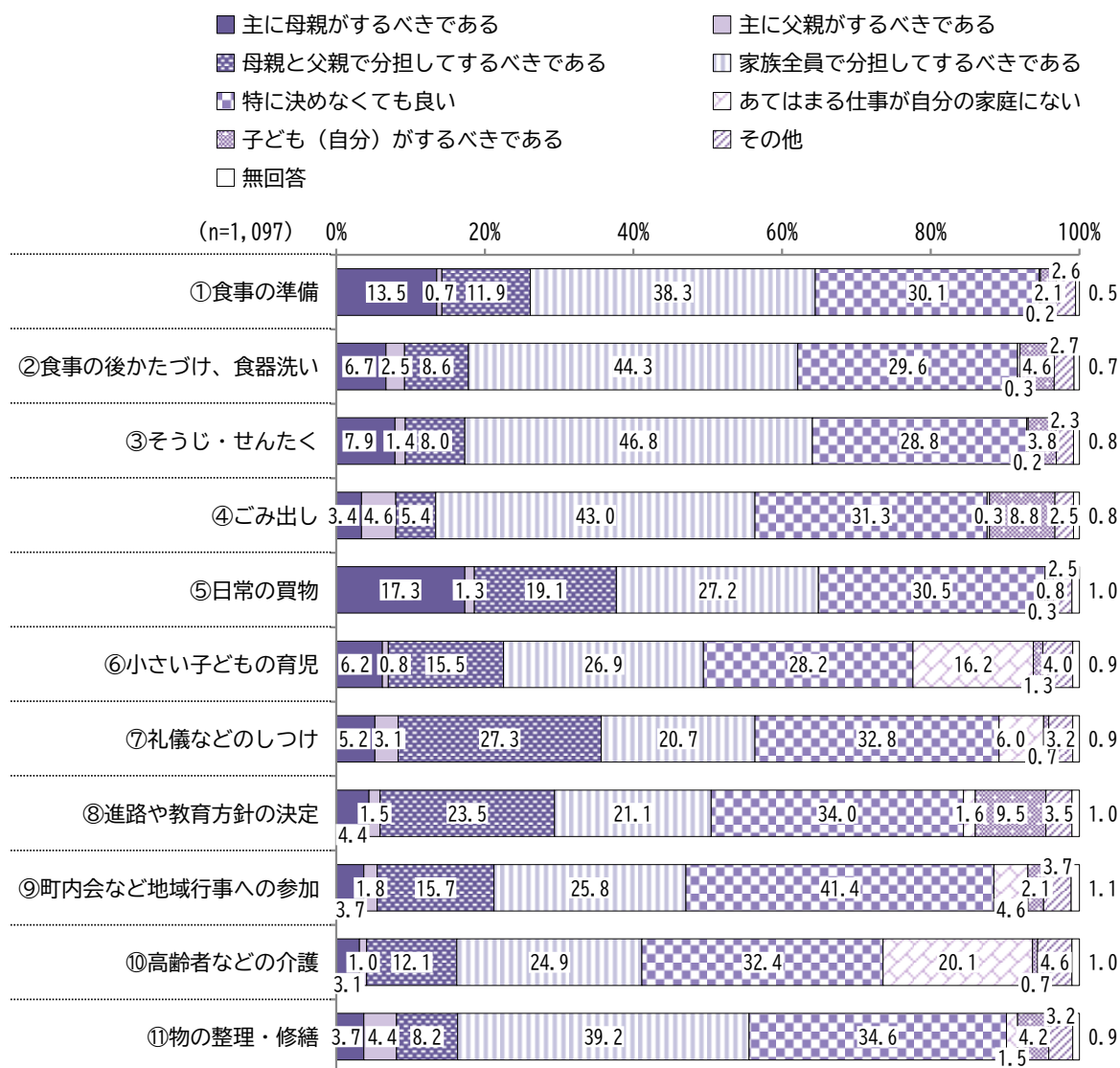
家庭での家事の役割分担について、『主に母親の役割である』は「①食事の準備」との回答が53.5%と最も高く、次いで「⑤日常の買物」(52.1%)、「③そうじ・せんたく」(47.3%)などの順となっている。

一方で、『主に父親の役割である』は「④ごみ出し」との回答が18.9%と最も高く、次いで「⑪物の整理・修繕」(11.1%)、「⑦礼儀などのしつけ」(9.0%)などの順となっている。

また、『母親と父親で分担している』は「⑦礼儀などのしつけ」との回答が25.3%と最も高くなっている。

問7 あなたは、次の家事などは主に誰がすれば良いと思いますか。(〇は1つずつ)

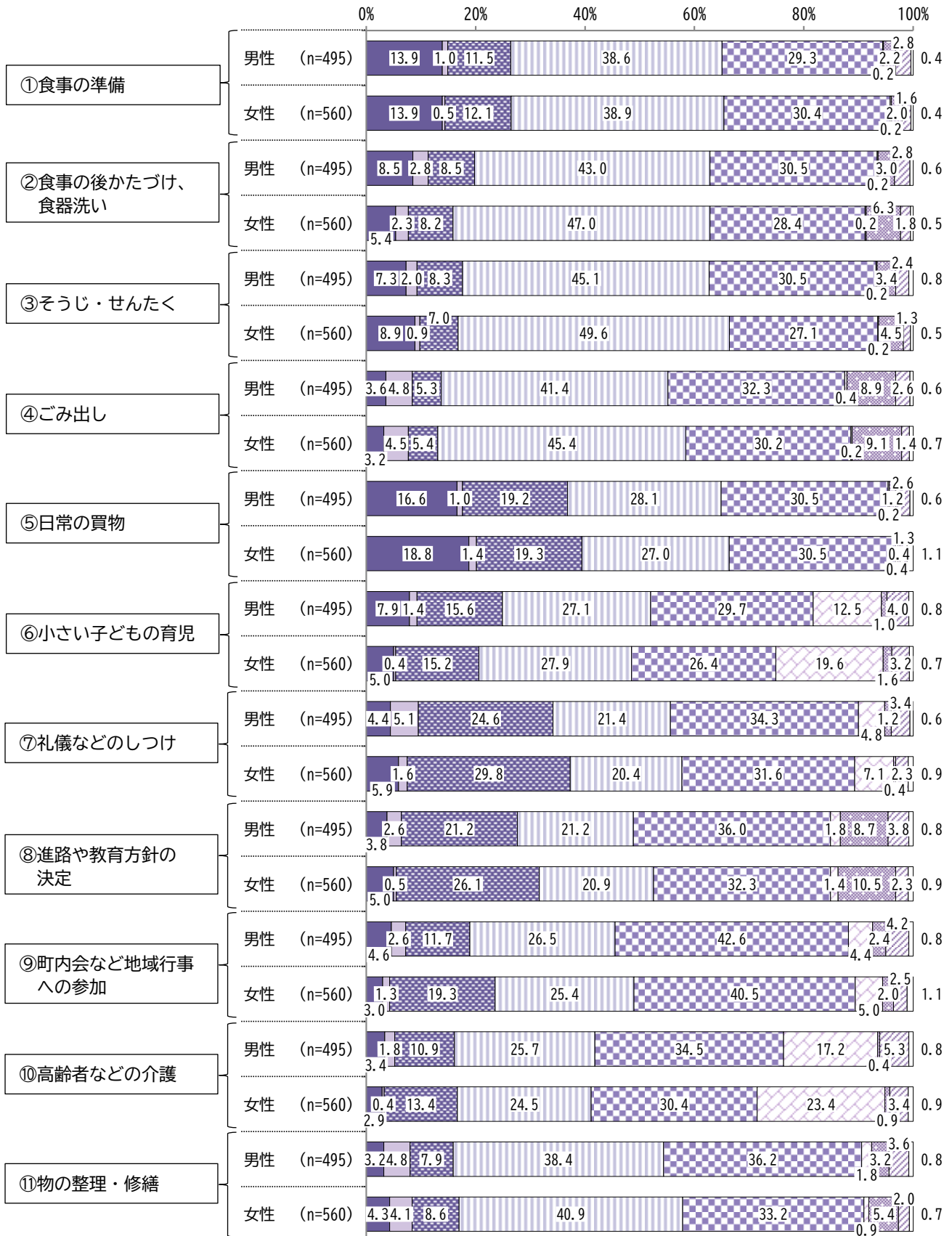
【全体】



分担すべき家事の役割について、どの役割においても『家族全員で分担してすべきである』、『特に決めなくてもよい』の割合が高い。

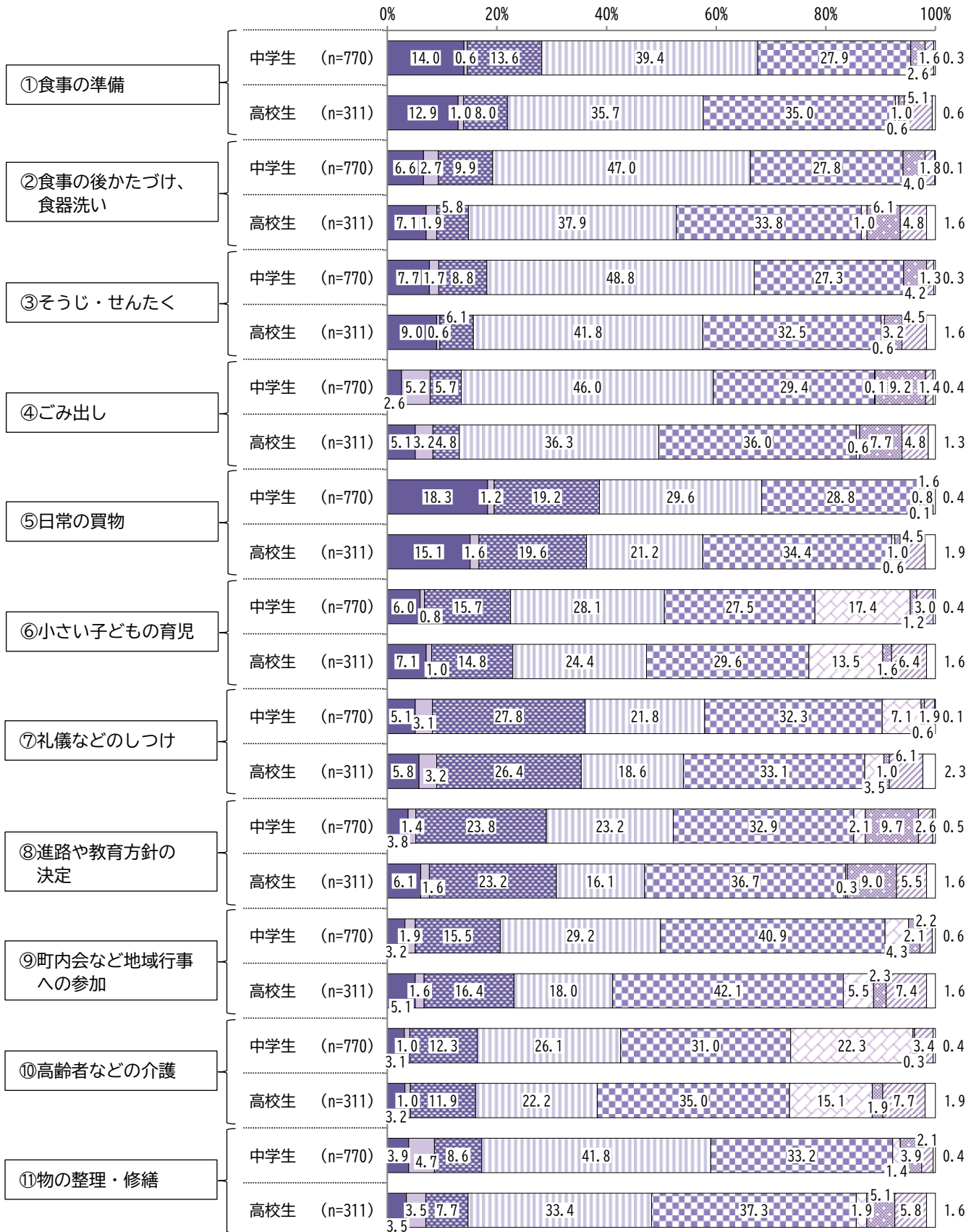
【性別】

- 主に母親がすべきである
- 母親と父親で分担してすべきである
- 特に決めなくても良い
- 子ども（自分）がすべきである
- 無回答
- 主に父親がすべきである
- 家族全員で分担してすべきである
- あてはまる仕事が自分の家庭にない
- その他



【学年別】

- 主に母親がすべきである
- 主に父親がすべきである
- 母親と父親で分担してすべきである
- 家族全員で分担してすべきである
- 特に決めなくても良い
- あてはまる仕事がない
- 子ども（自分）がすべきである
- その他
- 無回答

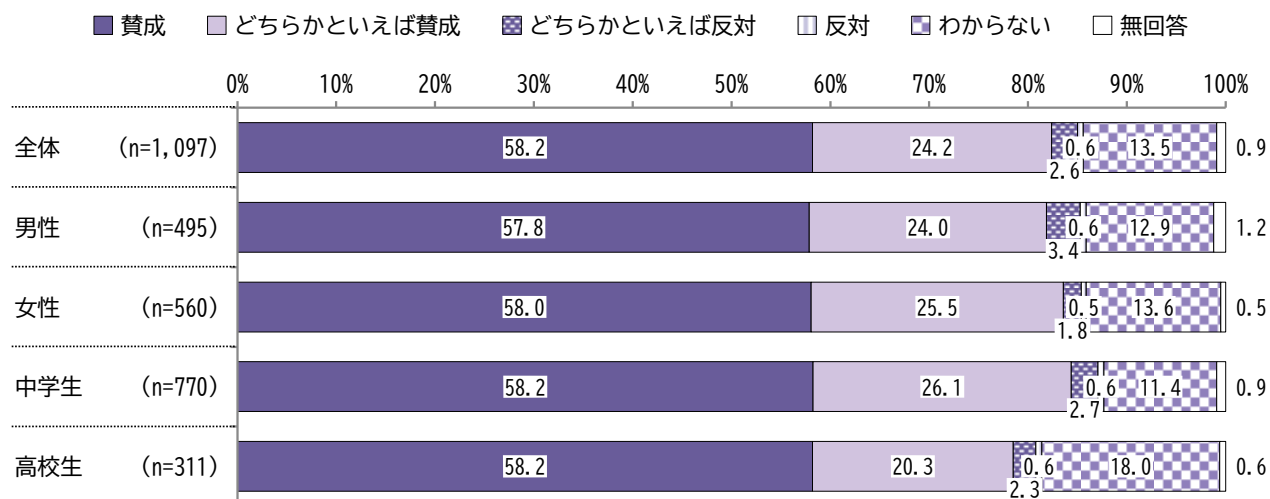


4 あなたの将来のことなどについて

問8 あなたは、これからの男女のあり方が、どのようになればよいと思いますか。(〇は1つずつ)

- ① 男女とも経済的自立(自分でお金を稼ぎ、他の人に頼らずに生活できる状態)ができるようになるのがよい

【男女とも経済的自立ができるようになるのがよい 全体・性別・学年別】



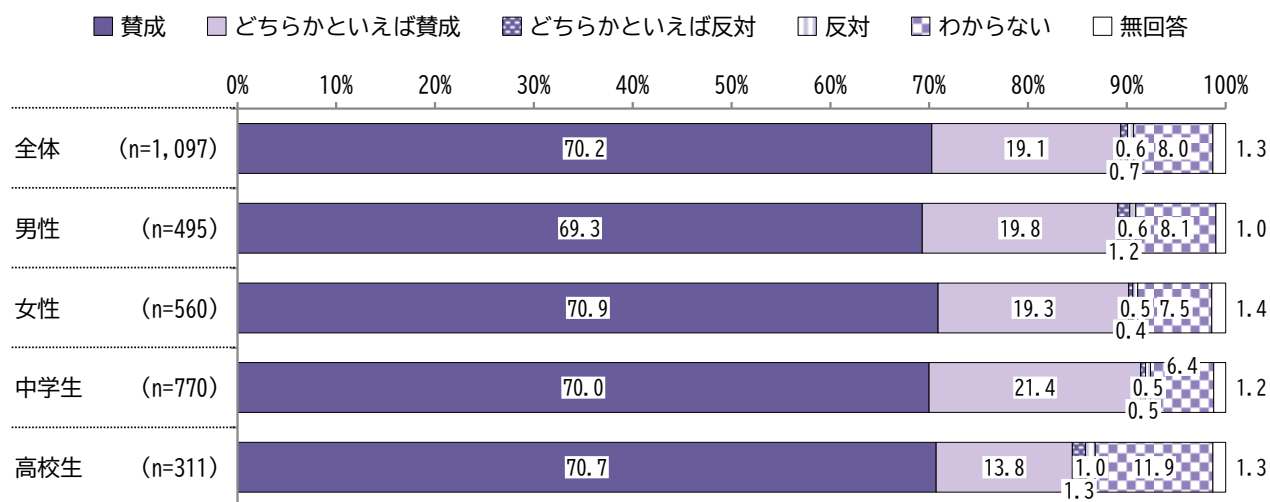
男女とも経済的自立ができるようになるのがよいについて、『賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）』82.4%、『反対（「反対」＋「どちらかといえば反対」）』3.2%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

学年別にみると、『賛成』との回答は中学生（84.3%）が高校生（78.5%）を5.8ポイント上回っている。

② 男女とも家事ができるようになるのがよい

【男女とも家事ができるようになるのがよい 全体・性別・学年別】



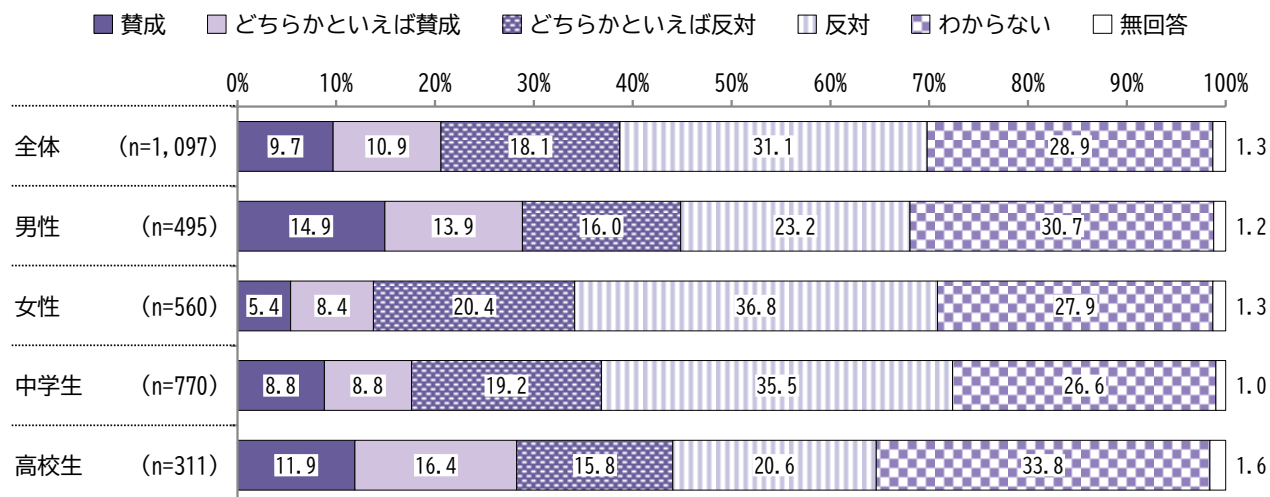
男女とも家事ができるようになるのがよいについて、『賛成』89.3%、『反対』1.3%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

学年別にみると、『賛成』との回答は中学生（91.4%）が高校生（84.5%）を6.9ポイント上回っている。

③ 男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい

【男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい 全体・性別・学年別】



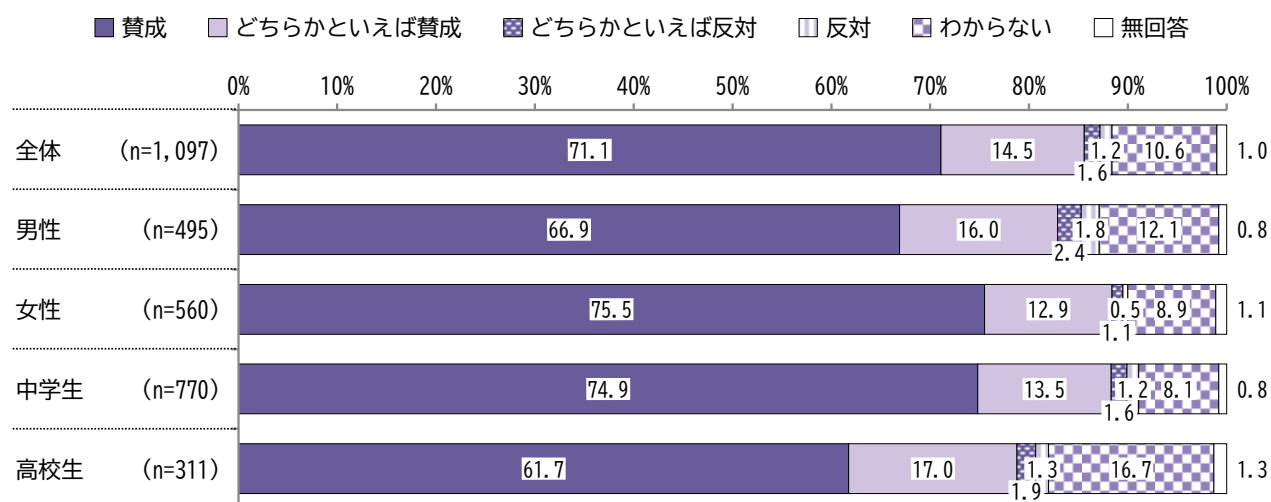
男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよいについて、『反対』49.2%、『賛成』20.6%となっている。

性別にみると、『賛成』との回答は男性（28.8%）が女性（13.8%）を15.0ポイント上回っている。

学年別にみると、『賛成』との回答は中学生（17.6%）が高校生（28.3%）を10.7ポイント下回っている。

④ 性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい

【性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい 全体・性別・学年別】



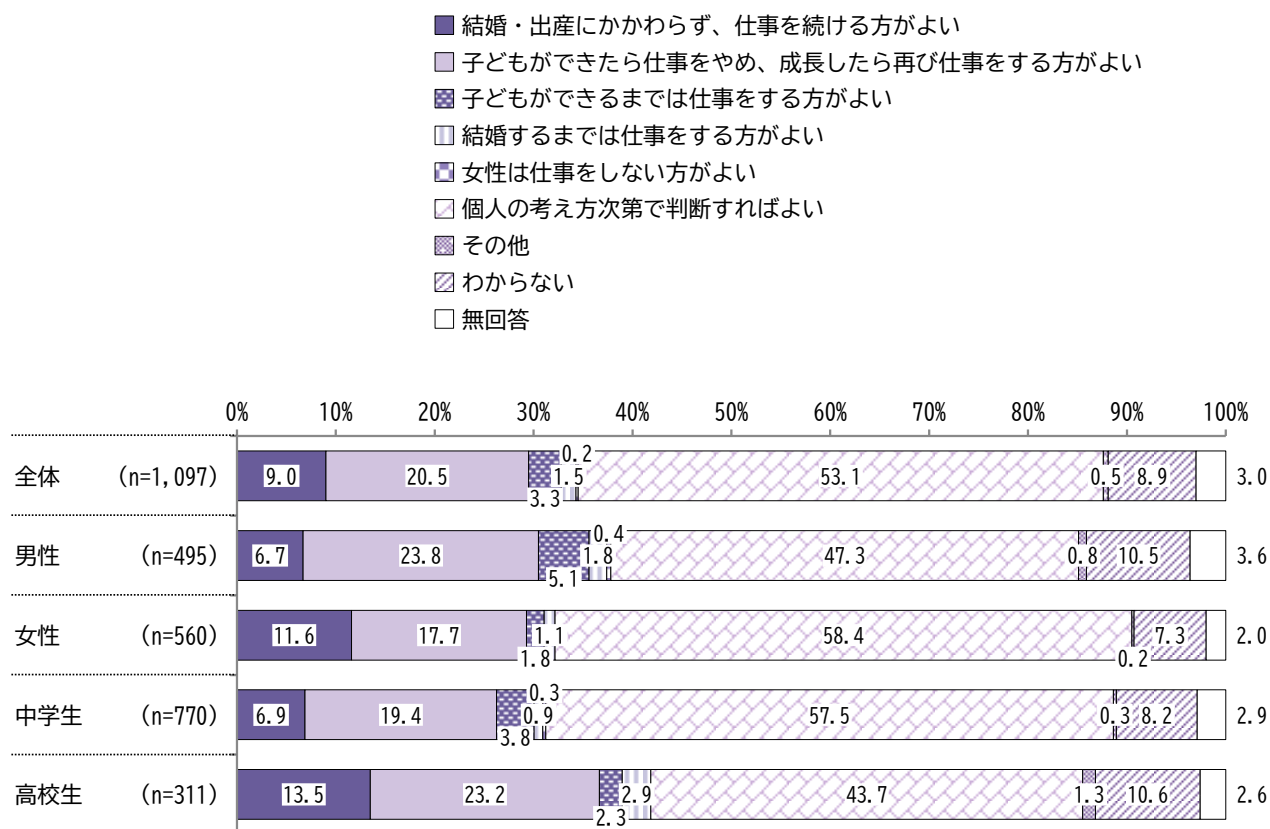
性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよいについて、『賛成』85.6%、『反対』2.8%となっている。

性別にみると、『賛成』との回答は男性（82.9%）が女性（88.4%）を5.5ポイント下回っている。

学年別にみると、『賛成』との回答は中学生（88.4%）が高校生（78.7%）を9.7ポイント上回っている。

問9 女性が仕事をする事について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

【全体・性別・学年別】



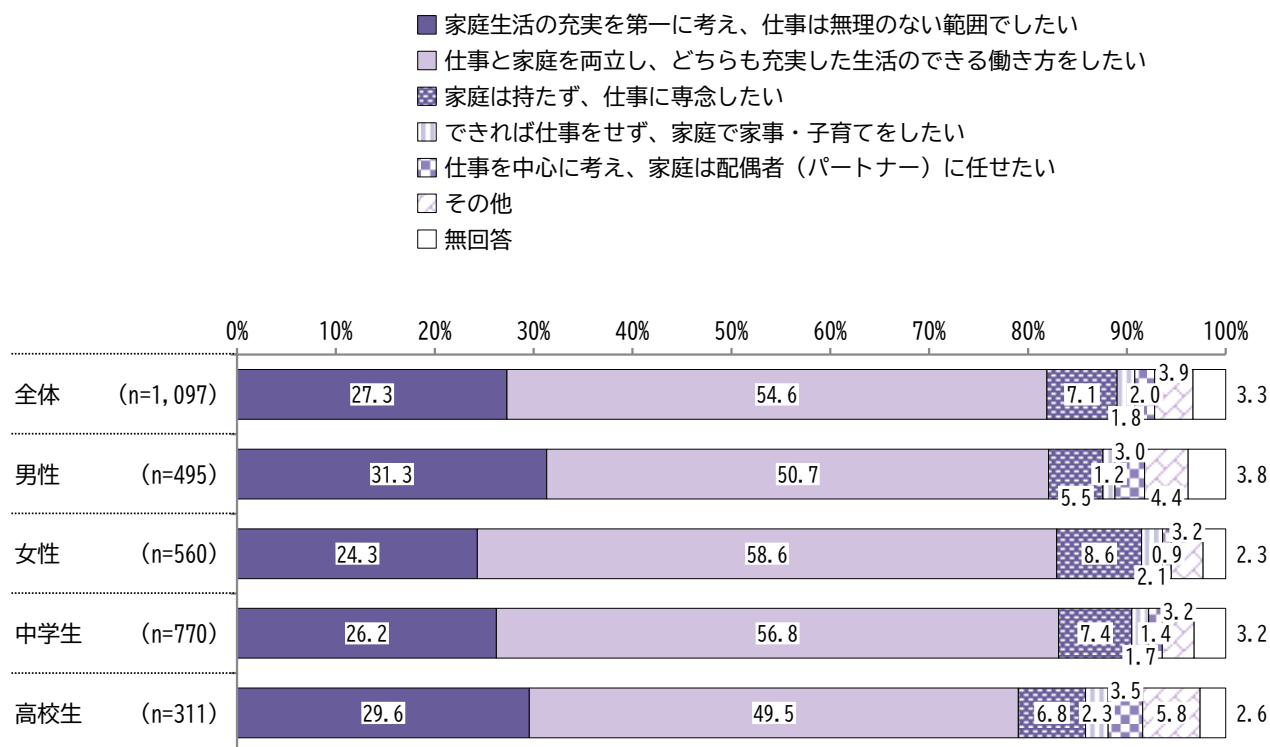
女性が仕事をする事への考えについて、「個人の考え方次第で判断すればよい」との回答が53.1%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、成長したら再び仕事をする方がよい」(20.5%)、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」(9.0%)などの順となっている。

性別にみると、「子どもができたら仕事をやめ、成長したら再び仕事をする方がよい」との回答は男性(23.8%)が女性(17.7%)を6.1ポイント上回っており、「個人の考え方次第で判断すればよい」との回答は男性(47.3%)が女性(58.4%)を11.1ポイント下回っている。

学年別にみると、「個人の考え方次第で判断すればよい」との回答は中学生(57.5%)が高校生(43.7%)を13.8ポイント上回っており、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」との回答は中学生(6.9%)が高校生(13.5%)を6.6ポイント下回っている。

問 10 あなたが理想と考える将来の働き方はどのようなものですか。あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○は1つ)

【全体・性別・学年別】



理想と考える将来の働き方について、「仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方をしたい」との回答が54.6%と最も高く、次いで「家庭生活の充実を第一に考え、仕事は無理のない範囲でしたい」（27.3%）、「家庭は持たず、仕事に専念したい」（7.1%）などの順となっている。

性別にみると、「家庭生活の充実を第一に考え、仕事は無理のない範囲でしたい」との回答は男性（31.3%）が女性（24.3%）を7.0ポイント上回っており、「仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方をしたい」との回答は男性（50.7%）が女性（58.6%）を7.9ポイント下回っている。

学年別にみると、「仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方をしたい」との回答は中学生（56.8%）が高校生（49.5%）を7.3ポイント上回っている。

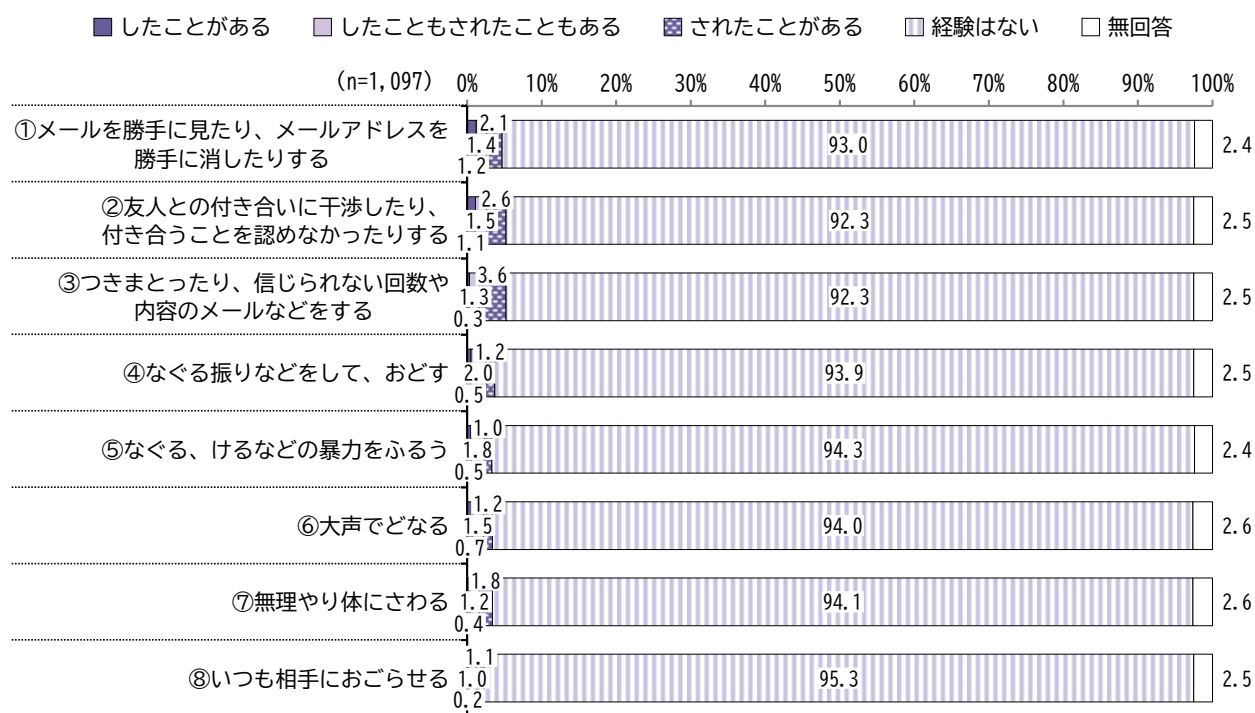
5 デートDVについて

問 11 あなたは、恋人同士で起こる次のような行為をしたこと、されたことがありますか。

(○は1つずつ)

「デートDV」とは恋人の間で起きる問題です。夫婦の間で起きるDV(ドメスティック・バイオレンス)と同じで、男女が対等の関係ではなく、一方が力で相手を自分の思うようにする(支配する)こと。

【全体】

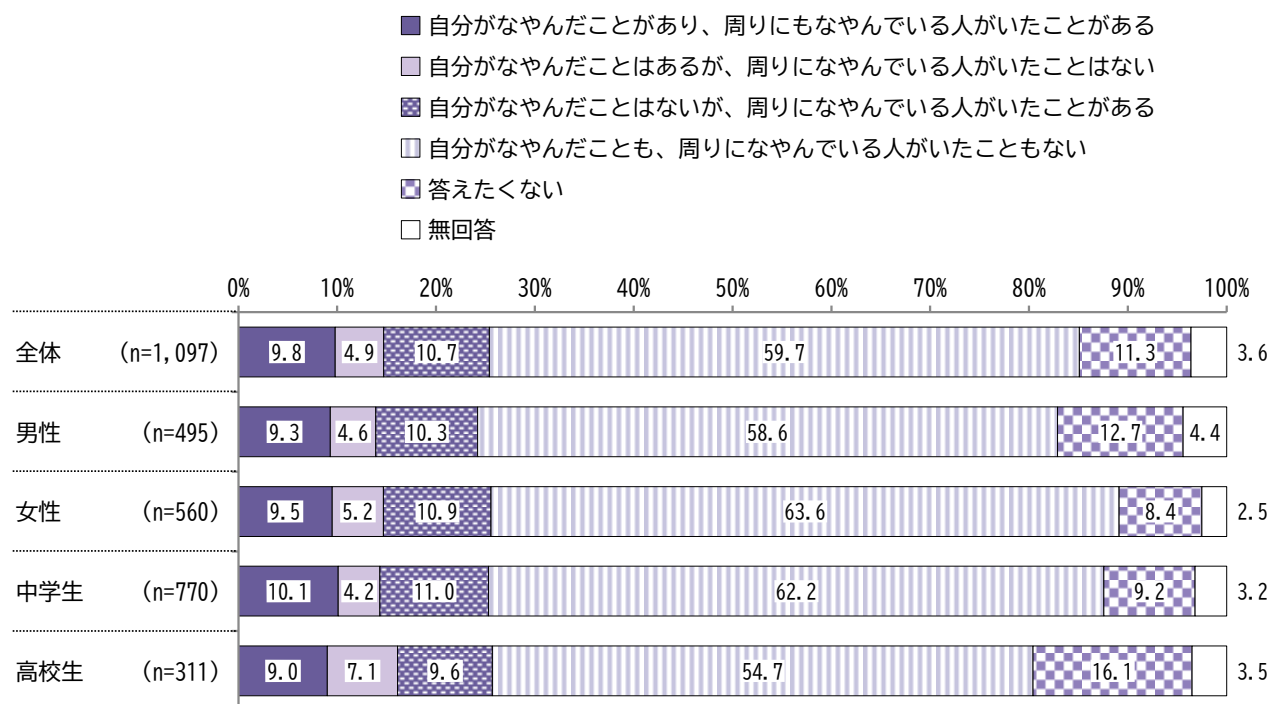


デートDVについて、『経験はない』との回答はすべての項目で9割台と高くなっており、項目別にみると、大きな差はみられない。

6 性の悩みについて

問 12 あなたは、今までに、好きになる性(性的指向)や、身体の性とは関係なく、自分自身が認識している性(性自認)についてなやんだことはありますか。また、周りの人でなやんでいる人はいいますか。
(○は1つ)

【全体・性別・学年別】



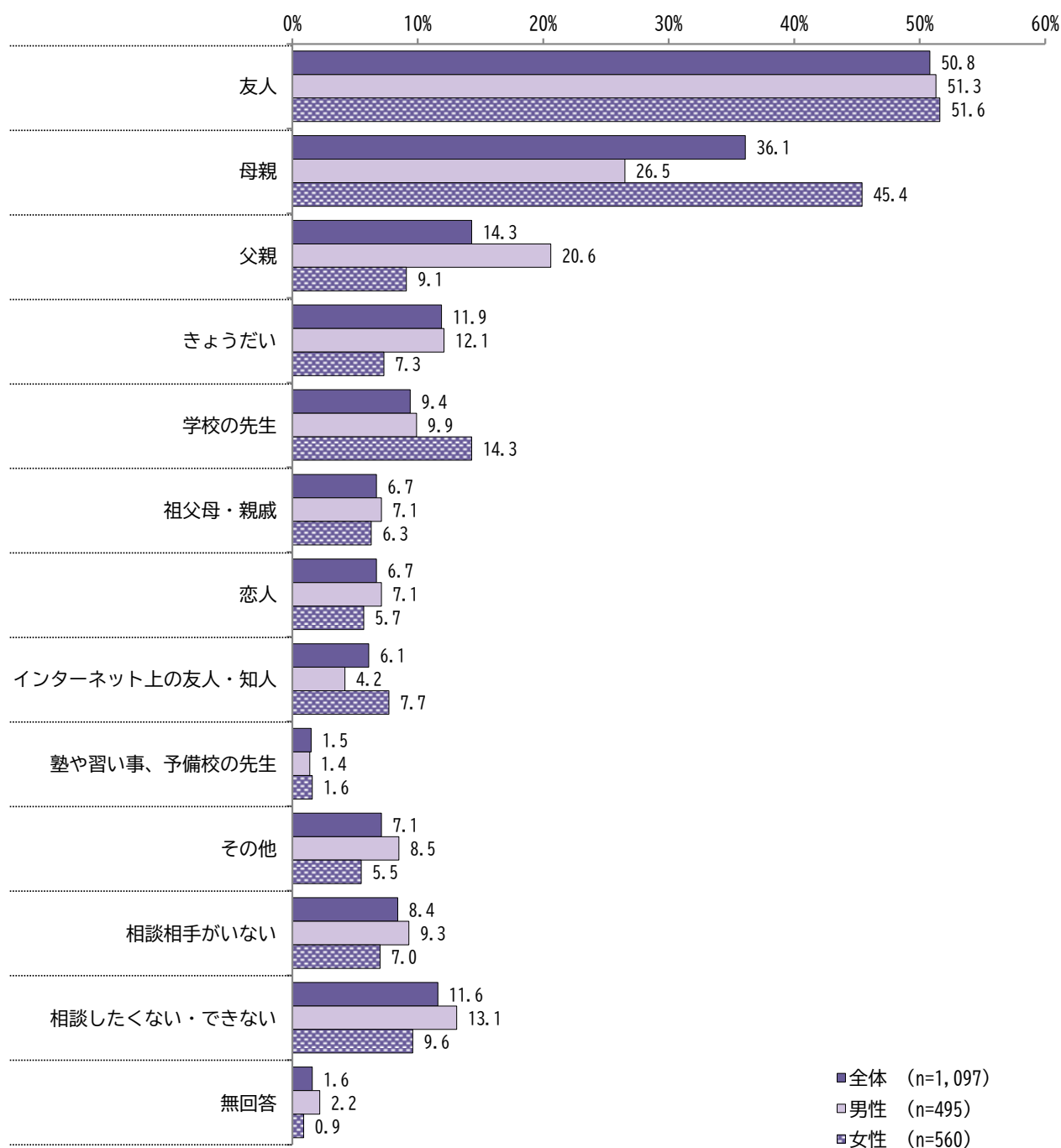
性自認のなやみについて、「自分がなやんだことも、周りになやんでいる人がいたこともない」との回答が59.7%と最も高く、次いで「答えたくない」(11.3%)、「自分がなやんだことはないが、周りになやんでいる人がいたことがある」(10.7%)などの順となっている。

性別にみると、「自分がなやんだことも、周りになやんでいる人がいたこともない」との回答は、男性(58.6%)が女性(63.6%)を5.0ポイント下回っている。

学年別にみると、「答えたくない」との回答は高校生(16.1%)が中学生(9.2%)を6.9ポイント上回っている。

問 13 あなたが、性の悩みごとを相談できる人は誰ですか。(〇はいくつでも)

【全体・性別】



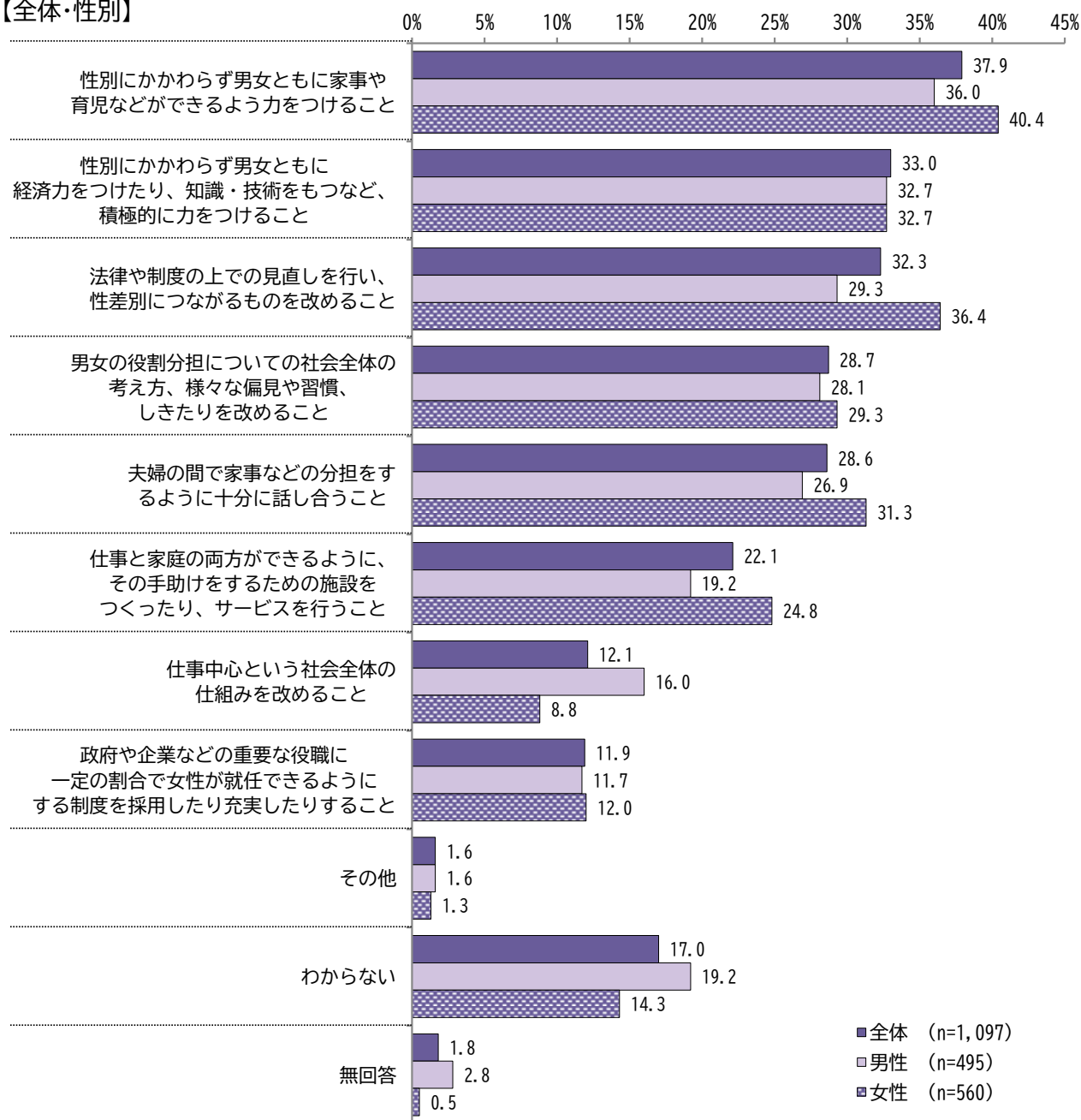
性の悩みごとを相談できる人について、「友人」との回答が50.8%と最も高く、次いで「母親」(36.1%)、「父親」(14.3%)などの順となっている。

性別にみると、「父親」との回答は男性(20.6%)が女性(9.1%)を11.5ポイント上回っており、「母親」との回答は男性(26.5%)が女性(45.4%)を18.9ポイント下回っている。

7 あなたの将来のことなどについて

問 14 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野(仕事、家庭、学校、地域活動、政治など)でもっと平等になるために重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

【全体・性別】



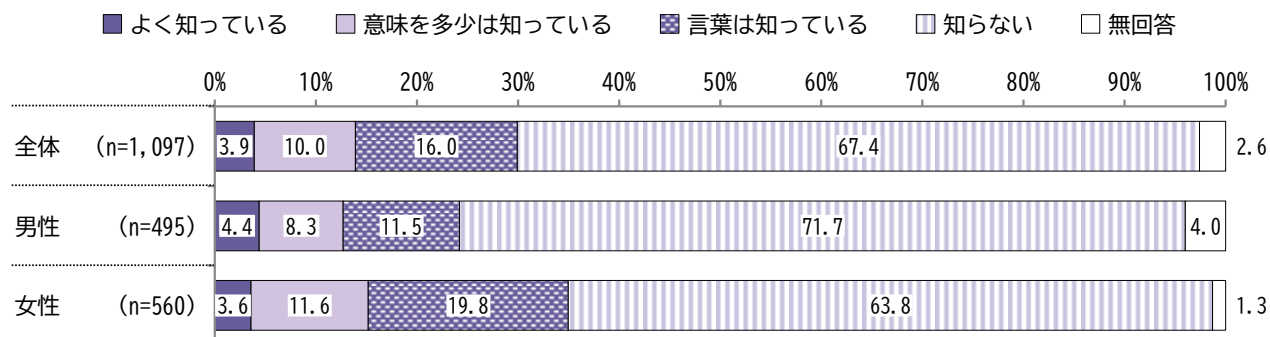
男女平等のために重要なことについて、「性別にかかわらず男女ともに家事や育児などができるよう力をつけること」との回答が37.9%と最も高く、次いで「性別にかかわらず男女ともに経済力をつけたり、知識・技術をもつなど、積極的に力をつけること」(33.0%)、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」(32.3%)などの順となっている。

性別にみると、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」との回答は男性(16.0%)が女性(8.8%)を7.2ポイント上回っており、「性別にかかわらず男女ともに経済力をつけたり、知識・技術をもつなど、積極的に力をつけること」との回答は男性(29.3%)が女性(36.4%)を7.1ポイント下回っている。

問 15 あなたは、次の男女共同参画などに関することを知っていますか。(○は1つずつ)

① 男女共同参画社会

【男女共同参画社会 全体・性別】

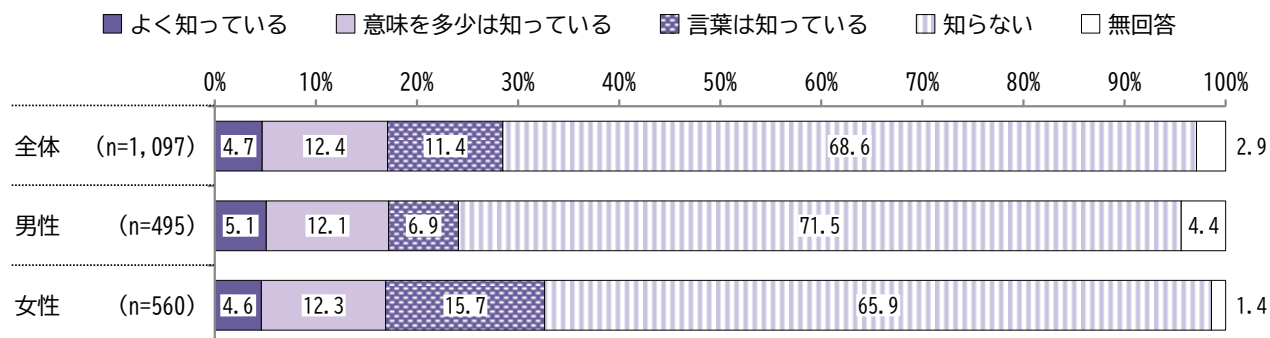


男女共同参画社会について、「知らない」67.4%、『知っている（「よく知っている」＋「意味を多少は知っている」＋「言葉は知っている」）』29.9%となっている。

性別にみると、『知っている』との回答は男性（24.2%）が女性（35.0%）を10.8ポイント下回っている。

② 男女雇用機会均等法

【男女雇用機会均等法 全体・性別】

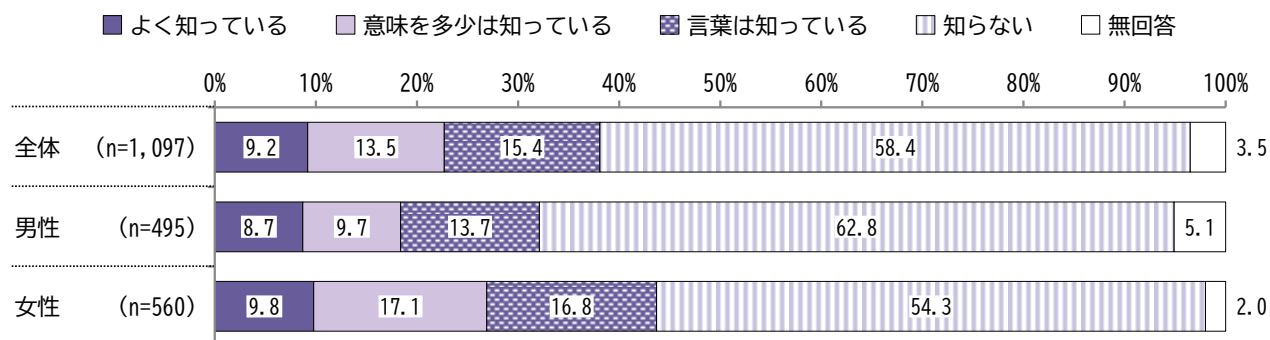


男女雇用機会均等法について、「知らない」68.6%、『知っている』28.5%となっている。

性別にみると、『知っている』との回答は男性（24.1%）が女性（32.6%）を8.5ポイント下回っている。

③ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

【ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和) 全体・性別】

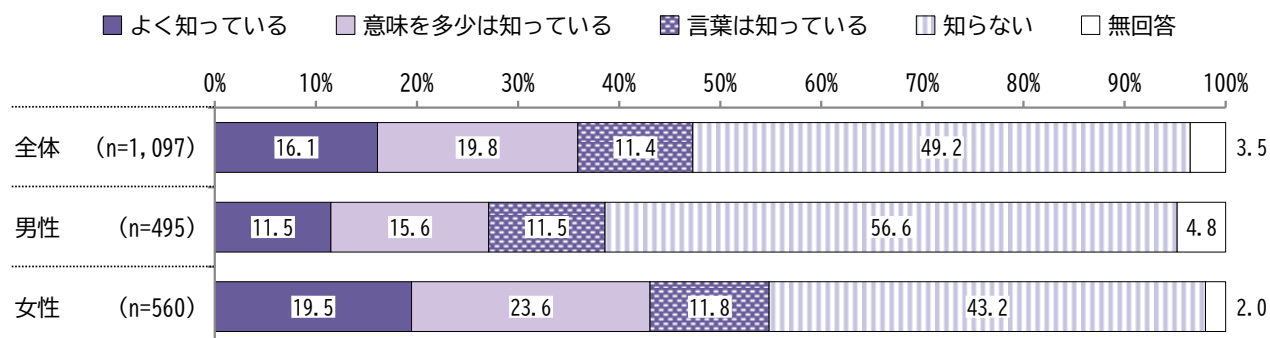


ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について、「知らない」58.4%、『知っている』38.1%となっている。

性別にみると、『知っている』との回答は男性（32.1%）が女性（43.7%）を11.6ポイント下回っている。

④ LGBTなどの性的少数者

【LGBTなどの性的少数者 全体・性別】

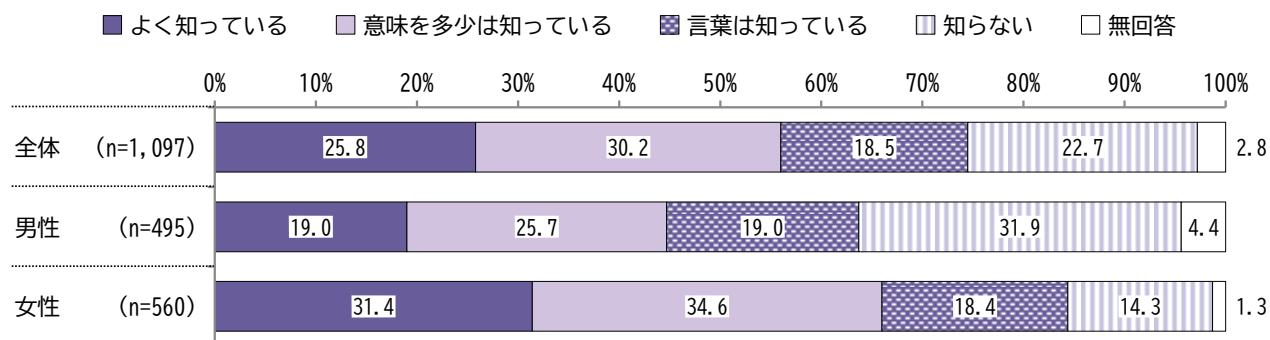


LGBTなどの性的少数者について、「知らない」49.2%、『知っている』47.3%となっている。

性別にみると、『知っている』との回答は男性（38.6%）が女性（54.9%）を16.3ポイント下回っている。

⑤ ジェンダー(社会的性別)

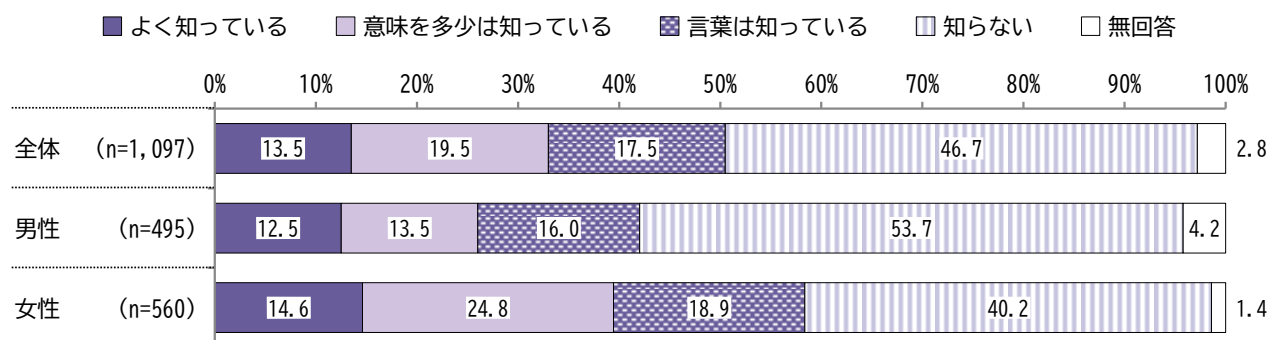
【ジェンダー(社会的性別) 全体・性別】



ジェンダー（社会的性別）について、『知っている』74.5%、「知らない」22.7%となっている。
性別にみると、『知っている』との回答は男性（63.7%）が女性（84.4%）を20.7ポイント下回っている。

⑥ ダイバーシティ(多様性)

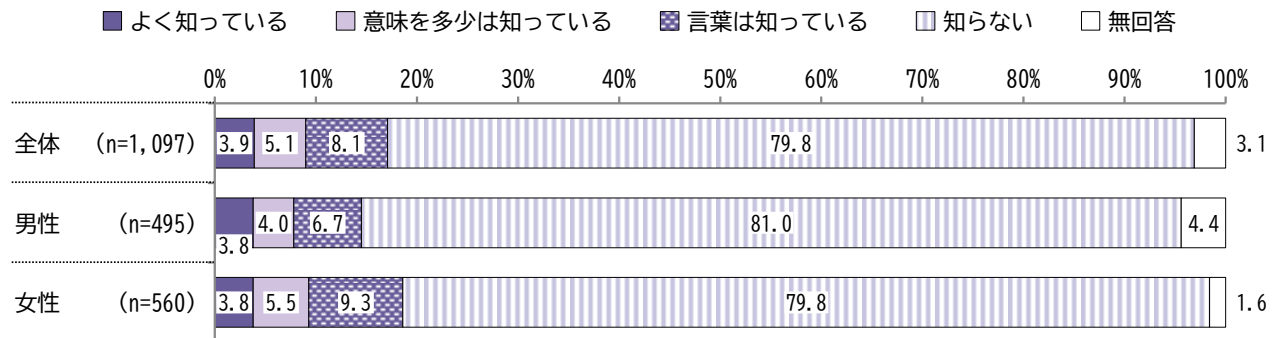
【ダイバーシティ(多様性) 全体・性別】



ダイバーシティ（多様性）について、『知っている』50.5%、「知らない」46.7%となっている。
性別にみると、『知っている』との回答は男性（42.0%）が女性（58.3%）を16.3ポイント下回っている。

⑦ アンコンシャスバイアス(固定的な性別役割分担意識)

【アンコンシャスバイアス(固定的な性別役割分担意識) 全体・性別】



アンコンシャスバイアス(固定的な性別役割分担意識)について、「知らない」79.8%、『知っている』17.1%となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

自由意見(抜粋)

最後に、あなたが家庭や学校、社会の中で感じている男女の役割や生活、生き方など、男女共同参画に関することについて何でも結構ですから、自由に記入してください。

① 男女平等や役割について

- 男子は強い、女子は弱いという固定概念が少しあるからこそ、不満を感じる人がいるのではないのかなと思った。(男性、中学生)
- 社会では、現状も男女平等ではなく、「これだから女は」という言葉をよく聞くので、ここが変わってほしい。(男性、中学生)
- 女性は料理をするという印象をなくしたい。女性は、こうであると決めつけてほしくない。(女性、中学生)
- 男女平等にすることは大切だと思うが、「重い物を運ぶ」などの筋力を必要とする事は男性が積極的にするとよいと思う。(女性、中学生)
- 男は第一ボタン開けること(可)、女子は(不可)の理由とは。男は髪の毛短く、女は長い固定概念の削除。男性専用車輦。(女性、中学生)
- 力仕事をお願いされる時に、男子をお願いをさせる。高い所に行かないといけない時男子が高所恐怖症という、「なさけない」などと言われる。(女性、中学生)
- 女なんだから女の子っぽい服とか女の子らしい態度でと言われるのがいやです。男の人が女の恰好をしたり女の人が男の恰好をしてもなにも言われない世の中になってほしいです。(女性、中学生)
- 平等だからといって全てを皆同じにするのは体格差、個人差があるのだから、平等ではないと思う。過去にあった女性と男性の性トラブルもいろんな立場に立って考えながら変えていってほしい。(女性、高校生)
- お年寄の方々は、女は家にいて当たり前みたいな偏見をもっている人が多いからそのような偏見を無くしたい！(女性、高校生)

② 家事の分担や家庭生活について

- お父さんもお母さんも両方働いているけど、家事の割合はお母さんの方が少し多い。(男性、中学生)
- もっと男性の人が女性の家事を手伝ってあげるべきだと思う。(男性、中学生)
- 家庭の仕事を女性に頼らず、男性も一緒に働くようになってほしい。(男性、中学生)
- 女性が家事をするものだと思うことがよくないと思う。男性だから働かないといけないという意識はよくないと思う。(男性、中学生)
- 私の家では、父の力(権力)が強い←自分の非を認めず(昭和)、怒ってくる。母もフルタイムで働いて、家事も行っているのに。(女性、中学生)
- 母親がご飯を作ることがほとんどだから男性も料理をできるよう若いうちから料理について勉強するべきだと思う。(女性、高校生)

③ 学校生活について

- 女子には更衣室があって、男子に更衣室がないのは少し疑問に思う。(男性、中学生)
- 教師が男女差別している時があるのでやだ。(男性、中学生)
- 男の先生が女子にだけ優しい場面をたまに見ることがある。(男性、中学生)
- 体力テストで、男女で記ろくが分けられているのがイヤだ。体力がない男子や女子もいるのに。(男性、中学生)
- ちょっと当たっただけでセクハラと言われたりすること。班長に女子が多いこと。(男性、中学生)
- 学校は男性の方が勉強面、運動、重大な役割の中で有利だと思うので、女性も力をつけやすい学校にしたい。(男性、中学生)
- 女子だからスカート、男子だからズボン、女子だからリボン、男子だからネクタイ、女子は字がキレイ、男子は字が汚いなどの固定概念がある事がいや。(女性、中学生)
- 体育などでシュートしたら男子は1点、女子は3点というふうに、なめられてるのかなと思ってしまう。掃除で女子みんなぞうきん。シンデレラ？男は自由すぎる。(女性、中学生)
- 男子は「〇〇くん」女子は「〇〇さん」という呼び名がしみついて、まちがえて男子を「〇〇さん」と言うと空気がざわつく。(中学生)
- 制服（学校や会社など）を男女問わず自由に着れるようになってほしい。(中学生)
- 呼び方をくん・さんで差別してほしくない。(中学生)
- 男の髪型の校則が女子に比べて厳しい。(男性、高校生)
- 制服に女子のスラックスが出たことは画期的だと思うが、男子のスカートはまだ認められないものがあり、多様性や生き方でしんどい思いをしている人がいて、それが解決される未来はまだ遠いのだなと感じている(女性、高校生)

④ 就労環境や将来について

- 職場などで、男性の方が昇格しやすかったり、実際、多くの会社役員は男性が多い。男性よりも女性の方がやってはいけないことが多い。共働きの夫婦は増えているが、まだ家事は女性の役割だと思われている。(女性、高校生)

⑤ DV・その他差別等について

- LGBTなどで勇気を出してカミングアウトしたのにも関わらずいじったり差別したり拒絶するのは全対にやらないでほしい。よくドラマとかで見かけるのですが、本当によくないと思うのでもう一度考えてほしい。もっと認めてほしい。(女性、中学生)
- LGBTQについてだが最近の世の中はやりすぎだと感じる。いろんな人がいていいよねと認めるだけでいいのにその人たちが過ごしやすくしようをやりすぎてそれ以外の人たちが嫌な気持ちをしなければならなくなっている。例えば元々ある女子トイレが男女共用になったり、女性下着の試着を男の人にも認める会社があったりというもの。なぜ元々女子トイレだった物を変えたのか？男子トイレは男子トイレのままなのに。女性の意見を取り入れてこんなことが決定されたのだとしたらいいのだけれど本当に取り入れられてこれなのか？と疑いたくなるような内容が現実になっている。

これでジェンダー差別は無くなっても女性差別がまた新しく生まれてしまっているのではないか。実際のところ、大人が思うより若者の中で案外偏見はほぼないように感じる。女の子が女の子を好きでも男の子が男の子を好きでもそんなんだ～！かわいい人だね！かっこいい人だね！で受け入れている。世界は変わっている。本当にこれ以上何かをする必要はあるのだろうか。と、思う。(女性、高校生)

- 最近子供より大人の方がそういう面に理解がないなと感じることが多くなった(LGBTQ、SOGIなど)。子供はある程度認識が進んでいると思うから子供だけでなく大人にもそういう教育というか指導をすべきだと思う。(女性、高校生)

⑥ その他の意見

- 男女共同参画をより実現させていくために、政府がもっと積極的に法律や仕組みの改善をしていくべき。そもそも行政の内での男女比率は未だ偏りが大きく、そのせいか男女共同参画の理念が広がるのも遅れているように感じる。また、政府は先送りの対応をやめる必要がある。今の時代にそぐわない価値観に執着して、多様性を受け入れられないことを年齢のせいにするような頭の固い政治家は、社会を変えていく心意気を感じられず現在の地位だけを重要視しているように感じるので辞めて欲しい。政治に改革を求めている。(女性、高校生)
- 国会議員などを選ぶ時に女性だから選ばないというような性別だけで判断している人がどれくらいいるのかで考えが変わると思う。もしそうならば男女差別になるような法律は変えないといけないうと思うし本当に実力で女性は男性よりも劣っているというのならもっと女性が力をつけられるように学校教育などをかえていく必要があると思う。(女性、高校生)

4章 男女共同参画に関する若者世代のアンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の計画期間満了(令和7年度末)に伴い、現計画の施策や事業の評価等を行うとともに、市民の意識やニーズを調査し、その後の社会経済情勢の急速な変化や新たな課題に対応した、今後10か年の目標や施策、具体的な取組等をまとめた「第3次廿日市市男女共同参画プラン」(以下「プラン」という。)を策定するための基礎資料とするために実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 廿日市市全域
- (2) 調査対象 市内に在住する満20歳以上40歳未満の若者世代の男女1,000人(男女各500人)
- (3) 標 本 数 1,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送又はWEB方式
(アンケートは郵送方式を基本とするが、回答については、回答者がWEBでの回答を選択できる形とする)
- (6) 調査期間 令和6(2024)年10月23日(水)~11月15日(金)

3. 調査項目

- (1) あなたご自身(宛名のご本人)のことについて
- (2) 結婚について
- (3) 子育てについて
- (4) 廿日市市の子育て環境について

4. 回収結果

- (1) 有効回収数 252人
- (2) 有効回収率 25.2%

5. 報告書の見方

(1) 標本誤差について

本調査は、調査対象となる母集団(廿日市市に住民登録がある満20歳以上40歳未満の市民)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」である。したがって、調査結果には統計上の誤差(標本誤差)が生じることがある。

信頼度95%とした場合における調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

■ 算出式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad (\text{注}) \quad \frac{N-n}{N-1} \div 1$$

N=母集団
n=有効回答数
p=回答比率

■ 標本誤差早見表(信頼度:95%)

回答比率(p) 標本数(n)	5%または 95%程度	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
30	±8.0	±10.9	±14.6	±16.7	±17.9	±18.2
50	±6.2	±8.5	±11.3	±12.9	±13.8	±14.1
100	±4.3	±6.0	±8.0	±9.1	±9.8	±10.0
200	±3.1	±4.2	±5.6	±6.5	±6.9	±7.0
252	±2.7	±3.8	±5.0	±5.7	±6.1	±6.3
500	±1.9	±2.7	±3.5	±4.1	±4.3	±4.4
1,000	±1.3	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1

基数(回答サンプル数)n=252の場合、例えば回答比率が50%の時の標本誤差は±6.3%となり、調査結果で得た50%という集計結果を実際の母集団の傾向として評価する際には、50±6.3%(=43.7%~56.3%)という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。

(2) 集計・分析点における留意点

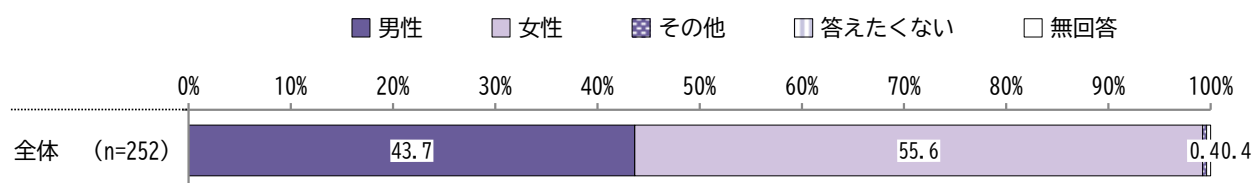
- ① 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- ② 回答比率(%)は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- ③ 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- ④ 属性別(クロス集計)については、全体及び属性間の結果を比較して特徴または傾向がみられる項目について記述(コメント)対象とした。
- ⑤ 表・グラフの属性別データは、無回答や著しく回答者の少ない属性を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。
- ⑥ 図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑦ 性別については、5ポイント以上の差がない場合は「大きな差はみられない。」との表記としている。

Ⅱ 調査結果

1 あなたご自身(宛名のご本人)のことについて

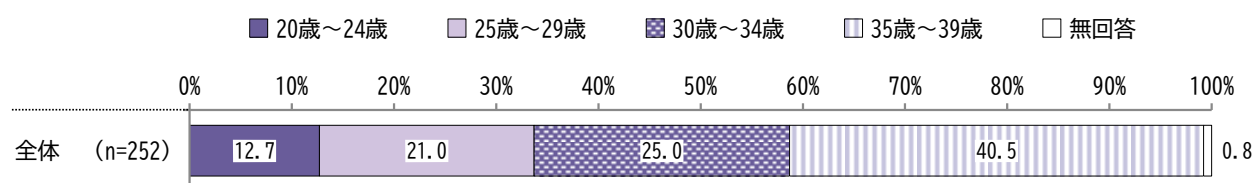
すべての方におたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。(自認する性別をお答えください。)(○は1つ)



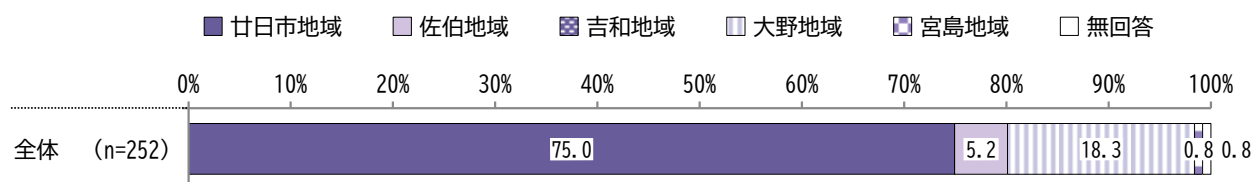
性別について、「女性」(55.6%)、「男性」(43.7%)となっている。

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)



年齢について、「35歳～39歳」との回答が40.5%と最も高く、次いで「30歳～34歳」(25.0%)、「25歳～29歳」(21.0%)などの順となっている。

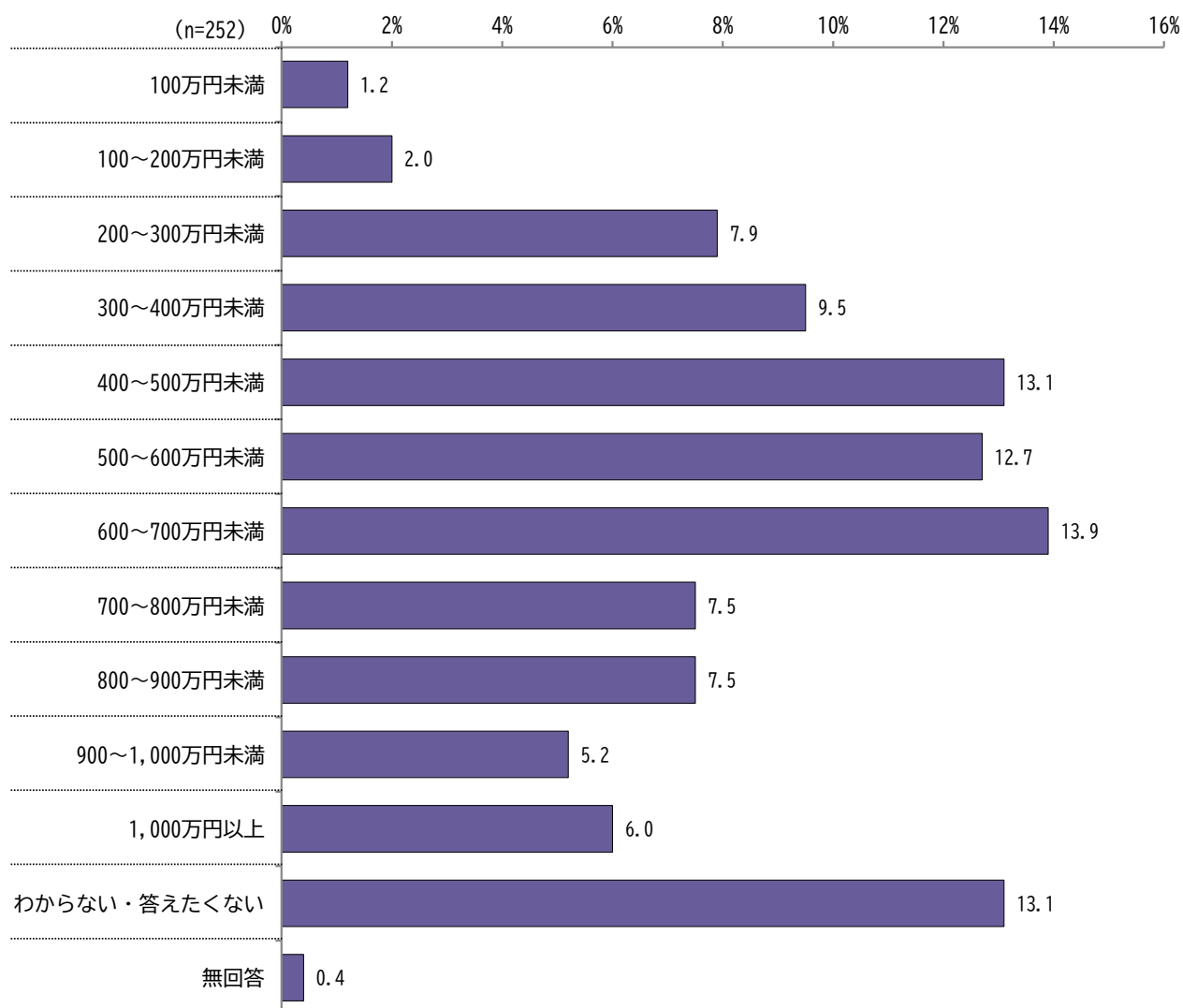
問3 あなたのお住まいの地域をお答えください。(○は1つ)



居住地域について、「廿日市地域」との回答が75.0%と最も高く、次いで「大野地域」(18.3%)、「佐伯地域」(5.2%)などの順となっている。

問4 あなたのご家庭の世帯年収をお答えください。(○は1つ)

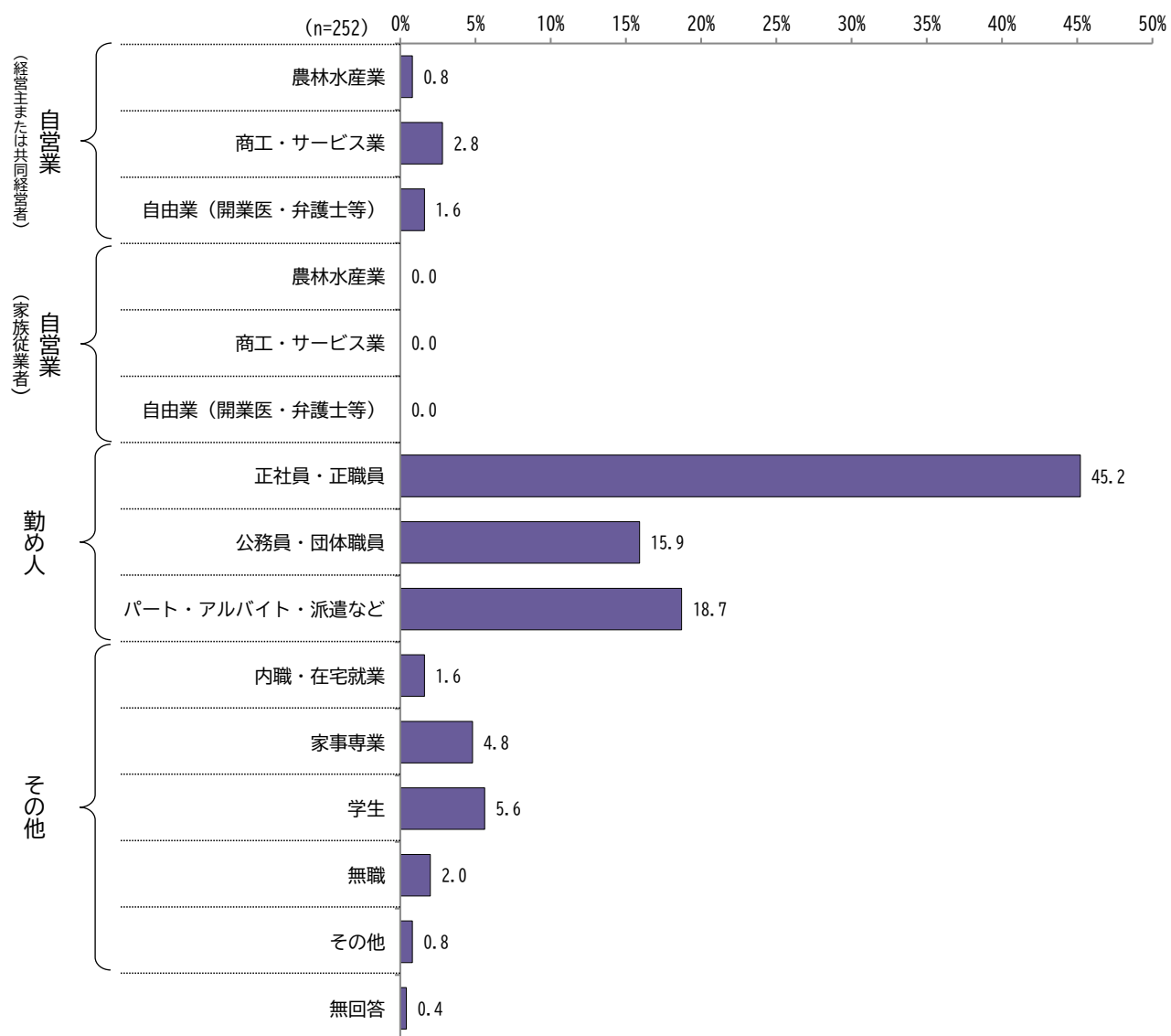
【全体】



世帯年収について、「600～700万円未満」との回答が13.9%と最も高く、次いで「400～500万円未満」(13.1%)、「500～600万円未満」(12.7%)などの順となっている。

問5 あなたの職業をお答えください。(○は1つ)

【全体】

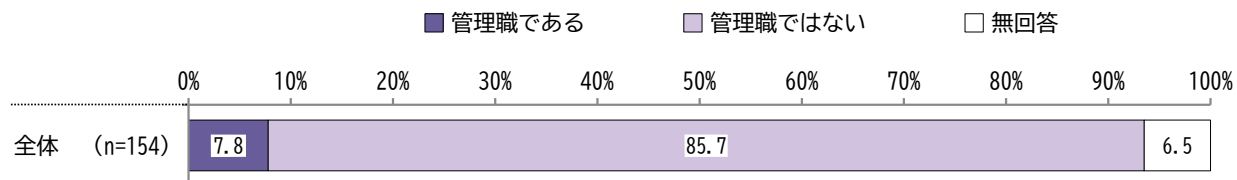


職業について、「正社員・正職員」との回答が45.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣など」（18.7%）、「公務員・団体職員」（15.9%）などの順となっている。

問5で、付問「7」「8」と答えた方におたずねします。

問5.1 あなたは管理職ですか。(○は1つ)

【全体】

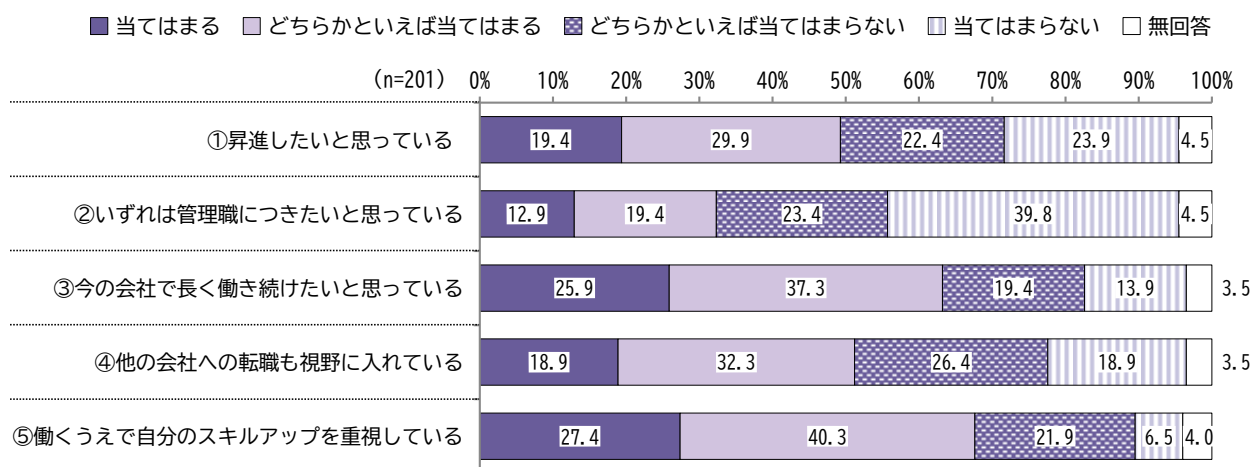


管理職であるかについて、「管理職である」(7.8%)、「管理職ではない」(85.7%)となっている。

問5で「4～9」と答えた方のみにおたずねします。

問6 働き方について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つ)

【全体】

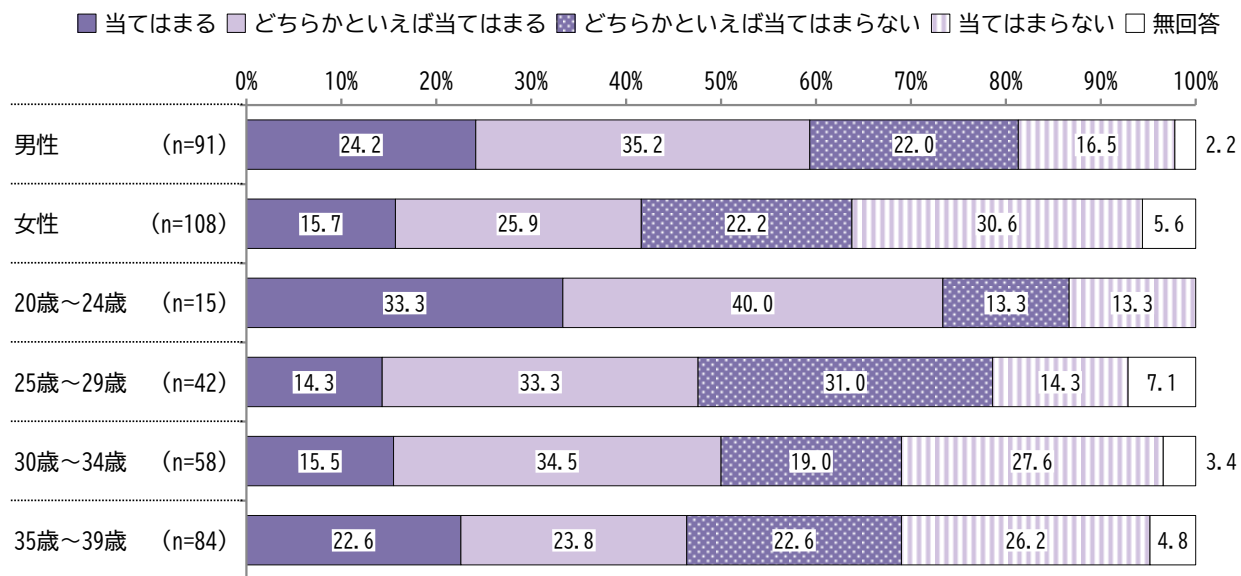


働き方に対する考えについて、『当てはまる（「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」）』は「⑤働くうえで自分のスキルアップを重視している」との回答が67.7%と最も高く、次いで「③今の会社で長く働き続けたいと思っている」(63.2%)、「④他の会社への転職も視野に入れている」(51.2%)などの順となっている。

一方で、『当てはまらない（「当てはまらない」＋「どちらかといえば当てはまらない」）』は「②いずれは管理職につきたいと思っている」との回答が63.2%と最も高く、次いで「①昇進したいと思っている」(46.3%)、「④他の会社への転職も視野に入れている」(45.3%)などの順となっている。

① 昇進したいと思っている

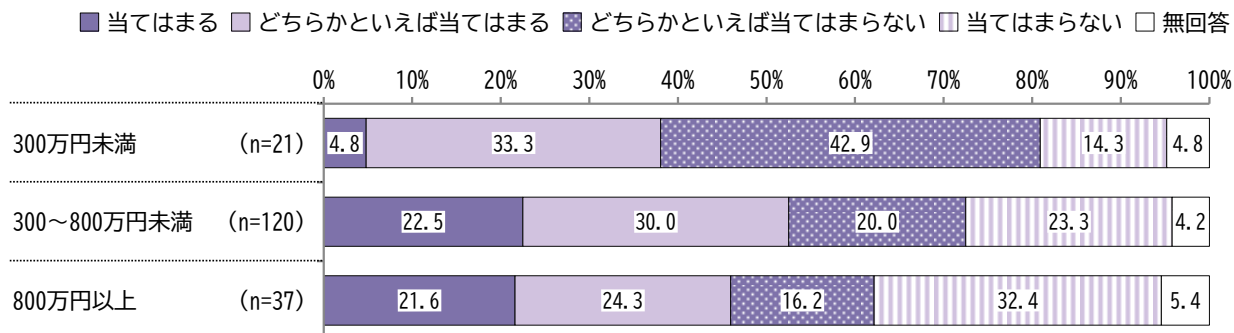
【昇進したいと思っている 性別・年齢別】



性別にみると、『当てはまる』との回答は男性（59.4%）が女性（41.6%）を17.8ポイント上回っている。

年齢別にみると、『当てはまる』との回答は20歳～24歳で7割台半ばと高くなっている。

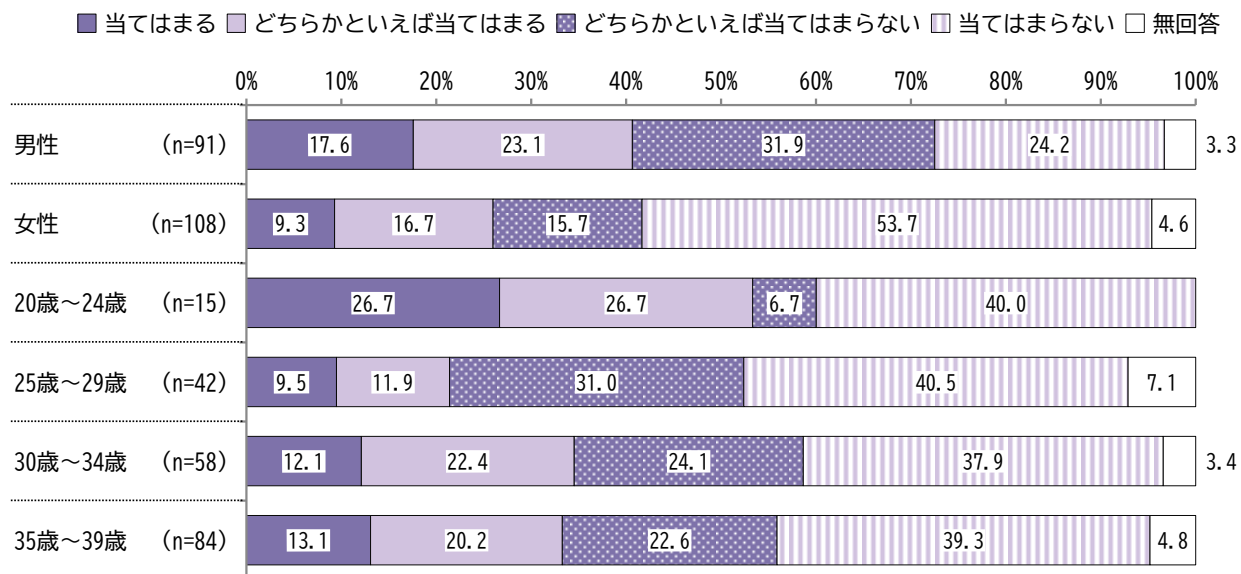
【昇進したいと思っている 世帯年収別】



世帯年収別にみると、『当てはまる』との回答は300～800万円未満で52.5%と高くなっている。

② いずれは管理職につきたいと思っている

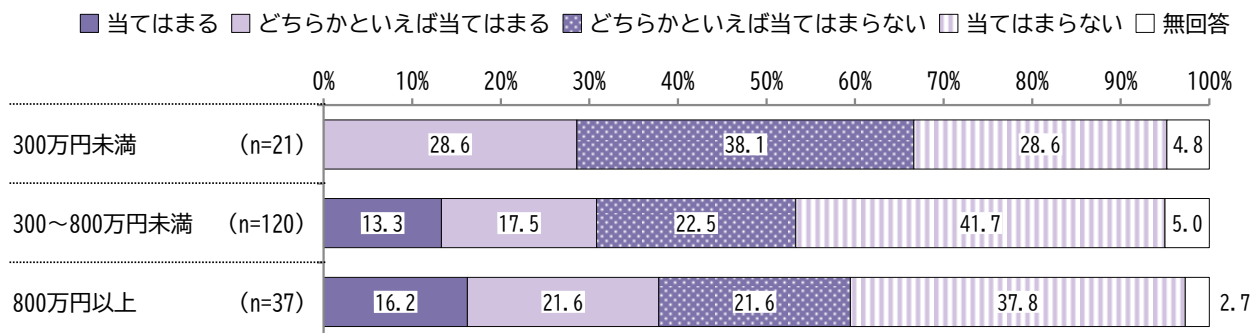
【いずれは管理職につきたいと思っている 性別・年齢別】



性別にみると、『当てはまる』との回答は男性（40.7%）が女性（26.0%）を14.7ポイント上回っている。

年齢別にみると、『当てはまる』との回答は25歳～29歳で2割超と低くなっている。

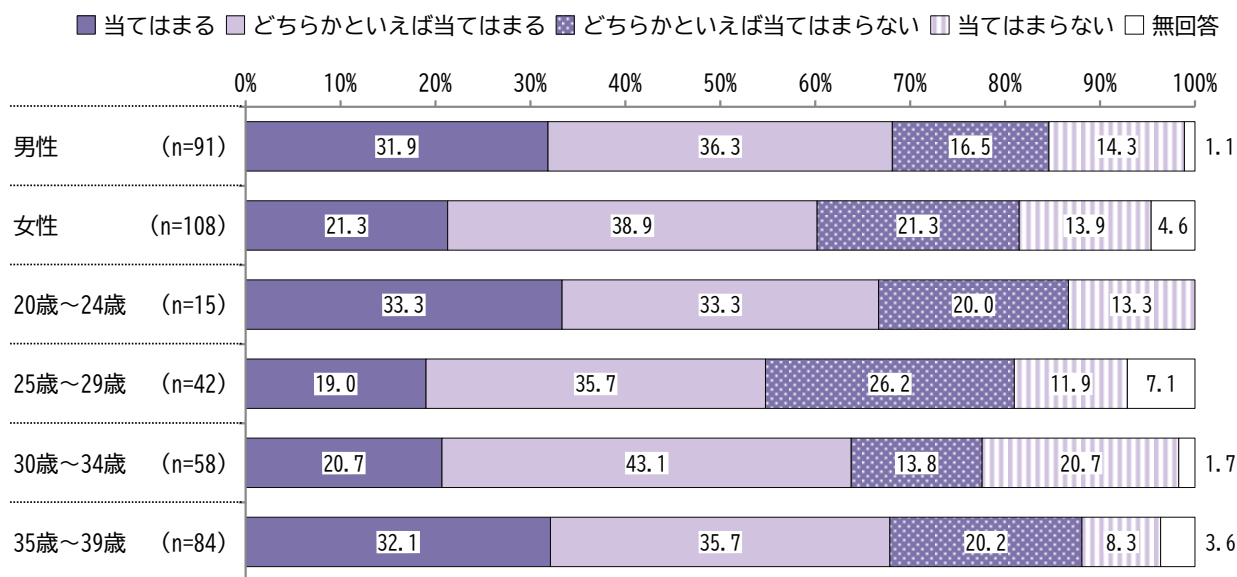
【いずれは管理職につきたいと思っている 世帯年収別】



世帯年収別にみると、『当てはまる』との回答は年収が上がるにつれて高くなっている。

③ 今の会社で長く働きたいと思っている

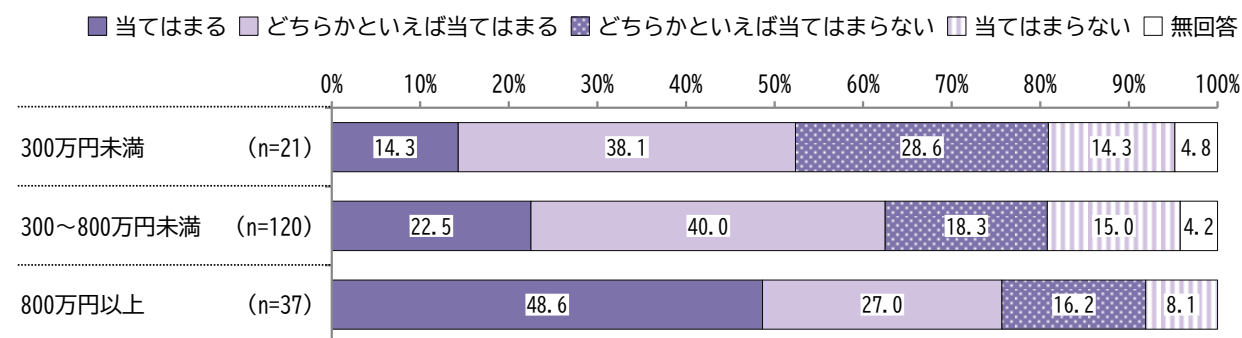
【今の会社で長く働きたいと思っている 性別・年齢別】



性別にみると、『当てはまる』との回答は男性（68.2%）が女性（60.2%）を8.0ポイント上回っている。

年齢別にみると、『当てはまる』との回答は25歳～29歳で5割台半ばと低くなっている。

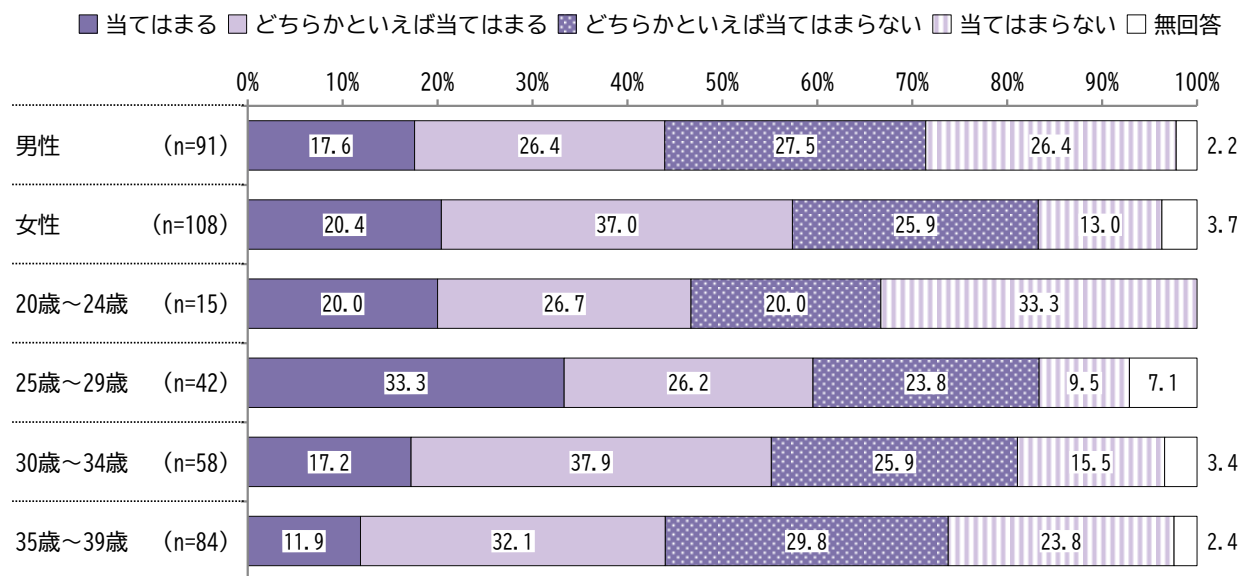
【今の会社で長く働きたいと思っている 世帯年収別】



世帯年収別にみると、『当てはまる』との回答は年収が上がるにつれて高くなっている。

④ 他の会社への転職も視野に入れている

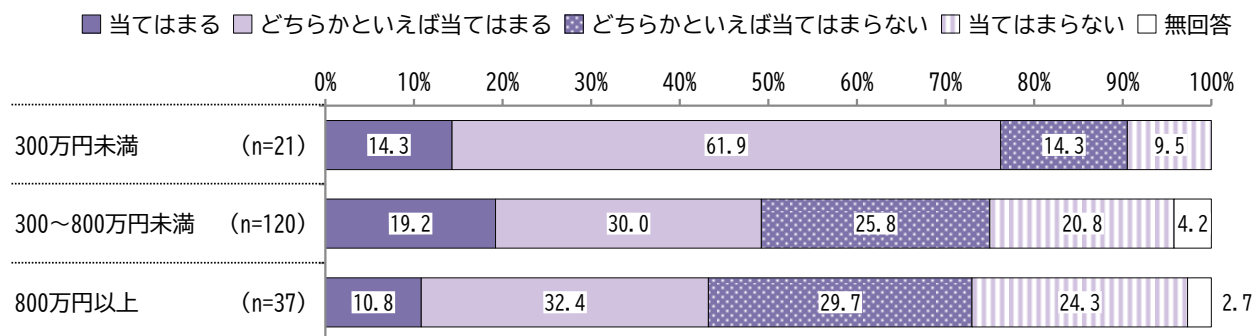
【他の会社への転職も視野に入れている 性別・年齢別】



性別にみると、『当てはまる』との回答は男性（44.0%）が女性（57.4%）を13.4ポイント下回っている。

年齢別にみると、『当てはまる』との回答は25歳～29歳で約6割と高くなっている。

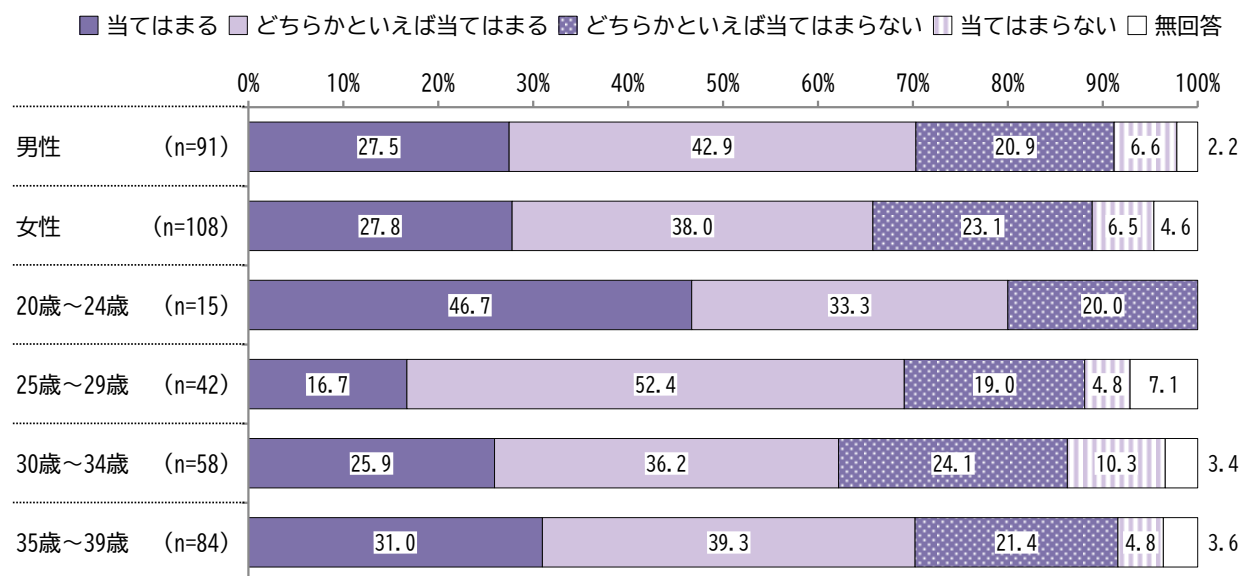
【他の会社への転職も視野に入れている 世帯年収別】



世帯年収別にみると、『当てはまる』との回答は年収が下がるにつれて高くなっている。

⑤ 働くうえで自分のスキルアップを重視している

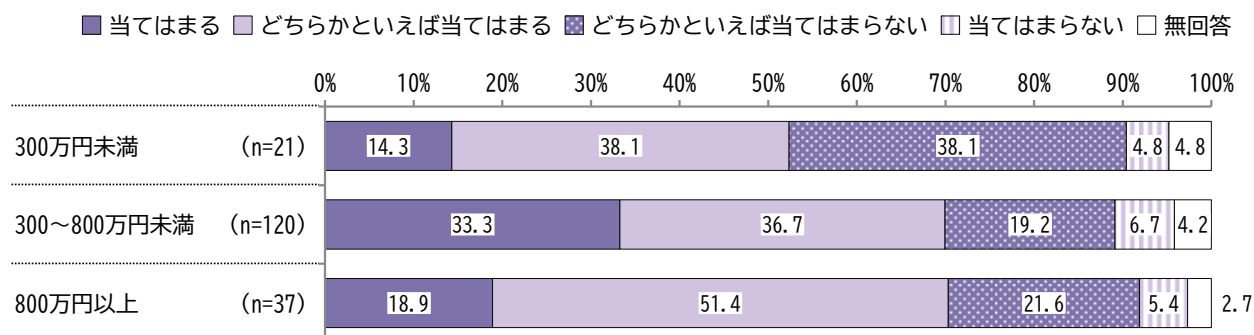
【働くうえで自分のスキルアップを重視している 性別・年齢別】



性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、『当てはまる』との回答は20～24歳で8割、次に25歳～29歳、35歳～39歳で約7割と高くなっている。

【働くうえで自分のスキルアップを重視している 世帯年収別】

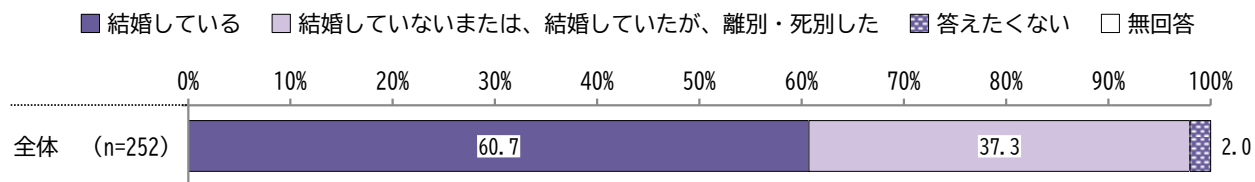


世帯年収別にみると、『当てはまる』との回答は300万円未満では、300万円以上に比べて低くなっている。

2 結婚について

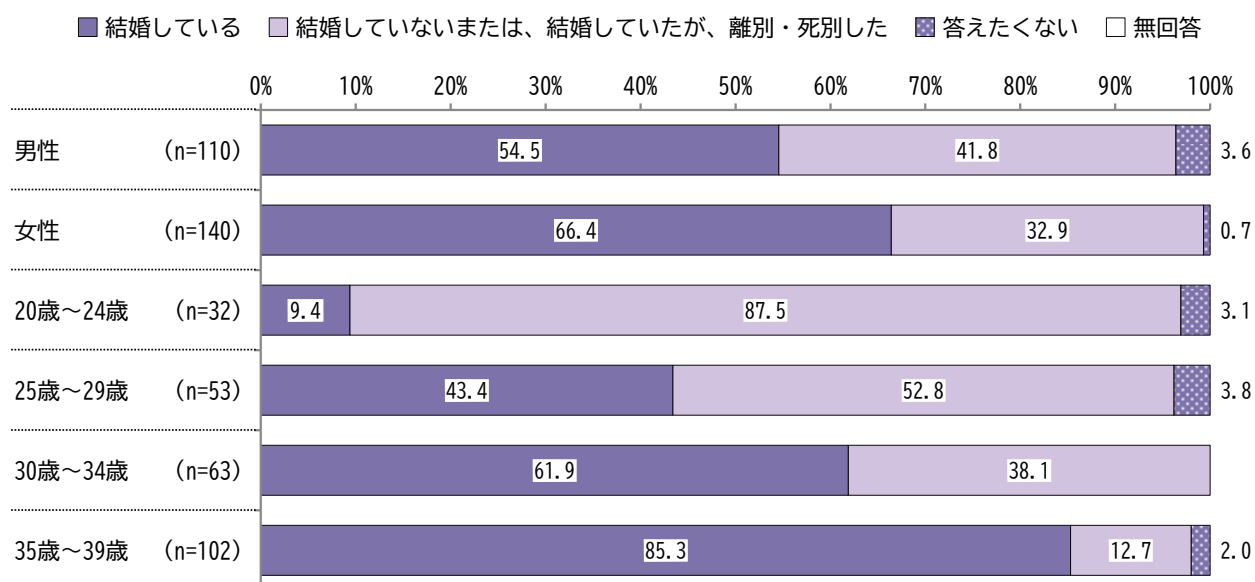
問7 あなたは結婚をしていますか。(事実婚を含む。)(○は1つ)

【全体】



結婚の有無について、「結婚している」(60.7%)、「結婚していないまたは、結婚したが、離別・死別した」(37.3%)となっている。

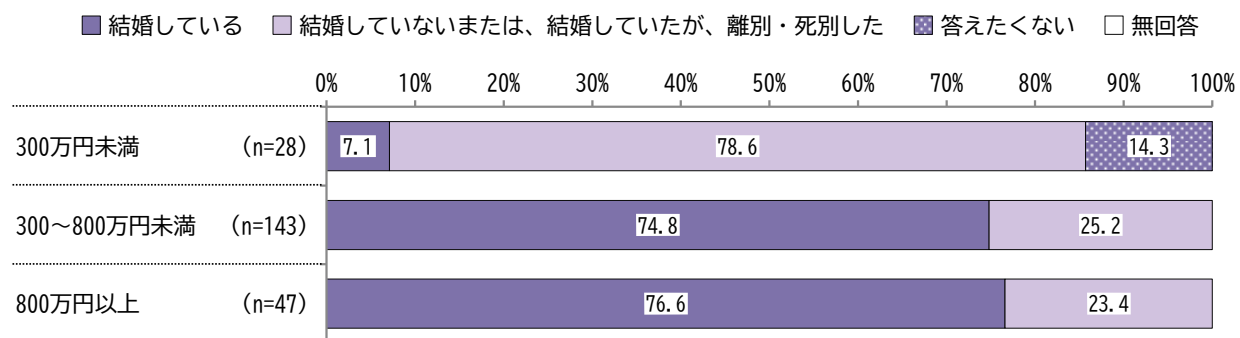
【結婚の有無 性別・年齢別】



性別にみると、「結婚している」との回答は男性(54.5%)が女性(66.4%)を11.9ポイント下回っている。

年齢別にみると、「結婚している」との回答は30歳～39歳で6割以上と高くなっている。

【結婚の有無 世帯年収別】

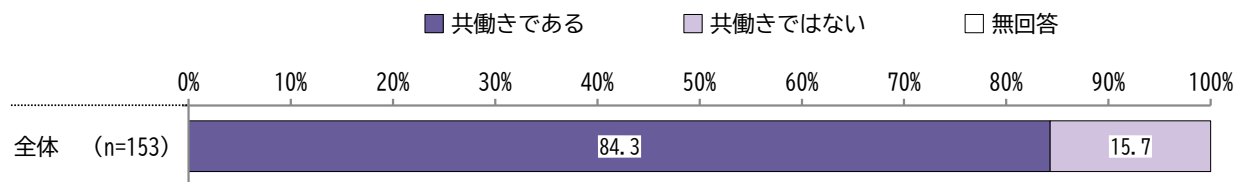


世帯年収別にみると、「結婚している」との回答は300万円未満では、300万円以上に比べて1割未満と相当低くなっている。

問7で「1. 結婚している」を選んだ方におたずねします。

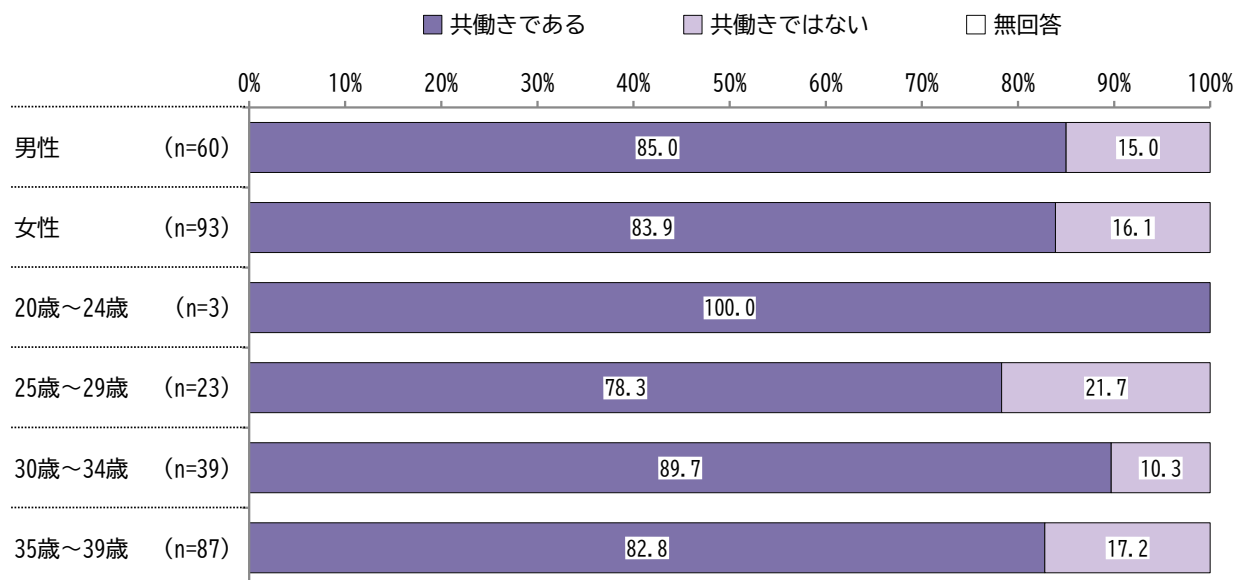
問8 あなたと配偶者(パートナー)は、共働き(パート・アルバイト等を含む)ですか。(○は1つ)

【全体】



共働きであるかについて、「共働きである」(84.3%)、「共働きではない」(15.7%)となっている。

【共働きであるか 性別・年齢別】



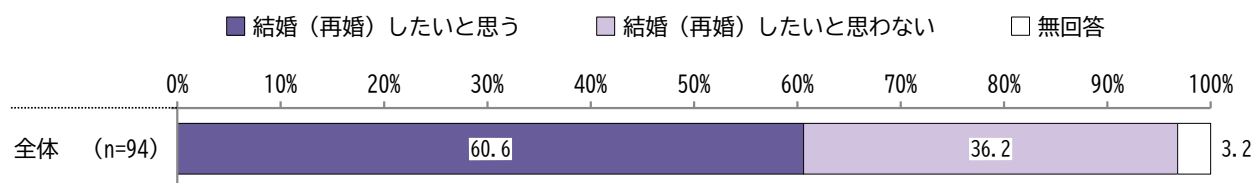
性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「共働きである」との回答はどの年代でも約8割以上と高くなっている。

問7で「2. 結婚していないまたは、結婚していたが、離別・死別した」を選んだ方におたずねします。

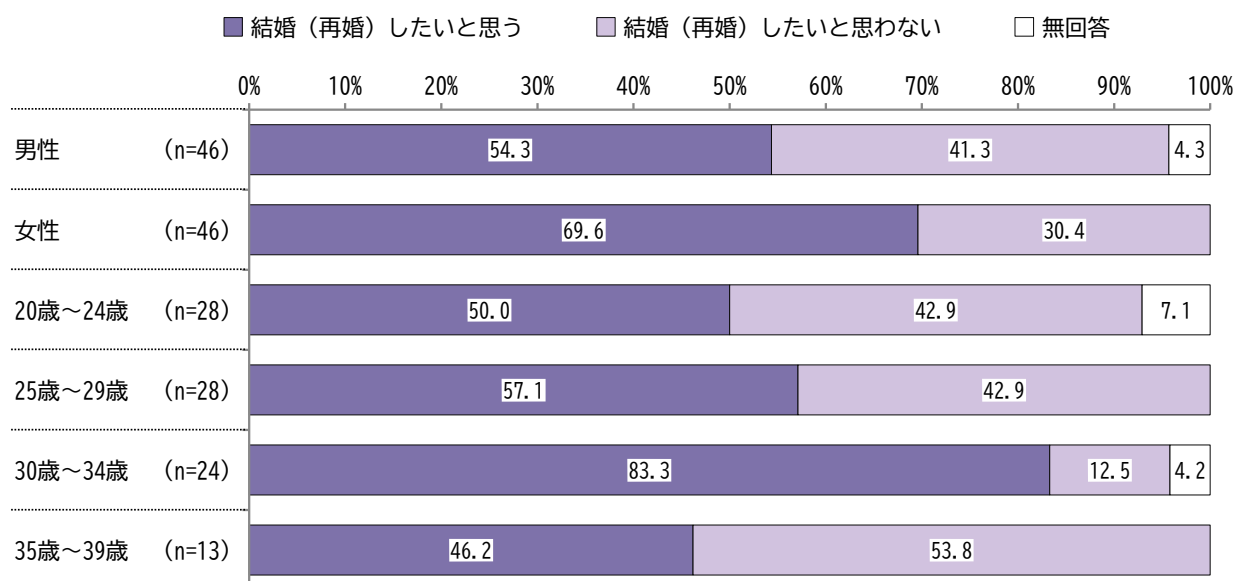
問9 あなたは結婚(再婚)についてどう思いますか。(○は1つ)

【全体】



結婚に関してどう思うかについて、「結婚(再婚)したいと思う」(60.6%)、「結婚(再婚)したいと思わない」(36.2%)となっている。

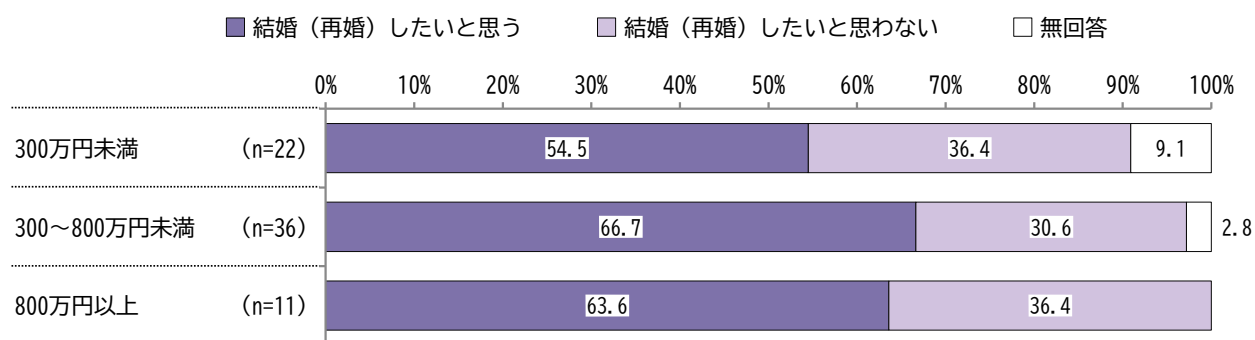
【結婚(再婚)についてどう思うか 性別・年齢別】



性別にみると、「結婚(再婚)したいと思う」との回答は男性(54.3%)が女性(69.6%)を15.3ポイント下回っている。

年齢別にみると、「結婚(再婚)したいと思う」との回答は30～34歳で8割台半ばと高くなっている。

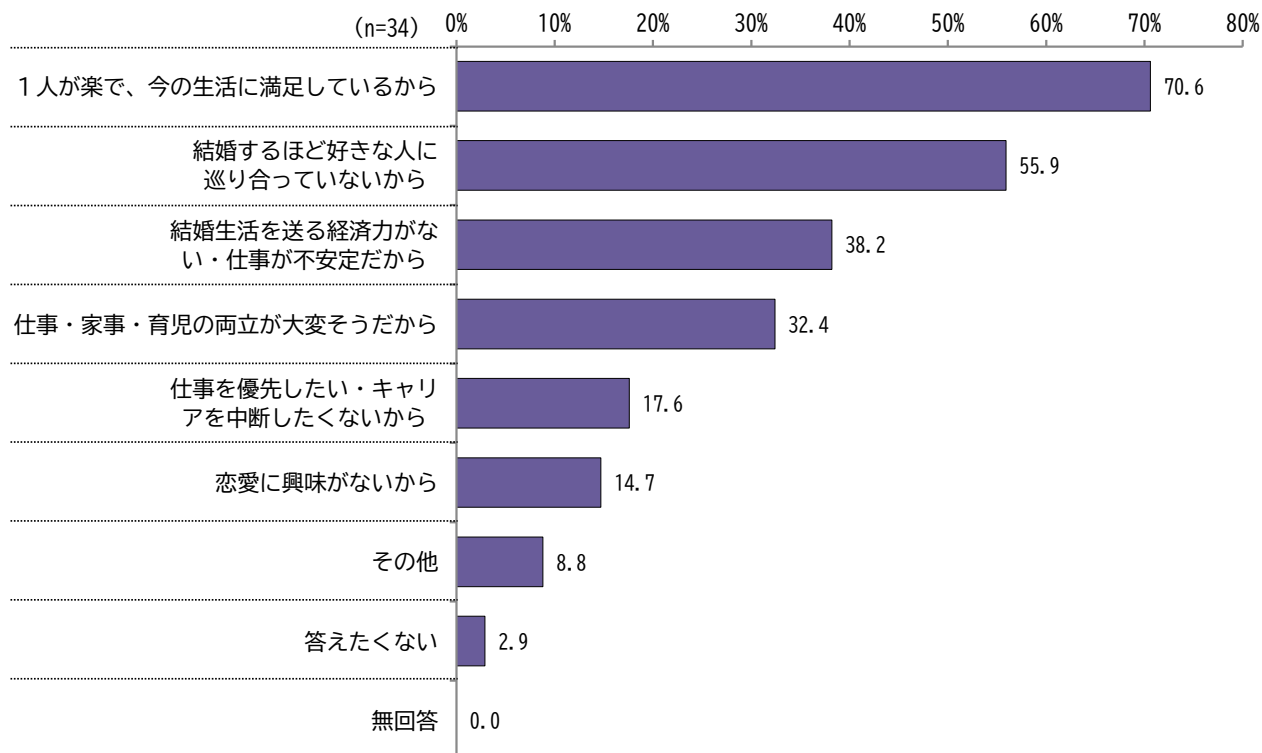
【結婚の有無 世帯年収別】※n数は少ないが参考までに掲載



問9で「2. 結婚(再婚)したいと思わない」を選んだ方におたずねします。

問 10 あなたが結婚(再婚)したいと思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【全体】

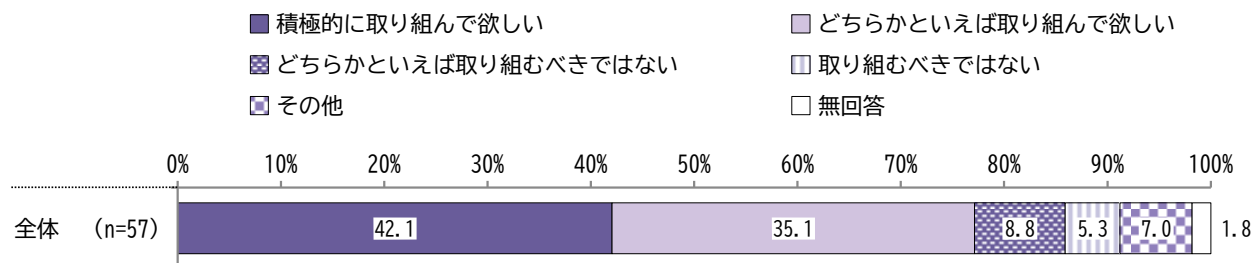


結婚したいと思わない理由について、「1人が楽で、今の生活に満足しているから」との回答が70.6%と最も高く、次いで「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」(55.9%)、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」(38.2%)などの順となっている。

問9で「1. 結婚(再婚)したいと思う」を選んだ方におたずねします。

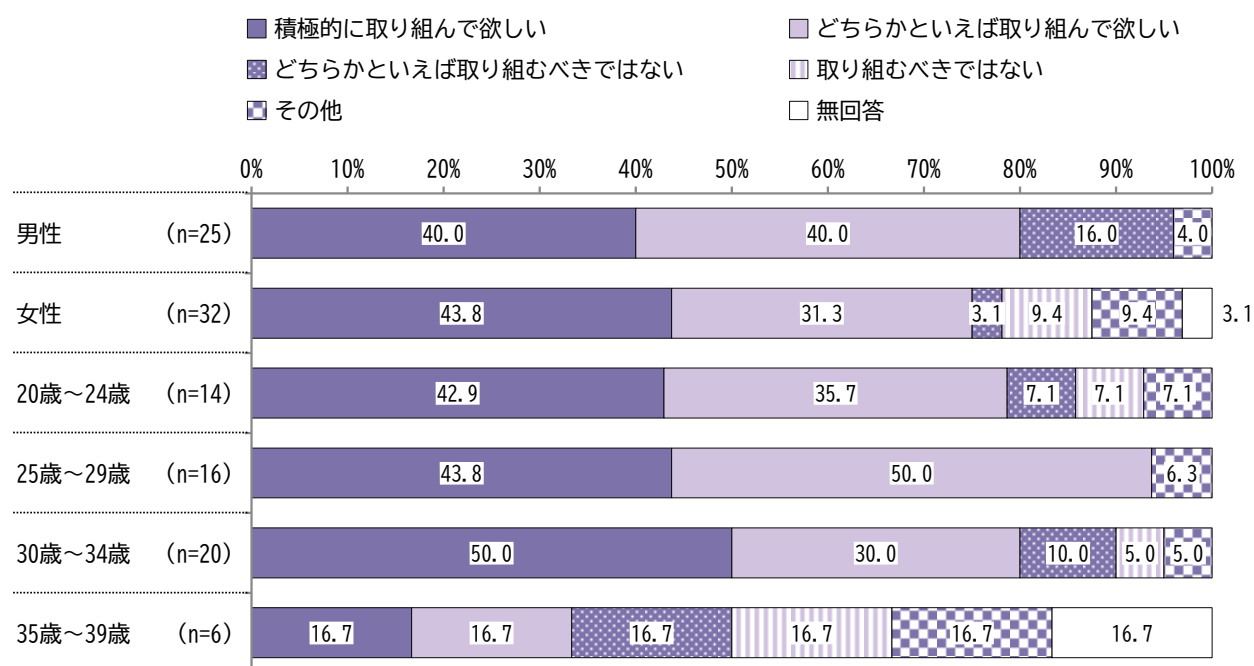
問 11 あなたは、市に結婚支援に関する事業に取り組んでほしいですか。(〇は1つ)

【全体】



市の結婚支援事業取り組みについて、『取り組んで欲しい（「積極的に取り組んで欲しい」＋「どちらかといえば取り組んで欲しい」）』との回答が77.2%と最も高く、次いで『取り組むべきではない（「取り組むべきではない」＋「どちらかといえば取り組むべきではない」）』（14.1%）となっている。

【市に結婚支援に関する事業に取り組んでほしいか 性別・年齢別】



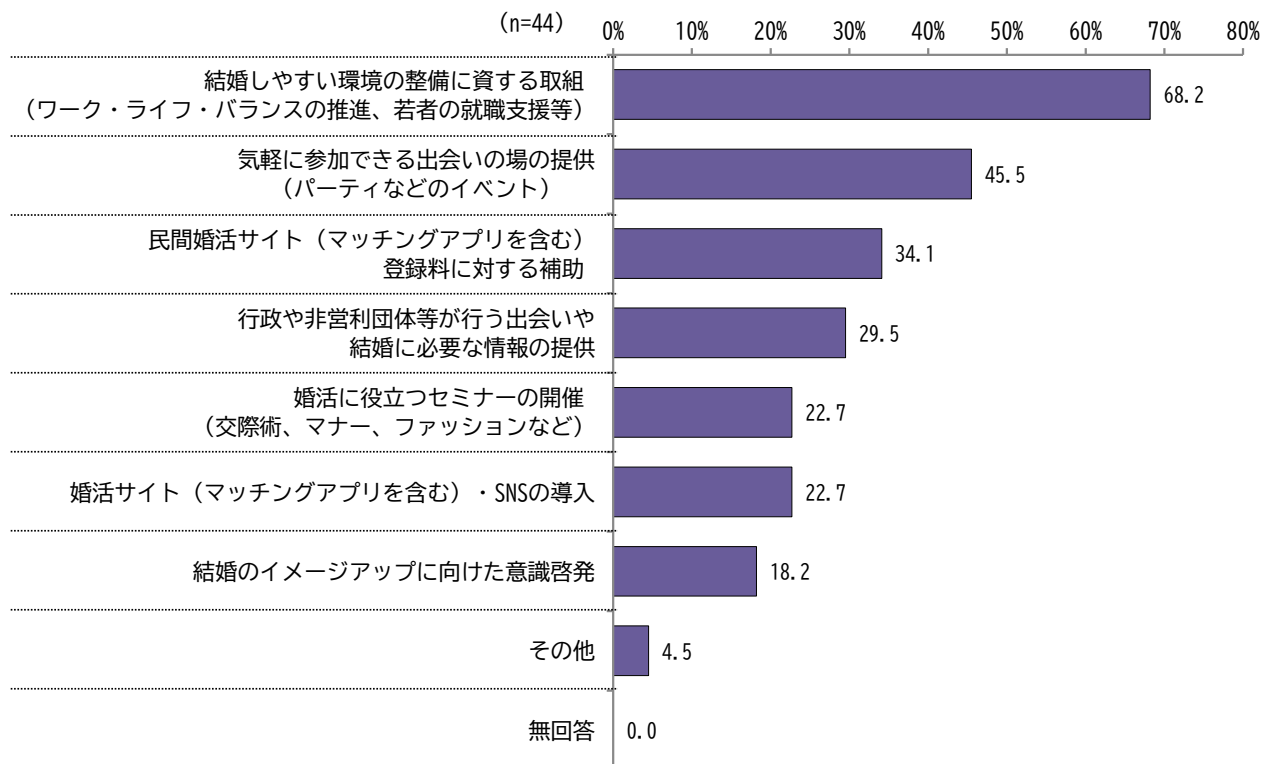
性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると25歳～29歳は93.8%と最も高く、35歳～39歳は33.4%と他の年齢に比べて低くなっている。

問11で「1. 積極的に取り組んで欲しい」「2. どちらかといえば取り組んで欲しい」を選んだ方におたずねします。

問 12 出会い・結婚にかかわる支援として、どのようなことを市に期待しますか。(〇はいくつでも)

【全体】



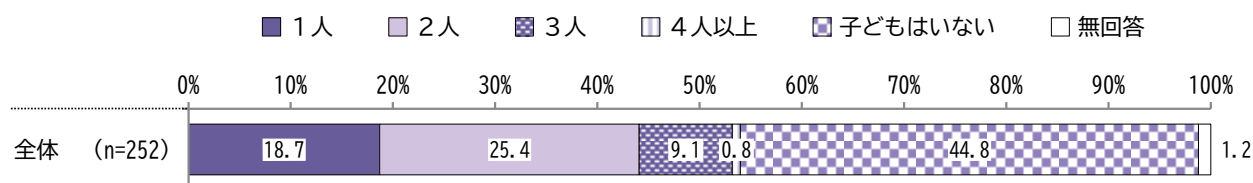
出会い・結婚支援に関して市へ期待することについて、「結婚しやすい環境の整備に資する取組(ワーク・ライフ・バランスの推進、若者の就職支援等)」との回答が68.2%と最も高く、次いで「気軽に参加できる出会いの場の提供」(45.5%)、「民間婚活サイト(マッチングアプリを含む)登録料に対する補助」(34.1%)などの順となっている。

3 子育てについて

すべての方におたずねします。

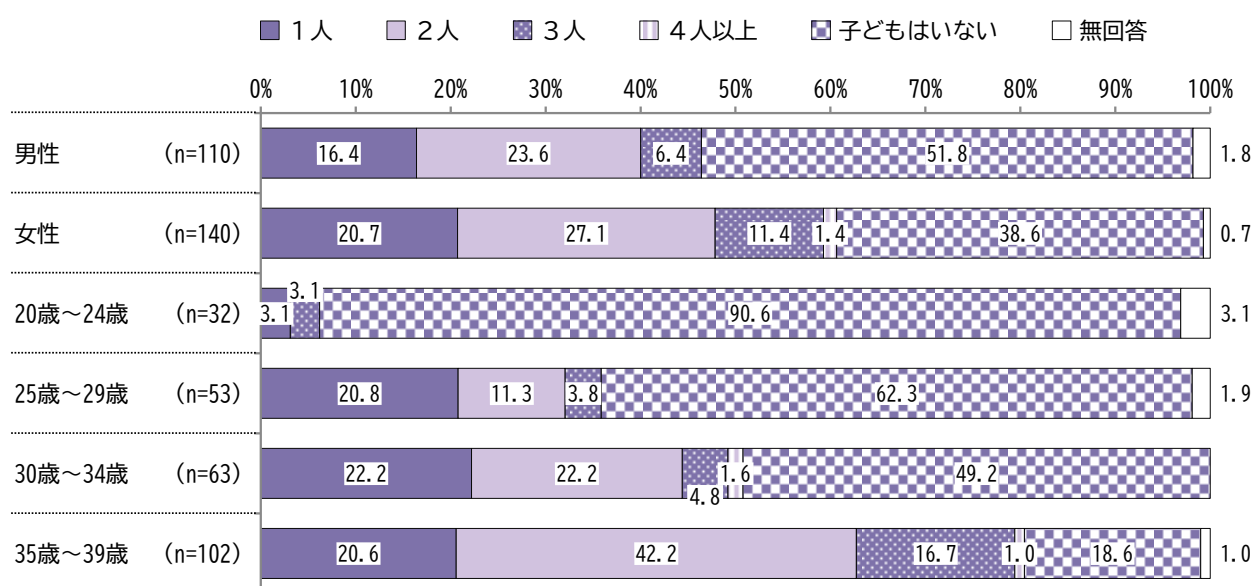
問 13 あなたのご家庭には、お子さんは何人いますか。(〇は1つ)

【全体】



子どもの人数について、「子どもはいない」との回答が44.8%と最も高く、次いで「2人」(25.4%)、「1人」(18.7%)などの順となっている。

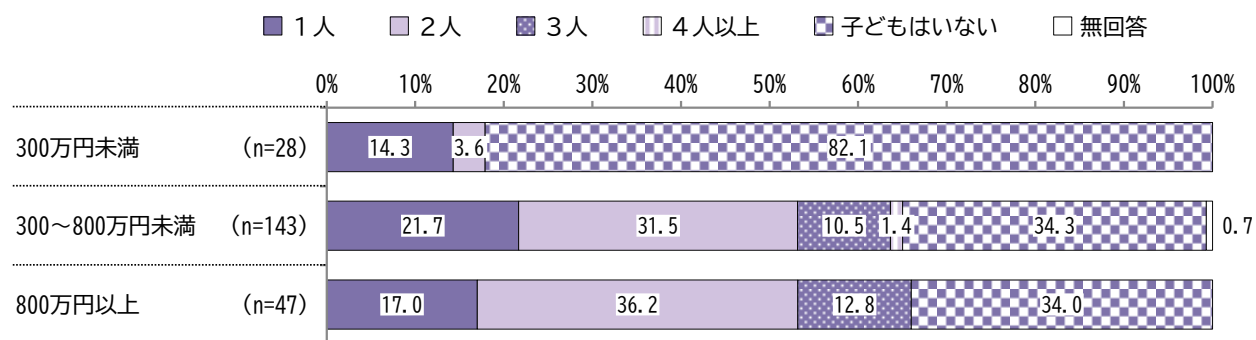
【子どもの人数 性別・年齢別】



性別にみると、「子どもはいない」との回答は男性(51.8%)が女性(38.6%)を13.2ポイント上回っており、「3人」との回答は男性(6.4%)が女性(11.4%)を5.0ポイント下回っている。

年齢別にみると、「2人」との回答は35歳～39歳で4割超と高くなっている。

【子どもの人数 世帯年収別】

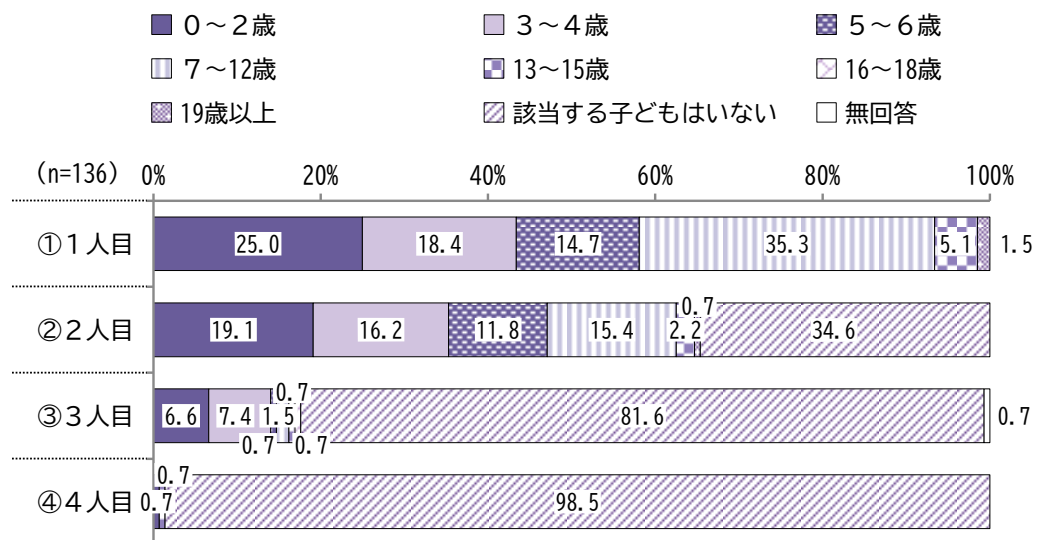


世帯年収別にみると、「子どもはいない」との回答は300万円未満では、300万円以上に比べて高くなっている。

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問 14 あなたのお子さんの年齢を教えてください。(〇はそれぞれ1つ)

【全体】



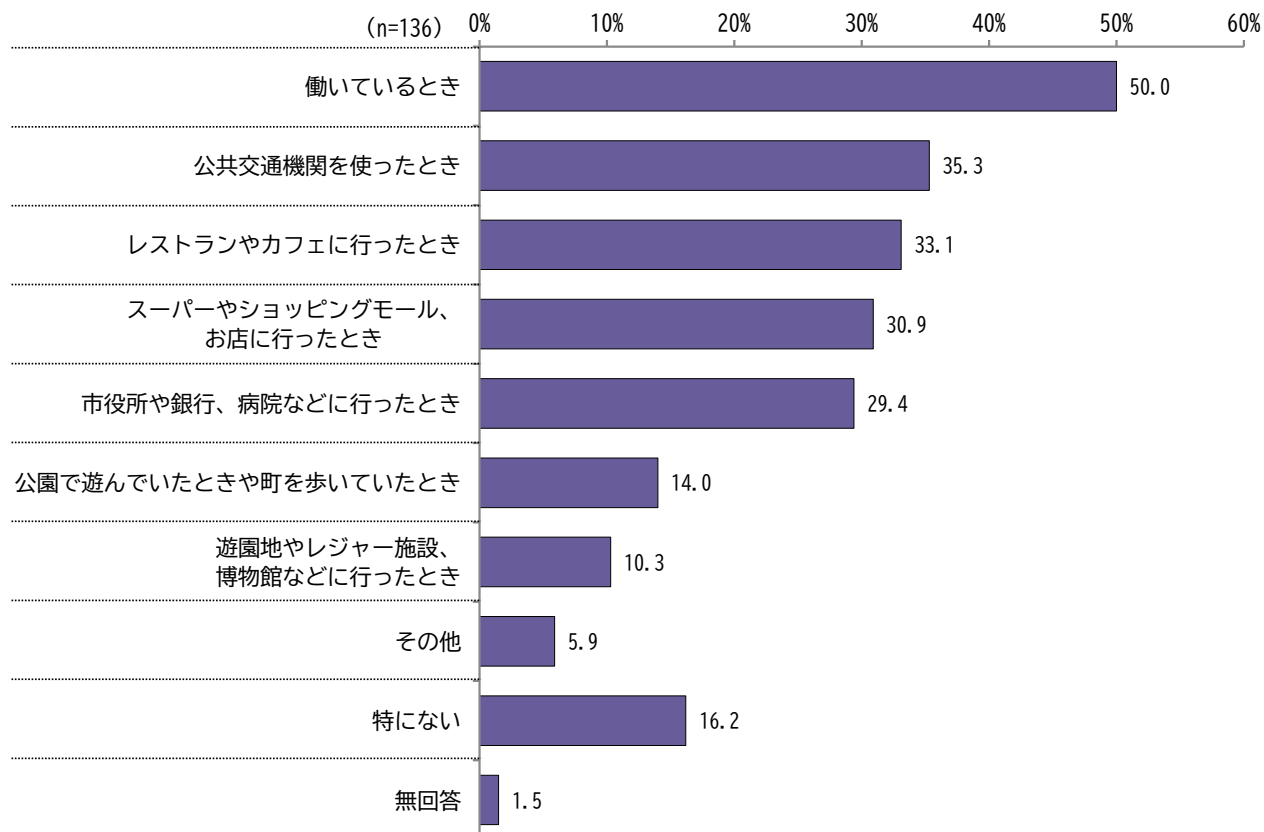
子どもの年齢について、1人目では「7～12歳」との回答が35.3%と最も高く、次いで「0～2歳」(25.0%)、「3～4歳」(18.4%)などの順となっている。

「該当する子どもはいない」との回答は3人目、4人目では8割以上となっている。

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問 15 子どもと一緒にいるとき、不便を感じたり、周りからの理解や配慮が欲しかった場面をお答えください。(〇はいくつでも)

【全体】



子どもと一緒にいるとき、不便を感じたり、理解や配慮が欲しかった場面について、「働いているとき」との回答が50.0%と最も高く、次いで「公共交通機関を使ったとき」(35.3%)、「レストランやカフェに行ったとき」(33.1%)などの順となっている。

【子どもと一緒にいるとき、理解や配慮が欲しかった場面 性別・年齢別】

		n数	働いているとき	公共交通機関を使ったとき	レストランやカフェに行ったとき	スーパーやショッピングモール、お店に行ったとき	市役所や銀行、病院などに行ったとき	公園で遊んでいたとき	散歩を歩いていたとき	施設、博物館などにいったとき	遊園地やレジャー施設	その他	特にない	無回答
全 体		136	50.0	35.3	33.1	30.9	29.4	14.0	10.3	5.9	16.2	1.5		
性別	男性	51	51.0	33.3	35.3	37.3	29.4	19.6	13.7	3.9	15.7	-		
	女性	85	49.4	36.5	31.8	27.1	29.4	10.6	8.2	7.1	16.5	2.4		
年齢別	20歳～24歳	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	25歳～29歳	19	42.1	52.6	36.8	42.1	26.3	15.8	5.3	-	10.5	-	-	-
	30歳～34歳	32	62.5	31.3	28.1	37.5	34.4	15.6	9.4	6.3	12.5	-	-	-
	35歳～39歳	82	47.6	32.9	34.1	25.6	28.0	13.4	12.2	7.3	18.3	2.4	-	-

1位 2位 3位

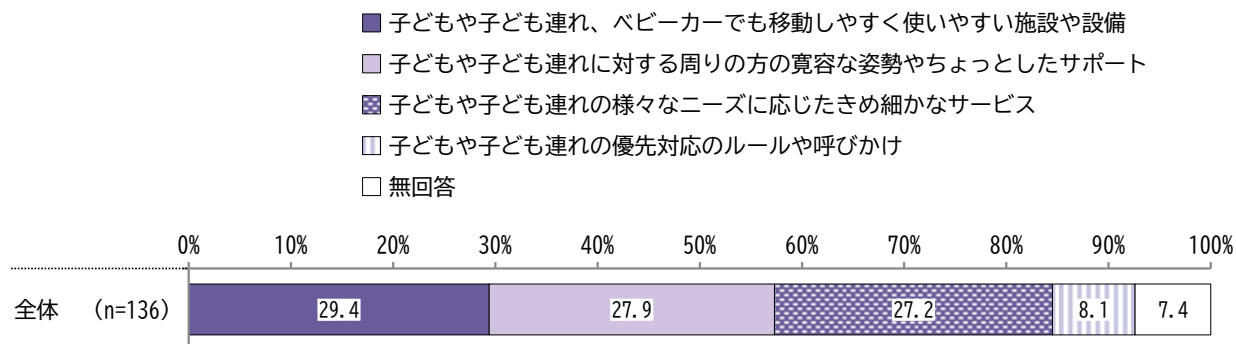
性別にみると、「スーパーやショッピングモール、お店に行ったとき」との回答は男性（37.3%）が女性（27.1%）を10.2ポイント上回っている。

年齢別にみると、「働いているとき」との回答は30歳～34歳で6割超と高くなっている。

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

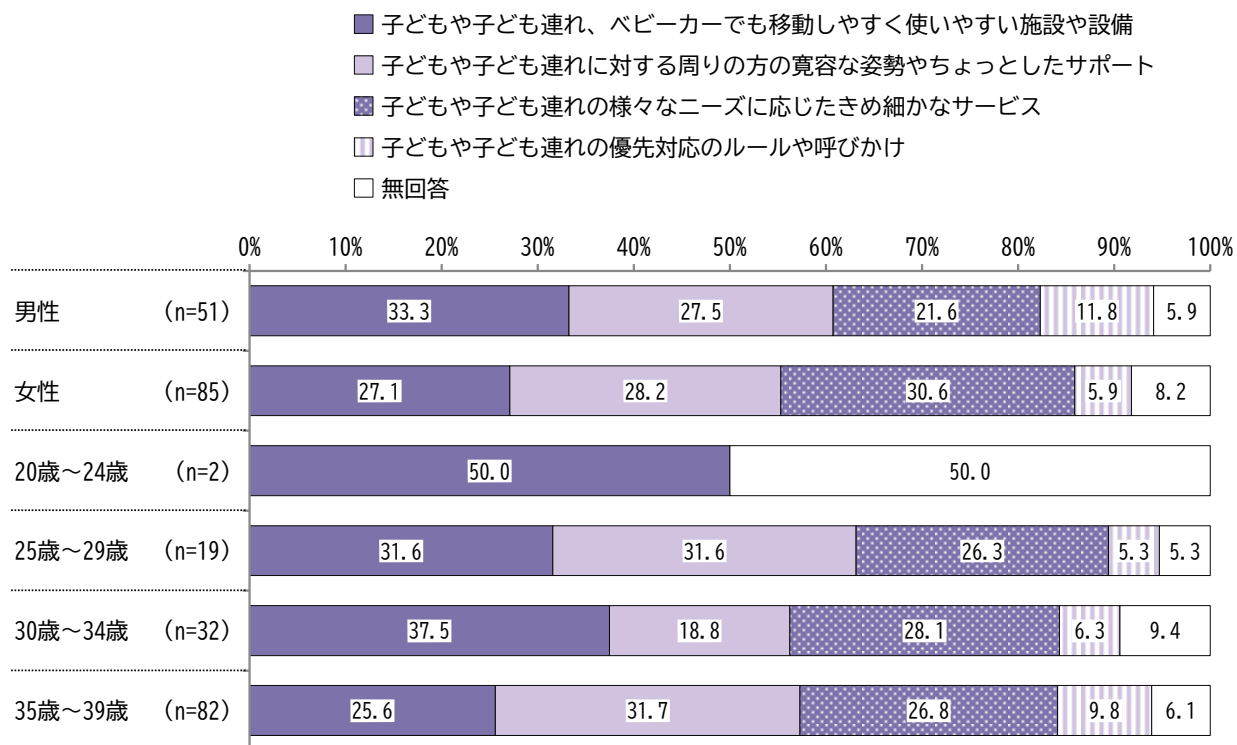
問 16 周りから欲しかった理解や配慮の内容で一番近いものをお答えください。(〇は1つ)

【全体】



周りから欲しかった理解や配慮の内容について、「子どもや子ども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備」との回答が29.4%と最も高く、次いで「子どもや子ども連れに対する周りの方の寛容な姿勢やちょっとしたサポート」(27.9%)、「子どもや子ども連れの様々なニーズに応じたきめ細かなサービス」(27.2%)などの順となっている。

【周りから欲しかった理解や配慮 性別・年齢別】



性別にみると、「子どもや子ども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備」との回答は男性（33.3％）が女性（27.1％）を6.2ポイント上回っており、「子どもや子ども連れの様々なニーズに応じたきめ細かなサービス」との回答は男性（21.6％）が女性（30.6％）を9.0ポイント下回っている。

年齢別にみると、「子どもや子ども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備」が35歳～39歳を除き3割超と高くなっている。

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問 17 不便を感じたり、周りからの理解や配慮が欲しかった場面について、エピソードを交えて具体的にお書きください。

① 子どもや子ども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備

- レストラン等で子ども用の席がなかったり、ヘビーカーがとおりづらかったとき。(男性、25～29歳)
- 子どもがオムツをしているころ男子トイレにオムツかえコーナーがなく、妻が1人で2人を見ることが多かった。男子トイレにオムツコーナーを増設してほしい。トイレも男子トイレに子ども用を作してほしい。大人のトイレでは2～3歳の子はむずかしいです。(男性、30～34歳)
- ショッピングモールでベビーカーの際、専用エレベーターがあれば便利(混雑時、多すぎて乗れないことがある)。(男性、35～39歳)
- ベビーカーを置く場所やスペースが少ない。ベビーカーと一緒にトイレに入れると嬉しいが、ベビーカーと一緒にとなると車椅子トイレになるので、本当に車椅子トイレを使いたい人が不便なのではないかと感じた。一般のトイレにも広めのベビーカーも一緒に入れる個室が欲しい。(女性、25～29歳)
- 公園の遊具等、整備が行き届いておらず危険な所が多い。市に報告しても、一時的な対処でしかない所もあり、公園や子どもがあそぶ場が、おろそかにされている気がしてならない。(女性、30～34歳)
- 駅にエスカレーター、エレベーターがない時。道路に歩道がない時。(女性、35～39歳)
- お座りのできない時期、子どもと2人で出かけると、自分がトイレに行けない(お座りのできない時期の子どもと一緒に入れるトイレが少ない)。(女性、35～39歳)
- 上の子供がトイレに行きたい時に子供トイレも使用中で、大人のトイレも行列で漏れるというので焦った。身障者トイレを使用しようと思った際、子供の便器があるととても助かります。(女性、35～39歳)
- 授乳室がない場合がある(市民センター、イベント類)。(女性、35～39歳)
- 宮島観光で、おむつ替えができる施設が少なく、紹介もなく困った。(女性、35～39歳)
- 上の子と手を繋いで、片手でベビーカーを押しながら歩くのに、道が狭かったり、でこぼこしたりして歩いて歩きにくい道が多い。(女性、35～39歳)

② 子どもや子ども連れに対する周りの方の寛容な姿勢やちょっとしたサポート

- 人が混んでいるJR電車内で、子どもが泣いた際に周囲の方から舌打ちをされたことがある。(男性、35～39歳)
- 下の子がイヤイヤ期で出かけた先で大声で泣いたり寝転がったりするが、周囲の人が冷たい視線で見ることが度々あった。こちらもうるさくなくように配慮はしているつもりだが、周囲の人たちももう少し暖かく見守ってくれる雰囲気があれば良いと思った。(男性、35～39歳)

- 銀行でATMに並んでいるとき、ベビーカーに乗せていた子どもの機嫌が悪く泣いていたら、後ろに並んでいた女性に「かわいそうに…」とコソコソと話されていたので居心地が悪いなと思った。「かわいそうに…」と言うのではなく、大丈夫？と声を掛けてくれたら嬉しかったなと思った。(女性、25～29歳)
- 社員で働いていたが、子供2人産んだんだし、しょっちゅう休むんだったら、パートにならんとね。と、上司に言われた。(女性、30～34歳)
- 電車で病院まで行く時(片道40分程度)ベビーカーをとめて子どもを抱っこしていたがベビーカーをとめて子どもとイスへすわることなく立ちっぱなしだった。駅員も声をかけてくれなかった。(女性、30～34歳)
- 子どもが体調を崩した時に休みにくい雰囲気だった。あやまらないといけないのがつらい。(女性、35～39歳)
- 私が働いていた職場は、子どもの体調不良など理解がある方だと思うがあまり良く思わない人もいた。子どもの保育園などのおむかえなども考え、勤務時間帯+休みやすさなど、仕事を決める優先順位が子どもにあわせた職場を選ばざるをえなかった。(急な休みが多そうだと、従業員が多そうな工場系など…)。やってみたい職種もたくさんあったが、子育てが少しおちついたころには、私の年齢が40ちかく、応募出来そうな職業が少ない。(女性、35～39歳)
- 市内でバスに乗った時、子どもをだっこしてベビーカーを折りたたんで乗ったがベビーカーが通路にあって高齢の方のじゃまになったようで、イライラして怒ってバスから降りていかれたことがあり悲しかった。(女性、35～39歳)
- 子どもの体調が悪いときに仕事を休みづらい。病児保育もあるが、体調の悪い子どもを預けるのは気が引ける部分もある。(女性、35～39歳)
- 3歳と0歳を連れて帰省した際に、特急列車にて、進行方向が変わることがあったが、座席を転換(回すことが)できず困った。0歳児を抱えたままだったのと、初めての列車だったので、うまくできず困っていたが、周りの人に知らんぷりされたのも寂しい気持ちになった。でも、一方で、子連れで電車に乗ったとき、私の荷物が多いのを見て、まだ小さかった長男の手を引いて降車を手伝ってくれた方もいました。(女性、35～39歳)

③ 子どもや子ども連れの様々なニーズに応じたきめ細かなサービス

- 例えば、市役所、銀行など時間がかかるので、その際3人つれていくとかなり困ります。子供はあきてしまうので、市役所、銀行、病院などにキッズスペースは難しいと思いますが、少しでも見てくれるところがあれば助かります。あと、一時預かり保育の手続きがめんどくさいかなと思います。(男性、30～34歳)
- 外食しようと店をネットで調べた時、子供用の席や補助椅子がなかったりして選択肢がかなり狭まることがある。(男性、30～34歳)
- 友人と食事へ行きたかったがベビーカーで入れるお店や子どもを寝転がしておくことのできるお店がなかったため、フードコートなど広い場所へいつも行っている。妊婦や小さい子がいる場合は駐車場の優先スペースを利用できるが、そのためのカードを取りに行って返却しないといけないのが面倒。(女性、25～29歳)

- リハビリのため整形外科に通っていますが、赤ちゃんと一緒に病院に通える環境や制度が充実して欲しい。(女性、35～39歳)

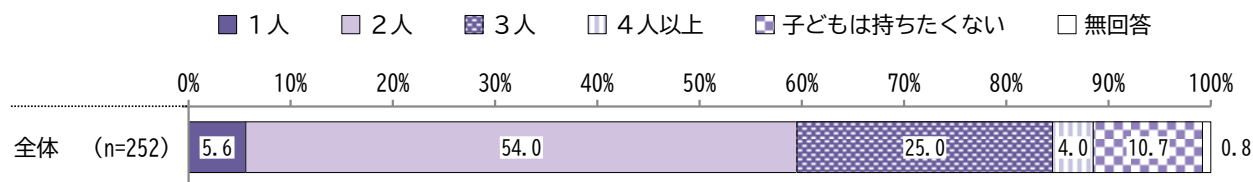
④ 子どもや子ども連れの優先対応のルールや呼びかけ

- ベビーカー優先エレベーターに子どもを連れていない大人が満員で乗れなかった。広島市内ではあるが妻が1人でベビーカーを押していると「市内にベビーカー押して来るんじゃ」と50代男性に言われた。(男性、25～29歳)
- 小さい子がいても、大人と同様に並んだり、同様の対応であったりするので子連れへの配慮がほしい。(男性、35～39歳)
- 妊娠中は施設などに優先駐車スペースがありとても助かりました。ただ産後の期間が短かく、年子の下が双子なので駐車場で3人いるとリスクが高いです。多少期間が延長してるようですが、どちらにしてももう使えないので…。(女性、35～39歳)

すべての方におたずねします。

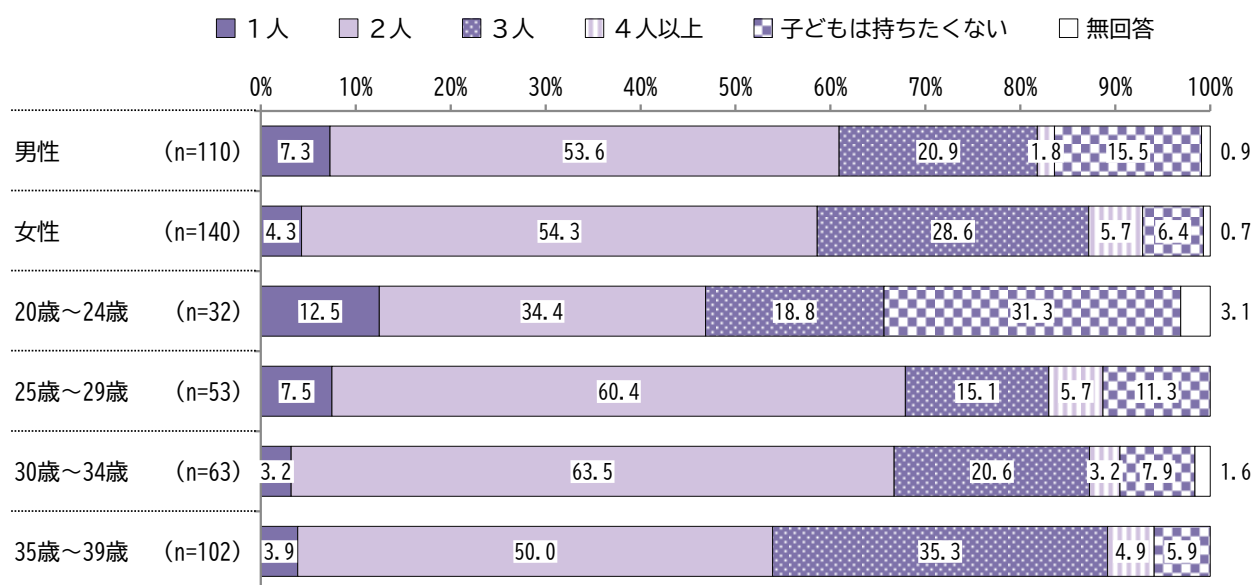
問 18 あなたが理想とする子どもの人数を教えてください。(〇は1つ)

【全体】



理想とする子どもの人数について、「2人」との回答が54.0%と最も高く、次いで「3人」(25.0%)、「子どもは持ちたくない」(10.7%)などの順となっている。

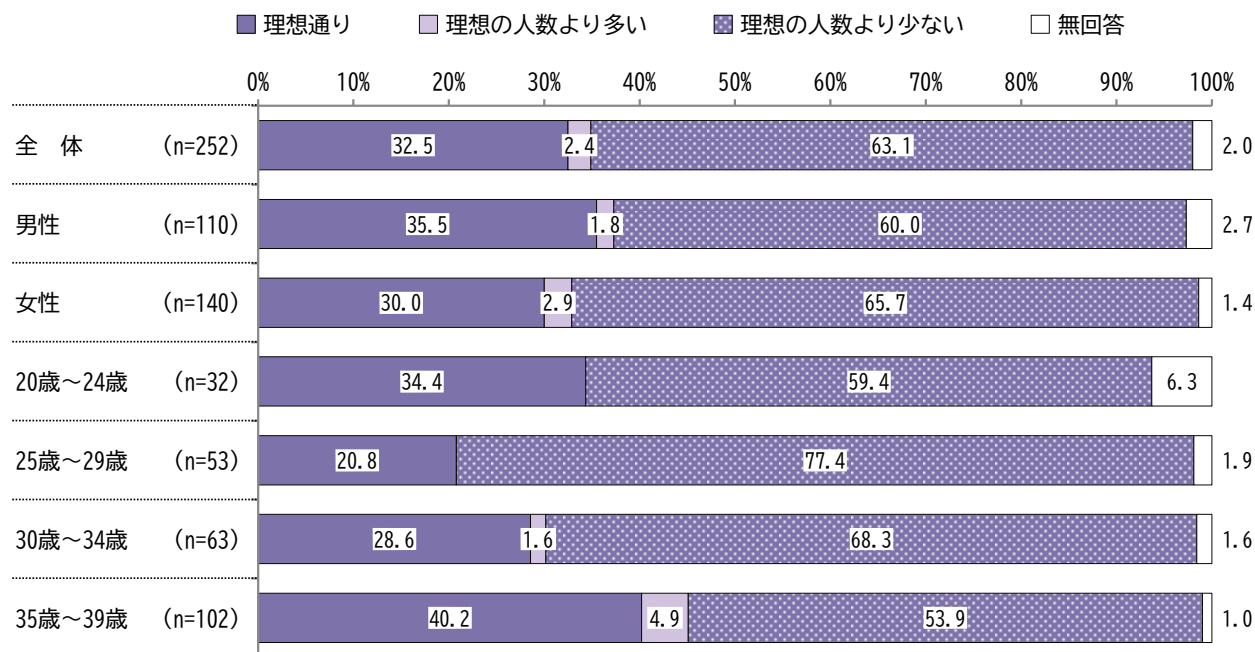
【理想とする子どもの人数 性別・年齢別】



性別にみると、「子どもは持ちたくない」との回答は男性(15.5%)が女性(6.4%)を9.1ポイント上回っており、「3人」との回答は男性(20.9%)が女性(28.6%)を7.7ポイント下回っている。

年齢別にみると、「2人」との回答は25歳～34歳で6割台と高くなっている。

【理想とする子どもの人数と実際の子どもの人数のギャップ(問13×問18) 全体・性別・年齢別】

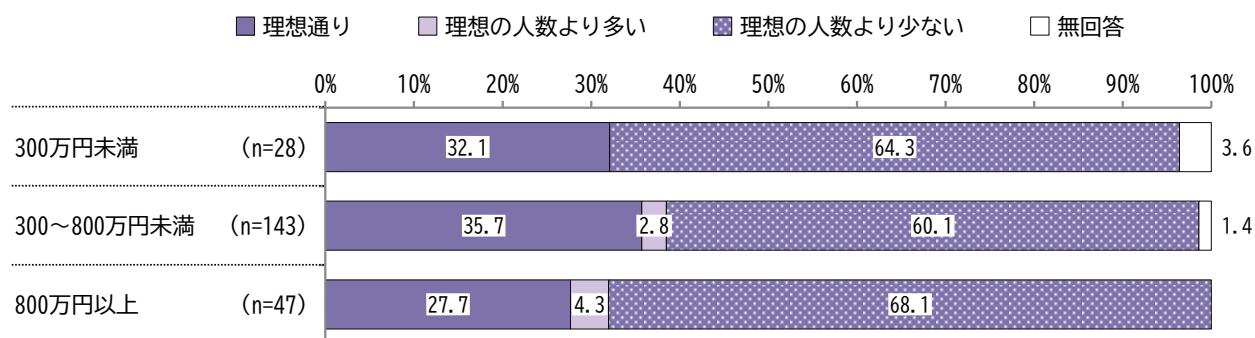


理想とする子どもの人数と実際の子どもの人数のギャップについて、「理想通り」との回答が32.5%、「理想の人数より多い」との回答が(2.4%)、「理想の人数より少ない」との回答が(63.1%)となっている。

性別にみると、「理想の人数より少ない」との回答は女性(65.7%)が男性(60.0%)を5.7ポイント上回っている。

年齢別にみると、「理想の人数より少ない」との回答は25歳～29歳で約8割と高くなっている。

【理想とする子どもの人数と実際の子どもの人数のギャップ(問13×問18) 世帯年収別】

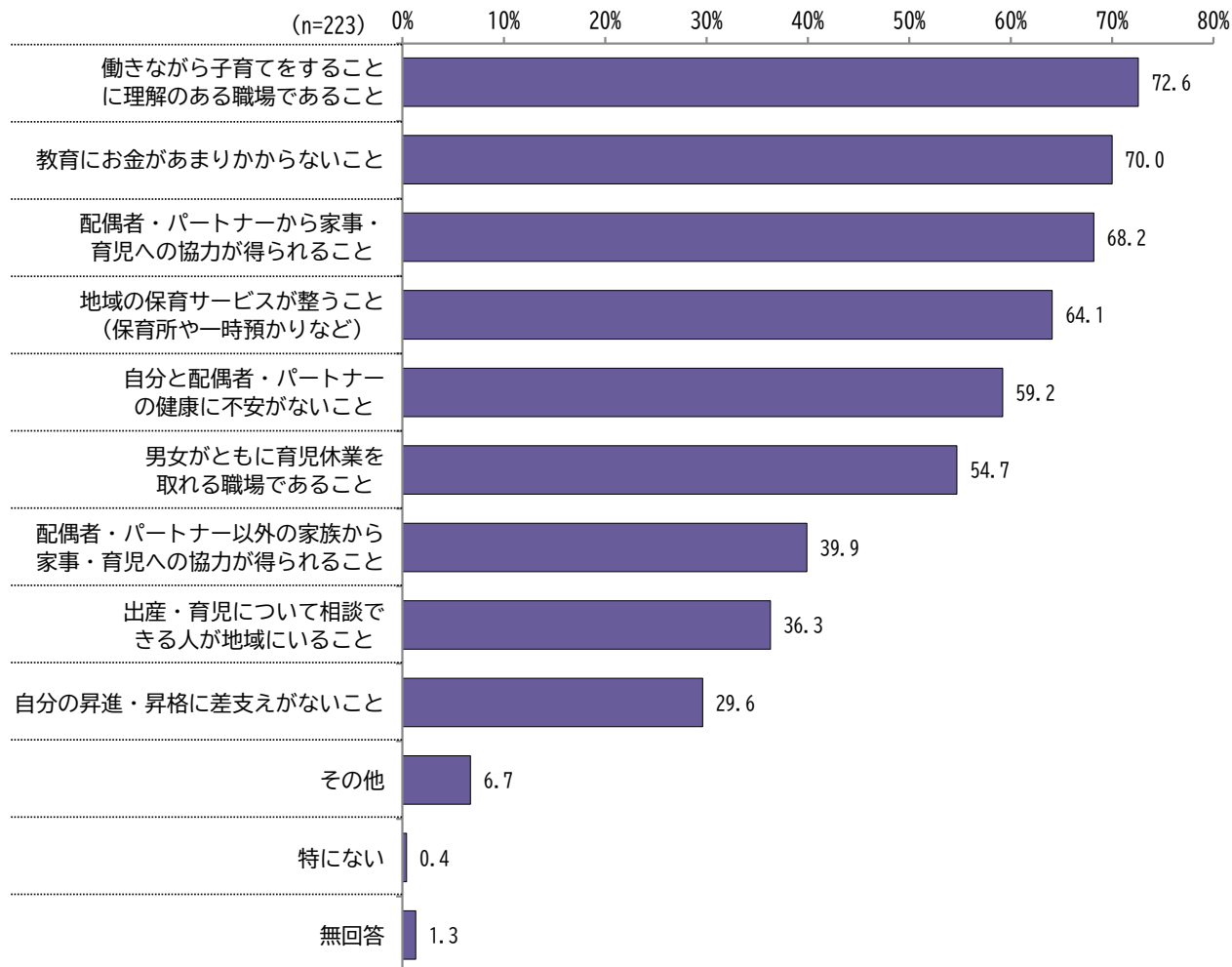


世帯年収別にみると、「理想の人数より少ない」との回答はどの世帯年収でも6割以上となっている。

問18で「1～4(子どもがほしい)」を選んだ方におたずねします。

問 19 あなたが子どもを持つ場合の条件としてどのようなことが考えられますか。(〇はいくつでも)

【全体】



子どもを持つ場合の条件について、「働きながら子育てをすることに理解のある職場であること」との回答が72.6%と最も高く、次いで「教育にお金がかかりすぎないこと」(70.0%)、「配偶者・パートナーから家事・育児への協力が得られること」(68.2%)などの順となっている。

【子どもを持つ場合の条件 性別・年齢別(上位9位)】

(%)

		n 数	自分の昇進・昇格に差支えないこと	出産・育児について相談できる人が地域にいること	配偶者・パートナー以外の家族から家事・育児への協力が得られること	男女がともに育児休業を取れる職場であること	自分と配偶者・パートナーの健康に不安がないこと	地域の保育サービスが整うこと（保育所や一時預かりなど）	配偶者・パートナーから家事・育児への協力が得られないこと	教育にお金がかからないこと	働しながら子育てをすることに理解のある職場であること
全 体		223	29.6	36.3	39.9	54.7	59.2	64.1	68.2	70.0	72.6
性別	男性	92	33.7	30.4	33.7	58.7	57.6	64.1	56.5	78.3	64.1
	女性	130	26.9	40.8	43.8	51.5	60.0	63.8	76.2	63.8	78.5
年齢別	20歳～24歳	21	33.3	52.4	47.6	66.7	52.4	47.6	76.2	61.9	66.7
	25歳～29歳	47	27.7	44.7	34.0	66.0	55.3	72.3	76.6	80.9	74.5
	30歳～34歳	57	33.3	29.8	31.6	57.9	59.6	66.7	59.6	70.2	71.9
	35歳～39歳	96	28.1	33.3	45.8	45.8	61.5	61.5	67.7	66.7	72.9

1位 2位 3位

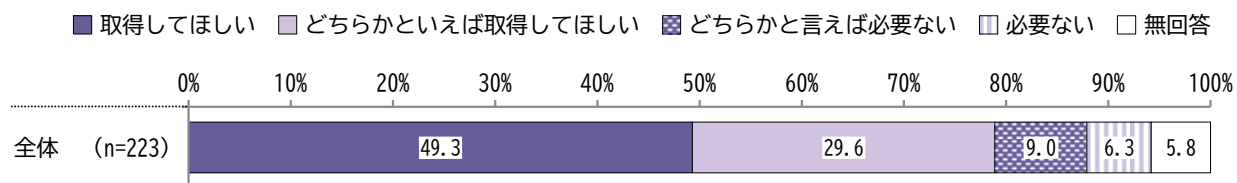
性別にみると、「教育にお金がかからないこと」との回答は男性（78.3%）が女性（63.8%）を14.5ポイント上回っており、「配偶者・パートナーから家事・育児への協力が得られること」との回答は男性（56.5%）が女性（76.2%）を19.7ポイント下回っている。

年齢別にみると、「男女がともに育児休業を取れる職場であること」との回答は20歳～24歳、25歳～29歳で6割台半ばと高くなっている。

問18で「1～4(子どもがほしい)」を選んだ方におたずねします。

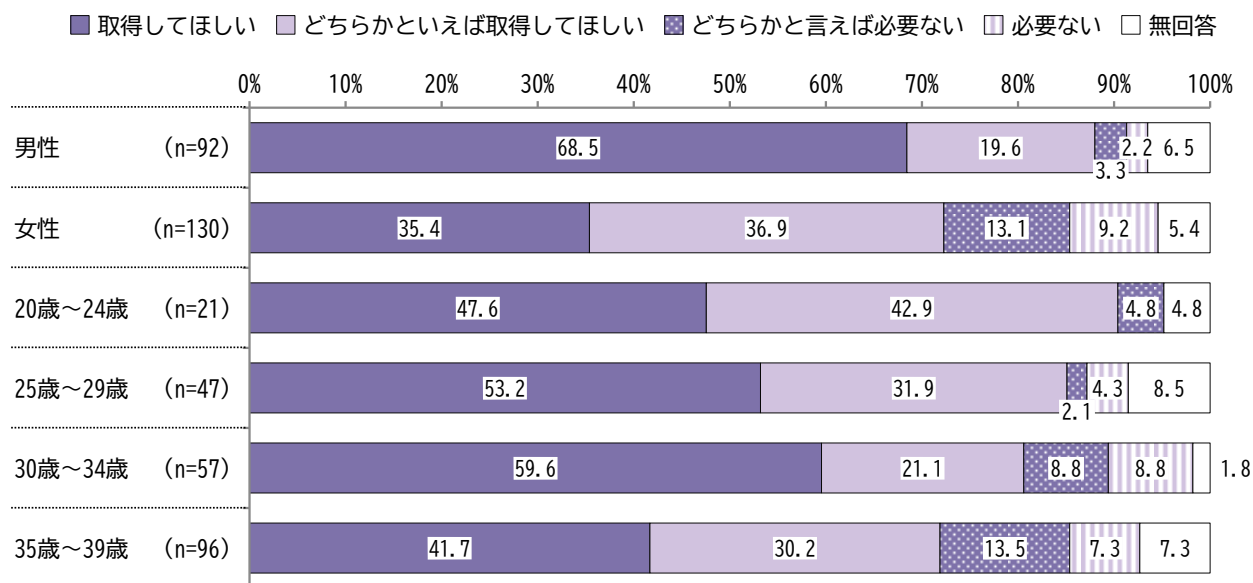
問 20 あなたは自分の配偶者・パートナーに育児休業を取得してほしいと思いますか。(○は1つ)

【全体】



自分の配偶者・パートナーに育児休業を取得してほしいかについて、『取得してほしい（「取得してほしい」＋「どちらかといえば取得してほしい」）』（78.9%）、『必要ない（「必要ない」＋「どちらかといえば必要ない」）』（15.3%）となっている。

【配偶者・パートナーに育児休業を取得してほしいか 性別・年齢別】



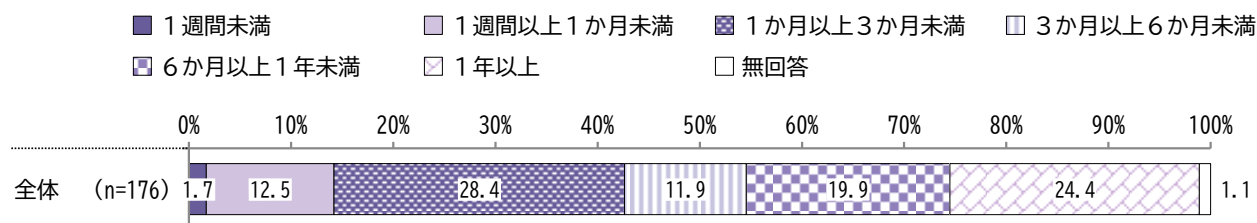
性別にみると、『取得してほしい』との回答は男性（88.1%）が女性（72.3%）を15.8ポイント上回っている。

年齢別にみると、『取得してほしい』との回答は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

問20で「1～2(育児休業を取得してほしい)」を選んだ方におたずねします。

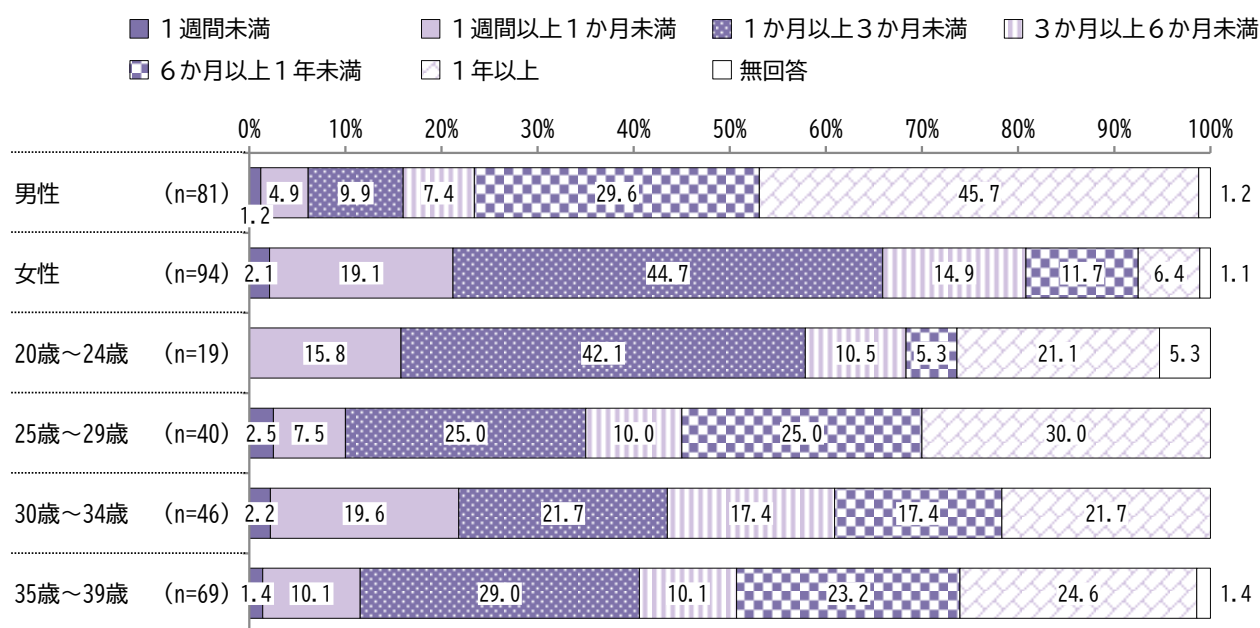
問 21 どれくらいの期間取得してほしいと思いますか。(〇は1つ)

【全体】



育児休業を取得してほしい期間について、「1か月以上3か月未満」との回答が28.4%と最も高く、次いで「1年以上」(24.4%)、「6か月以上1年未満」(19.9%)などの順となっている。

【育児休業を取得してほしい期間 性別・年齢別】

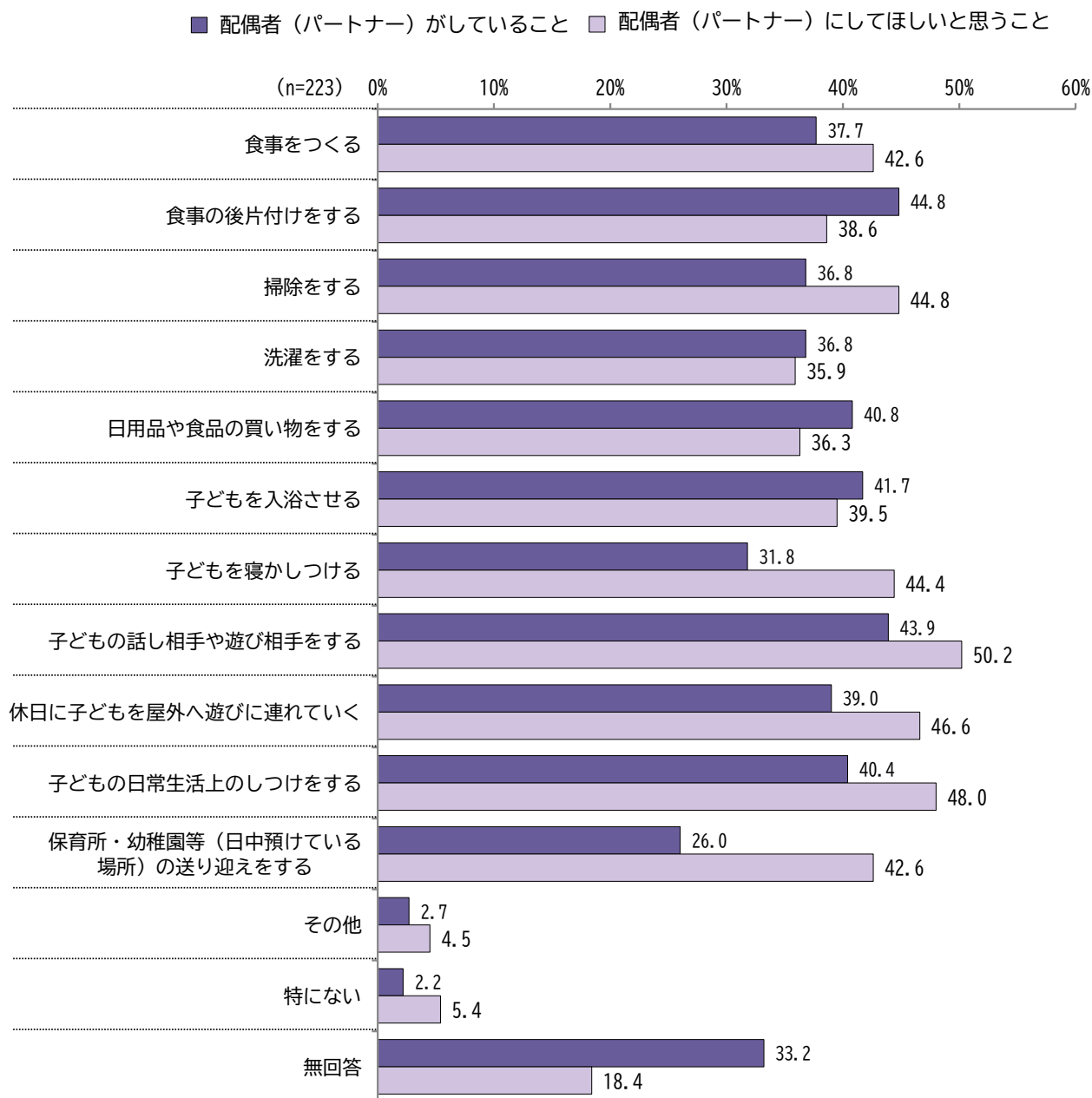


性別にみると、「1年以上」との回答は男性(45.7%)が女性(6.4%)を39.3ポイント上回っており、「1か月以上3か月未満」との回答は女性(44.7%)が男性(9.9%)を34.8ポイント上回っている。年齢別にみると、「1か月以上3か月未満」との回答は20歳～24歳で4割以上と高くなっている。

問18で「1～4(子どもがほしい)」を選んだ方におたずねします。

問 22 あなたのご家庭で配偶者(パートナー)がしていることと配偶者(パートナー)にしてほしいと思うことは何ですか。(○はそれぞれいくつでも)

【全体】



家庭で配偶者がすることについて、配偶者がしていることでは「食事の後片付けをする」との回答が44.8%と最も高く、次いで「子どもの話し相手や遊び相手をする」(43.9%)、「子どもを入浴させる」(41.7%)などの順となっている。

配偶者にしてほしいと思うことでは「子どもの話し相手や遊び相手をする」との回答が50.2%と最も高く、次いで「子どもの日常生活上のしつけをする」(48.0%)、「休日に子どもを屋外へ遊びに連れていく」(46.6%)などの順となっている。

① 配偶者(パートナー)がしていること

【配偶者(パートナー)がしていること 性別・年齢別(上位11位)】

		n数	食事の後片付けをする	子どもの話し相手や遊び相手をする	子どもを入浴させる	日用品や食品の買い物を	子どもの日常生活上のしつけをする	休日に子どもを屋外へ遊びに連れていく	食事をつくる	掃除をする	洗濯をする	子どもを寝かしつける	中・保育所・幼稚園等(日送り迎えている場所)の
全 体		223	44.8	43.9	41.7	40.8	40.4	39.0	37.7	36.8	36.8	31.8	26.0
性別	男性	92	46.7	42.4	44.6	50.0	41.3	30.4	52.2	43.5	40.2	41.3	38.0
	女性	130	43.8	45.4	40.0	34.6	40.0	45.4	27.7	32.3	34.6	25.4	17.7
年齢別	20歳～24歳	21	14.3	4.8	4.8	19.0	4.8	4.8	19.0	4.8	9.5	4.8	4.8
	25歳～29歳	47	29.8	25.5	23.4	29.8	21.3	19.1	23.4	31.9	25.5	14.9	10.6
	30歳～34歳	57	43.9	42.1	50.9	47.4	40.4	38.6	42.1	36.8	36.8	40.4	29.8
	35歳～39歳	96	60.4	62.5	53.1	47.9	57.3	56.3	46.9	46.9	49.0	40.6	36.5

1位 2位 3位

性別にみると、「食事をつくる」との回答は男性(52.2%)が女性(27.7%)を24.5ポイント上回っており、「休日に子どもを屋外へ遊びに連れていく」との回答は男性(30.4%)が女性(45.4%)を15.0ポイント下回っている。

年齢別にみると、「子どもの話し相手や遊び相手をする」との回答は35歳～39歳で6割超と高くなっている。

② 配偶者(パートナー)にしてほしいと思うこと

【配偶者(パートナー)にしてほしいと思うこと 性別・年齢別(上位11位)】

		n数	子どもの話し相手や遊び相手をする	子どもの日常生活上のしつけをする	休日に子どもを屋外へ遊びに連れていく	掃除をする	子どもを寝かしつける	食事をつくる	中・保育所・幼稚園等(日送り迎えている場所)の	子どもを入浴させる	食事の後片付けをする	日用品や食品の買い物を	洗濯をする
全 体		223	50.2	48.0	46.6	44.8	44.4	42.6	42.6	39.5	38.6	36.3	35.9
性別	男性	92	35.9	40.2	31.5	30.4	29.3	41.3	29.3	23.9	28.3	28.3	34.8
	女性	130	60.0	53.1	56.9	55.4	54.6	43.1	52.3	50.0	46.2	42.3	36.9
年齢別	20歳～24歳	21	76.2	61.9	57.1	57.1	61.9	52.4	42.9	52.4	47.6	47.6	47.6
	25歳～29歳	47	61.7	57.4	61.7	44.7	55.3	44.7	46.8	51.1	40.4	44.7	38.3
	30歳～34歳	57	42.1	49.1	42.1	50.9	36.8	36.8	45.6	33.3	43.9	33.3	33.3
	35歳～39歳	96	43.8	39.6	39.6	38.5	39.6	42.7	38.5	34.4	32.3	31.3	33.3

1位 2位 3位

性別にみると、「子どもを入浴させる」との回答は男性(23.9%)が女性(50.0%)を26.1ポイント下回っている。

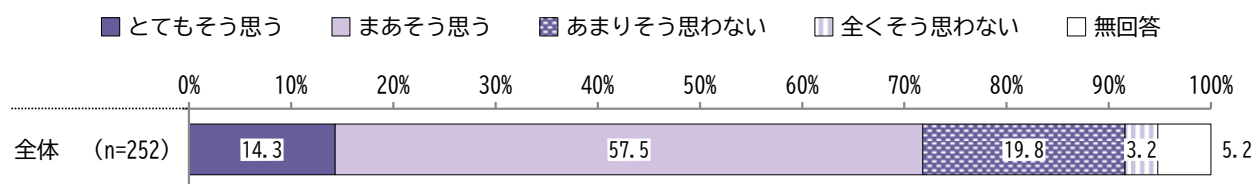
年齢別にみると、「子どもの話し相手や遊び相手をする」との回答は20歳～24歳、25歳～29歳で6割超から7割台半ばと高くなっている。

4 廿日市市の子育て環境について

すべての方におたずねします。

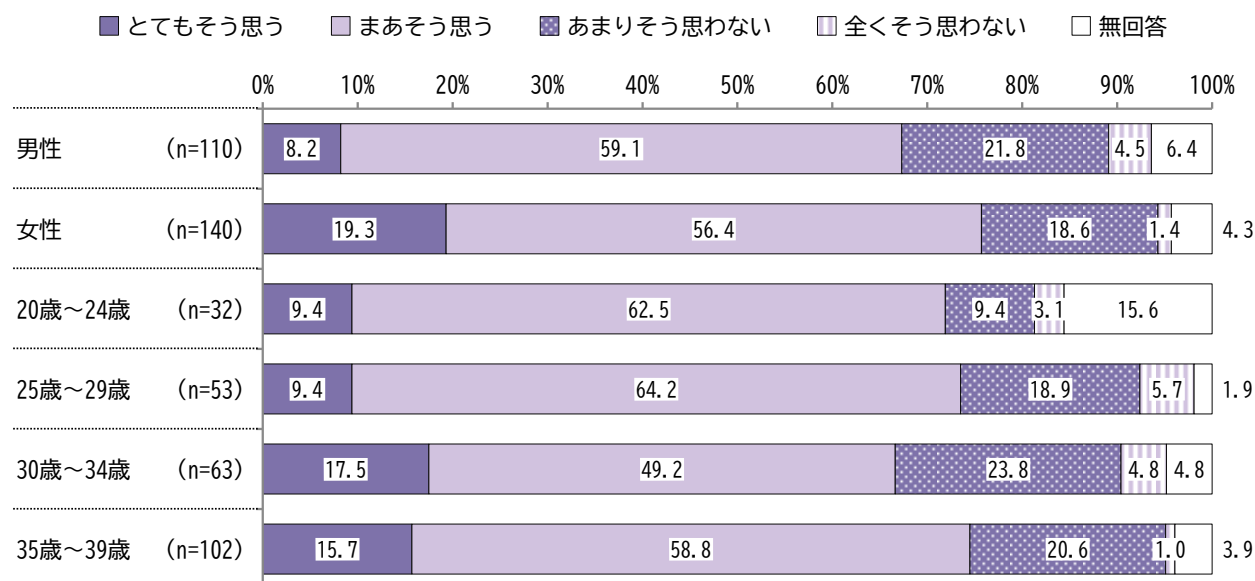
問 23 あなたは廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思いますか。(○は1つ)

【全体】



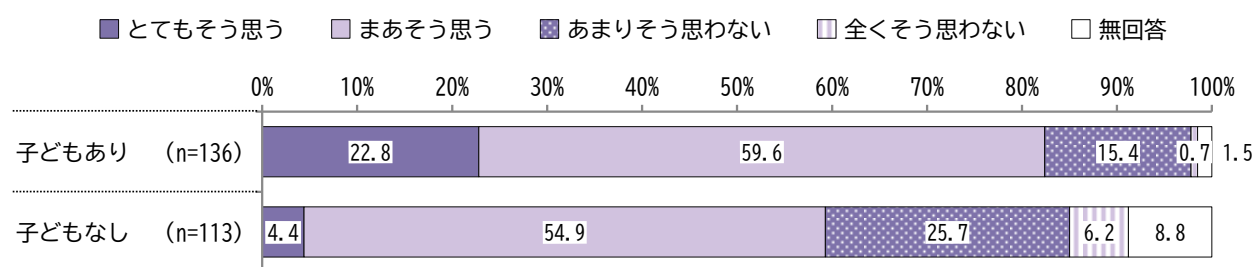
廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思うかについて、『そう思う(「とてもそう思う」+「まあそう思う」)』(71.8%)、『そう思わない(「全くそう思わない」+「あまりそう思わない」)』(23.0%)となっている。

【廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思うか 性別・年齢別】



性別にみると、『そう思う』との回答は男性(67.3%)が女性(75.7%)を8.4ポイント下回っている。年齢別にみると、『そう思う』との回答はすべての年代で6割台半ば以上と高くなっている。

【廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思うか 子どもの有無別】



子どもの有無別にみると、『そう思う』との回答は子どもあり（82.4%）が子どもなし（59.3%）を23.1ポイント上回っている。

問23で「1～2(そう思う)」を選んだ方におたずねします。

問 24 廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思う理由を教えてください。

① 施設や設備について

- 交通の利便性が良く、通勤・通学に不便がないから。(男性、25～29歳)
- 公園がたくさんある。屋外レジャーが充実している。(男性、35～39歳)
- 幼少期、利用していたあいプラザなど、子どもや子持ち世帯に優しい施設があり、市内の商業施設(ゆめタウン廿日市など)も充実していると思うから。(女性、20～24歳)
- 買い物する所がいくらでもある。(女性、25～29歳)
- 学校までのアクセスがよく、子供の数が多い。遊ぶ場所が多い(公園など)。(女性、35～39歳)
- 子供と利用する施設やスーパーが増えた。病院なども増えた。(女性、35～39歳)
- 発達についての相談機関が沢山あること。子どもとすごしやすい場所(公園、芝生、支援センター、キッズスペース)が充実していること。(女性、35～39歳)

② 制度やサービスについて

- 市外から転入して4年。子供が1才になる前でしたが、こども医療助成が手厚く子育てしやすいなと感じた。市のこども課、対応がとても良かった。(男性、35～39歳)
- 妊娠中から産前産後サポートセンターでお世話になって、守られていると感じることができた。子育てイベントもたくさんあって友達づくりもしやすかった。(女性、25～29歳)
- 保健師さんが連絡をくれることや、特例給付金などのシステムがあること。(女性、25～29歳)
- 医療費が未就学児は無料、それ以降は500円などの医療費補助がある。認可園の第一子乳児の保育料半額。(女性、30～34歳)
- 市民センターがそれぞれにあり、乳幼児向けの教室がたくさんあるため。低価格でもあるため参加しやすく、母親同士の交流の場ともなり、とてもありがたかったです。(女性、35～39歳)
- 地域のお祭や、子供が参加しやすい行事が多くある。医療費が安い。(女性、35～39歳)
- 子育て支援センターや子育てイベントが充実しており、子どもと2人で家にこもること無く過ごすことができる場所が色々ある。医療費の無償化。(女性、35～39歳)
- 子供が全員男の子で通院することが多く医療費控除の年齢対象が広くとても助かります。そういった金銭面の支援が一番このまちにずっと住みたいと思うポイントです。(女性、35～39歳)
- 保育園に入りやすかった。広島市内はもっと入りづらいと聞いたため。(女性、35～39歳)
- 児童館の子育てイベントは楽しいもの多くて、行ってみたいと思えるものが多い。第一子の保育料が半額になったことはとてもありがたいです。おかげで第二子の産後、ゆっくり体を休めさせてもらうことができました。(女性、35～39歳)

③ 周囲の姿勢やサポートについて

- 自分自身が住んでいる近所の方々にお子様が生まれて、ご両親が子育てに対して不安などを抱えていらっしゃった際に、周りの近所の方々が「私たちにできることなら何でも相談してね」とか優しい言葉がけをしていらっしゃる場面を見かけたことがあるのと、自分自身が幼い頃に近所の方々にたくさん助けられて育ったことを母親から聞いたことがあるから。(女性、20～24歳)
- 一時に比べて、暮らしている地域の「子供」を持つ家族が増えご近所さんとの関係が疎まれるといった風潮の中、高齢といわれる世代からちびっ子まで「あいさつ」をしてもらえるのはほっこりします。(女性、35～39歳)
- 朝の通学路や下校時間など、地域のみまもり隊の方が、歩道に出ているのでありがたい。(女性、35～39歳)
- 幼稚園や小学校など先生方がとても親切で子育てしやすい。(女性、35～39歳)

問23で「3～4(そう思わない)」を選んだ方におたずねします。

問 25 廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思わない理由を教えてください。

① 施設や設備について

- 近所の公園が汚い（草木の手入れがされておらず、ジャングルのようにになっている）。（男性、35～39歳）
- 子供（小学生など）ある程度大きくなった子が帰宅してからの遊び場が少ない。雨の日などに行ける場所がない。児童手当などの助成金が少ない。（女性、25～29歳）
- 子供が小さい頃はそうでもなかったんですが、大きくなると、子供たちの居場所がなくて困りました。特に最近猛暑などで、外で遊ぶことが難しい日もあり、でもお店に入ってはダメと学校から指導があったり…。うちはゲームをしない子たちだし、外が好きなのですが、周りの子たちが「最近の子はゲームばかり」と言われても仕方ないと思います。（女性、35～39歳）
- 夜間の小児受診できる病院がない。インフルエンザの予防接種にお金がかかる。車で移動することが多いが、駐車場や道がせまいところが多い。公園の草がのび放題になっていることが多い。保育園は多くあるように感じるが、今働いていないため子ども園の1号認定に申し込むが、子ども園の1号固定の募集人数が少ない。幼稚園に通うことになり、幼稚園は入園料など高い。3才になってからゆっくり働きたいと思うが、幼稚園となるとなかなか働き口がないのでは、と思う。（女性、35～39歳）
- 優しい所がありますかね…。とくべつ手当が出る地域でもないし、何かライフラインが安くなるわけでもない。交通が便利でもないし、バスや電車が安いわけでもない。何もない町。（女性、35～39歳）
- 学校の近く（徒歩圏内）に習い事ができる場が少ないと感じる。あるのかもしれないが、情報が無い。（女性、35～39歳）

② 制度やサービスについて

- 他の地域にくらべて、子育ての補助金が少ないと聞いたから。（男性、20～24歳）
- 情報が無いのもっと発信してほしい。（男性、25～29歳）
- ご近所でいうと和木町が住むのに優しいのかなと思います。子育て世帯への現金給付、保育料の無償化、就学援助制度、高等学校等就学支援金制度。もちろん環境づくりも大事ですけど、（廿日市は町としては凄く住みやすいです。）一番はお金が引がかかってくるのかなと感じます。（男性、30～34歳）
- 回答に矛盾して申し訳ないけど正直、子どもがいないからわからない。親、子どもに対してどのような政策を行っているのか市民に発信して欲しい。例えば、お金（税金）はかかるけど松本市長さんがTVCMに出演して他の市町村と対比し政策、取り組みに魅力を持てたらとか。TVは老若男女、皆見るから。（男性、30～34歳）
- 首都圏や広島市といった先進的な自治体と比較するとサービスは劣ると思います。（男性、35～39歳）

- 育休を取っているという人が周りに居ると聞いたことがない。(女性、20～24歳)
- 子育てしやすいとは聞くが、子どもがいないとどのような制度があるかよく分からない。制度などが分かっても、他の自治体と比較したことがないので恵まれているのか、普通のよくある制度なのか判断できない。(女性、25～29歳)
- なにをしているのか、わかっていない。(女性、30～34歳)
- 手当などは充実していて助かるが、大変な時に頼れる存在だったり、成長のことで気になることがあっても行政の範囲内でしか実現できておらず行きにくい。発達のことを相談しても次の検診まで様子見と言われたり結局、行政の範囲内の診断で親の不安は変わらないし、サポートしたと言うがサポートしたとは言えない。もっと民間の頼りやすい所や的確な助言をくれる所を紹介してもらえればと行きやすい。(女性、30～34歳)
- 子供に対しての養育費が他県や他市に比べてかかると思う。このように住民に意見を求めるのであれば、アンケートを取るだけで終わるのではなく、以前に比べて廿日市市が子育てに関してすばらしい対策、対応をしていると実感できるようにして頂きたい。そうでなければこのアンケートを取る時間もムダになってしまう。(女性、35～39歳)

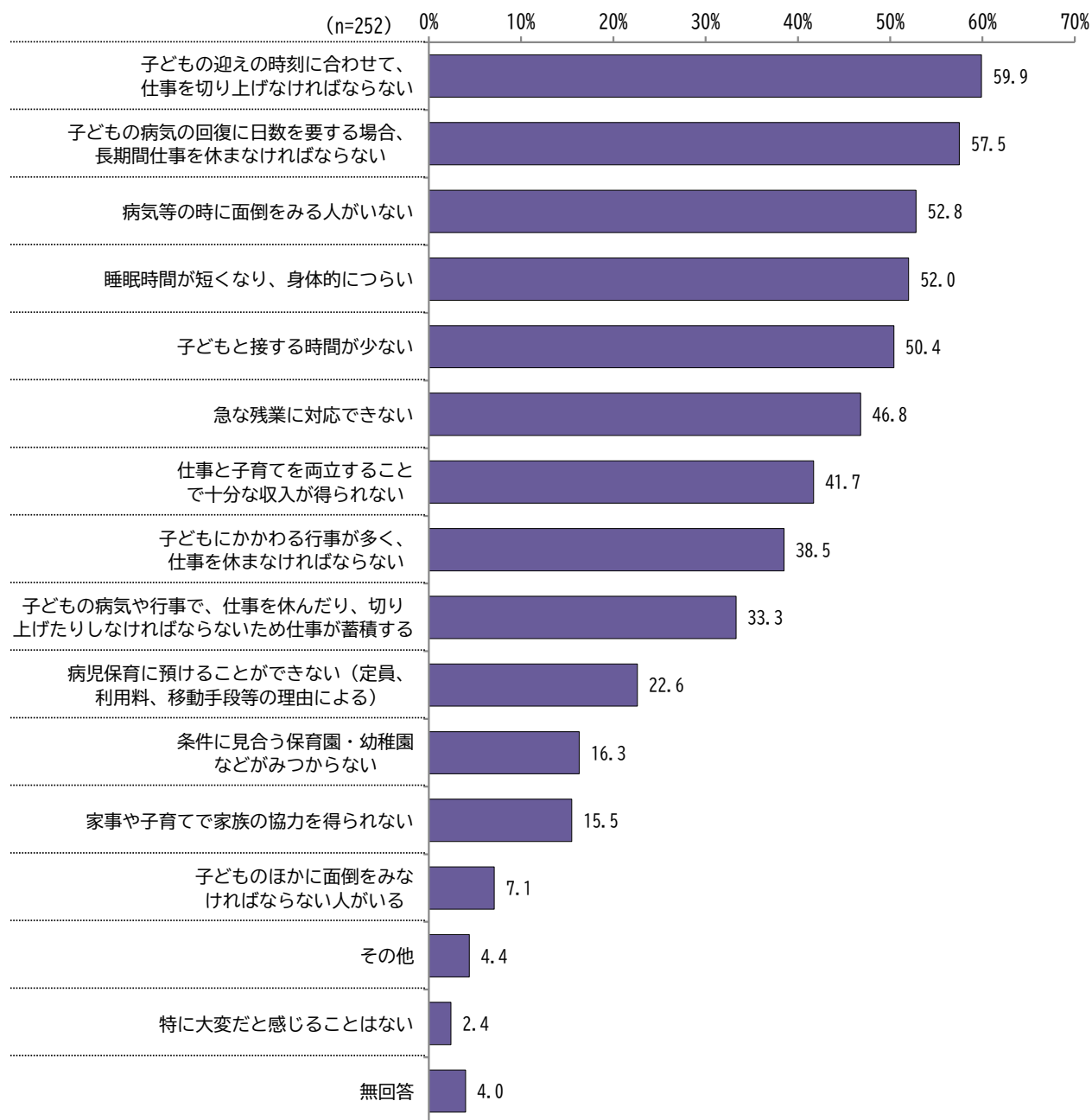
③ 周囲の姿勢やサポートについて

- 道交法無視のならず者ドライバー、サイクリストなどがはびこっており、安心して外出できないため。(男性、35～39歳)
- 子ども会、PTAを強制的にやらされる体制が変わらずに残っている。(女性、35～39歳)

すべての方におたずねします。

問 26 仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることは何ですか。(現在仕事をしていない方、また、子育てをしていない方は大変そうだと思うものを選択してください。)(〇はいくつでも)

【全体】



仕事と子育てを両立する上で大変なことについて、「子どもの迎えの時刻に合わせて、仕事を切り上げなければならない」との回答が59.9%と最も高く、次いで「子どもの病気の回復に日数を要する場合、長期間仕事を休まなければならない」(57.5%)、「病気等の時に面倒をみる人がいない」(52.8%)などの順となっている。

【仕事と子育てを両立する上で大変だと感じること 性別・年齢別(上位9位)】

(%)

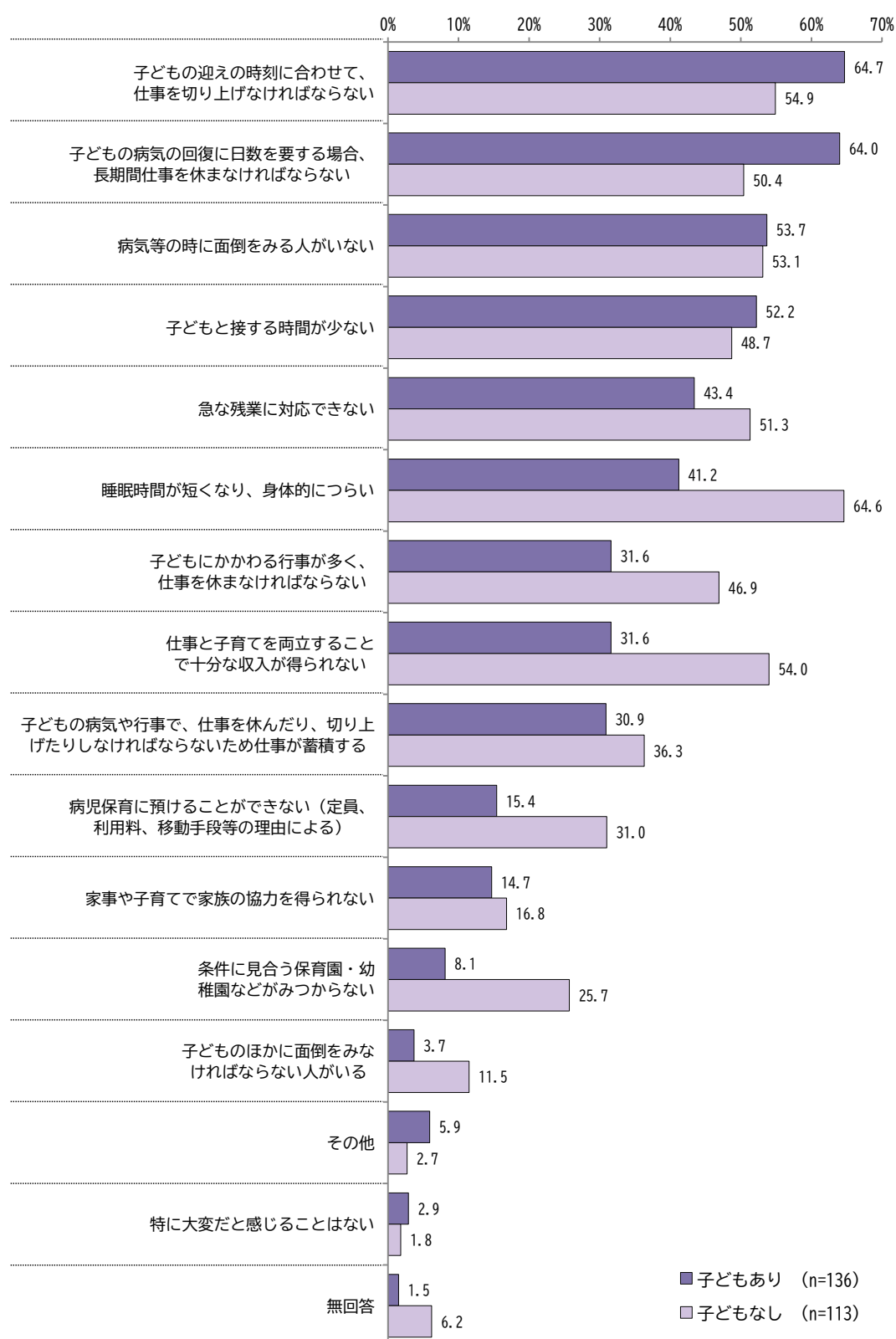
	n 数	子どもを切り上げなければならい	子どもの病気の回復に日数を要する	病気等の時に面倒をみる人がいない	睡眠時間が短くなり、身体的につ	子どもと接する時間が少ない	急な残業に対応できない	仕事と子育てを両立すること	仕事を休まなければならい	子どもにかかわる行事が多く、仕事を休まなければならい	なんでもの切り上げたり、蓄積する	子どもの病気や行事で、仕事を休
全 体	252	59.9	57.5	52.8	52.0	50.4	46.8	41.7	38.5	33.3		
性別 男性	110	50.9	47.3	42.7	48.2	49.1	40.9	33.6	43.6	34.5		
性別 女性	140	66.4	65.0	60.7	54.3	51.4	50.7	47.1	35.0	31.4		
年齢別 20歳～24歳	32	56.3	59.4	46.9	62.5	46.9	56.3	59.4	43.8	43.8		
25歳～29歳	53	52.8	30.2	45.3	60.4	47.2	39.6	45.3	34.0	22.6		
30歳～34歳	63	61.9	54.0	55.6	47.6	55.6	47.6	42.9	34.9	30.2		
35歳～39歳	102	64.7	73.5	56.9	47.1	51.0	47.1	33.3	41.2	37.3		

1位 2位 3位

性別にみると、「子どもにかかわる行事が多く、仕事を休まなければならない」との回答は男性(43.6%)が女性(35.0%)を8.6ポイント上回っており、「病気等の時に面倒をみる人がいない」との回答は男性(42.7%)が女性(60.7%)を18.0ポイント下回っている。

年齢別にみると、「子どもの病気の回復に日数を要する場合、長期間仕事を休まなければならない」との回答は35歳～39歳で7割台半ばと高くなっている。

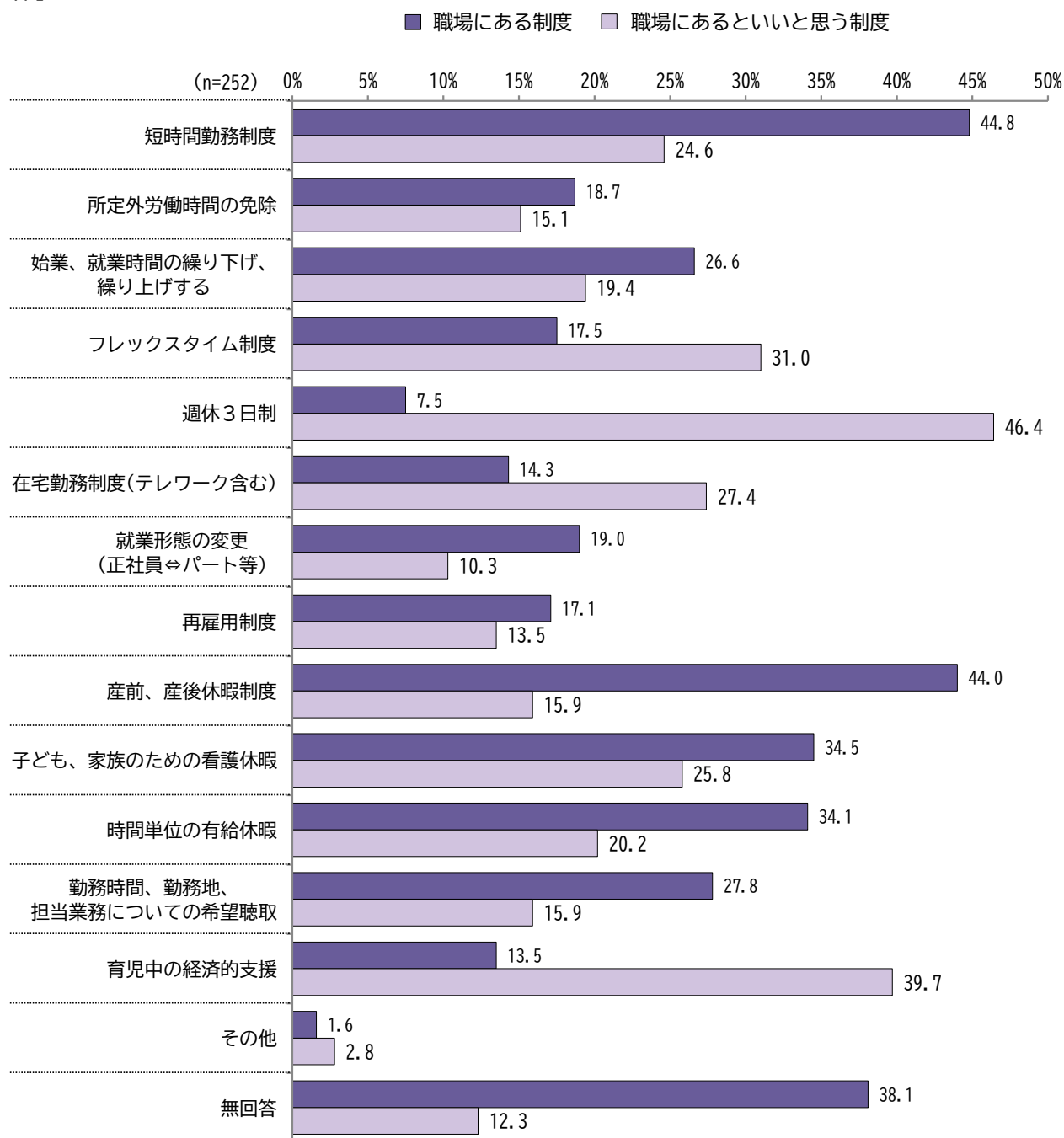
【仕事と子育てを両立する上で大変だと感じること 子どもの有無別】



子どもの有無別にみると、「子どもの病気の回復に日数を要する場合、長期間仕事を休まなければならない」との回答は子どもあり（64.0％）が子どもなし（50.4％）を 13.6 ポイント上回っており、「睡眠時間が短くなり、身体的につらい」との回答は子どもあり（41.2％）が子どもなし（64.6％）を 23.4 ポイント下回っている。

問 27 仕事と子育てを両立する上で職場に求める制度についてお尋ねします。(現在仕事をしていない方、また、子育てをしていない方は制度があると思う欄のみ選択してください。)

【全体】



仕事と子育てを両立する上で職場に求める制度について、職場にある制度では「短時間勤務制度」との回答が44.8%と最も高く、次いで「産前、産後休暇制度」(44.0%)、「子ども、家族のための看護休暇」(34.5%)などの順となっている。

職場にあると思う制度では「週休3日制」との回答が46.4%と最も高く、次いで「育児中の経済的支援」(39.7%)、「フレックスタイム制度」(31.0%)などの順となっている。

① 職場にあるといいと思う制度

【職場にあるといいと思う制度 性別・年齢別(上位11位)】

(%)

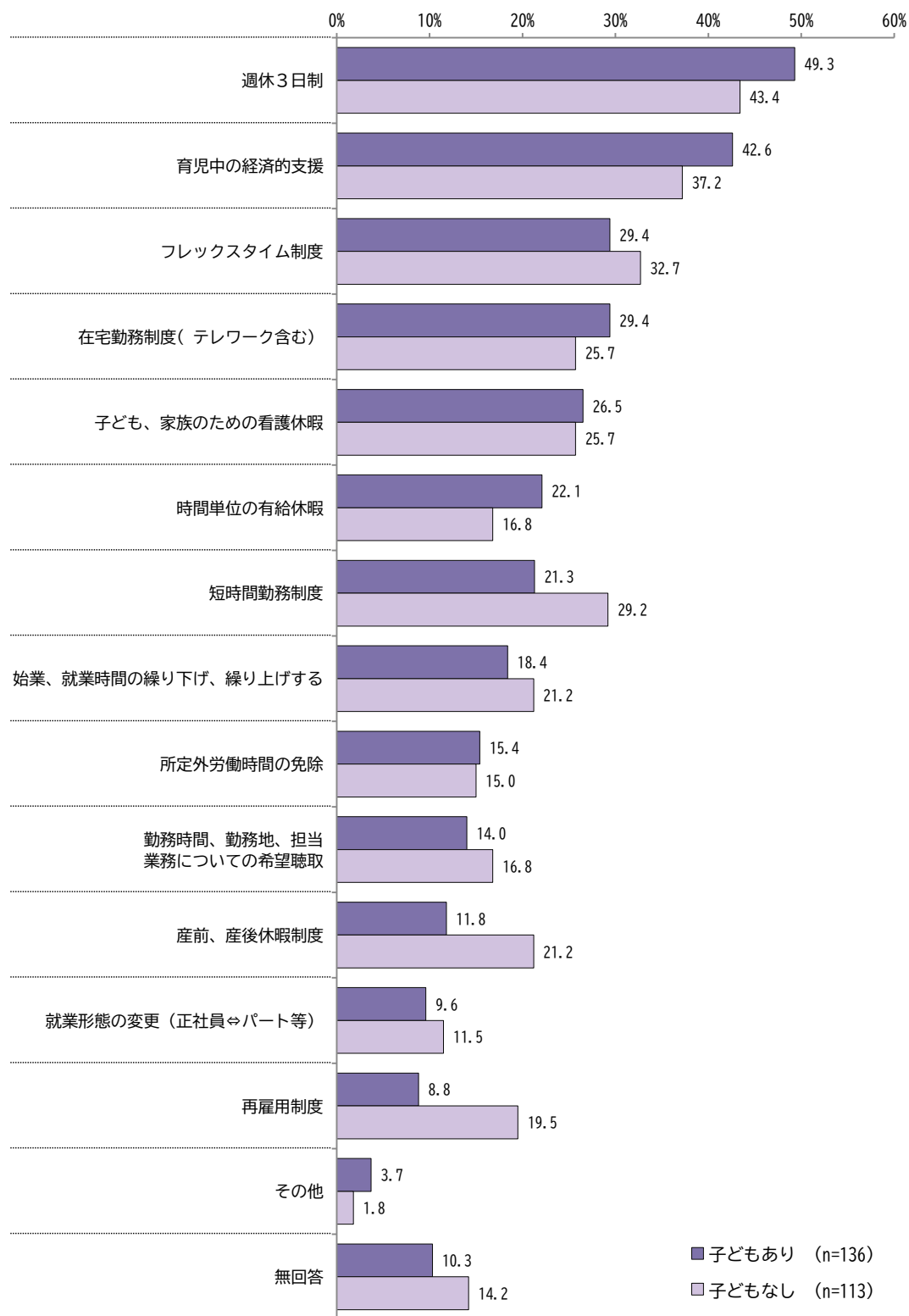
	n 数	週休3日制	育児中の経済的支援	フレックスタイトム制度	在宅勤務制度(テレワーク含む)	子ども、家族のための看護休暇	短時間勤務制度	時間単位の有給休暇	始業、繰り上げ時間の繰り下げ、繰り上げ時間の繰り	産前、産後休暇制度	聴取業務時間、勤務地の希望	所定外労働時間の免除
全 体	252	46.4	39.7	31.0	27.4	25.8	24.6	20.2	19.4	15.9	15.9	15.1
性別 男性	110	45.5	40.9	30.9	21.8	22.7	16.4	19.1	20.9	11.8	12.7	14.5
性別 女性	140	47.1	39.3	31.4	32.1	28.6	31.4	21.4	18.6	19.3	17.9	15.7
年齢別 20歳～24歳	32	34.4	43.8	31.3	25.0	21.9	37.5	15.6	25.0	25.0	18.8	12.5
年齢別 25歳～29歳	53	49.1	43.4	32.1	34.0	22.6	24.5	26.4	28.3	13.2	20.8	11.3
年齢別 30歳～34歳	63	54.0	38.1	34.9	27.0	23.8	22.2	19.0	17.5	17.5	14.3	19.0
年齢別 35歳～39歳	102	45.1	37.3	27.5	25.5	29.4	22.5	19.6	13.7	13.7	12.7	15.7

1位
 2位
 3位

性別にみると、「短時間勤務制度」との回答は男性（16.4%）が女性（31.4%）を15.0ポイント下回っている。

年齢別にみると、「時間単位の有給休暇」との回答は25歳～29歳で2割台半ばと高くなっている。

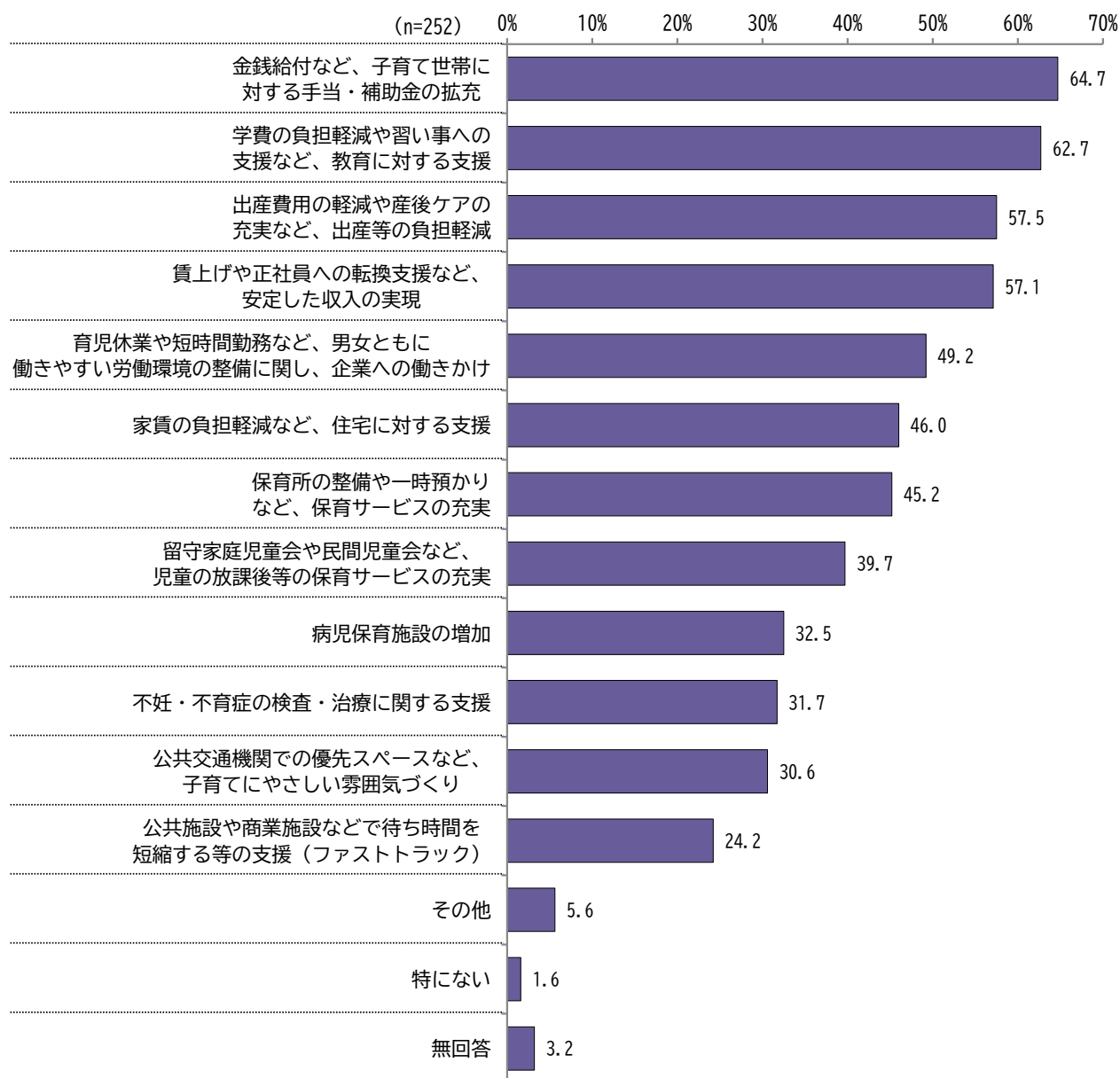
【職場にあるといいと思う制度 子どもの有無別】



子どもの有無別にみると、「週休3日制」との回答は子どもあり（49.3%）が子どもなし（43.4%）を5.9ポイント上回っており、「再雇用制度」との回答は子どもあり（8.8%）が子どもなし（19.5%）を10.7ポイント下回っている。

問 28 廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちになるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】



廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちになるために必要な取組について、「金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充」との回答が64.7%と最も高く、次いで「学費の負担軽減や習い事への支援など、教育に対する支援」(62.7%)、「出産費用の軽減や産後ケアの充実など、出産等の負担軽減」(57.5%)などの順となっている。

【廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちになるために必要な取組 性別・年齢別(上位9位)】

		n 数	金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充	学費の負担軽減や習い事への支援など、教育に対する支援	出産費用の軽減や産後ケアの充実など、出産等の負担軽減	賃上げや正社員への転換支援など、安定した収入の実現	整備に関し、企業への働きかけ	育児休業や短時間勤務など、男女ともに働きやすい労働環境の整備	家賃の負担軽減など、住宅に対する支援	保育所の整備や一時預かりなど、保育サービスの充実	留守家庭児童会や民間児童会など、児童の放課後等の保育サービスの充実	病児保育施設の増加
全 体		252	64.7	62.7	57.5	57.1	49.2	46.0	45.2	39.7	32.5	
性別	男性	110	64.5	60.0	59.1	58.2	43.6	50.0	43.6	37.3	31.8	
	女性	140	64.3	64.3	55.7	55.7	52.9	42.1	45.7	40.7	32.9	
年齢別	20歳～24歳	32	56.3	78.1	59.4	65.6	59.4	59.4	46.9	31.3	31.3	
	25歳～29歳	53	81.1	56.6	79.2	66.0	43.4	54.7	49.1	37.7	37.7	
	30歳～34歳	63	61.9	58.7	61.9	50.8	44.4	50.8	47.6	36.5	41.3	
	35歳～39歳	102	61.8	63.7	43.1	52.9	52.0	35.3	42.2	46.1	25.5	

1位 2位 3位

性別にみると、「家賃の負担軽減など、住宅に対する支援」との回答は男性（50.0％）が女性（42.1％）を7.9ポイント上回っており、「育児休業や短時間勤務など、男女ともに働きやすい労働環境の整備に関し、企業への働きかけ」との回答は男性（43.6％）が女性（52.9％）を9.3ポイント下回っている。

年齢別にみると、「金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充」との回答は25歳～29歳で8割超と高くなっている。

資料 調査票

I 男女共同参画に関する市民アンケート調査票

廿日市市 男女共同参画に関する市民アンケート

ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

廿日市市では、平成27年に「第2次廿日市市男女共同参画プラン」を策定し、性別にかかわらず誰もが互いの人権を尊重し、対等なパートナーとして協力し合い、あらゆる活動に自分の意思で参画することができる社会の実現をめざし、様々な施策を行っています。

このたびプランの期間が令和7年度で終了することに伴い、市民の皆様には男女共同参画に関する意識や問題点についてお考えを伺い、次期プラン策定のための基礎資料とさせていただくほか、今後の男女共同参画施策に生かすため、市内に在住する18歳以上の市民の皆様の中から2,000人を無作為に選ばせていただき、アンケートを実施いたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和6年10月

廿日市市長 松本 太郎

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 1 封筒の宛名のご本人がお答えください。病気や身体の不自由などの理由で記入が難しい場合は、家族や介護者の方などが、本人の意向を尊重して、無理のない範囲で代筆してください。
- 2 各設問ごとに、(○は1つ)(○はいくつでも)(○は3つまで)などの指定に従ってご回答をお願いします。
- 3 なお、答えたくない質問がありましたら、その質問については、ご回答いただかなくても構いません。
- 4 ご記入いただいた調査票は、**11月15日(金曜日)**までに、同封の返信用封筒に入れて、返送してください(切手は不要です)。インターネットで回答された方は調査票の返送は不要です。

※回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することはありません。

【調査のお問合せ先】

廿日市市 生活環境部 人権・市民生活課

〒738-8501

広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

電話:(0829)30-9136

FAX:(0829)31-0133

E-mail:

jinkenseikatsu@city.hatsukaichi.lg.jp

本調査はインターネットでの回答も可能です。

下記のURLを入力または二次元バーコードを読み取り、ログインIDとパスワードを入力のうえ回答してください。

https://src.webcas.net/form/pub/src1/342131_a

●ログインID【 ha0001 】

●パスワード【 penv5 】

※回答の重複を避けるための番号で個人を特定することはありません。



1 あなたご自身(宛名のご本人)のことについておたずねします

すべての方におたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。(自認する性別をお答えください。)(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|--------|-----------|

※この調査では、男女共同参画に関する意識や状況を把握・分析するために、性別欄を設けています。

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 18歳～24歳 | 2. 25歳～29歳 | 3. 30歳～34歳 | 4. 35歳～39歳 |
| 5. 40歳～44歳 | 6. 45歳～49歳 | 7. 50歳～54歳 | 8. 55歳～59歳 |
| 9. 60歳～64歳 | 10. 65歳～69歳 | 11. 70歳～74歳 | 12. 75歳以上 |

問3 あなたは結婚をしていますか。(事実婚を含む。)(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1. 結婚している | → 問5へ |
| 2. 結婚していないまたは、結婚したが、離別・死別した | |
| 3. 答えたくない | |

→ 問3で「1. 結婚している」を選んだ方におたずねします。

問4 あなたと配偶者(パートナー)は、共働き(パート・アルバイト等を含む)ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 共働きである | 2. 共働きではない |
|-----------|------------|

すべての方におたずねします。

問5 あなたの同居家族の構成をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 独り暮らし(単身世帯) | 2. あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし |
| 3. 親と子(二世世代世帯) | 4. 親と子と孫等(三世代以上同居) |
| 5. その他() | |

問6 あなたの同居家族の中に、次の方(あなた自身を含む)はいますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 小学校入学前の子ども | 2. 小学生の子ども |
| 3. 介護・介助を必要とする方 | 4. いずれもない |

問7 あなたのお住まいの地域をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 廿日市地域 | 2. 佐伯地域 | 3. 吉和地域 |
| 4. 大野地域 | 5. 宮島地域 | |

問8 あなたの職場は廿日市市内ですか。(○は1つ)

1. 廿日市市内 2. 廿日市市外

問9 あなたの職業をお答えください。(○は1つ)

自営業 (経営主又は共同経営者)	1. 農林水産業 2. 商工・サービス業 3. 自由業(開業医・弁護士等)	
自営業 (家族従業者)	4. 農林水産業 5. 商工・サービス業 6. 自由業(開業医・弁護士等)	
勤め人	7. 正社員・正職員 8. 公務員・団体職員 9. パート・アルバイト・派遣など 問10へ	付問「7」「8」と答えた方におたずねします。 あなたは管理職ですか。 1. 管理職である 2. 管理職ではない
その他	10. 内職・在宅就業 11. 家事専業 12. 学生 13. 無職 14. その他()	

問9で「9. パート・アルバイト・派遣など」と答えた方のみにおたずねします。

問10 あなたが非正規の職員・従業員として働いている理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 自分の都合の良い時間に働きたいから
 2. 家事・育児・介護等と両立しやすいから
 3. 家計の補助・学費等を得たいから
 4. 希望する条件の正規職員・従業員の仕事がないから
 5. 正規職員・従業員になりたいが就けないから
 6. 正社員になると責任が増したり、転勤や残業をしなければならないから
 7. その他()
 8. 答えたくない

2 子育て・教育についておたずねします

すべての方におたずねします。

問11 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。(○は1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
① 夫(男)は外で働き、妻(女)は家庭を守るのが望ましい(男は仕事、女は家庭(家事・育児など)という考え方)	1	2	3	4
② 「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方	1	2	3	4
③ 知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい	1	2	3	4
④ 体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない	1	2	3	4
⑤ 男性は女性より多く収入を得る必要がある	1	2	3	4

問12 あなたは、問11のような「男女の固定的な考え方」についてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 負担に思う | 2. どちらかといえば負担に思う |
| 3. どちらかといえば負担に思わない | 4. 負担に思わない |
| 5. わからない | |

問13 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○は1つずつ)

	女性の方がとても優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方がとても優遇されている	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
② 自治会やPTAなどの地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
③ 職場(仕事)の場では	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

※ 男女平等とは、性別に関わらず、平等に着任や権利や機会をわかちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味しています。

すべての方におたずねします。

問14 あなたは、子どもの育て方についてどのように思いますか。(○は1つずつ)

	そう 思う	どちら かとい えば そう 思う	ど ちら かとい えば そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ から ない
① 男女とも経済的自立ができるように育てる	1	2	3	4	5
② 男女とも家事ができるように育てる	1	2	3	4	5
③ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
④ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる	1	2	3	4	5

問15 男女共同参画社会を進めていくために、学校教育においてどのような取組が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 教職員へのジェンダー平等に関する意識啓発
2. ジェンダーによる悩みを抱える学生が相談しやすい環境の整備
3. ジェンダーに関する基礎的な知識と平等の重要性を学ぶための授業
4. ジェンダー平等に関する専門家による講演
5. ジェンダー問題や男女共同参画に関するテーマでのディスカッションやディベート
6. ジェンダーに関する映画やドキュメンタリーの鑑賞
7. ジェンダー平等を実現している企業や団体を訪問する現場体験学習
8. 男女共同参画の活動をしているNPOなどでのボランティア活動
9. その他()
10. いずれも必要ない

※ ジェンダーとは、生物的な性差ではなく、社会的・文化的な性差を指します。

3 男女の役割分担についておたずねします

すべての方におたずねします。

問16 あなたが家事(食事のしたくや掃除、洗濯など)、育児(子どもの食事・入浴の世話や送迎など)、介護(夫婦の親族の日常生活の世話など)に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。(〇は1つずつ)

		1時間未満	未 満 1 ～ 2 時間	未 満 2 ～ 3 時間	未 満 3 ～ 5 時間	5時間以上	家事などには 関わらない	該当しない
平日	家事	1	2	3	4	5	6	7
	育児	1	2	3	4	5	6	7
	介護	1	2	3	4	5	6	7
休日	家事	1	2	3	4	5	6	7
	育児	1	2	3	4	5	6	7
	介護	1	2	3	4	5	6	7

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問17 あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を主にどなたがおこなっていますか。
(〇は1つずつ)

	主 に 妻 の 役 割 で あ る	主 に 夫 の 役 割 で あ る	妻 と 夫 で ほ ぼ 半 々 で あ る	家 族 全 員 で 分 担 し て い る	特 に 決 ま っ て い な い	そ の 他
① 生活費を得る	1	2	3	4	5	6
② 日常の家事(食事のしたく・掃除・洗濯など)	1	2	3	4	5	6
③ 日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
④ 家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6
⑤ 子育て(育児・しつけなど)	1	2	3	4	5	6
⑥ 自治会など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問18 あなたは、家庭での家事・育児・介護の分担の満足度をどのように感じていますか。
(〇は1つ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらかといえば不満である | 4. 不満である |
| 5. その他() | |

すべての方におたずねします。

問19 「仕事」、「家庭や地域生活」、「個人の生活」のバランスについて、あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つ)

①希望	1. 「仕事」を優先したい 2. 「家庭や地域生活」を優先したい 3. 「個人の生活」を優先したい 4. 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先したい 5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい 6. 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先したい 7. 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい 8. わからない
②現実(現状)	1. 「仕事」を優先している 2. 「家庭や地域生活」を優先している 3. 「個人の生活」を優先している 4. 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先している 5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している 6. 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先している 7. 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先している 8. わからない

問20 今後、男性と女性が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 夫婦や家族間でよく話し合うこと 2. 職場の理解を促進すること 3. 「男は仕事、女は家庭」という意識を改めること 4. 男性が家事・育児等に参加することに対する男女双方の抵抗感をなくすこと 5. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての考え方を尊重すること 6. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、評価を高めること 7. 労働時間短縮や育児・介護等の休暇制度を普及すること 8. テレワークなどを活用した多様な働き方を普及すること 9. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと 10. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること 11. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)づくりを進めること 12. 家庭や地域活動と仕事の両立等について、男性が相談しやすい窓口を設けること 13. その他()
--

4 仕事・職場についておたずねします

すべての方におたずねします。

問21 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか(学生のアルバイトは除く)。(○は1つ)

※病気や出産・育児、家族の介護などで一時休業している場合も、仕事をしていることに含まれます。

- 1. 現在、仕事をしている
- 2. 以前、仕事をしていたが現在はしていない
- 3. 今まで仕事をしたことがない

問26へ

問21で「1～2(仕事をしていたことがある)」と答えた方のみにおたずねします。

問22 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のような男女間の格差がありますか(又は、ありましたか)。(○はいくつでも)

- 1. 募集や採用の面で男女に差がある
- 2. 賃金や昇給(昇進)の面で男女に差がある
- 3. 配属場所が限られている
- 4. 女性の仕事は補助的業務や雑用が多い
- 5. 男性の仕事は負担の多い業務が多い
- 6. 職場での研修や研究の機会に男女の差がある
- 7. 女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある
- 8. 男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある
- 9. その他()

10. 特にない 問24へ

問22で「1～9(職場で男女間の格差がある)」と答えた方のみにおたずねします。

問23 あなたは、そのような男女間の格差があることに対して、どのように思いますか。

(○は1つ)

- 1. 大いに不満であり、改善すべきである
- 2. やや不満であり、改善すべきである
- 3. 現状に満足している
- 4. 男女間に格差があるのは、仕方がないことである
- 5. その他()
- 6. 特に何も感じない(何も感じなかった)

問21で「1～2(仕事をしていたことがある)」と答えた方のみにおたずねします。

問24 あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(○は1つずつ)

① 育 児 休 業 ※ 1	1. 取得したことがある 2. 制度がなかったため、取得できなかった 3. 制度はあったが、取得できなかった 4. これまでは取得する必要がなかったが、子どもが生まれたら取得したい 5. これまでも取得しておらず、今後も取得しようとは思わない
② 介 護 休 業 ※ 2	1. 取得したことがある 2. 制度がなかったため、取得できなかった 3. 制度はあったが、取得できなかった 4. これまでは取得する必要がなかったが、家族に介護が必要となれば取得したい 5. これまでも取得しておらず、今後も取得しようとは思わない

※1 原則として1歳に満たない子を養育するための休業制度

※2 2週間以上の期間、常時介護を必要とする状態にある家族を介護するための休業制度(通算 93 日まで)

問21で「1～2(仕事をしていたことがある)」と答えた方のみにおたずねします。

問25 育児休業や介護休業を取得するうえで課題となることは何ですか。(○はいくつでも)

1. 休業期間中の代替要員が確保できない 2. 休業を取得することで、まわりの人の業務負担が多くなる 3. 代替要員では自分の業務が務まらない 4. 制度を利用しやすい雰囲気ではない 5. 休業中の賃金が不安定 6. 復職時に技術・能力が低下している不安がある 7. 昇給・昇格に影響がある 8. その他() 9. 特に課題はない
--

すべての方におたずねします。

問26 あなたは、女性が仕事をするることについて、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
2. 子どもができたら仕事をやめ、成長したら再び仕事をする方がよい
3. 子どもができるまでは仕事をする方がよい
4. 結婚するまでは仕事をする方がよい
5. 女性は仕事をしない方がよい
6. 個人の考え方次第で判断すればよい
7. その他()
8. わからない

問27 男女を問わず、結婚、育児、介護などにより仕事をやめた場合、再び仕事をしやすくなるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 再就職を支援するセミナーや職業訓練の機会の充実
2. 求職者と求人企業のマッチングサービスの充実
3. 企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること
4. 男女双方の長時間労働の改善
5. 短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実
6. 家事・保育支援サービスの充実
7. 介護サービスの充実
8. 男女を問わずに全ての人が働くことへの家族や周囲の理解・協力
9. 再就職を応援する社会全体の意識
10. 趣味や家事スキルを生かせる仕事や創業に関するセミナーや情報の充実
11. 同じ立場の方々の情報交換や交流の場があること
12. その他()

問28 あなたは、最近3年ぐらいの間に、次の各種ハラスメント行為について経験したり、身近で見聞きたりしたことがありますか。(〇はそれぞれいくつでも)

「用語の解説」もお読みください。	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がいる	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある(与えたかもしれない)	被害を受けたり、与えたりしたことはない(見聞きたことはない)
① セクシュアルハラスメント(セクハラ)	1	2	3	4	5
② パワーハラスメント(パワハラ)	1	2	3	4	5
③ マタニティハラスメント(マタハラ)	1	2	3	4	5

用語の解説



調査票に出てくるこの言葉の意味は？



■ ① セクシュアルハラスメント(セクハラ)とは

- ・相手の望まない性的な言動のこと(性的嫌がらせ)。相手は異性に限らず、同性同士でも起こる場合があります。
- ・セクシュアルハラスメントは「男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)」の規定により、企業等に対して、その防止措置が義務化されています。

■ ② パワーハラスメント(パワハラ)とは

- ・職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力(パワー)を利用して、精神的、身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。ただし、業務上必要な指示や注意、指導などはパワハラにはあたりません。
- ・パワーハラスメントは「労働施策総合推進法(労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律)」の規定により、企業等に対して、その防止措置が義務化されています。

■ ③ マタニティハラスメント(マタハラ)とは

- ・職場などにおいて、働く女性が妊娠や出産を理由に精神的、肉体的な苦痛を受ける嫌がらせ行為のこと。妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更などもマタハラにあたります。
- ・マタニティハラスメントは「男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)」の規定により、企業等に対して、その防止措置が義務化されています。

問29 あなたは、男女が共に働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 家事や育児、介護などに協力して取り組む
2. 残業を減らす・労働時間を短縮する
3. 育児休業や介護休業を利用しやすくする
4. 育児・介護休業中の給付金の充実
5. 経営者や管理職の意識改革
6. 保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする
7. 職場での男女の採用や昇進、賃金などの格差をなくす
8. パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる
9. 女性が働くことへの理解が広まるよう啓発する
10. 職場でのハラスメント(嫌がらせ)をなくす取組を強化する
11. その他()
12. 特にない

5 地域活動についておたずねします

すべての方におたずねします。

問30 あなたは、町内会・自治会、コミュニティ、PTA活動などの地域活動の役員をしたことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1. したことがある | 2. したことがない |
|------------|------------|

問31 性別にかかわらず誰もが、地域活動に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 若い世代の人の意見を聞くなど誰でも参加しやすい雰囲気をつくる
2. 会議などの開催時刻の配慮や会議の時間・回数の短縮を図る
3. 誰もが発言しやすい雰囲気づくりをする
4. 男女が共に参画し協力し合える内容にする
5. 会議に子どもと一緒に参加できるようにする
6. 家族や周囲の理解を促進する
7. 男女の役割の同定化(男性は草刈り、女性は炊き出しなど)をなくし、各自が得意分野で活動できるようにする
8. 女性のリーダーを育成する
9. 活動する上で必要な情報を提供する
10. 他地域の活動での好事例を周知する
11. その他()
12. 特に必要ない
13. わからない

問32 防災・災害復興対策においては、避難所での着替えや授乳の問題など、男女共同参画の視点が必要と言われています。今後、どのような取組を強化すべきだと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 地域の自主防災組織等への女性の参画を増やす
2. 市の防災会議や危機管理担当部署等への女性の参画を増やす
3. 日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする
4. 女性消防団員を確保、育成する
5. 地域における女性の防災リーダーを増やす
6. 避難所の運営に女性の参画を増やす
7. 女性部会など、女性だけで話せる場をつくる
8. その他()
9. 特にない

6 ドメスティック・バイオレンス※3についておたずねします

すべての方におたずねします。

問33 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる、次のような行為をしたこと、されたことがありますか。(〇は1つつ)

	したことがある	した・された両方ある	されたことがある	経験はない
① 外出や人との付き合いを監視し又は、制限する	1	2	3	4
② なぐる振りなどをして、おどす	1	2	3	4
③ なぐる、蹴るなどの暴力を振るう	1	2	3	4
④ 命の危険を感じるほどの暴力を振るう	1	2	3	4
⑤ ののしる、大声でどなる	1	2	3	4
⑥ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4
⑦ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3	4
⑧ 生活費を渡さない、外で働くことを妨害する	1	2	3	4

※3 ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、夫婦や恋人などの親密な関係にある(あった)パートナーからふるわれる暴力のこと。

- (1) 身体的暴力(殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張るなど)
- (2) 精神的暴力(大声でどなる、無視する、大切にしているものを壊すなど)
- (3) 経済的暴力(生活費を渡さない、外で働くことを邪魔するなど)
- (4) 性的暴力(性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要するなど)
- (5) 社会的隔離(勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限するなど)
- (6) 子どもを巻き込んだ暴力(子どもの前で暴力をふるう、ばかにするなど)

問34 行政の相談窓口にどのような配慮があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 相談窓口の周知を行う
2. 同性の相談員に相談できるようにする
3. 匿名で相談ができるようにする
4. オンラインでの相談ができるようにする
5. 夜間や休日の緊急対応を充実させる
6. 個室の相談室を整備する
7. 法律や医療の専門相談を受けられるようにする
8. その他()
9. 特にない

7 性の多様性についておたずねします

すべての方におたずねします。

問35 あなたの身近な人(家族や友人、知人)から性的マイノリティであると打ち明けられたとき、受け入れられますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 受け入れられる | 2. 驚くがすぐに受け入れられる |
| 3. 時間をかければ受け入れられる | 4. 仕方がないので受け入れる |
| 5. 受け入れられない | 6. わからない |

問36 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々も生活しやすくなるためにどのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 行政が市民等へ周知啓発を行う
2. 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する
3. 生徒や市民への対応を想定し、学校教員や行政職員への研修等を行う
4. 条例等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取組を明記する
5. 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
6. 書類等における性別欄の見直しを行う
7. 更衣室や制服など、性別での区別への配慮を行う
8. わからない
9. その他()

8 行政への要望についておたずねします

すべての方におたずねします。

問37 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は5つまで)

1. 男女共同参画の広報・啓発活動を充実する
2. 学校での男女共同参画についての教育を充実する
3. 社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する
4. 人権や個人の尊重についての啓発や情報提供を充実する
5. DV(※4)や虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める
6. 市が開催する委員会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
7. 女性を対象とした人材育成のための取組を進める
8. 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
9. ライフステージに応じた生涯にわたる健康づくりを進める
10. 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する
11. 結婚や子育てで、仕事を辞めた人への支援
12. 子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する
13. LGBT(Q+)など、多様な性に対する理解を促進する
14. その他()
15. 特にない

※4 DVについては、問 33(P12)の注釈を参照。

問38 あなたは、次にあげる用語の意味を知っていますか。(○は1つずつ)

	よく知っている	内容は知っている 少しは知っている	言葉(名称)は 知っている	全く知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3	4
② アンコンシャス・バイアス(固定的な性別役割分担意識)	1	2	3	4
③ 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3	4
④ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3	4
⑤ デートDV(恋人同士などの間で起こるドメスティック・バイオレンス)	1	2	3	4
⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	1	2	3	4
⑦ 「LGBT(Q+)」(エルジービーティーキュープラス)				
・L(レズビアン):女性の同性愛者 ・G(ゲイ):男性の同性愛者 ・B(バイセクシュアル):両性愛者 ・T(トランスジェンダー) :身体と心の性が一致しない人 ・Q(クエスチョニング、クィア) :自認する性が定まらない、わからない人などの総称 ・+:LGBTQ以外の性的マイノリティの人	1	2	3	4

あなたが、家庭や社会の中で感じている男女の役割や生活などについて男女共同参画の視点からご意見などご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

廿日市市 男女共同参画に関する事業所アンケート

ご協力をお願い

事業所の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

廿日市市では、平成27年に「第2次廿日市市男女共同参画プラン」を策定し、性別にかかわらず誰もが互いの人権を尊重し、対等なパートナーとして協力し合い、あらゆる活動に自分の意思で参画することができる社会の実現をめざし、様々な施策を行っています。

このたび第2次プランの期間が令和7年度で終了することに伴い、次期プラン策定のため、5年に1度の「男女共同参画に関する事業所アンケート」を実施いたします。

ここでいただいた状況や問題点を計画策定のための基礎資料とさせていただくほか、今後の男女共同参画の推進に活用していきます。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和6年10月

廿日市市長 松本 太郎

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 1 この調査票は、経営者(代表者)・支社(店)の責任者または人事・労務担当の方に記入をお願いします。当該事業所の状況をお答えください。
- 2 このアンケート調査は記名式ですが、事業所の情報は聞き取り調査が必要な場合にのみ利用させていただきます。市全体の状況調査を目的としていますので、結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ありのままをお答えください。
- 3 回答を選択肢から選ぶ質問は、当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○を付ける数や回答していただく方の条件は、質問文の指示にしたがってください。
- 4 回答が「その他」に当てはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 5 ご記入いただいた調査票は、**11月15日(金曜日)**までに、同封の返信用封筒に入れて、返送してください(切手は不要です)。インターネットで回答された場合は調査票の返送は不要です。

※回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することはありません。

【調査のお問合せ先】

廿日市市 生活環境部 人権・市民生活課

〒738-8501

広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

電話:(0829)30-9136

FAX:(0829)31-0133

E-mail:

jinkenseikatsu@city.hatsukaichi.lg.jp

本調査はインターネットでの回答も可能です。

下記のURLを入力または二次元バーコードを読み取り、ログインIDとパスワードを入力のうえ回答してください。

<https://src.webcas.net/form/pub/src1/342131.b>

●ログインID [hb0001]

●パスワード [7cbt2]

※回答の重複を避けるための番号で個人を特定することはありません。



最初に、事業所の名称などについておたずねします

すべての事業所におたずねします。

問1 次の①～⑨の項目について、それぞれお答えください。

※令和6年(2024年)10月1日現在のデータでお答えください。
10月1日での回答が困難な場合は、回答時点でのデータでも構いません。

10月1日での回答が困難な場合は、回答時点でのデータでも構いません。

①名称	
②所在地	
③電話番号	
④業種	1. 農業・林業・漁業 2. 建設業 3. 製造業 4. 運輸・通信業 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 6. 金融・保険業 7. 卸・小売業・飲食業 8. 不動産業 9. サービス業 10. その他()
⑤従業員数	_____ 人 （男 _____ 人、女 _____ 人） うち パート・臨時等（男 _____ 人、女 _____ 人）
⑥管理職人数	部長相当職 _____ 人（男 _____ 人、女 _____ 人） 課長相当職 _____ 人（男 _____ 人、女 _____ 人） 係長相当職 _____ 人（男 _____ 人、女 _____ 人）
⑦令和5年度 採用実績	_____ 人 新規採用：（男 _____ 人、女 _____ 人） 中途採用：（男 _____ 人、女 _____ 人）
⑧平均年齢	全体 _____ 歳 性別毎（男 _____ 歳、女 _____ 歳）
⑨平均勤続年数	全体 _____ 歳 性別毎（男 _____ 歳、女 _____ 歳）

雇用管理についておたずねします

問2 現在、あなたの事業所では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。①～⑩の項目について、それぞれお答えください。(○は1つずつ)

	女性の方が非常に 優遇されている	女性の方が 優遇されている	どちらかといえば 女性の方が	平等になっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が非常に 優遇されている
①募集や採用	1	2	3	4	5	
②賃金	1	2	3	4	5	
③人事考課・評価	1	2	3	4	5	
④昇進・昇格	1	2	3	4	5	
⑤幹部職員への登用	1	2	3	4	5	
⑥職務内容	1	2	3	4	5	
⑦教育訓練・研修	1	2	3	4	5	
⑧退職・解雇	1	2	3	4	5	
⑨福利厚生	1	2	3	4	5	
⑩有給休暇の取得	1	2	3	4	5	

非正規従業員を雇用している事業所におたずねします。

問3 非正規従業員を雇用しているのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1. 正規従業員を確保できないため
2. 正規従業員を重要業務に特化させるため
3. 専門的業務に対応するため
4. 即戦力・能力のある人材を確保するため
5. 景気変動に応じて雇用量を調整するため
6. 長い営業(操業)時間に対応するため
7. 1日、週の中の仕事の繋閉に対応するため
8. 臨時・季節的業務量の変化に対応するため
9. 賃金の節約のため
10. 賃金以外の労務コストの節約のため
11. 高年齢者の再雇用対策のため
12. 育児・介護休業の代替のため
13. その他()

女性の活躍の推進についておたずねします

すべての事業所におたずねします。

問4 あなたの事業所では、男女間の格差を解消するためにポジティブ・アクション(積極的改善措置)を何か行っていますか。(○は1つ)

- 1. 既に取り組んでいる
- 2. 今後取り組むこととしている
- 3. 今のところ取り組む予定はない

問6へ

豆

知

識



調査票に出てくるこの言葉の意味は？



- ポジティブ・アクション(積極的改善措置)とは
性別による固定的な役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に事実上生じている差があるとき、それを解消しようと企業が行う自主的かつ積極的な取組。

問4で「1. 既に取り組んでいる」を選んだ方におたずねします。

問5-1 その取組はどのような内容のものですか。(○はいくつでも)

- 1. 担当部署を定め、担当者・責任者を選任する等、事業所内の推進体制を整備している
- 2. 女性の能力発揮の状況や、能力を発揮するための問題点について調査・分析を行っている
- 3. 格差解消のための、具体的な取組について計画を策定している
- 4. 女性がいない、または少ない職務について、意欲と能力ある女性を積極的に採用している
- 5. 女性がいない、または少ない職務・役職に女性が従事するため、教育訓練や研修を積極的に実施している
- 6. 男性従業員に対し、女性の能力発揮の重要性についての啓発を行っている
- 7. 性別による評価を行うことがないよう、人事考課基準を明確に定めている
- 8. 体力面での個人差を補う器具、設備等を設置する等、働きやすい職場環境を整備している
- 9. 仕事と家庭との両立を支援する制度を導入している
- 10. 男女の役割分担意識に基づく慣行の見直し等、職場環境・風土を改善している
- 11. 継続して就業できるよう配置・転勤等を考慮している
- 12. その他()

問4で「1. 既に取り組んでいる」を選んだ方におたずねします。

問5-2 ポジティブ・アクションについて、最も力を入れている取組とその成果を具体的に教えてください。

例)企業説明会で女性の働き方やキャリアを紹介したところ、女性の応募が増えて、人材確保の幅が広がった。

問4で「2～3(現在取り組んでいない)」を選んだ方におたずねします。

問6 現在取り組んでいないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1. 日常の業務が忙しく対応する余裕がない
2. コストがかかる
3. 業績につながらない
4. 男性からの理解が得られない
5. 女性からの理解が得られない
6. 女性の職業意識が低いなど効果が期待できない
7. すでに女性が十分に活躍しているので、取り組む必要がない
8. ポジティブ・アクションの手法がわからない
9. 経営者(トップ)の意識が伴わない
10. 中間管理職や現場の管理職の意識が伴わない
11. その他()

すべての事業所におたずねします。

問7 どのような支援があればポジティブ・アクションに取り組みやすくなりますか。

(〇はいくつでも)

1. ポジティブ・アクションの実施方法を示したガイドラインの配布
2. ポジティブ・アクションに取り組む際の課題や疑問に対応する相談窓口の設置
3. 企業同士で情報交換や協力を行える場の提供
4. ポジティブ・アクションの成功事例の紹介
5. ポジティブ・アクションに取り組む企業の表彰制度の導入
6. ポジティブ・アクションに取り組むための補助金や助成金の提供
7. 支援アドバイザーの派遣
8. その他()
9. 特に必要な支援はない

問8 あなたの事業所では、現在と比べて、これから管理職や役員に女性を登用しようと思いますか。また、その理由もお答えください。(○は1つ)

1. 登用しようと思う
2. 登用しようとは思わない
3. その他()

(理由)

問9 あなたの事業所では、現在と比べて、これから女性を採用しようと思いますか。また、その理由もお答えください。(○は1つ)

1. 採用しようと思う
2. 採用しようとは思わない
3. その他()

(理由)

問10 女性の活躍を推進するとどのようなメリットがあると思いますか。(○はいくつでも)

1. 女性の職業意識や意欲が高まる
2. 有能な人材を採用・登用するチャンスが増える
3. 女性の勤続年数が伸びて熟練した従業員が増える
4. 競争力が高まり組織が活性化される
5. 人材の定着による育成コストが減少する
6. 女性の視点を生かすことにより生産性向上につながる
7. 人手不足が解消される
8. 企業イメージの向上
9. その他()
10. メリットはない

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についておたずねします

問11 過去5年間の育児休業の取得状況についてお答えください。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
育児休業 対象者	男	人	人	人	人	人
	女	人	人	人	人	人
育児休業 取得者	男	人	人	人	人	人
	女	人	人	人	人	人

問12 過去5年間で、介護を理由に休業や退職した人の状況についてお答えください。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
介護休業者	男	人	人	人	人	人
	女	人	人	人	人	人
介護退職者	男	人	人	人	人	人
	女	人	人	人	人	人

問13 あなたの事業所では次の制度がありますか。(〇はいくつでも)

勤務時間に関すること	1. 短時間勤務制度 2. 所定外労働時間の免除 3. 始業、就業時間の繰り下げ、繰り上げ 4. フレックスタイム制度 5. 週休3日制 6. 在宅勤務制度(テレワーク含む) 7. 就業形態の変更(正社員⇄パート等) 8. 再雇用制度
休暇に関すること	9. 産前、産後休暇制度 10. 治療のための休暇 11. 療養中の手当て支給 12. 子ども、家族のための看護休暇 13. 時間単位の有給休暇 14. 資格取得などの自己啓発のための休暇 15. 健康維持増進のための休暇 16. ボランティア(社会貢献)休暇
その他	17. 勤務時間、勤務地、担当業務についての希望聴取 18. 育児・介護に係る経済的支援(育児・介護休業中の経済的支援も含む) 19. 自己啓発、健康維持(増進)、ボランティア休暇中の経済的支援 20. その他() 21. 特になし

問14 あなたの事業所では、次の項目の中で実施しているものがありますか。(○はいくつでも)

勤務時間に関すること	1. 短時間勤務制度が活用されている 2. 経営者層や管理職による残業時間の管理ができています 3. ノー残業デーを設定している 4. フレックスタイム制度が活用されている
休暇に関すること	5. 有給休暇が公正・公平に利用できている 6. 全従業員に対して、就業や休暇に関する制度の情報提供を行っている 7. 長期休暇からの復職時に研修やトレーニングを行っている
その他	8. 業務上の改善や提案など従業員の意見が反映されている 9. 所属内でのコミュニケーションが円滑に行われている 10. 性別によらず勤務評価が適正に行われている 11. 業務に関する技術や知識を学ぶための研修を実施している 12. 管理職に対するワーク・ライフ・バランスや働き方改革の研修を実施している 13. 業務マニュアルの作成や業務の可視化を行っている 14. 複数人担当制や多能工化の取組みを行っている 15. パワーハラスメントやセクシュアル・ハラスメントの防止策を講じている 16. 定期的な人事面談や希望聴取を行っている 17. 事業所内に保育施設を設置している 18. 更衣室やトイレなど性別に配慮した環境が整っている 19. 副業・兼業を認めている 20. その他() 21. 特になし

問15 貴事業所では「ワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組むことで、どのようなメリットを実感できていますか。(○はいくつでも)

1. 優秀な人材の確保につながっている 2. 人材の流出防止につながっている 3. 仕事の効率化により時間外労働の削減につながっている 4. 従業員のモチベーション向上により生産性向上につながっている 5. 業務以外の体験により従業員のスキルアップや人脈形成につながっている 6. 従業員の生活の充実につながっている 7. 良好な労使関係の構築につながっている 8. 企業のイメージアップにつながっている 9. その他() 10. 現時点ではメリットは実感できていない	● → 問16へ
--	----------

問15で「10. 現時点ではメリットは実感できていない」を選んだ事業所におたずねします。

問16 「ワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組むことで、現時点ではメリットは実感できていない理由を教えてください。

(理由)

すべての事業所におたずねします。

問17 あなたの事業所で、育児休業制度、介護休業制度を定着させるためには、今後どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 休業取得者の代替要員を確保すること
2. 休業取得者に対する職場復帰プログラムを実施すること
3. 男性労働者に対する意識啓発を行うこと
4. 女性労働者に対する意識啓発を行うこと
5. 管理職に対する意識啓発を行うこと
6. 制度利用によって、昇進・昇格に影響しないようにすること
7. 制度取得者に対する経済的な支援を行うこと
8. その他()
9. 既に定着している

問18 あなたの事業所でワーク・ライフ・バランスに取り組むにあたって、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 日常の業務が忙しく余裕がない
2. コストがかかる
3. 業績につながらない
4. 経営者層の理解が得られない
5. 社員への周知や理解が進まない
6. 自社に必要な取り組みが分からない
7. 制度を利用した場合のキャリア形成に影響が出る
8. その他()
9. 特にない

問19 あなたの事業所でワーク・ライフ・バランスはどうすれば取り組みやすくなりますか。

(○はいくつでも)

1. 国・県・市等が行う支援施策の情報提供
2. 取組に対する補助金制度の創設
3. 先進的取組をしている事業者の事例紹介
4. 取り組むための専門家の派遣
5. 取組の機運を向上させるための経営者向けセミナーの開催
6. 表彰、認証制度の導入
7. その他()
8. 特に必要ない

デジタル化についておたずねします

問20 貴事業所におけるデジタル化に対する社内の意識について、どのように感じていますか。

(○は1つ)

1. デジタル化に既に取り組んでいる
2. デジタル化に取り組もうとして動き始めている
3. デジタル化に取り組みたいが、まだ動いていない
4. デジタル化に興味はない

問21 貴事業所でデジタル化を推進するために市に実施してほしいと思う取組は何ですか。

(○は1つずつ)

	実施して ほしい	興味 がある	必要 ない
①デジタル人材育成のための講師・アドバイザーの派遣	1	2	3
②経営者層の理解促進に向けたセミナーの実施	1	2	3
③一般従業員向けのデジタルスキル教育講座の実施	1	2	3
④DXコンサルタントとのマッチング支援	1	2	3
⑤技術者向けの就職説明会の場の提供	1	2	3
⑥技術者同士の交流の場の創出	1	2	3
⑦国や県の補助金や交付金、税制優遇措置等の情報支援	1	2	3
⑧教育機関におけるデジタルリテラシー向上のためのプログラムの実施	1	2	3
⑨就労時間に制限のある女性を対象としたデジタルスキル向上のための公的職業訓練の実施	1	2	3

ハラスメントの防止についておたずねします

問22 あなたの事業所では、ハラスメントの防止のための取組を行っていますか。(○は1つ)

- 1. 既に取り組んでいる
- 2. 今後取り組むこととしている
- 3. 今のところ取り組む予定はない

問24へ

▶ 問22で「1. 既に取り組んでいる」を選んだ方におたずねします。

問23 その取組はどのような内容のものですか。(○はいくつでも)

- 1. 就業規則、労働協約等の書面で、ハラスメント防止についての方針を明確化し、従業員に周知している
- 2. 広報、啓発資料の作成・配布を行っている
- 3. ミーティング時などを利用してハラスメント防止の周知や人権問題についての従業員教育を行っている
- 4. ハラスメントに係る相談窓口・苦情窓口を設置している
- 5. 相談窓口担当者に対する研修を行っている
- 6. 実態把握のため、定期的に調査を行っている
- 7. その他()

すべての事業所におたずねします。

問24 あなたの事業所で、ハラスメントが起きた場合、対応として特に難しいと感じているのはどのようなことですか。(○はいくつでも)

- 1. どこまでがハラスメントに該当するのかの判断が難しい
- 2. 相談を受ける時に、どういう点に留意すべきかわからない
- 3. 被害者への事実確認の対応が難しい
- 4. 被害者が嫌がっていることを加害者に理解させることが難しい
- 5. 加害者への処分の対応が難しい
- 6. 日常の業務が忙しいため、対応する余裕がない
- 7. その他()
- 8. 特に難しいと感じることはない

市として重点的に取り組むべきことについておたずねします

問25 今後、働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 情報誌やパンフレットなどによる男女共同参画に関する啓発の充実
2. 男女共同参画に関する講座やセミナーの開催
3. 事業所が行う研修会等への講師の派遣、紹介
4. 職場における男女の平等な取扱いの周知徹底
5. 女性の就労機会の確保、女性の職業教育・訓練の機会の充実
6. 保育施設や保育サービスの充実
7. 男性の家事・育児・介護への参加の促進
8. 高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実
9. 事業所や女性のための相談機関の充実
10. 男女の平等な雇用・労働条件確保のための指導強化
11. 事業所へのワーク・ライフ・バランスや働き方改革に関する個別支援
12. 女性活躍や働き方改革に関する補助金や助成金の支給
13. その他()

問26 「男女共同参画」について、市が行う研修や情報提供等を希望しますか。(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見・ご要望などがありましたら、自由に記入してください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

男女共同参画に関する中学生・高校生アンケート

ご協力のお願い

みなさん、こんにちは。廿日市市役所人権・市民生活課です。

みなさんは「男女共同参画」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「男女共同参画社会」とは、性別にかかわらず誰もがそれぞれの個性や能力を十分に発揮して、互いに認め合い、いきいきと暮らすことのできる社会のことです。

このアンケートは、みなさんの考えをお聞きして次期プラン策定の基礎資料、また、これからの市の取り組みなどの参考にするために廿日市市内の中学2年生と高校2年生を対象に、実施するものです。

ご協力をお願いします。

令和6年10月

【ご記入にあたってのお願い】

1. このアンケート調査に自分の名前を書く必要はありません。
また、みなさんが書かれた個別の内容を公表することはありませんので、ありのまま、思ったままを回答してください。
2. ご回答は黒のボールペンまたはえんぴつではっきりと記入ください。
3. お答えは、質問ごとにあてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
4. ○をつける数は、質問中の指示にしたがってください。
5. 「その他」を選んだ場合は、()になるべく具体的に記入してください。
6. 質問によってお答えいただく方が限られる場合があります。説明にそってお答えください。
7. なお、答えたくない質問がありましたら、その質問については、ご回答いただかなくても構いません。
8. ご記入いただいた調査票は**11月15日(金)までに**担任の先生に提出してください。

<お問い合わせ先>

廿日市市 生活環境部 人権・市民生活課

TEL:(0829)30-9136 FAX:(0829)31-0133

1 あなたご自身のことについて

すべての方におたずねします。

問1 あなた自身にあてはまるものをお答えください。(○は1つずつ)

性別	1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 答えたくない
学年	1. 中学2年生 2. 高校2年生
いっしょに住んでいる人	1. ひとり暮らし(下宿や寮など) 2. 兄弟姉妹と親 または 親 3. 兄弟姉妹と親と祖父母 または 親と祖父母 4. その他
住んでいる地域	1. 廿日市地域 2. 佐伯地域 3. 吉和地域 4. 大野地域 5. 宮島地域 6. 廿日市市外

男女共同参画社会とは？

性別にかかわらず、一人ひとりの個性を尊重し、
個人の能力を十分に発揮することができる社会のこと。

家庭では

家事や育児・介護など、男女が
協力し、負担がかたよる
ことはありません。



学びの場では

男女平等の視点に立った学校
教育が推進され、個性や能力
を伸ばし、社会で活躍できる人を
育てています。



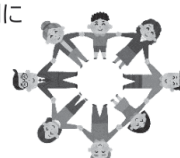
働く場では

男性でも育児をする人が増え、
女性が出産後も安心して子育て
しながら働いています。



地域社会では

町内会や地域の活動で、性別に
かかわらず意見が反映され、
暮らしやすい地域づくりが
実現されています。



2 男女平等について、おたずねします

問2 あなたは、次のような分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○は1つずつ)

	女性の方がとても優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方がとても優遇されている	わからない
①家族の中で	1	2	3	4	5	6
②学校の中で	1	2	3	4	5	6
③社会全体で	1	2	3	4	5	6

※男女平等とは、性別に関わらず、平等に責任や権利や機会をわかちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味しています。

問3 あなたは、次のような学校生活の場面の中で、男女は平等になっていると思いますか。

(○は1つずつ)

	女性の方がとても優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方がとても優遇されている	わからない
①学級や生徒会の役員を決めるとき	1	2	3	4	5	6
②そうじや給食配膳などの仕事をするとき	1	2	3	4	5	6
③部活動のとき	1	2	3	4	5	6
④授業のとき	1	2	3	4	5	6
⑤学校行事のとき	1	2	3	4	5	6

問4 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。(○は1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
① 夫(男)は外で働き、妻(女)は家庭を守るのが望ましい(男は仕事、女は家庭(家事・育児など)という考え方)	1	2	3	4
② 「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方	1	2	3	4
③ 知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい	1	2	3	4
④ 体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない	1	2	3	4
⑤ 男性は女性より多く収入を得る必要がある	1	2	3	4

問5 あなたは、次のことについて、女性と男性のどちらに向いていると思いますか。

(○は1つずつ)

	女性の方がとても向いている	どちらかといえば女性の方が向いている	どちらでもよい	どちらかといえば男性の方が向いている	男性の方がとても向いている	わからない
①生徒会の会長や委員会の委員長	1	2	3	4	5	6
②生徒会の副会長や委員会の副委員長	1	2	3	4	5	6
③クラスのグループのリーダーや班長	1	2	3	4	5	6
④体育祭の応援団長	1	2	3	4	5	6
⑤合奏・合唱の指揮者	1	2	3	4	5	6
⑥重いものを運ぶこと	1	2	3	4	5	6
⑦整理整頓や植物の世話	1	2	3	4	5	6
⑧理工系の進路の選択	1	2	3	4	5	6

3 家庭での家事などの分担について、おたずねします

問6 あなたの家庭では、次の家事などは主にだれの役割ですか。(○は1つずつ)

	主に母親の役割である	主に父親の役割である	母親と父親で分担している	家族全員で分担している	特に決まっていない	あてはまる仕事が自分の家庭にない	子ども(自分)の役割	その他
①食事の準備	1	2	3	4	5	6	7	8
②食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7	8
③そうじ・せんたく	1	2	3	4	5	6	7	8
④ごみ出し	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤日常の買物	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥小さい子どもの育児	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦礼儀などのしつけ	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧進路や教育方針の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
⑨町内会など地域行事への参加	1	2	3	4	5	6	7	8
⑩高齢者などの介護	1	2	3	4	5	6	7	8
⑪物の整理・修繕	1	2	3	4	5	6	7	8

問7 あなたは、次の家事などは主に誰がすれば良いと思いますか。(○は1つずつ)

	主に母親が するべきである	主に父親が するべきである	母親と父親で 分担してする べきである	家族全員で 分担してする べきである	特に決ま なくても良い	あてはまる 仕事がない	子ども(自分) がするべきである	その他
①食事の準備	1	2	3	4	5	6	7	8
②食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7	8
③そうじ・せんたく	1	2	3	4	5	6	7	8
④ごみ出し	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤日常の買物	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥小さい子どもの育児	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦礼儀などのしつけ	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧進路や教育方針の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
⑨町内会など地域行事への参加	1	2	3	4	5	6	7	8
⑩高齢者などの介護	1	2	3	4	5	6	7	8
⑪物の整理・修繕	1	2	3	4	5	6	7	8

4 あなたの将来のことなどについて、おたずねします

問8 あなたは、これからの男女のあり方が、どのようになればよいと思いますか。(○は1つずつ)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
①男女とも経済的自立(自分でお金を稼ぎ、他の人に頼らずに生活できる状態)ができるようになるのがよい	1	2	3	4	5
②男女とも家事ができるようになるのがよい	1	2	3	4	5
③男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい	1	2	3	4	5
④性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい	1	2	3	4	5

問9 女性が仕事をする事について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 結婚・出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
2. 子どもができたなら仕事をやめ、成長したら再び仕事をする方がよい
3. 子どもができるまでは仕事をする方がよい
4. 結婚するまでは仕事をする方がよい
5. 女性は仕事をしない方がよい
6. 個人の考え次第で判断すればよい
7. その他()
8. わからない

問10 あなたが理想と考える将来の働き方はどのようなものですか。あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 家庭生活の充実を第一に考え、仕事は無理のない範囲でしたい
2. 仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方をしたい
3. 家庭は持たず、仕事に専念したい
4. できれば仕事をせず、家庭で家事・子育てをしたい
5. 仕事を中心に考え、家庭は配偶者(パートナー)に任せたい
6. その他()

5 デートDVについておたずねします

「デートDV」とは恋人の間で起きる問題です。夫婦の間で起きるDV(ドメスティック・バイオレンス)と同じで、男女が対等の関係ではなく、一方が力で相手を自分の思うようにする(支配する)ことで、社会問題になっています。

問11 あなたは、恋人同士で起こる次のような行為をしたこと、されたことがありますか。

(○は1つずつ)

	したことがある	したこともされたこともある	されたことがある	経験はない
①メールを勝手に見たり、メールアドレスを勝手に消したりする	1	2	3	4
②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする	1	2	3	4
③つきまとったり、信じられない回数や内容のメールなどをする	1	2	3	4
④なぐる振りなどをして、おどす	1	2	3	4
⑤なぐる、けるなどの暴力をふるう	1	2	3	4
⑥大声でどなる	1	2	3	4
⑦無理やり体にさわる	1	2	3	4
⑧いつも相手におごらせる	1	2	3	4

6 性の悩みについておたずねします

問12 あなたは、今までに、好きになる性(性的指向)や、身体の性とは関係なく、自分自身が認識している性(性自認)についてなやんだことはありますか。また、周りの人でなやんでいる人はいますか。(○は1つ)

1. 自分になやんだことがあり、周りにもなやんでいる人がいたことがある
2. 自分になやんだことはあるが、周りになやんでいる人がいたことはない
3. 自分になやんだことはないが、周りになやんでいる人がいたことがある
4. 自分になやんだことも、周りになやんでいる人がいたこともない
5. 答えたくない

問13 あなたが、性の悩みごとを相談できる人は誰ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 母親 | 2. 父親 |
| 3. きょうだい | 4. 祖父母・親戚 |
| 5. 友人 | 6. 恋人 |
| 7. 学校の先生 | 8. 塾や習い事、予備校の先生 |
| 9. インターネット上の友人・知人 | 10. その他() |
| 11. 相談相手がいない | 12. 相談したくない・できない |

7 あなたの将来のことなどについて、おたずねします

問14 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野（仕事、家庭、学校、地域活動、政治など）でもっと平等になるために重要だと思うことは何ですか。（○は3つまで）

1. 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること
2. 男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や習慣、しきたりを改めること
3. 性別にかかわらず男女ともに経済力をつけたり、知識・技術をもつなど、積極的に力をつけること
4. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が就任できるようにする制度を採用したり充実したりすること
5. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
6. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと
7. 性別にかかわらず男女ともに家事や育児などができるよう力をつけること
8. 仕事と家庭の両方ができるように、その手助けをするための施設をつくったり、サービスを行うこと
9. その他()
10. わからない

問15 あなたは、次の男女共同参画などに関することを知っていますか。(○は1つずつ)

	よく知っている	意味を多少は知っている	言葉は知っている	知らない
①男女共同参画社会	1	2	3	4
②男女雇用機会均等法	1	2	3	4
③ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3	4
④LGBTなどの性的少数者	1	2	3	4
⑤ジェンダー(社会的性別)	1	2	3	4
⑥ダイバーシティ(多様性)	1	2	3	4
⑦アンコンシャスバイアス(固定的な性別役割分担意識)	1	2	3	4

最後に、あなたが家庭や学校、社会の中で感じている男女の役割や生活、生き方など、男女共同参画に関することについて何でも結構ですから、自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました

廿日市市 若者世代の子育てニーズ調査

ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

廿日市市では、平成27年に「第2次廿日市市男女共同参画プラン」を策定し、性別にかかわらず誰もが互いの人権を尊重し、対等なパートナーとして協力し合い、あらゆる活動に自分の意思で参画することができる社会の実現をめざし、様々な施策を行っています。

このたびプランの期間が令和7年度で終了することに伴い、若者世代の子育てニーズ調査を行い、次期プラン策定のための基礎資料とさせていただき、今後の男女共同参画施策に生かすため、市内に在住する20歳以上40歳未満の市民の皆様の中から1,000人を無作為に選ばせていただき、アンケートを実施いたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和6年10月

廿日市市長 松本 太郎

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 1 封筒の宛名のご本人がお答えください。病気や身体の不自由などの理由で記入が難しい場合は、家族や介護者の方などが、本人の意向を尊重して、無理のない範囲で代筆してください。
- 2 各設問ごとに、(○は1つ)(○はいくつでも)(○は3つまで)などの指定に従ってご回答をお願いします。
- 3 なお、答えたくない質問がありましたら、その質問については、ご回答いただかなくても構いません。
- 4 ご記入いただいた調査票は、11月15日(金曜日)までに、同封の返信用封筒に入れて、返送してください(切手は不要です)。インターネットで回答された方は調査票の返送は不要です。

※回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することはありません。

【調査のお問合せ先】

廿日市市 生活環境部 人権・市民生活課

〒738-8501

広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

電話:(0829)30-9136

FAX:(0829)31-0133

E-mail:

jinkenseikatsu@city.hatsukaichi.lg.jp

本調査はインターネットでの回答も可能です。

下記のURLを入力または二次元バーコードを読み取り、ログインIDとパスワードを入力のうえ回答してください。

https://src.webcas.net/form/pub/src1/342131_c

●ログイン ID 【 hc0001 】

●パスワード 【 s4kb8 】

※回答の重複を避けるための番号で個人を特定することはありません。



1 あなたご自身(宛名のご本人)のことについておたずねします

すべての方におたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。(自認する性別をお答えください。)(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|--------|-----------|

※この調査では、男女共同参画に関する意識や状況を把握・分析するために、性別欄を設けています。

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 20歳～24歳 | 2. 25歳～29歳 | 3. 30歳～34歳 | 4. 35歳～39歳 |
|------------|------------|------------|------------|

問3 あなたのお住まいの地域をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 廿日市地域 | 2. 佐伯地域 | 3. 吉和地域 |
| 4. 大野地域 | 5. 宮島地域 | |

問4 あなたのご家庭の世帯年収をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100～200万円未満 |
| 3. 200～300万円未満 | 4. 300～400万円未満 |
| 5. 400～500万円未満 | 6. 500～600万円未満 |
| 7. 600～700万円未満 | 8. 700～800万円未満 |
| 9. 800～900万円未満 | 10. 900～1,000万円未満 |
| 11. 1,000万円以上 | 12. わからない・答えたくない |

問5 あなたの職業をお答えください。(○は1つ)

自営業 (経営主又は共同経営者)	1. 農林水産業 2. 商工・サービス業 3. 自由業(開業医・弁護士等)	
自営業 (家族従業者)	4. 農林水産業 5. 商工・サービス業 6. 自由業(開業医・弁護士等)	
勤め人	7. 正社員・正職員 8. 公務員・団体職員 9. パート・アルバイト・派遣など	付問「7」「8」と答えた方におたずねします。 あなたは管理職ですか。 1. 管理職である 2. 管理職ではない
その他	10. 内職・在宅就業 11. 家事専業 12. 学生 13. 無職 14. その他()	

問5で「4～9」と答えた方のみにおたずねします。

問6 働き方について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つ)

	当てはまる	当てはまる どちらかといえば	当てはまる どちらかといえば	当てはまらない
①昇進したいと思っている	1	2	3	4
②いずれは管理職につきたいと思っている	1	2	3	4
③今の会社で長く働きたいと思っている	1	2	3	4
④他の会社への転職も視野に入れている	1	2	3	4
⑤働くうえで自分のスキルアップを重視している	1	2	3	4

2 結婚についておたずねします

問7 あなたは結婚をしていますか。(事実婚を含む。)(○は1つ)

- 1. 結婚している
- 2. 結婚していないまたは、結婚していたが、離別・死別した ● → 問9へ
- 3. 答えたくない ● → 問13へ

→ 問7で「1. 結婚している」を選んだ方におたずねします。

問8 あなたと配偶者(パートナー)は、共働き(パート・アルバイト等を含む)ですか。(○は1つ)

- 1. 共働きである
- 2. 共働きではない

問7で「2. 結婚していないまたは、結婚していたが、離別・死別した」を選んだ方におたずねします。

問9 あなたは結婚(再婚)についてどう思いますか。(○は1つ)

- 1. 結婚(再婚)したいと思う ● → 問11へ
- 2. 結婚(再婚)したいと思わない

→ 問9で「2. 結婚(再婚)したいと思わない」を選んだ方におたずねします。

問10 あなたが結婚(再婚)したいと思わない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1. 1人が楽で、今の生活に満足しているから
- 2. 結婚するほど好きな人に巡り合っていないから
- 3. 結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから
- 4. 仕事・家事・育児の両立が大変そうだから
- 5. 恋愛に興味がないから
- 6. 仕事を優先したい・キャリアを中断したくないから
- 7. その他()
- 8. 答えたくない

問9で「1. 結婚(再婚)したいと思う」を選んだ方におたずねします。

問11 あなたは、市に結婚支援に関する事業に取り組んでほしいですか。(○は1つ)

- 1. 積極的に取り組んで欲しい
- 2. どちらかといえば取り組んで欲しい
- 3. どちらかといえば取り組むべきではない
- 4. 取り組むべきではない
- 5. その他()

問13へ

問11で「1. 積極的に取り組んで欲しい」「2. どちらかといえば取り組んで欲しい」を選んだ方におたずねします。

問12 出会い・結婚にかかわる支援として、どのようなことを市に期待しますか。

(○はいくつでも)

- 1. 気軽に参加できる出会いの場の提供(パーティーなどのイベント)
- 2. 結婚しやすい環境の整備に資する取組(ワーク・ライフ・バランスの推進、若者の就職支援等)
- 3. 行政や非営利団体等が行う出会いや結婚に必要な情報の提供
- 4. 婚活に役立つセミナーの開催(交際術、マナー、ファッションなど)
- 5. 結婚のイメージアップに向けた意識啓発
- 6. 婚活サイト(マッチングアプリを含む)・SNSの導入
- 7. 民間婚活サイト(マッチングアプリを含む)登録料に対する補助
- 8. その他()

3 子育てについておたずねします

すべての方におたずねします。

問13 あなたのご家庭には、お子さんは何人いますか。(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 5. 子どもはいない → 問18へ

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問14 あなたのお子さんの年齢を教えてください。(○はそれぞれ1つ)

※お子さんが5人以上いる場合は、年齢の若い順に4人目までお答えください。

	0 ～ 2 歳	3 ～ 4 歳	5 ～ 6 歳	7 ～ 12 歳	13 ～ 15 歳	16 ～ 18 歳	19 歳 以上	該当する 子どもはいない
①1人目	1	2	3	4	5	6	7	8
②2人目	1	2	3	4	5	6	7	8
③3人目	1	2	3	4	5	6	7	8
④4人目	1	2	3	4	5	6	7	8

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問15 子どもと一緒にいるとき、不便を感じたり、周りからの理解や配慮が欲しかった場面をお答えください。(○はいくつでも)

1. 働いているとき
2. 公共交通機関を使ったとき
3. スーパーやショッピングモール、お店に行ったとき
4. 市役所や銀行、病院などに行ったとき
5. 公園で遊んでいたときや町を歩いていたとき
6. レストランやカフェに行ったとき
7. 遊園地やレジャー施設、博物館などに行ったとき
8. その他()
9. 特にない

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問16 周りから欲しかった理解や配慮の内容で一番近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 子どもや子ども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備
2. 子どもや子ども連れに対する周りの方の寛容な姿勢やちょっとしたサポート
3. 子どもや子ども連れの様々なニーズに応じたきめ細かなサービス
4. 子どもや子ども連れの優先対応のルールや呼びかけ

問13で「1～4(お子さんがいる)」を選んだ方におたずねします。

問17 不便を感じたり、周りからの理解や配慮が欲しかった場面について、エピソードを交えて具体的にお書きください。

すべての方におたずねします。

問18 あなたが理想とする子どもの人数を教えてください。(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 5. 子どもは持ちたくない → 問23へ

問18で「1～4(子どもがほしい)」を選んだ方におたずねします。

問19 あなたが子どもを持つ場合の条件としてどのようなことが考えられますか。

(○はいくつでも)

1. 教育にお金がかかりすぎないこと
2. 地域の保育サービスが整うこと(保育所や一時預かりなど)
3. 出産・育児について相談できる人が地域にいること
4. 男女がともに育児休業を取れる職場であること
5. 働きながら子育てをすることに理解のある職場であること
6. 自分の昇進・昇格に差支えないこと
7. 配偶者・パートナーから家事・育児への協力が得られること
8. 配偶者・パートナー以外の家族から家事・育児への協力が得られること
9. 自分と配偶者・パートナーの健康に不安がないこと
10. その他()
11. 特になし

問18で「1～4(子どもがほしい)」を選んだ方におたずねします。

問20 あなたは自分の配偶者・パートナーに育児休業を取得してほしいと思いますか。(○は1つ)

- 1. 取得してほしい
- 2. どちらかといえば取得してほしい
- 3. どちらかといえば必要ない
- 4. 必要ない

問22へ

問20で「1～2(育児休業を取得してほしい)」を選んだ方におたずねします。

問21 どれくらいの期間取得してほしいと思いますか。(○は1つ)

- 1. 1週間未満
- 2. 1週間以上1か月未満
- 3. 1か月以上3か月未満
- 4. 3か月以上6か月未満
- 5. 6か月以上1年未満
- 6. 1年以上

問18で「1～4(子どもがほしい)」を選んだ方におたずねします。

問22 あなたのご家庭で配偶者(パートナー)がしていることと配偶者(パートナー)にしてほしいと思うことは何ですか。(○はそれぞれいくつでも)

※現在、配偶者(パートナー)がいない方は、パートナーがいた場合に「してほしいと思うこと」のみ答えてください。

	していること	してほしいと思うこと
①食事をつくる	1	1
②食事の後片付けをする	2	2
③掃除をする	3	3
④洗濯をする	4	4
⑤日用品や食品の買い物をする	5	5
⑥子どもを入浴させる	6	6
⑦子どもを寝かしつける	7	7
⑧子どもの話し相手や遊び相手をする	8	8
⑨休日に子どもを屋外へ遊びに連れていく	9	9
⑩子どもの日常生活上のしつけをする	10	10
⑪保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする	11	11
⑫その他()	12	12
⑬特にない	13	13

4 廿日市市の子育て環境についておたずねします

すべての方におたずねします。

問23 あなたは廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思いますか。(○は1つ)

1. とてもそう思う

2. まあそう思う

3. あまりそう思わない

4. 全くそう思わない

問25へ

問23で「1～2(そう思う)」を選んだ方におたずねします。

問24 廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思う理由を教えてください。

問23で「3～4(そう思わない)」を選んだ方におたずねします。

問25 廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思わない理由を教えてください。

すべての方におたずねします。

問26 仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることは何ですか。(現在仕事をしていない方、また、子育てをしていない方は大変そうだと思うものを選択してください。)

(○はいくつでも)

1. 子どもの迎えの時刻に合わせて、仕事を切り上げなければならない
2. 子どもにかかわる行事が多く、仕事を休まなければならない
3. 急な残業に対応できない
4. 子どもと接する時間が少ない
5. 病気等の時に面倒をみる人がいない
6. 病児保育に預けることができない(定員、利用料、移動手段等の理由による)
7. 子どもの病気の回復に日数を要する場合、長期間仕事を休まなければならない
8. 睡眠時間が短くなり、身体的につらい
9. 家事や子育てで家族の協力を得られない
10. 子どものほかに面倒をみなければならない人がいる
11. 条件に見合う保育園・幼稚園などがみつからない
12. 子どもの病気や行事で、仕事を休んだり、切り上げたりしなければならないため仕事が蓄積する
13. 仕事と子育てを両立することで十分な収入が得られない
14. その他()
15. 特に大変だと感じることはない

問27 仕事と子育てを両立する上で職場に求める制度についてお尋ねします。

(現在仕事をしていない方、また、子育てをしていない方は制度があると思う欄のみ選択してください。)

	制度がある (〇はいくつでも)	制度があると思う (〇は3つまで)
①短時間勤務制度	1	1
②所定外労働時間の免除	2	2
③始業、就業時間の繰り下げ、繰り上げする	3	3
④フレックスタイム制度	4	4
⑤週休3日制	5	5
⑥在宅勤務制度(テレワーク含む)	6	6
⑦就業形態の変更(正社員⇄パート等)	7	7
⑧再雇用制度	8	8
⑨産前、産後休暇制度	9	9
⑩子ども、家族のための看護休暇	10	10
⑪時間単位の有給休暇	11	11
⑫勤務時間、勤務地、担当業務についての希望聴取	12	12
⑬育児中の経済的支援	13	13
⑭その他()	14	14

問28 廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちになるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充
2. 出産費用の軽減や産後ケアの充実など、出産等の負担軽減
3. 育児休業や短時間勤務など、男女ともに働きやすい労働環境の整備に関し、企業への働きかけ
4. 賃上げや正社員への転換支援など、安定した収入の実現
5. 保育所の整備や一時預かりなど、保育サービスの充実
6. 留守家庭児童会や民間児童会など、児童の放課後等の保育サービスの充実
7. 病児保育施設の増加
8. 学費の負担軽減や習い事への支援など、教育に対する支援
9. 家賃の負担軽減など、住宅に対する支援
10. 不妊・不育症の検査・治療に関する支援
11. 公共交通機関での優先スペースなど、子育てにやさしい雰囲気づくり
12. 公共施設や商業施設などで待ち時間を短縮する等の支援(ファストトラック)
13. その他()
14. 特にない

ご協力ありがとうございました

令和6年度 男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書
令和7年3月

発行: 廿日市市 生活環境部 人権・市民生活課
〒738-8501 広島県廿日市市下平良1丁目11番1号